

森の木遺跡発掘調査報告書

東九州自動車道（佐伯～県境間）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(4)

2016

大分県教育庁埋蔵文化財センター

森の木遺跡発掘調査報告書

東九州自動車道（佐伯～県境間）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(4)

2016

大分県教育庁埋蔵文化財センター

森の木遺跡発掘調査報告書

2016

序 文

本書は、大分県教育委員会が、国土交通省九州地方整備局佐伯河川国道事務所から依頼を受け、平成21年～22年度に実施した東九州自動車道（佐伯～県境間）建設工事に伴う森の木遺跡の発掘調査報告書です。

遺跡の所在する佐伯市は、大分県の南部に位置し、宮崎県との県境方面に連なる祖母傾山系から派生する山嶺と谷が幾重にもみられる起伏に富んだ地形を呈しています。高い山と深い谷、そして谷底を滔々と流れる清流は一幅の山水画のようで、四季折々に私たちの目を楽しませてくれます。また、この地域の海岸部には、入り組んだリアス式海岸とともに海が広がっています。弥生時代には、下城遺跡・白湯遺跡・長良貝塚が形成されるなど、海の幸を食べていた海人の姿が想像されます。

本書で報告する森の木遺跡は、縄文時代草創期を主体とした県下最古の縄文集落であります。縄文時代草創期の土器とともに、堅穴建物や炉穴が多数出土しており、集落の在りかたや当時の生活を知る貴重な調査例となりました。

本書が埋蔵文化財に対する保護・啓発、さらには学術研究の一助として活用されれば幸いです。

最後に、この発掘調査に多大なご支援とご協力をいただきました関係各位に対し、衷心から感謝申し上げます。

平成28年3月31日

大分県教育庁埋蔵文化財センター

所 長 後 藤 一 重

例 言

1. 本書は、国土交通省九州地方整備局佐伯河川国道事務所から依頼を受けて、大分県教育委員会が実施した東九州自動車道（佐伯～県境間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本書で報告する森の木遺跡は、平成21年度・平成22年度に発掘調査を実施し、平成23～27年度に整理作業を行った。
3. 発掘調査は、実測作業・写真撮影・発掘作業員の労務管理等の業務を発掘調査支援委託業務として株式会社イビソクに委託して実施した。
4. 出土遺物の整理作業や報告書作成に伴う諸作業については、大分県教育庁埋蔵文化財センター職員が担当したほか、遺物の洗浄・注記・接合・実測・トレースについては平成22年度に株式会社イビソク、平成23・24・26年度は九州文化財総合研究所に委託して実施した。
5. 出土遺物の写真撮影は、綿貫俊一・高山加代（埋蔵文化財センター）が行った。
6. 出土遺物ならびに図面・写真等は、大分県教育庁埋蔵文化財センターにおいて保管している。
7. 遺物の出土状況に関する詳細なデータは、大分県教育庁埋蔵文化財センターで保管している。
8. 発掘調査に際して、以下の方々より助言を頂いた。
吉武牧子（佐伯市教育委員会）・福田 聡（佐伯市教育委員会）
下村 智（別府大学）
矢野健一（立命館大学）
9. 整理作業及び報告書作成段階において、後藤一重・小柳和宏・江田 豊・横澤 慈（埋蔵文化財センター）からご助言・ご支援をいただいた。
10. 本書の執筆は綿貫俊一が行った。
11. 本書の編集は坂本嘉弘（埋蔵文化財センター）と協議しながら綿貫が行った。

凡 例

1. 測量座標値は、世界測地系を用いた。標高はすべて海拔をあらわす。
2. 本書で使用する方位は、いずれも座標真北である。
3. 壁面土層図は、名称・注記等の内容について原図記載のとおりであるが、表現を大幅に補った。
4. 石器類の縮尺については統一していない。
5. 土器の色調については、『新版 標準土色帖』を用いた。
6. 観察表における石器のUフレは、使用痕ある剥片、Rフレは加工痕ある剥片の省略記号である。腰岳・牟田系黒曜岩・姫島産黒曜岩については化学分析を行なっておらず、推定産地として標記している。

目 次

序文
例言
凡例
目次

第1章	はじめに	1	(9)遺物出土状況	152	
第1節	調査の経過	1	第4節	弥生時代・古墳時代の 遺構と遺物	154
1	調査に至る経緯	1	1	弥生時代	154
2	調査の経過	1	2	古墳時代	154
第2節	調査組織の構成	2	第5節	中世・近世の遺構	155
第2章	遺跡の立地と環境	3	1	建物・構造物	155
第1節	地理的環境	3	2	土坑	160
第2節	歴史的環境	4	第6節	遺跡出土の遺物	161
第3章	調査の成果	5	1	旧石器時代後期	161
第1節	調査の方法と遺跡の概要	5	2	縄文時代	172
1	調査の方法	5	(1)	草創期の区分	172
2	遺跡の概要	6	(2)	縄文時代草創期初頭	172
(1)	第1次調査の概要	6	(3)	縄文時代草創期前半	172
(2)	土層	6	(4)	縄文時代草創期中頃	175
(3)	遺構	6	(5)	縄文時代草創期後半	175
(4)	遺物	11	(6)	縄文時代早期前半	178
第2節	旧石器時代	13	(7)	縄文時代早期中頃	179
1	調査の状況	13	(8)	縄文時代早期後半	180
2	遺物	13	(9)	縄文時代前期	236
第3節	縄文時代	22	(10)	縄文時代後期	236
1	草創期の遺構と遺物	22	(11)	縄文時代の石器	239
(1)	堅穴建物	22	(12)	弥生時代以降	301
(2)	土坑	43	①	弥生時代	301
2	草創期・早期の遺構と遺物	44	②	古墳時代	301
(1)	堅穴建物	44	③	中世	301
(2)	配石・石組炉・集石	72	④	近世	301
(3)	炉穴	75	第4章	まとめ	305
(4)	集石遺構	86	遺物観察表		
(5)	土坑を伴う集石遺構	98	遺構一覧表		
(6)	土坑	110	写真図版		
(7)	陥し穴遺構	150			
(8)	柱穴その他	152			

挿 図 目 次

第1図	森の木道跡の位置と周辺の遺跡 (1/2500) ……………	3	第39図	S259実測図 (1/40) ……………	43
第2図	森の木道跡の位置と周辺地形図 (1/5000) ……………	5	第40図	S259出土遺物実測図 ……………	43
第3図	森の木道跡 全体図 (1/400) ……………	7~8	第41図	S077実測図 (1/40) ……………	44
第4図	G列北面 東西土層断面図 (1/80) ……………	9~10	第42図	S077出土遺物実測図 ……………	45
	4列東面 南北土層断面図 (1/80) ……………		第43図	S080実測図 (1/40) ……………	45
	3列西面 南北土層断面図 (1/80) ……………		第44図	S083実測図 (1/40) ……………	46
第5図	D列北面 (8-9グリッド) 東西土層断面図 (1/80) ……	11	第45図	S083出土遺物実測図 ……………	46
第6図	D列北面 (10-12グリッド) 東西土層断面図 (1/80) ……	11	第46図	S108実測図 (1/40) ……………	47
第7図	9CD区東壁土層断面図 (1/80) ……………	12	第47図	S124実測図 (1/40) ……………	47
第8図	8CDトレンチ西面 南北土層断面図 (1/80) ……………	13	第48図	S124出土遺物実測図 ……………	47
第9図	IV層遺物分布図 (1/600) ……………	14	第49図	S126実測図 (1/40) ……………	48
第10図	O E区IV層遺物出土状況 (1/40) ……………	15	第50図	S133実測図 (1/40) ……………	48
第11図	IV層 (田石器時代) 遺物出土状況 (1/40) ……………	15	第51図	S134実測図 (1/40) ……………	49
第12図	IV層出土遺物実測図 (1) ……………	16	第52図	S135実測図 (1/40) ……………	49
第13図	IV層出土遺物実測図 (2) ……………	17	第53図	S157・S158・(S203土坑) 実測図 (1/40) ……………	50
第14図	IV層出土遺物実測図 (3) ……………	18	第54図	S157出土遺物実測図 (1) ……………	51
第15図	IV層出土遺物実測図 (4) ……………	19	第55図	S157出土遺物実測図 (2) ……………	52
第16図	IV層出土遺物実測図 (5) ……………	20	第56図	S158出土遺物実測図 ……………	53
第17図	IV層出土遺物実測図 (6) ……………	21	第57図	S159実測図 (1/40) ……………	53
第18図	S190出土遺物実測図 ……………	22	第58図	S159出土遺物実測図 ……………	54
第19図	S190実測図 (1/40) ……………	22	第59図	S160実測図 (1/40) ……………	55
第20図	S245・S277・(S276・S309土坑) 実測図 (1/40) ……	23	第60図	S160出土遺物実測図 (1) ……………	56
第21図	S245出土遺物実測図 (1) ……………	24	第61図	S160出土遺物実測図 (2) ……………	56
第22図	S245出土遺物実測図 (2) ……………	25	第62図	S162・(S221土坑) 実測図 (1/40) ……………	57
第23図	S246実測図 (1/40) ……………	27	第63図	S162出土遺物実測図 ……………	57
第24図	S246出土遺物実測図 ……………	28	第64図	S164・(S305土坑) 実測図 (1/40) ……………	58
第25図	S246出土遺物実測図 ……………	28	第65図	S164出土遺物実測図 ……………	59
第26図	S273実測図 (1/40) ……………	29	第66図	S172実測図 (1/40) ……………	59
第27図	S273出土遺物実測図 ……………	29	第67図	S172出土遺物実測図 ……………	60
第28図	S277出土遺物実測図 ……………	30	第68図	S186出土遺物実測図 ……………	60
第29図	S358 (S391・S392・S393土坑) 実測図 (1/40) ……	32	第69図	S186・S187・(S188・S185土坑) 実測図 (1/40) ……	61
第30図	S358遺物出土状況実測図 (1/20) ……………	33	第70図	S215実測図 (1/40) ……………	62
第31図	S358出土遺物実測図 (1) ……………	34	第71図	S216実測図 (1/40) ……………	63
第32図	S358出土遺物実測図 (2) ……………	35	第72図	S253実測図 (1/40) ……………	63
第33図	S358出土遺物実測図 (3) ……………	36	第73図	S253出土遺物実測図 ……………	63
第34図	S383 (S384・S385・S503土坑) 実測図 (1/40) ……	38	第74図	S275実測図 (1/40) ……………	64
第35図	S383出土遺物実測図 (1) ……………	39	第75図	S347・(S351・S352・S364土坑) 実測図 (1/40) ……	65
第36図	S383出土遺物実測図 (2) ……………	40	第76図	S347出土遺物実測図 (1) ……………	66
第37図	S383出土遺物実測図 (3) ……………	41	第77図	S347出土遺物実測図 (2) ……………	67
第38図	S383出土遺物実測図 (4) ……………	42	第78図	S347出土遺物実測図 (3) ……………	68

第79回	S370 (S223・S371)・(S362・S372土坑)実測図(1/40).....69	第122回	S039出土遺物実測図.....86
第80回	S370出土遺物実測図.....70	第123回	S042実測図(1/40).....87
第81回	S370・S372出土遺物実測図.....71	第124回	S042出土遺物実測図.....87
第82回	S372出土遺物実測図.....71	第125回	S043実測図(1/40).....88
第83回	S040実測図(1/40).....72	第126回	S045実測図(1/40).....89
第84回	S040出土遺物実測図.....72	第127回	S046実測図(1/40).....90
第85回	S041実測図(1/40).....72	第128回	S051実測図(1/40).....90
第86回	S050実測図(1/40).....72	第129回	S051出土遺物実測図.....90
第87回	S057実測図(1/40).....73	第130回	S052・S053実測図(1/40).....91
第88回	S057出土遺物実測図.....73	第131回	S056実測図(1/40).....91
第89回	S072実測図(1/40).....73	第132回	S061・S062実測図(1/40).....91
第90回	S075実測図(1/40).....73	第133回	S063実測図(1/40).....92
第91回	S075出土遺物実測図.....73	第134回	S065実測図(1/40).....92
第92回	S085実測図(1/40).....74	第135回	S065出土遺物実測図.....92
第93回	S086実測図(1/40).....74	第136回	S070実測図(1/40).....93
第94回	S088実測図(1/40).....74	第137回	S070出土遺物実測図.....93
第95回	S121・S145土坑実測図(1/40).....75	第138回	S073実測図(1/40).....93
第96回	S147実測図(1/40).....75	第139回	S074実測図(1/40).....94
第97回	S147出土遺物実測図.....75	第140回	S087実測図(1/40).....94
第98回	S184実測図(1/40).....76	第141回	S244実測図(1/40).....95
第99回	S184出土遺物実測図.....76	第142回	S247実測図(1/40).....95
第100回	S188実測図(1/40).....77	第143回	S248実測図(1/40).....95
第101回	S194 (S243) 実測図(1/40).....78	第144回	S329実測図(1/40).....96
第102回	S205・(S224) 実測図(1/40).....78	第145回	S329出土遺物実測図.....96
第103回	S205(S224)出土遺物実測図.....79	第146回	S329実測図(1/40).....97
第104回	S205(S224)出土遺物実測図.....79	第147回	S339出土遺物実測図.....97
第105回	S207 (S163)・(S208土坑) 実測図(1/40).....79	第148回	S340実測図(1/40).....97
第106回	S163・S207出土遺物実測図.....79	第149回	S004実測図(1/40).....98
第107回	S228実測図(1/40).....80	第150回	S034実測図(1/40).....98
第108回	S249実測図(1/40).....80	第151回	S044実測図(1/40).....99
第109回	S249出土遺物実測図.....81	第152回	S047実測図(1/40).....99
第110回	S268実測図(1/40).....81	第153回	S048実測図(1/40).....99
第111回	S359実測図(1/40).....82	第154回	S049出土遺物実測図.....100
第112回	S359出土遺物実測図.....82	第155回	S049・S071集石部実測図(1/40).....100
第113回	S361実測図(1/40).....82	第156回	S049・S071皿状ビット部分実測図(1/40).....100
第114回	S366実測図(1/40).....83	第157回	S058実測図(1/40).....101
第115回	S366・S368出土遺物実測図.....83	第158回	S064実測図(1/40).....101
第116回	S368実測図(1/40).....84	第159回	S066・S067・S068・S069位置図.....101
第117回	S376実測図(1/40).....84	第160回	S066実測図(1/40).....102
第118回	S379出土遺物実測図.....85	第161回	S067実測図(1/40).....102
第119回	S379・390実測図(1/40).....85	第162回	S067出土遺物実測図.....102
第120回	S035実測図(1/40).....86	第163回	S068実測図(1/40).....102
第121回	S039実測図(1/40).....86	第164回	S069実測図(1/40).....102

第165页	S079·(S078土坑) 实测图 (1/40)	103	第208页	S106实测图 (1/40)	117
第166页	S089实测图 (1/40)	103	第209页	S107实测图 (1/40)	117
第167页	S090实测图 (1/40)	103	第210页	S109实测图 (1/40)	117
第168页	S116实测图 (1/40)	103	第211页	S110、S111实测图 (1/40)	117
第169页	S266实测图 (1/40)	104	第212页	S110出土遗物实测图	118
第170页	S330实测图 (1/40)	104	第213页	S112实测图 (1/40)	118
第171页	S330出土遗物实测图	104	第214页	S113实测图 (1/40)	119
第172页	S332·S333·S334实测图 (1/40)	105	第215页	S113出土遗物实测图	119
第173页	S332·S338出土遗物实测图	105	第216页	S114实测图 (1/40)	119
第174页	S335实测图 (1/40)	106	第217页	S117实测图 (1/40)	119
第175页	S336实测图 (1/40)	106	第218页	S118实测图 (1/40)	120
第176页	S334出土遗物实测图	107	第219页	S119实测图 (1/40)	120
第177页	S337出土遗物实测图	108	第220页	S120实测图 (1/40)	120
第178页	S337·S346(下部) 实测图 (1/40)	108	第221页	S122出土遗物实测图	120
第179页	S338实测图 (1/40)	108	第222页	S122实测图 (1/40)	120
第180页	S348·S349·S350实测图 (1/40)	109	第223页	S123实测图 (1/40)	121
第181页	S350出土遗物实测图	109	第224页	S125实测图 (1/40)	121
第182页	S382实测图 (1/40)	109	第225页	S129出土遗物实测图	121
第183页	S382出土遗物实测图	109	第226页	S129实测图 (1/40)	121
第184页	S003实测图 (1/40)	110	第227页	S130实测图 (1/40)	121
第185页	S005实测图 (1/40)	110	第228页	S131实测图 (1/40)	122
第186页	S006实测图 (1/40)	111	第229页	S132实测图 (1/40)	122
第187页	S006出土遗物实测图	111	第230页	S136实测图 (1/40)	122
第188页	S059出土遗物实测图	111	第231页	S138·S169实测图 (1/40)	122
第189页	S078出土遗物实测图	111	第232页	S140实测图 (1/40)	123
第190页	S081实测图 (1/40)	112	第233页	S141实测图 (1/40)	123
第191页	S082实测图 (1/40)	112	第234页	S142·S170实测图 (1/40)	123
第192页	S084实测图 (1/40)	112	第235页	S142出土遗物实测图	123
第193页	S092实测图 (1/40)	112	第236页	S143实测图 (1/40)	124
第194页	S093实测图 (1/40)	113	第237页	S146实测图 (1/40)	124
第195页	S094实测图 (1/40)	113	第238页	S149实测图 (1/40)	124
第196页	S095实测图 (1/40)	113	第239页	S150实测图 (1/40)	124
第197页	S096实测图 (1/40)	113	第240页	S151实测图 (1/40)	125
第198页	S097实测图 (1/40)	114	第241页	S153实测图 (1/40)	125
第199页	S098·S128实测图 (1/40)	114	第242页	S154实测图 (1/40)	125
第200页	S099·S100实测图 (1/40)	115	第243页	S155实测图 (1/40)	125
第201页	S100出土遗物实测图	115	第244页	S155出土遗物实测图	126
第202页	S101出土遗物实测图	115	第245页	S156出土遗物实测图	126
第203页	S101实测图 (1/40)	115	第246页	S161实测图 (1/40)	126
第204页	S102实测图 (1/40)	116	第247页	S165实测图 (1/40)	127
第205页	S103实测图 (1/40)	116	第248页	S166实测图 (1/40)	127
第206页	S104实测图 (1/40)	116	第249页	S167实测图 (1/40)	127
第207页	S105实测图 (1/40)	116	第250页	S171实测图 (1/40)	128

第251回	S173実測図 (1/40)	128	第294回	S261実測図 (1/40)	141
第252回	S174実測図 (1/40)	128	第295回	S262実測図 (1/40)	141
第253回	S175 (S176) 実測図 (1/40)	128	第296回	S263・S264実測図 (1/40)	141
第254回	S177・S178実測図 (1/40)	129	第297回	S263・S265・S272出土遺物実測図	141
第255回	S177出土遺物実測図	130	第298回	S265実測図 (1/40)	142
第256回	S178出土遺物実測図	131	第299回	S267実測図 (1/40)	142
第257回	S181実測図 (1/40)	131	第300回	S270・S271実測図 (1/40)	142
第258回	S181出土遺物実測図	131	第301回	S278実測図 (1/40)	143
第259回	S182実測図 (1/40)	132	第302回	S331実測図 (1/40)	143
第260回	S183実測図 (1/40)	132	第303回	S341・S357実測図 (1/40)	143
第261回	S185出土遺物実測図	132	第304回	S353・S354出土遺物実測図	144
第262回	S192実測図 (1/40)	133	第305回	S363出土遺物実測図	144
第263回	S193実測図 (1/40)	133	第306回	S367実測図 (1/40)	145
第264回	S195実測図 (1/40)	133	第307回	S367出土遺物実測図	145
第265回	S196実測図 (1/40)	133	第308回	S369実測図 (1/40)	145
第266回	S198実測図 (1/40)	134	第309回	S369出土遺物実測図	145
第267回	S199実測図 (1/40)	134	第310回	S378実測図 (1/40)	146
第268回	S200実測図 (1/40)	134	第311回	S371出土遺物実測図	146
第269回	S201実測図 (1/40)	134	第312回	S372出土遺物実測図	146
第270回	S202実測図 (1/40)	135	第313回	S383実測図 (1/40)	147
第271回	S206実測図 (1/40)	135	第314回	S381出土遺物実測図	147
第272回	S208・S210出土遺物実測図	135	第315回	S384・S385実測図 (1/40)	147
第273回	S209実測図 (1/40)	136	第316回	S384・S385出土遺物実測図	148
第274回	S210実測図 (1/40)	136	第317回	S391・S393出土遺物実測図	148
第275回	S211実測図 (1/40)	136	第318回	S391・S392・S393実測図 (1/40)	149
第276回	S212実測図 (1/40)	136	第319回	S076実測図 (1/40)	150
第277回	S214実測図 (1/40)	137	第320回	S115実測図 (1/40)	150
第278回	S217実測図 (1/40)	137	第321回	S148実測図 (1/40)	151
第279回	S219実測図 (1/40)	137	第322回	S152実測図 (1/40)	151
第280回	S220実測図 (1/40)	137	第323回	S236実測図 (1/40)	151
第281回	S221出土遺物実測図	138	第324回	S241出土遺物実測図	152
第282回	S222実測図 (1/40)	138	第325回	S255出土遺物実測図	152
第283回	S225実測図 (1/40)	138	第326回	S387・S395出土遺物実測図	152
第284回	S225出土遺物実測図	138	第327回	1H区内石皿出土状況実測図① (1/40)	153
第285回	S229実測図 (1/40)	139	第328回	1H区内石皿出土状況実測図② (1/40)	153
第286回	S250実測図 (1/40)	139	第329回	11F区配石遺構実測図 (1/40)	153
第287回	S250出土遺物実測図	139	第330回	9D区配石遺構実測図 (1/40)	153
第288回	S252実測図 (1/40)	139	第331回	遺物出土状況実測図 (1/20)	154
第289回	S252出土遺物実測図	139	第332回	S251実測図 (1/20)	154
第290回	S254・S255・S256実測図 (1/40)	140	第333回	S251出土遺物実測図	154
第291回	S257実測図 (1/40)	140	第334回	SB055a実測図 (1/60)	155
第292回	S258実測図 (1/40)	140	第335回	SB055a柱穴出土遺物実測図	155
第293回	S260実測図 (1/40)	140	第336回	森の木道跡・中世・近世遺構位置図 (1/600)	156

第337・338頁	SB0556実測図(1/60)……………	157	第381頁	出土遺物実測図36-縄文時代早期-(23)……………	203
第339頁	SB001実測図(1/60)……………	158	第382頁	出土遺物実測図37-縄文時代早期-(24)……………	204
第340頁	SA001実測図(1/60)……………	159	第383頁	出土遺物実測図38-縄文時代早期-(25)……………	205
第341頁	SA002実測図(1/60)……………	159	第384頁	出土遺物実測図39-縄文時代早期-(26)……………	206
第342頁	SI27実測図(1/40)……………	160	第385頁	出土遺物実測図40-縄文時代早期-(27)……………	207
第343頁	SI27出土遺物実測図……………	160	第386頁	出土遺物実測図41-縄文時代早期-(28)……………	208
第344頁	出土遺物実測図1-旧石器時代-(1)……………	162	第387頁	出土遺物実測図42-縄文時代早期-(29)……………	209
第345頁	出土遺物実測図2-旧石器時代-(2)……………	163	第388頁	出土遺物実測図43-縄文時代早期-(30)……………	210
第346頁	出土遺物実測図3-旧石器時代-(3)……………	164	第389頁	出土遺物実測図44-縄文時代早期-(31)……………	211
第347頁	出土遺物実測図4-旧石器時代-(4)……………	165	第390頁	出土遺物実測図45-縄文時代早期-(32)……………	212
第348頁	出土遺物実測図5-旧石器時代-(5)……………	166	第391頁	出土遺物実測図46-縄文時代早期-(33)……………	213
第349頁	出土遺物実測図6-旧石器時代-(6)……………	167	第392頁	出土遺物実測図47-縄文時代早期-(34)……………	214
第350頁	出土遺物実測図7-旧石器時代-(7)……………	168	第393頁	出土遺物実測図48-縄文時代早期-(35)……………	215
第351頁	出土遺物実測図8-旧石器時代-(8)……………	169	第394頁	出土遺物実測図49-縄文時代早期-(36)……………	216
第352頁	出土遺物実測図9-旧石器時代-(9)……………	170	第395頁	出土遺物実測図50-縄文時代早期-(37)……………	217
第353頁	出土遺物実測図10-旧石器時代-(10)……………	171	第396頁	出土遺物実測図51-縄文時代早期-(38)……………	218
第354頁	森の木道跡 Ⅱ層遺物分布図(1/600)……………	173	第397頁	出土遺物実測図52-縄文時代早期-(39)……………	219
第355頁	森の木道跡 Ⅲ層遺物分布図(1/600)……………	174	第398頁	出土遺物実測図53-縄文時代早期-(40)……………	220
第356頁	出土遺物実測図11-縄文時代草創期-(1)……………	176	第399頁	出土遺物実測図54-縄文時代早期-(41)……………	221
第357頁	出土遺物実測図12-縄文時代草創期-(2)……………	177	第400頁	出土遺物実測図55-縄文時代早期-(42)……………	222
第358頁	出土遺物実測図13-縄文時代草創期-(3)……………	178	第401頁	出土遺物実測図56-縄文時代早期-(43)……………	223
第359頁	出土遺物実測図14-縄文時代早期-(1)……………	181	第402頁	出土遺物実測図57-縄文時代早期-(44)……………	224
第360頁	出土遺物実測図15-縄文時代早期-(2)……………	182	第403頁	出土遺物実測図58-縄文時代早期-(45)……………	225
第361頁	出土遺物実測図16-縄文時代早期-(3)……………	183	第404頁	出土遺物実測図59-縄文時代早期-(46)……………	226
第362頁	出土遺物実測図17-縄文時代早期-(4)……………	184	第405頁	出土遺物実測図60-縄文時代早期-(47)……………	227
第363頁	出土遺物実測図18-縄文時代早期-(5)……………	185	第406頁	出土遺物実測図61-縄文時代早期-(48)……………	228
第364頁	出土遺物実測図19-縄文時代早期-(6)……………	186	第407頁	出土遺物実測図62-縄文時代早期-(49)……………	229
第365頁	出土遺物実測図20-縄文時代早期-(7)……………	187	第408頁	出土遺物実測図63-縄文時代早期-(50)……………	230
第366頁	出土遺物実測図21-縄文時代早期-(8)……………	188	第409頁	出土遺物実測図64-縄文時代早期-(51)……………	231
第367頁	出土遺物実測図22-縄文時代早期-(9)……………	189	第410頁	出土遺物実測図65-縄文時代早期-(52)……………	232
第368頁	出土遺物実測図23-縄文時代早期-(10)……………	190	第411頁	出土遺物実測図66-縄文時代早期-(53)……………	233
第369頁	出土遺物実測図24-縄文時代早期-(11)……………	191	第412頁	出土遺物実測図67-縄文時代早期-(54)……………	234
第370頁	出土遺物実測図25-縄文時代早期-(12)……………	192	第413頁	出土遺物実測図68-縄文時代草創期・早期-(55)……………	235
第371頁	出土遺物実測図26-縄文時代早期-(13)……………	193	第414頁	出土遺物実測図69-縄文時代草創期・前期……………	237
第372頁	出土遺物実測図27-縄文時代早期-(14)……………	194	第415頁	出土遺物実測図70-縄文時代前期・中期・後期……………	238
第373頁	出土遺物実測図28-縄文時代早期-(15)……………	195	第416頁	出土遺物実測図71-縄文時代の石器-(1)……………	241
第374頁	出土遺物実測図29-縄文時代早期-(16)……………	196	第417頁	出土遺物実測図72-縄文時代の石器-(2)……………	242
第375頁	出土遺物実測図30-縄文時代早期-(17)……………	197	第418頁	出土遺物実測図73-縄文時代の石器-(3)……………	243
第376頁	出土遺物実測図31-縄文時代早期-(18)……………	198	第419頁	出土遺物実測図74-縄文時代の石器-(4)……………	244
第377頁	出土遺物実測図32-縄文時代早期-(19)……………	199	第420頁	出土遺物実測図75-縄文時代の石器-(5)……………	245
第378頁	出土遺物実測図33-縄文時代早期-(20)……………	200	第421頁	出土遺物実測図76-縄文時代の石器-(6)……………	246
第379頁	出土遺物実測図34-縄文時代早期-(21)……………	201	第422頁	出土遺物実測図77-縄文時代の石器-(7)……………	247
第380頁	出土遺物実測図35-縄文時代早期-(22)……………	202	第423頁	出土遺物実測図78-縄文時代の石器-(8)……………	248

第424回	出土遺物実測図79-縄文時代の石器-(9)	249	第467回	出土遺物実測図122-縄文時代の石器-(52)	292
第425回	出土遺物実測図80-縄文時代の石器-(10)	250	第468回	出土遺物実測図123-縄文時代の石器-(53)	293
第426回	出土遺物実測図81-縄文時代の石器-(11)	251	第469回	出土遺物実測図124-縄文時代の石器-(54)	294
第427回	出土遺物実測図82-縄文時代の石器-(12)	252	第470回	出土遺物実測図125-縄文時代の石器-(55)	295
第428回	出土遺物実測図83-縄文時代の石器-(13)	253	第471回	出土遺物実測図126-縄文時代の石器-(56)	296
第429回	出土遺物実測図84-縄文時代の石器-(14)	254	第472回	出土遺物実測図127-縄文時代の石器-(57)	297
第430回	出土遺物実測図85-縄文時代の石器-(15)	255	第473回	出土遺物実測図128-縄文時代の石器-(58)	298
第431回	出土遺物実測図86-縄文時代の石器-(16)	256	第474回	出土遺物実測図129-縄文時代の石器-(59)	299
第432回	出土遺物実測図87-縄文時代の石器-(17)	257	第475回	出土遺物実測図130-縄文時代の石器-(60)	300
第433回	出土遺物実測図88-縄文時代の石器-(18)	258		-弥生時代-近世-	
第434回	出土遺物実測図89-縄文時代の石器-(19)	259	第476回	出土遺物実測図131	301
第435回	出土遺物実測図90-縄文時代の石器-(20)	260	第477回	森の木道跡 調査区西部遺構配置図(1/300)	302
第436回	出土遺物実測図91-縄文時代の石器-(21)	261	第478回	森の木道跡 調査区東部遺構配置図(1/300)	303
第437回	出土遺物実測図92-縄文時代の石器-(22)	262	第479回	出土遺物実測図132-弥生時代-近世	304
第438回	出土遺物実測図93-縄文時代の石器-(23)	263	第480回	陸帯文土器口縁部分類	306
第439回	出土遺物実測図94-縄文時代の石器-(24)	264	第481回	陸帯文土施文・銅陸帯文土施文の分類図	308
第440回	出土遺物実測図95-縄文時代の石器-(25)	265	第482回	縄文時代前期-早期前半の土器分布と集落配置図(1/400)	313
第441回	出土遺物実測図96-縄文時代の石器-(26)	266			
第442回	出土遺物実測図97-縄文時代の石器-(27)	267			
第443回	出土遺物実測図98-縄文時代の石器-(28)	268			
第444回	出土遺物実測図99-縄文時代の石器-(29)	269			
第445回	出土遺物実測図100-縄文時代の石器-(30)	270			
第446回	出土遺物実測図101-縄文時代の石器-(31)	271			
第447回	出土遺物実測図102-縄文時代の石器-(32)	272			
第448回	出土遺物実測図103-縄文時代の石器-(33)	273			
第449回	出土遺物実測図104-縄文時代の石器-(34)	274			
第450回	出土遺物実測図105-縄文時代の石器-(35)	275			
第451回	出土遺物実測図106-縄文時代の石器-(36)	276			
第452回	出土遺物実測図107-縄文時代の石器-(37)	277			
第453回	出土遺物実測図108-縄文時代の石器-(38)	278			
第454回	出土遺物実測図109-縄文時代の石器-(39)	279			
第455回	出土遺物実測図110-縄文時代の石器-(40)	280			
第456回	出土遺物実測図111-縄文時代の石器-(41)	281			
第457回	出土遺物実測図112-縄文時代の石器-(42)	282			
第458回	出土遺物実測図113-縄文時代の石器-(43)	283			
第459回	出土遺物実測図114-縄文時代の石器-(44)	284			
第460回	出土遺物実測図115-縄文時代の石器-(45)	285			
第461回	出土遺物実測図116-縄文時代の石器-(46)	286			
第462回	出土遺物実測図117-縄文時代の石器-(47)	287			
第463回	出土遺物実測図118-縄文時代の石器-(48)	288			
第464回	出土遺物実測図119-縄文時代の石器-(49)	289			
第465回	出土遺物実測図120-縄文時代の石器-(50)	290			
第466回	出土遺物実測図121-縄文時代の石器-(51)	291			

目 次

第1表 森の木遺跡遺物観察表(土器・陶磁器) ……………	315～341
第2表 森の木遺跡遺物観察表(石器) ……………	341～351
第3表 森の木遺跡遺物観察表(土鍾) ……………	352
第4表 森の木遺跡遺物観察表(銭貨) ……………	352
第5表 森の木遺跡遺構一覧表 ……………	352～356

写真図版目次

写真図版 1 森の木遺跡空中写真(2次調査) 南西から北東方向	写真図版 9 2次 4H東壁中央 土層断面(西から) 2次 基本土層 土層断面(南から)
写真図版 2 森の木遺跡空中写真(2次調査) 南から北方向	写真図版 10 2次 4F旧石器 出土状況① 2次 4F旧石器 出土状況② 2次 旧石器(集石か) 遺物出土状況(北から)
写真図版 3 森の木遺跡空中写真(2次調査) 北から南方向	写真図版 11 2次 S190 発掘状況(南東から) 3次 S245・S277 出土状況(東から)
写真図版 4 森の木遺跡空中写真(4次調査) 2次調査～4次調査の遺構分布	写真図版 12 3次 S245・S277 出土状況(東から) 4次 S246 遺物出土状況(南から)
写真図版 5 森の木遺跡空中写真(2次調査) 上が北 縄文時代草創期の南側堅穴建物群を中心とした遺構群	写真図版 13 4次 S246 発掘状況(南から) 3次 S273 発掘状況(東から)
写真図版 6 森の木遺跡空中写真(2次調査) 上が北 縄文時代草創期の南側堅穴建物群を中心とした遺構群	写真図版 14 4次 S358 遺物出土状況(南から) 4次 S358 発掘状況(南から)
写真図版 7 森の木遺跡空中写真(3次調査) 上が北 中央の区画が3次調査区 縄文時代草創期の北側堅穴建物群を中心とした遺構群で、その下が2次調査区の南側堅穴建物群が広がる	写真図版 15 4次 S383 遺物出土状況(西から) 4次 S383・S384・S385 発掘状況(北西から)
写真図版 8 森の木遺跡空中写真(4次調査) 上が北	写真図版 16 3次 S259 土層断面(南から)

- 3次 S259 完掘状況 (東から)
- 写真図版 17
- 2次 S077 完掘状況 (東から)
- 2次 S080 完掘状況 (西から)
- 写真図版 18
- 2次 S083 検出状況 (北から)
- 2次 S083 遺物出土状況 (北から)
- 2次 S108 土層断面 (南から)
- 写真図版 19
- 2次 S124 土層断面 (東から)
- 2次 S126 完掘状況 (西から)
- 2次 S133 完掘状況 (西から)
- 写真図版 20
- 2次 S134 完掘状況 (北から)
- 2次 S135 完掘状況 (南から)
- 写真図版 21
- 2次 S157・S158・S203 遺物出土状況 (南西から)
- 2次 S157・S158・S203 完掘状況 (西から)
- 写真図版 22
- 2次 S159 完掘状況 (西から)
- 2次 S160 遺物出土状況・土層断面 (南から)
- 写真図版 23
- 2次 S162・S188・S221・S227 完掘状況 (東から)
- 2次 S164・S205 完掘状況 (東から)
- 写真図版 24
- 2次 S172 完掘状況 (東から)
- 2次 S168・S185・S186・S187 土層断面 (南西から)
- 写真図版 25
- 2次 S168・S187 土層断面 (西から)
- 2次 S185・S186 土層断面 (西から)
- 写真図版 26
- 2次 S168・S185～S187 完掘状況 (北から)
- 2次 S168・S185～S187 完掘状況 (南東から)
- 写真図版 27
- 2次 S215 完掘状況 (南東から)
- 2次 S216 遺物出土状況 (南西から)
- 写真図版 28
- 2次 S216 完掘状況 (北西から)
- 3次 S253 完掘状況 (北から)
- 写真図版 29
- 4次 S347 遺物出土状況 (西から)
- 4次 S347 完掘状況 (西から)
- 写真図版 30
- 4次 S370・S371・S372 遺物出土状況 (南から)
- 4次 S370 完掘状況 (西から)
- 写真図版 31
- 2次 S040・S042 検出状況 (東から)
- 2次 S041 検出状況 (東から)
- 写真図版 32
- 2次 S050 検出状況 (南から)
- 2次 S050 完掘状況 (南から)
- 2次 S057 検出状況 (南から)
- 写真図版 33
- 2次 S057 (下層部) 検出状況 (東から)
- 2次 S072 検出状況 (北から)
- 2次 S072 土層断面 (北から)
- 写真図版 34
- 2次 S085 検出状況 (北東から)
- 2次 S086 検出状況 (北西から)
- 2次 S088 検出状況 (東から)
- 写真図版 35
- 2次 S121 土層断面 (南西から)

- 2次 S121・S145 遺物出土状況（東から）
- 写真図版 36
- 2次 S184 遺物出土状況（南東から）
- 2次 S188 検出状況（南東）
- 写真図版 37
- 2次 S188 土層断面（北から）
- 2次 S243 土層断面（北東から）
- 写真図版 38
- 2次 S243 完掘状況（東から）
- 2次 S224 土層断面（北から）
- 写真図版 39
- 2次 S224 完掘状況（南から）
- 2次 S207・S208・S225 完掘状況（北から）
- 写真図版 40
- 2次 S207・S208・S225 完掘状況（北東から）
- 2次 S228 土層断面（南西から）
- 写真図版 41
- 2次 S228 完掘状況（南西から）
- 2次 S084 遺物出土状況（東から）
- 写真図版 42
- 3次 S249 出土状況（東から）
- 4次 S359 遺物出土状況（東から）
- 写真図版 43
- 4次 S361 完掘状況（東から）
- 4次 S361 土層断面（南東から）
- 写真図版 44
- 4次 S366 遺物出土状況（東から）
- 4次 S366 完掘状況（東から）
- 写真図版 45
- 4次 S368 遺物出土状況（東から）
- 4次 S368 土層断面（南東から）
- 写真図版 46
- 4次 S390 検出状況（東から）
- 4次 S390 検出状況（南東から）
- 4次 S390・S379 完掘状況（東から）
- 写真図版 47
- 2次 S035 検出状況（北から）
- 2次 S039・S041 検出状況（東から）
- 写真図版 48
- 2次 S041 堀方掘削後（南から）
- 2次 S043 検出状況（南から）
- 写真図版 49
- 2次 S045 検出状況（南から）
- 2次 S045 検出状況（北東から）
- 写真図版 50
- 2次 S046 検出状況（東から）
- 2次 S051 検出状況（南から）
- 写真図版 51
- 2次 S052・S053 検出状況（西から）
- 2次 S056 検出状況（南から）
- 写真図版 52
- 2次 S061 検出状況（北東から）
- 2次 S062 検出状況（北東から）
- 写真図版 53
- 2次 S063 検出状況（北から）
- 2次 S065 検出状況（西から）
- 写真図版 54
- 2次 S070 検出状況（北から）
- 2次 S073 検出状況（南から）
- 写真図版 55
- 2次 S074 検出状況（北東から）
- 3次 S244 検出状況（西から）

- 写真図版 56
3次 S247 検出状況 (西から)
3次 S248 土層断面 (北から)
- 写真図版 57
2次 S004 検出状況 (西から)
2次 S034 土層断面 (南東から)
- 写真図版 58
2次 S034 完掘状況 (東から)
2次 S044 検出状況 (東から)
- 写真図版 59
2次 S047 検出状況 (東から)
2次 S047 検出状況 (東から)
2次 S047 (下部) 検出状況 (南から)
- 写真図版 60
2次 S048 土層断面 (西から)
2次 S048 (下部) 検出状況 (西から)
- 写真図版 61
2次 S049 検出状況 (東から)
2次 S049・S071 完掘状況 (北から)
- 写真図版 62
2次 S058 検出状況 (東から)
2次 S064 検出状況 (南東から)
- 写真図版 63
2次 S090 土層断面 (東から)
2次 S066・S067 検出状況 (北から)
2次 S068・S069 検出状況 (北東から)
- 写真図版 64
2次 S066 土層断面 (西から)
2次 S068 土層断面 (南から)
2次 S069 土層断面 (南から)
- 写真図版 65
2次 S078・S079 土層断面 (南西から)
2次 S079 検出状況 (南西から)
- 2次 S089 検出状況 (南東から)
- 写真図版 66
2次 S090 検出状況 (西から)
2次 S090 完掘状況 (北から)
3次 S266 検出状況 (南から)
- 写真図版 67
4次 S330・S332～4・S336～8 集石遠景(南東から)
4次 S330・S332～4・S336～8 集石遠景(北西から)
- 写真図版 68
4次 S330 検出状況 (東から)
4次 S330・S336 検出状況 (北から)
4次 S330 検出状況 (北から)
- 写真図版 69
4次 S332・S333・S334 検出状況 (南から)
4次 S335 検出状況 上部 (南西から)
4次 S335 検出状況 下部 (南西から)
- 写真図版 70
4次 S336 検出状況 (北から)
4次 S337 検出状況 (南から)
4次 S337・S346 土層断面 (西から)
- 写真図版 71
4次 S338 検出状況 (南から)
4次 S348・S349・S350 検出状況 (南から)
4次 S349 土坑内の状況 (南から)
- 写真図版 72
4次 S382 遺物出土状況 (東から)
2次 S003 土層断面 (北から)
2次 S003 完掘状況 (東から)
- 写真図版 73
2次 S005 検出状況 (北から)
2次 S005 完掘・土層断面 (北から)
2次 S081 完掘状況 (東から)

写真図版 74

- 2次 S046 完掘状況 (南から)
2次 S082 完掘状況 (北から)
2次 S084 完掘状況 (北から)

写真図版 75

- 2次 S108 完掘状況
2次 S135 土層断面 (西から)
2次 S092 完掘状況 (東から)

写真図版 76

- 2次 S104 土層断面 (南から)
2次 S109 土層断面 (南から)
2次 S112 土層断面 (西から)

写真図版 77

- 2次 S117 遺物出土状況 (南から)
2次 S129 完掘状況 (北東から)
2次 S130 完掘状況 (東から)

写真図版 78

- 2次 S131 完掘状況 (南東から)
2次 S132 完掘状況 (南から) 炉穴
2次 S136 完掘状況 (南から)

写真図版 79

- 2次 S140 完掘状況 (東から)
2次 S146 土層断面 (北東から)
2次 S141 完掘状況 (西から)
2次 S147 完掘状況 (北西から)
2次 S149 土層断面 (南から)
2次 S150 土層断面 (東から)
2次 S151 土層断面 (東から)
2次 S173 完掘状況 (南西から)

写真図版 80

- 2次 S155 遺物出土状況 (西から)
2次 S175・S177・S178 遺物出土状況 (東から)
2次 S174 完掘状況 (南東から)
2次 S182 完掘状況 (東から)
2次 S181 遺物出土状況 (北から)

- 2次 S183 完掘状況 (東から)
2次 S195 遺物出土状況 (西から)
2次 S196 完掘状況 (南から)

写真図版 81

- 2次 S198 完掘状況 (北から)
2次 S201 完掘状況 (南西から)
2次 S209 土層断面 (南から)
2次 S210 土層断面 (南西から)
2次 S211 遺物出土状況・土層断面 (南から)
2次 S212 完掘状況 (西から)
2次 S222 完掘状況 (東から)
2次 S225 土層断面 (西から)

写真図版 82

- 2次 S229 完掘状況 (北から)
3次 S260 完掘状況 (北から)
3次 S258 完掘状況 (東から)
3次 S261 完掘状況 (北から)
3次 S263・S264・S265 完掘状況 (西から)
3次 S265 完掘状況 (南から)
3次 S267 完掘状況 (南から)
3次 S270・S271 完掘状況 (南から)

写真図版 83

- 3次 S127 完掘状況 (南西から)
4次 S331 遺物出土状況 (南から)
4次 S341 完掘状況 (北から)
4次 S367 遺物出土状況 (南東から)
4次 S369 遺物出土状況 (南西から)
4次 S384・S385 完掘状況 (南東から)
2次 S076 土層断面 (西から)
2次 S115 完掘状況 (南から)

写真図版 84

- 2次 S226 完掘状況 (西から)
2次 1F区6410 遺物出土状況 (北西から)
2次 1F区6411 遺物出土状況 (南東から)
2次 9Fグリッド 遺物出土状況 (東から)
2次 古銭 出土状況 (北から)

写真図版 85

2次 1Eグリッド 遺物出土状況（西から）

2次 0Eグリッド 遺物出土状況（北から）

3次 S251 出土状況（西から）

写真図版 86

隆帯文系土器

隆帯文系土器と草創期無文土器

写真図版 87

石器と隆帯文系土器

草創期石器

写真図版 88

草創期の土器・石器と早期の土器・石器

草創期・早期の土器

写真図版 89

草創期の土器・石器

草創期の土器

写真図版 90

早期の石器・草創期の土器

草創期前半の石器・旧石器時代のナイフ形石器等・

縄文時代早期の石器

写真図版 91

隆帯文系土器群

隆帯文系土器群

写真図版 92

隆帯文系土器

隆帯文系土器

写真図版 93

隆帯文系土器

縄文時代草創期の土器

写真図版 94

縄文時代早期の土器

縄文時代早期の土器

写真図版 95

縄文時代早期の土器

縄文時代早期の土器

写真図版 96

縄文時代早期の土器

縄文時代早期の土器

写真図版 97

縄文時代早期の土器

縄文時代早期・前期初頭の土器

写真図版 98

縄文時代早期・前期初頭の土器

縄文時代早期の土器

写真図版 99

縄文時代早期の土器

縄文時代早期の土器

写真図版 100

縄文時代早期の土器

縄文時代早期の土器

写真図版 101

縄文時代早期の土器

縄文時代早期の土器

写真図版 102

縄文時代前期の土器

縄文時代前期・後期の土器

写真図版 103

縄文時代早期の石器

縄文時代早期の石器

写真図版 104

縄文時代早期の石器

縄文時代早期の石器

写真図版 105

縄文時代早期の石核

縄文時代早期の石核

写真図版 106

縄文時代早期の石器 楔形石器、エンド・スクレ
イバー、石斧等

縄文時代早期の石器 磨石・凹石

写真図版 107

縄文時代早期の石器

縄文時代早期の石器 石錘

写真図版 108

縄文時代早期の台石

写真図版 109

縄文時代早期の台石 表面

縄文時代早期の台石 裏面

第1章 はじめに

第1節 調査の経過

1 調査に至る経緯

東九州自動車道（佐伯～県境間）は、北九州市から宮崎市に至る東九州自動車道全線延長436kmの内、佐伯ICから蒲江ICを経て、宮崎県境までの総延長29kmの区間である。大分県教育委員会では、平成12年度にこの区間の埋蔵文化財分布調査を実施した。その結果、周知遺跡である森の木遺跡や梅平礼遺跡を含む23箇所を調査対象地がリストアップされることとなった。森の木遺跡は平成10年7月～10月の道路拡幅に伴う調査（第1次調査）で良好な縄文時代早期の包含層が確認されており、自動車道の予定地内においても遺物包含層の存在が予測されていた。調査の環境が整った平成21年、国土交通省九州地方整備局佐伯河川国道事務所から平成21年4月13日付の調査依頼があり、同年5月21日に確認調査を実施した。

試掘調査は12箇所のトレンチを設け行い、Ⅱ層中から縄文時代後期の土器、Ⅲ層中から縄文時代早期の土器集石が出土した。特にⅢ層中の遺物はほぼ全域で観察された。こうした確認調査の結果から平成21年度・平成22年度に本調査を実施した。

2 調査の経過

第2次調査範囲（4,450㎡）

平成21年7月2日（木） 除草作業とグリッド設定

7月3日（金） 調査区の設定及び、水準点・基準点の設置

7月7日（火） 重機で区域1南西部から表土除去開始

7月13日（月） 作業員による包含層の掘り下げ開始 Ⅱ層（アカホヤ）の上面で石匙・下部で塞ノ神土器

10月19日（月） E3区・F3区で竪穴建物を検出 その後、続々と竪穴建物を検出

10月23日（金） 佐伯市立上堅田小学校6年42名が発掘体験

11月19日（木） 煙道付炉穴を確認

12月1日（火） 空中写真撮影

12月2日（水） F4区・G4区付近のⅣ層上面で旧石器を確認したため、トレンチを設定し掘り下げ

12月3日（木） 2次調査終了

第3次調査（350㎡）

平成22年1月5日（火） 調査区の設定及び、水準点・基準点の設置

1月6日（水） 重機で表土除去開始

1月8日（木） 包含層の掘り下げ開始

1月15日（金） C8・C9区付近で竪穴建物を確認

2月4日（木） 空中写真撮影

2月10日（水） 3次調査終了

第4次調査（1,765㎡）

平成23年4月26日（月） 調査区の設定及び、水準点・基準点の設置

5月6日（木） 重機で表土除去開始

5月17日（月） 包含層の掘り下げ開始

6月17日（木） 佐伯市立青山小学校6年が発掘体験

7月6日（火） 竪穴建物を確認

7月8日（木） 佐伯市立上堅田小学校6年が発掘体験

8月6日（金） 空中写真撮影

8月10日（火） 調査終了

8月16日（月）・17日（火） 2次～3次調査区の埋め戻し

第2節 調査組織の構成

平成21年度

埋蔵文化財センター	所長	佐藤英一
	管理予算班主幹(総括)	宮永敬三
	管理予算班副主幹	徳脇仁志
	一般事業班主幹	綿貫俊一(Ⅱ次・Ⅲ次調査担当)
	受託事業班主事	越智淳平(Ⅱ次調査担当)
	受託業者	株式会社イビック(Ⅱ次・Ⅲ次調査受託)

平成22年度

埋蔵文化財センター	所長	山口博文
	管理予算班主幹(総括)	春山義光
	管理予算班副主幹	徳脇仁志
	資料管理班次長兼課長補佐	栗田勝弘(Ⅲ次調査担当)
	受託事業班主幹(総括)	小柳和宏
	受託事業班主事	越智淳平(Ⅲ次調査担当)
	大型事業班課長補佐(総括)	後藤一重
	受託業者	株式会社イビック(Ⅲ次調査受託)
		株式会社 九州文化財総合研究所(整理受託)

平成23年度

埋蔵文化財センター	所長	山口博文
	管理予算班主幹(総括)	春山義光
	受託事業班主事	越智淳平(整理担当)
	受託業者	株式会社イビック(整理受託)

平成24年度

埋蔵文化財センター	所長	山口博文
	管理予算班主幹(総括)	春山義光
	資料管理班主幹	染矢和徳(整理担当)

平成25年度

埋蔵文化財センター	所長	宮内克己
	管理予算班主幹(総括)	春山義光
	資料管理班副主幹	高橋信武(整理担当)

平成26年度

埋蔵文化財センター	所長	松村洋一
	管理予算班主幹(総括)	藤田幸三
	資料管理班・受託事業班副主幹	高橋信武(整理担当) 小野千恵美(整理担当)

平成27年度

埋蔵文化財センター	所長	後藤一重
	管理予算班主幹(総括)	安藤正廣
	資料管理班主幹	綿貫俊一(報告書担当)
	受託事業班副主幹	坂本嘉弘(レイアウト担当)・小野千恵美(整理担当)
		高山加代(整理担当)・古殿鈴代(整理担当)
		吉田あかり(整理担当)

第2章 遺跡の立地と環境

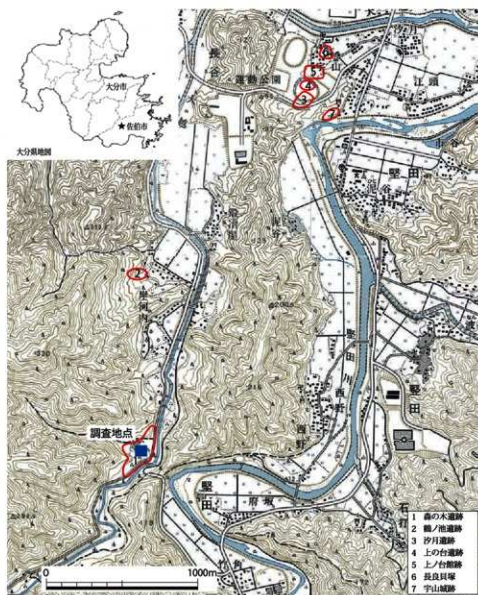
第1節 地理的環境

大分県南部の沿岸部はリアス式海岸が発達し、その内陸部の大半は中央構造線沿いの山地地形である。佐伯市の海岸部は、北に四浦半島、南に鶴見半島に囲まれるように湾を形成している。これらの海岸部には多くの良港が津々浦々に存在している。そのうち佐伯湾には県南の大河川である番匠川と堅田川が流れ込んでいる。番匠川は、西方の豊後大野市・臼杵市との境界にある佩橋山・石神山付近に源流がある。また堅田川は、南方の宮崎県境にある陸地（かちじ）峠や石神越近くに源を発し、蛇行しながら北流している。これらの川には多くの支流があり、その間には急峻な山々が連なっている。遺跡のある佐伯市大字堅田地区も例外ではなく、標高数mからいっきに標高100～350m前後まで急な勾配が続く。この地域は、佐伯市のなかでは市街地の南に接する地域に当たり、両河川の中・下流域には神穂地が広がり、水田として利用されている。また高城山の東麓裾部、中山峠の西側・南側裾部である下城地区・中山地区、あるいは宇山など、大越川・堅田川中下流域の山沿いには小規模ながら扇状地や小台地が形成され、畑地や民家として利用されている。

佐伯堅田 IC 長谷の東にある山塊（標高127m）は、その南方の県境から延びる山嶺の末端である。この、山嶺の西側に

堅田川、東側にその支流の大越川が北流する。大越川はその東にある山塊との間に挟まれた狭小な谷間であり、森の木遺跡の位置は、佐伯堅田 IC から南に約2.5kmの距離を置いた場所である。ここは大越川の中流から水田耕作を行っている下流域との接点付近に当たる。森の木遺跡は、大越川の左岸側にある山塊の尾根末端から延びる小舌状台地上に立地する。この小舌状台地は南側を大越川、北側をその支流に挟まれた合流部でもある。ここは森の木遺跡を中心とした小盆地のなかであることに加え、東側の山塊の幅が最も幅狭く標高の低い部分が南側にあるため、その東側約300mの距離に堅田川本流が北流している。

行政的には「大分県佐伯市大字長谷字森の木」に位置し、座標では北緯 $32^{\circ} 51' 45''$ 東経 $131^{\circ} 51' 45''$ にあたる。



第1図 森の木遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/25000)

第2節 歴史的環境

森の木遺跡が含まれる堅田川流域には、第二次世界大戦後の1948年(昭和23)の6月と11月の時期に調査された長良貝塚・下城遺跡がある。両遺跡はカキ殻などの貝が地表面に露出していることで知られていたが、発掘調査の結果、貝層中からは弥生時代前期末・中期前半ごろの土器が出土した。このとき出土した土器は、現在「下城式土器」と名称が付けられ、後に大分県の北部・中部・南部の各所で出土したことから大分の弥生土器を代表する標式名として知られている。両遺跡においては貝層の下の粘土層(ローム層)上面から縄文時代早期の押型文土器や集石が出土していた。この他、堅田川流域での調査で注意される遺跡として汐月遺跡がある(佐伯市教育委員会1990)。この遺跡の平履地区西斜面では、縄文時代早期の押型文土器と土磁が出土しており、長良貝塚・下城遺跡と同様な一連の遺跡群であることが想定される。汐月遺跡では、他にも柿ノ木畑地区で弥生時代後期終末(3世紀前半)の土器、古墳時代中期(5世紀中頃)の土器や竪穴建物遺構、古墳時代後期末(6世紀後半)の土器や不定形の大形土坑が出土し、平履・柚ノ元調査区では奈良時代(8世紀中頃)の巨大な掘り方を有する掘立柱建物と土師質土器・墨書土器が出土している。平履・柚ノ元調査区のある上ノ台は、平安後期の文書『本朝世紀』に藤原純友が「豊後国佐伯院に襲い来り・・・」とある「佐伯院」に比定されていた場所でもあり(佐藤1975)、巨大な掘り方を有する掘立柱建物と土師質土器・墨書土器の出土はその可能性を有しているといえよう。この遺跡からは、12世紀～14世紀代の白磁碗・青磁碗も出土している。

佐伯を含む地域が史書に記されたのは715年(垂仁元)～740年(天平12)までに成立したとされる古事記で、「海部郡、第4所」のなかの「穂門郡 郡の南に在り・・・」という部分が佐伯に相当し、上記した汐月遺跡の8世紀中頃の資料がこの時代に相当する。その後の平安時代・鎌倉時代に成立した文献上でも「佐伯院」「佐伯荘」が散見されるが、実際の資料に乏しい。そのなかで鎌倉時代の13世紀前半に建立されたと推定される十三重の塔が、既にこの地方の地頭職を得ていた佐伯氏(初代佐伯惟康等)によるものと推定されている。佐伯氏系図をみると初代の惟康以降、一族は鎌倉時代・室町時代・安土桃山時代を通じて発展していくようである。そうした佐伯氏に関わる遺跡・史跡には榊牟礼城跡・木戸城跡・龍護寺・山上寺跡・宇山城跡(堅田川流域)・八幡山城跡(堅田川流域)・常楽寺(堅田川流域)があるほか、多数の廃寺跡や石塔類がある。特に石塔類は、堅田川流域に限っても27地点もある(大分県教育委員会2013)。このように堅田川流域が中世段階において栄えていた地域であることがうかがえる。

肥沃な沖積地の発達した堅田川流域は、鎌倉・室町・安土桃山時代を通じて佐伯氏一族が地頭職として支配する荘園であったことが新熊野神社及び熊野神社の棟札と常楽寺の鰐口に記された墨書・金石文の内容からわかる。中世を通じて栄えた佐伯氏一族であるが、『大友興廃記』などの野史によると、佐伯は1586年(天正14)に九州南部の戦国大名である薩摩島津氏の侵入を受ける。『大友家文書録』には、このときの戦いで佐伯氏は島津氏の兵を退けているが、堅田川や大越川周辺はその主戦場となったようである。今日に残る伝承には、島津の兵は八幡山砦・宇山城の戦いで敗北し、鯨越(府坂峠)：森の木遺跡の東南に隣接する狭小な峠)を越えて森ノ木原(森の木遺跡の位置)に布陣したという(佐伯市教育委員会1989)。

1593年(文祿2)、佐伯惟定のとき主家大友氏が改易となり、佐伯氏は佐伯を去る。そして佐伯は豊臣秀吉の直轄領(太閤蔵入地)となった。江戸時代の1601年(慶長6)になると佐伯は毛利高政の領地となり、佐伯藩が立藩される。森の木遺跡が含まれる堅田川流域も佐伯藩に含まれ、近世村落が成立し、現在に至る原形ができた。

賀川光夫1971『大分県の考古学』吉川弘文館

佐伯市教育委員会1990『汐月遺跡』佐伯市文化財調査報告書

佐伯市教育委員会1989『佐伯氏一族の興亡-中世の秋に拾う-』

佐藤貫一1975「海部と穂門と佐伯」『佐伯史談』No.102, 佐伯市談会, 3-8

第3章 調査の成果

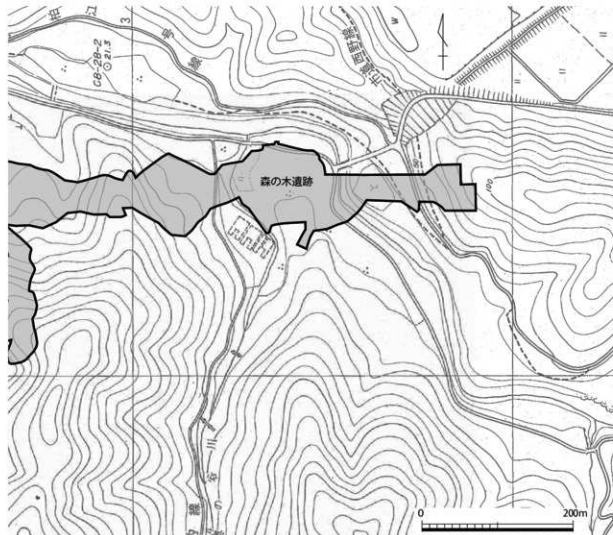
第1節 調査の方法と遺跡の概要

1 調査の方法

森の木遺跡は、西から延びる尾根が急激に標高を下げたところから始まる平らな舌状台地もしくは河岸台地であるが、その規模は東西約140 m、南北約70 mの広がりがある。この平らな舌状台地は、平成10年7月～10月に行った第1次調査、そして今回の調査に先立つ平成21年の試掘で全域に遺物が広がることが判明していた。そのため西を基点に0～12の列と北を基点にA～J列を設定し、その交差した10 m方眼の区画を舌状地形の平地が被われるように設定した。またその区画は、台地の地勢が真北から東へ73°振れた方向に延びるため、これに直交・平行するように設定した。

遺跡の堆積層を調査するためにF列とG列の東西方向の境界断面、2列・3列南北方向の境界断面（E列～I列間）、4列・5列南北方向の境界断面（C列～H列間）、C列・D列境界の断面（8列～12列間）、7列・8列境界の断面（C列～D列間）、9列・10列境界の断面（C列～D列間）を残し、掘り下げた。1層・II層までは重機で掘り下げ、その下位は移植ゴテ、草刈り、スコップ等を用いて掘り下げた。特にスコップでの掘り下げは、調査を効率的に行うことを目的として遺物・遺構の少ない場所で行った。

小さな土器・石器の破片は、基本的に層位ごとに標高・平面分布位置を記録し、取り上げた。また大型の石器（台石など）や集石については、平面図や垂直分布図・平面分布図を20分1で作図しつつ取り上げた。遺構については、主なものに集石・配石、竪穴建物、埴穴があるが、集石・配石は掘り下げるなかで包含層中から出土した礫の集中度が著しいもの、竪穴建物は



第2図 森の木遺跡の位置と周辺地形図 (1/5000)

直径が2 m以上のもの、炉穴は長楕円形の土坑で内部に焼土面のあるものについて認定し、記録（図化・写真撮影）した。

2 遺跡の概要

(1) 第1次調査の概要

森の木遺跡の東から南にかけて、県道赤木吹原佐伯線が通っている。平成11年以前は、段丘が川岸付近に張り出しながら直角状に屈折しており、交通上の不便をきたしていた。そのためカーブを緩やかにするために北側に道路を移動させることが計画されたのが第1次調査の発端である。調査は1998年7月1日～1998年10月27日までの間実施された。報告書によると、遺物と遺構はアカホヤ層下の黒土層（4・5・6層）から出土し、押型文土器と無文土器が出土したことから縄文時代早期の遺跡であることが分かった（大分県教育委員会2000）。遺構は、集石が11箇所、土坑4箇所であった。遺物には、土器の他、石鏃5点、石錐1点、石斧1点、スクレイパー類35点、甕器様土器3点、石核18点、砂岩製大型刮片石器24点、同石核2点、磯器46点、藪石・磨石6点が出土している。とりわけ、砂岩製大型刮片石器、磯器が多く出土したことが注意を引いた。

大分県教育委員会2000『森の木遺跡～県道赤木吹原佐伯線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～』大分県文化財調査報告書 第109集

(2) 土層

森の木遺跡の西端部は、その西方から延び下ってくる尾根と接することもある。厚い堆積物が残されている。他方、遺跡がの舌状台地の北部や東部は薄い地層の堆積となっている。調査工程の都合からG列北面（F列・G列東西方向境界断面）のG2・G3区北面付近で基本となる堆積物の調査を行った。その結果、以下のような基本堆積物が観察された（第4図）。

I層：暗褐色。表土であり、耕作土。乾くと灰白色となる。

II層：黒褐色。アカホヤが多く含まれている。縄文時代前期の遺物が含まれており、包含層I層として捉えた。

III層：暗褐色。やや赤みがかった色調で、厚さは20 cm前後。縄文時代早期後半の平碇式土器などが含まれており、包含層II層として捉えた。

III b層：黒褐色。粘性が強く、固くしまる。厚さ100 cm前後になる部分もある。表記に「III層」とした部分もある。縄文時代早期・草創期中頃土器が含まれており、包含層IIIとして捉えた。

IV a層：暗黄褐色。ローム層。粘質であるが、しまる。上部に旧石器時代の石器が含まれている。

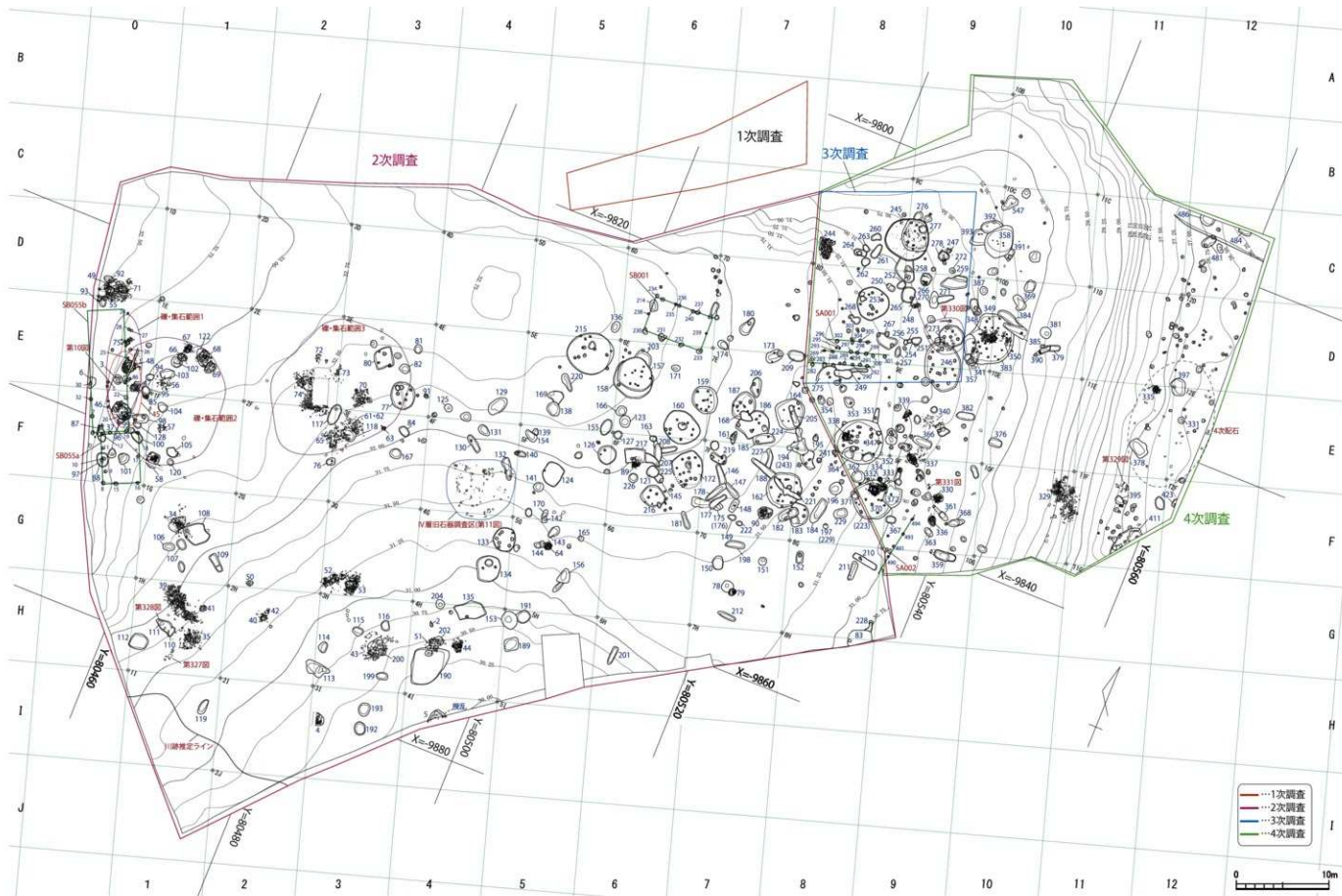
IV b層：暗黄褐色のローム層。小型の礫を含む。IV a層との前後関係は明確ではないが、あるいはIV a層の部分的な分布か。上部に旧石器時代の石器が含まれている。

(3) 遺構

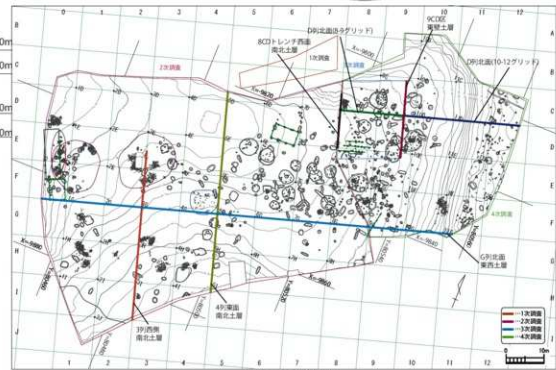
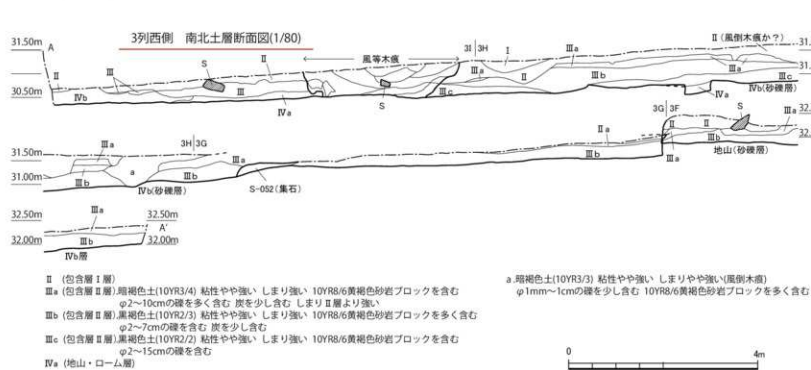
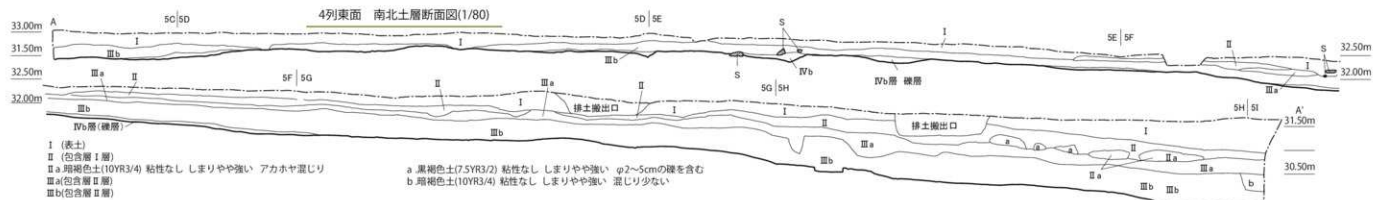
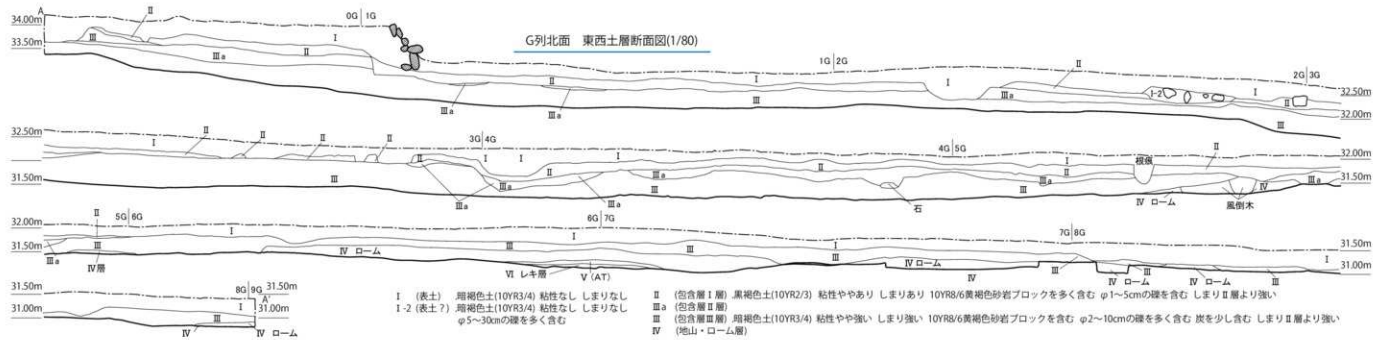
森の木遺跡から検出された縄文時代草創期・早期の遺構は、集石、配石、陥穴、堅穴建物、煙道付炉穴、炉穴、土坑がその内訳である。古墳時代中期の土坑1箇所である。また明確な所属時期は明確ではないが、中世もしくは近世頃の掘立柱建物が1箇所、樞列状柱穴群4箇所確認した。

集石は、熟を利用した調理遺構ということもあって焼けて色が赤化している。浅い皿状の窪みを有する例とそうでない例がある。その分布は、森の木遺跡の全域に分布するが、西半部に集中する傾向があり、なかでも南側傾斜面での分布が目立つ。配石は、大型の石を単体もしくは数個組み合わせたもので構成されており、集石と同様に西半部南側傾斜面に分布する傾向にある。陥穴は数が少なく、南側傾斜面にある1基のみである。堅穴建物は円形・楕円形を基調とし、直径が5 mから2.5 m前後のものも多く、中央部から西半分に多く分布する。煙道付炉穴と炉穴は、細長い窪みの穴で、堅穴建物の分布と同じである。

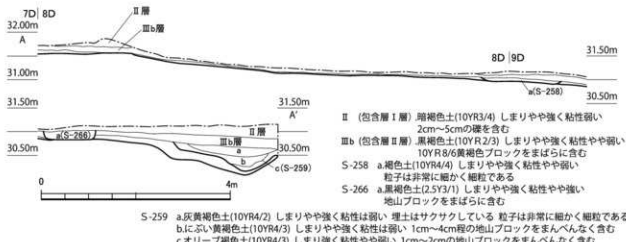
古墳時代の遺構は、浅い皿状の土坑があるだけで、他に遺構はない。掘立柱建物・樞列状柱穴群は、西部に分布するが、所属する時期が不明である。



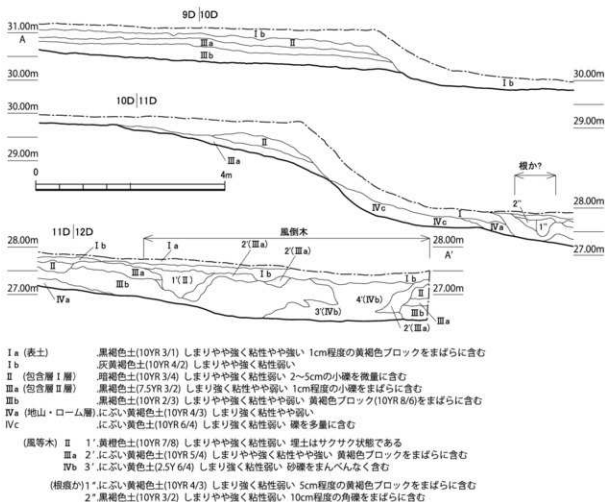
第3図 森の木遺跡 全体図 (1/400)



第4図 G列北面 東西土層断面図(1/80) 4列東面 南北土層断面図(1/80) 3列西側 南北土層断面図(1/80)



第5図 D列北面(8-9グリッド) 東西土層断面図(1/80)



第6図 D列北面(10-12グリッド) 東西土層断面図(1/80)

(4) 遺物

森の木遺跡では、縄文時代草創期・早期頃を中心とした膨大な遺物が出土した。それらを見ると、旧石器時代～古墳時代、鎌倉時代・室町時代・江戸時代に及ぶ資料を含んでいる。今回、すべての数量を提示することはできなかったが、遺跡の全貌がうかがえる程度には挿図として提示できた。

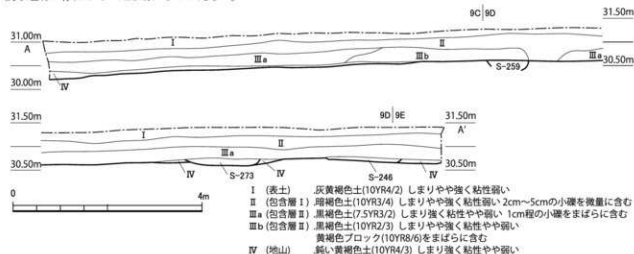
旧石器時代の資料については、ナイフ形石器が数点のほかは、多数の縦長切片が出土した。これに、石核が含まれている。これらは、大半が縄文時代草創期・早期の包含層・遺構内から出土している。また、縄文時代の遺構をIV層上面で精査した際に第IV層内から出土したものもある。それらの分布を暫見すると、第2次調査区の谷状斜面部で散発的に分布していたが、標高の高い部分にはほとんど見られなかった。そのため、斜面部のF4区IV層を若干掘り下げたところ、遺物が出土した。したがってIV層が本来の包含層といえる。しかし旧石器時代の石器石材の大半は泥岩系の岩石を用いるが、これは縄文時代草創期・早期の石器と同様で、同包含層では縦長切片やナイフ形石器など定型的な資料を除いてその区分は困難である。

縄文時代草創期は、大きく2時期に区分できる資料が出土している。一つは、腰岳・牟田系の黒曜岩を用いた楔形細石刃核である。この種の楔形細石刃核は、長崎県佐世保市の福井洞穴や泉福寺洞穴の調査で出土し、隆起線土器（豆粒文土器）や爪形文土器を伴うことが知られており、本遺跡の楔形細石刃核も同様な時期のものとして推定される。本遺跡では隆起線土器は出土していないが、関連する資料として腰岳・牟田系の黒曜岩を石材とした細石刃が数点出土している。もう一つの時期は、隆帯文土器の時期であり。この隆帯文土器は、幾つかの時期に細分できる可能性もあるが、概ね近年宮崎県地域で頻例の増加している隆帯文系の土器に相当する土器である。この種の土器としては、県内で始めて出土した土器であり、最北の隆帯文系土器ということになる。近年南九州での事例と同様に隆帯文土器の段階に堅穴建築物が検出されることを裏付けている。また、南九州では隆帯文や早期前半までの段階に、煙道付炉穴が検出されていることからすれば、本遺跡の煙道付炉穴も同様な時期に形成されたものもあると思われる。こうした遺構は、IV層上面で遺構検出作業中に見つかっている。

縄文時代早期は、森の木遺跡の中心的な時期で、最も多くの資料と遺構が出土している。土器の特徴から大雑把に、5段階程度に大別できる。古い段階が、無文土器群で、次に押型文土器前半の土器群（船筒山式土器・早水台式土器・下管生B式土器）、押型文土器後半の土器群（田村・高山寺式土器）、早期終末土器群（手向山式土器・平袴式土器・寒の神式土器）に区分できる。無文土器や押型文土器前半の土器群はIII層（III b）から出土し、早期終末土器群はIII a層を中心に出土する傾向がある。石器には、石鏃を中心に多量の切片石器と石斧、環状石斧、台石、磯器、蔽石・磨石がある。切片石器の石材は、この地域の河床で入手が可能と思われる泥岩・チャートを多用している。台石、磯器、蔽石・磨石などは、遺跡の南を流れる大越川の河床にある川原石と同様なものである。姫島産黒曜岩も出土しているが、III a層の平袴式土器の分布に近い部分では重さ3.9 kgの巨大な原石に近い石核が出土している。

縄文時代前期は、古く攪乱されたり、再堆積したりしたと思われるII層を中心として轟4式土器・轟5式土器が出土している。明確な遺構はなく、出土した石器もそれ以前の早期の石器とあまり区分できない。また遺構も出土していない。

この他、弥生時代以降の資料も若干出土している。C9区では弥生時代中期前半の下城式甕形土器、D9区からは弥生時代中期末後期初頭の土器が舌状台地中央部付近のD9区の土坑から出土している。また古墳時代中期（5世紀）の土師器が浅い土坑内から出土している。歴史時代の資料も散発的に出土している。13～14世紀の土師質土器、14世紀代と15世紀代の陶磁器、そして江戸時代の陶磁器がある。これらは、いずれもごく少量で、包含層が表土掘削時に多量削られていたとしても大規模な遺跡が存在していた形跡はうかがえない。



第7図 9CD区東壁土層断面図(1/80)

第2節 旧石器時代

1 調査の状況

森の木遺跡が立地する舌状台地は良好な平田地を形成しており、更新世に遡る茶褐色粘質土層（ローム層）が堆積していた。また、縄文時代早期前半に遡る土器類が出土していたこともあり、当初から旧石器時代の文化層の存在が予測されていた。表土剥ぎに伴う大量の土砂を盛り上げていたが、これが雨に打たれると夥しい量の石器類が現れたが、この中にナイフ形石器、細石刃と考えてよい資料が含まれていた。また、縄文時代早期の包含層であるⅢa層・Ⅲb層の調査が進み、Ⅳ層上面を精査・清掃する中で同層内から縦長剥片などの資料が散発的に出土していた。こうした状況から、調査の進捗や旧石器と推定される資料の分布も考え、調査区内に3箇所の旧石器探査区画を設定し（4Fトレンチ、8DCトレンチ、9・10Eトレンチ）、掘削を行った（第9図）。

4Fトレンチでは自然礫を配置したかのような分布のなかに石器・剥片類が散在する状況で出土した（第11図）。出土層位は、Ⅳ層。出土状況を見ると、分布域の中に微細な砕片（チップ）の多いのが最大の特徴である。石器・剥片類も比較的大きい例の多いことが特徴である。石器以外の礫は、大型の石から小型の石まであり、部分的に集められているかのような状況がうかがえる。

8DCのトレンチでは、めまじり旧石器時代資料は出土しなかったが、ここではⅣ層以下の地層も掘り下げている。そこでこの層位関係を報告しておく（第8図）。Ⅳ層は、これまで旧石器が出土した黄褐色の粘質土層（ローム）で、その下のⅤ層は黄褐色のパミス層（AT）である。Ⅵ層は、薄く部分的に堆積した層である。この堆積関係から、大野川流域や五ヶ瀬川流域で観察される黒色帯やその下のローム層が、薄いⅥ層を除いて無いことを示していた。Ⅶ層～Ⅹ層は砂礫層・礫層であり、あるいは段丘礫層に關係する層かもしれない。

なお、調査区の西端、OE区のⅣ層から石が出土している（第10図）。付近には礫はなく、持ち込まれたと考えられる平らな石で、長さ3cm、幅約20cm、厚さ7cmの大きさを有する。

2 遺物

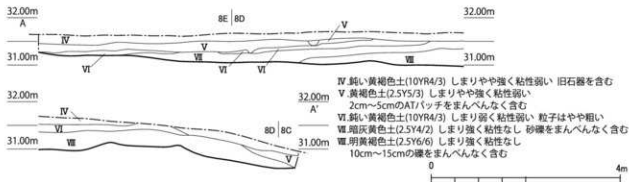
4Fトレンチで出土した資料のうち取り上げたのは49点であった。そのうち8点を報告している（第12図8・13、第15図23～26・34）。次に、4Fトレンチで出土した遺物を含め、調査区のⅣ層で出土した石器類について観察するが、定型的な石器は出土していない。

スクレイパー 幅広い扇形の剥片で、端部と打面部から鋭く左側縁の交点が尖る特徴を有する。加工痕は、打面部から遠い近位端部に裏面側からの打撃で作出している（第12図3）。スクレイパーとしては大型の例である。

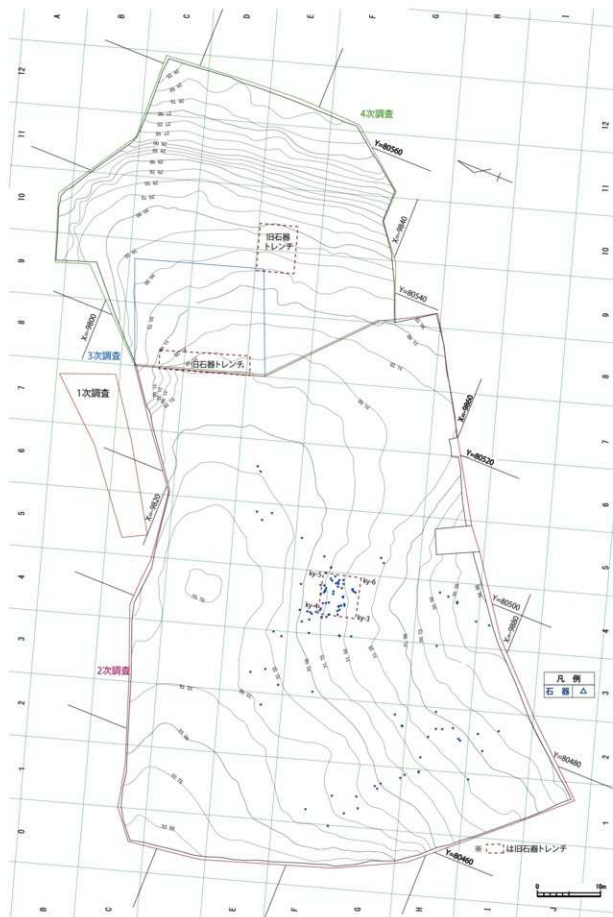
使用痕を有する剥片 表面の片側縁に微細な剝離のある例（第12図1・7、第14図20）、裏面の片側縁に微細な剝離のある例（第12図2、第15図27）、表裏両面の片側に微細な剝離痕のある例（第12図4）がある。

加工痕ある剥片 角縁の節理面で割りとられた素材の直線的な幅広い端部を鋸歯状に加工した例である（第12図5）。他に例はなく、単なるイレギュラーの可能性もある。棒状の細長い礫の端部をほんの僅かに加工した例がある（第12図6）。

剥片 加工痕、使用痕のない例を剥片に分類した。礫面を残した初期工程の例（第14図16・19、第15図25・26）、対向



第8図 8CDトレンチ西面 南北土層断面図(1/80)

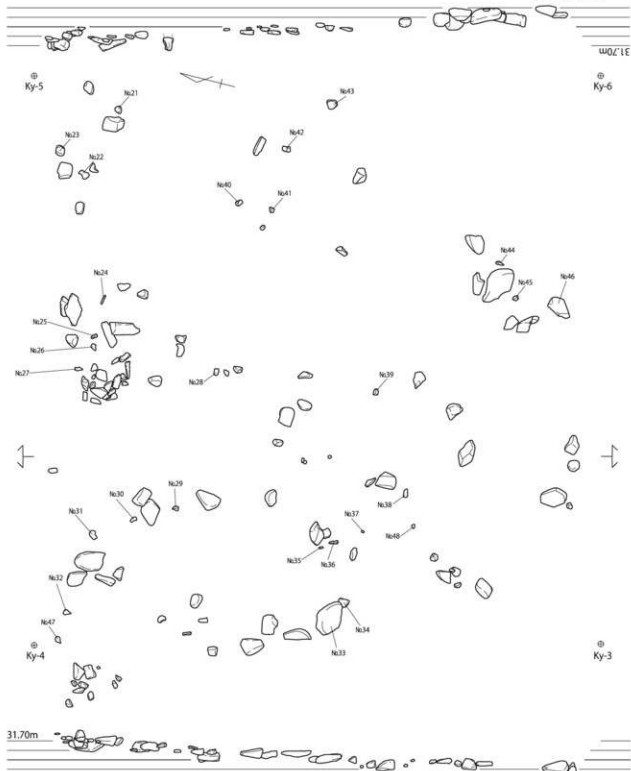


第9図 IV層遺物分布図 (1/600)

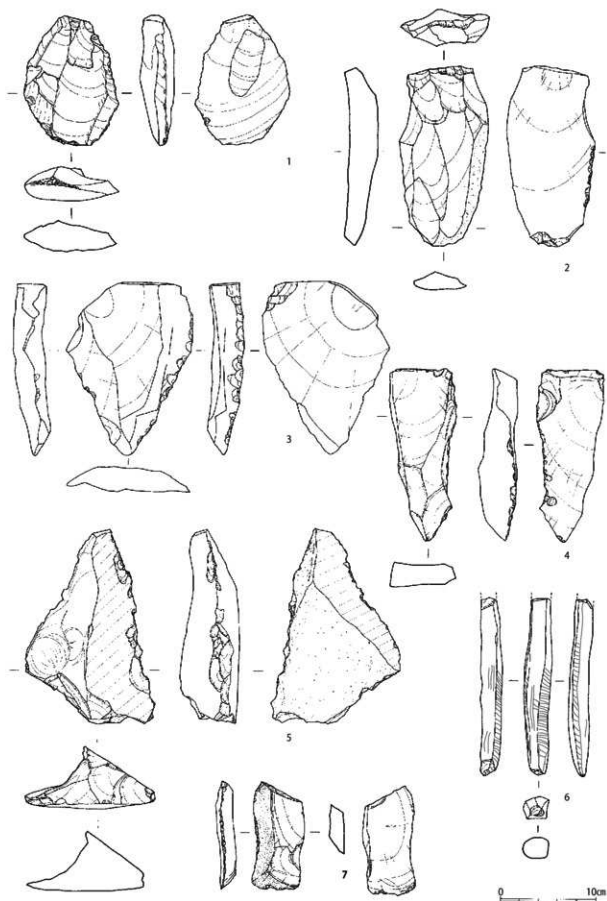
する方向からの剥離の例（第14図17）、求心的な方向のもとに剥離された例（第14図18・21・22、第15図23・24）がある。

縦長割片 いずれも単設の打面から割りとった細長い割片である（第13図12・13・14）。このうち後二者は、厚めの割片で、その角度から角柱形の石核から剥離されている。このうち端部や側辺部に稜面が残存しているものもあり（13・14）、角礫の角部を利用してわりとった

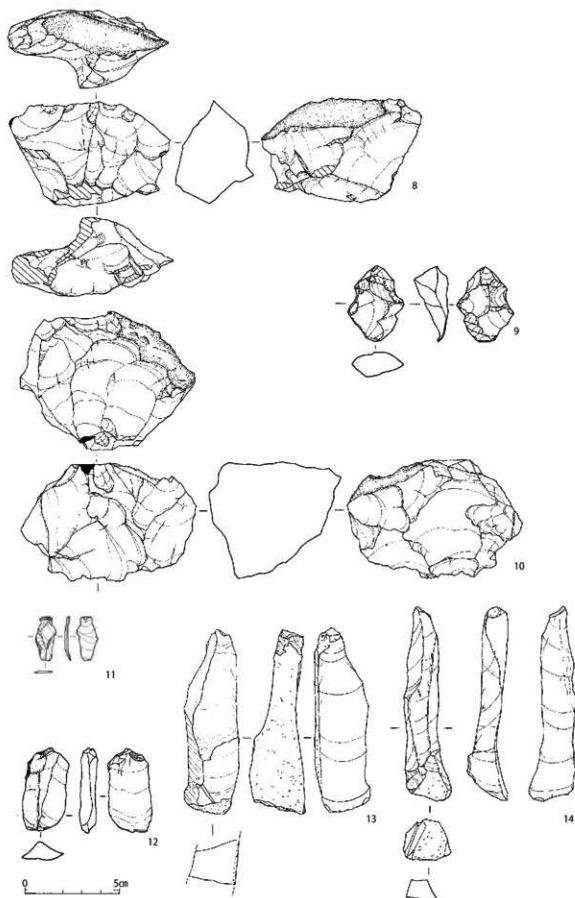
第10図 OE区IV層遺物出土状況(1/40)



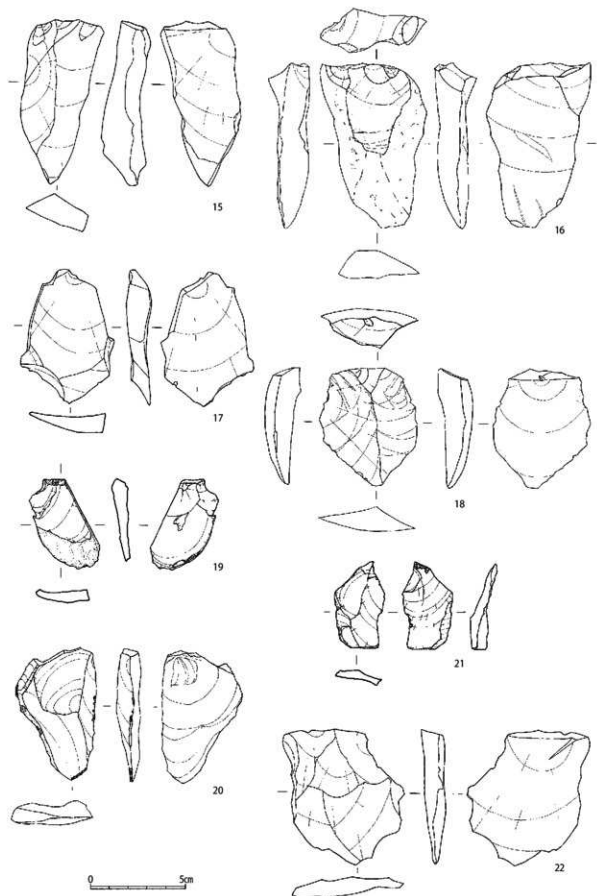
第11図 IV層(旧石器時代)遺物出土状況(1/40)



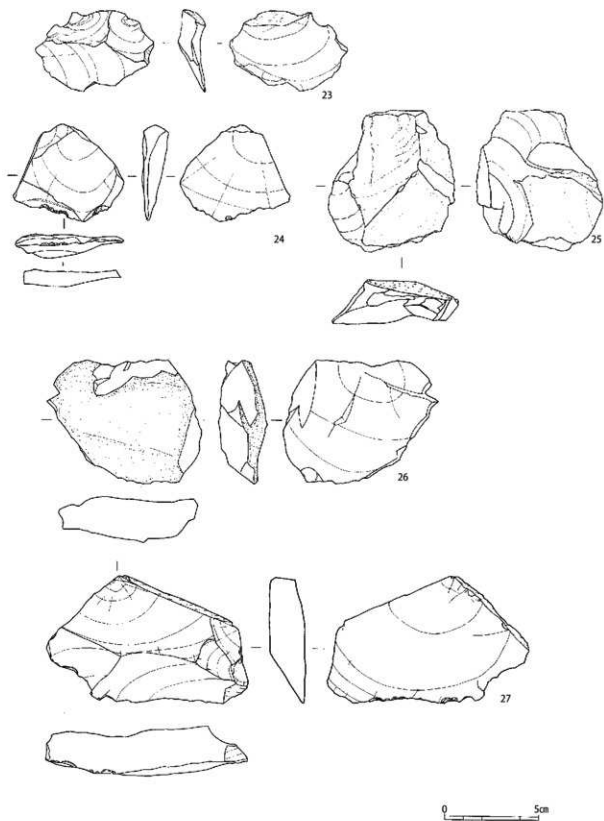
第12図 IV層出土遺物実測図(1) ※6は縄文時代早期の加工具



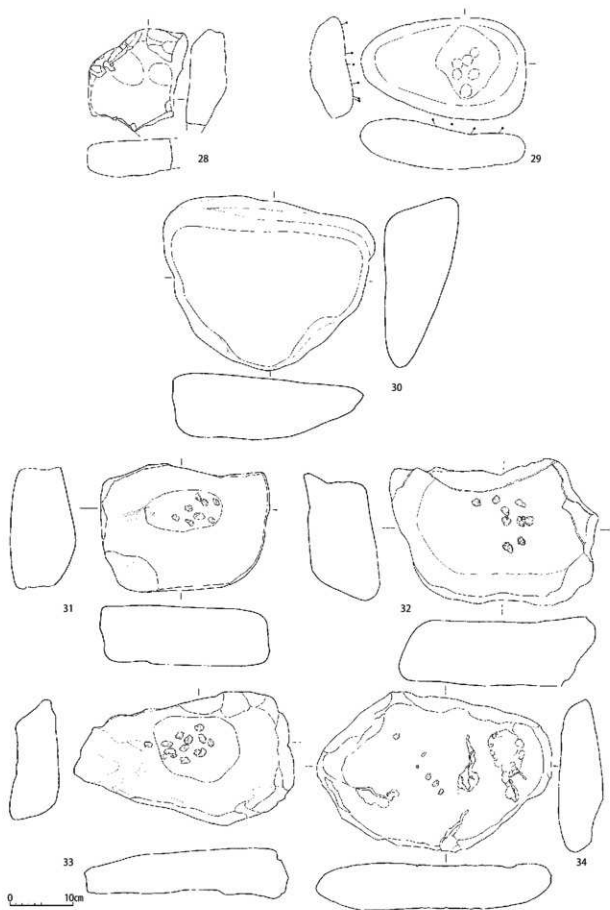
第13図 IV層出土遺物実測図(2)



第14図 IV層出土遺物実測図(3)



第15図 IV層出土遺物実測図(4)

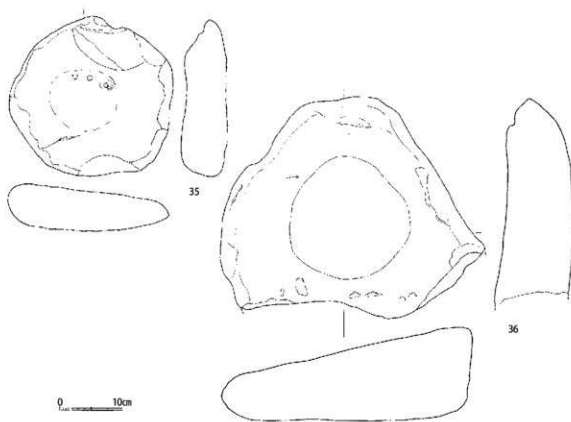


第16図 IV層出土遺物実測図(5)

ことがうかがえる。なお、使用痕のある剥片として挙げた例には(第12図1・2)、裏面のボジ面と同様な剝離方向を有する剝離痕が表面側(ネガ面)にも観察される。これは打面再生を繰り返していたとしても、単設の打面であったことを示している。

台石 丸みを帯びた側縁部に打痕がなく、表裏に幅広の面をもち、何げかの打痕や傷跡が残る資料を台石とした。しかし、なかには判断に躊躇するものもあり、出土時に単体もしくはそれに近い状況の例を台石としている(配石も含めている)。形態は、楕円形の例(第16図29)、多角形の例(第16図28・30・34、第17図36)、方形の例(第16図31)、円形の例(第17図35)がある。図示したとおり側縁部を削っている例もあるが、それが形の調整であったのかははっきりしない。後述するが、台石と推定される縄文時代早期の配石のなかには、径50cm前後の大きさの巨大で平坦面がある石の縁部に礫器状の加工痕・成形痕があり、IV層の台石に観察される割痕にもその可能性があろう。台石の使用痕跡についてであるが、刺突状の窪みがまばらに分布する例や(第16図31・32・33・34、第17図35)、やや摩滅していると思われる例(第16図28・29・30、第17図36)がある。

これまで記述してきたようにIV層出土の石器類には、ナイフ形石器や細石刀といった標識的な遺物がなく、その位置づけを困難にしている。しかし提示した資料にみられる縦長剥片の存在と出土層位がIII層を除去した後のIV層上部域であることが参考になる。また、IV層をぬいた下層にAT層が見られることは、少なくともAT上位石器群のいずれかということになる。この点については後述したい。



第17図 IV層出土遺物実測図(6)

第3節 縄文時代

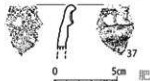
1 草創期の遺構と遺物

(1) 竪穴建物

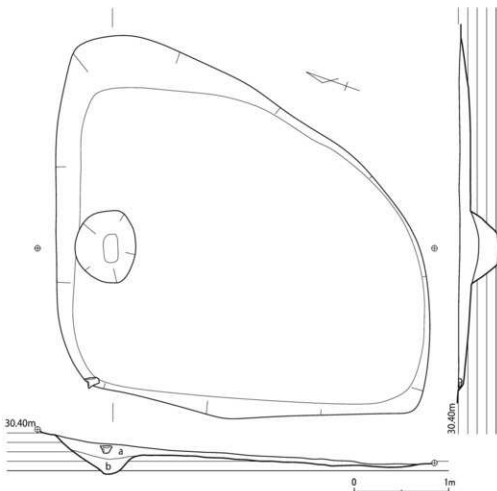
S190 調査区西部で第2次調査区の範囲にあり、区画では4H区に位置する(第3図・第477図)。この辺りは、弧状に湾曲した谷地形の底部になる。周囲には若干の集石や小土坑があるものの関連性はわからない。この遺構の平面形は、北側と西側が直線的で、南側から東側にかけては外側へ湾曲するという不定形な特徴を有した竪穴建物、もしくは土坑である。

内部から外部への立ち上がりである壁面は、ゆるやかな傾斜で、床面は比較的に平坦である。なお立ち上がりは、谷底側の南側で浅くなっている。また土坑内部施設として、北壁の中央付近に接して小さな土坑があり、その規模は、上面の長軸幅が75cm、短軸幅が62cm、床面からの深さが22cmである。土坑の平面形は、長い楕円形を呈しており、北壁の中央部付近に沿うように位置する。この土坑の断面形は、緩やかな逆台形をしている。土坑の覆土は、二枚あり、下層に炭化物粒を微量含む。

土器 出土遺物は、土器が1点出土しただけである(第18図37)。やや外傾する陸帯文系土器の口縁部破片で、頂部から外面側1.7cm幅を肥厚させている。この肥厚部に、左から右へ指圧痕を0.3cm程度重ねている。外面側の指圧痕は、拓影上の計測で0.9cmである。厚部をつまむ様につけているので、内面の上部が緩やかに凹んでおり、部分的に浅い円形の指圧痕跡が観察される。指圧痕以外の部分は、内外ともナデ調整。



第18図 S190出土遺物実測図

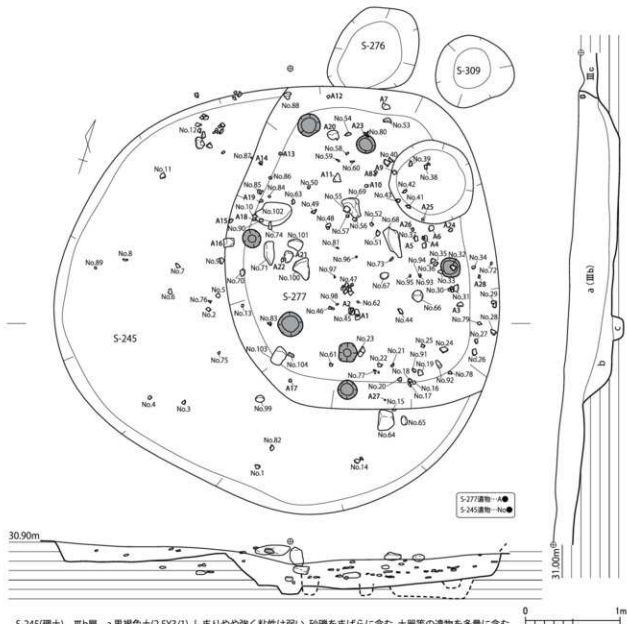


a.黒褐色土(10YR2/2) しまりはやや強く粘性やや弱い 粒子は粗くボソボソしている 遺物を含む
 b.褐色土(10YR4/4) しまりは強く粘性なし 砂礫をまんべんなく含む 3mm程度の炭化物を微量に含む

第19図 S190実測図(1/40)

S245 調査区の西部域で第3次調査区の範囲内にあり、区画では8・9C区に位置する(第3図)。この辺りは、舌状台地の北側の縁に沿って、西から東へ延びる舌状台地下り勾配のある場所である。直径460cmのS277を切る形で構築されている。平面形は、胴張りの方形で南北340cm、東西290cm、深さ30cmの規模を有する(第20図)。遺構の壁は外傾するように皿状に立ち上がる。柱穴は、遺構内の壁沿いに7基配されるものの、やや不規則である。遺構内には、配石状の石が配される。

土器 S245から出土した土器は10種類ある。列記すると、A: 縁線を口縁部外面に二条貼り付け、その谷間と口唇部に連続する刺突文をほどこす例(第21図41)、B: 口縁部の外面を肥厚させた面にX字条の短丸線を施すもの(39・40)、C: 口縁部の外面に隆帯を貼り付けるか肥厚させた表面に円形もしくは三角形の刺突を二段にわたって施した例(43・44・46)、D: 口縁部の外面に隆帯を貼り付け、表面に下向きへの字爪形文を複数段にわたって施す例(48)、E: 口縁部の外面の最上部に隆帯を貼り付けた例(47・50)、F: 口縁部の外面の最上部に隆帯を貼り付けるか、肥厚させ、表面に刻目を付けた例(45) G: 口縁部の外面に垂下する短丸線を斜行ぎみに施すもの(第21図42)、H: 口縁部外面の上部から下がった部分に突出した隆



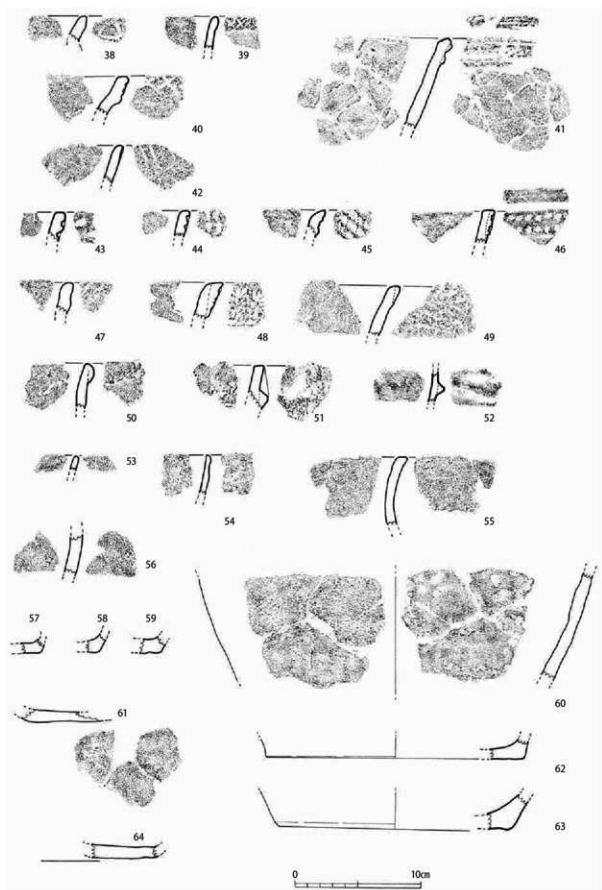
S-245(埋土) Ⅲb層 a.黒褐色土(2.5Y3/1) しまりやや強く粘性は弱い 砂礫をまばらに含む 土器等の遺物を多量に含む

S-277(埋土) b.灰黄褐色土(10YR4/2) しまり強く粘性やや弱い 砂礫をまばらに含む

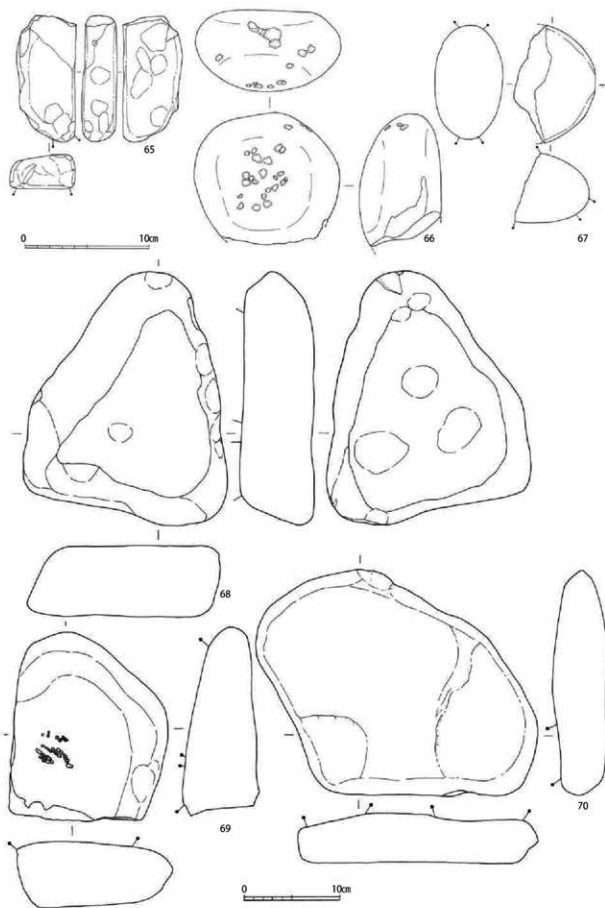
Pit c.黒褐色土(10YR3/2) しまりやや強く粘性は弱い

包含層Ⅲc (Ⅲc層) 黒褐色土(10YR3/2) しまりやや強く粘性はやや弱い Ⅲb層よりやや明るい。

第20図 S245・S277・(S276・S309土坑)実測図(1/40)



第21図 S245出土遺物実測図(1) ※49は押型文土器



第22図 S245出土遺物実測図(2)

帯を貼り付けただけの例(51・52)、I: やや肥厚させた口縁部外面上部に \cap の字形の短沈線(もしくは凹線)を施し、その下部を水平の短沈線でつないだ例(38)、J: 隆帯などの文線のない無文土器で、外傾もしくは直口する例と(53・58)、外反する例(55)、などがある。最後のJには、隆帯土器の無文部破片が含まれている可能性もある。このほか、土器の胴部破片(56・60)、底部破片(57～59・62～64)がある。胴部破片のうち大型破片の上部胴径が31cm、破片の上下幅が約9cmある(60)。胴部破片は、上下端部が擬口縁であることと、中央部の破損接合面を勘案すると、上下5cm前後の粘土帯を接合したものであろう。底部破片は、いずれも立ち上がり部分と底部の境界が明確な例であり、底部直径は20.2cm(62)・18.0cm(63)である。

石器 石鏃等の良好な剥片石器は出土していない。器種としては、磨石(第22図65・67)、敲石(66)と台石(68・70)がある。磨石は、立方体の角礫を利用した例と(65)、半割された円礫を用いた例がある(67)。前者は(65)、下側の端面と裏面に、後者(67)は表裏の曲面に磨滅痕が観察される。敲石は、円礫を三分の程度割った例で、表面と曲面部に径0.3cm～0.6cm前後の打痕が観察される(66)。台石は、最大長軸25.5cm・最大幅21.5cm・厚さ7.5cmの大きさを有し、平面形が二等辺三角形をした例(68)と、最大長軸32.2cm・最大幅22.5cm・厚さ6.7cmの大きさを有し、平面形が扇形をした例(70)であり、前者は表裏の両面に磨滅痕と推定される部分があり、後者は表面側の二箇所に磨滅痕がある。

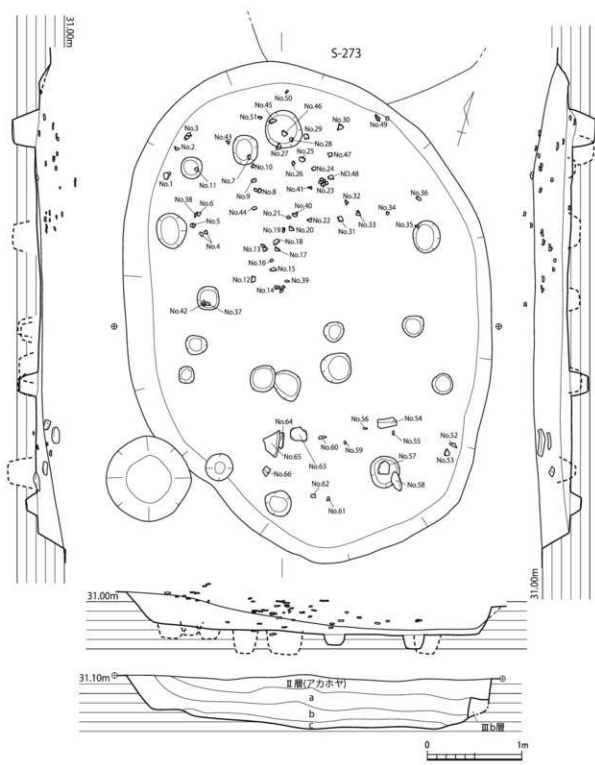
S246 調査区東部で第3次調査区と第4次調査区にまたがる部分にあり、区画では9DE区に位置する。この辺りは、西から東に伸びる舌状台地の東端部に位置し、東方の低地を斜め下方に臨む場所に位置する。この遺構の平面形は、南北に532cm、東西390cmの楕円形である(第23図)。内部から外部への立ち上がりである壁面は、東壁部分の一部で垂直に近い部分もあるが、概してゆるやかな傾斜で、 30° ～ 70° の勾配がある。壁高は、30cm前後である。床面は比較的平坦である。なお立ち上がりは、谷底部側の南側で浅くなっている。またS246の土坑内部施設として柱穴が17基あり、うち14基の柱穴が長軸の北端から三分の二までの間にある。そしてその分布は、環状に分布している。残りの柱穴3基は、南側の壁際付近に沿って配置されている。柱穴の深さは、15～25cmと浅い。

堆積層 S246の最上部にはII層のアカホヤが堆積し、その下にa・bとしたIII層が堆積している。C層には、まばらに下位IV層のロームのブロックが観察されるので、貼り床と考えられる。

なお、後述するS246内の台石の分布に触れておきたい。台石は、今回3点を提示したが(第25図88: Na.57, 89: Na.64, 90: Na.54)、この他にも3点の大きな石がある(Na.58・Na.63・Na.68)。これらは、いずれもS246内の南側柱穴群と、その南側にある3基の柱穴とに挟まれた空間付近に集中している(第23図)。堅果類・肉等の等、何かをすりつぶすなどの作業台が台石とすれば、それらがS246内の南側に分布することは作業内容を反映しているものとして考えられるので、ここで事実を記しておく。

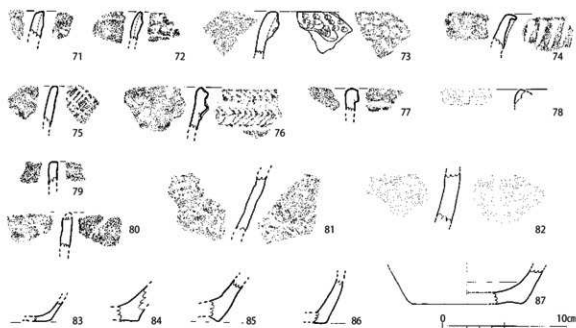
土器 S246から出土した土器は7種類ある。列記すると、A: 口縁部外面上部を緩やかな山形状の隆帯を貼り付け(もしくは肥厚)、数段にわたって横・縦刺突した例(71・73)、B: 口縁部外面上部を緩やかな山形状の隆帯を貼り付け(もしくは肥厚)、その上をヘラで \cap の字状の短い沈線(もしくは刺突)を二段施し、その下に横方向の沈線を一条施した例(72)、C: 口縁部外面上部を上から下へへラで斜行沈線を施した例(74)、D: 口縁部の外面に斜格子状に短沈線を施した例(75)、E: 口縁部の外面上部に並行する隆帯を二条貼り付け、表面に線杉状(矢羽根状)の文線を施した例(76)、F: 口縁部の外面の最上部に隆帯を貼り付けた例(77)、G: 口縁部の外面に隆帯のない無文土器の例、もしくはない部位の例(78・79・80)、などがある。この他、H: 無文の胴部破片(81・82)、平底の底部破片がある(83～87)。底部破片のうち一例は底部径が9cmに復元できる。これまで述べてきた土器の基本的な調整は、隆帯を貼り付けた後に(隆帯を貼り付けない場合を含める)、ナデ調整を行い、その後へら等で施文を施している。

石器 S246からは、石鏃等の良好な剥片石器は出土していない。器種としては、台石だけである。現状で、最大長幅17.7cm×17.0cmと(第25図88)、最大長幅16.2cm×17.0cm(89)、最大長幅17.2cm×13.4cm(90)の大きさがあるが、いずれも打割によって平面形が多角形をしているが、これらの打割痕の中には打点やリングが明瞭な刻痕のある例もあり(89)、あるいは成形を意図したのかもしれない。使用痕跡は、礫の表面に観察される磨滅である。断面の厚さは、厚い例と(89・90)、やや薄い例がある(88)が、それらは現状で2.1kg(89)・3.1kg(90)・2.0kg(88)もあり、もともとは更に重く大きい台石であったことを勘案すると打割にたいへんな力を要したと推定される。

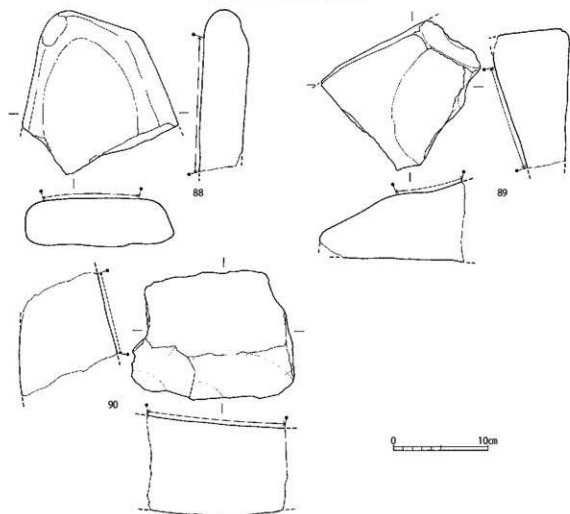


- a.黒褐色土(10YR3/2) しまりやや弱く粘性弱い 粒子は非常に細かく細粒である アカホヤをまばらに含む
 b.灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや強く粘性はやや弱い 地山ブロックをまばらに含む
 c.暗褐色土(10YR3/3) しまり強く粘性はやや強い 地山ブロックをまばらに含む 砂礫を微量に含む

第23図 S246実測図(1/40)



第24図 S246出土遺物実測図



第25図 S246出土遺物実測図

S273 調査区東部で第3次調査区と第4次調査区にまたがる部分にあり、区画では9D区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の東端部に位置し、東方の低地を斜め下方に臨む場所に位置する。S273は、南側に接するS246に遺構を切られる関係にある(S273が古く、S246が新しい)。この遺構の平面形は、東側の遺構ラインが不明瞭であることと、南側の遺構ラインがS273に切られることで不明瞭であるが、およそ南北が235cm前後、東西270cm前後の規模を有する楕円形の遺構と推定する(第26図)。

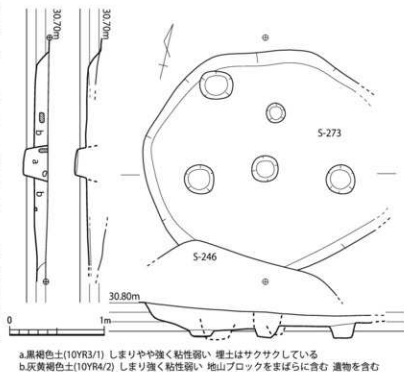
内部から外部への立ち上がりである壁面は、概してゆるやかな傾斜で、40°前後の勾配がある皿状の断面形である。壁高は、15cm~20cm前後である。床面は比較的平坦である。またS273の竪穴建物の内部構造として柱穴が5基あり、うち3基が遺構の東西ラインに並ぶが、中央の1基は覆土上位からの掘り込みであり、S273とは無関係である。したがって、遺構中央部の東西ライン状の2基が主柱穴と推定する。他の柱穴2基は、遺構内の北側に偏った位置に不規則な分布となっている。柱穴の深さは、15~25cmと浅い。柱穴の直径は、大きいもので30cm前後、小さいもので20cmである。柱穴の深さは、15cm~20cm前後である。

堆積層 S273の遺構内堆積層は、灰黄褐色土一枚だけであった。

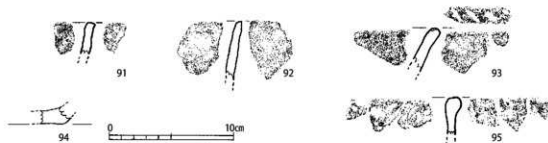
土器 S246から出土した土器は3種類ある。列記すると、A：口縁部上部の外面側に玉状に隆帯を貼り付け、隆帯の裾部から胴部方向へ刺突を施した例(95)、B：口唇部に斜行する刺突状の刻目を施した例(93)、G：口縁部の外面に隆帯のない無文土器の例(91・92)がある。なお底部が1点あり、平底である(96)。

S277 調査区の西部域で第3次調査区の範囲にあり、区画では8・9C区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東へ延びる舌状台地の北側の縁沿いで、下り勾配のある場所に位置する。南北340cm×東西290cmのS245に上部が切られていることが、断面図から判る(第20図)。平面形は、直径460cmの円形である(第20図)。遺構の壁は外傾するように皿状に立ち上がる。柱穴は、遺構内の壁沿いに7基掘られるもの、やや不規則である。

土器 S277から出土した土器は5種類ある。列記すると、A：口縁部外面側上部に幅広い隆帯を貼り付け、棒状工具で円形の刺突を上下二段に施した例(第28図102)、B：剣菱状に口縁部を肥厚させ、外面上部に並行する幅広い隆帯を二条貼り



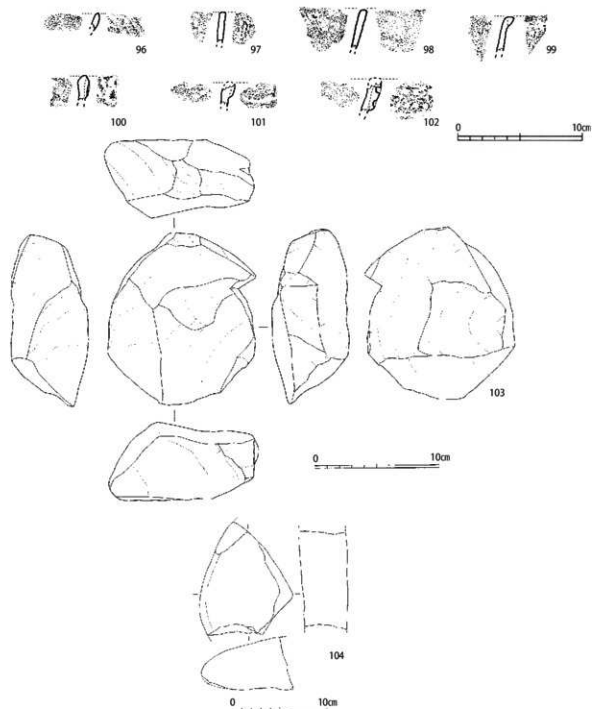
第26図 S273実測図(1/40)



第27図 S273出土遺物実測図

付け、棒状工具で隆帯を太く刻んだ例 (100)、C：口縁部外面上部に扁平な隆帯を貼り付けただけの例 (101)、D：口縁部の外面上部に外方へ突出する細い隆帯を貼り付けた例 (99)、F：口縁部外面上部に斜め下位に斜行する凹線を施した例 (96)、E：文様や隆帯をほどこさない無文土器 (97・98) などがある。土器に見られる調整は、基本的にナデ調整であり、隆帯・隆線の貼り付けについても同様である。

石器 S277からは、石鏃等の良好な剥片石器は出土していない。器種としては、石核と台石だけである (第28図 103・104)。石核は、現状で幅13.7cm×16.9cm・厚さ6.2cmの大型石核である (103)。形態は、やや扁平な円盤形石核にみえるが、表裏と周辺に大きな幅広剥片を割り取った面がある。台石は、円形の大きなものであったと考えられるが、破碎されている (104)。法量は残存部の最大長10.7cm・最大幅9.6cm・厚さ5.6cmである。



第28図 S277出土遺物実測図

S358 調査区東部で第IV次調査区にあり、区画では9C・10C区にまたがる部分に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の東端部に位置し、東方の低地を斜め下方に臨む場所に位置する。この遺構の平面形は、南北(長軸)377cm、東西(短軸)298cmの楕円形である。遺構の内部から外部への立ち上がりである壁面は、東壁や西壁で急角度に近い部分もあるが、北壁や南壁の曲率半径が大きくゆるやかな傾斜を配している。壁高は、30cm前後である。床面は比較的に平坦である。また内部施設として柱穴は確認されていない。

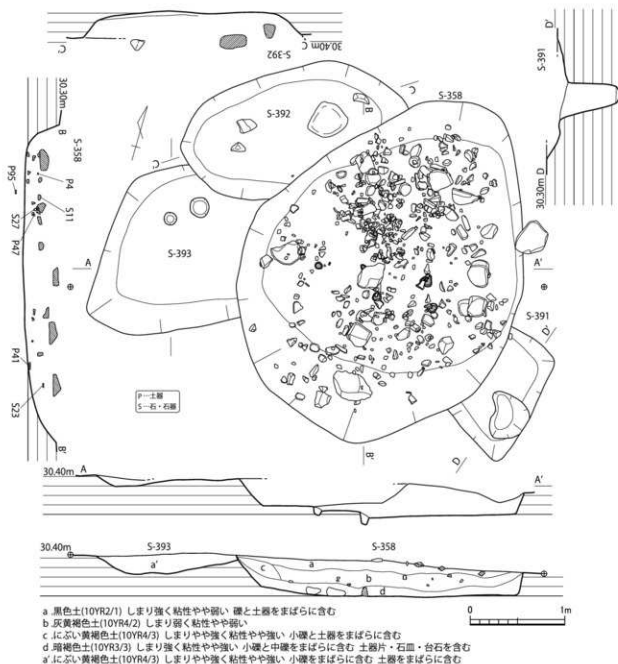
出土状況 遺構内部における遺物は全城で数多く出土している(第30図)。とりわけ遺構内の北半部に小竈が密集する場所がある。この小竈が密集する部分が集石遺構であるとすると、遺構が築絶した後に集石として使われたことを物語っているのかもしれない。また遺構内部において約30cm～100cmの間を開けて巨大な礎が分布している。例えば長幅で数値をしめすとa:45cm×30cm、b:22cm×22cm(S1)、c:36cm×24cm(S41)、D:22cm×18cm(S4 No.4/第33図138)、e:30cm×23cm(S40)、f:37cm×30cm(S35/No.35/第33図141)、g:32cm×15cm(S8)、h:25cm×21cm、i:32cm×22cmである。このなかでdとfのように台石として取り上げたものもある。これら以外の物は顕著な使用痕が認められなかったのを取り上げているが、使用痕跡がほとんど残らないうちに使用が終了した台石であった可能性はあるし、そうであれば屋内作業施設としての重要性は高い。

土器 S358から出土した土器は7種類ある。列記すると以下のとおりである。A:口縁部外面上部に断面三角形の細い隆線を二条貼り付け、さらに部分的に刻目を入れた例で、調整はナデである(第31図106)。B:口縁部外面最上部から僅かに下がった部分に断面が半月形の密接させた二条の細い隆線と部分的に垂下する一条の短い隆線を貼り付け、斜めの刻目を入れた例である(108)。また本例は口唇部が平坦であることと、並行する隆線の接着状況から上位の隆線を貼り付けたのちに下位の隆線を貼り付けている。C:口縁部の最上部を欠くが、おそらく若干下がった口縁部外面に低い無刻目の隆線を一条貼り付けた例で、調整はナデ調整である(116)。D:口縁部外面上部におそらく幅広の隆線を貼り付け、表面に円形の刺突を三段にわたって施した例である(図105)。また本例は、刺突の内部状況から土器の器面に対し向上きに刺突し、調整はナデである。E:口縁部の内面上部に右斜め下方へ斜行沈線をした楕円文で、混入であろう(109)。F:口縁部の破片で、幅広の隆線を貼り付けたが、肥厚させた口縁部の上部外面に垂下する斜行沈線をした例であるが、規則性はない(109)。G:口縁部の外面に隆線のない無文土器の例、もしくはない部位の例(110～114)、などがある。この中には口唇部の6cm下で水平に割れている部分があり、粘土帯の接合痕と推定される。これからすると、6cm幅の粘土帯が復元できる。その他、無文の胴部破片(115・117～123、第32図124～134)、平底の底部破片がある(135)。これまで述べてきた土器の基本的な調整は、ナデ調整を行っている。なお隆線文土器破片・無文部破片の上部破損部と下部破損部を観察すると、程度の差こそあれ水平部分が存在している(第31図115～第32図134)。それらの長さをみると、4.4cm・3.8cm・3.6cm・4.8cm・4.5cm・5.8cm・5.7cm・4.6cm・5.8cm・4.1cm・4.0cm・4.8cm・4.6cm・7.4cm・4.6cm・3.8cm・9.0cm・7.3cm・6.0cm・7.0cmとなる。数量的にみると3.5cm～5.0cmまでに55%が入り、その平均値は4.26cmである。次いで、5.6cm～6.0cmまでに20%が入り、その平均は5.8cmである。この結果から、粘土帯の縦幅について4.2cm前後、5.8cm前後が平均的な事例として想定できる。

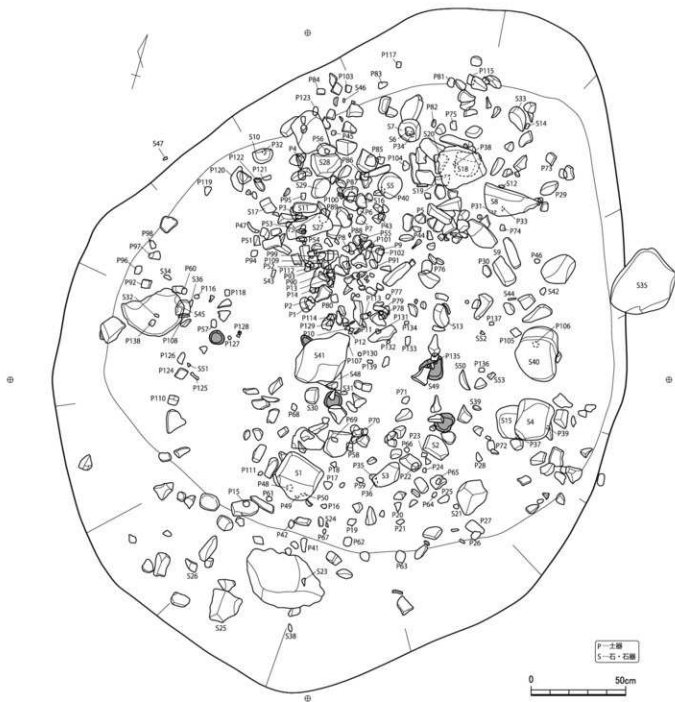
石器 剥片石器としては、エンド・スクレイパーがある(第33図136)。この石器の表面に観察される剥離痕の方向から多面体の石核から剥離された素材剥片を用いていると思われる。幅に対して長さが二倍強あり、遠位の端部側の幅が広い。この幅広い半月形の部分に裏面(ボジ面)からの打撃による細かい調整剥離で成形している。エンド・スクレイパーは、縄文時代草創期に特徴的な石器で、西日本で見られるようになる。

石核は小型で残核段階の例であり、裏面の稜面を打面として剥片剥離を行っている(第33図137)。剥離面は概ね幅広の剥片と折り取り面(明確な打点がない)で構成されている。

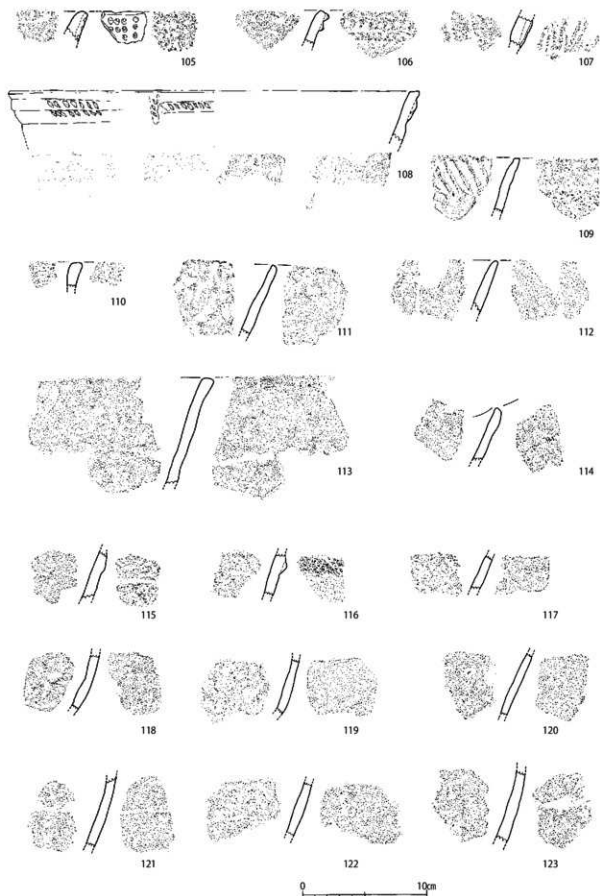
台石と認定した例が4点ある。このうち2例は、何らかの理由による打割で割られている(139・140)。使用の痕跡は、いずれもわずかな磨滅であり、平らな片側の面だけに観察される。最も大きな例で、34.3cm×28.6cm×9.0cmの大きさを有し(141)、小さなもので、20cm×推定18cm×4.7cmの大きさを有するもので(140)、重量感のある河原の岩石が選択されている。上述したように、重量感のある巨大な平たい岩石は本遺構から多数出土していたが、台石として認定しなかったものである。しかし、何らかの作業に伴って持ち込まれたことは確実に、その大きさ・重量・形態で共通する台石と同様な機能を有するものであった可能性は高い。



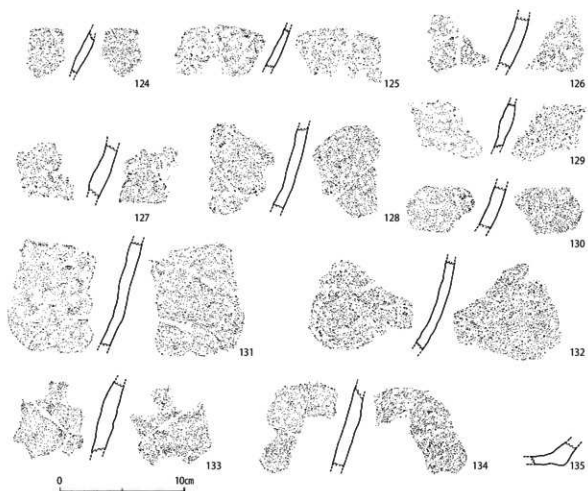
第29図 S358(S391・S392・S393土坑)実測図(1/40)



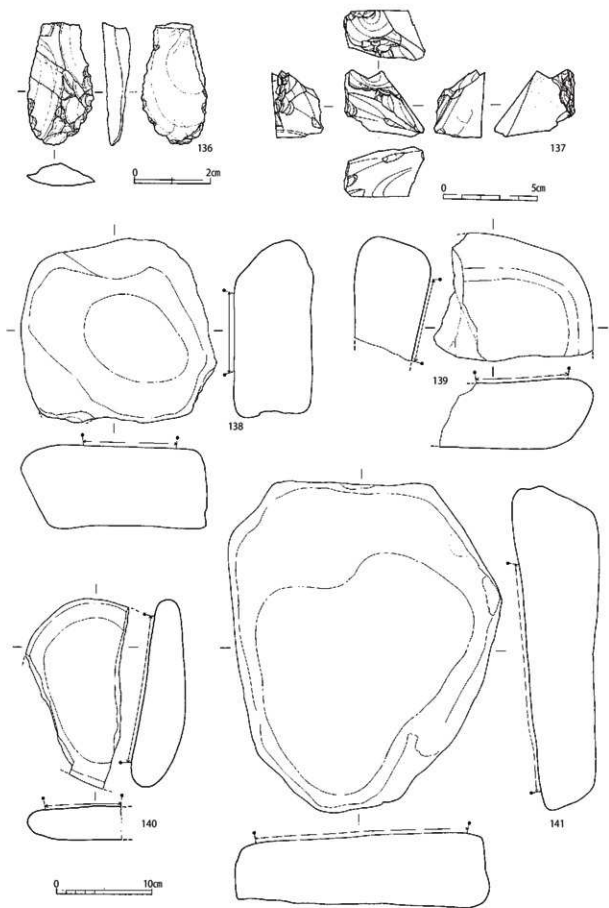
第30図 S358遺物出土状況実測図(1/20)



第31図 S358出土遺物実測図(1) ※109は橢円押型文土器



第32図 S358出土遺物実測図(2)



第33図 S358出土遺物実測図(3)

S383 S383は、調査区東部で第IV次調査区にあり、区画では9E区・9D区にまたがる部分に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の東端部に位置し、東方の低地を斜め下方に臨む場所に位置する。この遺構は、S384・S385・S553等の遺構によって北壁・南壁が切られている。そのため南北方向は明確ではないが、遺構ラインの曲り具合から推定して、南北方向が約600cm、東西方向が460cmの広がりをもつ楕円形に近い遺構と考えられ(第34図)、西壁に角張った部分のある不規則な平面形をしている。壁の立ち上がりは、遺構断面図や土層堆積図を検討すると一部に50°近い勾配のある壁もあるが、概して各壁の曲率半径は極めて大きく、ゆるやかな曲線上の勾配である。したがって通常の壁という状況にはない。遺構内の勾配は、南北方向はほぼ水平で、東西方向は西側から東へ高度が低くなっていく。西壁下と東壁下の比高差は、後者が約35cm程度低くなっている。

S383遺構内においては、25個の柱穴が存在している。これらは、床面精査の際に産み出されたものであるが、弥生時代の竪穴建物にみるような配置上の規則性はなく、特に小規模なものについては柱穴でない可能性もある。しかし、柱穴の全体的な分布傾向をみると、遺構の中央部分にNo. 121(S121)とした大きな礎周辺には小さな柱穴があり、その北側・南側に若干のスペースを空けて柱穴群が分布していることがうかがえる。柱穴の深さは、深いもので30cm～36cm、浅いもので10cm～20cmまでの例が多い(第34図)。竪穴建物の中央部を取り囲むように分布していることがうかがえる。

土器 S383から出土した土器は7種類ある。A：口縁部外面上部に幅広い隆帯を貼り付け、表面上に線状(矢羽状)の文様を上下二条施した例(第35図152・154)で、調整はナデである。B：口縁部外面最上部を隆帯を貼り付けるか壁厚させ、表面上に棒状工具で二段の刺突を施した例(142・143・144)。C：口縁部の上部外面に幅広い隆帯を貼り付け、表面にX字状の刻目を施した例(146)。本例は、口縁部内面に稜を形成する。調整はナデ。D：口縁部外面上部に上外方へ突出する隆帯を貼り付け、平らな器面にX字状の刻目を施した例(148)。調整はナデ。E：口縁部外面上部に幅広い隆帯を貼り付け、平らな器面に縦方向の短い沈線(149～151)。後二者は、同一個体。F：口縁部外面上部に幅広い隆帯を貼り付け、平らな器面に鋸歯状に短沈線を施した例(145)。調整はナデ。G：口唇部から口縁部最上部に斜め外方に突出する無刻目の隆帯を貼り付けた例(147)。H：口縁部上部に半月形の無刻目の隆帯を貼り付けた例(155)。I：口縁部の外面上部に隆帯のない無文土器の例、もしくはない部位の例がある(156～159)。その他、無文土器破片がある(160～第36図174)。土器の底部破片が出ており、いずれも平底である(175～180)。

石器 石鏃が1点出土している(第36図181)。形態は、3対2で幅より長軸の長い二等辺三角形である。長軸に対して直交する方向から押王刺離を表裏に加え、最後に基部方向から長軸方向に押王刺離を加えている。石鏃の未成品は2点出土している(182・183)。前者は、形態が二等辺三角形の形になりつつある段階の例で、裏面の右側面下半を中心に押王刺離が加えられている。先端部付近の表面左側縁側の肩部と右側縁のカーブが大きな突出部として残っている(182)。後者は、最大長2.7cm、最大幅2.2cmであり、そのうちの最大幅が下半城であるなど、有茎尖頭器の初期工程段階のような特徴を有している。その加工は、表面側の右側縁・裏面の左側縁、要するに表裏の関係にある部分へ集中的に押王刺離を加えている。基部は現状で突出したままで、あたかも有茎尖頭器の未成品段階のような逆三角形の特徴を示している。

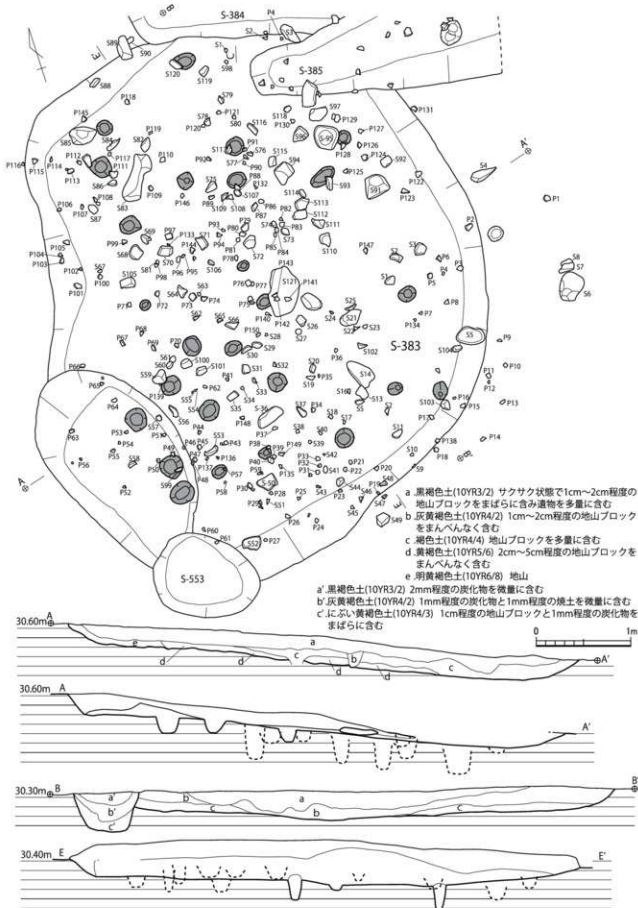
サム・エンド・スクレイパーが1点出土している(184)。これは、ボディーの部分が高く、大半が刃部のフロントに相当する。刃部は押王刺離で円形に近い形に仕上げられており、石鏃の基部調整技術とは大きな違いがある。このサムエンドスクレイパーは縄文時代草創期に特徴的な石器の一つである。

通常のスクレイパー、もしくは使用痕のある剥片に分類される例は、上下両端に細かな鋸歯の見られるもので、あるいは楔形石器に分類するべきものかもしれない(186)。横刃形石器のようなスクレイパーは、横方向に緩やかにカーブする刃部が表裏両面の調整によって作出されたものである(191)。

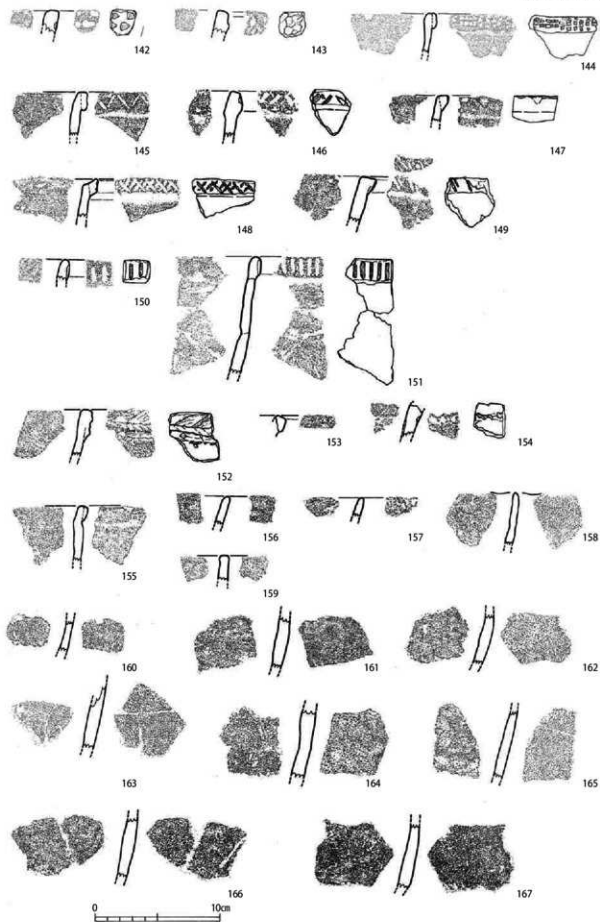
砥石が1点出土しており(192)、結晶片岩を用いた長方形で小型の例であり、表裏に使用による磨滅がある。

このほか剥片があり、寸詰まりの例や(185・187・188)、幅広い剥片がある(189・190)。このうち、1点は下端がやや尖り気味で裏面を調整しかけたような刺離の存在から(187)、180°回転させた石鏃の未成品とすべきかもしれない。砥石は1点出土しており(193)、長軸が7cmの小型の例で、一箇所から二箇所の使用による打痕跡がある。

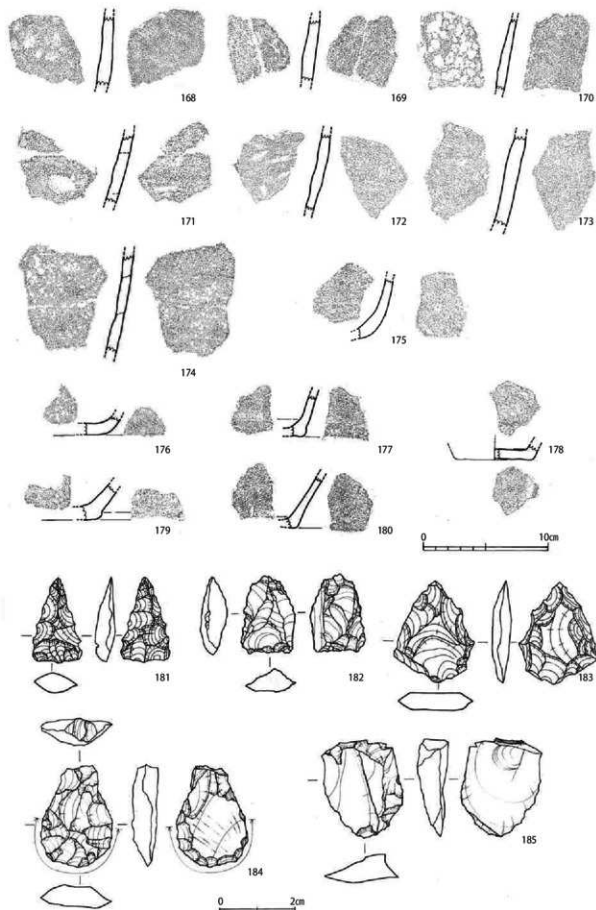
使用痕のある台石は5点ある。いずれも片面側に使用痕がある。使用痕は、磨滅や衝撃による傷などがあるが、前者はすべての資料に観察される。磨滅に加え傷痕のある例は1点だけで、円形・短い楕円形の傷が一つないし複数個連続して、間隔を



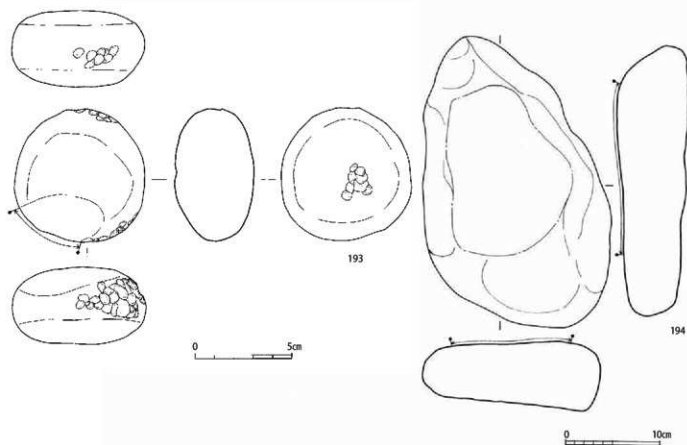
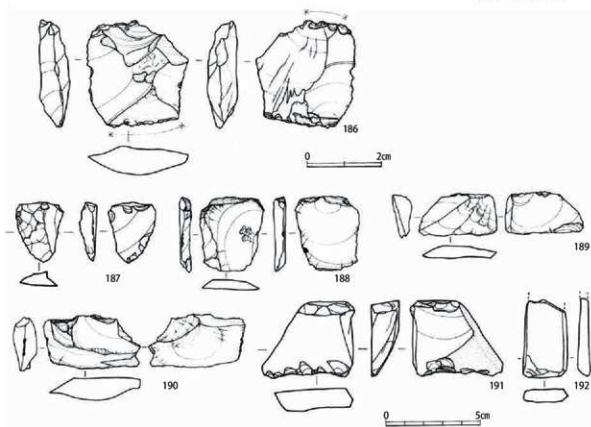
第34図 S383(S384・S385・S553土坑)実測図(1/40)



第35図 S383出土遺物実測図(1)



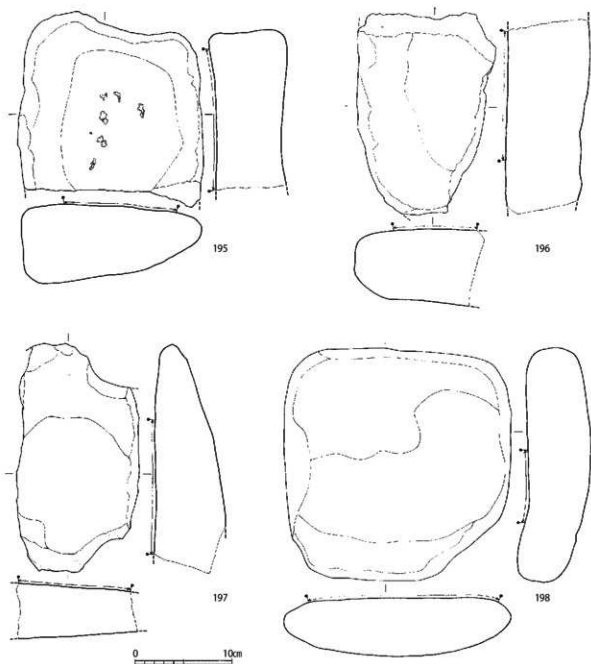
第36図 S383出土遺物実測図(2)



第37図 S383出土遺物実測図(3)

あけて六箇所程度観察される(195:No.94)。台石は、長楕円形に近い例(194:No.5)と、方形の平面形をした例(198:No.95)の完全品があり、前者は長軸30.2cm・短軸20.0cm・厚さ7.5cm・重量5.2kg、後者は長幅24.7cm×23.6cm・厚さ6.6cm・重量6.41kgの法量を有する中型の台石である。他の3点は打割によって割りとられた台石である(195:No.94・196:No.52/・197:No.84)。

このほか磨滅痕等が明瞭でなかったのでとりあげなかった大きな石が、ほかにも点々とするが(S383)、使用痕の有無を除けば台石と変わらない。

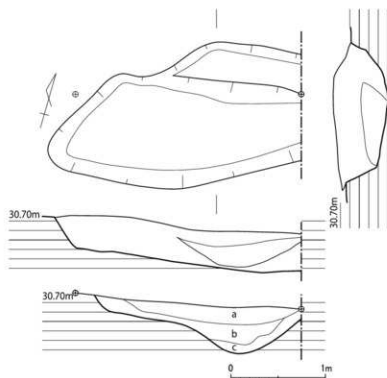


第38図 S383出土遺物実測図(4)

(2) 土坑

S259 調査区東部の第Ⅲ次調査区東端で、区画では90区北部にあたる部分に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の東端部に位置し、やや多配のある場所である。また、東方の低地を斜め下方に臨む場所に位置する。この遺構の平面形は、東西に長い270cm、南北に144cm幅を有する細長い不定形である(第39図)。しかし東端部を3次調査区の壁で断ち切られている。土坑の平面形を見ると、内部が二段となっている。土坑内の東半部は緩やかな曲線を描くように急に深くなっている。土坑内は深くなっているほかにも格別な特徴もなく、覆土に地山のブロック粒を含むにすぎない。

土器 遺物は土器が1点提示できるにすぎない。口縁部上部に幅広い縁帯を貼り付け、表面を棒状工具で円形の刺突を二段にわたって施した例である(第40図199)。



- a. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや強く粘性は弱い 埋土はサクサクしている
 粒子は非常に細かく細粒である
 b. 濃い黄褐色土(10YR4/3) しまりやや強く粘性は弱い 1cm~4cm程の地山ブロックを
 まんべんなく含む
 c. オリーブ褐色土(10YR4/3) しまり強く粘性やや弱い 1cm~2cmの地山ブロックを
 まんべんなく含む

第39図 S259実測図(1/40)



第40図 S259出土遺物実測図

2 草創期・早期の遺構と遺物

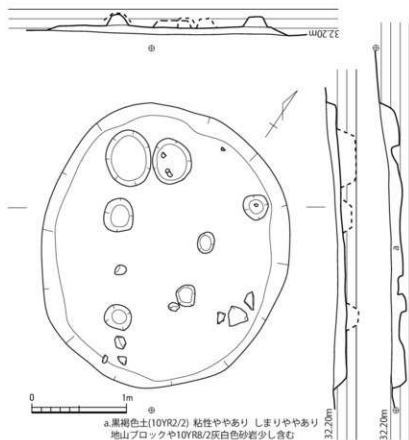
(1) 竪穴建物

ここでは縄文時代草創期か縄文時代早期の遺構であるのか、土器片が安定してでていないために時期の判断ができなかった遺構を報告するが、全体的な遺構分布の構成から所属時期を考えていきたい。いずれにしてもⅡ層（アカホヤ）・Ⅲa層・Ⅲ層の下にあるⅣ層上面に掘り込まれた遺構であり、草創期中頃もしくは早期初頭頃の遺構であることは疑いない。ただし、後述するように北部と南部竪穴建物群に属するものは縄文時代草創期と考えている。

S077 調査区西部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では3E区の南東部分に位置する（第3図・第477図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の最も標高の高い地勢に南接する部分で、丁度南側に展開する扇形をした谷頭にあたる。

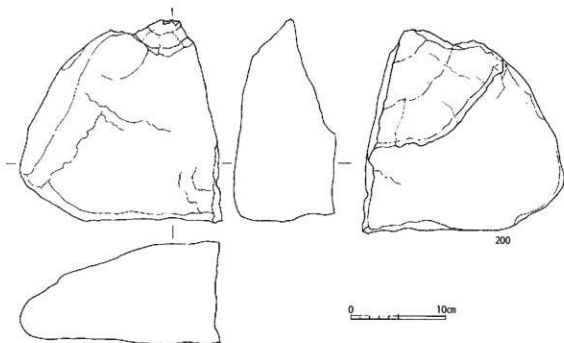
遺構は、南北方向が約300cm、東西方向が260cmの広がりをもつ比較的にきれいな形をした楕円形である（第41図）。壁の立ち上がりは、遺構断面図や土層堆積図を見てもわかるように西壁・東壁の立ち上がりに $20^{\circ}/25^{\circ}$ 近い緩やかな勾配のある壁もあるが、北壁・南壁の立ち上がりは $70^{\circ}/50^{\circ}$ 前後であり、明瞭な遺構ラインであった。遺構内には、緩やかな起伏がある他、はっきりした柱穴や土坑も観察された。西北部には直径が60cmと48cmの土坑が西北部に二個並んで位置するが、深さは20cm・10cmと浅い。その東方から南側にかけて5箇所の柱穴が検出された。それらの柱穴に整然とした並びはなく、柱穴の深さは様々で、深い例で10cmから20cm程度の深さであり、突出した深さの例はない。また、遺構内施設であるのか、東壁近くに台石が据えられていた。遺構内の地層堆積は区分できるような違いはなく、一枚だけであった。

遺物 台石は、上記したように遺構の東壁際に据えられていた（第41図）。台石は、縦・横の長さが21cmと21.4cmであり、厚さは11cmの大きさを有する（第42図200）。右端の分厚い部分で割りとりられた面がある。また表裏に大きく打ち割りを行った剥離面がある。表面にあきらかな使用痕はないが、これらの点は他の台石と変わることはない。

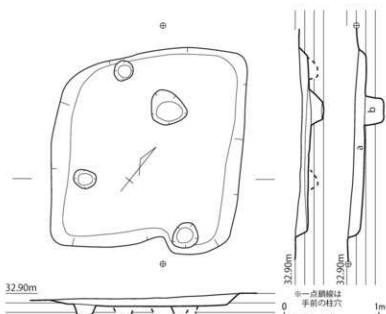


第41図 S077実測図(1/40)

S080 調査区西部で第II次調査区にあり、区画では3E区のおぼ中央部分に位置する(第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の最も標高の高い地勢に南接する部分で、丁度南側に展開する扇形をした谷の谷頭にあたる。S080の南東にS077が隣接する。遺構は、南北方向が約220cm、東西方向が200cmの広がりをもつが、やや歪むものきれいな方形である(第43図)。壁の立ち上がりは、遺構断面図や土層堆積図を見てもわかるように西壁が緩やかな勾配の壁であるが、北壁・南壁・東壁の立ち上がりは45°/65°前後の明瞭な遺構ラインであった。なお、明瞭な部分での壁の立ち上がりの高さは12cm前後である。遺構内は、柱穴が3基、土坑が1基検出した。柱穴は東壁を除く壁沿いにあるが、その配置に規則性はない。



第42図 S077出土遺物実測図



- a.黒褐色土(10YR2/2) しまりやや強く粘性は弱い 地山ブロックや砂礫をまばらに含む
 b.にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり強く粘性は弱い 地山ブロックや砂礫をまばらに含む

第43図 S080実測図(1/40)

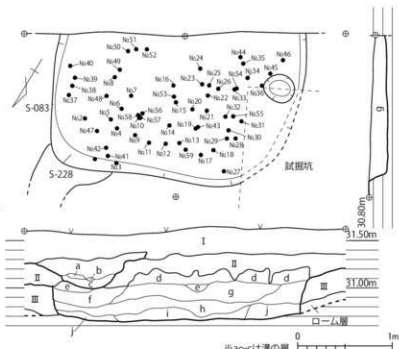
S083 調査区東部で第Ⅱ次調査区の南西隅部にあり、区画では8G・8H区に跨るように位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の東端で、南側にある部分で、東側の低地を見下ろす場所にあたる。

遺構は、調査区の南側の壁ラインに接しており(第44図)、おそらく半分強程度が調査範囲にかかっていると思われる。現状で、南北方向が約160cm、東西方向が260cmである。遺構ラインは、やや内側にカーブしているものの、明らかに一边を形成するように90°屈折しており、隅丸方形のプランを基本としたものであろう。また東壁・西壁の内側への緩やかなカーブは南壁方向に曲がりをはじめていることがわかるが、カーブの頂点を中間点とすると残りは一边の三分の一程度が残りの未掘部分である。そうすると南北が240cm、東西が260cmの隅丸方形の遺構と推定される。

遺構検出は、第Ⅳ層面であったが、遺構の南側壁面方向に延びていることもあって断面を精査したところ、遺構はⅡ層(アカホヤ)直下からⅢ層とⅣ層の上面から深さ10cmまで掘りこまれていることがわかった。したがって、Ⅲ層上面から遺構は掘り込まれており、床面までの深さは約40cm近くあった。西壁の中央の掘部に柱穴が一基あるが、他は観察されなかった。したがって、この竪穴は縄文時代早期後半に近い頃の遺構と推定できる(註)。床面は平らに整形されている。なおS228の北東部のコーナー付近にあって、北へ延びる煙道付炉穴がある。なお、S083は煙道付炉穴を切る関係にある。遺物は、覆土であるG層・H層・F層から出土したが、提示できる資料は多くない。

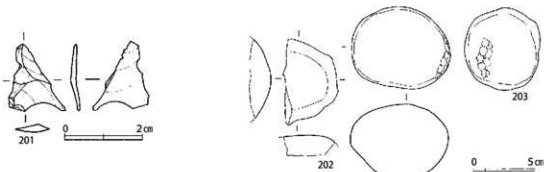
石器 石製の未成品と(第45図201)、
 敲石(203)、敲石の破損品(202)が出土している。敲石は、長さが7.8cm、幅6.3cm、厚さ5.7cm前後の大きさを有し、平面形が楕円形、端部の形は円形、側面形は楕円形という卵の形をしている。

註：森の木遺跡では、縄文時代早期後半から終末の手向山式土器・平袴式土器・塞ノ神式土器が出土している。



- a./(覆土)暗褐色シルト(10YR3/4) 粘性なし しまり弱い 植物質含む 遺物をわずかに含む
 b./(覆土)黒褐色土(10YR2/3) 粘性なし しまり弱い アカホヤを少し含む
 c./(覆土)黒褐色土(10YR3/3) 粘性やや強い しまりやや強い 湿り少ない
 d./(覆土)暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや弱い しまり弱い 遺物をわずかに含む
 e./(覆土)黒褐色土(10YR2/3) 粘性やや弱い しまり弱い 湿り少ない
 f./(覆土)黒褐色土(7.5YR2/2) 粘性やや弱い しまり弱い 湿り少ない
 g./(覆土)黒褐色土(7.5YR2/2) 粘性やや弱い しまり弱い 小礫をわずかに含む
 h./(覆土)暗褐色土(10YR3/3) 粘性なし しまりやや強い φ2~5cmの礫を少し含む
 i./(覆土)暗褐色粘質土(10YR3/4) 粘性あり しまりやや強い 湿り少ない
 j./(覆土)暗褐色粘質土(10YR3/4) 粘性あり しまりなし 地山ブロックをわずかに含む
 I層よりシルト質

第44図 S083実測図(1/40)



第45図 S083出土遺物実測図

S108 調査区西部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では1G区の中央部分に位置する(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の西側部分にあたる。地勢的には南側に展開する谷の斜面に占地している。遺構ラインが真北から西へ130°振れた一边(標高の高い側)と、これと並行する一边(標高の低い側)として直線的な部分があるので、方形を基本とした遺構といえる(第46図)。遺構は全体的に歪んでいるが、概ね約220cm×約230cmの規模である。壁の立ち上がりは10cm~16cmで、その勾配は45°~60°である。なお、遺構内には柱穴はない。

遺物 S108からは明確な遺物は出土していないが、台石と思われる礎が出土している。

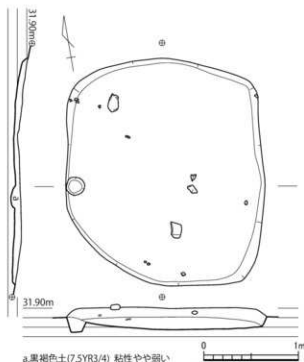
S124 調査区の中央部域で第2次調査区の範囲にあり、区画では5F区に位置する(第477図)。この辺りは、1次調査区の南側に広がる谷地形の斜面部である(第3図)。遺構は、平面形が歪んでいるが、方形を基本とした隅丸方形である。遺構の規模は、南北280cm、210cmである。壁の立ち上がりは5cmから10cmで、勾配はやや急である。遺構内には、西壁付近に柱穴が1基ある。柱穴は深さが約12cmと浅い(第47図)。

遺物 S124からの遺物で提示できるものは台石だけである。台石の長幅厚は、20.8cm・13.5cm・8.5cmの大きさを有するが、打割によって下半が割れている。断面を見ると、裏面が丸く、表面が平らな面となっており、この部分が作業面と推定される(第48図204)。



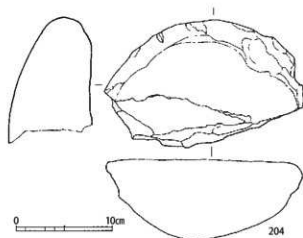
- a.黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性やや弱い しまり強い 植物質を含む
 p 2~5cmの礎をわずかに含む
 b.黒褐色土(10YR3/4) 粘性やや弱い しまり弱い 植物質を含む
 c.暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや弱い しまりやや強い 地山ブロックを少し含む

第46図 S108実測図(1/40)



- a.黒褐色土(7.5YR3/4) 粘性やや弱い
 しまりやや弱い 地山ブロックを微量に含む

第47図 S124実測図(1/40)



第48図 S124出土遺物実測図

S126 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では5F区と6F区の境界に位置する(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状地の緩やかな傾斜地にあたる。遺構は、円形を基本とした明瞭な遺構ラインで(第49図)、概ね南北204cm・東西200cmという正円形に近い形と規模を有しており、IV層の上面で確認した。壁の立ち上がりは14cm～22cmで、その勾配は47°～58°である。なお、遺構内には2箇所に柱穴などがあるが、その位置は西側に偏っている。柱穴の深さは、7cmと12cmであり浅い。この柱穴の他に柱穴・土坑などはない。

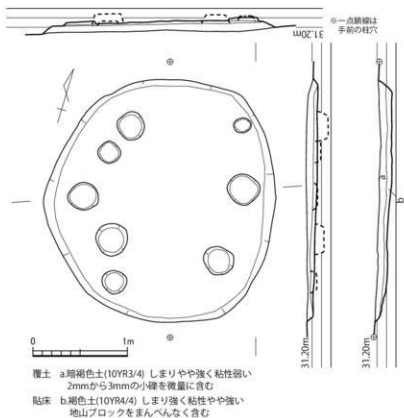
遺物 S126からは遺物は出土していない。

S133 調査区の西部で第2次調査区の範囲にある。区画では4G区5G区に位置する(第3図・第477図)。この辺りは、弧状に湾曲した谷地形の谷底部斜面になる。この遺構は、円形を基本とした明瞭な遺構ラインで(第50図)、概ね南北256cm・東西244cmという正円形に近い形と規模を有しており、IV層の上面で確認した。壁の立ち上がりは7cm～15cmで浅い。その勾配が急な部分もあるが、概ね緩やかで徐々に遺構検出面に移行している部分もある。遺構内には8基の柱穴があるが、その位置は東壁沿いに5基、東壁沿いに3基がある。概ね柱穴の径が大きい。柱穴の深さは、4cm～12cmであり浅い。特に浅い例は柱穴でない可能性もある。

遺物 S133からは遺物は出土していない。



第49図 S126実測図(1/40)

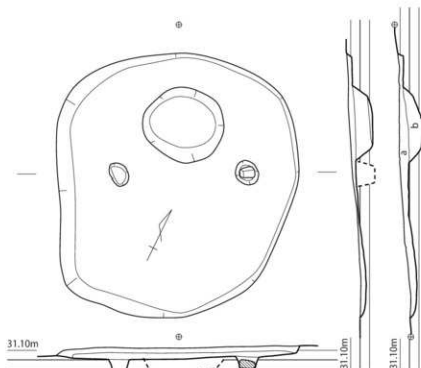


第50図 S133実測図(1/40)

S134 調査区の西部で第2次調査区の範囲にある。区画では4G区に位置する(第3図)。この辺りは、弧状に湾曲した谷地形の谷底部斜面になる。この遺構は、円形を基本とした明確な遺構ラインで(第51図)、概ね南北280cm・東西258cmという規模を有しているが、その平面形を見る限り角部(隅部)の丸い方形を基本としたプランである。壁の立ち上がりは4cm~6cmで浅い。その勾配が急な部分もあるが、南壁は緩やかで、徐々に遺構検出面に移行している部分である。

遺構内には2基の柱穴があるが、その位置は南北方向に対し63°(117°)振れた遺構の中央部分に相対するように並んでいる。柱穴の深さは15cmと17cmで、後者には内部に石が入れられている。柱穴間は110cm空くが、柱穴と東壁・西壁の間は36cm・38cmであるなどほぼ等間隔である。遺構は、この相対する柱穴を挟んで北側と南側に二分される。柱穴の北側には、85cm×80cmの規模を有する楕円形の土坑がある。この土坑の深さは約20cmである。

S135 調査区の西部で第2次調査区の範囲に在る。区画では4G区と4H区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、弧状に湾曲した谷地形の谷底部底面になる。この遺構は、長方形を基本とした遺構ラインで(第52図)、北から東に51°(西に129°)長軸が振れた方位である。概ね長軸280cm・短軸200cmという規模を有し、深さは約8cm前後と浅い。地形の勾配もあり、遺構は谷頭に近い部分の標高が高く、谷底に近い部分の標高は低い。遺構内には、柱穴の窪みが谷底に近い部分の壁際に一基ある。柱穴の窪みは、深さ17cmで、平面形は楕円形である。S135から出土した遺物はない。



- a.黒褐色土(10YR3/1) しまり強く粘性弱い
 粒子は細く1mm程度の小礫をまばらに含む
 b.灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや弱く粘性やや強い
 1cmから5cmの小礫をまんべんなく含む

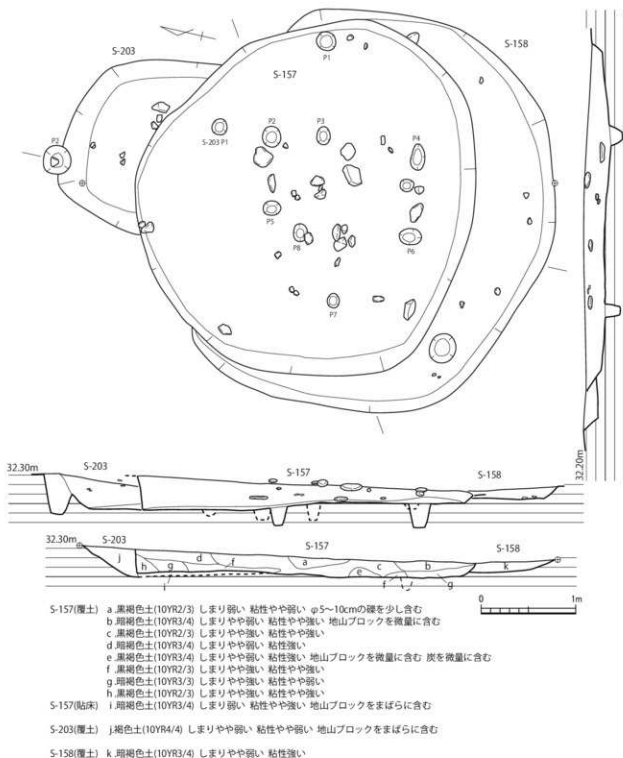
第51図 S134実測図(1/40)



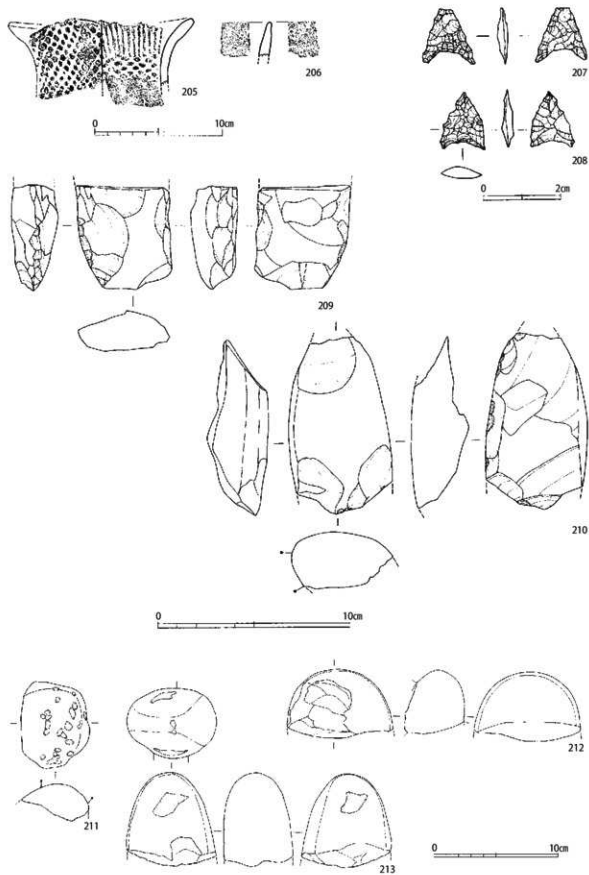
- a.黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性強い
 土器などの遺物を少し含む 炭を微量に含む

第52図 S135実測図(1/40)

S157 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では6E区に位置する(第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢の脊梁部東端部に位置し、南方・北方・東方を臨む場所に位置する。この遺構は、埋没したS158・S203を再び掘り込み(第53図)、平面形が東西376cm・南北360cmの規模を有するやや歪な形をした円形をしている。壁の立ち上がりは37°と53°、傾斜の緩やかな部分と70°近い急な北壁部分があり、その高さは10cm～37cmある。遺構内には柱穴が10基ある。多くの柱穴は壁際ではなく、遺構内の内寄りにある。中央付近の東西に2基ずつ計4基の柱穴が相対しながら配置され、それらの南側延長線上には3基が並んでいる。その他は、右列の延長線上に1基、東側の壁際に1基、西側



第53図 S157・S158・(S203土坑)実測図(1/40)



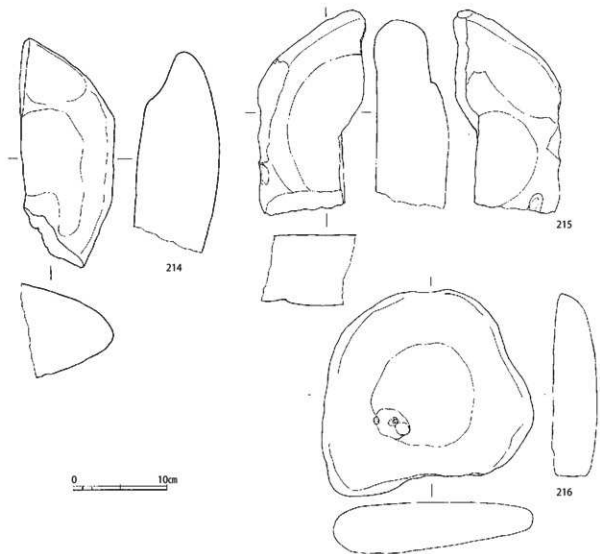
第54図 S157出土遺物実測図(1)

の壁との間に1基掘られている。柱穴の掘削深度は10 cm～26 cmの間にある。また、遺構内からは長軸部分で20 cm前後の大きさを有する大きな竪が上記の柱穴間を中心として分布している。これらは、遺構内での作業施設であった可能性が高い。

堆積層 S157の遺構内堆積は、10枚に区分できた。このうち最も下位にある1層は整地した貼床である。

土器 押型文土器が1点（第54図205）無文土器1点（第54図206）が出土している。押型文土器は、大きく外方に外反することに特徴があり、口縁がやや波状気味で、口径が10.45 cmの壺形土器である。また、内面にはナデ調整後に上部から下へ5.2 cm幅の横方向施文の楕円押型文があり、その上に口縁端部から下へ2 cmの短い柵状文を施している。一方、外面は幅4 cm前後の原体を縦に回転させて施文した縦方向楕円押型文がみられる。押型文土器は、混入と考えている。無文土器は、内外面をナデ調整しただけの土器で、端部が尖る。

石器 石鏃が2点出土している。一例は、両側が直線的で（第54図207）、もう一例は、両側が弧状に張るもので（208）、両例とも基部のえぐりが弧状をなす。石斧は、2点出土している。いずれも横断面が長楕円形の自然礫を使用しているとみられ、縦面は、磨製石斧と同様な効果を想定したうえでの残存の可能性もあるが、全体的にあまりに粗い剥離痕であり、成品前の破損で破棄されたのだろう（209・210）。敲石・磨石は、3点出土している。一例は、著しい敲打によって剥離痕状に破損したと思われ、表面に楕円形をした粒状の打痕が生じている（211）。他の二例は、楕円形の川原石が使用の為か、半分に割れている（212・213）。台石とみられるのは3点出土している。うち2点は、片面に磨滅痕があるが、その後、分割されている（214・215）。もう1点は破損しておらず、230 cm×200 cm×5 cmの大きさを有するやや扁平で楕円形である（216）。



第55図 S157出土遺物実測図(2)

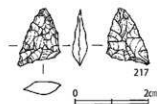
S158 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では6E区に位置する(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢の脊梁地形の東部に位置し、南方・北方・東方を臨む場所に位置する。

この遺構は、S157に大きく三日月形に切られている。遺構は、平面形が東西424cm・南北370cm(推定)の規模を有するやや歪な形をした楕円形をしている(第53図)。壁の立ち上がりは、曲率半径が極めて大きいゆるやかな傾斜勾配である、その高さは約10cm程度である。そのため、本来の深さであれば、もう少し外側に広がるものと思われる。遺構が大きくS157に切られているため、遺構内の全容は分からないが、南西の壁付近に柱穴が1基ある。

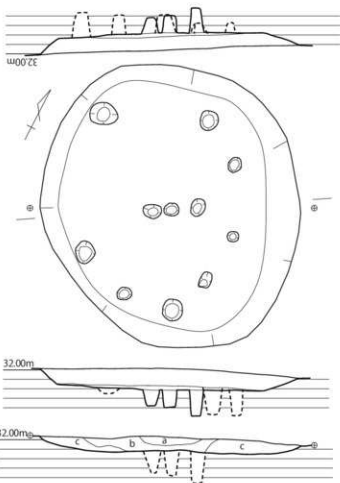
石器 凹基式の石鏃が1点出土している(第56図217)。石鏃の表面側右脚部を欠損しているが、曲率半径の大きいえぐりであり、急角度のえぐりではない。なお石鏃の器面調査は押玉剥離である。他に、蔽石・磨石が出土している(218)。この遺構の平面形は、楕円形で、9.2cm×7.4cm×3.7cmの大きさを有している。表裏両面と側面に打痕、また表裏片面に摩滅痕が観察される。遺構内には、若干の腰があるが、明確な台石等はない。遺構の規模にしては遺物の数量が少ないが、これはS157に切られているためであり、本来の組成・数量を表していない。

S159 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では6E区と7E区にまたがるように位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢の脊梁地形から扇形に広がった中央部に位置し、南方・北方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構は、平面形が長軸316cm・短軸275cmの規模を有する楕円形をしている(第57図)。壁の立ち上がりは、曲率半径が極めて大きいゆるやかな傾斜勾配(約20°)であり、その高さは約16cm程度である。そのため、本来の深さであれば、もう少し外側に広がるものと思われる。遺構内には柱穴が11基ある。その配置は、大小の柱穴8基が遺構内の壁りに分布し、そして中央部に3基の柱穴が並列している。柱穴の深さは、6~27cmで、掘りは深く明瞭である。柱穴は、北部・西部でその間が大きく開いており、いづれかが入口であった可能性を有している。

土器 楕円押型文土器が1点出土している(第58図219)。内面に口縁端部から垂直方向の短い櫛状文

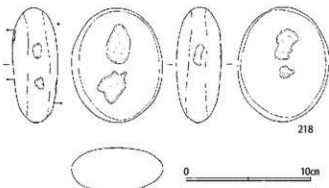


第56図 S158出土遺物実測図



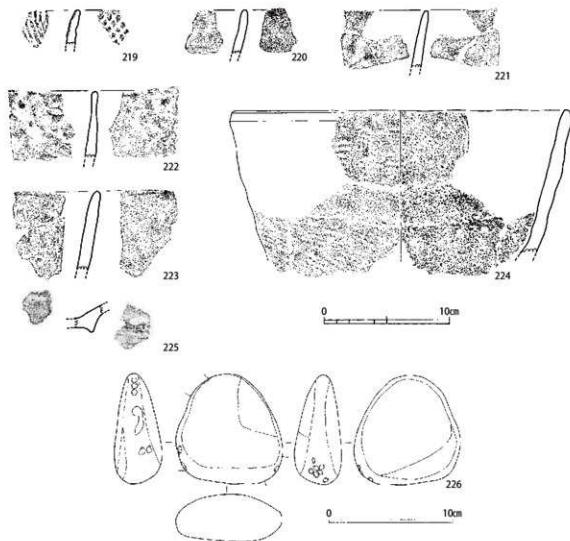
- a 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや強い 粘性やや強い
 b 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや弱い 粘性やや弱い
 地山ブロックをまばらに含む 土器などの遺物を少し含む
 c 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性強い 地山ブロックを微量に含む

第57図 S159実測図(1/40)



を施し、その後、斜行する櫛状文を施す(二段櫛状文)。外面側には、横方向の櫛田押型文を施しており、田村式土器に包括されるものであろう。押型文土器は小片であることと、その出土レベルから混入と考えている。無文土器の口縁部破片は、5点出土している。いずれもナデ調整のみで、文様等はない。これらの無文土器は、器壁の大きさによりA/Bの2群に区分できる。Aは、土器の厚さが1cm以下の例で、口縁端部が細い例(第58図220～222)である。Bは、土器の厚さが1cm以上の例である(223・224)。Bの中に、口径復元できる例があり、22.3cmであった(224)。この例は、内外面の上から下へ6cmと9cmのところとに接合痕がみられる。さらにその下の破損面は概ね水平であることから接合面であったと推定すると、上から6cm・3cm・4cmの粘土帯が想定できる。また土器の胴部器面をみると、斜方向にナデ調整している様子がうかがえる(224)。破損面が水平である土器はAにもあり(222)、5.2cm前後の粘土帯が想定できる。無文部の破片として、底部がある。この土器の底部は、平底で、高台状の部分があり、上げ底状になっている。これまでの事例からすれば、縄文時代早期初頭において平底が出土した例はなく、縄文時代草創期の遺跡から出土している。また、無文土器も縄文時代早期前半には類例が少ないものである。したがって小さな押型文土器は混入で、平底の土器と無文土器は縄文時代草創期に遡行すると考えられる。

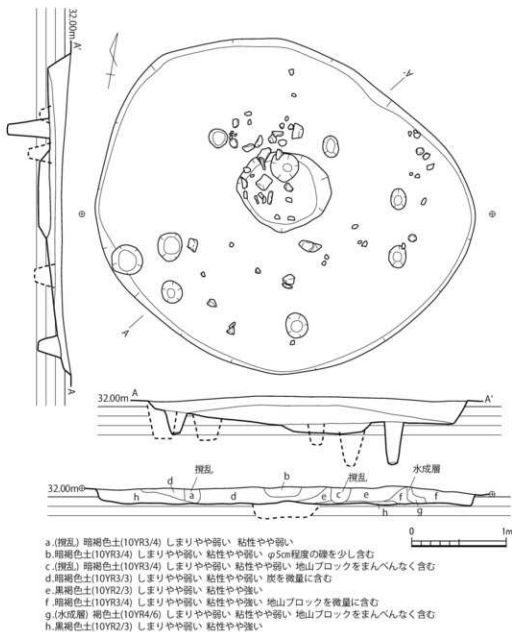
石器 石器として挙げうるのは礫石1点だけである。その大きさは、8.5cm×8.8cm×4cm(厚さ)の規模を有する平面形が隅丸三角形である。使用痕は、左側と右側下端に打痕が生じている(第58図226)。



第58図 S159出土遺物実測図

S160 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では6E区と6F区にまたがるように位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢である脊梁地形の東部に位置する。また南方・北方・東方を臨む場所、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構は、平面形が長軸394cm・短軸336cmの規模を有する楕円形をしている。長軸の真北からの傾きは 66° (114°)である。壁の立ち上がりは、 $50^\circ \sim 60^\circ$ の傾斜で、その高さは約8cmから25cm程度である(第59図)。高さが8cmの部分には遺構の南壁で、この点は遺構の中央付近から徐々に比高を上げていく傾斜面になっていることと関係する。遺構内には柱穴が9基と円形の皿状の土坑がある。皿状の土坑は、僅かに北よりの長軸線上の中央に位置し、94cm×87cmの規模を有する。床面から土坑底部までの深さは、12cmである。内部に著しい炭化物や焼土はない。柱穴の多くは、遺構の壁から30cm以上離れて構築され、中央の土坑を囲むように位置する。柱穴の深さは、15cmから46cmまでの間にあるが、その大半は22cm以上の深さを有するなど、明確なピットとなっている。

土器 無文土器の口縁部破片は、1点出土している。いずれもナデ調整のみで、文様等はない(第60図227)。この無文土器は、厚さが1.1cmあり、やや厚めの部類に入る。土器は1点だけなので、S160の土器の実態は不明である。

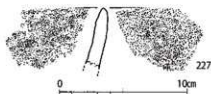


第59図 S160実測図(1/40)

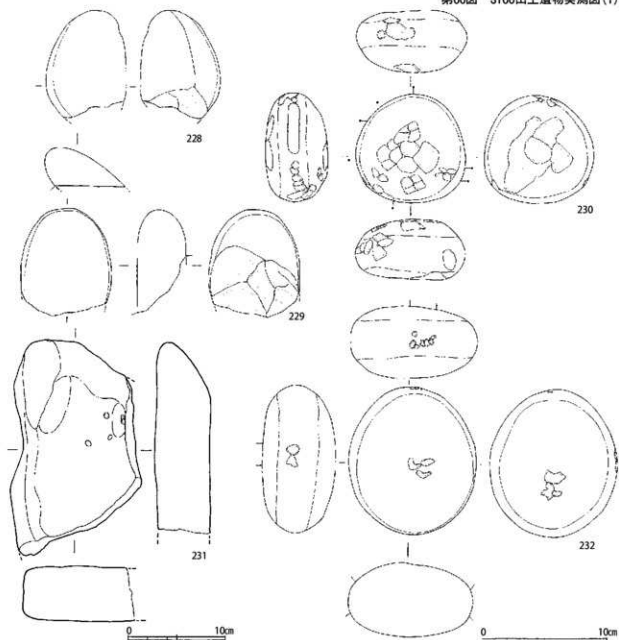
石器 石器として挙げるのは、戴石・磨石と台石の5点である。戴石・磨石は円形もしくは楕円形をしており、前者には著しい打痕と磨減痕がみられ(230)、後者には僅かな打痕が表裏と縁部に打痕がみられるほか著しい磨減が表裏にある(232)。この他、破損した戴石・磨石が2点あるが(228・229)、後者は打撃によって剥離痕が生じている。台石の大きさは、長軸(破損)17cm×短軸13cm×厚さ4.2cmの規模を有し、平面形が細長い。使用痕は、表面に打痕が生じている(231)。

S162 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では7F区と8F区にまたがるように位置する(第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢の脊梁地形の東南部に位置し、南方・北方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構は、平面形が直径380cmを有する円形をしている(第62図)。壁の立ち上がりは、50°～60°の傾斜で、その高さは約8cmから25cm程度である。遺構内に柱穴が10基あり、そのうち6基が壁よりに整然とした六角形状の配置をしている。柱穴の深さは30cmから20cmの例が多い。S162の覆土が堆積後、中央を東西方向に炉穴(S221)が掘りこまれる。

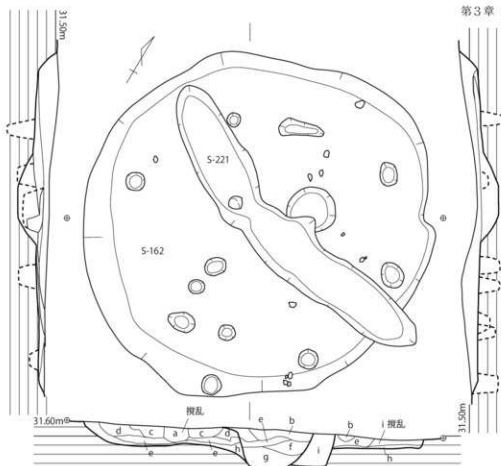
堆積層 h層はローム質土の粒が多いことから整地層で、上面は貼床面である。



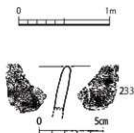
第60図 S160出土遺物実測図(1)



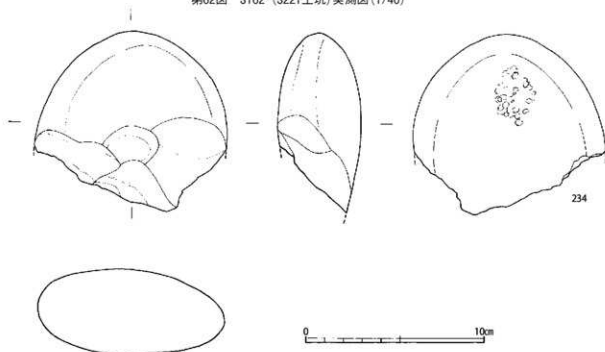
第61図 S160出土遺物実測図(2)



- a. (攪乱) 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性やや弱い
 b. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや強い 粘性やや強い 焼土ブロックを微量に含む
 c. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性やや弱い 砂岩ブロックを微量に含む
 d. 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い 粘性やや強い 地山ブロックを微量に含む
 e. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性やや強い 地山ブロックを微量に含む
 f. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性やや強い 炭を微量に含む
 g. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性やや強い
 h. 褐色土(10YR4/4) しまりやや強い 粘性強い 地山ブロックをまんべんなく含む
 i. (攪乱) 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性やや強い 地山ブロックをまんべんなく含む 焼土ブロックを微量に含む



第62図 S162・(S221土坑)実測図(1/40)



第63図 S162出土遺物実測図

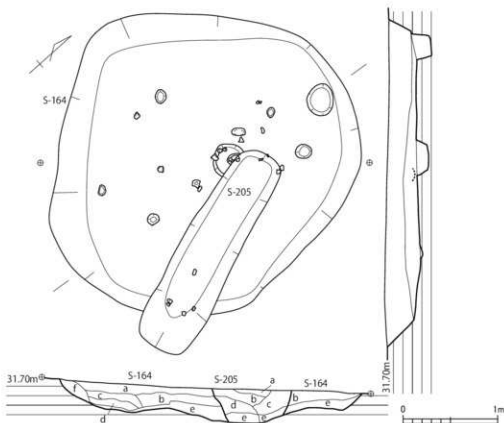
土器 S162からは、土器が1点出土している。表裏両面にをナデ調整しただけの無文土器である（第63図233）。

石器 石器は、蔽石・礫石というべきもので、裏面に蔽打痕、表面には裏面側からの加撃による剥離痕が生じており、礫石としての刃部作出と考えられる（第63図234）。

S164 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では7E区に位置する（第3図・第478図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢の脊梁地形の東南部に位置し、南方・北方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構の平面形は隅丸の五角形で、長軸350cm・短軸324cmの規模を有している（第64図）。壁の立ち上がりは、 40° ～ 64° の傾斜で、そのうち勾配の急な部分は北壁である。曲率半径が極めて大きい部分が西壁で、徐々に立ち上がっており、床面と壁の境界は明確ではない。壁の高さは、その高さは約16cmから30cm程度である。

遺構内には、柱穴が2基あり、その分布は遺構の中央部分と、北壁沿いにある。柱穴の深さは、11cmと16cmである。この他、径16cmから7cm、深さが5cm前後の浅い穴が6基あり散在している。深さが浅い為、柱穴であるかどうか明確ではない。なお、S164に覆土が形成された後、中央から南西にかけて煙道付炉穴1基（S205・S224）が掘りこまれている。

石器 S164からは提示できる資料少なく、蔽石が1点出土しているだけである（第65図235）。蔽石は、一方の端部よりがややたい長楕円形の棒状礫を用いている。蔽石は、長さ11cm、厚さ6.5cmの大きさで、端部に打痕が見られる。



- S-164(覆土)**
- a. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性やや強い 5mm程度の砂岩ブロックを微量に含む
 - b. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性やや強い 地山ブロックを微量に含む 土器などの遺物を少し含む
 - c. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性やや強い 地山ブロックを微量に含む
 - d. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性強い 地山ブロックを微量に含む
 - e. 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い 粘性強い 地山ブロックをまばらに含む
 - f. (壁崩落土)暗褐色土(10YR3/4) しまりやや強い 粘性やや強い 地山ブロックを微妙に含む
 - g. (壁崩落土)褐色土(10YR4/4) しまりやや弱い 粘性やや強い 地山ブロックをまんべんなく含む
- S-205(覆土)**
- a. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや強い 粘性強い
 - b. 暗褐色土(10YR3/3) しまり弱い 粘性やや弱い 地山ブロックを微量に含む
 - c. 黒褐色土(10YR2/3) しまり弱い 粘性やや弱い φ2～5cmの礫をわずかに含む
 - d. 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い 粘性強い φ2mmから1cmの地山ブロックを微量に含む
 - e. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性強い 地山ブロックをまばらに含む

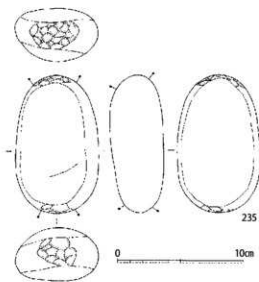
第64図 S164・(S205土坑)実測図(1/40)

S172 調査区中央部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では6F区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南縁部に位置するが、最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構の平面形は隅丸の多角形である(第64図)。短軸は約335cmであるが、長軸は南壁を消失しており、明確ではない。そこで遺構の南壁の位置については、図示したように推定線Aと推定線Bとして復元した。推定線Aとすれば長軸は410cmとなり、遺構にかかわる柱穴は14基が含まれる。推定線Bの場合であれば、360cmの規模となり、柱穴11基が含まれることになる。壁の立ち上がりの残存が悪く5cmから10cmの厚さしかなく明確ではないが、僅かに傾斜している様子が窺える。柱穴の配置は、推定Aの範囲に含まれる柱穴の分布をみると、中央の遺構内土坑を取り巻くように分布しているが、推定線Bの場合は、南側部分で密集することになる。なお中央部の土坑は、底部が色が赤化しており、S164に伴うものとするば屋内がとなる。

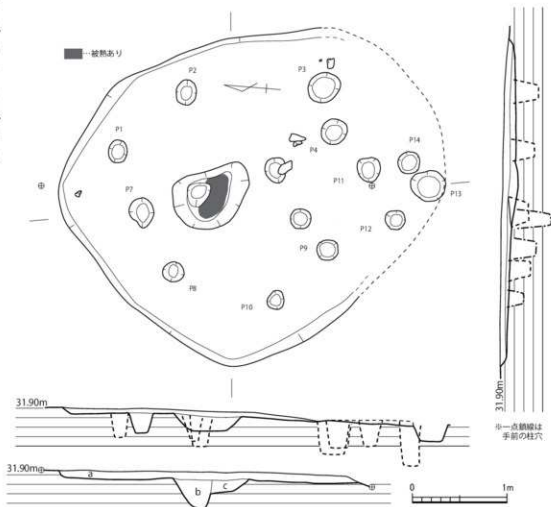
土器 ナズ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している(236)。

石器 細石刃が1点出土している(237)。腰岳・牟田系黒曜岩を石材としており、5E区で出土した細石刃核の存在から縄文時代草創期前半の楔形細石刃核に関連するものと推定する。

土器は無文土器であるが、縄文時代草創期に属する可能性を否定出来ない。なお、細石刃は共伴しない可能性が高い。



第65図 S164出土遺物実測図



a.暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや弱い しまりやや強い
b.暗褐色土(10YR3/4) 粘性強い しまりやや弱い 地山ブロックをまんべんなく含む

第66図 S172実測図(1/40)

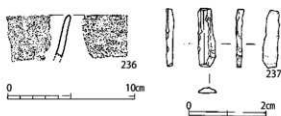
S186 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では7E区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の東南部に位置する。また南方・北方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構の平面形は半円形の北東部分と逆三角形部分が接合したかのような歪な形をしている(第69図)。南北の壁が別の遺構に切られているので明確でないが、ほぼ長軸370cm・短軸約270cmの規模を有している。壁の立ち上がりは、31前後°の傾斜で、高さは10cm前後である。遺構内の柱穴は7基あるが、規則性に欠ける分布である。

土器 ナデ調整無土器の口縁部破片が1点出土している(第68図238)。

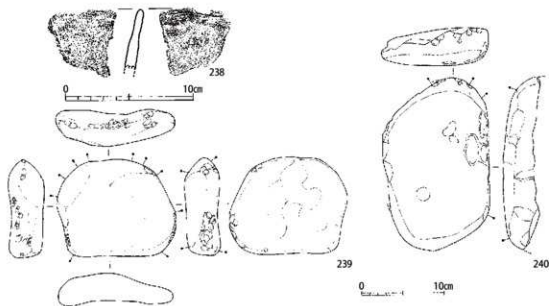
石器 戴石が2点出土している。いずれも縁部に打痕がある(239・240)。なお打痕や磨痕などの使用痕は明瞭ではないが、台石状の大きな石が数個存在していた。本来、遺構周辺の自然層に存在しない石であり、明らかに縄文人によって持ち込まれたものである。

S187 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では7E区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢の脊梁地形の東南部に位置し、南方・北方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構の平面形は楕円形をしており、S186に切られ、S168を切る関係にある(第69図)。遺構は、長軸300cm・短軸約240cmの規模を有しているが、北壁から西壁にかけて風倒木で破壊されており、明確ではない。壁の立ち上がりは、30°から40°の傾斜で、高さは20cm前後である。遺構内の柱穴は7基あるが、規則性に欠ける分布で、その深さは17cmから33cmである。

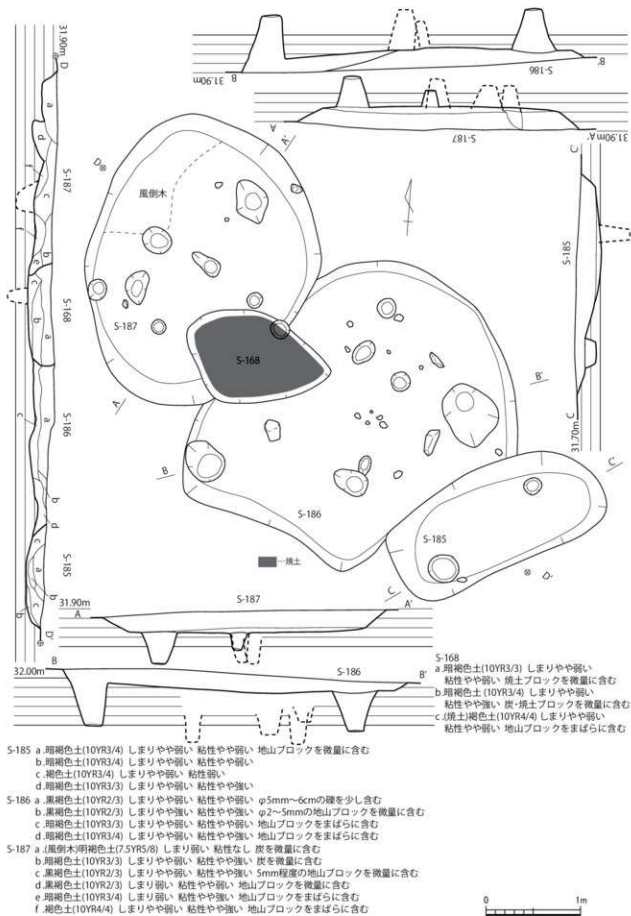
S216 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では6E区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形にある。しかもその南縁部沿いに位置し、南方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構の平面形は歪な隅丸の六角形をしている(第71図)。遺構は、長軸275cm・短軸約235cmの規模を有している。残存状態が悪く、僅かな壁の立ち上がりが見られるにすぎない。北壁や西壁付近の傾斜はゆるく、床面と壁面の境界がまっつきりする部分が少ない。特に西壁の曲率半径が大きい。高さは10cm以内である。遺構内の柱穴は3基あり、その分布は真北から42°(138°)振れた中央付近に2基が並び、さらに西側へ90度振れた場所に1基があるという偏った分布を位置している。規則性に欠ける分布であるが、深さは15cmと16cmある。



第67図 S172出土遺物実測図



第68図 S186出土遺物実測図

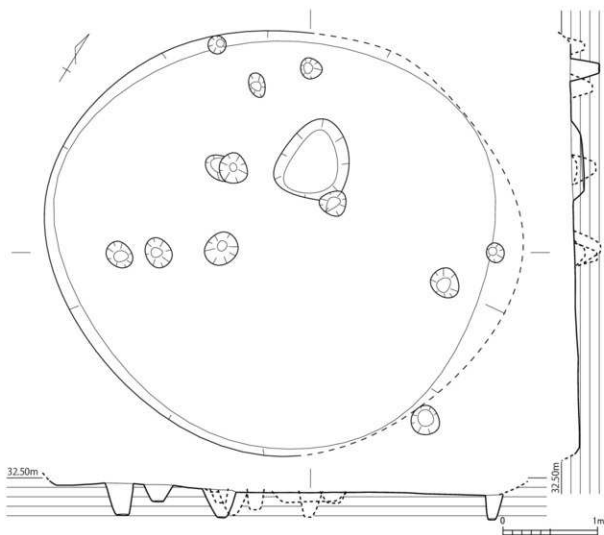


第69図 S186・S187・(S168・S185土坑)実測図(1/40)

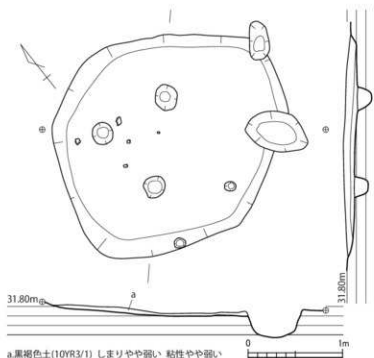
S215 調査区中央部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では5E区北部を中心に、僅かに5D区にもかかる位置である(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢の脊梁地形であり、その尾根部に位置する。ここは比較的に平坦な地勢であるが、尾根部に当っており、あまり地層堆積のよい場所ではない。縄文時代草創期・早期の包含層であるⅢ層は薄く20数センチしかない状況であった。

本来的にⅢ層のどのレベルで竪穴建物が掘り込まれたのかという問題はあるが、結果的にⅣ層上面まで掘り下げ、精査した段階で遺構を検出した。その際の出土状況は、壁がほぼ残存しておらず、黄色系の色調であるⅣ層との対比の中で黒ずんだ場所があるという状況であった。黒ずんだ部分は、竪穴建物掘削時に整地した整地層であり、貼り床である。僅かに残存した壁部と貼り床の存在から想定される竪穴建物の状況は以下のとおりである。

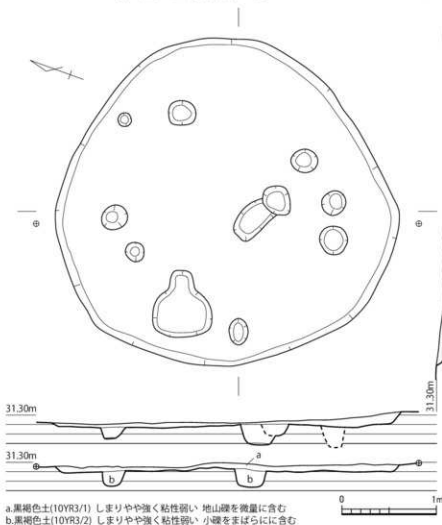
遺構の平面形は楕円形である(第70図)。東西方向の長軸は510cm、南北方向の短軸は約450cmである。竪穴建物の内部の貼り床の上に柱穴が14基見られた。柱穴の分布に規則性はなかったが、竪穴建物の西半分に多く散在する。柱穴の直径は20cmから30cmまでの大きさである。柱穴の深さは15cm～32cmに収まるものである。竪穴建物の北半部の中央に土坑が1基ある。土坑は、隅丸三角形をしており、長軸85cm、短軸75cm、深さ10cmである。



第70図 S215実測図(1/40)



第71図 S216実測図(1/40)



第72図 S253実測図(1/40)

S253 調査区東部で第Ⅲ次調査区にあり、区画では8D区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかであって標高が高い脊梁地形の東端の北縁部に位置する。主に北方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構の平面形は、曲率半径の大きい隅丸の三角形である(第72図)。残存状態が悪く、3cmから10cmである。とりわけ北壁付近の残りが悪い。遺構の規模は、南北が350cm、東西が350cmである。

遺構内には柱穴が9基ある。主要な柱穴は、壁から若干の間隔を置き、中央部を囲むように配置している。また柱穴間の最も広い場所は、南西部分で、ここが出入り口であったかもしれない。主要な柱穴の径は20cmから30cm前後で、深さは17cmから20cm前後である。

なお、小さな土坑が中央部城と西壁付近にある。

土器 ナデ調整無文土器が1点出土している(第73図241)。



第73図 S253出土遺物実測図

S275 調査区東部で第Ⅲ次調査区にあり、区画では8E区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形にあって扇形の平坦地中央部に位置する。また北方・東方・南方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構の平面形は、長楕円形と思われるが、南半分方を欠く(第74図)。現状で南北が167cm、東西は260cmの規模である。壁の立ち上がりを見ると、曲率半径が大きい。内部に柱穴が2基ある。この柱穴の径と深さは、径が12cmと10cm、深さが15cmと30cmである。

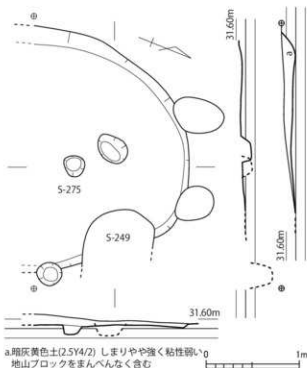
遺物 提示できる資料はない。

S347 調査区東部で第Ⅳ次調査区にあり、区画では8E区・8F区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形東部に位置し、南方・北方・東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。遺構の平面形は歪んだ円形で、南北500cm・東西535cmの規模を有している(第75図)。壁の立ち上がりは、曲率半径が、極めて大きく、緩やかに立ち上がっており、床面と壁の境界がゆるやかに明確でない場所が大半である。特に東壁は傾斜角が10°前後である。壁の高さは、西壁で28cm前後であるが、遺構の中央部と北壁との比高差は43cmである。

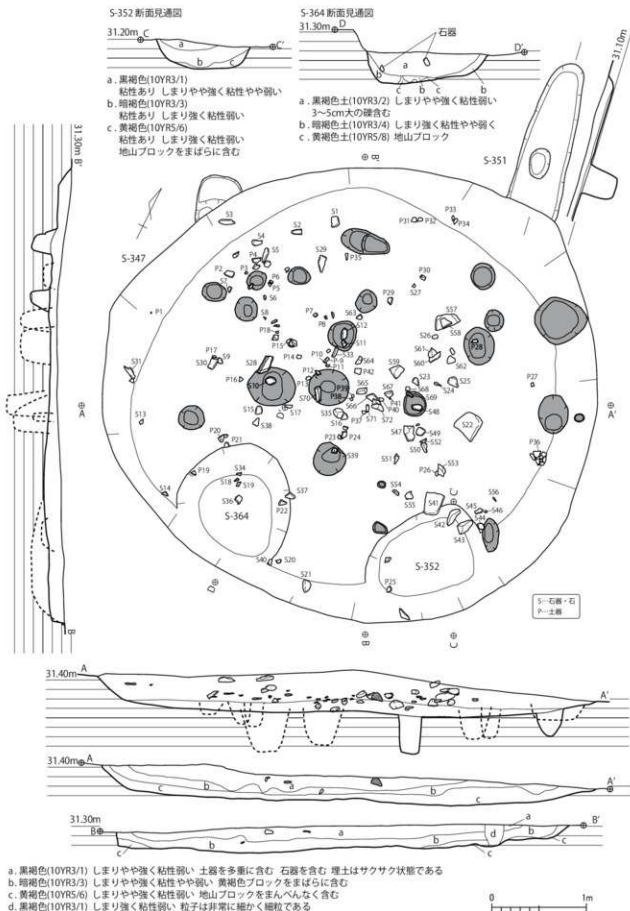
遺構内には、柱穴が18基あり、北壁から南へ遺構の2/3までの間に不規則に分布している。柱穴の深さは、30cmから40cmまでのものが6箇所もあるなど、深い柱穴が多い。この他の柱穴も、22cm前後の深さである。柱穴の径は、50cm・42cm・33cm・23cmもある。大型の柱穴が多い。なお、遺構内にあるS352・S354は当初前期の遺構と考えていたが、覆土上面に痕跡がないことと、S347のラインに沿って構築されていることから同遺構に伴うと考えておきたい。

土器 押型文土器、ナデ調整無文土器、条痕調整無文土器が出土している。楕円押型文は器壁が1cm程度の胴部破片で、外面の楕円が小さいことに特徴がある(第76図242)。また楕円文の方向性は、やや斜行する。山形押型文土器は、山形のピッチが0.35cmと小さいことと、器壁が0.4cmと薄い点に特徴がある(243)。また山形文の方向性は、やや斜行する。無文土器の薄手の例に、口縁部が直行もしくは、やや外傾する例と(244～253、259)、内傾する例がある(254)。ただし、前者は小破片が多く、正確性に欠ける部分がある。これら12例の薄手無文土器の器壁の厚さを平均すると0.6cmであった。このほか、4例の薄手のナデ調整無文土器があるが、器壁の厚さは同様の傾向である(255～258)。ナデ調整無文土器には厚手のものもある(260・261)。いずれも口縁部が直行もしくは、やや外傾する例で、器壁の厚さは1.4cmと1.2cmであった。この厚手のナデ調整無文土器に関係するのが、やはり厚手のナデ調整無文土器の底部破片で、底部が丸底である(262)。条痕調整の無文土器は、表面に斜行する条痕を有しており、器壁の厚さが1.1cmと厚手である(263)。

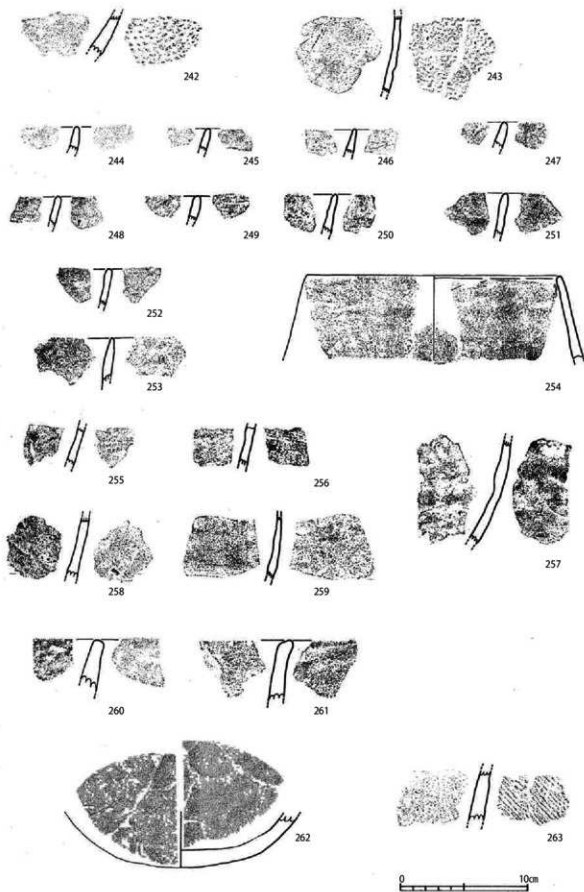
石器 石畿が3点出土している。一例は小型の完形品で、二等辺三角形をしており、抉りはない(第77図264)。もう一例は、丁寧な押玉剥離で製作され、基部が水平に破損している(265)。三例目は、やや器長が長く、両縁が外側に張る特徴を有する(266)。この例は、裏面の右縁から下縁にかけて細かく斜行する押玉剥離を施しているが、未調整の部分や表面側の粗い調整部分もあり、あるいは未成品というべきかもしれない。使用痕ある剥片は3点あり、いずれも不定形の剥片を用いている(267・268・271)。楔形石器は1点あり、小型で正方形に近い形をしている(269)。特に裏面には上下方向からの剥離がある。剥片は、2点だけである(270・272)。礫器は3点ある。一例は角礫から割り取られた剥片を利用しており、手前の部分に両刃の刃部を作出した加工痕がある(273)。他の2点は川原石を原料として用い、手前部に片刃の刃部を作出した加工痕がある(274・275)。敲石(第77図277)・磨石(278)・台石(276)が出土している。敲石は、長さ6.4cm、幅4.3cm、厚さ3.5cmであり、大ききから石器加工用である。磨石は表裏両面に磨減がある。台石は、表面に磨痕があり、破損している。



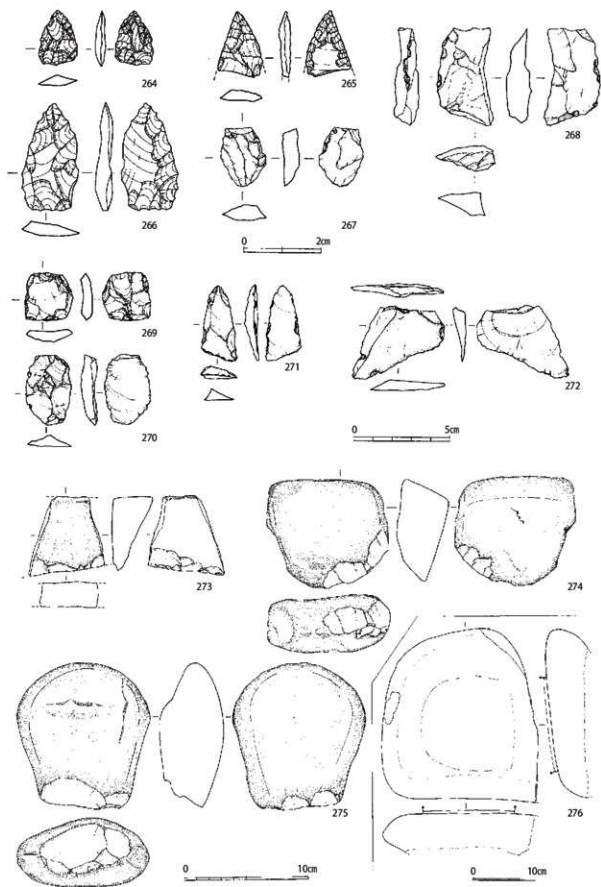
第74図 S275実測図(1/40)



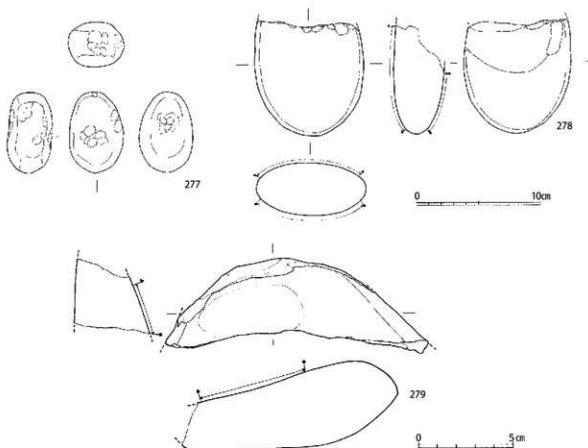
第75図 S347・(S351・S352・S364土坑)実測図(1/40)



第76図 S347出土遺物実測図(1)



第77図 S347出土遺物実測図(2)



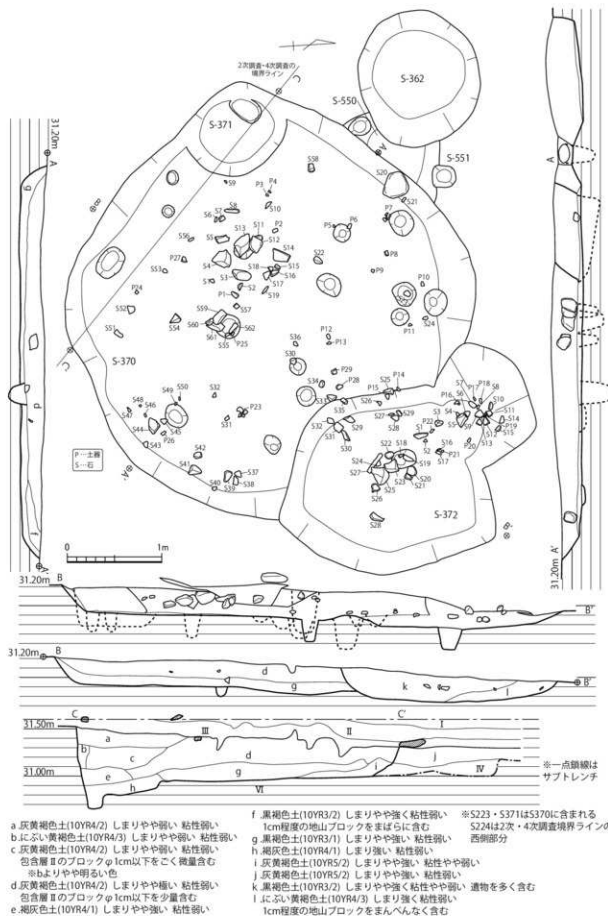
第78図 S347出土遺物実測図(3)

S370 調査区東部でIV次調査区にあり、区画では8F区・9F区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢である。脊梁地形の東部に位置し、主に東方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。

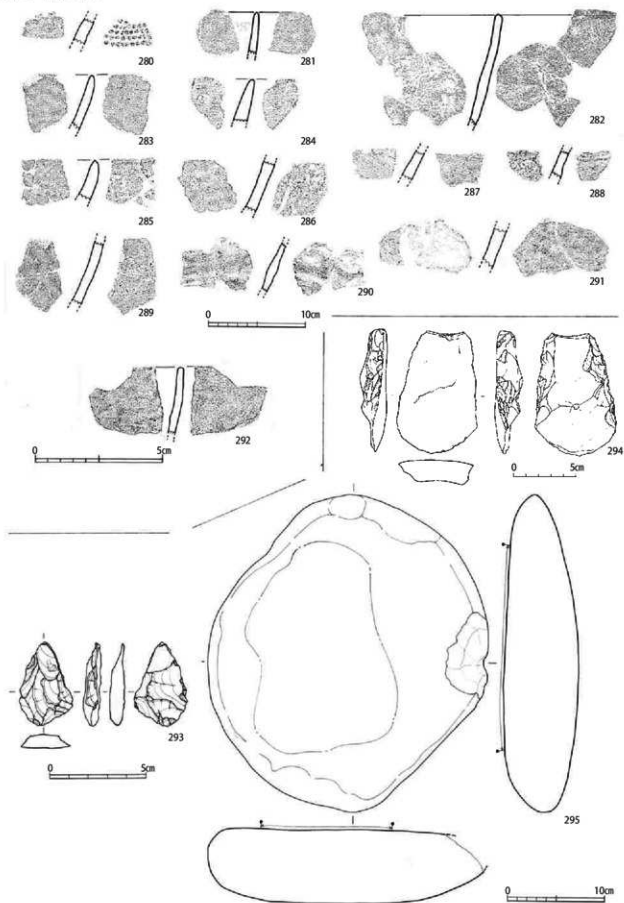
遺構の平面形は隅丸方形、もしくは方形に近い歪な円形をしている。この遺構の中央で、北から東へ38°振れた部分と、これに直交する線上での遺構幅が広く、前者が400cm(S372に切られているため推定値)、後者は418cmの規模を有している(第79図)。壁の立ち上がりは、43°~55°までの勾配が多い。しかし西南の隅部付近は急傾斜で、85°前後ある。遺構の中央部分での床面と最も高い西壁との比高は、約35cmである。しかし挿図にあるC・C'ラインでの層位関係を観察するとII層(アカホヤ)やIII a層の下のIII層上面から掘り込まれていた(第79図)。このC・C'ラインのなかで最も高い壁のあるポイントCと遺構中心部床面との比高差は約70cmもある。層位関係の部分で補足すると、III a層の下位のIII層上面から掘り込まれていたということは、縄文時代早期後半から終わり頃の包含層であるIII a層期の遺構である可能性もある。しかし、この辺りのIII a層は、当初に層位区分を行った第II次調査区西部のIII a層に比べて色調がやや異なることと、後述する土器に古相の押型文土器や無文土器を含む他、カクランと土壌化が進行している。なお、C・C'ラインはII次調査とIV次調査の境界であり、II次調査時に境界の南側に観察された遺構をS223・S371としていたが、IV次調査のS370と同一遺構であることからS370に含めている。遺構内には、柱穴が15箇所ある。柱穴の分布は不規則であるが、深さが24cm~35cmまでの例も多い。この他、遺構中央部のやや西よりに台石や大きな礫などが集中している部分がある。この地点については、①台石や大きな礫を用いた作業を集中して行った場所、②台石や大きな礫を廃棄した場所、などが考えられる。

※この竪穴建物の西側隅部にS371がある。この遺構は、S370の外縁に沿って掘り込まれているため同遺構(S370)に付属する可能性が高い屋内施設と考えられる。遺構や関連する出土遺物については、他頁(第311図392)でもふれている。

土器 楕円押型文土器の胴部破片が出土しており、0.3cmから0.4cm前後の大きさの楕円文を施す(第80図280)。原体の回転軸は横方向である。ナデ調整無文土器は薄手の例で、口縁部が直行もしくは、やや外傾する例(281~285、290、292)で



第79図 S370 (S223・S371)・(S362・S372土坑)実測図(1/40)



第80図 S370出土遺物実測図

ある。この他、ナデ調整無文土器の胴部破片もあるが、同様な土器と思われる（286～289・291）。これらの無文土器における器壁の厚さには1cmまでのものしかない。厚さの内訳をみると、0.5cmが2点、0.6cmが2点、0.7cmが2点、0.8cmが1点、0.9cmが3点、1.0cmが2点である。数値からみると0.7cmまでの例と0.9cm以上の例に区分できる。これら12例の薄手無文土器の器壁の厚さを平均すると0.75cmであった。

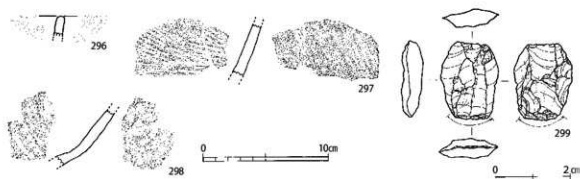
石器 石鏃は加工が粗く、平面形態も整っていないことから未成品と推定する（293）。石斧は、礫面の残る縦長の剥片を用いた小型の例である（294）。礫面側からの加撃により裏側がシ面に剥離を施すことによって形を成形している。刃部外側に向かって弧状となるが、稜線はない。刃部は、表側の礫面とボシ面が接することによって磨製石斧のような効果を示したと推定される。石核が1点出土しているが（第311図392）、本例は屋内施設と考えられるS371から出土した。角礫を原料とし、打面を転移させ剥片剥離を繰り返していく例である。

S372 S372は、S370の北東部を切る状況で位置している（第3図）。平面形は雪ダルマ形で、長軸300cm、短軸約200cmの小型堅穴建物である（第79図）。雪ダルマの頭部にあたる部分は、胴部にあたる部分と切り合い関係にある可能性もあるが、調査段階において追究しきれていない。壁の立ち上がりは曲率半径が大きく、湾曲している。遺構の中央部と、壁の比高差は28cmである。遺構の中央部に柱穴が1箇所ある。遺物は、遺構の中央部と北部に集中する傾向を示している。

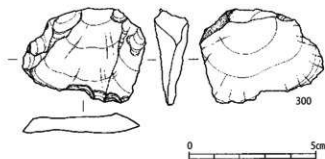
土器 ナデ調整無文土器は、口縁部の破片（第81図296、第312図393）と胴部の破片があり（第312図394）、いずれも薄手。条痕調整無文土器も1点出土している（第81図297）。調整は、内面が横方向で、外面は斜め方向に施す。外面は条痕調整後に軽くナデている。

石器 楔形石器が出土しており（299）、上下両極方向からの剥離痕がみられる。横長剥片を用いたスクレイパーも出土しており、端部に簡単な加工を施す（第82図300）。敲石も1点出土しており、平面形が小判形で、表裏両面と側縁の端部に顕著な打痕がある（第312図395）。

※第81図に図示した遺物は、S370に帰属する可能性もある。S372の遺物は、他頁でも追加報告（第312図）している。



第81図 S370-S372出土遺物実測図

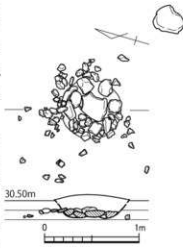


第82図 S372出土遺物実測図

(2) 配石・石組炉・集石

S040 調査区西部で第II次調査区にあり、区画では2H区に位置する配石である(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い場所、その南に展開する弧状の谷地形西斜面に占地する。平面形は、ほぼ円形で、直径が70cm、深さ約13cmの浅い皿状の掘りこみで中央に長さ約30cm・幅27cm・厚さ12cmの石を据えた他、周囲にも礫を充填させた施設である(第83図)。皿状の遺構の外側にも礫が取り巻いている。これらの礫は全く被熱しておらず、はじけや赤化が見られない。その一方で、巨大な礫を割り取った痕跡がある。

石器 S040から出土した石器は、中央に据えた平坦大型礫で、表面に磨滅痕がある。この台石の長軸の両サイドは、大きく割れた面であるが、遺構

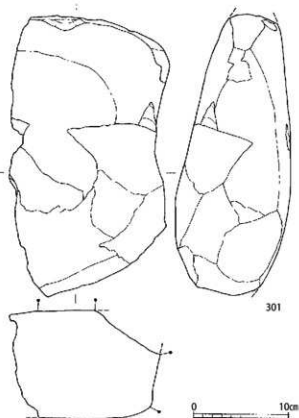


第83図 S040実測図(1/40)

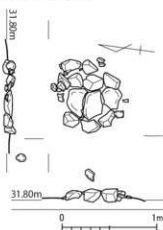
に据えられる以前に割ったことが推定できる。台石として使われたものの両サイドを割り、S040の石として転用したものか(第84図301)、配石として据えることを目的に割ったのだろう。

S041 調査区西部で第II次調査区にあり、区画では1H区に位置する配石である(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも比高の高い脊梁地形の南に展開する弧状の谷地形西斜面である。遺構は、長さが30cm前後から20cm前後の角礫がほとんどで、南北方向に2個ないし3個ずつ4列にわたって配置している(第85図)。その範囲は100cm×100cmで、平面形は円形もしくは楕円形である。これらの礫は全く被熱しておらず、はじけや赤化がない。

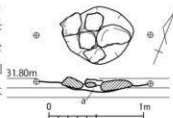
S050 調査区西部で第II次調査区にあり、区画では1H区に位置する(第3図・第477図)。後述するように石に被熱による赤化が観察されるので、石組炉と考えておきたい。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも比高の高い脊梁地形の南に展開する弧状の谷地形西斜面に占地する。遺構は、縦横が18cm×幅10cmの礫、9cm×9cmの礫、9cm×8cmの礫、11cm×11cmの礫、9cm×10cmの礫の大きさを有する5個の礫を、長軸36cm、短軸30cmの浅い遺構に配置している(第86図)。中央の礫2個は明瞭ではないが、他は被熱し、色が赤化している。20cm前後の角礫がほとんどで、南北方向に2個ないし3個ずつ4列にわたって配置している。その範囲は100cm×100cmで、平面形は円形もしくは楕円形である。これらの礫は熱を受け、色が赤化している。



第84図 S040出土遺物実測図



第85図 S041実測図(1/40)



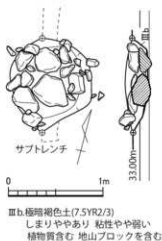
aにふい黄褐色土(10YR4/3)
粘性やや強いしまりやや強い

第86図 S050実測図(1/40)

S057 調査区西部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では1F区に位置する配石・集石である(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかで、南北方向に東面する斜面が東へ回り込む地形で、その緩斜面に占地する。規模は南北100cm・東西100cmの間に大小の石を組み合わせた遺構である(第87図)。まずこの遺構は、4個の大型礫を方形に並べ、その中央や周辺に小さい礫を充填している。これらの大型礫を含め礫には被熱により赤化した礫がほとんどない。図示はしていないが、その後、南側大型礫の中央から北側にかけて15cm前後を中心とする礫が密集状態で覆っている。この小礫は、被熱により色が赤化している。下部の大型礫に顕著な被熱痕がなかったことから、色が赤化した礫は廃棄されたのかもしれない。あるいは、この場所で集石として用いた可能性もある。

土器 山形押型文土器が1点あり、口縁部の内面端部に短い櫛状文がある。山形文のピッチは太く短い(第88図302)。こうした特長から稲荷山式土器と推定する。条痕調整無文土器は、外面に斜行する条痕、内面に横方向の条痕調整をかけた後に軽くナデた土器である(303)。

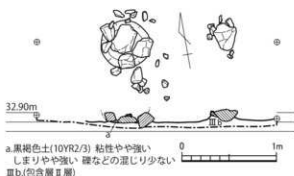
S072 調査区西部で第Ⅱ次調査区にあり、区画では2E区に位置する配石である(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも比高差のある高い脊梁地形の南縁付近にある。出土層位はⅢ層である。長さ33cm×幅22cmの大型角礫を中央に、その周囲に中小の角礫を置いている(第89図)。中央の大型礫は、平らな面を上に向けている。これらの礫には被熱痕がない。また、入念な観察をしたが、使用痕などの痕跡はなかった。



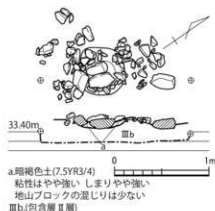
第87図 S057実測図(1/40)



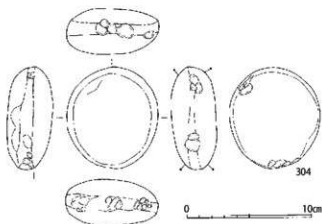
第88図 S057出土遺物実測図



第89図 S072実測図(1/40)



第90図 S075実測図(1/40)



第91図 S075出土遺物実測図

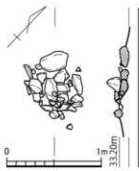
S075 調査区西部で第II次調査区にあり、区画では0E区に位置する集石である(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも比高差のある高い脊梁地形のなかであって、南から北へ延る等高線が東へ回り込む南縁付近にある。出土層位はIII a層もしくはIII層である。長軸130 cm×短軸100 cmの範囲に大小78個の礫から構成されている(第90図)。特に、中央からやや南部分に長さ23 cm・幅11 cm、長さ27 cm・幅16 cm、長さ31 cm・幅16 cm、長さ20 cm・幅17 cmの大きさを有する3個の礫を縦横に並べて配置し、その周囲に小礫多数を寄せた状況が窺える。この部分に、径55 cm、深さ8 cmの皿状の浅い円形の掘り込みを想定している。それは、この掘り込みの底部より8 cm程周囲のレベルが高いことから想定した。これらの礫は、色が赤化していない。大型の礫の平らな表面に使用痕がないが調査時に入念な観察をしたが、痕跡はなかった。

石器 集石の中から蔽石が1点出土している。蔽石の大きさと平面形は、8.1 cm×7.2 cm、円形に近い楕円形である(第91図304)。最大の厚さが3.6 cmの長楕円形である。使用痕は、周囲の縁部に点々と打痕があるが、S075遺構とどのように関わるのか不明であるが、礫の集中部分から出土している。形態や大きさ、あるいは豆粒状の打痕の存在からすると、石器製作用の蔽石である可能性がある。

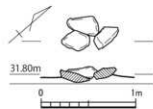
S085 調査区西部で第II次調査区にあり、区画では0F区に位置する石組炉である(第3図)。この辺りは、西から東に延びる比高差のある高い脊梁地形のなかで、南から北へ延る等高線が東へ回り込む南縁付近にある。出土層位はIII a層もしくはIII層である。長軸65 cm×短軸60 cmの範囲に大型楕円礫や割られた中型角礫30個を周囲に配置し、中に中型で割られた角礫を充填したかのように縦・横に丁寧に並べている(第92図)。割れた礫を含め、平らな面を上に向けている。これらの礫は、被熱したようで、色が赤化した痕跡がある。使用痕などの痕跡はなかった。

S086 調査区西部で第II次調査区にあり、区画では0E区に位置する石組炉である(第3図)。この辺りは、西から東に延びる比高差のある高い脊梁地形のなかで、南から北へ延びる東面する斜面が東へ回り込んだ南縁付近にある。出土層位はIII層である。長軸62 cm×短軸35 cmの範囲に、長さ36 cm・幅20 cm、長さ30 cm・幅22 cm、長さ31 cm・幅16 cmの大きさを有する僅か3個の礫を一箇所に集めたかのような状況である(第93図)。これらの礫は、被熱したようで、色が赤化した痕跡がある。調査時に入念な観察をしたが、使用痕などの痕跡はなかった。周囲の土の表面に焼土は観察できない。僅か3個の石で、何かの作業を行ったとは想定できないが、以下で述べるようなS085のような石組炉から多くの石が抜き取られ、最終的に残った3個+αが現状ということも想定できる。

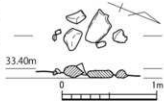
S088 調査区西部で第II次調査区にあり、区画では0F区に位置する配石である(第3図・第477図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも比高差のある高い脊梁地形のなかで、南から北へ延びる地形が東面する斜面にある。配石の出土層位は、III層である。長軸80 cm×短軸45 cmの範囲に、長さ35 cm・幅22 cm、長さ23 cm・幅16 cm、長さ22 cm・幅11 cm、長さ16 cm・幅14 cmの大きさを有する4個の礫と、数cmの礫3個からなる(第94図)。特に大きめの礫は、南北方向にそろえたかのような配置となっている。この遺構も、多くの石が抜き取られ、最終的に残ったということも想定できるが、肉眼観察では被熱による赤化は観察できない。この点、どう考えるのか必ずしも明かでないが、石組炉、あるいは集石に用いるための礫をキープしていた場所であることも想定できる。



第92図 S085実測図(1/40)



第93図 S086実測図(1/40)



第94図 S088実測図(1/40)

(3) 炉穴

炉穴は、地面に平面形が細長い長楕円形、円形、あるいは歪な形に掘り下げた穴で、火を炊き食糧の煮炊きをしたり、焼いたりした穴と考えられる遺構である。深さに若干の違いがあるが、共通するのは火を炊いたことによって焼土面が底面に生じていることである。またしばしば周囲に炭化した薪の粒が散乱している。炉穴の中には、煙道付炉穴がある。これは主要な穴の端部に小さなし字状のトンネルを通し、煙だし（煙道）としたものである。この煙道付炉穴は、舌状台地の東部周縁部に近い6F区・7F区・10D区を中心とした部分に多く構築されている（第3図）。

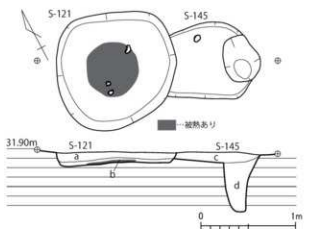
S121 調査区の中中部で第II次調査区にあり、区画では6F区に位置する（第3図・第477図）。この辺りは、西から東に伸びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の東部に位置し、主に東方もしくは南方を臨む場所で、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区の西縁部である。この遺構はS145の西半部域を切る形で掘り込まれている。

遺構の平面形は楕円形で、その規模は東西方向の長軸が128cm、短軸が124cmである（第95図）。遺構の深さは、東壁付近が11cm、西壁付近が15cmで、東から西へ底部の標高が低くなる。この遺構の中央部域に径55cmの大きさの円形焼土が形成されている。円形の焼土域の外側は25cm～35cm程度の幅で焼土のない部分がある。

S147 調査区の中中部で第II次調査区にあり、区画では7F区に位置する（第3図・第478図）。この辺りは、西から東に伸びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の東部に位置し、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている地区である。この遺構は、炉穴のS146とS178に西端部が切られる関係にある。そしてS145の西半部域を切る形で掘り込まれている。

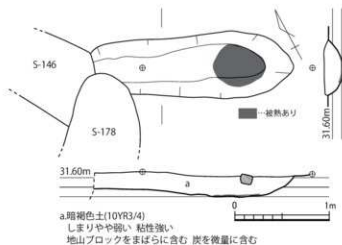
遺構の現状での規模は、長軸212cm、短軸70cmであり、その平面形は細長い長楕円形である（第96図）。長軸の方位は、真北から西へ62.5°振れている。炉穴の西端部は、他の遺構に切られているが、その東へ15cmの北壁部分で屈曲し始めているので、せいぜい20cm～30cm程度伸びていたと推定する。壁の立ち上がりは、曲率半径が大きく、ゆるやかな傾斜勾配である。遺構内の底部域東端から西へ約50cmまでの間に被熱による焼土域が形成されているが、その西側底部に焼土はほとんどない。

石器 S147の炉穴内からは、長さ7.4cm程度の剥片が出土している（第97図305）。



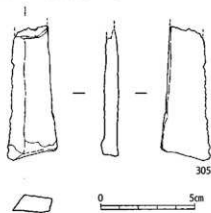
- S-121 a.黒褐色土(10YR2/1) しまり強い 粘性弱い
粒子は非常に細かく細粒である 土器などの遺物を少し含む
b.暗褐色土(10YR3/3) しまりやや強い 粘性やや弱い
地山ブロックをまばらに含む
- S-145 c.暗褐色土(10YR3/3) しまりやや強い 粘性なし
地山ブロックをまばらに含む
d.褐色土(10YR4/4) しまりやや弱い 粘性なし
ピット埋土

第95図 S121・S145土坑実測図(1/40)



- a.暗褐色土(10YR3/4)
しまりやや弱い 粘性強い
地山ブロックをまばらに含む 炭を微量に含む

第96図 S147実測図(1/40)



第97図 S147出土遺物実測図

S184 調査区の東部域で第II次調査区にあり、区画では8F区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の東部に位置し、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がり、堅穴建物も多い地区である。

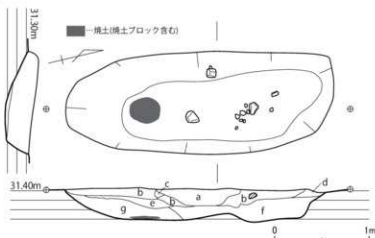
遺構の現状での規模は、長軸284 cm、短軸110 cmであり、その平面形は歪な細長い長楕円形である(第98図)。長軸の方位は、真北から西へ12.5°振れている。炉穴の北端部の立ち上がりは、64.5°と急傾斜であるが、南端部は曲率半径が大きく、角度の面でいえば25.5°とゆるやかな傾斜勾配である。側壁の立ち上がりは、東壁が57.5°と急であるのに対し、西壁は、底面の中央付近で高くなり約27°前後の勾配である。遺構内の底部城南端に被熱による色が赤化した焼土城が形成されているが、その北側底部に焼土はほとんどない。焼土は、長軸32 cm、短軸28 cmで、形は楕円形である。

遺構内堆積物は、焼土を覆うG層がまず堆積し、その後、炉穴の中央部から北側にF層が堆積している。その後、G層の上にE層・b層・D層が堆積している。その後、中央付近にかけてa層が堆積する。このように、炉穴内で焼土のあった南側付近にまず堆積していることがわかる。

土器 S184からは土器が2点出土している。いずれも条痕調整の無文土器で、二つの種類に区分できる。やや外傾気味にたちあがる口縁部破片で、口唇部が平坦である(第99図306)。内面は横方向の条痕調整で、外面調整を施して斜行する条痕調整である。条痕調整を観察すると、外面では右下から左上方にかき上げたような方向性で、内面では左から右を示している。条痕調整のなかでも、内面側は右利きの場合、内部に手を入れ右から左へ手を動かしたことになる。なお、口唇部にはピッチの細かき線上の刻みが施されている。もう一例は、直行する口縁部の破片で、口唇部から内面側1.3 cmの深さまで傾斜している(307)。そのため、口縁部の端部が尖り気味である。調整は、内面がナデ調整で、外面は斜行する条痕調整である。外面の条痕調整を観察すると、右下方向性を示している。なお、口径は18.4 cmである。

S188 調査区の東部域で第II次調査区にあり、区画では8F区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の地形となり、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている。遺構は、この平坦地形の東部に位置し、堅穴建物も多い地区である。

遺構の現状での規模は、長軸295 cm、短軸82 cmであり、その平面形は歪な細長い長楕円形と思われるが、東南の端部がS162によって切られている(第100図)。長軸の方位は、真北から西へ72.5°振れている。北西の端部に焚口と天井部・煙出しのある煙道付の炉穴で、煙道部の下面は色が赤化している。煙道付炉穴は、あらかじめ細長い土坑を掘削し、煙道部状の棒などを煙道方向に入れ、ローム質土で埋め固めた後に棒を引き抜き構築したと推定される。



- a. 黒褐色土(10YR2/3) 粘性強い しまり強い 地山ブロックを微量に含む
 b. 暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや強い しまりやや弱い g3~8cm礫を少し含む
 土器などの遺物を少し含む
 c. 褐色土(10YR4/4) 粘性やや強い しまり弱い 粒子は細かく細砂である 炭を微量に含む
 d. 褐色土(10YR4/4) 粘性やや弱い しまりやや弱い 地山ブロックをまんべんなく含む
 e. 黒褐色土(10YR2/3) 粘性やや弱い しまり弱い
 f. 黒褐色土(10YR2/3) 粘性強い しまりやや弱い 地山ブロックを微量に含む
 g. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性やや弱い しまりやや弱い 焼土ブロックをまばらに含む

第98図 S184実測図(1/40)



第99図 S184出土遺物実測図

S194 調査区の東部城で第Ⅱ次調査区にあり、区画では7E区・8E区・7F区・8F区の交点に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の地形となり、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がっている。遺構は、この平坦地形の東部に位置し、竪穴建物も多い地区である。

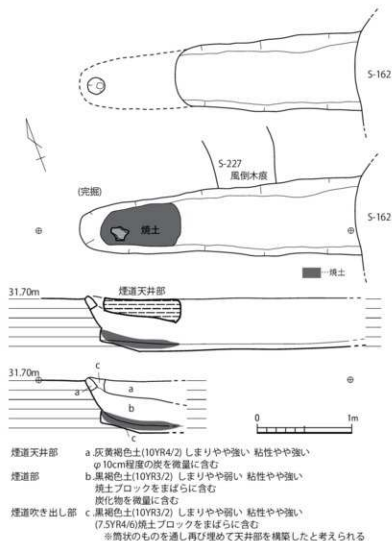
当初、S194は西半分だけであったが、その後の検討によってS243と同じ遺構であることがわかった。そのためS194(S243)としている。遺構の現状での規模は、長軸210cm、短軸184cmであり、その平面形は歪な三角形である(第101図)。遺構の南部分の平面形は、肩があり、そして突出している。西側への長軸の方位は、真北から西へ113°振れている。炉穴の北東端部の立ち上がりは、67.5°と急傾斜であるが、南西端部はゆるやかな傾斜勾配である。ここを断ち割ったところ、煙道部と天井部が見つかり、煙道付炉穴であることが分かった。遺構内の底部中央部に被燃により色が赤化した焼土城が形成されているが、その北側底部には焼土はほとんどない。焼土は、長軸35cm、短軸26cmで、形は楕円形である。

S205(S224) 調査区の東部城で第Ⅱ次調査区にあり、区画では7E区・8E区の境界に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の東部に位置し、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がり、竪穴建物も多い地区である。

当初、S205だけであったが、その後の検討によってS224と同じ遺構であることがわかった。そのためS205(S224)としている。S205は、遺構の現状での規模は、長軸392cm、短軸53cmであり、深さは35cmである。S205は、S164と切りあい関係にあり、後者が埋没した後に覆土上面から掘りこんでいる(第64図)。S205は煙道付炉穴で断面をみると煙管状の形をしている。煙道部分の底面の最深部は禁口周辺のレベルより低くなっている。楕円形の焼土範囲が、床面の最下底部の断面データによると、b層にはまばらに焼土粒が混在している(第102図)。

土器 S205(S224)からはナデ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している(第104図309)。器壁は薄く、やや尖りぎみに外力に開いている。

石器 S205からは剥片が1点出土しているだけである(第103図308)。

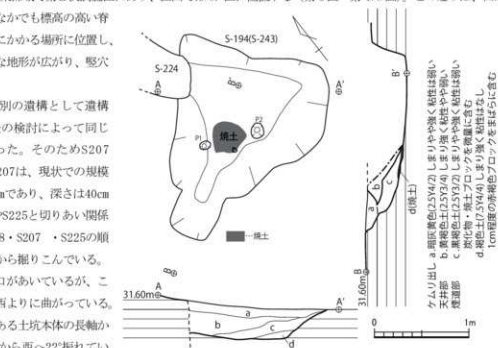


第100図 S188実測図(1/40)

S207(S163) 調査区の東部域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では6F区に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から東部にかかるところに位置し、遺跡のなかでは最も平坦な地形が広がり、堅穴建物も多い地区である。

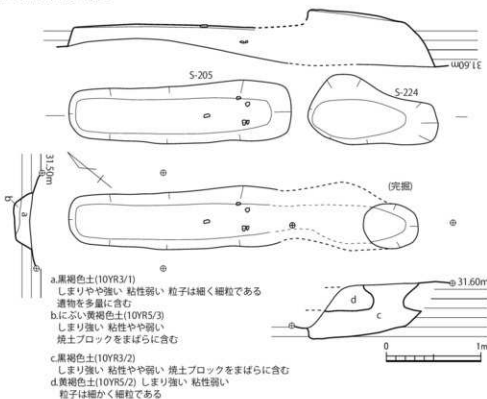
当初、S207とS163は別の遺構として遺構番号を付けたが、その後の検討によって同じ遺構であることがわかった。そのためS207(S163)としている。S207は、現状での規模は、長軸294cm、短軸82cmであり、深さは40cmである。S207は、S208やS225と切りあい関係にあり(第105図)、S208・S207・S225の順に埋没した後に覆土上面から掘りこんでいる。土坑の北西端部には燃焼口があいているが、ここから煙道と煙出し口が西よりに曲がっている。この点について燃焼部のある土坑本体の長軸からの方位をみると、真北から西へ22°振れている。さらに煙道と煙出し口を結ぶ長軸の方位は、真北から48°(132°)振れている。S207の立ち上がりは、煙道の煙出し口の断面をみると急角度である。長軸の断面では、煙管状の形をしている。また煙道部分の底面の最深部は焚口周辺のレベルより低くなっている。

土器 S207(S163)からはナデ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している(第106図310)。器壁は薄く、やや内反ぎみに立ち上がる。



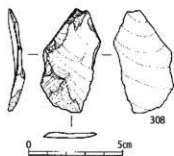
S-194(S243)
 a. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや強い 粘性強い 地山ブロックを微量に含む
 b. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性やや強い 地山ブロックを微量に含む
 c. 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い 粘性やや強い 地山ブロックをまばらに含む
 d. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性やや強い

第101図 S194(S243) 実測図(1/40)

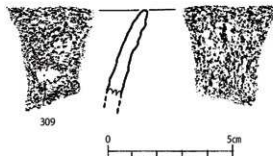


a. 黒褐色土(10YR3/1) しまりやや強い 粘性弱い 粒子は細く細粒である 遺物を多量に含む
 b. ぶい黄褐色土(10YR5/3) しまり強い 粘性やや弱い 焼土ブロックをまばらに含む
 c. 黒褐色土(10YR3/2) しまり強い 粘性やや弱い 焼土ブロックをまばらに含む
 d. 黄褐色土(10YR5/2) しまり強い 粘性弱い 粒子は細く細粒である

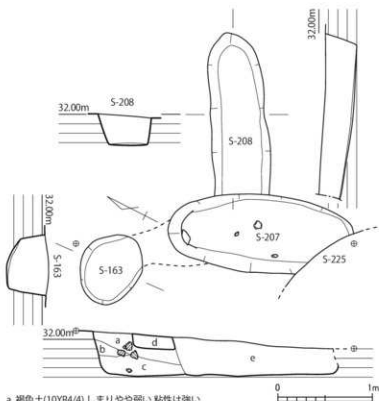
第102図 S205・(S224)実測図(1/40)



第103図 S205 (S224) 出土遺物実測図



第104図 S205 (S224) 出土遺物実測図



- a. 褐色土(10YR4/4) しまりやや弱い 粘性は強い
φ 1~10cmの礫を少し含む
- b. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性やや強い φ 3cm程度の地山ブロックを微量に含む
- c. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性は強い φ 2~5cmの礫を少し含む
- d. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや弱い 粘性弱い
- e. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性やや弱い φ 2~5cmの地山ブロックをまばらに含む
φ 10cm程度の焼土ブロックを微量に含む

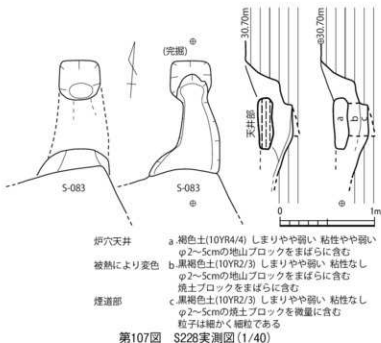
第105図 S207 (S163)・(S208土坑) 実測図 (1/40)



第106図 S163・S207出土遺物実測図

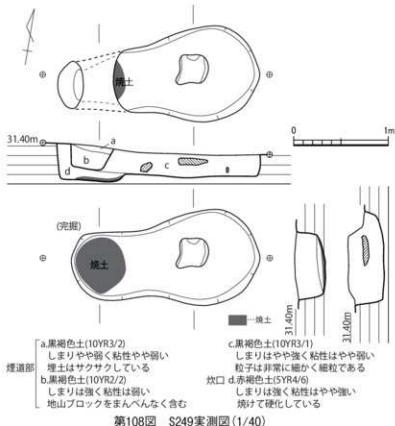
S228 調査区の東部域で第II次調査区にあり、区画では86区の東南隅部に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかにあつて、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦地形が広がる場所で、その南側の調査区境に位置し、遺跡のなかでは東方と南方を望むことのできる場所である。このうち6G区・7G区・8G区・9G区は、ばつたりと遺構が少なくなった場所である。標高は30 m 75 cm ~ 31 m 00 cmの間にある。S83の掘り下げに先立って覆土の上面で遺構の検出作業を行ったが、切り込むような遺構はなかった。当初、これを滑りかとも思いながら、南に接するS83を掘り下げている際に、その北壁内に延びるS228の遺構を確認した。したがってS228はS83に切られるので先行する時期に構築されたということになる。

S83の北壁内に延びる黒色土の存在からS228が煙道付炉穴であることを確認できた(第107図)。検出面の観察では、南側の焚口との境界付近でブリッジの端部を確認し、ここから北へ50 cmのところに煙だし部分があった。煙道部内下面は、焚口に近い部分から奥へ下り勾配となり、そして斜め上方の煙だし口へと続く。煙道の上部には、ローム質土からなる厚さ15 cmのブリッジがあるが、平面的には挿入部に破線で示している。この破線で示している部分は僅かゆい認識できるが、これは煙道部を掘削後、例えば棒などを入れ、上にローム土をブリッジとするべく固めながら入れ、その後、棒を引き抜いて構築したと推定される。



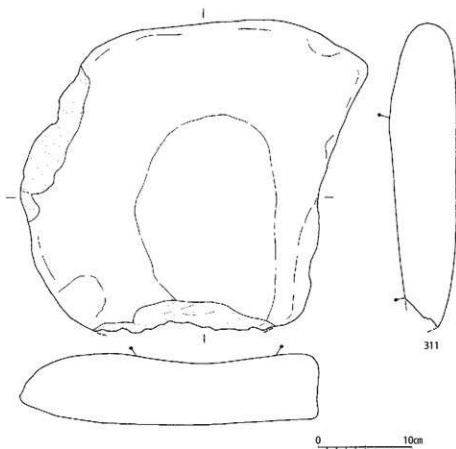
S249 調査区の東部域で第III次調査区にあり、区画では8E区の北部に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかにあつて、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦地形が広がる場所である。そのうちの北部に位置し東方と北方を望むことのできる場所である。またここは北部竪穴建物群と南部竪穴建物群との間にある竪穴建物が少ない場所である。

遺構は、平面形が瓢箪形で、現状での規模が長軸215 cm、短軸101 cmであり、深さは24 cmである(第108図)。長軸の方位は、真北から西へ83°振れた方向にある。S249は、S225と切りあい関係にあり、S225が埋没した後に覆土上面から掘りこんでいる。土坑の西側には燃焼口があり、その手前から煙道内に焼土面が広がっている。煙道の上部にはブリッジがあり、その



先に煙出し口がある。煙道から煙出しまでの側面観（縦断面形）はL字状である。

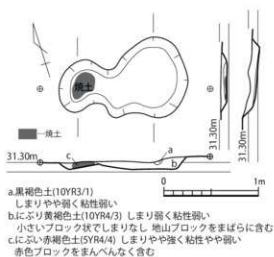
石器 炉穴の中から台石が1点出土している。平面形は歪な方形で、縦横 32.8 cm・31.8 cm、厚さ 7.2 cmの大きさであり、表面に磨滅痕がある（第109図 311）。



第109図 S249出土遺物実測図

S268 調査区の東部域で第三次調査区にあり、区画では8D区の中部に位置する（第3図・第478図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかにあつて、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がっている場所であるが、そのうちの北部に位置し、東方と北方を望むことのできる場所である。またここは北部竪穴建物群の西側に接する場所である。

S268は、平面形態が瓢箪形で、現状での規模が長軸137 cm、短軸87 cmであり、深さは燃焼部で7 cm（第110図）。長軸の方位は、真北から西へ77°振れた方向にある。遺構は幅狭い西側と幅広い東側に区分できるが、燃焼したと思われる焼土は西側にある。堆積層を観察すると、くびれ部分で東側の堆積土が西側の堆積土の上のっており、本来は切り合い関係にある別遺構の可能性もある。



第110図 S268実測図(1/40)

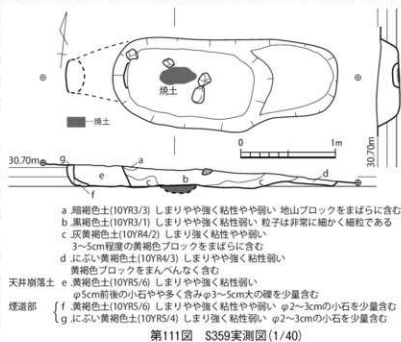
S359 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9F区・9G区の境界部に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がっている場所で、そのうちの東端の急傾斜面際にある。ここは南部竪穴建物群の東にあって、中小の遺構は多いものの竪穴建物がない場所である。

遺構は煙道付炉穴と思われるが、天井部のブリッジが陥没している。平面上において長楕円形の燃焼部の土坑と、その西側40cm~50cmの距離に煙出し部がある。現状で土坑部分の規模が長軸240cm、短軸98cmであり、深さは16cmである(第111図)。煙出し部分を含めた長軸の方位は、真北から西へ95°振れた方向にある。なお、土坑内部の西側には燃焼口があり、その手前部分に焼土面が広がっている。

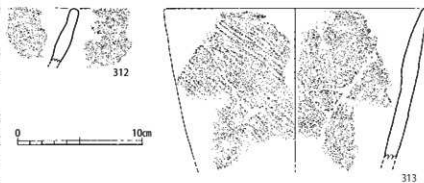
土器 外方に開くナデ調整無文土器の口縁部破片(第112図312)と、やはり外方に開く条痕調整無文土器(313)が出土している。後者の調整は、左上から右下方向に延びる斜行調整である。

S361 S361は、調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9F区の東部に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がっている場所で、そのうちの東端部急傾斜面際にある。またここは南部竪穴建物群の東にあって、中小の遺構は多いものの竪穴建物がない場所である。

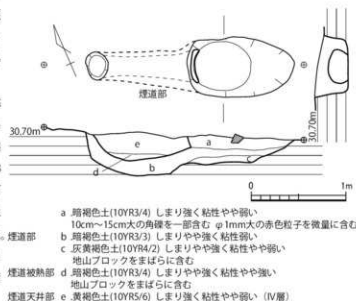
遺構は煙道付炉穴で、平面上において楕円形の燃焼部の土坑と、その西側84cmの距離をおいて直径24cmの煙出しがある。現状で土坑部分の規模が長軸114cm、短軸64cmであり、深さは32cmである(第113図)。煙出し部分を含めた長軸の方位は、真北から西へ67°振れた方向にある。なお、土坑内部の西側には燃焼口があり、その手前部分に焼土面が広がっている。煙道の上には厚いブリッジ(e・D層)、その先に煙出しがあるが、煙道から煙出しまでの側面視は弧状に湾曲している。



第111図 S359実測図(1/40)



第112図 S359出土遺物実測図



第113図 S361実測図(1/40)

S366 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9E区の南部に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がる場所で、その東端の急傾斜面際にあたる。またここは南部竪穴建物群の東にあり、中小の遺構は多いが竪穴建物がない場所である。

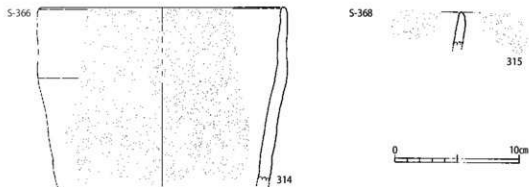
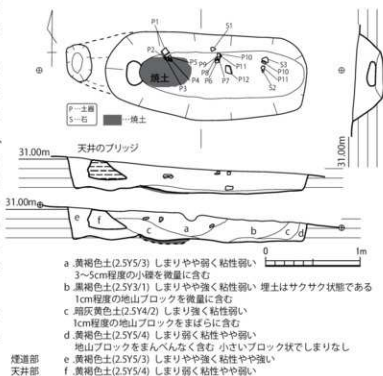
遺構は煙道付炉穴で、平面上において長楕円形の燃焼部の土坑と、その西側10cmの距離をおいて直径24cmの煙出しがある。現状で土坑部分の規模が長軸214cm、短軸91cmであり、深さは26cmである(第114図)。煙出し部分は土坑の西側15cmにあり、これを含めた長軸の方位は、真北から西へ86°振れた方向にある。なお、土坑の西側には燃焼口があり、その手前部分に焼土面が広がっている。この焼土面は浅い皿状に窪んでいる。煙道の上にはブリッジ、その先に煙出しがあるが、煙道から煙出しまでの側面間はL字状である。

土器 ナデ調整無文土器の口縁部から胴部にかけての破片が1点出土している(第115図314)。80°近い角度で立ち上がり、口縁端部から下へ5.5cmのところから上方へ直行する。口縁端部は尖り気味となる。口径は、19.7cmである。口縁端部から角度の変った部分の5.5cm幅と、破損部のあるその下4cm幅と、さらにその下5cm幅は、粘土層の幅を反映した可能性がある。

S368 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9F区の北部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がっている場所で、そのうちの東端の急傾斜面際にある。またここは南部竪穴建物群の東にあつて、中小の遺構は多いものの竪穴建物がない場所である。

遺構は煙道付炉穴で、平面上において長楕円形の燃焼部の土坑と、その西側10cmの距離をおいて直径24cmの煙出しがある。現状で土坑部分の規模が長軸180cm、短軸75cmであり、深さは35cmである(第116図)。煙出し部分は土坑の西側10cmにあり、これを含めた長軸の方位は、真北から西へ118°振れた方向にある。なお、土坑の西側には燃焼口があき、その手前部分に焼土面が広がっている。煙道の上にはブリッジ、その先に煙出しがあるが、煙道から煙出しまでの側面間はL字状である。

土器 S368からは、ナデ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している。口縁端部を尖らせている(第115図315)。



S376 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では10E区の西部に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がっており、その東端から急傾斜面に移り変わった場所にある。またここは南部竪穴建物群の東にあって、遺構の数が少ない場所でもある。

遺構は煙道付炉穴であるが、天井部のブリッジが脱落したような状況で出土した(第117図)。土坑の長軸に沿って堆積土の観察を行ったところ、ブリッジと思われるローム質土と、煙道と思われる部分に黒土がまつまっていた。これを断面からみた構造は、土坑のほぼ中央部に煙道入口があり、西端の上部には煙出し口部分が位置している。また断面図のCがブリッジの残骸で、その下と西端の縦状の部分が煙道である。現状で土坑部分の規模が長軸147cm、短軸91cmであり、深さは43cmである(第117図)。長軸の方位は、真北から西へ93°振れた方向にある。煙道から煙出しまでの側面間はL字状である。

S379 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では10D区の中部に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に伸びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がっており、その東端から急傾斜面に移り変わった場所にある。またここは北部竪穴建物群の東にあって、遺構の数が少ない場所でもある。

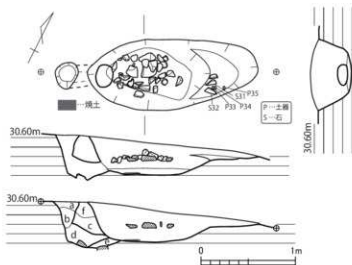
遺構は煙道付炉穴であるが、埋没後に掘られたS390によって大きく破壊されていた(第119図)。

長軸の方位は、真北から西へ82°振れた方向にあり、煙出しは西側の端部にある。現状で土坑部分の規模が長軸131cm(煙出し端部までが218cm)、短軸91cmであり、深さは43cmである(第119図)。煙道から煙出しまでの側面形はL字状である。断面からみた構造は、土坑内部の東端から煙道内のつきあたりまで下り勾配である(俯角4.5°)。土坑の西側端部に煙道入口があり、ここから天井部であるブリッジを挟む西へ42cm離れた楕円形の煙出し口がある。

土器 S379からは、ナゲ調整無文土器の胸部破片が4点出土している(第118図316～319)。このうち一例土器内部に指頭王痕がある(317)。土器は、厚手の一群(1.1cm、1.5cm、1.2cm)と薄手の一例(319:0.5cm)に区分できる。

S390 S379と同じ場所に位置する煙道付炉穴である。

長軸の方位は、真北から西へ138°振れた方向にあり、煙出しは西側の端部にある。現状で土坑部分の規模が長軸140cm(煙出し端部までが206cm)、短軸57cmであり、深さは36cmである(第119図)。煙道から煙出し口までの側面形はL字状に近い。断面からみた構造は、土坑内部の東端から煙道口手前の燃焼部まで下り勾配で、そこから煙道内の突き当たりまで上り勾配となる。土坑の南西方向の端部煙道入口があり、ここから天井部であるブリッジを挟む西へ38cmのところ楕円形の煙出し口がある。

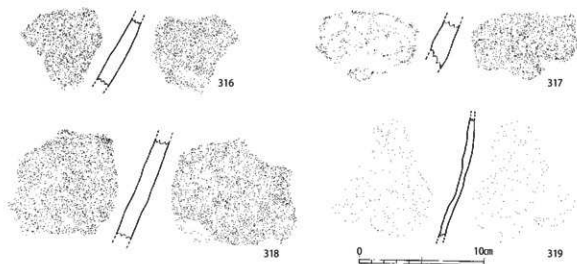


- 煙道部 { a. 暗褐色土(10YR4/4) しまりやや弱い粘性あり 地山ブロックをまばらに含む
b. にぶい黄褐色土(10YR5/6) しまり強く粘性弱い 微粒子をまばらに含む
c. 暗褐色土(10YR3/3) しまり強く粘性やや強い
煙道部 d. 黒褐色土(10YR3/2) しまり弱く粘性弱い 焼土ブロックは非常に少ない
整地層 e. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや強く粘性弱い 焼土ブロックをまばらに含む
天井部 f. 黄褐色土(10YR5/6) しまり強く粘性弱い 微粒子をまばらに含む

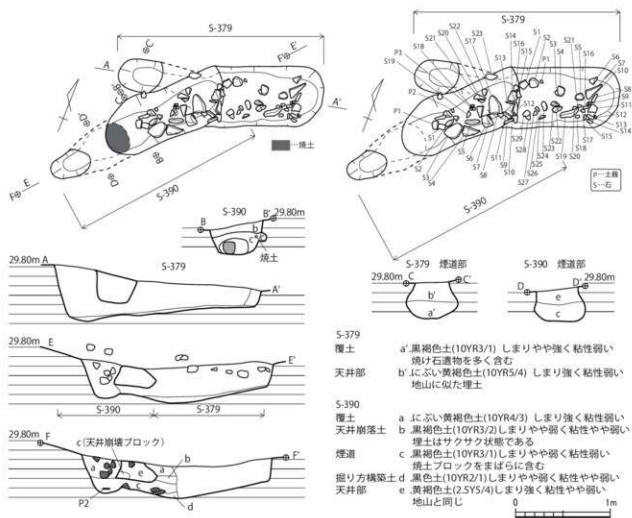
第116図 S368実測図(1/40)



第117図 S376実測図(1/40)



第118図 S379出土遺物実測図

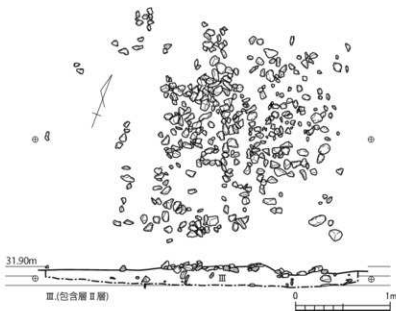


第119図 S379-390実測図(1/40)

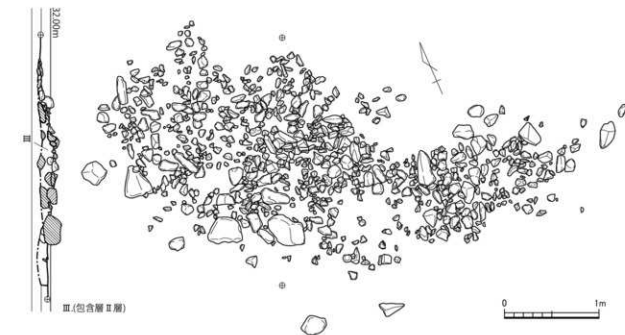
(4) 集石遺構

S035 調査区の西部域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では1H区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある緩斜面である。またこの辺りは小遺構が点在するものの、深く掘り下げられた遺構の数が少ない場所でもある。

S035はⅢ層から出土し、南北310cm、東西340cmの間に361個の石があり、その外側には、ほとんど礫が分布していない状況であった(第120図)。特に礫が積み重なったような密集性を示しておらず、分布域の大半で同様な密度である。また下位レベルからも礫が出土する状況が窺える。これらの集石を構成する礫は、長さが10cm前後の例がほとんどである。表面を観察すると、被熱による色が赤化した例がなく、人為的な遺構でない可能性も高い。北西に隣接するS39と関連するものであろう。



第120図 S035実測図(1/40)



第121図 S039実測図(1/40)



第122図 S039出土遺物実測図

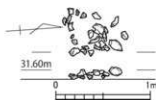
S039 調査区の西部地域で、第II次調査区にある。区画では1H区の北半に位置する(第3図)。この辺りは、標高の高い脊梁地形の南側で等高線が湾曲した緩斜面であり、遺構の数が少ない場所でもある。

S039は皿層から出土し、分布の中心から見ると北西部から東部方向へ流線形状の分布をしている(第121図)。主な分布域は、長さ550cm、幅220cmの間に莫大な数の礫がある。また中央部に長軸のように礫が盛り上がるような出土状況となっている。石の大きさは大小様々であるが、10cm~20cmまでの角礫が圧倒的に多い。礫の表面には被熱による赤化は全くない。角礫の表面は、全て風化が同程度で、新しく割れた表面はない。外側には、ほとんど分布していない状況であった。また下位レベルからも礫が出土する状況が窺えることから、基盤に近い土流によって運ばれてきた礫が露出していたとみなすべきであろう。したがって人為的な遺構でない礫堆の可能性が高く、南東に隣接するS035も同様なものと考えられる。なお、S039の分布域からは僅かな土器・石器が出土しているが、これは礫堆が表面に露出していたことを示すものだろう。

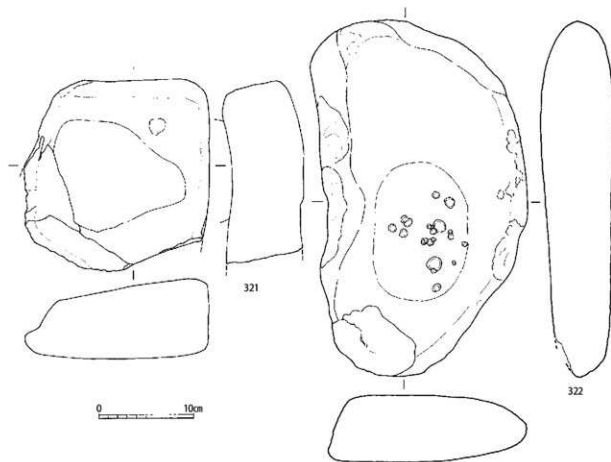
土器 山形押型土器の口縁部破片が1点出土している(第122図320)。この土器片は、器壁が0.3cmと薄手で、内外面に横方向の山形が施文されている。山形文の頂部ピッチは0.45cmである。内面の口縁端部から直下0.35cmまでの短い櫛状文が施されている。文様の特徴から、稲荷山式土器である。

S042 調査区の西部地域で、第II次調査区にある。区画では2H区の北半に位置する(第3図)。この辺りは、標高の高い脊梁地形の南側で等高線が弧状湾曲した谷の緩斜面であり、遺構がほとんどない場所である。

S042は、南北70cm、東西50cmの範囲にあり、密集性はなく、10cm前後の礫が多い。礫は、被熱により色が赤化しているが、構成礫が26個と少なく、集石遺構の残骸であろう。また、S042の南に隣接するS40と関連する集石であろう(第123図)。



第123図 S042実測図(1/40)



第124図 S042出土遺物実測図

石器 S042の構成礫として台石が2点出土している(第124図)。一例は、打割によって方形となった例で、表面に磨滅痕があり、大きさは、縦横がほぼ20 cm、厚さ8 cmである(321)。もう一例は、中央部分に磨滅痕と打痕があり、大きさは、長さ34.7 cm、幅21.7 cm、厚さ7.6 cmもある大型品である(322)。これらの台石は出土した集石のS042、あるいは南西に隣接する集石S040に関連するものと思われる。

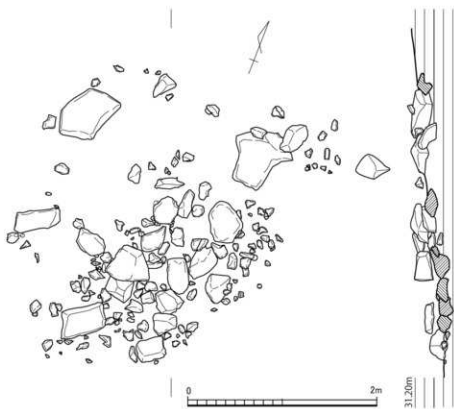
S043 調査区の西南部地域で、第II次調査区にある。区画では3H区の北半に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある弧状湾曲した谷の底部であり、周囲に遺構は少ない場所である。

S043はⅢ層から出土した集石と配石が複合した遺構で、南北380 cm、東西300 cmの間に分布する。特に密集する部分は、南北200 cm、東西140 cmの間に長方形に密集する(第125図)。この範囲には10 cm～20 cmまでの礫を主体に、台石や配石に使われるような大きめの石が並べたかのようにある。そして長方形の集石の北側・西側・南側と、半円形に大きな石を点々と配置している。それらの周囲にも小さな礫が散布するという特徴がある。これらの石は、被熱により色が赤化している。

S045 調査区の西部域で第II次調査区にあり、区画では0E区・0F区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にあつて、東面する緩斜面が東へ回り込む部分である。

S045はⅢa層からⅢ層の上半部にかけて出土した集石である(第126図)。分布は長く、真北から西へ凡そ16°振れた長軸では約900 cm、短軸の幅は幅広いところで500 cmという広い分布である。この範囲に、被熱により色が赤化した極めて多くの礫が出土している。この中に、やや密集する部分があるが、ここで繰り返し集石を構築したことを示している。この他、用いた集石構成礫の廃棄場所・片づけ貯蔵場所ということも想定できる。

ここからは平碇式土器・手向山式土器などの土器や、姫島産の大型石核、環状石斧(接合)などが出土している。出土した土器と出土層位からすると縄文時代早期後半の手向山式土器・平碇式土器の段階を中心とする頃に営まれたことが窺える。



第125図 S043実測図(1/40)



第126図 S045実測図(1/40)

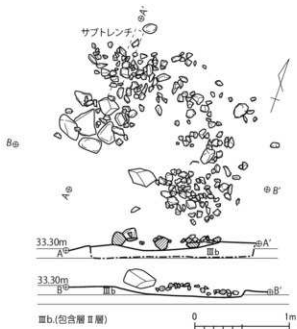
S046 調査区の西部域で第II次調査区にあり、区画では0F区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にあって、東面する緩斜面が東へ回り込む部分である。

S046はⅢa層からⅢ層の上半部にかけて出土した集石である(第127図)。この集石の広がり、南北180cm、東西230cmの間にあり、細かく見ると西と東の二つのグループに区分できる。西の集石は、さらに西北と西南の二群に区分できる。東の集石は、10cm前後の被熱による色が赤化した礫がほとんどで、南よりに密集する部分があり、その数は59個である。そして集石の西に接するように長さ30cm・幅17cm・厚さ20cmの配石がある。北西の集石もほぼ10cm前後で、被熱による色が赤化した礫が密集しており、64個の焼礫がある。南西の群は配石、もしくは石組遺構とみられるもので、6個の大きな石(20cm~25cm前後の石)を並べ配置していることが窺え、集石遺構とは違うものの近接する集石と何らかの機能的な関連があるのだろう。またこの配石の中や周囲には小さな焼礫22個が分布している。なお東の集石と北西の集石の間は散漫ながら62個の焼礫が帯状に分布している。

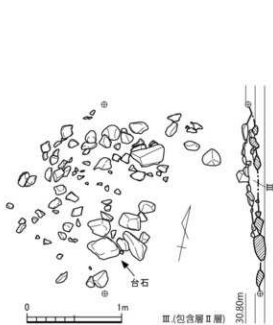
S051 調査区の西南部地域で、第II次調査区にある。区画では4H区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある弧状湾曲した谷の底部である。

S051はⅢ層から出土した集石である(第128図)。この集石の広がり、南北220cm、東西180cmの間にあり、細かく見ると中央部に礫が疎らな部分がある。また北東と南東の礫には大型礫が多く、西側の礫には小型の例が多い。特に大型礫の多い南東の一群は4個の大型礫を中心とする配石と理解し、小型礫からなる集石との機能的な違いによる配置と理解するべきかもしれない。なお、礫は総数93個からなり、被熱により色が赤化している。

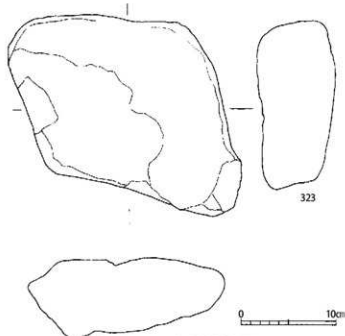
石器 配石の機能の一端を窺わせるものとして、台石が1点出土している(第129図323)。形態は、隅丸の菱形をしており、長軸29.3cm、短軸幅20cm、厚さ8.5cmの巨大な礫である。



第127図 S046実測図(1/40)



第128図 S051実測図(1/40)



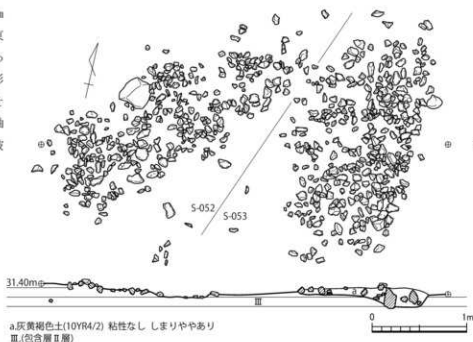
第129図 S051出土遺物実測図

S052 調査区の西南部地域で、第Ⅱ次調査区にある。区画では3G区の西南に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある弧状湾曲した谷の底部である。

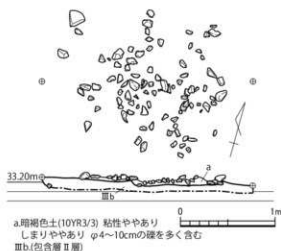
S052は、Ⅲ層から出土した集石である(第130図)。この集石の広がり、中心部から見ると東北から南西方向へ方角的に斜めに分布するが、等高線に沿っている。長軸を方位でみると真北から西へ 135° 振れている。集石の長軸は主要分布域で290 cm、短軸120 cmの間にある。しかし細かく見ると南西部から北東への長軸に沿って130 cmのところまで礫がやや少なくなっている部分がある。この部分を境界としてみると、長方形に近い分布となっている。その規模は、長軸230 cm・短軸120 cmである。なお、礫は被熱により色が赤化している。

S053 調査区の西南部地域で、第Ⅱ次調査区にある。区画では3G区の西南に位置する(第3図)。上述したS052の東に隣接する。

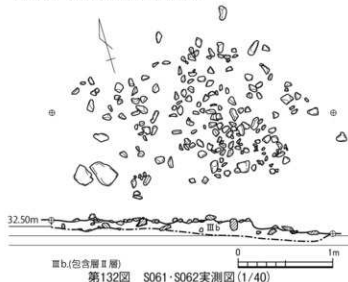
S053は、Ⅲ層から出土した集石である(第130図)。この集石の広がり、中心部から見ると、ほぼ南北方向へ分布しており、真北から 4.5° (175.5°)振れている。集石の長軸は主要分布域で280 cm、短軸150 cmの間にある。しかし細かく見ると北端から30 cm、南端から30 cm中央方向へ離れた部分や、東西で石の密度が多い部分がある。この範囲をみると長方形に近い分布となっている。その規模は、長軸210 m・短軸120 cmである。なお、礫は被熱により色が赤化している。



第130図 S052・S053実測図(1/40)



第131図 S056実測図(1/40)



第132図 S061・S062実測図(1/40)

S056 調査区の西部域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では1E区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にあって、東面する緩斜面が東へ回り込む部分である。この集石の西方に大型の集石群があり、これに関連する一連の集石の一つであろう。

S056は、Ⅲ層から出土した集石である(第131図)。この集石の広がり、南北170cm、東西200cmの間にあり、あまり密集性はなく、疎らな分布である。構成礫は、18cm前後の礫が1点あるだけで、他は10cm前後の礫がほとんどである。また礫は、総数94個からなり、被熱による色が赤化・破砕がみられる。

S061 (S062) 調査区の西部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では3F区の北西に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある谷地形で、S061・S062はその谷頭付近にあたる。これらの集石は当初、別々の遺構として取り扱っていたが、検討の結果、同一の集石である可能性が高くなり、ここでは一緒に報告する。

S061は、Ⅲ層から出土した集石である(第132図)。この集石の広がり、南北180cm、東西290cmの間にあり、あまり密集性はないが、東南部ではやや多い。構成礫は、10cm前後の礫がほとんどである。また礫は、被熱による色が赤化・破砕がみられる。東南部27cmと約20cmの大型礫があるが、色が赤化はなく、配石であろう。台石的な用途に用いたのだろう。集石と密接な関係がうかがえる。

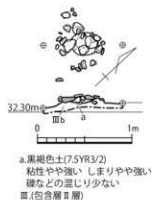
S063 調査区の西南部地域で、第Ⅱ次調査区にある。区画では3F区の北部に位置する(第3図)。上述したS061の東に隣接し、谷の谷頭にあたる。

S063は、Ⅲ層から出土した集石である(第133図)。この集石の広がり、南北70cm、東西60cmの間にあり、分布範囲が狭く構成礫は27個と少ないが、中央部分の密集度は高い。礫は被熱により色が赤化している。集中部分の下に、径30cm・深さ5cmの浅く小規模なピットがある。

S065 調査区の西部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では2F区と3F区の境界に位置する(第3図)。地形的な場所は、上記二つの集石と同様である。

S065は、Ⅲ層から出土した集石である(第134図)。この集石の広がり、南北300cm、東西320cmの間にあり、分布範囲が広く構成礫は333個である。それらの礫の大半は、10cm前後の大きさで、被熱により色が赤化している。中央部分の密集度は高い。また、礫の分布域に、25cmから30cm前後の礫が三ヶ所あるが、集石の作業に伴う台石、もしくは配石であろう。

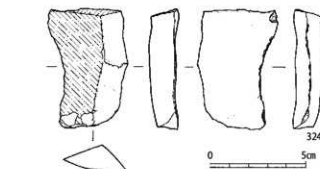
石器 S065の分布範囲からは、使用痕のある剥片が1点出土している。裏面の右側縁に刃こぼれがある(第135図324)。



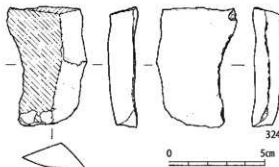
第131図 S061実測図(1/40)



第132図 S061実測図(1/40)



第134図 S065実測図(1/40)



第135図 S065出土遺物実測図

S070 調査区の西部地域で、第II次調査区にあり、区画では3E区の南部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある谷地形で、S070はその谷頭付近にあたる。集石が占地する場所は谷頭であるが等高線の開いた勾配の緩い場所である。

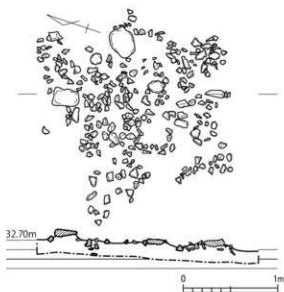
S070は、III層から出土した集石である(第136図)。この集石の広がり、南北260cm、東西230cmの間にあり、分布範囲が広く構成礫は254個である。それらの礫の大半は、10cm前後の大きさで、被熱により色が赤化している。中央部分の密集度は高い。また、礫の分布域に、30cm前後の礫が二か所あり、集石の作業に伴う台石、もしくは配石であろう。なお、この台石もしくは配石は集石分布の北縁・東縁付近に位置している。

石器 環状石斧の破片が1点出土している(第137図325)。環状石斧は、直径が12cm、中央にある孔の径は2.8cm、厚さは2.3cmの大きさとするドーナツ形の石斧である。穿孔は両面から行われており、内縁は稜を形成している。穿孔部の外縁(刃部側と穿孔部側との境界にあたる稜)の径は3.8cmである。表裏両面とも、丁寧な琢磨が行われており、外縁の刃部が両刃となっている。刃部に刃こぼれが生じている。環状石斧は、他に0E区・0F区の大型集石の上面から破損した状態で2点出土しており接合する。

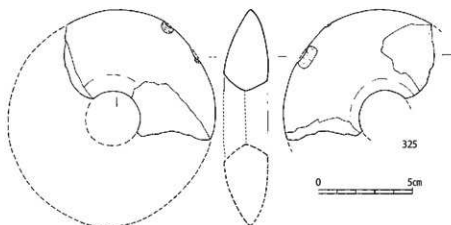
S073 調査区の西部地域で、第II

次調査区にあり、区画では2E区と3E区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある谷地形で、S073はその谷頭付近にあたる。集石が占地する場所は谷頭であるが等高線の開いた勾配の緩い場所である。

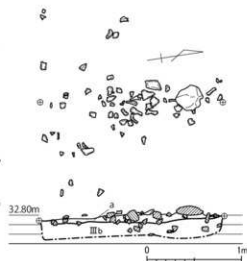
S073は、III層から出土した集石である(第138図)。この集石の広がり、南北200cm、東西200cmの間にあり、構成礫は63個である。それらの礫の大半は、10cm前後の大きさで、被熱により色が赤化している。中央部分の南北60cmと東西40cm間の密集度は高い。また、礫の分布域に、30cm前後の礫が一個あるが、集石の作業に伴う台石、もしくは配石であろう。なお、この台石もしくは配石は集石分布の北縁付近に位置している。



第136図 S070実測図(1/40)



第137図 S070出土遺物実測図



a.黒褐色土(10YR2/3) 粘性ややあり
しまりややあり 地山ブロックを少し含む
■b.(包含層II層)

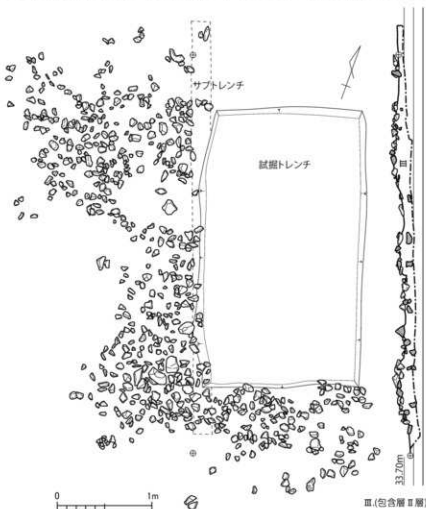
第138図 S073実測図(1/40)

S074 調査区の西部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では2E区と2F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある谷地形で、S073はその谷頭付近に位置する。集石が占地する場所は谷頭であるが、等高線の開いた勾配の緩い場所である。

S074は、Ⅲ層から出土した集石である(第139図)。この集石の広がりには、南北500cm、東西400cmの間にあり、構成礫は多い。しかし東半分の広い範囲が試掘トレンチ(南北300cm×東西160cm)によって掘削されている。おそらくその掘削範囲は集石の分布範囲の約二分の一弱に上ると推定される。出土した礫の分布を検討すると、北部の一群と南部の一群にまず二分できる。更に北部の一群は、中央にまばらな部分があるのでこの部分で東西区分できる。南部の一群も礫分布に粗密がみられ、区分できる可能性が高い。このことは、本来には幾つかの集石が営まれていたことを窺わせる。なお、礫の大半は、10cm前後の大きさで、被熱により色が赤化している。こうした礫の垂直分布を観察するためのサブトレンチを試掘トレンチの西壁に沿うように入れ掘削したところ、礫はあまり深いところに分布していない状況であった。

S087 調査区の西部地域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では0F区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にあつて、東面する緩斜面が東へ回り込む部分である。

S074は、Ⅲa層から出土した集石である(第140図)。この集石の広がりには、南北170cm、東西60cmの間にあり、構成礫は少なく50個である。南北に長いが、試掘トレンチの掘削でこのような分布になった可能性がある。北部に密集する傾向がある。分布的には、この集石の東側に位置する巨大なS45・S46などの集石に連なる可能性もある。礫の大半は、10cm前後の大きさで、被熱により色が赤化している。



第139図 S074実測図(1/40)



第140図 S087実測図(1/40)

S244 調査区の東部域で第Ⅲ次調査区にあり、区画では8C区の西よりに位置する(第3図)。この辺りは、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、その北東部にある。またここは北部竪穴建物群の北西にあって、遺構の数が少ない場所でもある。

S244は、Ⅲ層から出土した集石である(第141図)。この集石の広がり、南北220cm、東西130cmの間にあり、構成礫は301個である。それらの礫の大半は、10cm前後の大きさで、被熱により色が赤化している。分布の平面形は、胴張の長方形で、この長軸の方位は、北から西へ23°振れており、緩やかな傾斜面に直交するように構築されている。

S247 調査区の東部域で第Ⅲ次調査区にあり、区画では9C区の西よりに位置する(第3図)。この辺りは、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここはその北縁部にある。またここは北部竪穴建物群の間にあって、遺構の数がやや少ない場所でもある。

S247は、Ⅲ層から出土した集石である(第142図)。この集石の広がり、南北160cm、東西130cmの間にあり、構成礫は59個である。それらの礫は、10cm前後の大きさの例が多いが、20cm前後の大きさを有する大型礫も5点ある。なおこれらの礫は被熱により色が赤化している。礫の分布状況は、まばらな分布で密集性はない。集石としての使用が終了後、大きめの礫を再利用のために抜き取った痕跡かもしれない。

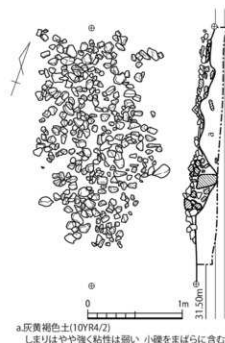
S248 調査区の東部域で第Ⅲ次調査区にあり、区画では8C区・9C区の境界付近に位置する(第3図)。この辺りは、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここはその北東部にある。またここは北部竪穴建物群の間にある。

S248は、Ⅲ層から出土した集石である(第143図)。この集石の広がり、長さ130cm、幅135cmの間にあり、構成礫は56個である。しかし配置状況をよく観察すると長軸100cm、幅60cmの大きさを有する長方形の分布が見える。これらの礫は、10cm前後の大きさの例が多いが、20cm前後の礫も半分近くある。なおこれらの礫は被熱により色が赤化している。また近接する場所に長さ46cm、幅16cmの配石が存在しているが、台石であった可能性が高い。

S329 調査区の東部域で第Ⅳ次調査区にあり、区画では10F区・11F区の境界付近に位置する(第3図)。このうち、西から東に延びる舌状台地のなかでも未端の斜面部(小規模な段丘崖)でS329は出土した。この斜面部にS329以外に遺構の可能性のあるものはない。

S329は、Ⅲ層から出土した集石である(第144図)。この集石の広がり、南北520cm、東西360cmの間にあり、構成礫は多数である。大小様々な礫が出土しているが、全く被熱しておらず、色が赤化した例はない。炭化物なども全く見られない。

また大小様々な角礫であるものの、割罫、被熱による割れた痕跡のない自然状態のままである。下部には1cm以下の小礫も多い。またS329は、その長軸が斜面に沿って分布していることがわかっている。したがってこの遺構は集石ではなく、基盤層上位の段丘礫層などが斜面で露出したもので、盛り上がった礫堆と考えられるもので、人為性はないと考えられる。



第141図 S244実測図(1/40)



第142図 S247実測図(1/40)

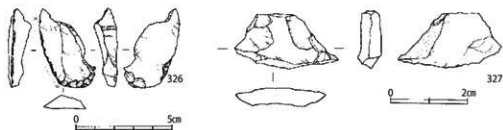


第143図 S248実測図(1/40)

石器 検出作業時に、内部から石器が2個出土している。1点は、エンド・スクレイパー（第145図326）、もう一点は幅広い剥片である（327）。これらは、S 329に被ったⅢ層内から出土した。なお、エンド・スクレイパーは流紋岩を用いたもので、旧石器時代に帰属するものであろう。



第144図 S329実測図(1/40)

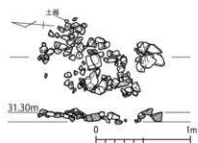


第145図 S329出土遺物実測図

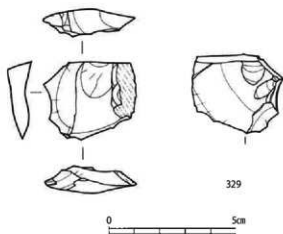
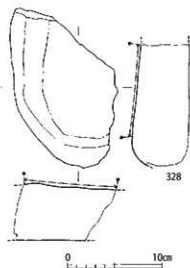
S339 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9E区の西よりに位置する(第3図)。この辺りは、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっており、ここはその中央にある。またここは北部と南部の竪穴建物群の間にあって小遺構の多いところであり、竪穴建物群の外域ということもできる。

S 339は、Ⅲ層から出土した集石である(第146図)。この集石の広がりには、長軸120cm、短軸70cmの間にあり、構成礫は90個である。それらの礫は、10cm前後の大きさの例が多いが、20cm前後の大きさを有する大型礫も数個ある。なおこれらの礫は被熱により色が赤化している。こじんまりした集石であるが、礫の分布状況を見ると密集していると同時に2群に区分できることがうかがえる。

石器 2点の石器が出ている。台石は、現状で長さ18.4cm、幅11cm、厚さ6cmの大きさを有しているが(第147図328)、元々は倍近い長さと幅を有していたと推定される。上部から右側にかけて打割られている。表面側に使用による磨滅痕があるが、打割に切られている。この台石は、集石の西よりから出土したが、集石の機能と関連するのだろうか。もう1点は剥片で、未加工である(329)。



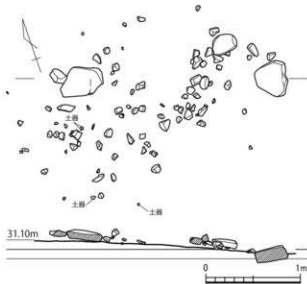
第146図 S339実測図(1/40)



第147図 S339出土遺物実測図

S340 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9E区の中央に位置する(第3図)。この辺りは、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっており、ここはその中央にある。また、ここは北部と南部の竪穴建物群の間にあって小遺構の多いところであり、竪穴建物群の外域ということもできる。

S 340は、Ⅲ層から出土した集石である(第148図)。この集石の広がりには、東西300cm、南北190cmの間にあり、構成礫は88個である。それらの礫の分布をみるとほぼ中央で東西に区分できる。東群の礫の総数は35個で、配石が2点、西群の総数は53個で、配石が1点である。10cm前後の大きさの例が多いが、20cm前後の大きさを有する大型礫も数個ある。なお、これらの礫は被熱により色が赤化している。礫の分布状況を見ると密集していることがうかがえる。



第148図 S340実測図(1/40)

(5) 土坑を伴う集石遺構

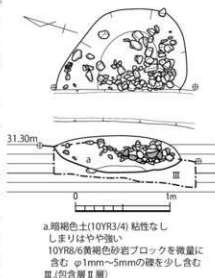
深さ 20 cm～30 cm 前後の土坑を掘り、その内部を中心として集石を用いた作業が行われた遺構である。

S004 調査区の西南部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では21区と31区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある谷地形で、S004はその谷底付近の斜面にあたる。集石が占地する場所は斜面であるが、等高線の間隔が開いた勾配の緩い場所である。

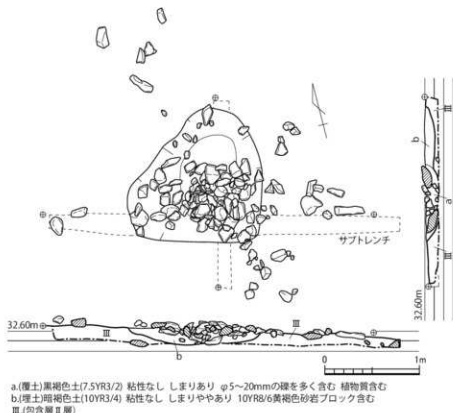
S004遺構は、Ⅲ層中に土坑を掘りこんでおり、サブトレンチによって四分の一程度が掘削されているものと推定される。その規模と形は、概ね長軸120 cm、短軸110 cmの楕円形と思われる(第149図)。その後、内部に三分の一程度の流入土が堆積した後に集石を入れている。窪んだ土坑に礫が入られたこともあって、あまり散乱することなく密集している。礫の大きさは大半が10 cm程度の礫で、格別大きい礫はない。礫の表面は、被熱によって色が赤化しているだけでなく、割れたことも推定される。

S034 調査区の西南部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では16区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある内湾状の谷地形で、S034はその西斜面にあたる。

S034遺構は、Ⅲ層中に土坑を掘りこんでいる。その規模と形は、概ね東西南北とも110 cmで、隅丸三角形と思われる(第150図)。その後、深さ15 cm程度の土坑内部に流入土が少し堆積した後に集石を入れている。窪んだ土坑に礫が入られたこともあって、あまり散乱することなく密集している。そのなかには部分的に小積んだような状況もある。土坑の外側にも礫が散在しているが、土坑を中心とする作業の残滓であろう。なお、礫の大きさは大半が15 cm～20 cm前後とやや大きい礫である。礫の表面は、乾くと白くなっており、被熱による色の赤化は明確ではない。



第149図 S004実測図(1/40)



第150図 S034実測図(1/40)

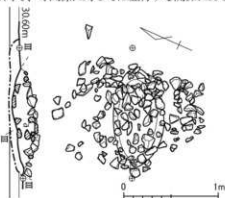
S044 調査区の西南部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では4H区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある内湾状の谷地形で、S044はその谷底部にあたる。

S 044 遺構は、土坑と集石からなる。まずⅢ層中に土坑を掘りこんでいるが、その規模と形は、長軸 107 cm、短軸 53 cm の長楕円形と思われる(第151図)。長軸は、北から 70.5°(109.5°) 振れた方向で、等高線に対しては並行する関係にある。興味深いことに、深さ 14 cm 程度の土坑内部に流入土が少し堆積した後に土坑を覆うように集石を置いている。密集し、小積んだような部分もあるが、北から西にかけてはらかなような状況も窺える。集石の規模と形は、南北 160 cm・東西 120 cm との隅丸三角形である。平面形の中で、西側の縦分布ラインは、北から西へ 8° 振れた方位で、本来は等高線に対し直交するような長方形に近い形をしていたのかもしれない。なお、礫の大きさは大半が 15 cm ~ 20 cm 前後とやや大きい礫である。礫の表面には、被熱による色の赤化がある。

S047 調査区の西地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では0E区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にあつて東面する斜面が東方へ回り込む部分で、S047はその緩斜面にある。この辺りは南北方向に巨大な集石 S 045 が広がっており、S 047 はその最も礫が密集した部分の一つである。

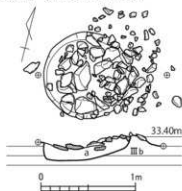
S 047 遺構は、土坑と集石からなる(第152図)。まずⅢ a 層下部もしくはⅢ b 層上部に土坑を掘りこんでいるが、その規模と形は、直径 92 cm のほぼ円形である。その後、深さ 14 cm 程度の土坑内部に流入土が少し堆積した後に土坑を覆うように集石を置いている。密集し、小積んだような部分もあるが、北から東にかけて小礫がばらけたかのような状況も窺える。集石の規模と形は、最大で南北 140 cm・東西 170 cm であるが、主要な分布は南北 130 cm・東西 110 cm である。なお、礫は 32 cm ~ 215 cm までの比較的大きな石が土坑内にあり、それ以下の石は土坑の東壁よりからその外側、北壁の外側に分布している。礫の表面には、被熱による色の赤化がある。周辺の集石から平桁式土器が出土している。

S048 S047 と同様な地区にある(第3図)。S 047 遺構は、土坑と集石からなる。まずⅡ層下部もしくはⅢ層上部に土坑を掘りこんでいるが、その規模と形は、南北 154 cm・東西 137 cm の隅丸三角形である(第153図)。その後、土坑内におさまるように礫を置いている。集石の主要な分布は土坑内であるが、北・東・南にかけて小礫が少量ばらけたかのような状況も窺える。なお、礫は 10 cm 前後のものが多い。なお南側の土坑外には配石が 1 点あるほか、東側の土坑外には塞ノ神式土器の破片が出土している。礫の表面には、被熱による色の赤化がある。



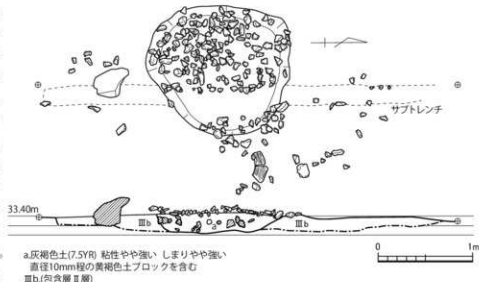
a. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性やや強い しまりやや強い
Ⅲ(包含層Ⅱ層)

第151図 S044実測図(1/40)



a. 灰褐色土(7.5YR4/2) 粘性やや強い しまりやや強い
φ1cm程の黄褐色土ブロックを少し含む
Ⅲb(包含層Ⅱ層)

第152図 S047実測図(1/40)



a. 灰褐色土(7.5YR) 粘性やや強い しまりやや強い
直径10mm程の黄褐色土ブロックを含む
Ⅲb(包含層Ⅱ層)

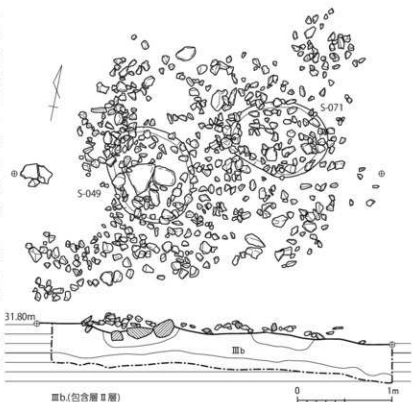
第153図 S048実測図(1/40)

S049・S071 第II次調査区の西部地域にあり、調査区画では0D区と0E区の境界付近に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形にあたる。

S049・S071 遺構は、土坑と集石からなる。まずII層下部もしくはIII層上部に土坑を掘りこんでいるが、S049とS071の土坑は40cmの間を空けて東西に隣接する(第155図)。その規模と形は、S049が南北150cm、東西135cm、深さ20cm、楕円形、S071が南北80cm、東西110cm、深さ12cm、横に長い長楕円形である。その後、土坑内部に流入土が少し堆積した後に土坑を覆うように集石を置いている(第155・156図)二つの土坑の上にある集石はを密集し、広範囲に分布しており、同一の集石といえる。その規模と形は、長軸450cm・短軸310cmの菱形である。大きさが15cm以下の礫が多いが、南西部に20cm～30cm前後の台石もしくは配石が分布している。礫は被熱により赤化している

集石の南側で、まばらながら、平椅式土器が出土したS045との連続性も窺え、一連の集石と思われる。早期後半と推定される。

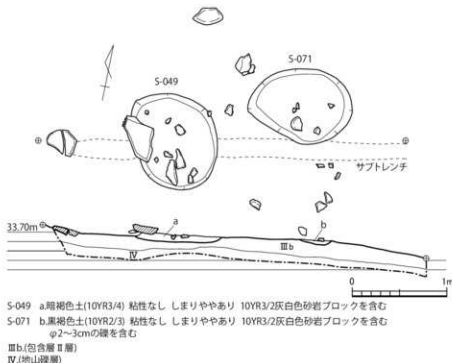
土器 ナデ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している(第154図330)。口縁部が外傾し、端部を尖らせている。



第155図 S049・S071集石部実測図(1/40)



第154図 S049出土遺物実測図



S-049 a.暗褐色土(10YR3/4) 粘性なし。しまりややあり 10YR3/2灰白色砂岩ブロックを含む
S-071 b.黒褐色土(10YR2/3) 粘性なし。しまりややあり 10YR3/2灰白色砂岩ブロックを含む
φ2~3cmの礫を含む

IIIb(包含層II層)
IV(地山礫層)

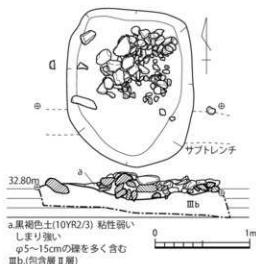
第156図 S049・S071血状ピット部分実測図(1/40)

S058 調査区の西部域で第II次調査区にあり、区画では1F区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にあって、東面する緩斜面が東へ回り込む部分である。

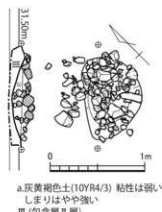
S058 遺構は、土坑と集石からなる(第157図)。まずⅢ層上部に土坑を掘りこんでいるが、その規模と形は、南北165cm・東西135cmの特撰の駒形(逆方向)である(第156図)。その後、土坑内の北半に密集するように礫を置いている。礫の分布を細かくみると、左半分が大きめの礫、右半分が細かみ礫が多い状況にある。礫は角の丸い河原石が多く、被熱により赤化している。

S064 調査区の中央部の南よりで、区画では56区に位置する(第3図)。西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある弧状に湾曲した谷部にある。

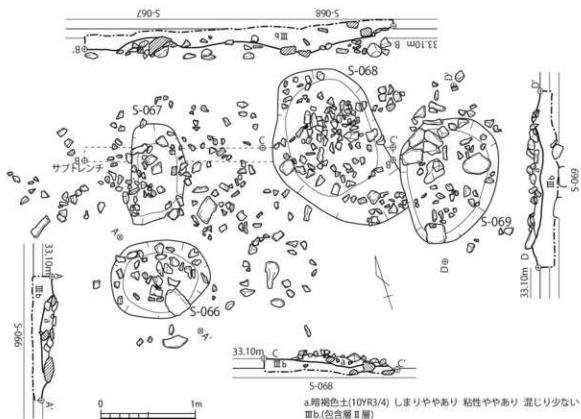
S064遺構は、土坑と集石からなる。まずⅢ層に土坑を掘りこんでいるが、その規模と形は、南北75cm・東西90cmであり(第158図)、水滴形をしている。その後、土坑の形に合うように礫を密集するように置いているが、北側の土坑外にも密集した礫が分布する。礫は被熱により赤化している。



第157図 S058実測図(1/40)



第158図 S064実測図(1/40)



第159図 S066・S067・S068・S069位置図

S066・S067・S068・S069 調査区の西部域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では1E区の中央で東西に並列しながら分布する(第3図・第159図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南縁部にある。

S066の下部遺構の規模と形は、長軸105cm・短軸82cmの楕円形で(第160図)、土坑と集石からなる。深さ10cmの土坑内及びその上には散漫な状況で10cm～15cm前後の礫が多いが、27cm近い配石もある。

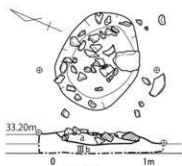
S067の下部遺構の規模と形は、長軸110cm・短軸60cmで長方形で、長軸の方位は北から西へ162°にある(第161図)。深さ10cmの土坑内及びその上には密集する状況で礫が分布している。

石器 この遺構からは石鏃が1点出土している(第162図331)。形態は二等辺三角形で、基部の左角部が破損している。

S068の下部遺構の規模と形は、長軸187cm・短軸119cmで楕円形である(第163図)。深さ10cmの土坑内及びその上には散漫する部分と中央部が密集する状況で礫が分布している。

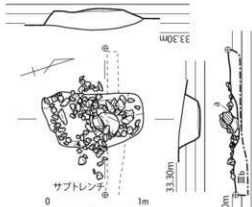
S069の下部遺構の規模と形は、長軸135cm・短軸105cmで楕円形である(第164図)。深さ10cmの土坑内及びその上には散漫する部分と密集する状況で礫が分布している。

S068とS066・S067との間にも大小の礫が多数分布しており、どの遺構に区分できるか明確でないもののこの付近での礫を使った諸作業中に分布したのだろう。



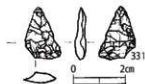
a.暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや強い
しまりやや強い 地山ブロックの
混じり少ない
Ⅲb.(包含層Ⅱ層)

第160図 S066実測図(1/40)

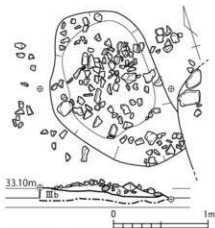


a.黒褐色土(10YR2/3) 粘性ありしまりややあり
φ4~20cmの礫を多く含む
Ⅲb.(包含層Ⅱ層)

第161図 S067実測図(1/40)

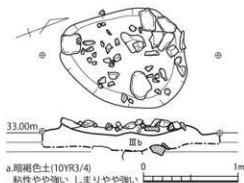


第162図 S067出土遺物実測図



a.暗褐色土(10YR3/3) 粘性やや強い
しまりやや強い 混じり少ない
Ⅲb.(包含層Ⅱ層)

第163図 S068実測図(1/40)



a.暗褐色土(10YR3/4)
粘性やや強い しまりやや強い
地山ブロックの混じり少ない
Ⅲb.(包含層Ⅱ層)

第164図 S069実測図(1/40)

S079 調査区の東南部域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では7G区に位置する。この付近は、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形から扇形に広がった部分の南部で、遺跡内では平坦な地形である(第3図)。また、南方・東方を臨む場所である。

遺構は、平面形が楕円形で、規模は長軸81cm・短軸71cmの小型遺構である(第165図)。Ⅳ層上面に掘り込まれた浅いピットの中に10cm前後の焼け礫38個があった。遺構は隣接するS078が埋まった後に構築されている。なお、礫は被熱により赤化している。

S089 調査区の東南部域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では6F区に位置する。この付近は、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形から扇形に広がり始める要の南縁部分で、遺跡では比較的平坦な地形である(第3図)。また南と東方を臨む場所である。

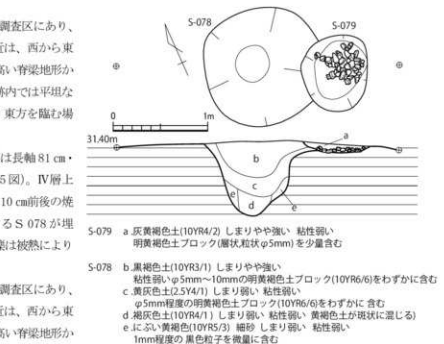
遺構は、長軸が北から西へ31°振れた長楕円形である(第166図)。遺構の規模は長軸108cm、短軸44cmである。礫は、遺構の南半分に密集するほか、遺構の北半や遺構外の北側に散漫な分布がある。なお、礫は被熱により赤化している。

S090 調査区の東南部域で第Ⅱ次調査区にあり、区画では7F区に位置する。この付近は、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形から扇形に広がった部分の南部で、遺跡内では平坦な地形であり(第3図)、南を臨む場所である。

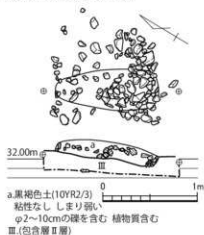
遺構は、楕円形である(第167図)。遺構の規模は長軸162cm、短軸130cmである。礫は、遺構の西半分に密集している。遺構の深さは25cmである。なお、礫は被熱により赤化している。

S116 調査区の西南部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では3H区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも南側の弧状に湾曲した谷地形で、S116はその谷底部に位置する。

遺構の規模は、長軸115cm・短軸86cmの小型遺構である。深さ45cmの土坑内中位から上部に長さ50cmもある礫が出土しており(第168図)、台石であった可能性が高い。



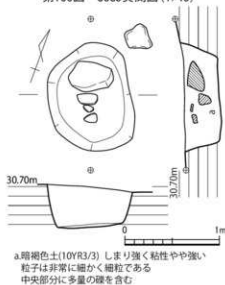
第165図 S079・(S078土坑)実測図(1/40)



第166図 S089実測図(1/40)



第167図 S090実測図(1/40)



第168図 S116実測図(1/40)

S266 調査区の北東部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では9D区北部に位置する（第3図）。西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がっており、ここはその北東部にあたる。北部竪穴建物群の分布域に位置している。

遺構の規模と形は、長軸140cm・短軸115cmで、楕円形をした小型遺構である。深さ18cmの土坑内中位から上部に長さ10cm程度の礫が出土している（第169図）。礫の分布は、土坑の南半分に集中している。なお、礫は被熱により赤化している。

S330 調査区の東部地域で第Ⅳ次調査区にあり、区画では9F区の中央に位置する（第3図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここはその中央で東端部にあたる。またここは南部の竪穴建物群の東で小遺構の多いところであり、竪穴建物群の外城ということもできる。

規模と平面形は、長軸110cm、短軸88cmで、楕円形である（第171図）。長軸の方位は、北から西へ125°振れている。土坑の深さは、約10cmである。土坑内部に第1段階として大型の礫を設置し（3回目）、次に10cm前後の礫を乗せ（2回目・3回目）、更に土坑の西側に長さ50cm前後の大型礫を設置している。礫は小積んだ状況で密集しているなお、礫は被熱により赤化している。

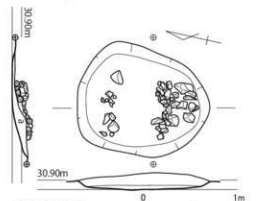
石器 打割によって三分の一を欠く台石で、長さ21cm、幅14.5cmの大きさを有し、表面には磨滅痕がある（332）。

S332・S333・S334 調査区の東部地域で第Ⅳ次調査区にあり、区画では8F区の東に位置する（第3図）。西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここはその中央である南部竪穴建物群など遺構の多い場所である。三遺構は、いずれも近接する位置関係にあり、先行する竪穴建物であるS370が埋まって後に営まれている。なお、礫は被熱により赤化している（第172図）。

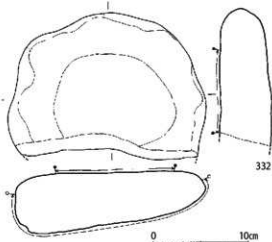
S332の規模と平面形は、長軸120cm、短軸90cmで、楕円形である（第172図）。S333が埋まってから構築されている。礫は土坑の中央付近から西と南の土坑外へも広がっている。礫の密集度は高いが、二箇所ほど分布が空白の部分があるが、何か掻き出した部分であろうか。

土器 S332から山形押型文土器が1点出土している（第173図333）。やや外反する立ち上りの土器片で、内面に斜行する柵縄文、外面には垂下する方向への山形文を施す。下管生B式土器であろう。

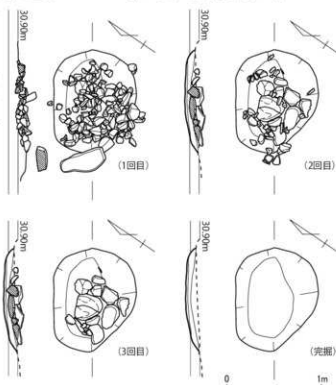
S333の規模と平面形は、長軸84cm、短軸74cmで、



a.黒褐色土(2.5Y3/1)
しまりやや強く粘性や強い 地山ブロックをまばらに含む
第169図 S266実測図(1/40)



第170図 S330実測図(1/40)



第171図 S330出土遺物実測図

三角形である(第172図)。礫の密集度は高く、ほぼ土坑の範囲に収まっている。

S334の規模と平面形は、長軸53cm、短軸48cmで、ほぼ円形である(第172図)。礫の密集度は高く、ほぼ土坑の範囲に収まっている。

三土坑の断面を観察すると若干埋まってから集石を設置しているが、遺構の輪郭に収まるので、土坑と礫は関係あるのだろう。

石器 S334からは、石核が2点出土している。一例は断面が四角形で、それに合わせて打面を90°同じ方向に移動させながら剥離作業を行うもの(第176図335)。もう一例は、分厚い剥片の、ボジ面・ネガ面を打撃するという石器状の剥離を行った例(336)。

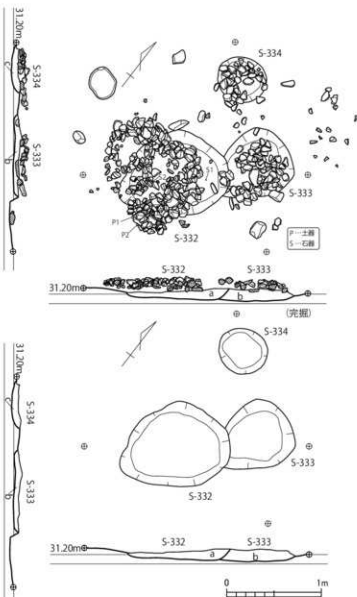
S335 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では11E区に北東隅に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地東端部の斜面を降りた低地(大越川の段丘面)で、小遺構の多い場所である。S335は、低地部のなかでも台地の斜面よりの場所に位置する。

S335の規模と平面形は、長軸90cm、短軸76cmで、円形に近い楕円形である(第174図)。土坑の深さは、約10cmである。土坑内部に第1段階として大型の礫を敷き詰めるように設置する(2回目)。次に10cm前後の礫を乗せており(3回目)。礫は小積んだ二重構造の状況で密集している。なお、礫は被熱により赤化している。

S336 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9F区に位置する(第3図)。西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い青梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここはその東端部にあたる。この付近は、南部堅穴建物群の東にあって小遺構の多い場所である。

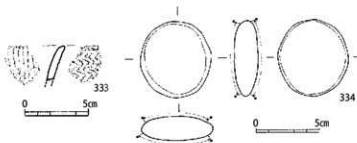
S336の規模と平面形は、長軸100cm、短軸81cmで、楕円形である(第175図)。土坑の深さは、約10cmである。土坑内部に第1段階として20cm～25cm前後の大型礫8個を東西に敷き詰めるように設置する(2回目)。次に、10cm前後の礫30個前後を乗せたり、隙間・空閑地に充填したりするなど(3回目)、礫は小積んだ二重構造で密集している。なお、礫は被熱により赤化している。

S337・S346 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9E区と9F区の境界に位置する(第3図)。場所的にはS330と同様で、南部堅穴建物群の東にあって、小遺構の多い場所である。



- S-332 a.黒褐色土(10YR3/1) しまりあり 粘性あり ϕ 2mm前後の炭化物粒子を少量含む ϕ 2～3mm大の黄褐色土ブロックを少量含む
 S-333 b.黒褐色土(10YR3/2) しまり強く粘性あり ϕ 1～2mm大の炭化物粒子を少量含む
 S-334 c.黒褐色土(10YR3/3) しまりやや強く粘性弱い 黄褐色土ブロックを少量含む

第172図 S332・S333・S334実測図(1/40)



第173図 S332・S338出土遺物実測図

S337の土坑の規模と平面形は、長軸100cm、短軸81cmで、凸レンズ形である(第178図)。土坑の長軸は、北から西へ60°振れた方向である。土坑の深さは、約10cmである。土坑内の形に沿うように大小の礫を充填している。密集度は極めて高い。なお、土坑外の北西から北東・東にかけて最大で150cmの間にも大小の礫が散在している。その外側には礫がなく、S337・S346の土坑を中心とした集石のまとまりとみなせる。なお、礫は被熱により赤化している。

石器 楕円形の川原石を用いた敲石が1点出土している(第177図337)。使用時に割れたのか、右側の三分の一程度破損している。打痕が両端にある。

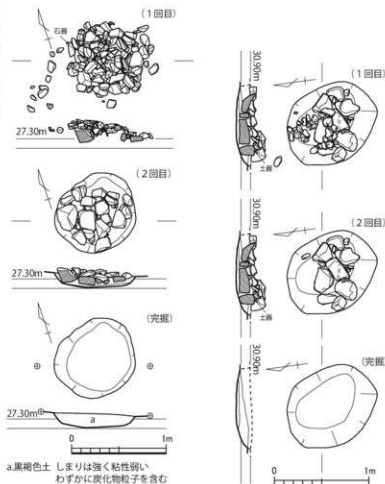
S338 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では8E区の南部に位置する(第3図)。西から東に延びる舌状台地のなかであって、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここは中央付近平坦面にあたる。この付近は、南部竪穴建物群の中にあって大小遺構の多い場所である。なお、S338は竪穴建物のS337が埋没した後に構築された遺構である。

S338は土坑と集石からなり、前者の規模と平面形は、長軸91cm、短軸83cmで、楕円形である(第179図)。土坑の深さは、約10cmである。土坑内部から僅かこはみ出た礫もあるが、概ね10cm以内の礫を内部に入れている。礫は小積んだ状況で密集する部分もあるが、中央付近に疎らな部分があり、何かの作業痕跡と考えられる。なお、礫は被熱により赤化している。

石器 長軸6cm、短軸5.5cm、厚さ1.8cmの小型の磨石が出土している(第173図334)。

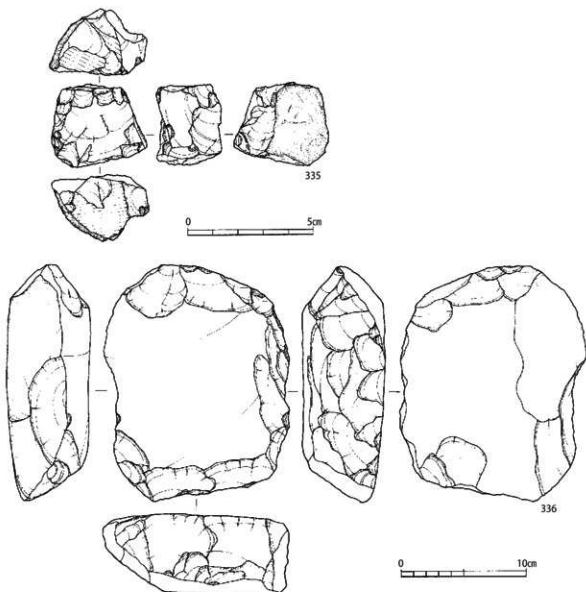
S348・S349 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9D区・10D区に位置する(第3図)。西から東に延びる舌状台地のなかであって、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここはその東端部にあたる。この付近は、北部竪穴建物群の東にあって小遺構の多い場所である。なおS348・S348は、先行する竪穴建物S383が埋没した後に構築されている。

まずS348の下部遺構である土坑が掘り込まれる。土坑の規模と平面形は、長軸115cm、短軸96cmで、楕円形である(第180図)。土坑の深さは、約20cmである。その後、この土坑の内部に10cm～15前後の礫を入れている。小積んだような部



第174図 S335実測図(1/40)

第175図 S336実測図(1/40)



第176図 S334出土遺物実測図

分もあり、その密集性は高い。土坑内における礫の断面分布をみると（第180図）、土坑の東壁上端の肩部から西へ90cmのところで礫の断面分布に変化点がある。この変化点の礫をS349西端の礫とし、その上に乗っている礫は西方に連なるS348の集石東端の礫とすることができる。こうしてみると、遺構の順序は、S349が構築・形成され、次に土坑のないS348が構築されていることがわかる。S348集石の主要な分布は、長軸が120cm・短軸90cm程度の長方形をしているとみられ、長軸の方位は北から東へ131°振れている。また礫の形状を見ると、S349の場合は小ぶりの角礫であるのに対し、S348の場合は20cm前後の大ぶりの角礫であることに違いがある。ともかく、両遺構の集石はその位置からすると、近い関係にあったことが窺える。なお、両遺構の礫は被熱により赤化している。

S350 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9D区・10D区に位置する（第3図）。西から東に延びる舌状台地のなかにあつて、標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここはその東端部にあたる。この付近は、北部竪穴建物群の東にあつて小遺構の多い場所である。なおS350は、先行する竪穴建物S383が埋没した後に構築されている。上記したS349の東30cmから170cmの間に位置する。

まずS350の下部遺構である土坑が掘り込まれる。土坑の規模と平面形は、南北140cm・東西140cmで、円形である。（第180図）。土坑の深さは、約15cmである。この土坑の内部に20cm～35cm前後の礫を主体に入れている。配石遺構とするべきかもしれない。これまで述べてきたS348・S349とS350の礫の大きさは明らかに違うので、機能的な違いがありなが

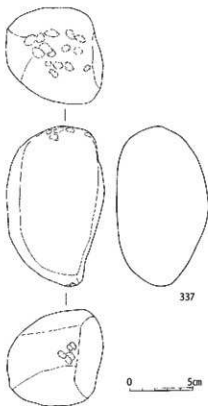
らも至近距離にあることから機能的な使い分けをした一連の遺構と考えられる。

石器 台石が1点出土している(第181図S38)。現状で、長さ26.4cm、幅19cm、厚さ8cmの大きさで、表面に磨減がある。その後、打割により周囲が割られている。割れには、剥離面のような特徴を有する部分もある。

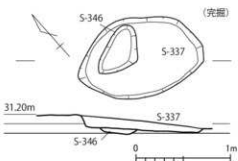
S382 調査区の東部域で第IV次調査区にあり、区画では9E区に位置する(第3図)。西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形で平坦な地形が広がっているが、ここはその東端部にあたる。ここは、北部聚穴建物群の南にあって遺構の少ない場所である。

まずS382の下部遺構である細長い土坑が掘り込まれる。土坑の規模と平面形は、長軸205cm、短軸80cmで、長楕円形である(第182図)。土坑長軸の方位は、北から西へ181°振れているが、南北方向の等高線に対し、直交する方向に土坑が築かれている。そして土坑内部の底面は、西側の直交方向に向かって仰角で12°である。土坑の深さは、約28cmである。この土坑の内部に五群に分かれた大小の礫が流入土中に含まれており、分布に一貫性がない。「集石塚」ではない可能性も高い。この土坑本体は、この遺跡に多い炉穴である可能性も高い。炉穴が廃絶後に、礫を廃棄したのであろう。

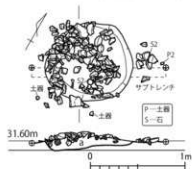
石器 S382からは台石2点出土している。一例は、現状で長軸16.5cm・短軸14cm・厚さ8cmの大きさを有する、表面の平らな面に磨減痕があるが、その後左側を打割している(第183図S39)。もう一例は、現状で長軸18.5cm・短軸15.2cm・厚さ8.2cmの大きさを有する。表面の平らな面に磨減痕がある(S340)。その他、大型の礫が出土しており、台石・配石と同様な用途で集石での作業を行う際に使われたのだろう。



第177図 S337出土遺物実測図

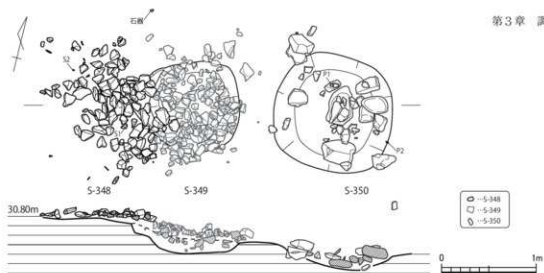


第178図 S337・S346(下部)実測図(1/40)

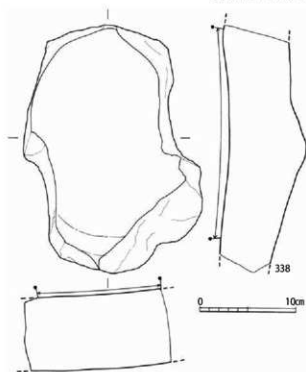


第179図 S338実測図(1/40)

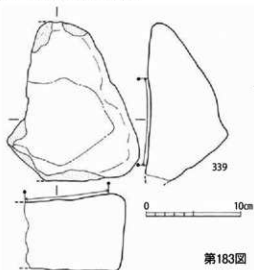
a.黒褐色土(10YR2/3) しまり強く粘性弱い小石(φ5mm前後)を少量含む



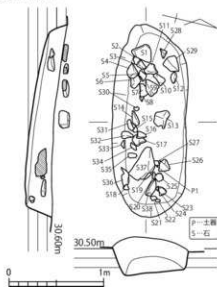
第180図 S348-S349-S350実測図(1/40)



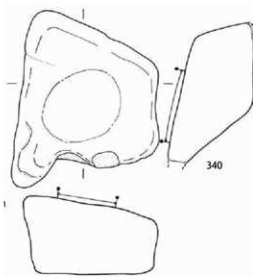
第181図 S350出土物実測図



第183図 S382出土物実測図



第182図 S382実測図(1/40)



(6) 土坑

S003 第II次調査区の西部にあり、区画では0E区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて東面する南北方向の斜面が東側に回り込む地勢である。遺構は、この斜面に位置し、S 045などの大きな集石が存在する地区である。

土坑の規模と平面形は、長軸65cm、短軸51cmで、隅丸長方形である(第184図)。土坑長軸の方位は、北から西へ35°振れている。深さは10cmで、壁の立ち上がりは緩やかである。土坑内両端部付近の斜面に焼土が観察される。

S005 第II次調査区の西部にあり、区画では0E区に位置する(第3図)。西から東へ延びる舌状台地脊梁部の南側には弧状に湾曲する谷地形があり、遺構は谷底部のなかでも最も南側に位置する。

土坑の規模と平面形は、調査区南部の壁にかかつており明確ではないが、現状から長軸180cm前後、短軸150cm前後で、隅丸長方形である(第185図)。土坑長軸の方位は、北から西へ165°振れている。深さは10cm前後で、壁の立ち上がりは緩やかである。土坑にかかめる壁を観察すると、III層に掘り込まれている。また土坑内には覆土が観察され、その上にII層(アカホヤ)が堆積している。

S006 第II次調査区の西部にあり、区画では0E区の南部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて東面する南北方向の斜面が東側に回り込む地勢である。

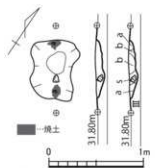
遺構は、調査区の西端にかかると斜面に位置し、数m東にS 045などの大きな集石が存在する地区である。

土坑は、調査区の境界にかかるとするため規模と平面形が分からない。現状で、長軸130cm、多角形である(第186図)。深さは23cmで、壁の立ち上がりは緩やかである。

土器 2点出土している。1点は、外面に縦方向の山形押型文、内面には斜行する柵状文を施した例である(第187図341)。もう1点は、外面に楕円文押型文、内面ナデ調整の無文部である(342)。

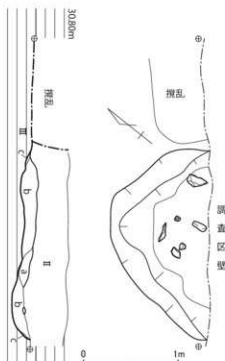
S059 第II次調査区の西部にあり、区画では0E区の南部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあつて東面する南北方向の斜面が東側に回り込む地勢である。ここに大きな集石「礫・集石範囲2」があった。ここでは、遺物のみ提示する。

石器 凹石が1点出土しており、表裏両面に凹部がある(第188図343)。大きさは、長軸9.4cm・短軸8.5cm・5.2cmである。台石も1点出土している。表面に、打痕がある。大きさは、長軸24.5cm・幅18.2cm・厚さ5.9cmである。



a.焼土(褐色土(7.5YR4/6)粘性なし
しまりややあり 炭を少し含む
b.褐色土(7.5YR4/3)粘性なし
しまりややあり 炭を少し含む
III.(包含層II層)

第184図 S003実測図(1/40)



a.焼土(明褐色土(7.5YR5/6)粘性なししまりなし
霰じり少ない 炭を少し含む
b.褐色土(7.5YR4/4)粘性なししまりなし
(7.5YR5/6)明褐色土が互層で入る
c.磁方障褐色土(10YR3/4)粘性なししまりややあり
炭を少し含む
II.(包含層I層)
III.(包含層II層)

第185図 S005実測図(1/40)

S078 調査区の東部域で第II次調査区にあり、区画では7G区に位置する(第3図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の中央部から扇形の平坦な地形が広がっている場所で、そのうちの東南部である。またここは南部堅穴建物群の南にあって、遺構の少ない場所である。

遺構は円形の土坑で、IV層上面で検出した。現状で土坑部分の径が125cmであり、深さは79cmである(第165図)。堆積層は四層あり、うち上位の2層は流入土である。その下位の二層は埋め土と思われる。土坑断面の形態からすると、陥穴の可能性は少ないが、貯蔵穴の可能性もある。

石器 細石刃が出土している(第189図345)。推定牟田産の黒曜岩(腰岳・牟田系黒曜岩)を石材とする細石刃で、中部・先端部が破損している。その他、剥片がある(346)。

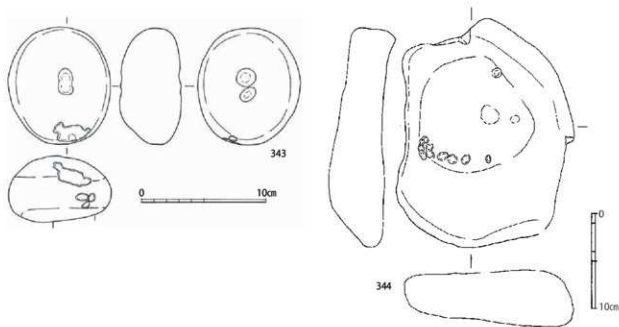


a. にふい黄褐色土(10YR5/4)しまりやや強く粘性弱い遺物を含む

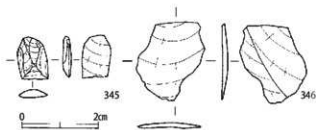
第186図 S006実測図(1/40)



第187図 S006出土遺物実測図



第188図 S059出土遺物実測図



第189図 S078出土遺物実測図

S081 調査区の西部地区に含まれ、区画では3E区に位置する(第3図)。西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の縁部で、南側に弧状に湾曲する谷部の谷頭でもある。西や南の近隣には、堅穴建物や集石などが点在するが北側に遺構はない。

遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が95cm、短軸は84cm、楕円形である。深さは12cmであるが(第190図)、削平されているのであろう。立ち上がりは緩やかな皿状を呈する。

S082 調査区の西部地区に含まれ、区画では3E区に位置する(第3図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の縁部から少し南に下がったところで、弧状に湾曲する谷部の谷頭でもある。近隣には、堅穴建物や集石などが点在する。上記S081の南東150cm程度の距離にあり、立地もほぼ同様である。

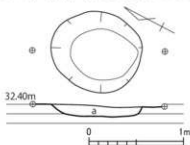
遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が117cm、短軸は100cm、楕円形である。深さは20cmであるが(第191図)、削平されているのであろう。立ち上がりは緩やかな皿状を呈する。

S084 調査区の西部地区に含まれ、区画では3F区の北部に位置する(第3図)。ここは西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の縁部から南に下がったところで、弧状に湾曲する谷部の谷頭地区に位置する。近隣には、堅穴建物や集石などが点在する。上記S082の南600cm程度の距離にあり、立地もほぼ同様である。

遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が127cm、短軸は88cm、隅丸長方形である。土坑長軸の方位は、北から西へ60°振れている。深さは32cmである(第192図)。立ち上がりは急傾斜。断面を観察すると、c層の部分で底部に屈折点があるのと、その層の状況から、一度掘削してc層が流入埋没する。さらに掘り直されてb・c層が流入したと推定される。

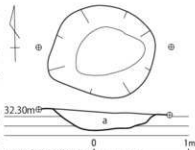
S092 調査区の西部地区に含まれ、区画では0D区に位置する(第3図)。西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い西部脊梁地形にある。近隣には、集石などが点在する。

遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が111cm、短軸は71cm、長楕円形である。土坑長軸の方位は、北から西へ97°振れている。深さは26cmである(第193図)。東西端部の立ち上がりは急傾斜で、北壁・南壁は緩やか。



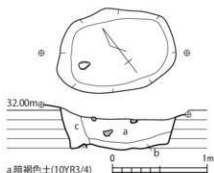
a.灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性は弱い
しまりやや強く 粒子は細粒である
φ1~2cmの地山ブロックを微量に含む

第190図 S081実測図(1/40)



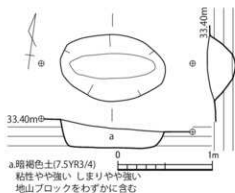
a.黒褐色土(10YR3/2) 粘性は弱い
しまりやや強く 粘性は弱い
地山ブロックを微量に含む 砂礫を微量に含む

第191図 S082実測図(1/40)



a.暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや強い しまり強い
φ5mm~2cmの地山ブロックを微量に含む
φ3~10cmの礫を含む
b.黒褐色土(10YR2/3) 粘性やや強い
しまりやや強い
φ5mm~2cmの地山ブロックを微量に含む
φ1~3cmの礫を少し含む
c.暗褐色土(10YR3/3) 粘性やや強い
しまりやや強い φ3~5cmの礫を少し含む

第192図 S084実測図(1/40)



a.暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性やや強い しまりやや強い
粘性やや強い しまりやや強い
地山ブロックをわずかに含む

第193図 S092実測図(1/40)

S093 調査区の西部地区に含まれ、区画では0E区に位置する(第3図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い西部脊梁地形にある。近隣には、集石などが点在する。

遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が96cm、短軸は67cm、楕円形である。土坑長軸の方位は、北から西へ15°振れている。深さは26cmである(第194図)。東西端部の立ち上がりは急傾斜である。

S094 第II次調査区の西部にあり、区画では0E区・1E区の境界南部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあって、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む地勢である。

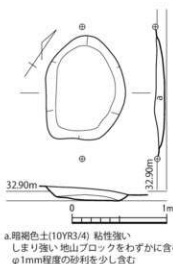
遺構は長楕円形の土坑で、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が96cm、短軸は67cm、楕円形である。土坑長軸の方位は、北から西へ117.5°振れている。深さは26cmである(第195図)。東西端部の立ち上がりは急傾斜である。

S095 第II次調査区の西部にあり、区画では0E区・0F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあって、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む地勢である。

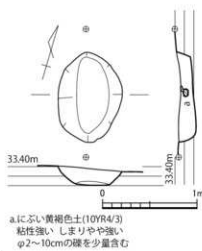
遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が110cm、短軸は84cm、長楕円形である。土坑長軸の方位は、北から西へ110°振れている。深さは12cmである(第196図)。長軸の立ち上がりは自然に立ち上る状況で、短軸は急傾斜である。

S096 第II次調査区の西部にあり、区画では0E区・0F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあって東面する南北方向の斜面が東側に回り込む地勢である。

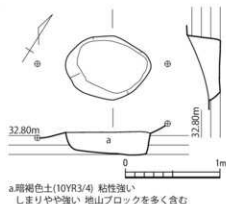
遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が147cm、短軸は84cm、長楕円形である。土坑長軸の方位は、北から西へ110°振れている。内部の北半が一段深くなっており、深さは20cmである(第197図)。周囲の立ち上がりは急傾斜である。



第196図 S095実測図(1/40)



第194図 S093実測図(1/40)



第195図 S094実測図(1/40)



第197図 S096実測図(1/40)

S097 第Ⅱ次調査区の西部にあり、区画では0F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあって東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。

遺構は、Ⅳ層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が156cm、短軸は120cm、長楕円形である。土坑長軸の方位は、北から西へ27°振れている。深さは14cmと浅い土坑である(第198図)。周囲の立ち上がりは急傾斜である。

S098 第Ⅱ次調査区の西部にあり、区画では0F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあって、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。

遺構は、Ⅳ層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が160cm、短軸は99cm、楕円形である。土坑長軸の方位は、北から西へ27°振れている。深さは33cmである(第199図)。周囲の立ち上がりは東壁と南壁は緩やかで、それに対し北壁が60°、西壁が70°と急傾斜である。なお土坑内に柱穴状のピットが二基あるが、土坑との関係は不明である。なお、本土坑はS128を切って構築されている。

S099 第Ⅱ次調査区の西部にあり、区画では0F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあって、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。北東にS46やS45などの大きな集石がある。

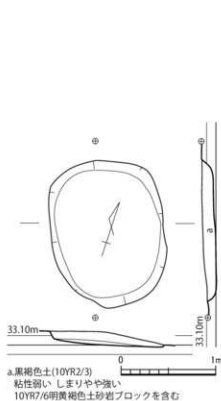
遺構は、Ⅳ層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で直径が65cm、楕円形である。深さは23cmである(第200図)。壁の立ち上がりは60°と急傾斜である。なお、本土坑はS100に切られており、先行することがわかる。

S100 第Ⅱ次調査区の西部にあり、区画では0F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあって、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。北東にS46やS45などの大きな集石がある。

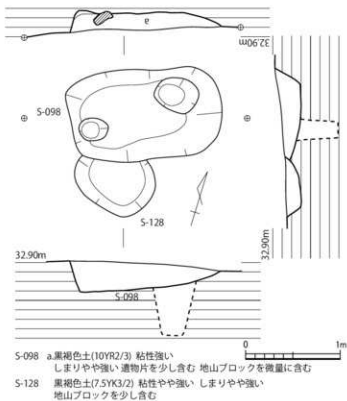
遺構は、Ⅳ層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が143cm、短軸89cm、隅丸方形である。深さは20cmである(第200図)。壁の立ち上がりは70°と急傾斜である。なお、本土坑はS99を切って構築されている。

土器 山形のピッチが短い連珠状の山形押型文土器が出土している(第201図347)。これは口唇部を欠くが、口縁部の破片である。内面はナデ調整で、櫛状文はない。

石器 蔽石・磨石の破片と完形品が出土している(第201図348・349)。後者は両面に磨滅痕・打痕、上端に打痕がある。



第198図 S097実測図(1/40)

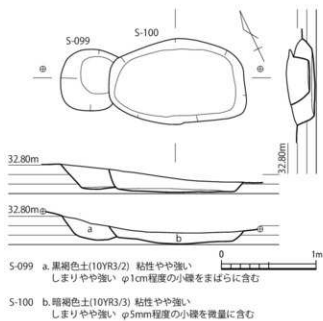


第199図 S098・S128実測図(1/40)

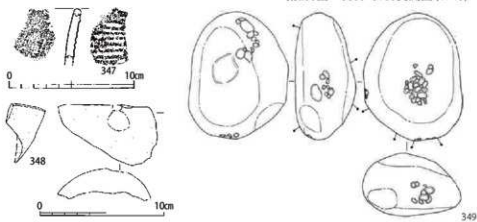
S101 第II次調査区の西部にあり、区画では0F区の南に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあって、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。北東にS 46やS 45などの大きな集石がある。

遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が123cm、短軸118cm、楕円形である。深さは34cmである(第203図)。壁の立ち上がりは南北の壁で85°と急傾斜であるが、東西は約40°と緩やかである。なお、本土坑は二つの土坑が切りあっているとみられ、西半部が二段になっている。

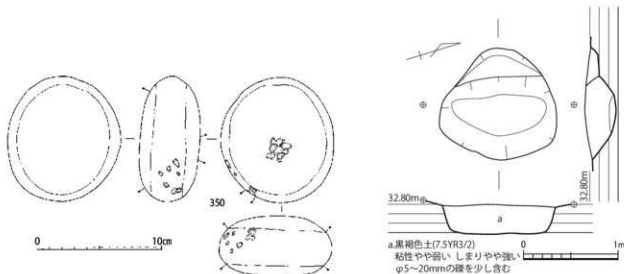
石器 燧石・磨石が出土している(第202図350)。表面に磨滅痕、裏面と周縁に打痕がある。



第200図 S099・S100実測図(1/40)



第201図 S100出土遺物実測図



第202図 S101出土遺物実測図

第203図 S101実測図(1/40)

S102 第II次調査区の西部にあり、区画では1E区の南に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあって、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。西方にS 46やS 45などの大きな集石がある。

遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が123 cm、短軸118 cm、楕円形である。深さは34 cmである(第204図)。壁の立ち上がりは南北の壁で60°前後、東西も55°~75°と急傾斜。なお、本土坑は二つの土坑が切りあっているとみられ、南側が二段になっている。

S103 第II次調査区の西部にあり、区画では1E区の南に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあって、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。西方にS 46やS 45などの大きな集石があるほか、上記のS 102は東北の至近距離に位置する。

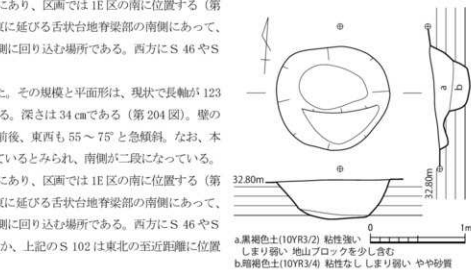
遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が155 cm、短軸99 cm、隅丸方形である。深さは41 cmである(第205図)。壁の立ち上がりは南北の壁で89°・65°、東西で75°・80°と急傾斜である。

S104 第II次調査区の西部にあり、区画では1F区の西に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあって、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。西方にS 46やS 45などの大きな集石がある。

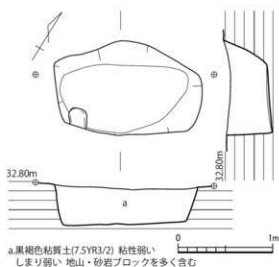
遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が112 cm、短軸96 cm、歪な楕円形である。深さは22 cmである(第206図)。壁の立ち上がりは南北の壁で35°・46°、東西で54°・81°と急傾斜である。

S105 第II次調査区の西部にあり、区画では1F区の西に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあって、東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所であるが、この地点はやや西が緩い。

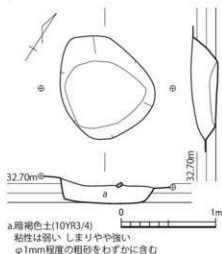
遺構は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が132 cm、短軸103 cm、歪な楕円形である。深さは14 cmである(第207図)。壁の立ち上がりは北壁を除いて急傾斜であるが、深さは浅い。



第204図 S102実測図(1/40)



第205図 S103実測図(1/40)



第206図 S104実測図(1/40)



第207図 S105実測図(1/40)

S106 S107 S108 S109 S110 S106～S110は、いずれも第Ⅱ次調査区の西部にあり、区画では1G区の西に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあって、湾曲する谷部の西側の緩斜面で、勾配が緩い場所である。

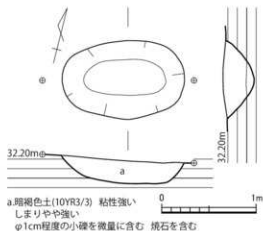
S106は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が129 cm、短軸83 cm、楕円形である。深さは33 cmである(第208図)。壁の立ち上がりは東西が53°と43°、南北が40°と45°である。長軸は、北から西へ104°振れている。

S107は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が120 cm、短軸91 cm、楕円形である。深さは38 cmである(第209図)。壁の立ち上がりは東西が65°で、南北は75°と80°である。長軸は、北から西へ52°振れている。

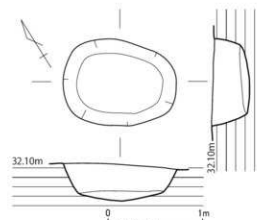
S109は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が210 cm、短軸83 cm、長方形である。内部が二段になっており、一段目の深いところ39 cm、最も深いところで64 cmである(第210図)。壁の立ち上がりは70°～80°前後と急傾斜である。長軸は、北から西へ50°振れている。

S110は、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が110 cm、短軸68 cm、隅丸二等辺三角形である。深さは15 cmである(第211図)。長軸は、北から西へ172.5°振れている。S111を切っている。

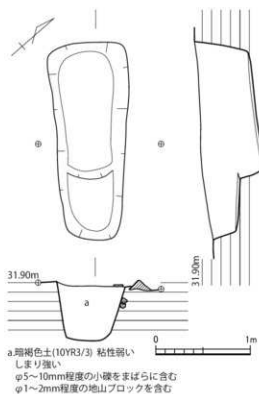
石器 S110からは、台石が1点出土している(第212図351)。



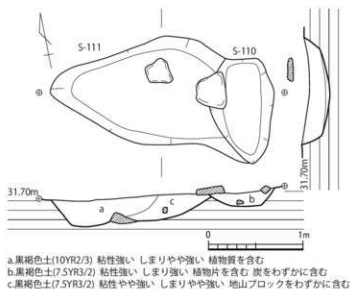
第208図 S106実測図(1/40)



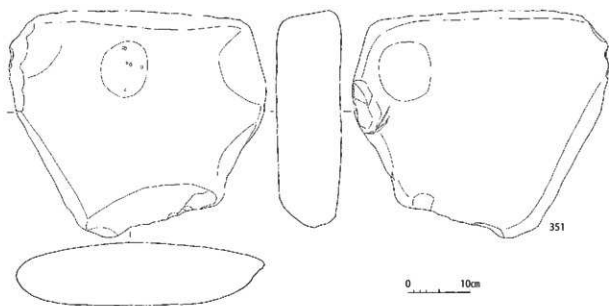
第209図 S107実測図(1/40)



第210図 S109実測図(1/40)



第211図 S110-S111実測図(1/40)



第212図 S110出土遺物実測図

S111 S 111 も S 110 と同様な場所にあり、IV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で長軸が175 cm、短軸116 cm、凸レンズ形である。深さは27 cmである(第211図)。壁の立ち上がりは、長軸が30°~52°、短軸が55°と72°である。長軸は、北から西へ74°振れている。S 110 に切られている。

S112 第Ⅱ次調査区の西部にあり、区画では1H区の西に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側に展開する湾曲した谷部の西側斜面である。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で南北が185 cm、短軸176 cm、菱形である。深さは20 cmである(第213図)。壁の立ち上がりは、急傾斜である。

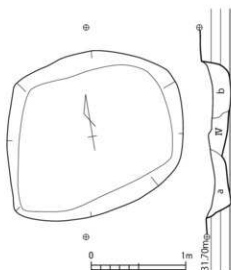
S113 第Ⅱ次調査区の西部にあり、区画では2H区と3H区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側に展開する湾曲した谷部の西側斜面にあたる。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で南北が275 cm、短軸140 cm、形は細長い歪な形である。深さは36 cmである(第214図)。内部は2段になっており、壁の立ち上がりは、西壁が緩やかな勾配、一段目の西壁は35°、東壁36°、北壁70°、南壁45°である。遺構の方位は、北から西へ85°振れている。

石器 旧石器時代の縦長剥片を用いたスクレイパーであり、流入品であろう。ポジティブ面に加工を施す(第215図352)。

S114 第Ⅱ次調査区の西部にあり、区画では3H区の西よりに位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側に展開する湾曲した谷部の西側斜面にあたる。S 113のすぐ南側にS 114は位置する。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で南北が117 cm、短軸90 cm、形は細長い歪な形である。深さは24 cmである(第216図)。壁の立ち上がりは、西壁が緩やかな勾配、西壁は52°、東壁65°、北壁71°、南壁72°である。遺構長軸の方位は、真北である。

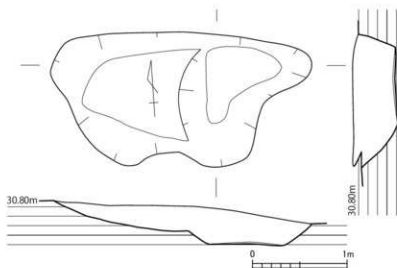


a.暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性なし しまりや強い遺物片を含む
b.暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性強い しまりや強い遺物片を含む 炭・地山ブロックをわずかに含む IV.黒側木炭

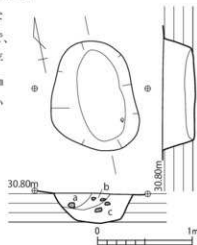
第213図 S112実測図(1/40)

S117 調査区の西部地域で、第II次調査区にあり、区画では2E区・2F区・3E区・3F区の交点に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある谷地形で、S117はその谷頭付近に位置する。この場所は谷頭であるけれど、等高線の開いた勾配の緩い場所である。なお、付近は、S70～S74・S65など集石が多い。

S117は、IV層上面から出土した土坑である(第217図)。土坑内における長軸方向の勾配は緩やかな段をもちながらも中央部で最も深くなる。短軸方向の勾配は、東壁で北壁や南壁の曲率半径が大ききゆるやかであるが、西壁では急傾斜となる。長軸の方位は、ほぼ南北方向で、等高線にほぼ平行する。規模と平面形は、南北237cm、東西110cmで、楕円形である。また最も深い部分の深さは53cmである。

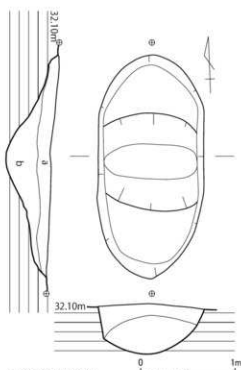


第214図 S113実測図(1/40)



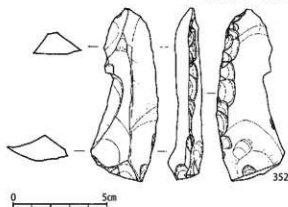
- a. 褐色土(7.5YR2/3) 粘性やや強い しまりやや強い
7.5YR5/8明褐色土ブロックを互層に含む
b. 黒褐色土(7.5YR4/4) 粘性強い しまり弱い
φ 3cmの礫をわずかに含む
c. 暗褐色土(10YR3/4) 粘性強い しまり弱い
φ 2～5cmの礫をわずかに含む

第216図 S114実測図(1/40)



- a. 黒褐色土(10YR3/1) しまりやや強く粘性はやや弱い
5mm程度の小礫をまばらに含む
b. 暗褐色土(10YR3/3) しまり強く粘性は弱い
5cm程度の礫をまばらに含む

第217図 S117実測図(1/40)



第215図 S113出土遺物実測図

S118 上記、S117と同様な地区に位置する。S117の東南に近接する。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、現状で南北が160cm、短軸128cm、形は楕円形である。深さは27cmである(第218図)。壁の立ち上がりは、東西 $50^{\circ} \cdot 68^{\circ}$ 、南北が $40^{\circ} \cdot 47^{\circ}$ である。遺構の長軸の方位は、北から西へ 73° 振れている。

S119 第II次調査区の西部にあり、区画ではII区の西に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状地脊梁部の南側に展開する湾曲した谷部の西側斜面にある。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、南北が176cm、短軸82cm、長楕円形である。深さは20cmである(第219図)。壁の立ち上がりは、南北が $40^{\circ} \cdot 68^{\circ}$ 、東西が $65^{\circ} \cdot 57^{\circ}$ である。

S120 第II次調査区の西部にあり、区画では1F区の西南に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状地脊梁部の南側で、東面する南北方向の斜面が東へ回り込む谷部の斜面にある。

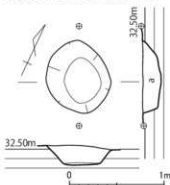
遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、南北が78cm、短軸65cm、楕円形である。深さは19cmである(第220図)。壁の立ち上がりは、南北が $72^{\circ} \cdot 78^{\circ}$ 、東西が $50^{\circ} \cdot 45^{\circ}$ である。

S122 第II次調査区の西部にあり、区画では1E区の西部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状地脊梁部の南側で、東面する南北方向の斜面が東へ回り込む谷部の斜面にある。

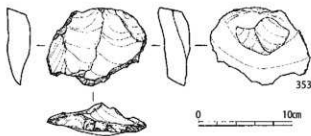
遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、南北が120

cm、短軸110cm、平面形は隅丸方形に近い。深さは35cmである(第222図)。壁の立ち上がりは、東西が $36^{\circ} \cdot 54^{\circ}$ である。

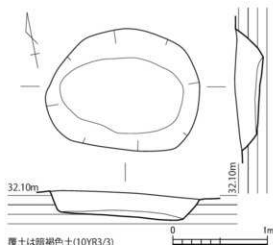
石器 幅広剥片の端部を加工したスクレイパーである(第221図353)。刃部のラインは、鋸刃状である。



a 暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや弱い
しまりやや強い 塵じり少ない
第220図 S120実測図(1/40)

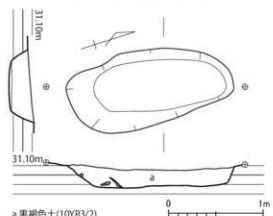


第221図 S122出土遺物実測図



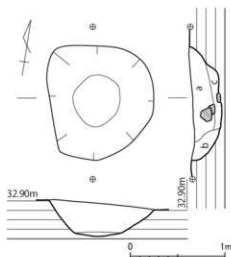
覆土は暗褐色土(10YR3/3)
しまりやや強く粘性弱い
1cm程度の礫をまばらに含む サクサクである

第218図 S118実測図(1/40)



a 黒褐色土(10YR3/2)
しまりやや強く粘性はやや弱い 地山ブロックを微量に含む

第219図 S119実測図(1/40)



a 黒褐色土(10YR2/3) 粘性やや強い しまり弱い
粘性強い 地山ブロックをわずかに含む
植物質含む
b 暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや強い しまり弱い
c 褐色土(10YR4/4) 粘性やや強い しまりやや強い
φ2~5cmの礫を含む

第222図 S122実測図(1/40)

S123 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では6E区西南隅部に位置する。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形の上で、南側に弧状の谷部を望む縁部に位置する。

遺構はIIV層上面で検出した。その規模と平面形は、南北が127 cm、短軸113 cm、平面形は楕円形に近い。深さは45 cmである(第223図)。壁の立ち上がりは、南北で 58° ・ 60° である。堆積土は四層あるが、a層b層から遺物が出土している。

S125 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では4E区西南隅部に位置する。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形のすぐ南側に位置し、弧状の谷部の谷淵にあたる。また南側の谷部下方を望む場所である。

遺構はIIV層上面で検出した。その規模と平面形は、径が84 cm前後で、平面形は楕円形に近い円形。深さは52 cmである(第224図)。壁は、南北で 70° 前後で碗状の断面である。

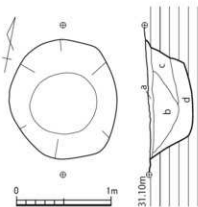
S128 第II次調査区の西部にあり、区画では0F区の西に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側にあって東面する南北方向の斜面が東側に回り込む場所である。北方にS46等の大きな集石がある。

遺構はIIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸が84 cm、短軸が約70 cmで、平面形は隅丸方形に近い楕円形。長軸の方位は、北から西へ 65° 振れている。深さは、15 cmである(第199図)。

なお、S128は、先行するS098に北西部を切られている。

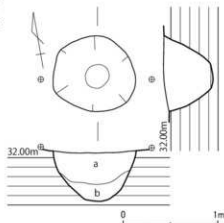
S129 第II次調査区で調査区中央部にあり、区画では4E区西南隅部に位置する。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い地勢の脊梁地形の上で、南側に弧状の谷部を望む縁部に位置する。

遺構はIIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸が239 cm、短軸が約140 cmで、平面形は隅丸方形に近い楕円形。長軸の方位は、北から西へ 152° 振れている。深さは、36 cmである(第226図)。長軸方向の傾斜は 17° と 37° と緩やかで、短軸方向では 65° と 80° で急勾配である。



- a.黒褐色土(10YR2/3) 粘性やや弱い しまりやや弱い
土器などの遺物を多く含む
b.黒褐色土(10YR2/3) 粘性やや強い しまり弱い
土器などの遺物を多く含む
c.黒褐色土(10YR2/3) 粘性なし しまりやや弱い
地山ブロックを微量に含む
d.黒褐色土(10YR2/3) 粘性強い しまりやや強い

第223図 S123実測図(1/40)

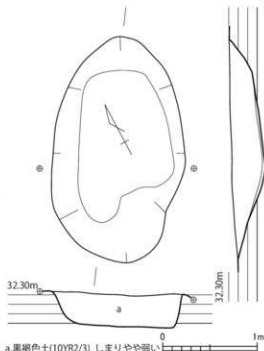


- a.黒褐色土(10YR3/2) しまり強く粘性やや強い
粒子はあくボソボソである 1mm程度の小礫を含む
b.黒色土(10YR1.7/1) しまりやや強く粘性は弱い
粒子は細かく細粒である 1cm程度の地山ブロックを
微量に含む 埋め土はサクサクしている

第224図 S125実測図(1/40)

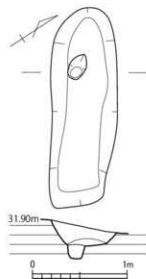


第225図 S129出土遺物実測図



- a.黒褐色土(10YR2/3) しまりやや強い
粘性やや強い φ1mm~1cmの砂利をまんべんなく含む
土器などの遺物を少し含む

第226図 S129実測図(1/40)



第227図 S130実測図(1/40)

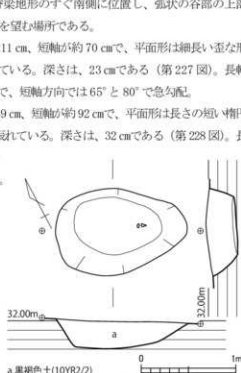
土器 S129 からナデ調整無文土器の口縁部破片が出土している (第225図 354)。外傾する。

S130・S131・S132 調査区中央部で第II次調査区にあり、区画では4F区北半部に位置する。この辺りでは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形のすぐ南側に位置し、弧状の谷部の上部緩斜面である。また南側の谷部下方を望む場所である。

S130の規模と平面形は、長軸が211cm、短軸が約70cmで、平面形は細長い歪な形。長軸の方位は、北から西へ57°振れている。深さは、23cmである(第227図)。長軸方向の、傾斜は17°と37°と緩やかで、短軸方向では65°と80°で急勾配。

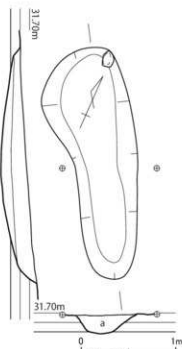
S131の規模と平面形は、長軸が149cm、短軸が約92cmで、平面形は長さの短い楕円形。長軸の方位は、北から西へ63°振れている。深さは、32cmである(第228図)。長軸方向の、傾斜は55°と30°と緩やかで、短軸方向では50°と70°である。

S132の規模と平面形は、長軸が247cm、短軸が約92cmで、平面形は細長い楕円形。長軸の方位は、北から西へ30°振れている。深さは、26cmである(第229図)。長軸方向の傾斜は40°と52°と緩やかで、短軸方向では55°と36.5°である。



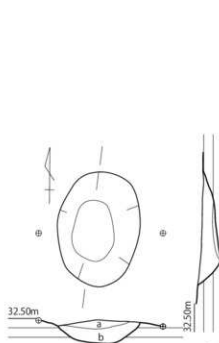
a.黒褐色土(10YR2/2) しまり強く粘性やや強い 粒子は細かく細粒である 1cm程度の地山ブロックを微量に含む

第228図 S131実測図(1/40)



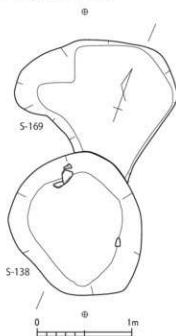
a.黒褐色土(10YR3/7) しまりやや強く粘性やや弱い 粒子は非常に細かく細粒である

第229図 S132実測図(1/40)



a.黒褐色土(10YR3/4) しまりやや強い 粘性やや強い 炭を微量に含む
b.にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや弱い 粘性なし 炭土ブロックを少し含む 地山ブロックをまばらに含む

第230図 S136実測図(1/40)



S-138(覆土) a.黒褐色土(10YR3/2) しまり強い 粘性弱い 粒子は細粒である 1cmから3cm程度の小礫を含む
b.灰黄褐色土(10YR4/2) しまり強い 粘性やや弱い 1mmから2mmの小礫を微量に含む 1cm程度の地山ブロックを含む
S-169(覆土) a.黒褐色土(10YR3/2) しまりやや強い 粘性やや弱い 1mmから2mmの小礫を微量に含む

第231図 S138・S169実測図(1/40)

S136 調査区の西部地域で、第II次調査区にあり、区画では5D区の東南隅部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の上において、標高の高い脊梁地形の尾根部から扇形に広がりをはじめる変化点にある。地形的には緩く平坦な場所である。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸が122cm、短軸が86cmで、平面形は楕円形。長軸の方位は、北から西へ170°振れている。深さは、24cmである(第230図)。長軸方向、傾斜は45°と24°と緩やかで、短軸方向では曲率半径が大きいので明瞭ではないが、40°と41°前後の緩やかな勾配である。なお、堆積土のb層に焼土が含まれている。

S138 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では5E区の南西部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南縁部で、南に湾曲した谷部を望む場所。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸が151cm、短軸が135cmで、平面形は寸詰まりな楕円形。長軸の方位は、北から西へ32°振れている。深さは、24cmである(第231図)。長軸方向、傾斜は56°と40°の勾配である。

S140 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では4F区・5F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形の南にある湾曲した谷部斜面である。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸が130cm、短軸が60cmで、平面形は寸詰まりな楕円形。長軸の方位は、北から西へ90°振れている。深さは、15cmである(第232図)。土坑の長軸は、等高線に平行する。柱状があるが、S140が埋まって後に掘り込まれている。

S141 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では5F区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形の南にある湾曲した谷部斜面にあたる。

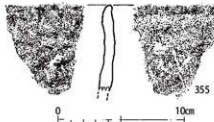
遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、南北が100cm、東西が102cmで、平面形はほぼ円形。深さは、30cmである(第233図)。土坑内部の立ち上がりの勾配は、南北が53°と71°、東西が46°と57°である。

S142 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では5F区・5G区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形の南にあって、湾曲した谷部斜面である。

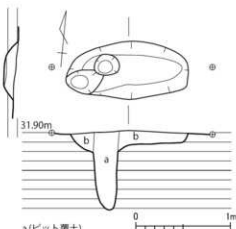
遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、南北が70cm、東西が58cmで、平面形はほぼ方形である。深さは、12cmである(第234図)。土坑内部の立ち上がりの勾配は、緩く皿状である。

土器 ナゲ調整無文土器が1点出土している(第235図355)。器壁は1cmである。

S143 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では5G区北部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形の

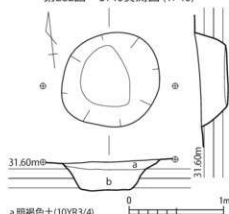


第235図 S142出土遺物実測図



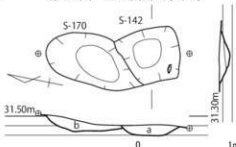
a(ビット覆土) 暗褐色土(10YR3/3) しまり強い 粘性やや弱い 粒子は非常に細かく細粒である
b暗褐色土(10YR3/4) しまり強い 粘性弱い 地山ブロックをまばらに含む

第232図 S140実測図(1/40)



a暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや弱い しまりやや弱い 地山ブロックを微量に含む
b暗褐色土(10YR4/4) 粘性やや強い しまりやや弱い 地山ブロックをまんべんなく含む

第233図 S141実測図(1/40)



a黒褐色土(10YR3/2) しまりはやや弱く粘性は弱い 埋土はボソボソである
b暗褐色土(10YR3/3) しまりは強く粘性は弱い 地山ブロックを含む

第234図 S142・S170実測図(1/40)

南にあって、湾曲した谷部斜面である。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸が152 cm、東西が92 cmで、平面形は北東の端部側が太く、南東側が細い楕円形である。深さは、23 cmである(第236図)。土坑内部の立ち上りの勾配は、南西端部が65°であるが、北東端部は曲率半径が大きく概ね26°程度緩い。

S145 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区西部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦面にあって、その西南にある湾曲した谷部斜面を望む場所である。また、付近は南部竪穴建物群にふくまれ、炉穴などの遺構も多い。

遺構は、長軸90 cm、短軸80 cm、深さ10 cmである。楕円形の遺構のようであるが、S121に切られている長軸の方位は、北から西へ66°である(第95図)。東端に直径40 cm、深さ50 cmの柱穴状遺構がある。

S146 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区西部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦面で、その西南にある湾曲した谷部斜面を望む場所である。また、付近は南部竪穴建物群にふくまれ、炉穴などの遺構も多い。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸が切れられ明確ではないが概ね230 cm、東西は79 cmで、平面形は北東の端部側が太く、南東側が細くなる楕円形である。長軸の方位は、北から西に37°振れている。

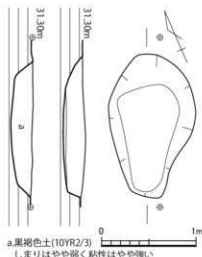
深さは、23 cmである(第237図)。土坑内部の立ち上りの勾配は、短軸で73°・77°である。類例から炉穴と考えられる。なおS145は南東端部でS147を切り、S178に切られる関係にある。

S149 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区南部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦面の西南部にある。炉穴群の南に隣接する。

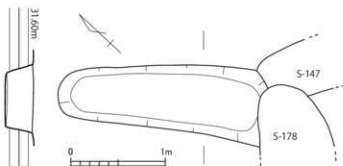
遺構は、長軸が91 cm・短軸65 cm・深さ18 cmである。平面形は水滴形の楕円形(第238図)。長軸の方位は北から西へ93°振れている。

S150 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7G区中部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦面の西南部にあたる。

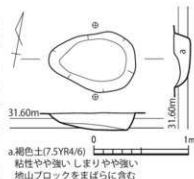
遺構は、長軸が145 cm・短軸116 cm・深さ20 cmである。平面形は隅丸方形。長軸の方位は北から西へ21°振れている(第239図)。



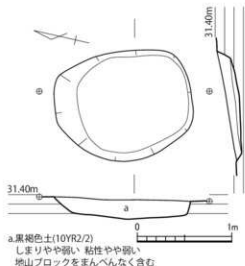
第236図 S143実測図(1/40)



第237図 S146実測図(1/40)



第238図 S149実測図(1/40)



第239図 S150実測図(1/40)

S151 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では7G区北東部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面であって、その西南部にある。

遺構はほぼ円形で浅い皿状である(第240図)。直径が89cmで、深さは19cm。

S153 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では5H区北西隅部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の南側に広がる湾曲した谷の谷底部である。

遺構はほぼ円形で、径170cm前後の規模を有する。皿状の断面形をしており、掘り込み部分が尾根側で高く、谷底側で低い(第241図)。深さは28cm。

S154 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では5F区北西隅部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の南側に広がる湾曲した谷上部の斜面に位置する。

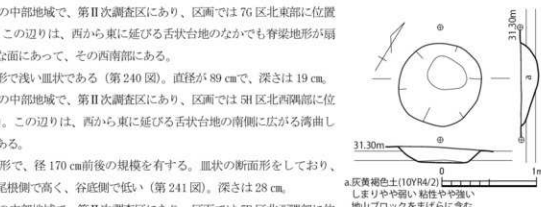
遺構は細長く一端が幅広いハコ形で、長軸148cm・短軸86cmの規模を有する(第242図)。深さ20cmで、壁の立ち上がりは長軸端部で60°と30°、短軸は30°と78°である。深さは20cm。

S155 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では5E区南東隅部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開き始めた起点近くの平坦な面である。また南西で、弧状の谷部との縁部にも近い。

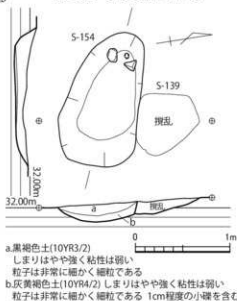
遺構は胴張り状の長楕円形で、長軸182cm・短軸112cmの規模を有する(第243図)。壁の立ち上がりは長軸端部で50°、短軸は50°と41°である。深さは10cmと浅い。中央付近に台石を設置していた。

石器 台石は、

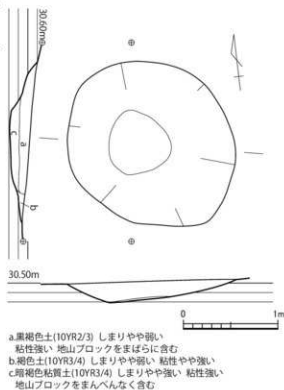
平面形が隅丸三角形をしており、長幅25cm・厚さ7.2cmで、表裏に打痕が残る(第244図356)。



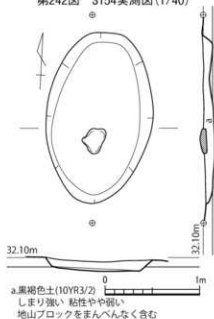
第240図 S151実測図(1/40)



第242図 S154実測図(1/40)



第241図 S153実測図(1/40)



第243図 S155実測図(1/40)

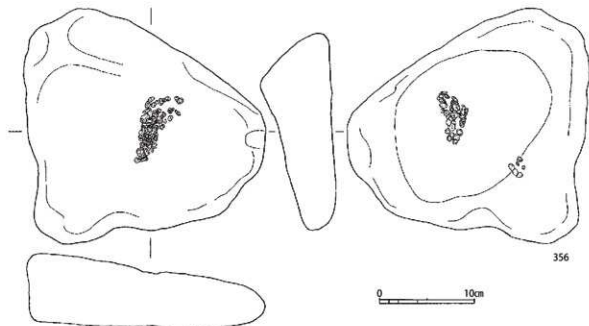
S156 調査区の中部地域で、第II次調査区にあり、区画では5G区中部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の南側に広がる湾曲する谷の東側斜面である。

遺構は隅丸三角形で、長軸159cm・短軸104cm前後の規模を有する(第478図)。深さは34cmである。

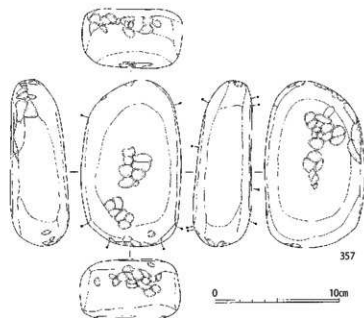
石器 石器は表裏両面・両側面が磨られ、石鏡状になった磨石で「石鏡形磨石・敲石」と呼ばれているものである(第245図357)。表裏、周縁に打痕があり、敲石としても使用されている。敲打により、両側に面が生じている。

S161 調査区の中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7E区南部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面の中央部にある。

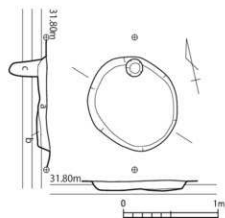
遺構は、長軸が102cm・短軸92cmで、ほぼ円形(第246図)。深さ12cmと浅い。内部は平らで、柱穴が1基ある。



第244図 S155出土遺物実測図



第245図 S156出土遺物実測図



- a. 黒褐色土(10YR2/3) 粘性強い・しまり強い
地山ブロックを微量に含む
土層などの遺物を少し含む
- b. 褐色土(10YR4/4) 粘性は強い・しまりやや弱い
地山ブロックをまばらに含む
- c. 褐色土(10YR4/4) 粘性やや強い・しまりやや強い
地山ブロックを微妙に含む 植物質を含む

第246図 S161実測図(1/40)

S165 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では5G区北部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の南側に広がる湾曲した谷の東側斜面である。

遺構は隅丸方形で、南北54cm・東西57cmの規模を有する(第247図)。深さは12cm。

S166 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では6E区南西隅部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開き始めた起点近くの平坦な面である。また南西方向が、弧状の谷部との縁部にも近い。

遺構は、歪な隅丸方形で、南北110cm・東西107cmの規模を有する(第248図)。壁の立ち上がりは、南北で47.5°と63°、東西で55°と47°で急な勾配となっている。深さは33cmである。

S167 調査区の西部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では3F区中部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある谷地形で、S167はその谷頭付近にあたる。この場所は谷頭であるけれど、等高線の開いた勾配の緩い場所である。

遺構は、楕円形で、南北107cm・東西125cmの規模を有する(第249図)。壁の立ち上がりは、南北で50°と77°、東西で64.5°と50°で急な勾配となっている。深さは31cmである。

S168 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では7E区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面の中央部にある。また付近は南部竪穴建物群の分布範囲でもある。

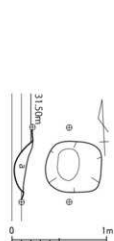
遺構は、歪な菱形で、長軸158cm・短軸100cmの規模を有する(第69図)。壁の立ち上がりは、南北で90°と63°で急な勾配となっている。深さは26cmである。S168は、S186・S187が埋没した後に掘削されている。内部に焼土がある。

S169 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では5E区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開き始める起点にあたる地区。

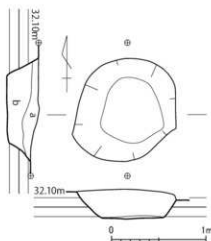
遺構は、歪な扇形で、東西171cm・南北120cmの規模を有するが、南側をS138によって切られている(第231図)。壁の立ち上がりは、曲率半径が極めて大きいゆるやかな傾斜勾配である。深さは16cmである。

S170 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では5F区・5G区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地の南側に広がる湾曲する谷の東側斜面である(第478図)。

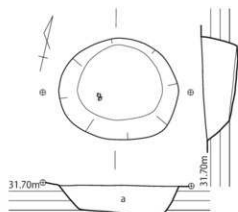
遺構は隅丸方形で、南北110cm・東西52cmの規模を有する(第234図)。深さは12cm。S142と一連の遺構である。



a. 焼土(10YR4/6)
粘性なし。しまり弱い
粒子は細かく粒径である
第247図 S165実測図
(1/40)



a. 暗褐色土(10YR3/3) 粘性やや強い
しまりやや強い φ2~7cmの線を少し含む
b. 暗褐色土(10YR3/4) 粘性やや強い
地山ブロックを微量に含む
第248図 S166実測図(1/40)



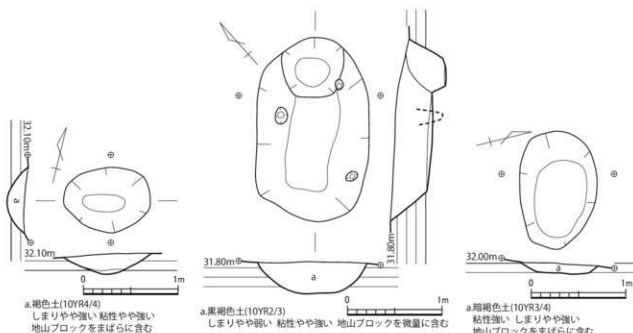
a. 黒褐色土(10YR3/1)
しまりやや強い 粘性やや弱い
地山ブロックをまばらに含む 5mm程の小礫をまばらに含む
第249図 S167実測図(1/40)

S171 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では6E区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開き始める起点にあたる地区である。

遺構は、寸詰まりの楕円形で、長軸91cm・南北70cmの規模を有する(第250図)。長軸の方向は、北から西に84°振れた方向である。深さは16cmである。

S173 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では7D区と7E区の境界に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面の中央部にある。この付近は南部竪穴建物群の北側にある。

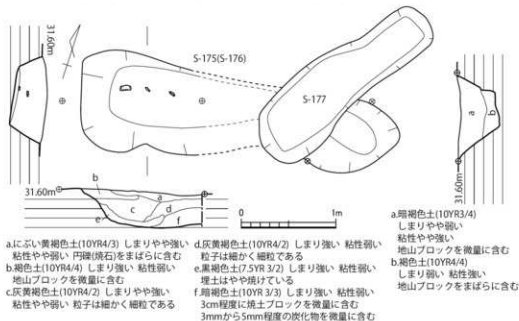
遺構は、細長い隅丸六角形で、長軸195cm・短軸119cmの規模を有する(第251図)。遺構は、北東端部に柱穴が掘りこまれているので壁の立ち上がりはわからないが、南西端部では51°と斜め勾配となっている。短軸方向の立ち上がりは曲率半径が大きく分からないが、概ね50°・62°である。遺構の深さは40cmである。



第250図 S171実測図(1/40)

第251図 S173実測図(1/40)

第252図 S174実測図(1/40)



第253図 S175(S176)実測図(1/40)

S174 調査区の中中部から東部にかけての地区で、丁度第II次調査区にあたる。区画では7D区西南隅に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面、北部よりの場所である。北側の谷を望む場所で、南部竪穴建物群の北側に位置する。付近に遺構は少ない。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸は概ね127 cm、東西が82 cmで、平面形は西側端部が太く南東側が細くなる卵形の楕円形である。長軸の方位は、北から西に74°振れている。深さは、10 cmである(第252図)。土坑内部の立ち上がりの勾配は、短軸で31°・38°と緩やかである。

S175(S176) 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区西南に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面、南部よりの場所である。南部竪穴建物群の間に位置する。なお、周囲には同様な炉穴が多く位置している。S176は、S175の東方に位置するが、検討の結果同じ炉穴であり、一括して報告する。

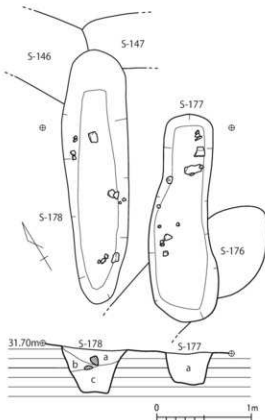
遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸は概ね346 cm、東西が107 cmで、平面形は細長く歪な形である。長軸の方位は、北から西に96°振れている。深さは、30 cmである(第253図)。土坑内部の立ち上がりの勾配は、短軸で67°・56°である。内部の堆積を見ると、f層で焼土が観察されることからここが燃焼部であったことが分かる。e層は細長く、黒褐色土の薄い堆積であり、やや焼けていることからすべし運道であった可能性が高い。するとe層は本来天井部でブリッジであった可能性が高く、陥没したのであろう。

S177 上記のS175と同じ場所であり、同遺構の埋没後に構築されている。

その規模と平面形は、長軸は概ね220 cm、短軸が72 cmで、平面形は細長く歪な長方形である。長軸の方位は、北から西に147°振れている。深さは、33 cmである(第254図)。土坑内部の立ち上がりの勾配は、短軸で76°・75°である。内部の堆積には、炭が含まれている。内部構造については不明であるが、周辺の類例から炉穴であることはまちがいないだろう。

条痕調整とナデ調整を基本とした無文土器が出土している。

ナデ調整無文土器は、僅かに外傾する口縁部設置で、端部を細く伸ばしている。また調整はナデで、条痕調整を施した形跡はない(第255図360)。他は、条痕調整後にナデた例が5点ある(358～363)。このうち胴部が直行気味にたちあがるものの口縁部が外傾する例がある(361)。この例は、斜行する条痕がよく残っている。無文土器の中には、底部形態の分かる例がある。一例は、細い胴部から丸底になる例と(362)、僅かに尖り気味の丸底の例である(363)。二日市II a式土器・二日市II b式土器段階のものとも推定される。



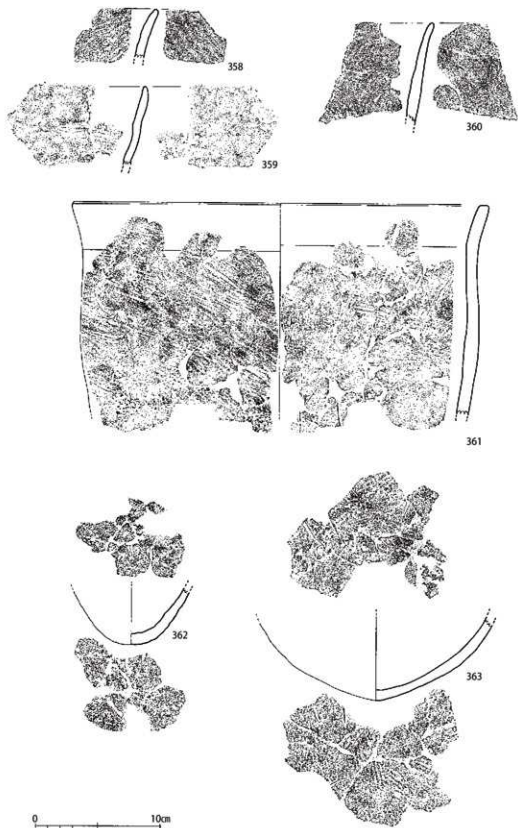
S-177 a. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い粘性やや弱い 炭を微量に含む土器などの遺物を少し含む

S-178 a. 黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い粘性やや弱い 炭を微量に含む土器の遺物を少し含む

b. 暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い粘性やや弱い 炭を微量に含む地山ブロックを微量に含む

c. 極暗褐色土(10YR3/3) しまりやや弱い粘性強い 炭・焼土ブロックを微量に含む

第254図 S177-S178実測図(1/40)



第255図 S177出土遺物実測図

S178 調査区の中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では7F区西南に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、南部よりの場所である。南部竪穴建物群の間に位置する。なお、周囲には同様な炉穴が多く位置している。S178は、S146・S147が埋没後に切るように構築されている。またS177の北西に20、30cmに平行し、隣接する。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸は概ね270cm、短軸が70cmで、平面形は細長い長楕円形である。長軸の方位は、北から西に149°振れている。深さは、45cmで(第254図)、立ち上がりの角度は66°と73.5°であり、断面形は逆台形となる。

土器 条痕調整無文土器と思われるものが1点ある。口縁部直下でクランク状に屈折し、立ち上る縁帯を有する例である。外面は磨滅で明瞭ではないが、内面は条痕調整後ナデている(第256図364)。

石器 磨石を片刃の機器に再加工したものである(365)。

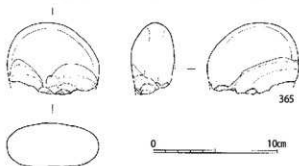
S181 調査区の中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では6F区東南隅部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、南部よりの場所である。南部竪穴建物群の間に位置する。なお、周囲には同様な炉穴が多く位置している。

遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸は概ね200cm、短軸が55cmで、平面形は細長い長楕円形である。長軸の方位は、北から西に41°振れている。深さは、33cm~44cmで(第257図)、立ち上がりの角度は、端部で57°と64°、両側で72°と87.5°であり、断面形は逆台形となる。類例からみて炉穴であろう。

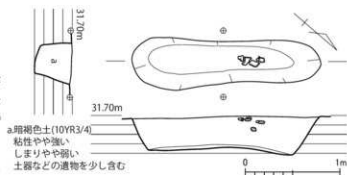
土器 ナデ調整無文土器と条痕調整無文土器がある。前者は、内面が指頭王痕後ヨコナデで、外面はヨコナデ(第258図366)、後者は、内面がナデで、外面が斜行する条痕調整を施している(367)。

S182 調査区の中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では7F区・8F区東南隅部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、南部よりの場所である。なお、周囲には同様な炉穴が多く位置している。

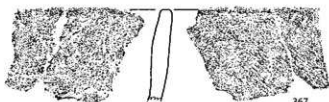
遺構はIV層上面で検出した。その規模と平面形は、長軸は概ね225cm、短軸が108cmで、平面形は細長い長楕円の短冊形である。長軸の方位は、北から西に137°振れている。深さは、27cmで(第259図)、立ち上がりの角度は、長軸で44°と46°、短軸で39°と61°であり、断面形は逆台形となる。類例からみて炉穴であろう。



第256図 S178出土遺物実測図



第257図 S181実測図(1/40)

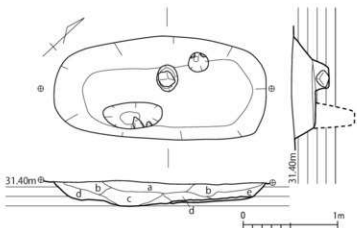


第258図 S181出土遺物実測図

S183A-S183B 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区・8F区境界南部に位置する(第3図・第479図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、南部よりの場所である。南部竪穴建物群の南に接している。なお、周囲には様々な遺構が位置している。遺構はIV層上面で検出した。

S183Aの規模と平面形は、長軸は概ね88cm(推定116cm)、短軸が91cmで、平面形は寸詰まりの楕円形である。長軸の方位は、北から西に43°振れている。深さは、22cmで(第260図)、その立ち上がりの角度は、曲率半径が大きく不明である。

S183Bの規模と平面形は、長軸は概ね255cm、短軸は推定174cm、平面形は隅丸の半円形に近い。長軸の方位は、北から西に39°振れている。深さは、12cmである(第260図)。S183Bは、形と規模・構造から、竪穴建物の可能性がある。中央二つのピットは、炉穴であろう。この付近の遺構の切りあいからみた遺構の構築順序は、S162→S183B→S183A→S182となる。



- a. 黒褐色土(10YR3/1) しまり強い 粘性弱い 粒子は非常に細かく細粒である
- b. 褐灰色土(10YR4/1) しまり強い 粘性強い 1mm程度の地山ブロックをまばらに含む
- c. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり強い 粘性弱い 粒子は非常に細かく細粒である
- d. ぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり強い 粘性やや弱い
- e. 2cm程度の地山ブロックをまばらに含む
- e. 褐色土(10YR3/2) しまり強い 粘性弱い 3mm程度の炭化物を微量に含む
- 3cm程度の地山ブロックをまばらに含む

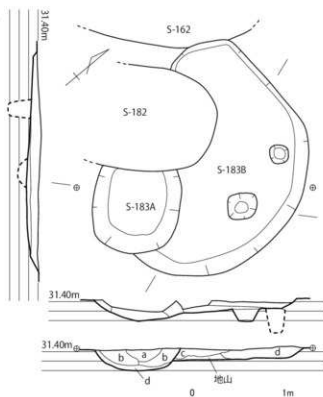
第259図 S182実測図(1/40)

S185 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7E区南部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、中南部よりの場所である。南部竪穴建物群の中である。なお、周囲には様々な遺構が位置している。遺構はIV層上面で検出した。

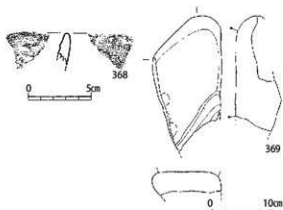
S185の規模と平面形は、長軸は概ね237cm、短軸は推定108cm、平面形は隅丸の短冊形に近い。長軸の方位は、北から西に116°振れている。深さは、19cmである(第69図)。

土器 ナデ調整無文土器の口縁部破片がある(第261図368)。

石器 打割によって破壊された台石の破片が出ている(369)。



- a. ぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや強く粘性なし 1mm程度の地山ブロックをまんべんなく含む
- b. 褐色土(10YR4/4) しまり強く粘性やや弱い 粒子は細かく細粒である
- c. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや強く粘性弱い 1cmから2cm程度の地山ブロックをまんべんなく含む
- d. 褐色土(10YR4/4) しまり強く粘性やや弱い 1cmから2cm程度の地山ブロックをまばらに含む



第261図 S185出土遺物実測図

第260図 S183実測図(1/40)

S192 調査区の西南部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では31区に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形の南側にある内湾状の谷地形で、S192はその谷底部にあたる。

S192の規模と平面形は、長軸143cm、短軸120cm、平面形は小型の楕円形。長軸の方位は、北から西に27°振れる。深さは、36cmである(第262図)。立ち上り角度は、短軸が39°と70°、長軸が72°と22°である。

S193 上記S192の近接地点にある(第478図)。

S193の規模と平面形は、長軸145cm、短軸120cm、平面形は小型の円形。長軸の方位は、北から西に176°振れる。深さは、27cm(第263図)。立ち上り角度は、長軸が60°と48°である。

S195 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では8F区北東隅部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、中南部よりの場所である。南部堅穴建物群の中である。なお、周囲には様々遺構が位置している。遺構はIV層上面で検出した。

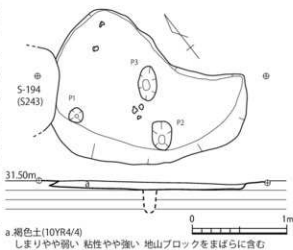
S195の規模と平面形は、長軸210cm、短軸156cm、平面形は歪な三日月形。長軸の方位は、北から西に24.5°振れる。深さは、7cm(第264図)と浅く、立ち上り角度は不明瞭。

S196 上記S195と同じ地域で、8F区の中部に位置する。

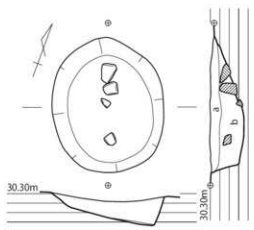
S196の規模と平面形は、長軸135cm、短軸126cm、平面形は寸詰りの楕円形。長軸の方位は、北から西に141°振れる。深さは、36cm(第265図)と浅く、立ち上り角度は、長軸で39°と70°、短軸で47.5°と50°で断面が台形となる。

S199 第Ⅱ次調査区の南西部にあり、区画では3H区南側に位置する(第3図・第478図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側に展開する湾曲した谷部の谷底部にあたる。

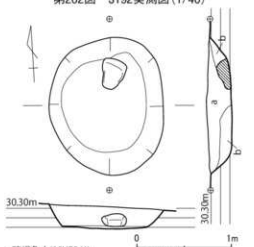
S199の規模と平面形は、長軸128cm、短軸176cm、平面形は長楕円形。長軸の方位は、北から西に105°振れる。深さは、30~42cm(第267図)、立ち上り角度は、長軸で67°と73°、短軸で80°と67°で断面が台形となる。



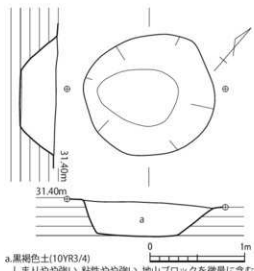
第264図 S195実測図(1/40)



第262図 S192実測図(1/40)



第263図 S193実測図(1/40)



第265図 S196実測図(1/40)

S198 調査区の中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では7G区北部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、中南部よりの場所である。南部竪穴建物群の南にあり、他の遺構は多くない。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S198の規模と平面形は、長軸215 cm、短軸78 cm、平面形は歪な短冊形である。長軸の方位は、北から西に105°振れる。深さは、12 cm(第266図)と浅く、立ち上り角度は長軸方向が18°と37°、短軸方向が26°と27°である。中央部付近に、被熱による焼土面がある。

S200 第Ⅱ次調査区の南西部にあり、区画では3H区中央部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側に展開する湾曲した谷部の底部にあたる。

S200の規模と平面形は、幅が166 cmと201 cm、平面形は隅丸台形である。深さは、19 cm(第268図)と浅い。この遺構の上のⅢ層中には、S43の配石遺構が位置するが、そのレベルは、31.10 m～30.90 mの間に含まれている。その下、30 cm前後にS200の上面がくる。

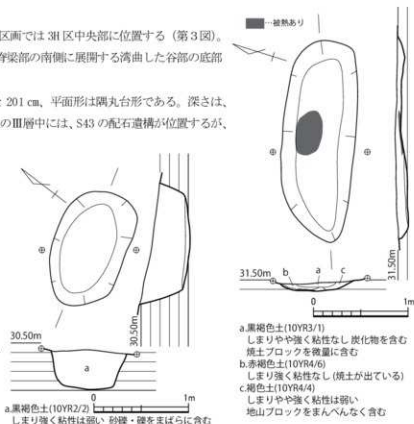
S201 調査区の南部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では6H区西部に位置する(第3図)。この辺りは、扇形に開いた平坦な面の南側斜面であり、湾曲する谷の東側斜面である。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S201の規模と平面形は、長軸209 cm、短軸62 cm、平面形は歪な短冊形。長軸の方位は、北から西に176°振れる。深さは、29 cm(第269図)と浅く、立ち上り角度は長軸方向が11.5°(北)と51°(南)、短軸方向が77°付近である。

底部は北側に高度を上げる。明確な焼土は出ていないが、類例から竪穴と思われる。

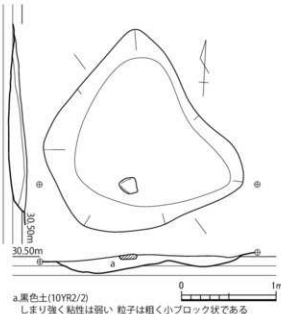
S202 第Ⅱ次調査区の南西部にあり、区画では4H区西部に位置する(第3図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地脊梁部の南側に展開する湾曲した谷部の谷底底部にあたる。

S202の規模と平面形は、長軸152 cm、短軸104 cm、平面形は歪な隅丸方形。長軸の方位は、北から西に120°振れる。深さは、80 cm(第270図)と浅く、立ち上

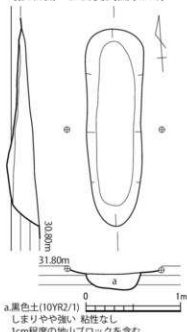


第267図 S199実測図(1/40)

第266図 S198実測図(1/40)



第268図 S200実測図(1/40)



第269図 S201実測図(1/40)

り角度は長軸方向が 60° と 72° 、短軸方向が 80° と 81° である。短軸の断面形は台形である。

S206 S206は、調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7E区中部に位置する(第3図・第479図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦面の中央部である。南部竪穴建物群の北に接する。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S206の規模と平面形は、長軸220cm、短軸116cm、平面形は歪な短冊形。東側が突出する。長軸の方位は、北から西に 18° 振れる。深さは、12cm(第271図)と浅く、立ち上り角度は長軸方向が 58° と 67.5° 、短軸方向が 43.5° と 71° である。内部に小ピットがある。

S208 S208は、調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では6F区北部に位置する(第3図・第478図)。ここは、西から東に延びる脊梁地形が扇形に開いた平坦面で、その西南部にあたり、南部竪穴建物群の中にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

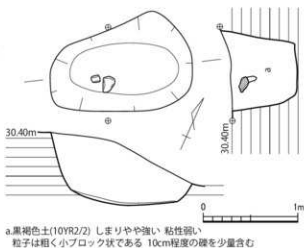
S208の規模と平面形は、長軸171(現状)cm、短軸62cm、平面形は端部の丸い短冊形。長軸の方位は、北から西に 120° 振れる。深さは、33cm(第105図)と浅く、立ち上り角度は長軸方向が 70° 、短軸方向が 71° と 82° である。短軸の横断面は台形で、床面は西側方向が高い。

石器 打割によって割られた磨石・蔽石が出土している(第272図370)。打痕は主に縁部にみられ、表裏両面は磨痕が残る。

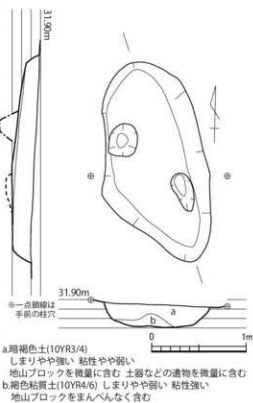
S210 調査区の東南地域で、第II次調査区にあり、区画では8G区北東隅部に位置する(第3図・第479図)。この辺りは、扇形に開いた平坦面の東南部である。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S210の規模と平面形は、長軸289cm、短軸66cm、平面形は短冊形。長軸の方位は、北から西に 80° 振れる。深さは、10cm(第274図)と浅く、立ち上り角度は不詳。床面が平であること、遺構ラインが綺麗にそろうように平行する。勾配が僅かに高い西側端部付近が被熱により赤化している。

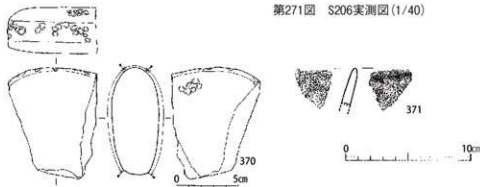
土器 ナデ調整無文土器が1点出土している(第272図371)。



第270図 S202実測図(1/40)



第271図 S206実測図(1/40)



第272図 S208-S210出土遺物実測図

S209 調査区の中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7D区と7E区の境界で東部に位置する(第3図・第479図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、中央部である。南部堅穴建物群の北にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

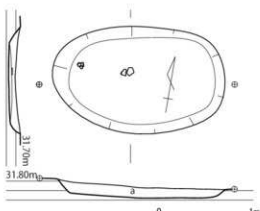
S209の規模と平面形は、長軸182cm、短軸114cm、平面形は楕円形。長軸の方位は、北から西に98°振れる。深さは、12cm(第273図)と浅く、立ち上り角度は長軸方向が38°と49°、短軸方向が36°と42°である。遺構は、内部が浅く、断面が台形となる炉穴と異なっているが、上部が削られている可能性も高い。

S211 調査区の東南地域で、第II次調査区にあり、区画では8G区北部に位置する(第3図・第479図)。この辺りは、扇形に開いた平坦な面の東南部である。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S211の規模と平面形は、長軸214cm、短軸68cm、平面形は短冊形。長軸の方位は、北から西に178°振れる。深さは、30cm(第275図)と浅く、立ち上り角度は長軸方向が42(北)°と51(南)°、短軸方向が77(西)°と42(東)°である。

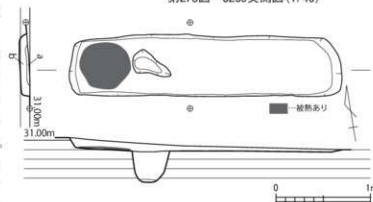
S212 調査区の東南地域で、第II次調査区にあり、区画では7G区南部に位置する(第3図・第479図)。この辺りは、扇形に開いた平坦な面の東南端部に近い場所である。なお、遺構はIV層上面で検出した

S212の規模と平面形は、長軸214cm、短軸68cm、平面形は短冊形。長軸の方位は、北から西に178°振れる。深さは、30cm(第276図)と浅く、立ち上り角度は長軸方向が52(西)°と30(東)°、短軸方向湾曲しながら立ち上る。勾配が僅かに低い西側端部付近が被熱により赤化している。



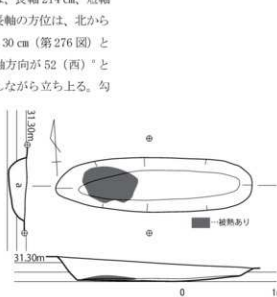
a.黒褐色土(10YR2/3) しまりやや強い粘性やや弱い 地山ブロックを微量に含む

第273図 S209実測図(1/40)



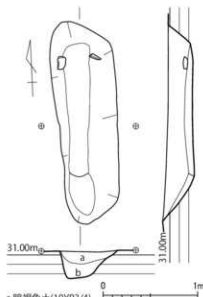
a.黒褐色土(10YR2/3) しまり弱い 粘性やや強い 焼土ブロックを微量に含む
b.黒褐色土(7.5YR3/2) しまり弱い 粘性なし 粒子は細かく細粒である 焼土ブロックをまばらに含む

第274図 S211実測図(1/40)



a.暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性強い 地山ブロックをまばらに含む 焼土ブロックを微量に含む

第276図 S212実測図(1/40)



a.暗褐色土(10YR3/4) しまりやや弱い 粘性やや弱い 地山ブロックを微量に含む
b.黒褐色土(10YR2/3) しまりやや弱い 粘性強い

第275図 S211実測図(1/40)

S214 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では6D区中部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開く平坦面の起点になる場所で、その北部よりで、北側の谷を眺望できる場所である。南部堅穴建物群の北側にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S214の規模と平面形は、長軸126cm、短軸85cm、平面形は小判形である。長軸の方位は、北から西に24°振れる。深さは、47cm(第277図)と浅く、立ち上り角度は短軸方向が69(西)°と56(東)°で、断面逆台形に立ち上る。

S217 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では6F区北西隅部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開く平坦面の起点になる場所で、その南部よりで南側の湾曲した谷を眺望できる場所である。南部堅穴建物群の中(西より)にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

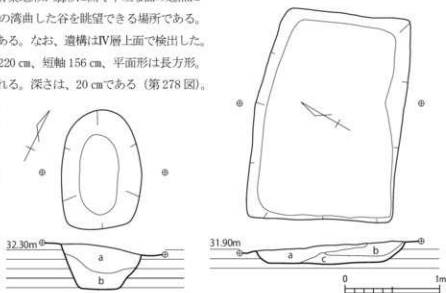
S217の規模と平面形は、長軸220cm、短軸156cm、平面形は長方形。長軸の方位は、北から西に71°振れる。深さは、20cmである(第278図)。

壁の立ち上り角度は短軸方向が36°前後で立ち上り、半ばで上方へ立ち上る。四隅が鋭角であり、構築時期が縄文時代でない可能性もある。

S219 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では7F区北西隅部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開き始める場所である。その南部よりの場所である。南部堅穴建物群の中(西より)にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

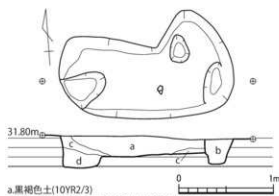
S219の規模と平面形は、長軸186cm、短軸111cm、平面形は長方形を基本としているが、北東部が鍵形に突出する。長軸の方位は、北から西に86°振れる。深さは、21cmである(第279図)。

S220 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では5E区中部に位置する(第3図・第478図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開く平坦面の起点になる場所で、その南部よりで南側の湾曲した谷を眺望できる



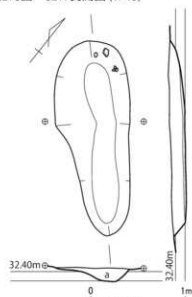
第277図 S214実測図(1/40)
a.暗褐色土(10YR3/4)しまりやや強い 粘性やや弱い
しまりやや弱い 粘性やや弱い
b.ふい黄褐色土(10YR4/3)
しまりやや弱い 粘性やや弱い
地山ブロックをまばらに含む

第278図 S217実測図(1/40)
a.黒褐色土(10YR2/3)しまりやや強い 粘性やや弱い
地山ブロックを微量に含む
b.褐色土(10YR4/4)しまりやや弱い 粘性やや弱い
地山ブロックをまんべんなく含む
c.ふい黄褐色土(10YR4/3)しまりやや弱い 粘性やや弱い



第279図 S219実測図(1/40)

a.黒褐色土(10YR2/3)
しまりやや強い 粘性やや弱い 炭を微量に含む
b.暗褐色土(10YR3/4)しまりやや弱い 粘性やや弱い
地山ブロックを微量に含む
c.暗褐色土(10YR3/3)しまり弱い 粘性やや弱い
地山ブロックをまばらに含む
d.褐色土(10YR3/3)しまり弱い 粘性やや弱い
地山ブロックをまんべんなく含む



第280図 S220実測図(1/40)
a.黒褐色土(7.5YR3/2)しまりやや弱い
粘性やや弱い 地山ブロックを微量に含む

場所である。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S219の規模と平面形は、長軸207cm、短軸81cm、平面形は端部が丸い短冊形である。深さは17cmである。長軸は、北から西に43°振れる(第280図)。

S221 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区東半から8F区西部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その中央部付近に位置する。南部竪穴建物群の中(東より)にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S221の規模と平面形は、両端部の間が380cmある。S221は北西の短い部分と(長さ160cm)、南東の長い部分(228cm)に区分でき、前者は北側へ26°振れている。短い部分は北から西へ57°振れ、長い方は北から西へ82°振れている。長い方の長軸は230cm、短軸54cm、平面形は長楕円形、短い方の長軸160cm、短軸56cmで、丁度蓮根が繋がっているかのような連続性を有している。中央部分での深さは、43cm(第62図)で、立ち上り角度は急傾斜である。この炉穴は、円形の竪穴建物が埋没した後に、その覆土に掘りこまれている。

S222 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区南部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その中央部から南部よりに位置する。南部竪穴建物群の南に接し、付近には炉穴などの小遺構がある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S222の規模と平面形は、長軸70cm、短軸53cm、平面形は楕円形である。長軸の方位は、北から西に100°振れる。深さは、19cmで、その立ち上りは長軸側で80°(東)と50°(西)、短軸側で52°(北)と65°(南)である(第282図)。小型の小土坑である。

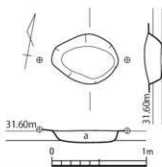
S225 調査区の中中部地域で、第II次調査区にあり、区画では6F区北西部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開き始める場所で、その南部よりの場所である。南部竪穴建物群の中(西端より)にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S225の規模と平面形は、S217に切られているので現状で長軸185cm、短軸97cm、平面形は細長い歪な形である。長軸の方位は、北から西に76°振れる。深さは、23cmで、その立ち上りは短軸側で58°である(第283図)。西側端部付近が被熱により赤化している。

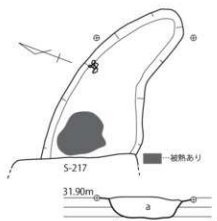
土器 条痕調整無文土器が1点出土している(第284図375)。内面に水平方向の条痕調整を施し、外面にはナデ調整を施した口縁部で、口唇部を丸く収めている。



第281図 S221出土遺物実測図



第282図 S222実測図(1/40)
a暗褐色土(10YR3/4) しまりやや強い 粘性やや強い 地山ブロックをまばらに含む



第283図 S225実測図(1/40)
aにふい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや弱い 粘性やや弱い φ5cm程度の地山ブロックをまばらに含む



第284図 S225出土遺物実測図

S229 調査区の中中部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では8F区南半部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その中央部から東部付近に位置する。南部堅穴建物群の中(東より)にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S229の規模と平面形は、長軸151cm、短軸100cm、平面形は小判形である。長軸の方位は、北から西に123°振れる。深さは、23cm(第285図)と浅く、立ち上り角度は短軸方向が59(右)°と65(左)°である。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S250 調査区の中中部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では8D区北東部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部堅穴建物群の中(東より)にある。なお、遺構はIV層上面で検出した

S250の規模は、長軸101cm、短軸66cm、平面形は小判形である。長軸の方位は、北から西に67°振れる。この遺構は、柱穴と考えられ、深さは、77cmである(第286図)。西方の端部に柱穴があり、東方から柱穴の立ち上り部分まで斜め勾瓦状に掘り下げ、端部で垂直方向に掘り下げている。遺構はIV層上面で検出した。

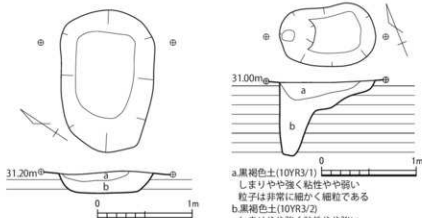
土器 条痕調整無文土器が1点出土している(第287図376)。内外面にナヅ調整を施した口縁部で、口唇部を丸く収める。

S252 調査区の中中部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では8D区北東部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部堅穴建物群の中(東より)にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S252の規模と平面形は、長軸101cm、短軸80cm、平面形は寸詰まりの楕円形。長軸の方位は、北から西に130°振れる。深さは、11cmである(第288図)。

石器 半割された叢石・磨石が出土している(第289図377)。

S254 調査区の東部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では9D区南西部に位置する(第3図)。ここは、西



a.黒褐色土(10YR2/3) しまり強い粘性やや弱い地山ブロックを微量に含む
b.褐色土(10YR4/6) しまり弱い粘性やや弱い地山ブロックをまんべんなく含む

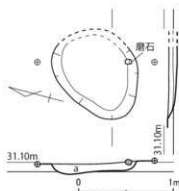
第285図 S229実測図(1/40)

a.黒褐色土(10YR3/1) しまりやや強く粘性やや弱い粒子は非常に細かく細粒である
b.黒褐色土(10YR3/2) しまりやや強く粘性やや強い1cm程度の地山ブロックをまばらに含む

第286図 S250実測図(1/40)

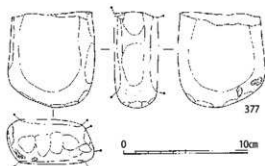


第287図 S250出土遺物実測図



a.黒褐色土(10YR3/2) しまりやや強く粘性やや強い粒子は非常に細かく細粒である地山ブロックをまばらに含む

第288図 S252実測図(1/40)



第289図 S254出土遺物実測図

から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部竪穴建物群の中にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

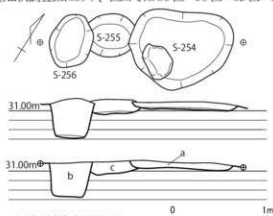
S254の規模と平面形は、長軸110 cm、短軸84 cm、平面形は楕円形。長軸の方位は、北から西に117°振れる。遺構は、浅い、小型のピットであり、深さは、77 cmである(第290図)。内部に台石が1点出土した。

S257 調査区の東部地域で、第三次調査区にあり、区画では8D区と9D区の境界南部に位置する(第3図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部竪穴建物群の中にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S257の規模と平面形は、長軸115 cm、短軸60 cm、断面は楕円形。長軸の方位は、北から西に110°振れる。遺構は、浅い小型のピットであり、立ち上りは湾曲する。深さは、11 cmである(第291図)。被熱による焼土はない。

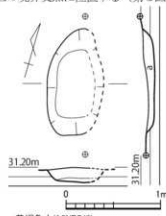
S258 調査区の東部地域で、第三次調査区にあり、区画では8C区・9C区・8D区・9D区の境界交点に位置する(第3図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部竪穴建物群の中にある。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S258はS245に切られており、規模と平面形は、現状の長軸が234 cm、短軸202 cm、平面形は楕円形。長軸の方位は、北から西に25°振れる。遺構は、浅い小型のピット。深さは、11 cmである(第292図)。被熱による焼土はない。



a. しぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや強く粘性は弱い
b. 褐色土(10YR4/4) しまりやや強く粘性は弱い
粘性は非常に細かく細粒である
c. 褐色土(10YR4/1) しまりやや弱く粘性は弱い
埋土はサクサクしている

第290図 S254・S255・S256実測図(1/40)

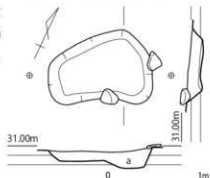


a. 黄褐色土(10YR5/6) しまり強く粘性やや弱い
地山ブロックをまんべんなく含む

第291図 S257実測図(1/40)

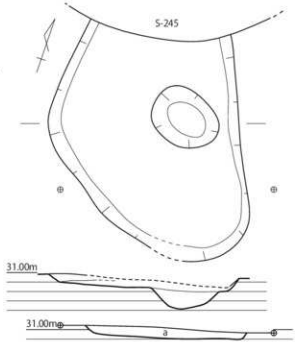
S260 調査区の東部地域で、第三次調査区にあり、区画では8C区に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部竪穴建物群に接する。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S260の規模は、長軸が110 cm(現状)、短軸80 cm、平面形は、北東部が突出した歪な形である。長軸の方位は、北から西に128°振れる。遺構の深さは、10 cmである(第293図)。



a. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや強く粘性弱い
粒子は非常に細かく細粒である

第293図 S260実測図(1/40)



a. 褐色土(10YR4/4) しまりやや強く粘性やや弱い 粒子は非常に細かく細粒である

第292図 S258実測図(1/40)

S261・S262・S263・S264 調査区の東部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では8C区南部に群集する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部竪穴建物群に接する。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S261は、長軸が170cm、短軸78cm、平面形は、長円形。長軸の方位は、北から西に165°振れる。遺構の深さは、15cmである(第294図)。

S262は、100cm、×85cm、平面形は、円形に近い楕円形。遺構の深さは浅く、10cmである(第295図)。

S263は、100cm、×85cm、平面形は、円形に近い楕円形。遺構の深さは浅く、10cmである(第296図)。

土器 S263からは、ナデ調整無文土器の胴部破片が出土している(第297図378)。内面に指頭王痕が観察される。

S264は、140cm、×74cm、平面形は、円形に近い楕円形。遺構の深さは浅く、14cm~10cmである(第296図)。

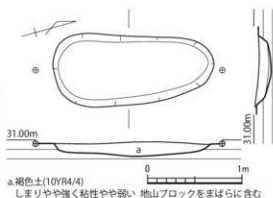
S265 調査区の東部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では9D区北西部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部竪穴建物群に接する。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S265は、長軸170cm、短軸143cm、平面形は、胴張りで隅丸方形である。遺構の深さは浅く、17cmである(第298図)。東部の壁際に直径34cm・深さ21cmの柱穴がある。また南部の壁際に、台石が1個置かれていた。

土器 早水台式楕円押型文土器の口縁部破片1点と(第297図379)、無文土器の平底の破片が2点出土した(381・382)。平底の土器は基本的に縄文時代草創期の可能性が極めて高い。

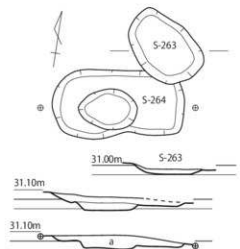
S267 調査区の東部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では8D区東南部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面で、その北東部に位置する。北部竪穴建物群に接する。なお、遺構はIV層上面で検出した。

S267は、長軸240cm、短軸140cm、平面形は、歪で細長い隅丸四角形である。遺構の深さは浅く、13cmである(第299図)。近接して柱穴があるが、伴うものではない。



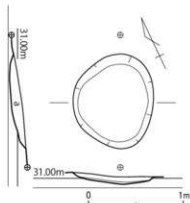
第294図 S261実測図(1/40)

a.褐色土(10YR4/4)
しまりやや強く粘性やや弱い 地山ブロックをまばらに含む



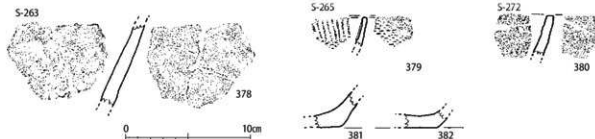
第296図 S263・S264実測図(1/40)

a.褐色土(10YR4/4)
しまりやや強く粘性やや弱い 地山ブロックをまばらに含む

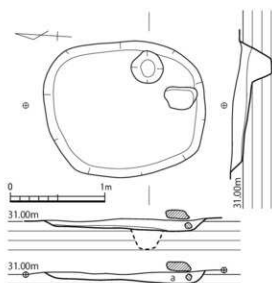


第295図 S262実測図(1/40)

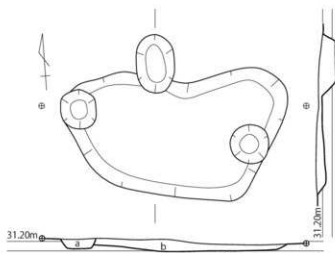
a.灰黄褐色土(10YR4/1)
しまりやや強く粘性やや弱い 地山ブロックをまばらに含む



第297図 S263・S265・S272出土遺物実測図

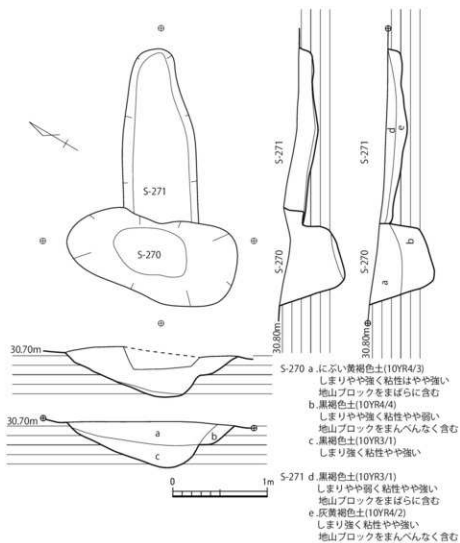


第298図 S265実測図(1/40)
 a.黄褐色土(2.5YR5/3)
 しまりやや強く粘性は弱い 埋土はサクサクしている
 2mm~3mm程の地山ブロックをまばらに含む



第299図 S267実測図(1/40)
 a.相灰色土(10YR4/1) しまりやや強く粘性やや弱い
 地山ブロックをまんべんなく含む
 b.にぶい黄色土(2.5Y6/4) しまりやや強く粘性弱い

第299図 S267実測図(1/40)



第300図 S270・S271実測図(1/40)
 S-270 a.にぶい黄褐色土(10YR4/3)
 しまりやや強く粘性はやや強い
 地山ブロックをまばらに含む
 b.黒褐色土(10YR4/4)
 しまりやや強く粘性やや弱い
 地山ブロックをまんべんなく含む
 c.黒褐色土(10YR3/1)
 しまり強く粘性やや強い
 S-271 d.黒褐色土(10YR3/1)
 しまりやや弱く粘性やや強い
 地山ブロックをまばらに含む
 e.灰黄褐色土(10YR4/2)
 しまり強く粘性やや強い
 地山ブロックをまんべんなく含む

第300図 S270・S271実測図(1/40)

S270・S271 調査区の東部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では9D区北半部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面の北東部である。北部竪穴建物群に接する。なお、遺構はIV層上面で検出されており、S271をS270が切る関係にある。

S270は、長軸184(現状の数値)cm、短軸79cmの規模を有し、平面形は、細長いバチ形である。遺構の深さは、西側壁付近が15cm、東側23cmであり、東から西へ床面の勾配が高くなる(第300図)。端部の立ち上りは7°である。長軸の方位は、北から西に120.5°振れる。

S271は、長軸182cm、短軸90cmの規模を有し、平面形は、隅丸バチ形である(第300図)。遺構の深さは、中央よりやや南が最も深く49cmで、ここから概ね北へ24°・南端部45°の勾配で立ち上がっていく。短軸方向の立ち上りは、東側82°・西側72°と急勾配である。長軸の方位は、北から西に20°振れる。

S272 上記、S270の北東240cmのところに位置する(第3図)。S272は、長軸66cm・短軸58cm・深さ20cmの楕円形をした皿状の遺構。

土器 無文土器の平底の破片が1点出土している(第297図380)。

S276 上記、竪穴建物のS277と同じ位置で、同遺構に切られている(第20図)。この遺構は、長軸100cm・短軸86cm・深さ6cmの楕円形をした皿状のビット。長軸の方位は、北から西に157.5°振れる。

S278 調査区の東部地域で、第Ⅲ次調査区にあり、区画では9C区南半部に位置する(第3図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が扇形に開いた平坦な面の北東部である。北部竪穴建物群に接する。なお、S278はIV層上面で検出されており、S247に隣接する。

S278は、南北110cm、東西118cm規模を有する隅丸の多角形をしている(第301図)。深さ13cmと浅い皿状の遺構である。

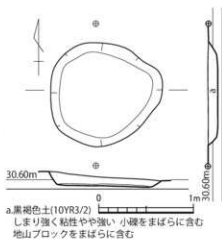
S309 竪穴建物のS277と同じ位置で、同遺構の北側に隣接する(第20図)。この遺構は、南北77cm・東西81cm・深さ13cmの楕円形をした皿状のビットである。

S331 調査区の東部地域で、第Ⅳ次調査区にあり、区画では12E区西半部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地の東側にある低地部に位置する。なお、S331はIV層上面で検出されている。

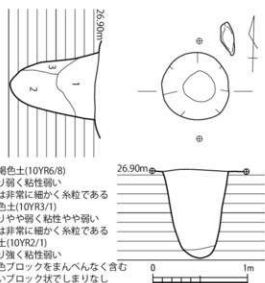
この遺構は、南北70cm・東西70cm・深さ93cmの円形をした柱穴状のビット(第302図)。

S341 調査区の東部地域で、第Ⅳ次調査区にあり、区画では9D区東南隅部に位置する(第3図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦な面の東端部である。北部竪穴建物群に接する。なお、S341はIV層上面で検出されており、S357に切られる。

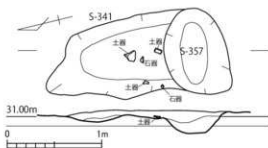
S341は、南北130cm、東西82cmの規模を有する細長い楕円形をしている(第303図)。深さ12cmと浅い皿状の遺構である。



第301図 S278実測図(1/40)



第302図 S331実測図(1/40)



第303図 S341・S357実測図(1/40)

S351 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では8E区西半部に位置する(第3図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の中央部に位置する。なお、S331はIV層上面で検出され、竪穴建物S347に切られる関係にある。

この遺構は、長軸159cm・短軸56cmの大きさを有する端部の丸い短冊形の土坑である。深さ10cmの円形をした柱穴状のピット(第75図)。内部に深さ36cmの柱穴がある。

S353 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では8E区中央部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の中央部に位置する。なお、S353はIV層上面で検出された。

この遺構は、長軸130cm・短軸99cmの大きさを有する水滴形の土坑である。深さ17cmである(個別図なし)。

土器 条痕調整無文土器の胴部破片が1点出土している(第304図383)。

石器 使用痕のある剥片が1点出土している(第304図385)。素材は、楔形石器の破片のようでもあるが明確ではない。裏面に微小剝離痕がある。

S354 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では8E区西部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の中央部に位置する。なお、S353はIV層上面で検出された。

この遺構は、長軸99cm・短軸68cmの大きさを有する楕円形の土坑である。深さ24cmである(個別図なし)。

土器 ナデ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している(第304図384)。外傾する口縁部の端部を丸く収めている。

S357 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では9D区東南隅部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の北東端部である。北部竪穴建物群の中にある。なお、S357はIV層上面で検出されており、竪穴建物S385・S341を切っている。

この遺構は、長軸90cm・短軸67cmの大きさを有する楕円形の土坑である。深さ24cmである(第303図)。

S362 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では8F区北部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の中央部に位置する。なお、S362はIV層上面で検出された。

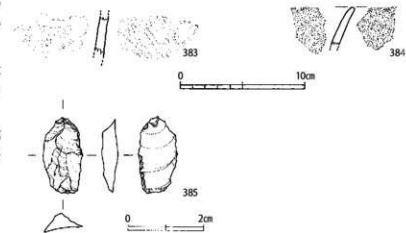
この遺構は、直径136cmの大きさを有するほぼ円形の土坑である。深さ36cmである(第79図)。

S363 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では9F区南部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の

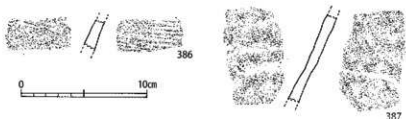
東端に位置する。なお、S363はIV層上面で検出された。東側の低地部を望む場所。

この遺構は、長軸112cm・短軸64cmの大きさを有するほぼ楕円形の土坑である。深さ19cmである(個別図なし)。

土器 条痕調整無文土器の胴部破片(第305図386)とナデ調整無文土器の胴部破片(387)が出土している。



第304図 S353・S354出土遺物実測図



第305図 S363出土遺物実測図

S367 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では9F区西部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が弱形に開いた平坦な面の東部である。南部堅穴建物群に接する。東部の低地を望むことができる場所である。なお、S367は、IV層上面で検出されている。

S367の規模と平面形は、長軸が110cm(現状)、短軸77cm、平面形は小判形(第306図)。長軸の方位は、北から西に80°振れる。遺構の深さは、14cmである(第306図)。土坑の中央部に礫や土器などが集中する。

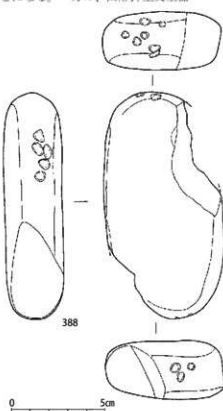
遺物 礫石・磨石が出土している(第307図388)。表裏に磨滅があるほか、端部・縁部のところどころに、打痕がある。

S369 調査区の東部地域で、第III次調査区にあり、区画では10D区北部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで脊梁地形が弱形に開いた平坦な面で、その北東部で端部に位置する。

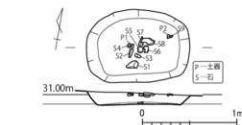
S369は、長軸177cm、短軸116cmの規模を有し、平面形は、短冊形を基本としながら南西両部が礎上に突出する。遺構の深さは、33cmである(第308図)。北西端部の立ち上りは44°であるが、対する南東端部は曲率半径が大きく、はっきりしないが、緩やかなスロープである。長軸の方位は、北から西に54.5°振れる。

土器 S369からは山形押型文土器の破片とナゲ調整無文土器が出土している。山形押型文土器は、山形頂部のピッチが0.5cmで高さ0.3cmと、山形頂部のピッチが0.45cmで高さ0.1cmという二種類の原体が使われている(第309図389)。無文土器は、胴部破片(390)と底部破片であり、いずれもナゲ調整である。後者の底部破片は、底部と胴部側の境界が明確な平底であるが、器形からすれば縄文時代草創期に遡る例である(391)。少なくとも、B・Pでいえば11,000年前から12,000年前に遡ることになる。一方の、山形押型文土器

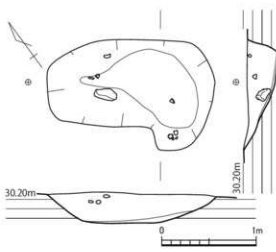
は、8,000～9,000年前のものとするれば無文土器との年代差は最短でも2,000年は開いており、両者は混在といえる。



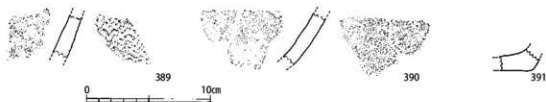
第307図 S367出土遺物実測図



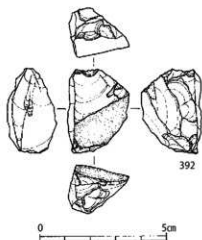
第306図 S367実測図(1/40)



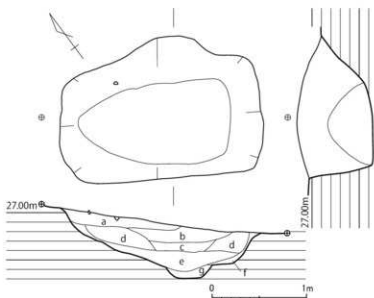
第308図 S369実測図(1/40)



第309図 S369出土遺物実測図

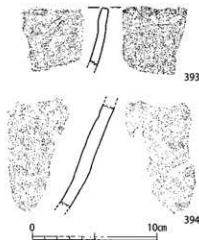


第311図 S371出土遺物実測図

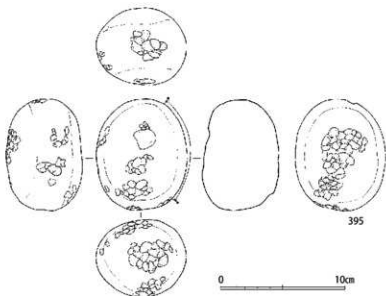


- a.黒褐色土10YR2/1しまりやや強く粘性弱い 埋土はサクサク状態である
- b.黒褐色土10YR2/2しまりやや強く粘性やや弱い 1cm程度の地山ブロックを微量に含む
- c.黒褐色土10YR2/2しまりやや強く粘性やや弱い
- d.黒色土10YR2/1しまりやや強く粘性弱い 埋土はサクサク状態である
- e.黒色土10YR1.7/1しまりやや強く粘性弱い 5mm程度の地山ブロックをまばらに含む
- f.黒褐色土10YR3/2しまりやや強く粘性弱い
1cm~2cm程度の地山ブロックをまんべんなく含む
- g.黒色土10YR2/1しまり強く粘性弱い 1cm程度の地山ブロックをまんべんなく含む

第310図 S378実測図(1/40)



第312図 S372出土遺物実測図



S378 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では11E中央付近に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地の東端部下の低地部に位置する。なお、S378はIV層上面で検出された。

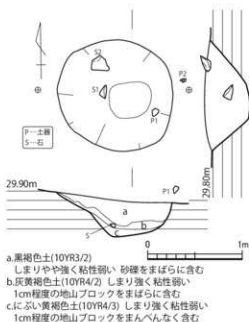
S378は、北から西へ長軸を57.5°振れた、短冊形の平面形を有する土坑である。ちょうど等高線がこんだ西側斜面を向いている。長軸が216cm、短軸150cmの規模を有しており、深さは最深いところで54cmである。内部は、東南端部の曲率半径が大きくはっきりしないが概ね55°と急勾配である。東南端部下場付近は一旦平らとなり、そして一段深くなる(12, 3cm)。この深い部分からまた12cmほど立ち上がると、ここから東北端部の下場まで21°の角度をもったスロープとなり、57°の角度で立ち上がる。短軸方向は、47°(北)と79.5°(南)で急勾配である。

S381 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では10D区中央部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の東端から僅かに斜面部を下ったところである。なお、S381はIV層上面で検出された。東側の低地部を望む場所である。

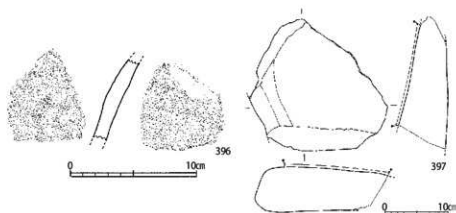
この遺構は、長軸112cm・短軸64cmの大きさを有するほぼ楕円形の土坑である。深さ19cmである(第313図)。

土器 S381からは、口縁部に近いナデ調整無文土器の胴部破片が出土している(第314図396)。

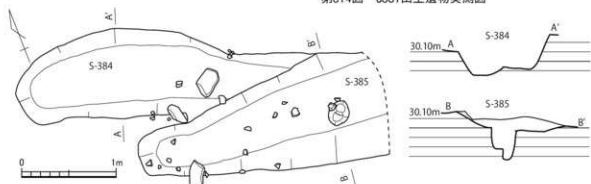
石器 台石が出土している。打割れにより破損しているが、片面に磨減痕がある(第314図397)。



第313図 S381実測図(1/40)



第314図 S381出土遺物実測図



第315図 S384・S385実測図(1/40)

S384・S385 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では10D区西部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の東端で、東方の眼下に低地部や大越川方面が臨める場所である。なお、S384とS385はIV層上面で検出された。

両遺構は、竪穴建物のS383を切るように構築されているが、その際、等高線にやや直交するように主軸をほぼ東西方向にしている。S384とS385も、後者が前者を斜めに切って構築されている。また両遺構は東端が斜面部にかかっているために浸食によって残存してはいない。

S384は、長軸320(現状の数値)cm、短軸90cmの規模を有し、平面形は、細長い長楕円形である。遺構の深さは、38cmである(第315図)。短軸の立ち上りは60°(南)と67°(北)である。長軸の方位は、北から西に70°振れる。内部に配石もしくは台石が点在する。

土器 ナデ調整無文土器の胴部破片が1点出土している(第316図398)

S385は、長軸270(現状の数値)cm、短軸118cmの規模を有し、平面形は、細長い長楕円形である。遺構の深さは、18cmである(第315図)。短軸の立ち上りは30°(南)である。長軸の方位は、北から西に85°振れる。内部に配石もしくは台石が点在する。

土器 ナデ調整無文土器の底部破片が2個体出土している(第316図399・400)。両例とも明らかな平底の破片であり、少なくとも縄文時代草創期終わり頃までの製作時期を比定できる。

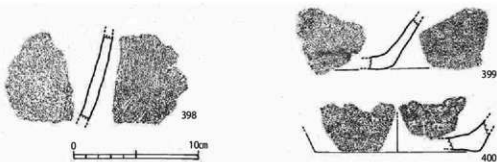
S391・S392・S393 調査区の東北部地域で、第IV次調査区にある。区画では9C区と10C区の境界にある竪穴建物S358の西北部と東南部西部が切られた状況で検出された(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の東北部で、東方や北方の眼下に低地部や大越川方面が臨める場所である。

S391は、方形に近い土坑であったと思われるが、西側をS358で切られている。南北幅は126cm、東西幅は現状で60cm、深さは15cmである。内部の壁際に柱穴が掘り込まれており、径約40cm・深さ60cmである(第318図)。

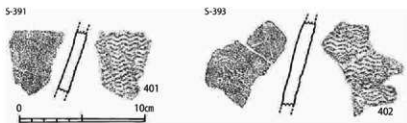
土器 山形押型文土器胴部破片が1点出土している。この土器の山形文は、山形頂部のピッチが0.5cm、山形頂部と谷部下底の幅は0.1cm～0.15cmである(第317図401)。

S392は、楕円形をした土坑であるが、東南部を斜めにS358から切られている(第318図)。内部に配石もしくは台石がある。長軸は242cm、短軸は推定で145cm前後、深さ30cmである。

S393は、東半部がS392とS358から切られており、残存部の平面形が菱形状である(第318図)。長軸は不明であるが現状で230cm、短軸180cm、深さ20cmである。



第316図 S384・S385出土遺物実測図



第317図 S391・S393出土遺物実測図

土器 山形押型文土器胴部破片が1点出土している(第317図402)。この土器の山形文は、山形の頂部のピッチが0.6cm、山形の頂部と山形の谷部下底の幅は0.1cmである。S391出土の山形文土器とはほぼ同じで、あるいは同一個体の可能性を有している。



第318図 S391・S392・S393実測図(1/40)

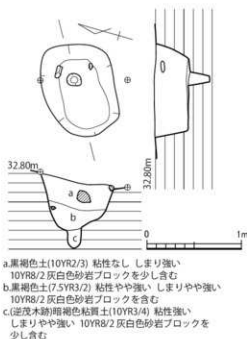
(7) 陥し穴遺構

陥し穴は、地面を掘り下げ、穴口に枝や葉を被せ、さらに土・草を加えながら蓋をし、隣接する地表面と違和感がないように偽装した穴である。その目的は、知らないで通りかかるとであろう人や動物を陥れるためである。穴の中には陥れた対象への殺傷効果を高めるため逆茂木という尖らせた端部を上に向けて立てた場合もある。旧石器時代や縄文時代においては、狩りの狩猟、あるいは追い込み罠をするための仕掛けとして設置されたと考えられる。弥生時代以降においては、狩猟のほかは防獣に関する仕掛けとして設置されたことも想定できる。森の木遺跡からも陥し穴が見つかったが、ここで扱う陥し穴は穴の底部に一つないし、数個の逆茂木「穴」のある土坑と土坑内下部の堆積土が水平堆積の例とする。

S076 調査区の西部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では2F区と3F区境界線中央部に位置する(第3図・第476図)。ここは、西から東に延びる舌状台地の南側に広がる湾曲した谷の谷頭地区にあたる。地形図を見ると、遺跡の東方から延びてきた尾根筋は、舌状台地の中で比高の高い調査区画というD列に連続している。それとは別に、D列のなかで32.75mの等高線が南西方向へ回り込む部分が2E区であるが、ここから湾曲する谷地形の谷頭部分へも等高線が自然に連続している。S076は、この舌状台地から谷頭頂部へ勾配が連続する延長上に設置されている。なお、S381はIV層上面で検出された。このS076遺構は、長軸100cm・短軸75cmの大きさを有する隅丸方形の土坑である。土坑底部までの深さが37cmで、そこから深さ22cmの逆茂木用の穴がある(第319図)。この遺構の長軸は、北から西へ120°振られており、丁度湾曲する谷の谷頭等高線に平行する。

S115 調査区の西部地域で、第Ⅱ次調査区にあり、区画では3H区中央部に位置する(第3図・第478図)。ここは、西から東に延びる舌状台地の南側に広がる湾曲した谷の谷底筋と西側斜面部との中間部に設置されており、S076を下った部分である。なお、S115はIV層上面で検出された。

このS115遺構は、南北71cm・東西75cmの大きさを有するほぼ円形の土坑である。土坑底部までの深さが81cmである。この底部は、周縁部分がやや高くなる凹面鏡のような断面形をしているが、周縁端部から上方への立ち上がり方が25cm～30cm程度ほぼ垂直となっている(第320図)。そして垂直部分から穴口へ僅かに開きながら立ち上がる筒状の断面形である。底部から上に24cm程度の厚さでD層が水平堆積し、その上にb層がC層に囲まれるように堆積している。堆積状況からみると、C層が堆積した後、陥没もしくは流入によるb層の堆積があったと解釈しておきたい。なお、このS115には逆茂木穴が検出されておらず、陥し穴でない可能性もある。



第319図 S076実測図(1/40)



第320図 S115実測図(1/40)

S148 調査区の中中部から東南部地域で、第II次調査区にあり、区画では7F区南西部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地から扇形に広がる平坦面にあつて東南部よりの部分に設置されている。なお、S148はIV層上面で検出された。

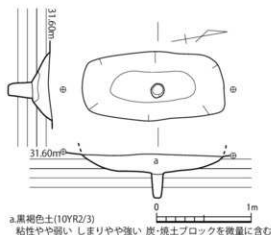
このS148の遺構は、長軸150cm・東西73cmの大きさを有する隅丸長方形の土坑である(第321図)。土坑底部までの深さが20cmである。この底部中央に径14cm、深さ28cmの逆茂木穴が掘りこまれている。この底部から、残存部の立ち上がり部分まで大きな曲率半径であり、緩やかに立ち上がっているが、短軸方向の断面形状は、漏斗のような断面形をしている。この遺構は長軸が北から西へ17°振れており、丁度舌状台地の東へ延びる地勢と直交気味に設置されている。

S152 調査区の中中部から東南部地域で、第II次調査区にあり、区画では8G区北西部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地から扇形に広がる平坦面のなかでも東南部よりの部分に設置されている。なお、S152はIV層上面で検出された。

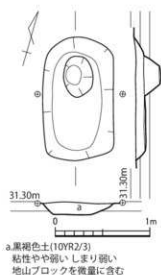
このS152遺構は、長軸131cm・東西74cmの大きさを有する隅丸長方形の土坑である(第322図)。土坑底部までの深さが10cmである。この底部北半に径40cm、深さ18cmの逆茂木穴が掘りこまれている。しかしS152の短軸断面における底部と逆茂木穴の径がやや幅広いことなどからS148との違いが大きく、陥し穴でない可能性も考えられることを付記しておきたい。この遺構もS148と同様に長軸が北から西へ15°振れており、丁度舌状台地の東へ延びる地勢と直交気味に設置されている。湾曲する谷の谷頭等高線に平行する。

S226 調査区の中中部から東南部地域で、第II次調査区にあり、区画では6F区西部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地から扇形に広がるのはじめの場所で、南側に広がる湾曲した谷の縁沿いに設置されている。なお、S152はIV層上面で検出された。

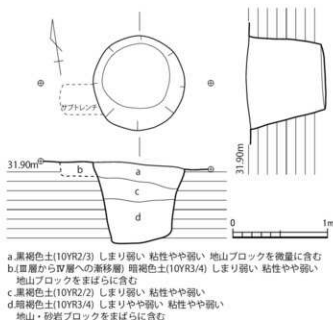
このS226遺構は、南北97cm・東西85cmの大きさを有するほぼ円形の土坑である。土坑底部までの深さが85cmである(第323図)。底部から土坑最上部までの立ち上がり角度は78.5°と83.5°であり、急角度であることが特徴である。内部の堆積土は、水平堆積である。なお、このS226には逆茂木穴が検出されておらず、陥し穴でない可能性もある。



第321図 S148実測図(1/40)



第322図 S152実測図(1/40)



第323図 S226実測図(1/40)

(8) 柱穴その他

S241 調査区の中部から東南部地域で、第II次調査区にあり、区画では8F区北西隅部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地から扇形の平坦面が広がり、その中央部分にある。なお、S241はIV層上面で検出された。遺構は南部竪穴建物群の中にある。

このS241遺構は、南北(長軸)56cm・東西(短軸)50cmの大きさを有する楕円形の土坑である。土坑底部までの深さが15cmである(個別図なし)。

土器 山形押型文土器の口縁部破片が1点出土している(第324図403)。口縁形態は、浅い波状である。文様は、内面が上部に柵状文とその下には僅かに山形文が観察される。外面は、縦方向に回転施文した山形文が観察される。山形文は、山形頂部の間隔が1.6cm、山形の頂部と山形谷部の幅は0.2cmと幅狭い。縦方向施文と、内面の柵状文の特徴から下管生B式土器いえる。

S255-S256 調査区の北東地域で、第III次調査区にあり、区画では9D区西南部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地から扇形の平坦面が広がり、その北東部分に遺構がある。なお、S255はIV層上面で検出された。

S255は、長軸45cm・短軸38cmの大きさを有する楕円形の土坑である。土坑底部までの深さが12cmある(個別図なし)。S251とS256に切られている。

土器 S255からはナデ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している(第325図404)。

S256は、長軸53cm・短軸45cmの大きさを有する楕円形の土坑である。土坑底部までの深さが35cmある(個別図なし)。

S386-S387 調査区の北東地域で、第IV次調査区にあり、区画では9D区東部に位置する(第3図・第477図)。ここは、西から東に延びる舌状台地から扇形の平坦面が広がった北東部分に遺構があり、北部竪穴建物群の中に含まれる。なお、S386はIV層上面で検出された。

S386は、長軸186cm・短軸88cmの大きさを有する隅丸長方形の土坑で、深さは4cmである。このS386の長軸は北から西へ40°振れた方向にある。このS386の南半の床面に掘りこまれたのがS387で、長軸56cm・短軸27cmの大きさを有する楕円形の小土坑で、長軸は北から西へ105°振れた方向にある。なお土坑底部までの深さが20cmある(個別図なし)。

土器 S387からは、楕円押型文土器の口縁部破片が1点出土している(第326図405)。これは、内外面とも横方向に回転させた押型文であり、柵状文もないことから稲荷山式土器に相当する土器である。

S395 調査区の東部地域で、第IV次調査区にあり、区画では11F区北部に位置する(第3図・第479図)。ここは、西から東に延びる舌状台地から扇形の平坦面が広がる台地の東側低地の緩い斜面部に相当する。なお、S395はIV層上面で検出された。

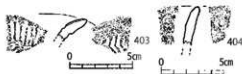
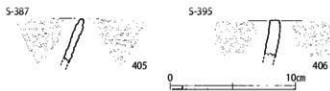
S395は、長軸39cm・短軸38cmの大きさを有するほぼ円形の小土坑である。土坑底部までの深さが16cm(個別図なし)。

土器 S395からはナデ調整無文土器の口縁部破片が1点出土している(第326図406)。

(9) 遺物出土状況

調査区の西南部は舌状台地の南側に展開する湾曲した谷地形の西斜面であるが、その1H付近は集石や配石遺構が多い地区である(第3図・第478図)。ここは、西から東に延びる舌状台地から扇形の平坦面が広がり、その中央部分にあたる。1H区付近の配石遺構として二例提示できる。

S035の南西に斜面にある配石は、台石1点と小礫12点からなり、南西方向に縦長に分布する。その範囲は、南北150cm、東西70cm前後である(第327図)。中央にある最も大きい台石は、52cm×36cmの規模を有する。表面は焼けていない。

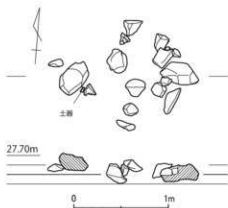
第324図 S241
出土遺物実測図第325図 S255
出土遺物実測図

第326図 S387・S395出土遺物実測図

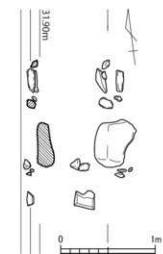
S035の西に斜面にある配石は、台石2点と小礫1点からなり、北から西へ53°振れた方向に分布する(第328図)。その範囲は、長軸90cm、短軸40cm前後である。北西よりある最も大きい台石は、40cm×37cmの規模を有する。表面は焼けていない。

西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦な面の北東端部にも配石がある。このあたりは北部竪穴建物群が広がっているが、S246も調査区の北東部地域で、第三次調査区にあり、区画では9D区南部に位置する(第3図・第479図)。竪穴建物S246の北側に配石が分布している(第330図)。大小32の礫から構成されている。これらには被熱による赤化がみられないが、大きさや角礫状の形から、集石と大差がないことから集石用に準備していたものかもしれない。

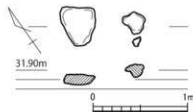
舌状台地の東側にある低地部からも配石が出土している(11F区北部・第479図)。大小17個の角礫で構成されているが(第329図)、被熱による赤化がみられないことと、弾け痕もない。また台石に用いるような平たい面のある大型礫はない。角礫であることを考えると受熱した集石の礫と大差がないことから集石用に準備していたものかもしれない。



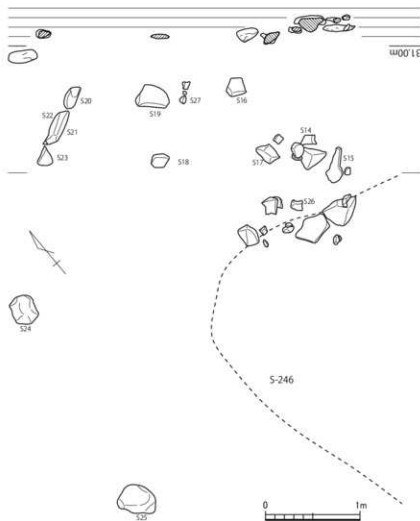
第329図 11F区配石遺構実測図(1/40)



第327図 1H区内石皿出土状況実測図①(1/40)



第328図 1H区内石皿出土状況実測図②(1/40)



第330図 9D区配石遺構実測図(1/40)

第4節 弥生時代・古墳時代の遺構と遺物

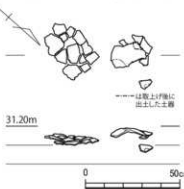
1 弥生時代

弥生時代の土器集中部分が調査区の東部地域で、第IV次調査区にある。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の東端部で、東方の眼下に低地部や大越川方面が臨める場所である。区画では9F区の北半部にある(第3図・第479図)。同一個体の土器が6cmの間をあけて分布する(第331図)。南東の一群は、胴部が押し潰れたように出土するが、その方向性は上部を西方に向け、下部を東方に向けている。北東の一群は、底部を中心とし、上部を西方に向けて潰れたように出土した。周囲に口縁部はなかった。おそらく祭祀に伴い、土器を割って配置したのであろう。土器は胴部が球形に張る壺と考えられ、内外面にヨコ刷毛・斜め刷毛痕が観察される(第475図2421)。弥生時代後期の壺であろう。

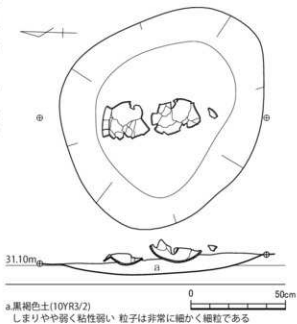
2 古墳時代

弥生時代の土器集中部分が調査区の東部地域で、第IV次調査区にある。ここは、西から東に延びる舌状台地が扇形に開いた平坦面の北東部である。区画では9D区の西南部にある(第3図・第479図)。

S251遺構は、隅丸で胴張りの二等辺三角形をした浅い皿状のピットである(第332図)。遺構の規模は、長軸124cm・短軸104cmで、その深さは最も深い部分で8cmである。遺構内部には



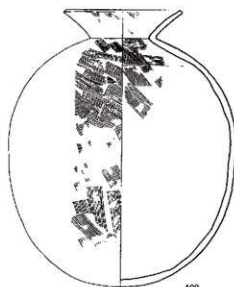
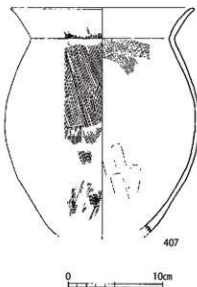
第331図 遺物出土状況実測図(1/20)



第332図 S251実測図(1/20)

明瞭な下場部分がなく、曲線的に立ち上がる、なお、遺構の長軸は、北から西へ56°振れた方向である。この遺構内の中央で、南北に並ぶように古墳時代の土師器が出土した。その並びの長軸は、北から西へ5.5°振れた方向である。なおS251は縄文時代草創期の堅穴建物であるS246・S273の覆土の上に掘りこんでいる。

土師器 二種類の土師器がある。一つは、頸部幅が大きく、胴張りで長胴化傾向がうかがえる例である(第333図407)。二つ目は、側面形がやや楕円形ながら球形の胴をもち、頸部が著しく窄まって



第333図 S251出土遺物実測図

口縁が開く例である(第333図408)。長胴化傾向のものがあることから6世紀前半頃のものだろう。

第5節 中世・近世の遺構

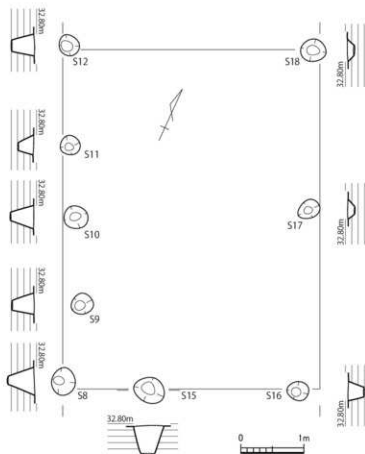
1 建物・構造物

中世もしくは近世のものと考えられる遺構は多くないが、点々と舌状台地上に点在している（第336図）。中世的なものといえば、森の木遺跡第1次調査以前には中世の石塔が立っていたようである。また既に触れたように1856年（天正14）に薩摩島津氏の兵が塚田に侵入し、その際の退却時の陣地が置かれたのがここ森の木原（森の木遺跡のある場所）であった。大規模な土木工事を伴う台地端部の斜面形成は、薩摩の兵が陣を敷いた際の切岸である可能性も指摘しておきたい。

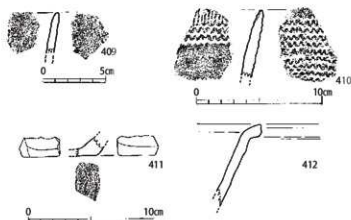
SB055a 調査区の西部部地域で、第II次調査区にあり、区画では0F区南半を中心に位置する（第336図）。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで、南北方向の斜面が東方向へ回り込みはじめる地勢である。なお、この地点は西方10数mには尾根の末端がある場所である。なお、遺構は、旧石器時代の包含層であるIV層上面で検出したが、その上には縄文時代前期・早期の包含層であるII・III層が100cm程度堆積しており、生活面はかなり上位であったことが窺える。

SB055aは、深いIV層上面の深度で検出したこともあって11基の柱穴で構成されているが、本来であれば14基の柱穴がなければならぬ。しかし、残った柱穴から規模と構造を復元してみると、桁行4間（約545cm/18尺）・梁間3間（約390cm/13尺）の規模である。長軸の方位は、北から西へ25°振れている。建物の面積は、21.255㎡になる。したがって東側長軸面（平側）は、西から東へ延びる台地方向に向けていることになる。柱穴の大きさは（直径）、S5:37cm・S9:35cm・S10:39cm・S11:33cm・S12:32cm・S18:40cm・S17:35cm・S16:35cm・S15:45cmで、平均値は約37cmである。柱穴の底部の標高は、32.30m代が2基、32.40m代が3基、32.50m代が2基、32.60m代が2基であった。このことから、柱穴の深さは標高32.5m代としていたことが窺える。また柱穴の並びをみるときれいに並んでいないことと、等間隔でないなど入りのある配置であることが読み取れる。これらのことから掘立柱建物の建築は粗い作りといえるだろう。このことから極めて臨時的であり、長期にわたって存続させるほどの重要性をもたなかった施設であることが想定される。

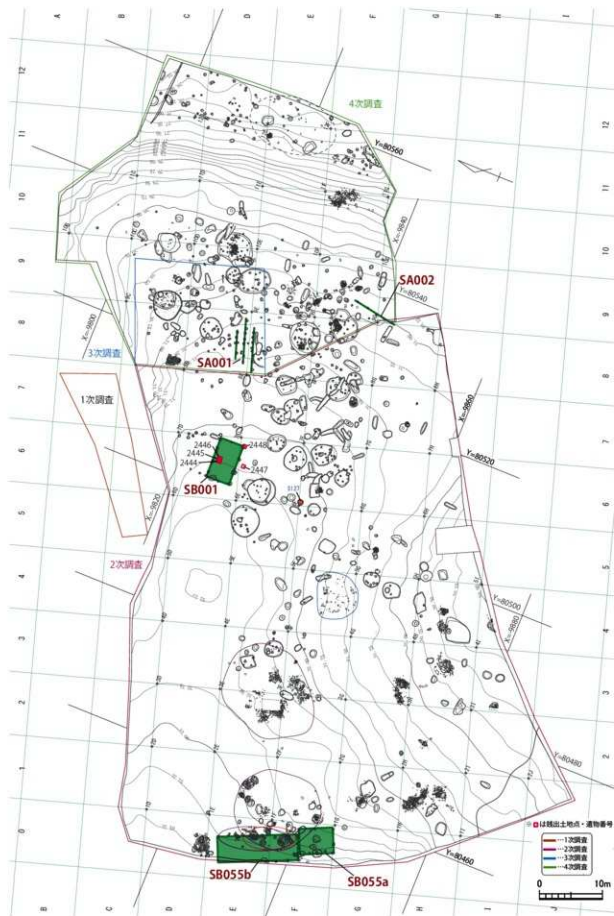
SB055aに隣接するSB055bからは土師質土器が出土しており、柱穴覆土も同じであることからSB055aも中世期の年代が考えられる。



第334図 SB055a実測図(1/60)



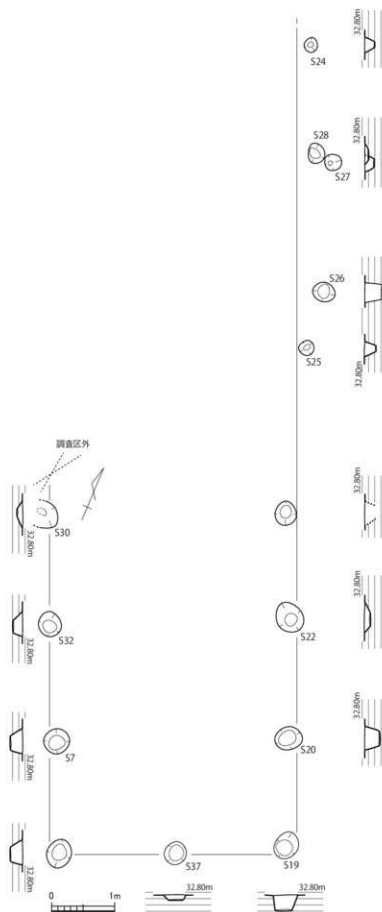
第335図 SB055a柱穴出土遺物実測図



第336図 森の木遺跡 中世・近世遺構位置図(1/600)

SB055bc SB055bc も SB055a と同様調査区の西部部地域に第II次調査区があり、区画では0E区と0F区にまたがって建てられていた(第336図)。ここは、西から東に延びる舌状台地のなかで、南北方向の斜面が東方へ回り込みはじめる地勢である。なお、この地点は西方10数mには尾根の末端がある場所である。なお、遺構は、旧石器時代の包含層であるIV層上面で検出したが、その上には縄文時代の包含層であるII・III層が100cm程度堆積しており、生活面はかなり上位であったことが窺える。

当初、SB055bc は SB055b と SB055c との別々の柵状の建物として理解していたが、柱穴の配置等を再検討したところ、同一の掘立柱建物であることが判明した(以後 SB055bc)(第337・338図)。それは両遺構の南端で SB055a の北面の妻側に接する部分にも柱穴が確認され、それ以南には延びていないことも再確認したことが理由である。東の平側は、南から七つ目の柱穴 S24 まで確認され、その北側は確認されていない。したがって S24 で西に屈折して北の妻側であったと推定する。西側の柱穴は南から四つ目の S30 まで確認され、それらは東側の柱穴列に対応している。なお、S30 の先は調査区外へと続いているものと考えられる。このことを踏まえ残った柱穴から規模と構造を復元してみると、桁行6間(約1,091cm/36尺)・梁間2間(約363cm/12尺)の規模である。建物の面積は、39.60㎡(11.98坪)になる。また長軸方向性、つまりの長軸の方位は、北から西へ22°振れている。したがって東側長軸面(平側)は、西から東へ延びる台地方向に向けている。SB055a と SB055bc の長軸(平側)方向の方位(北から西)の差は僅か3°と誤差の範囲内と思われることと、両構が平側を密接させながらも交差していないことから極めて同時性の高い建物群と推定される。



第337・338図 SB055bc実測図(1/60)

土器 SB055bからは縄文土器と中世の土師質土器と瓦器が出土している。縄文土器は2点あり、一つはナデ調整無文土器の口縁部破片であり（第335図409）、もう一つは横方向の山形押型文を内外面に施し、内面の上部に櫛状文を有する例である（410）。中世の土師質土器は、坯もしくは小皿の底部破片で糸切り離し痕がある（第335図411）。瓦器は、外傾しながら立ち上がり口縁部を外方に折り曲げたもので、火鉢と考えられる（412）。さしあたって土師質土器と瓦器がSB055aとSB055bの築造・利用した年代に近いことはいえよう。口縁部形態のわかる瓦器の年代は、室町時代の14世紀頃に比定できる。

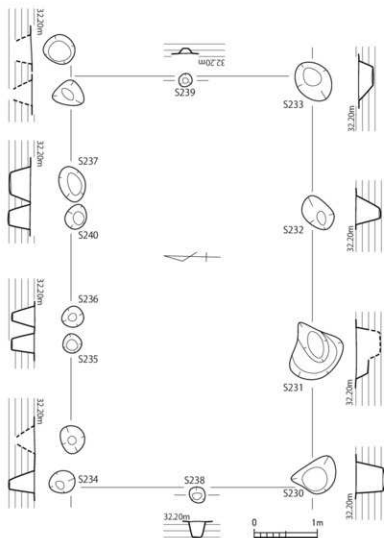
SB001 調査区の中央部地域で、第II次調査区にある。区画では6C区の南半を中心に6D区にかかる部分に位置する（第3図・第336図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形から扇形に開き始める部分にあたる。

SB001は、柱穴の分布から桁行3間・梁間2間を基本構造とする掘立柱建物で、妻側中央にある柱穴が棟持柱ということになる（第339図）。そこで構造を復元すると、桁行3間（約636cm/21尺）・梁間2間（約394cm/13尺）の規模である。建物の面積は、25.06㎡（7.58坪）になる。平側の方向、つまり長軸方向の方位は北から西へ92°振れた方向である。したがって南北に対し、SB001の長軸はほぼ直交する東西方向の掘立柱建物ということになる。またSB001の方向性は、西から東に延びる舌状台地の方向性に合わせたのかもわからない。したがって太陽のあたる南側に平側を向けている。柱穴の平面分布図を一瞥すると一目瞭然であるが、南側と北側の柱穴列（平側）に際立った違いがある。北側の柱穴は、2基の柱穴がセットになって（近接して）掘られているのに対し、南側は基本的に1基ずつである。また北側の柱穴は、径が西から35cmと44cm、30cmと35cm、40cmと55cm、40cmと47cm

というように小さいものが多い。それに対し南側の柱穴は、西から55cm、83cm、50cm、60cmと径が大きい。さらに加えて両妻側の棟持柱の柱穴の径は、25cmと20cmと極めて小さい。北側は日があたらず、湿気が多いので、入念に柱穴を2基で1単立としたのかもしれない。ともかく、棟持柱の柱穴が、他の柱穴に比べて異常に小さいことが特徴である。

古銭 このSB001の内部と付近から、永楽通宝2枚を含む銅銭が6枚出土している（第480図）。この永楽通宝の初铸年は1411年（明：永楽9）であるが、九州で流通するようになるのは16世紀頃からといわれている。建物の年代を、16世紀代と考えておきたい。銅銭の内訳は以下のとおりである。

- 永楽通宝（第480図2444）建物の内部
- 無文鑄銭（第480図2445）建物の内部
- 元豊通宝（第480図2446）建物の内部
- 永楽通宝（第480図2447）建物の外至近
- 政和通宝（第480図2448）建物柱穴内部
- 熙寧元宝（第480図2449）6F区採集



第339図 SB001実測図(1/60)

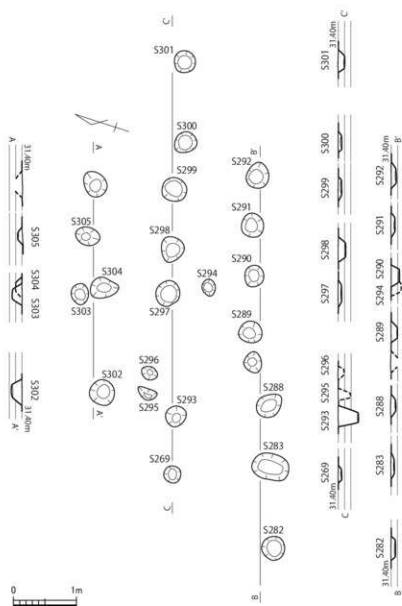
SA001 調査区の東部地域で、第III次調査区にある。区画では8D区と9D区にまたがるように位置する(第3図・第336図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形から扇形に開いた平坦地の中央部付近でもある。

SA001は、東西に柱穴の並ぶ列が三列ある遺構である(第340図:北列・中央列・南列)。北列は5基の柱穴からなるが、西から二番目には2基の柱穴が南北に密接して構築されている。中央列は7基、南列は8基の柱穴からなっている。これらの列は、北から西へ108°振れた方位を示している。仮に引いた主軸線を中心に穴の配置をみると、南北に30cm前後ずれている場合が目立つ。また同じ列の柱穴間の距離は、30cm〜50cmまでを中心に、最大で160cmの場合もある。穴の深さは、一例が30cm代のほかは10cm前後である。内部の状況は、柔らかい覆土で、根痕がないので柱穴としたが、これまでの特徴から建物や柵ではなく、植栽に伴う遺構と推定される。近世以降に開けられた穴であろう。

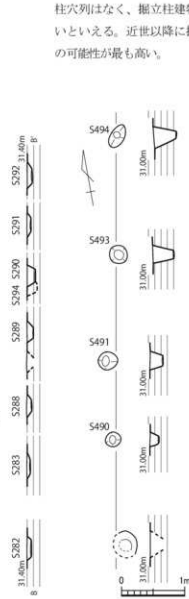
SA002 調査区の東部地域で、第III次調査区にある。区画では9F区と9G区にまたがるように位置する(第3図・第336図)。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形から扇形に開いた平坦地の南東部付近である。

SA002の柱穴列は、5基の柱穴が長さ650cmにわたって設置されていた(第341図)。柱穴列の方位は北から西に169°振れた方向に設定されており、東南400cmにある斜面地形と並行するように並べられていることが窺える。柱穴の特徴は、上記のSA001と比較すると、SA002の柱穴は穴の径が小さく、深さはより深いという違いがある。柱穴列の東あるいは西に対応する

柱穴列はなく、掘立柱建物の可能性は低いといえる。近世以降に掘削された柵列の可能性が最も高い。



第340図 SA001実測図(1/60)



第341図 SA002実測図(1/60)

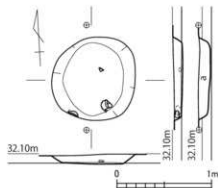
2 土坑

S127 調査区の中央部地域で、第II次調査区にある。区画では6F区の北西隅部を中心に6E区にかかる部分に位置する（第3図・第336図）。この辺りは、西から東に延びる舌状台地のなかでも標高の高い脊梁地形から扇形に開き始める起点部分で、南に湾曲する谷部を望む縁部である。

このS127遺構は、東西南北とも88cmの幅を有する円形の土坑である。土坑底部までの深さが12cmで、底部は平らである（第342図）。内部の土は、埋土と考えられ、IV層のローム質土をブロック状に含む。またこの土は、粘りもなく締まりもない。この遺構の上には外表遺構が存在したかもしれない。

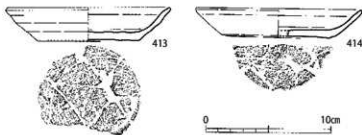
土師質土器 遺構の南部壁際で25cmほどの距離をおいて土師質土器の坏が二個体出土したが、以下のような特徴がある。

①口径13.1cm・底径8cm・器高2.65cm・口縁部傾斜角45°の大きさもち、口縁端部を細く収める。底部は糸切り離しである（第343図413）。②口径13.2cm・器高2.2cm・底径8.2cm・口縁部傾斜角40°の大きさもち、口縁端部を細く収める。底部は糸切り離しである（第343図414）。この2点の坏の器形と法量からすると、他遺跡の出土事例に近いものは大分市植田市遺跡ST1の事例である。S127出土の土師質土器と出土遺構の年代を13世紀～14世紀頃と考えておきたい。



a 暗褐色土(10YR3/3) しまりやや強い
粘り強い 埋土はサクサク状態である
地山ブロックをまばらに含む

第342図 S127実測図(1/40)



第343図 S127出土遺物実測図

第6節 遺跡出土の遺物

1 旧石器時代後期

ここでは旧石器時代後期・縄文時代草創期前半の資料を報告する。これらの資料の大半は縄文時代草創期・早期の包含層である第III層や遺構に混在して出土したものである。

ナイフ形石器 幅広剥片を用いた例がある。これは幅広剥片を90°右回転させ、表面の右側縁側に素材の打面側とし、遠位端部縁辺側を左側縁側として整形加工を施した例である(第345図421)。

ナイフ形石器 ノの字形剥片を用い、基端部左側縁に整形加工を施した例(第353図519)。今般型ナイフ形石器と思われる。**石刃尖頭器** 先細りの石刃や縦長剥片を素材に用い、遠位端部の片側もしくは両側、近位端部の片側もしくは両側に腹面側から整形加工を施した例である(第345図422～424、第346図432)。なお小型の例は、これまで片鳥型ナイフ形石器として説明してきた例であるが、今後は片鳥型石刃尖頭器と称したい(第345図422・423、第346図432)。

エンド・スクレイパー 縦長剥片の遠端部を中心に腹面側から成形加工を施した例(第346図441・442)。

スクレイパー 石刃を素材とした例や(第345図426・427、第346図434)、斜軸剥片・幅広剥片を用いた例がある(第345図428、第346図435～438、第353図522、第422図1983)。

石鏢 腹面側からの整形加工により背面側の周囲を成形するが、その際、遠位端部側の平面形を楕円状に、刃部(鏢部)は尖らせた例である(第345図425)。

使用痕ある剥片 石刃や剥片の背面もしくは腹面側の縁辺に、微細な剥離痕が観察される例である(第345図417・418、第345図429～431、第346図439・445)。

加工痕ある不定形石器 様々な形態の剥片に部分的に加工した例であるが、あるいは他の石器の未成品段階のものかもしれない(第346図440・443、第347図447)。節理で割けた板状剥片を素材としたものもある(447)。

石刃1 遠位端部が尖る石刃で、小型の例と(第348図453、第349図458・463、第350図481、第353図531)、大型の例がある(第350図477・485、第351図487・490)。遠位端が尖る石刃は、遠位で垂下する稜、あるいは幅狭い部分を取り込んで収束したことの原因がある。小型の例は、片鳥型石刃尖頭器の素材になりえるものであるが、頭部調整を施したものは一例しかなく(481)、あまり調整しないで石刃剥離を行っていることが窺える。

石刃2 遠位端部が尖らず幅広い石刃で、小型の例と(第348図454・456、第349図467・468・518・470～472、第350図479・480、第351図489)。大型の例がある(第348図457、第350図476・483、第351図486～488)。遠位端が幅広の事例は、当然ながら、石核に別方向の剥離痕が交差していることによって、垂下する方向の稜を取り込んで収束することができなかったからであろう。大型の石刃には縁辺に礫面を残すものがあり、角礫の縦横付近を利用して剥離をしていることが窺えると同時に、縁辺部の出入りの有る例が多い(476・477・485)。この点は、幾つかの方向から剥片剥離が行われるなど、稜に平行する石刃を剥離するための調整が行われていないことが推定される。

なお以下で報告する石核の中に石刃核が含まれていないが、残された石刃の存在から本来石刃を剥離した石核が存在したのだろう。おそらくそれは、この付近で入手可能な泥岩・チャートの角礫から剥離をおこなったことが残された石刃類から推定される。位上、石刃を一瞥しているのは、技術的には高度なものではないことが窺える。

その他の石刃 折れによって、端部の形状がわからない例がある(469・478)

剥片1 縦に長い、側縁等の形が不規則な例(第350図484)

剥片2 表面に他方向からの剥離痕が観察される例(第349図462・464、第350図475、第351図492・494～499、第352図500・501・502・504・505・506・510～517、第353図520・528～530)。このような剥片は、角礫から打面転移をしながら剥片剥離をおこなったことを物語っている。

剥片3 礫面もしくは横方向の剥離痕を残した縦長剥片で、あるいは初段階の石刃核の調整剥片か(第353図523・532)。

剥片4 円盤形・板状の剥片で、打面再生剥片も含まれている(第347図448、第352図509、第353図524・525)。

剥片5 稜を取り込み、縁端部が尖った剥片である(第349図459、第350図473、第353図533)。

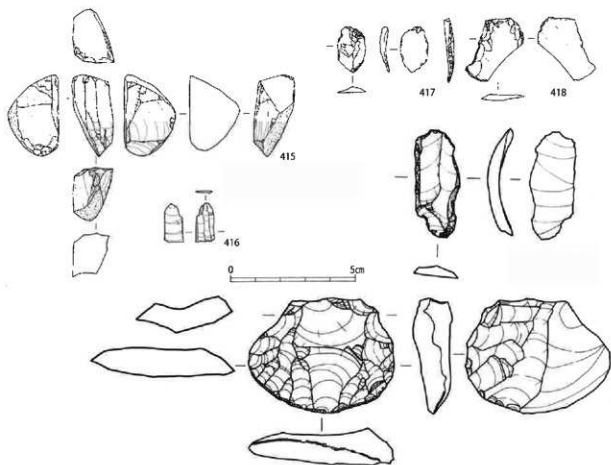
石核1 残核ともいべき例があり(第346図444、第347図449)、最終的には上部に単一の剥離からなる打面を作出し、正面側で小剥片の剥離を行っている。最終的な剥片剥離面をみると寸詰まりの小縦長剥片が剥離されている。

石核2 角礫を素材としたもので、角礫面を利用して剥片剥離と打面を転移させながら剥片剥離を繰り返して行った石核である(第348図451・452)。幅広い剥片や縦に長い不定形剥片が剥離されている。石核1は、側面の剥離痕の特徴から、石核2の剥片剥離が進行した結果と考えられる。

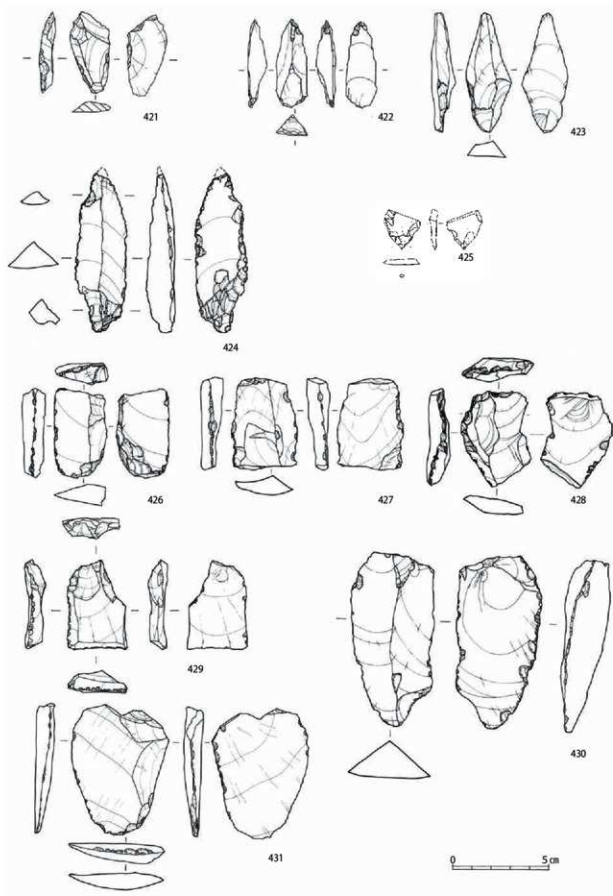
石核3 主要な剥片剥離が、正面正中線の左右方向からと裏面側の左右方向からの剥片剥離によって断面が三角形となった石核である(第347図450)。剥離面の観察では、幅広い横長剥片を中心として寸詰まりの不定形剥片が剥離されている。もう一例は、正面と裏面の左右方向からの剥離痕がある例で、断面が凸レンズ状を示す(第346図446)。あるいは縄文時代早期に製作された石斧の破損品の可能性も高い。

これまでの述べてきた石器類の中に石刃があるが、これらは石核1～石核3に対応しない資料である。したがって本来的には角礫を用いた石刃核の存在が予測される。最長で12.5cmの石刃があるので(第351図487)、すくなくとも高さが12.5cm程度の石刃核であったことがわかる。また、石器類の中には、先細りで先端の尖った小型石刃を用いた片島型石刃尖頭器が存在することから、他遺跡で見つかった剥片の小口から同石器の素材を剥離した石刃核と同様な石核が存在したことも予想される。

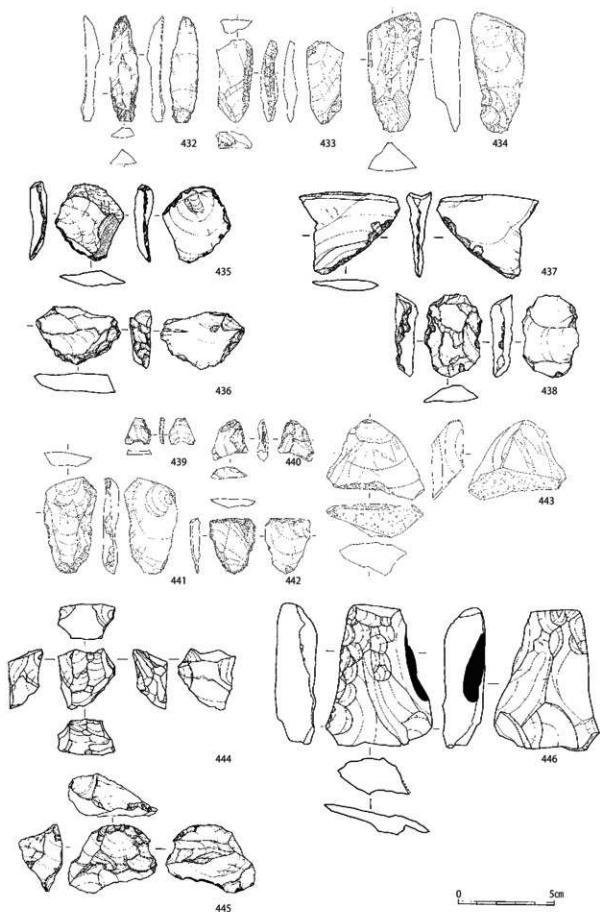
使用痕ある剥片 石刃を用いたもので、両サイドに細かい刃こぼれがある(第421図1978)。



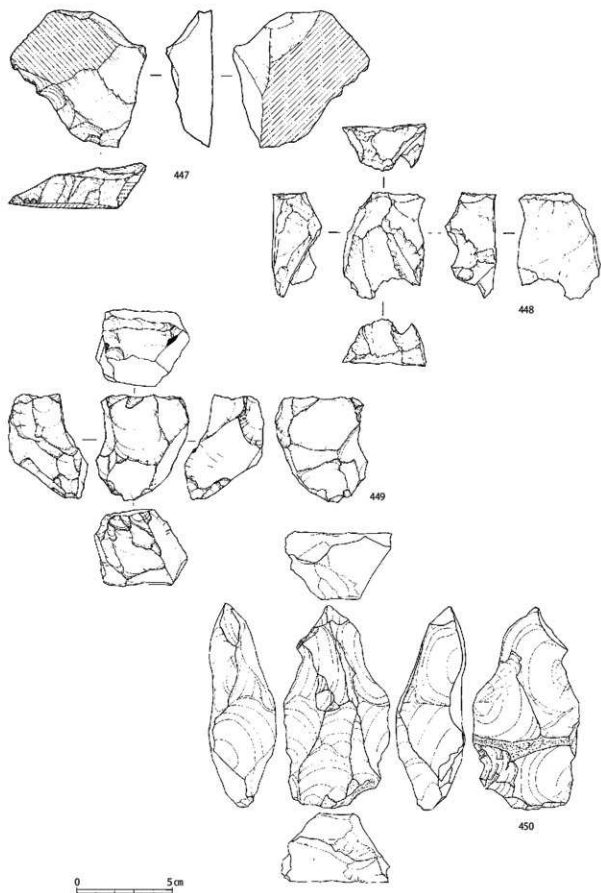
第344図 出土遺物実測図1-旧石器時代-(1)



第345図 出土遺物実測図2-旧石器時代-(2)



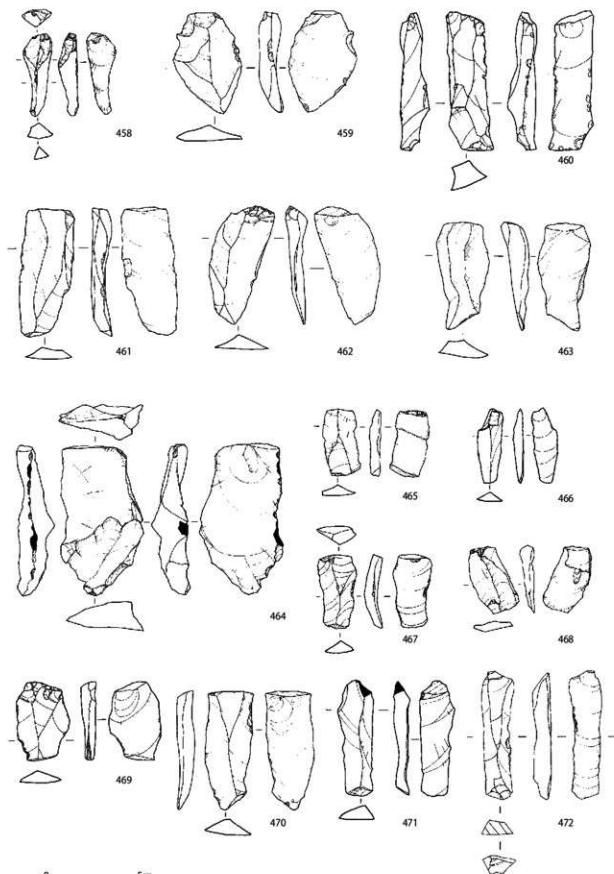
第346図 出土遺物実測図3-旧石器時代-(3) ※433は縄文時代早期



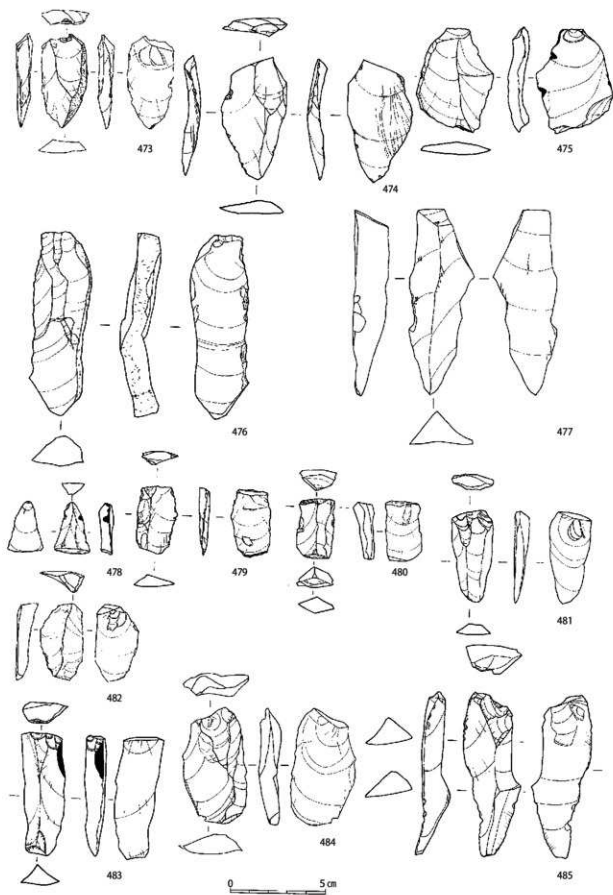
第347図 出土遺物実測図4-旧石器時代-(4)



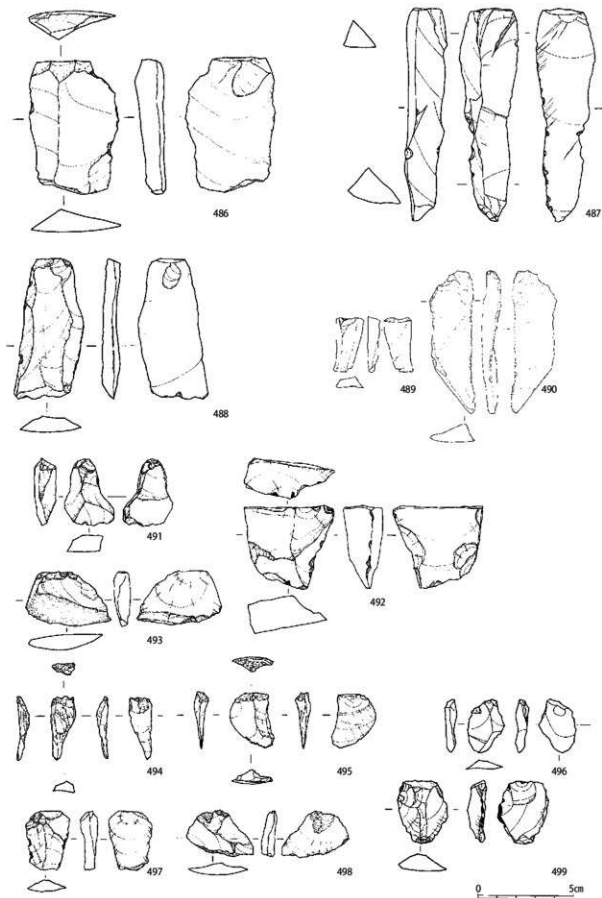
第348図 出土遺物実測図5-旧石器時代-(5)



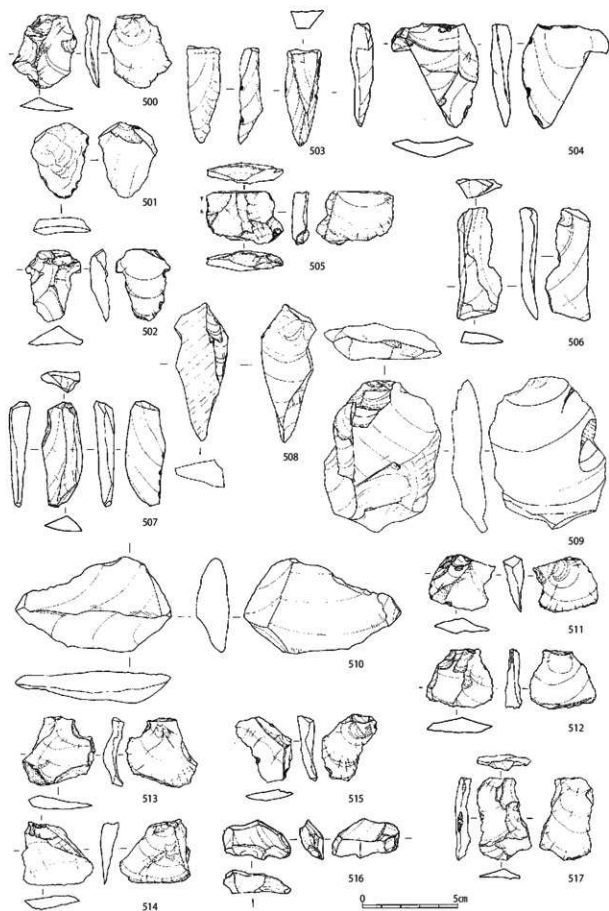
第349図 出土遺物実測図6-旧石器時代-(6)



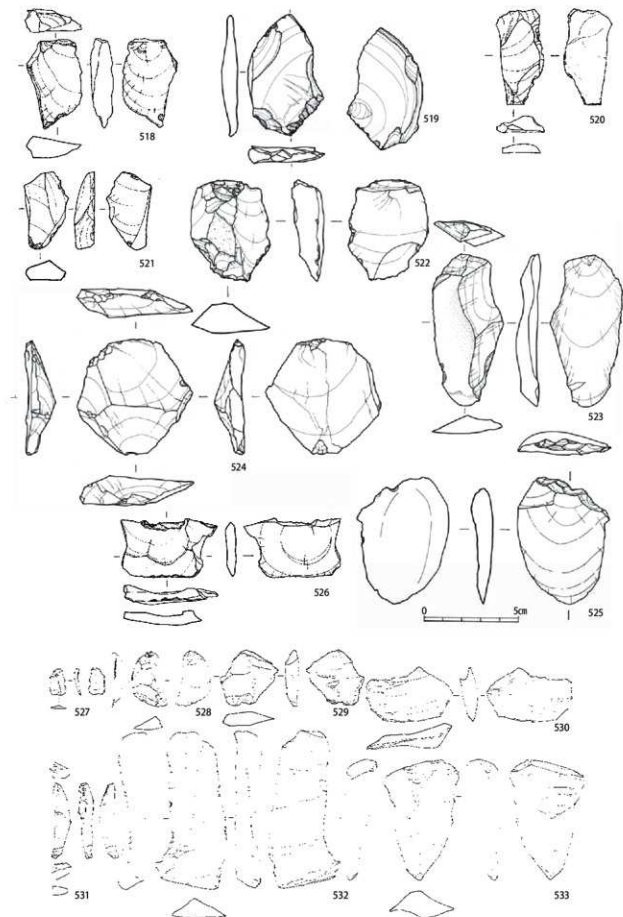
第350図 出土遺物実測図7-旧石器時代-(7)



第351図 出土遺物実測図8-旧石器時代-(8)



第352図 出土遺物実測図9-旧石器時代-(9)



第353図 出土遺物実測図10-旧石器時代-(10)

2 縄文時代

(1) 草創期の区分

縄文時代草創期に関する報告をしていくうえで最初に時期区分に関する説明をしておきたい。縄文時代草創期とは山内清男が提唱した時期区分の一時期で、押型文土器以前の撫糸文土器を含めた時期までを縄文時代草創期とした提案である。ところが千葉県東寺山石神遺跡の事例を嚆矢とする押型文土器と撫糸文土器の考古学的共伴事例が近年増加してきたなかで、押型文土器の古い部分と撫糸文土器が一部平行関係にあることが言われてきた（小笠原 2003）。それは近年のAMS 炭素 14 年代測定の事例増加でも裏付けられつつあるといえる。例えば、大川式土器のAMS 炭素 14 年代は、11,100-10700 calB P (9150-8750calBC) の間に盛行し（遠部 2009）、一方、稲荷台式土器（撫糸文土器）は 11,090-10,690 calB P 頃とされており（小林 2007）、年代的には並行関係にあるようだ。したがって稲荷台式土器以降の撫糸文土器も大川式以降の神宮寺式土器などの押型文土器との一部並行関係は疑いない。こうした経緯からすれば、山内清男が定義した草創期の終末を押型文土器以前の撫糸文土器段階に持ってくるのは実情に合わなくなってきた。ここでは、小林達雄が提案した多縄文系土器群を縄文時代草創期の終末とする。本報告では、市の久保遺跡等、長者久保・神子柴並行期の船野型細石刃核の段階を縄文時代草創期初頭（ステージ1）、福井型細石刃核を有する隆起線文土器・爪形文土器の段階を草創期前半（ステージ2）、隆帯文土器の段階を草創期中頃（ステージ3）、平底優位のナゲ調整無文土器の段階を草創期後半（ステージ4）と便宜的に区分する。

(2) 縄文時代草創期初頭

船野型細石刃核が1点出土している（第431図2085）。市の久保遺跡ではこの段階に石斧が伴う。

(3) 縄文時代草創期前半

縄文時代草創期前半は、本報告では長崎県佐世保市にある福井洞穴遺跡や泉福寺洞穴遺跡における隆起線文土器段階や爪形文土器段階に並行する時期としておきたい。福井洞穴や泉福寺洞穴では、福井技法（西海技法）によって福井型細石刃核から剝離された細石刃が隆起線文土器（豆粒文土器）や爪形文土器に伴っている。したがって、縄文時代草創期の隆起線文土器段階や爪形文土器に伴った福井型細石刃核・細石刃は縄文時代草創期に盛行したことが分かっている。

森の木遺跡においても福井型細石刃核が出土しているため、以下でその特徴を報告する。

細石刃核 稜面を有するなど不完全ながらも両面体の原形を用いている（第351図415）。それは調整の方向が、下縁付近では下から上方への剝離、上位の側面では上方から下方への剝離、また右側面では細石刃剝離作業面方向への剝離などが観察されることからわかる。そうした両面調整の剝離を切るように、細石刃剝離作業面方向からの剝離作業によって打面が作出されている（三角スポール～台形スポール）。福井型細石刃核と通例、横方向からの打面形成とその後の細石刃剝離作業面側からの細かい調整面調整が特徴であるが、作業面方向からのスポール剝離による打面作出・打面再生についてもしばしば観察されることである。したがって、本例も福井型細石刃核としておきたい。なお本例は、石材に腰岳・牟田系黒曜岩を用いており、持ち込まれたことがうかがえる。

スポール 腰岳・牟田系黒曜岩を石材に用いた湾曲したスポールで、側面部に原形時の両面調整痕が残る。表面には先行する縦方向のスポール剝離に伴うネガ面が残る（第344図419）。

細石刃核原形 幅広い剥片を素材にし、表裏両面への薄い調整によって表面を凸レンズ状にしあげている（第344図420）。裏面側でボジ面が残っている部分は、ボジティブ面の緩やかな曲線をそのまま利用した部分である。上端の断面観が角ばっているが、ここは素材剝離の際の打面側近くである。原形の奥深い部分まで剝離が届いていることが最大の特徴であると同時に、丁寧な縁辺部の調整を行っている。なお本例は、石材に腰岳・牟田系黒曜岩を用いており、持ち込まれたことがうかがえる。

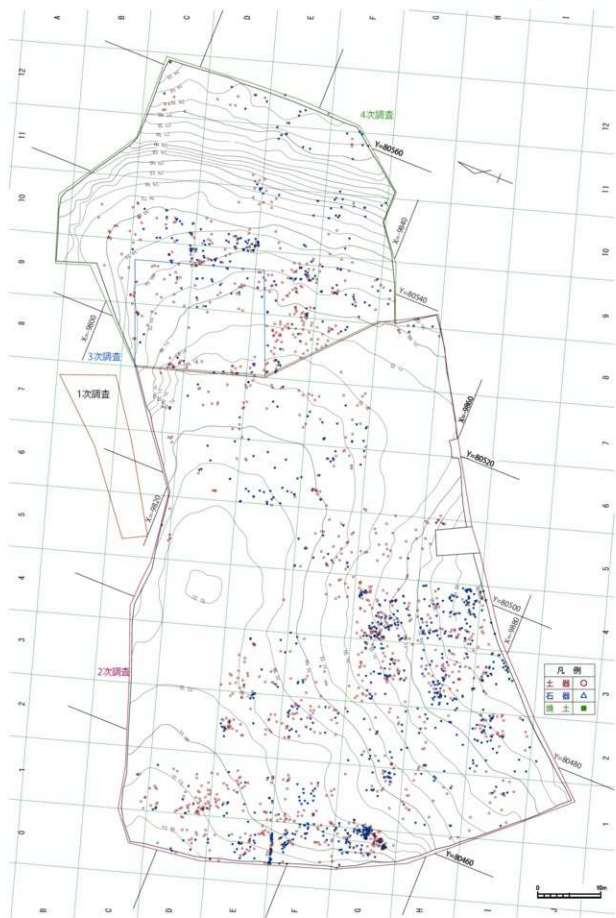
細石刃 長さが約1.5cm、幅0.7cmで、表面に先行する細石刃剝離痕が平行している（第344図416）。なお他にも細石刃関係資料があり、作業面での初期スポールと推定しているものである（第353図531）。

《参考文献》

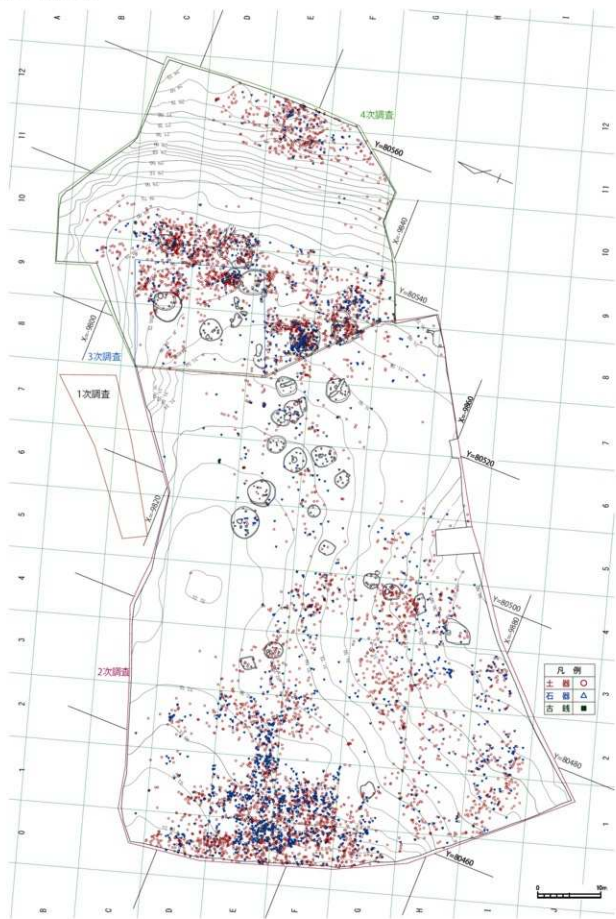
小笠原永隆 2003 「千葉県内における押型文土器出現期の研究展望」『利根川』24・25号 利根川同人 125-129

遠部 慎 2009 「徳島県那賀町古屋岩陰遺跡出土土器類の炭素 14 年代測定」『徳島県立博物館研究報告』第19号、徳島県立博物館 21-32

小林謙一 2007 『AMS 炭素 14 年代測定を利用した東日本縄紋時代前半期の実年代の研究』平成 17～18 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) (1) 研究成果報告書 国立歴史民俗博物館



第354図 森の木遺跡Ⅱ層遺物分布図(1/600)



第355図 森の木遺跡Ⅲ層遺物分布図(1/600)

(4) 縄文時代草創期中頃

ここでは包含層から出土し、取り上げた縄文時代の遺物について報告する。それらの中には、直下に関係の深い遺構が確認されている場合もある。そうした遺物については可能なかぎり記載していきたい。

分布 隆帯文土器群は、次のような範囲に分布している。4D区で1点(第357図570)、9G区で1点(第357図577)、8E区で1点(第356図561)、8D区で4点(第356図539・540・557、第357図586)、8C区で1点(第356図570)、9B区で3点(第356図544、第357図576、第358図589)、9C区で5点(第356図548・555・556、第358図592・594)、9D区で17点(第356図538・545・546・551・554・559、第357図563・568・571・579・580・585、第358図587・588・590・593・596)、9E区で5点(第356図542・549・558、第357図574・582)、10B区で1点(第356図562)、10C区で8点(第356図534・536・547・552、第357図564・566・578・581)、10D区で5点(第356図535・537・560、第357図575・584)、10E区で1点(第357図569)、11D区で1点(第357図565)、11E区で2点(第356図543・595)、11F区で1点(第358図597)、12E区で1点(第357図567)、12F区で1点(第357図583)である。このように各区画の隆帯文土器の出土傾向をみると遺跡の東北部にそのほとんどが集中する傾向にある。

口縁部外面に隆帯がなく、円形か半截竹管状の刺突痕を口縁部沿いに2～3段施す一群(第356図534～542・556～558)

口縁部外面に幅広い隆帯を貼り付け、その上に円形の刺突痕を1～3段施す一群(第356図545～551・561)

口縁部外面に幅広い隆帯を貼り付け、その上に斜行ノ字形刺突痕を2～3段施す一群(第356図549、第357図564・566)

口縁部外面に幅広い隆帯を貼り付け、その上に斜行ノ字形刺突痕を口縁部沿いに3・4段施す一群(第356図555)

口縁部外面に幅広い隆帯を貼り付け、その上や下にはの字爪形状の刺突痕もしくは刻みを口縁部沿いに1～2段施す一群(第356図559・561、第357図563・567～569・574)

口縁部外面に幅広く低い隆帯を貼り付け、その上への字形の鋸歯文を施す一群(第357図577)

口縁部外面に幅広い隆帯を貼り付け、その上に柵状に短七線文を施す一群(第357図572・573)

口縁部外面に幅広い隆帯を貼り付け、その上にX字状文を施す一群(第357図579～580)

口縁部外面に幅広い隆帯を貼り付け、その上にX字状文を施す一群(第357図581・582)

口縁部外面に幅広い隆帯を貼り付け、その上に鋸歯文を施す一群(第357図576・578)

口縁部外面に幅広い隆帯を貼り付け、その上に貝殻複線文を縦位に施す一群(第357図576・584)

口縁部外面に幅広く高い隆帯を貼り付け、その上に貝殻文を施す一群(第357図585)

口縁部外面に幅広く低い隆帯を貼り付け、その上に貝殻文を施す一群(第357図586)

口縁部外面に幅広い隆帯を貼り付け、その上半截竹管の刺突痕を一段施す一群(第356図559)

口縁部外面に幅広く低い隆帯を貼り付け、半截竹管状の刺突痕を口縁部沿いに2～3段施す一群(第356図560)

口縁部外面に幅広い隆帯を貼り付けただけの一群(第358図587～593)

口縁部外面に幅広い隆帯を貼り付けただけの例(第358図597)

口縁部外面最上部とその下に横方向へ細い隆帯を貼り付け、隆帯の上に刻目を入れた例(第416図1810)

口縁部外面最上部とその下に横方向へ細い隆帯を貼り付け、更に横方向の隆帯をまたぐように垂下する隆帯を貼り付け、その上に刻目を入れた例(第416図1809)

口縁部外面に爪形状の瓦痕の観察されるもの(第416図1811)。あるいは埴地西式土器に類するものか。

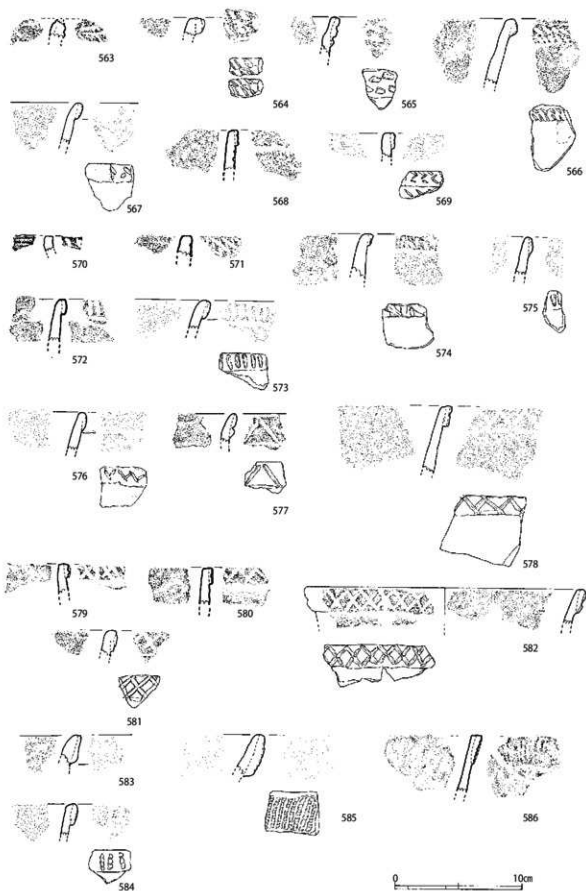
底部破片 平底形態の破片で、8CD区・9CD区など調査区の東北部を中心に出土している。このあたりは隆帯文土器やそれに伴う無文土器が密集する部分であり、それらの土器の底部と考える(第413図1754～1766・1768～1772・1774～1778・1780・1781)。

(5) 縄文時代草創期後半

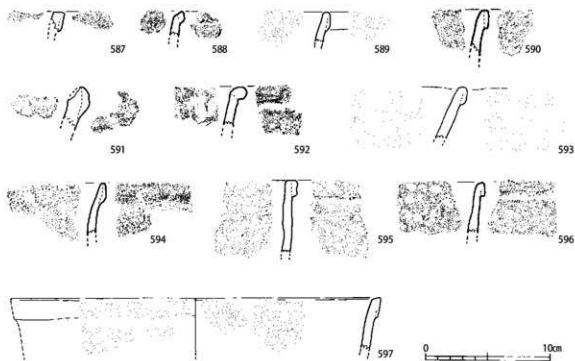
大分県二日市洞六遺跡では、押型文以前の土器群の底部変遷が古い頃から平底、平丸底、丸底、尖底と変遷している。最古の平底の土器段階は、直後の平丸底の段階の較正年代が9,380-9,275CalBP(PLD-6277)なので、少なくとも11,000年近く遡ることが予測される。このように考えると、森の木造跡出土のナゲ調整無文土器のなかに本来草創期後半に含まれる土器のあることが十分考えられる(第383図～第403図)。



第356図 出土遺物実測図11-縄文時代草創期-(1) ※553は平枡式



第357図 出土遺物実測図12-縄文時代草創期-(2)



第358図 出土遺物実測図13-縄文時代早期前半

(6) 縄文時代早期前半

条痕調整無文土器・ナデ調整無文土器について報告する。これらの土器は、他の無文土器と同様に第Ⅲ層から出土している。口縁部が直行もしくは内傾気味にちちあがり、端部を外方向に曲げた例で鬪弓式土器に相当するもの（第393図1406・1414・1417・1425・1427～1429・1432・1404～第395図1458）このうち直交する厚手例と薄手例については（第395図1436～1444）、二日市洞穴遺跡第4文化層下に型例があるし、胴が張り、口縁部へ内傾し端部を僅かに外方へ折り曲げた土器は甲型文土器直前の無文土器に特有の土器である。なお、この時期の底部としては尖底を主体に（第403図1584～1596）、太い小型円盤を貼り付けた例もある（第402図1582・1583）。

底部が丸底の例（第403図1584）二日市洞穴遺跡の第7文化層（二日市Ⅱb式土器段階）に相当する例である。

直行する口縁部に近い胴部外面上部に縦形の鱗状突起を示す例（第386図1230）この例は、宇佐市中原遺跡から出土した土器に観察される（高並垣式土器段階）。

直行する口縁部外面上部に横形の鱗状突起を示す例（第386図1228・1220）この例は、宇佐市中原遺跡（高並垣式土器段階）と大分市野田山遺跡（野田山式土器段階）から出土した土器に観察される。

胴部から底部の開きの角度が大きく（90度以上）、底部が乳首状もしくは鈍角となる例（第403図1595・1597～1600）これらの例は、宇佐市中原遺跡（高並垣式土器段階）と大分市野田山遺跡（野田山式土器段階）から出土した土器に観察される。二日市洞穴遺跡の事例から図示した森の木遺跡の条痕調整無文土器は、その多くが縄文時代早期前半に位置づけられるものと考えられる（第404図1601～第407図1682）。この中の条痕調整無文土器のなかには大破片があり、ある程度器形のわかるものがある。

A 胴部の上位から口縁部にかけて外傾する例（第405図1639・1641・1642、第406図1653・1654）

B 胴部の半ばから口縁部にかけて外反する例（第405図1640・1644・1652）

C 胴部の半ばから口縁部にかけて内湾し、口縁端部が僅かに内向きとなる例（第405図1646・1650）

D 胴部の半ばから口縁部にかけて直行気味に立ち上る例（第405図1637・1638・1649）

Dの場合は二日市洞穴遺跡の第9文化層～第7文化層・宇佐市中原遺跡でも出土していることや、これら条痕調整無文土器の底部は、条痕調整で広角尖底に近い例もあり（第403図1600）、概ね野田山遺跡や中原遺跡で観察される土器の底部の事例に相当するものと推定される。

(7) 縄文時代早期中頃

縄文時代早期中頃は川原田式土器・早水台式土器・下菅生B式土器・田村式土器（高山寺式土器並行）までの押型文土器について報告する。

川原田式土器 長さ0.2cm前後の極小の楕円文を横方向に回転施文した例（第359図598～602）。その特徴は、器壁0.6cm～0.8cm前後、原帯幅1.7cm～1.9cmで薄手の土器である。

稲荷山式土器 楕円押型文土器の口縁部破片の例（第359図603～606）。この中には、器壁が0.9cm前後の薄い例（第359図603～605）と1.4cm前後の厚い例（606）があり、後者には同一個体の脚部破片がある（第374図923～925）がある。なお、内面に楕円文はない。

稲荷山式土器 山形押型文土器の口縁部破片で、山形の線の幅が小さい例（第359図607～620・622）。これらの土器は、いずれも器壁が薄いに特徴がある。それらの内訳は、0.5cm前後の薄い例が2点（第359図617・618）、0.6cm前後の薄い例が2点（第359図607・615）、0.7cm前後の薄い例が8点（第359図608～610・613・614・616・619・620・）、0.8cm前後の薄い例が2点（第359図611・622）、0.9cm前後の薄い例が1点（第359図612）ある。次に、山形文のW頂部と頂部の幅、H頂部と谷部下底の高さについてデータを記しておこう。W 0.8cm/H 0.3cm（第359図607）、W 0.7cm/H 0.2cm（608）、W 0.6cm/H 0.2cm（609・610）、W 0.6cm/H 0.3cm（611）、W 0.8cm/H 0.4cm（612）、W 0.9cm/H 0.2cm（613）、W 0.8cm/H 0.5cm（614）、W 0.7cm/H 0.3cm（615・619・620）、W 1.0cm/H 0.4cm（616）、W 0.6cm/H 0.4cm（617）、W 0.8cm/H 0.8cm（618）、W 0.6cm/H 0.05cm（622）である。これらの特徴をみると、幅（W）と高さが正三角形に鋭く連続する例（618）、小刻みに震えるように連続していく例（609・610・622）、幅が1.0cm～0.8cmであるのに対し高さが異常に低く間延びした感じを受ける例（607・612・613）、幅が0.8cm前後であるのに対し高さが0.3cm前後低い例（608・614・615・617）などにまとめられる。なお、楕円文、山形文は数量的に後者が多い傾向にあることがわかる。この他、楕円文が連珠のように連なっている楕円文がある（第368図820～826）。この横に連なる連珠状楕円文は、その上下の連珠状楕円文と平行関係にある。おそらく原体の主軸方向と直交方向に平行線を引くように印をつけて彫り出したことに原因があると考えられる。なお、口縁最上部内面に極短い楕円文のみられる例も数例あり、二日市洞穴遺跡第4文化層上部の例に似た土器がまとまって出土しており、これも稲荷山式土器と早水台式土器を繋ぐものと考えられ、稲荷山式の新相として理解しておく（第362図688・708・712・713、第363図721・724・725・732）。

このほかにも稲荷山式土器とすることができるものに山形文土器や楕円文土器がある（第369図835～838、第370図840～843）。この中には、山形文が細かく太いピッチで展開しているものがある（840・841・843）、上記した連珠状の楕円文とともに早水台式土器における文様の一特徴である。この点は、稲荷山式土器の細分と一括遺物が見つかっていないため詳らかにしえないが、あるいは稲荷山式土器と早水台式土器をつなぐ一要素かもしれない。

早水台式土器 尖底部から逆三角形に立ち上がる器形である。文様の基本的な施文方法は、楕円にしろ、山形にしろ、原体を横方向に回転押型して形成させるもので、内面には垂下する密接する楕円文が観察される。文様には幾つの特徴があるので列記しよう。①回転押型の楕円文が小さく横方向に長い例（第360図623～626・635・640・641～643は同一個体、第361図644・646）。②回転押型の密接する菱形の例（第360図楕円文が菱形で密接する例（第360図627・637）。③回転押型楕円文が横方向に密接しながら並ぶ連珠の例（第360図628～634・638・639、第361図647）などがある。これによく似たものに、太く短い山形文を細かく連続させた例があり、③の楕円文との区分が難しい場合もある。なお内面に施される楕円文は、その切り合い関係から楕円文が施された後に施文されたことのできる例がある（第360図634・637・639）。また楕円文を観察すると一つ一つの沈線は切り合うことなく極めて整然と縦方向に施されている。しかも楕円文の凹部上下端部が押し込まれたような半円形を示していることと、沈線内部に工具で擦過した痕跡のないことからすると（624・625・638）、短い棒の長軸方向に数本の平行溝を彫った原体で回転押型した楕円文というべき特徴を有している。器壁の厚さは、0.7cmが9点（第360図673・624・625・628・631・633・636・637・642）、0.8cmが3点ある（第360図626・635・621）。

次に山形文について観察する（第359図621、第361図648～第365図765）。①山形文が大きく小刻みに上下を繰り返す例（第361図648・651・652・654～658・661～663・665・669～684、第362図694・698・699・701・703・705・707・711、第363図714・715・720・722～724・729・730・731・733、第364図739・741～744・751・755、第365図756

～758)、②山形文が細く小刻みに上下を繰り返す例(第362図687・690・709、第363図737、第364図740・745・748)、③細い山形文で、山形の頂部間が間延びしていない例(第361図667・668、第362図691・692・693・700、第363図716・718・719・727・728・734・736、第364図747・752～754、第365図759～765)、④細い山形の頂部幅が幅広であるのに対し、高さが異常に低く間延びした感じを受ける例(第361図650・653・664・668、第362図686・689・696、第363図735)がある。

口縁部の形態は、水平口縁が大半であるが(第360図642、第361図646、第365図764)、波状口縁の例もある(第365図760～765)。

器壁の厚さは、0.5 cmと薄いものもあるが(第362図690)、1.0 cmまでの例が多い。

下管生B式土器 器形は、尖底部から上方に立ち上がり、口縁部が外反する例と(第366図766・768・770～774・776、第367図786～791・793～807/※786～789は同一個体、第368図808～810)、胴部上部が張り気味に内湾し、再び直行もしくは内傾する例(第366図767・769・779～785、※779～781は同一個体・782～785は同一個体)がある。主文様は楕円文と山形文があるが、前者が多い。楕円文や山形を刻んだ原体を回転押圧することで施文するが、外面を縦方向・内面の上部を横方向に回転押圧することに大きな特徴がある。内面では最上部域に、横方向の回転施文を施す。内面で横方向の施文を行ったあと垂下する楕円押型文を横方向に回転施文をしている。この楕円押型文が押型文であることを示す例の中には、重機のキャタピラー直状の回転圧痕がよく観察されることからわかる(第368図808)。これまで述べてきた土器は、尖底の深鉢・鉢形態であるが、壺形態も存在する(第367図791・792)。おそらく尖底で、胴張りから頸部がしまり外反する口縁となるのであろう(第367図786)。

楕円文は原体に斜格子状に刻みを入れて彫り出したようで、よくみると楕円間の凹部のラインが回転方向に対し斜め方向に通っている(第367図786)。したがって楕円と楕円は真横ではなく斜め方向に並んでいることと、楕円が菱形もしくはラグビーボールの側面のような形をしていることに特徴がある。なお、楕円文には早水台式土器で顕著に観察されたような連続のようにつながらない。

山形文は、基本的に早水台式土器との違いは小さいといえる。①山形文が太く小刻みに上下を繰り返す例(第367図790～792、805)、②山形文が細く小刻みに上下を繰り返す例、③細い山形文で、山形の頂部間が間延びしていない例(第361図793・799・802・803・806・802・803、802と803は同一個体)、④細い山形文で、山形の頂部間が間延びしている例(第367図795・796・798・801)がある。

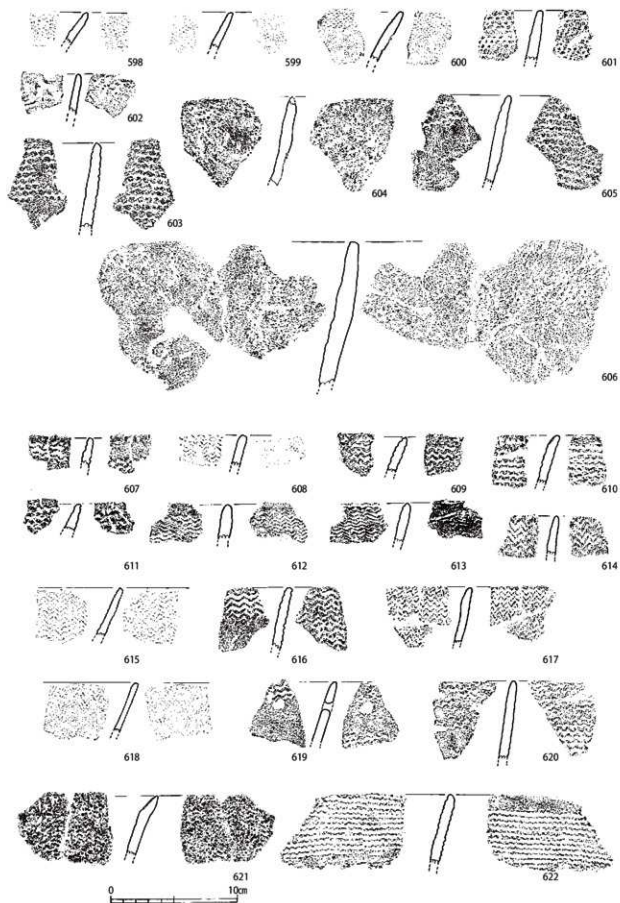
山形文土器の器壁の厚さは、①0.4 cmが2例(第366図767・770)、②0.5 cmが1例(第367図801)、③0.6 cmが4点(第366図766・774、第367図797・806)、④0.7 cmは8点(第366図768・772・776・777、第367図790・802・805・807)、⑤0.8は3点(第366図769・773、第367図799)、⑥0.9 cmは9点(第366図771・778・779・782、第367図786・792・794・798・804) ⑦1.0 cm(なし)、1.1 cm(775)である。

田村式土器・高山寺式土器 ①器形は、尖底部から上方に立ち上がり、口縁部が外反する深鉢の例(第368図811～867、第370図856)がある。とりわけ特徴的なことは、楕円押型文が消えるものの、その系譜を引く斜行凹線を棒状工具で引いている例であることと、縦方向・斜方向に太い大型の楕円文を施す。高山寺式土器と田村式土器の違いは少ないが、前者は内面の斜行凹線間が広いのに対し、後者は密接するところに特徴があるといえるだろう。このほか、田村式土器と思われる土器に、②内面上部に文様を施さない鉢形土器の例(第369図829～833、※829～831は同一個体)、③口縁部内面に横方向の楕円文、外面には縦方向の楕円文を施した例(第369図839)や②との関係から田村式土器群の範疇に含まれる土器として、④外面上部に縦方向の山形文を施すが、内面にはない例(第370図853)がある。この他、⑥外面上部に横方向の山形文を施すが、内面にはない例(第370図847・898～901・903、※847・851～853・903は同一個体)は、④に似るが田村式土器の範疇に入れるかどうかは保留しておきたい。

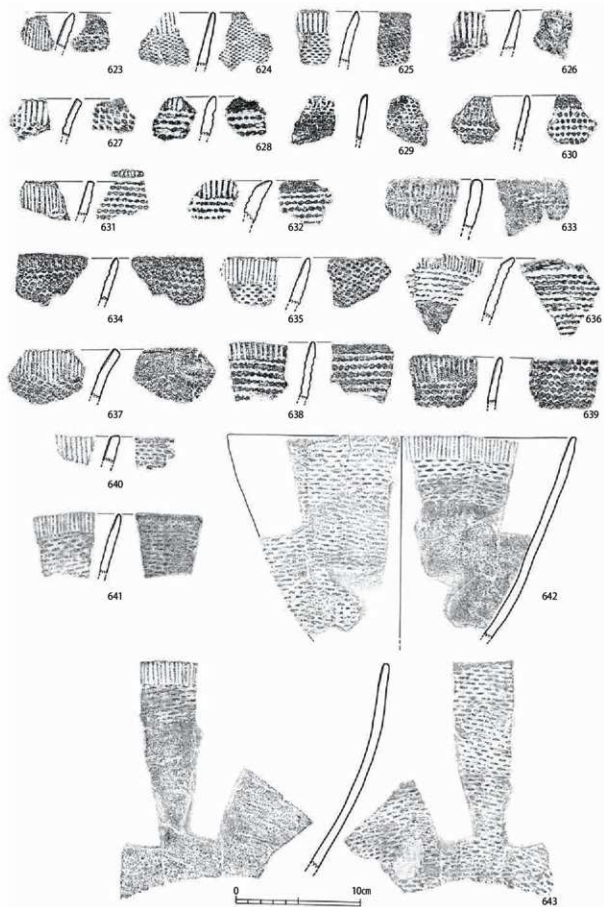
政所式土器 外面側に施された二枚貝放射肋の縁部縦圧痕が上端から下へ4 cm程度の部分まで施文されており、その下はナゲ調整のままである(第370図854)。

(8) 縄文時代早期後半

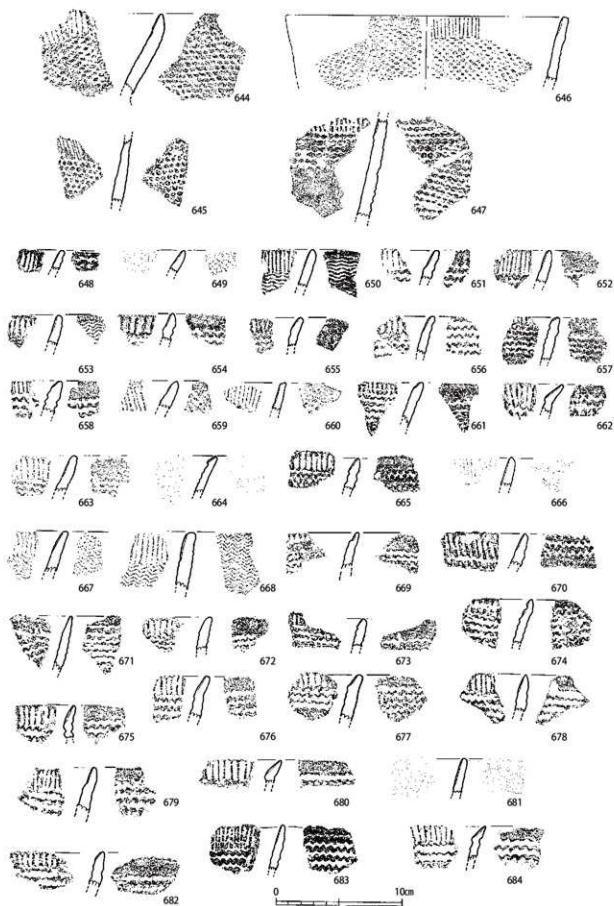
縄文時代早期後半は、手向山式土器、平栢式土器、壺ノ神式土器、からアカホヤ直上の轟3式土器までとしておきたい。関東



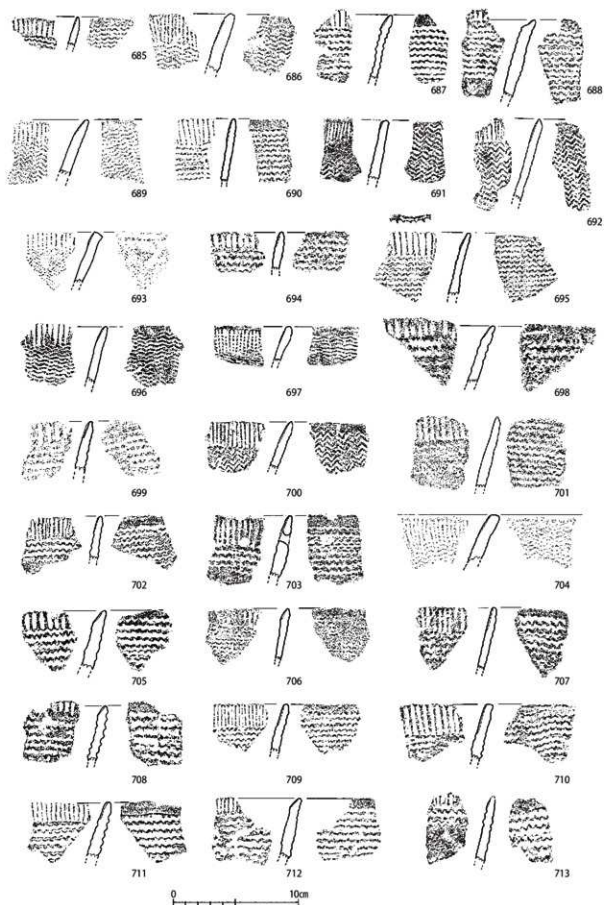
第359図 出土遺物実測図14-縄文時代早期-(1)



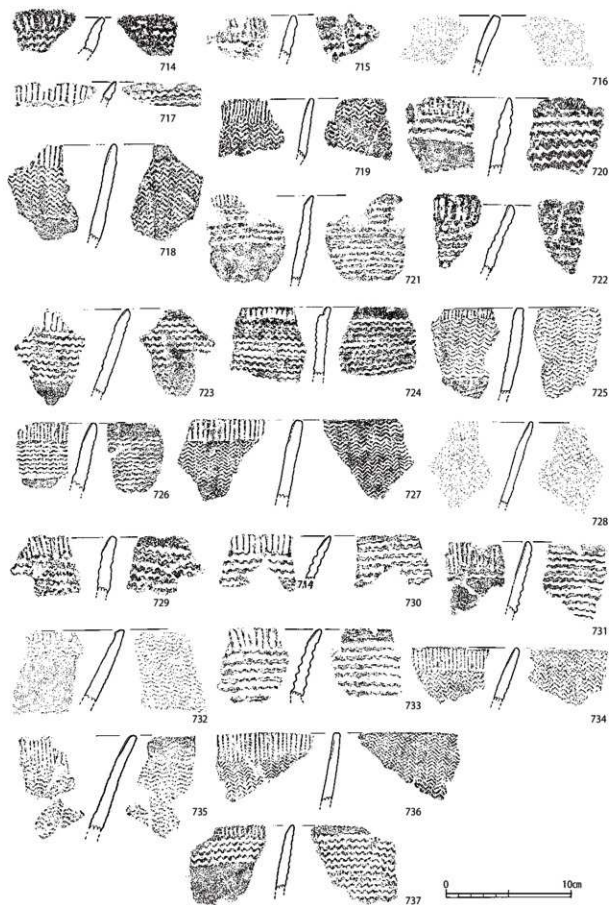
第360図 出土遺物実測図15-縄文時代早期-(2)



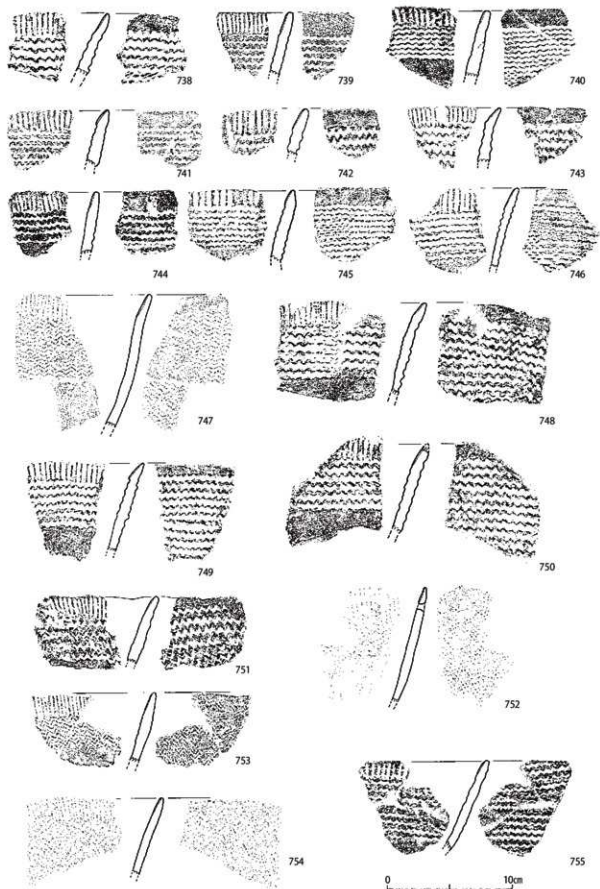
第361図 出土遺物実測図16-縄文時代早期-3)



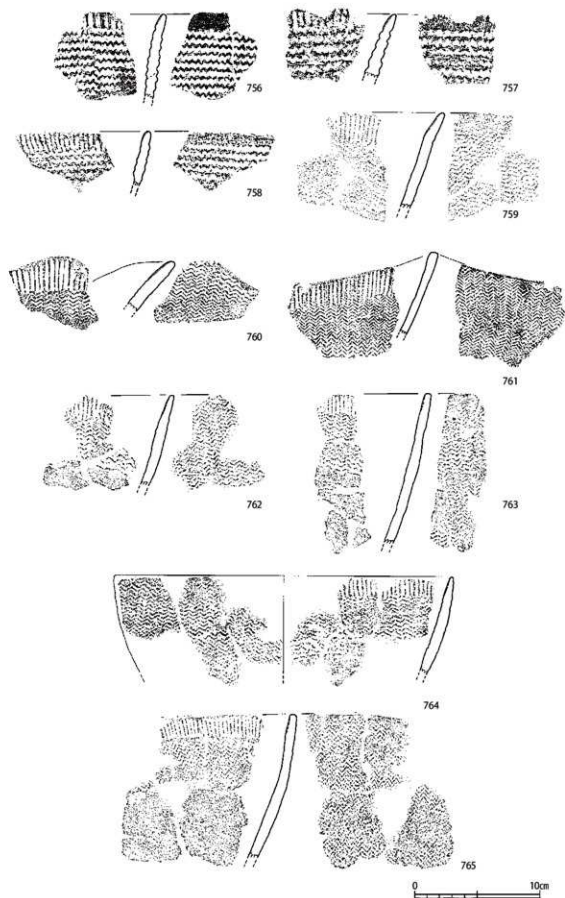
第362図 出土遺物実測図17-縄文時代早期-(4)



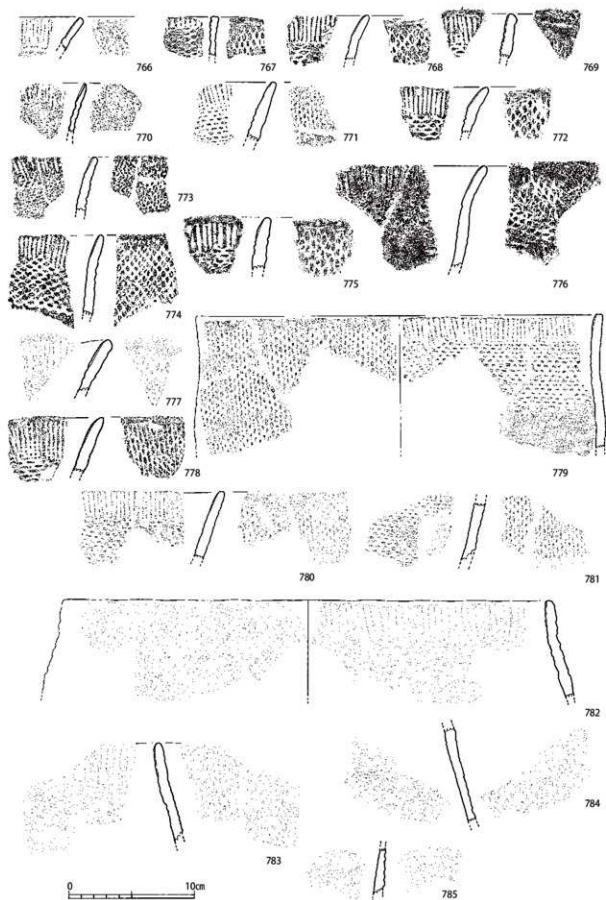
第363図 出土遺物実測図18-縄文時代早期-(5)



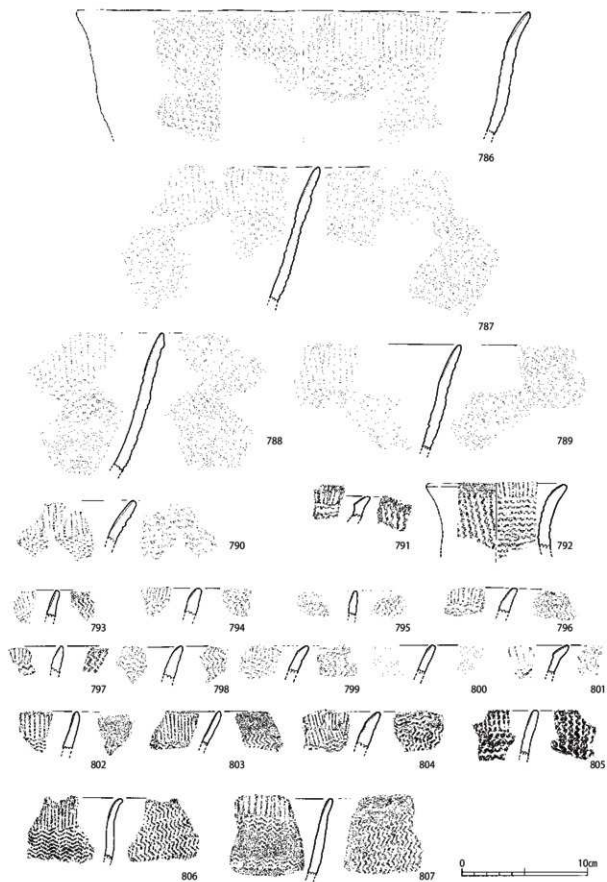
第364図 出土遺物実測図19-縄文時代早期-(6)



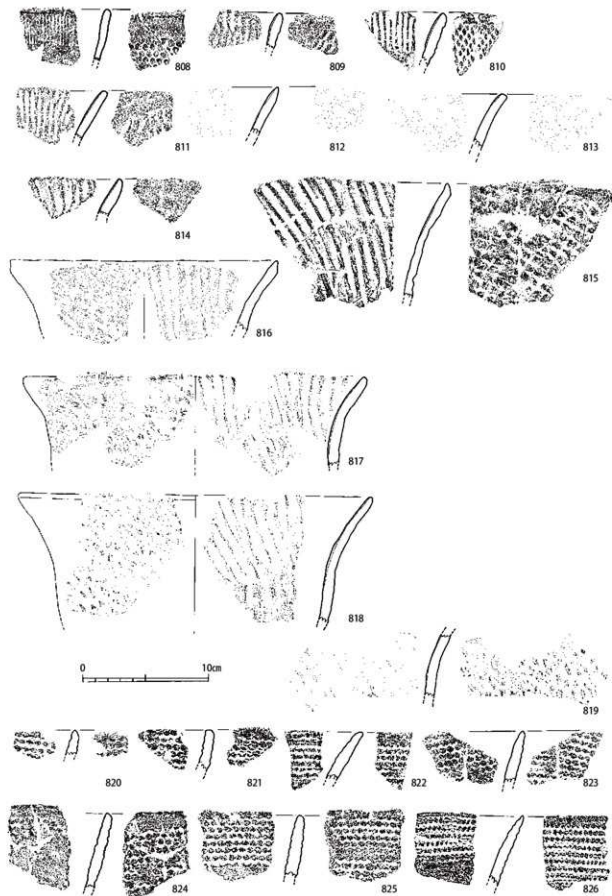
第365図 出土遺物実測図20-縄文時代早期-(7)



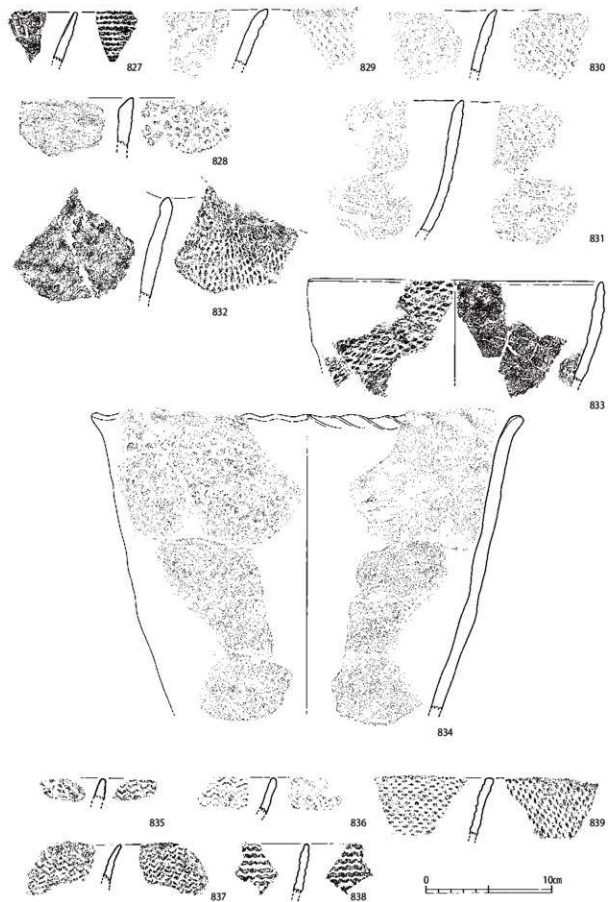
第366図 出土遺物実測図21-縄文時代早期-(8)



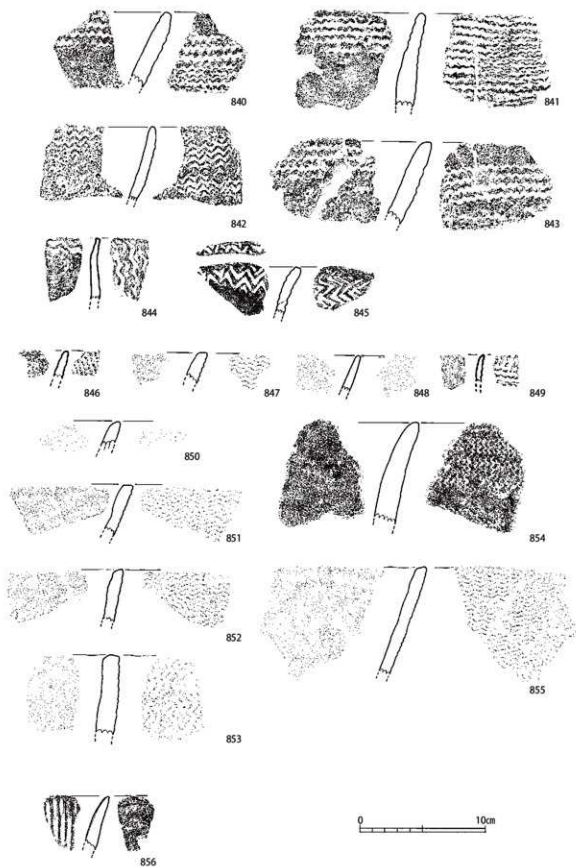
第367図 出土遺物実測図22-縄文時代早期-(9)



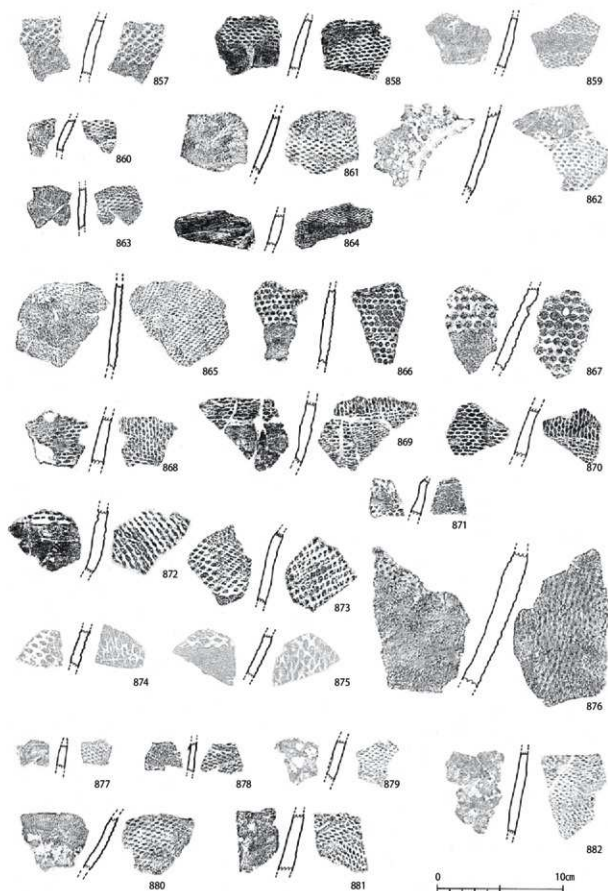
第368図 出土遺物実測図23-縄文時代早期-(10)



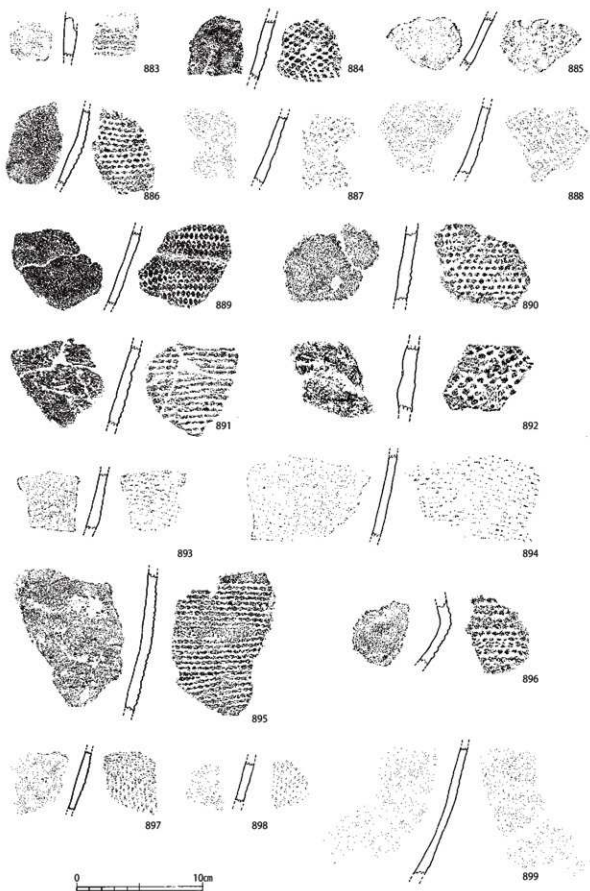
第369図 出土遺物実測図24-縄文時代早期-(11)



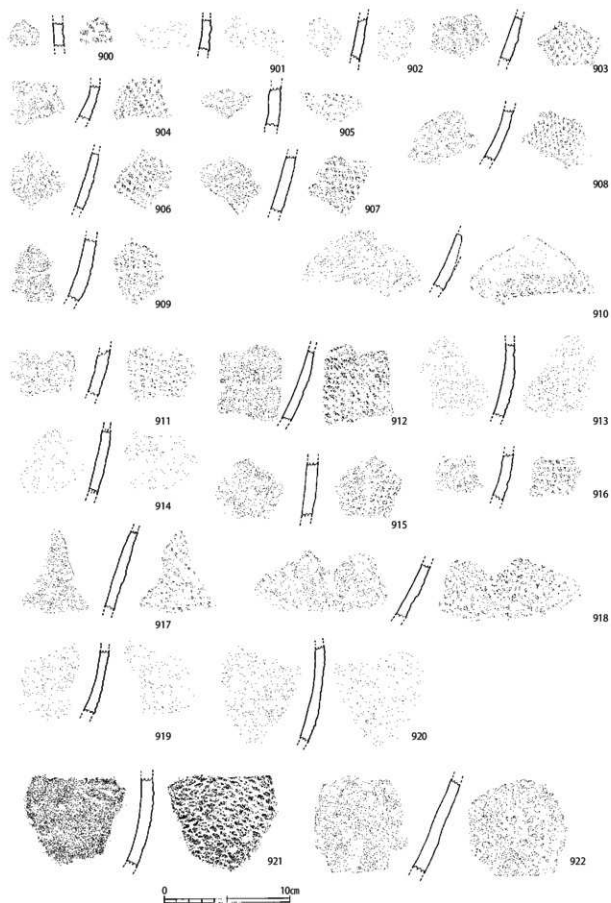
第370図 出土遺物実測図25-縄文時代早期-(12)



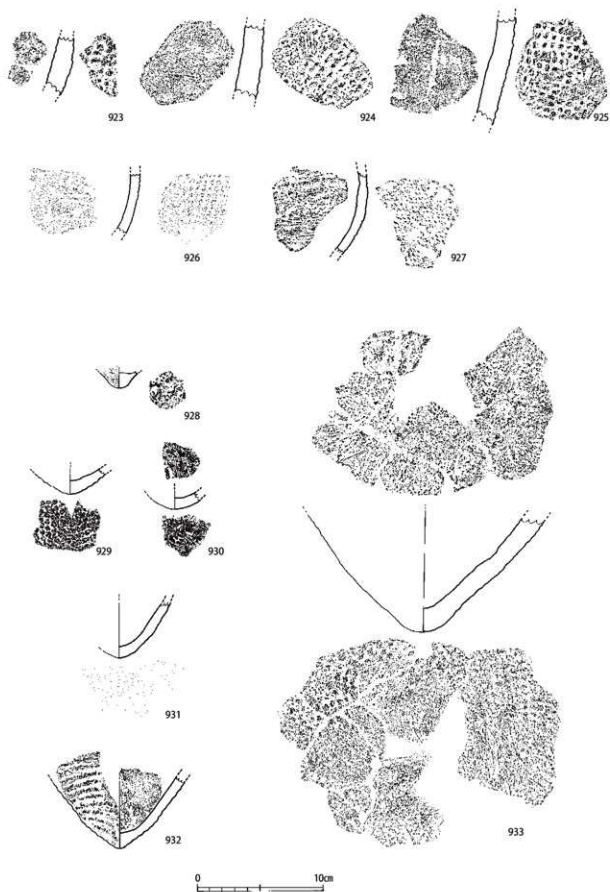
第371図 出土遺物実測図26-縄文時代早期-(13)



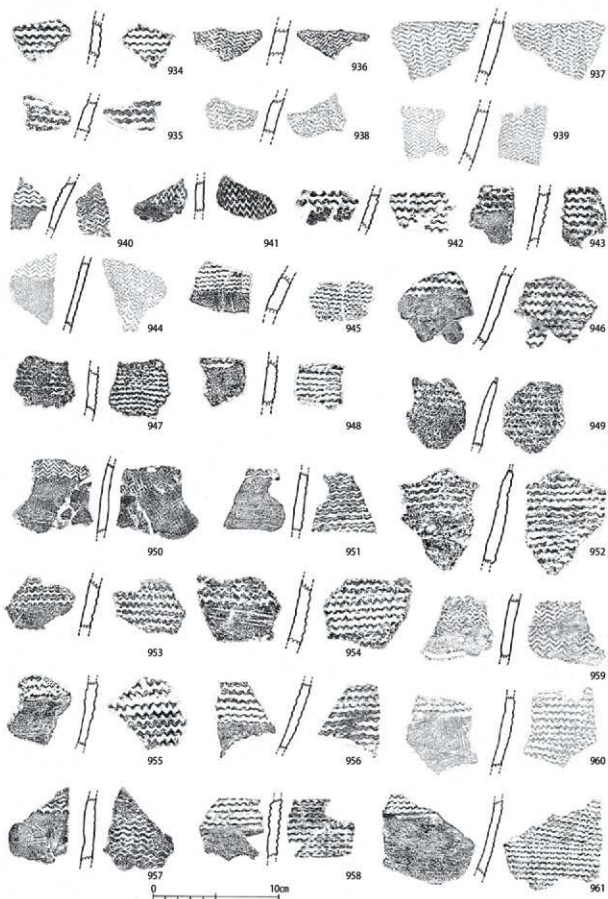
第372図 出土遺物実測図27-縄文時代早期-(14)



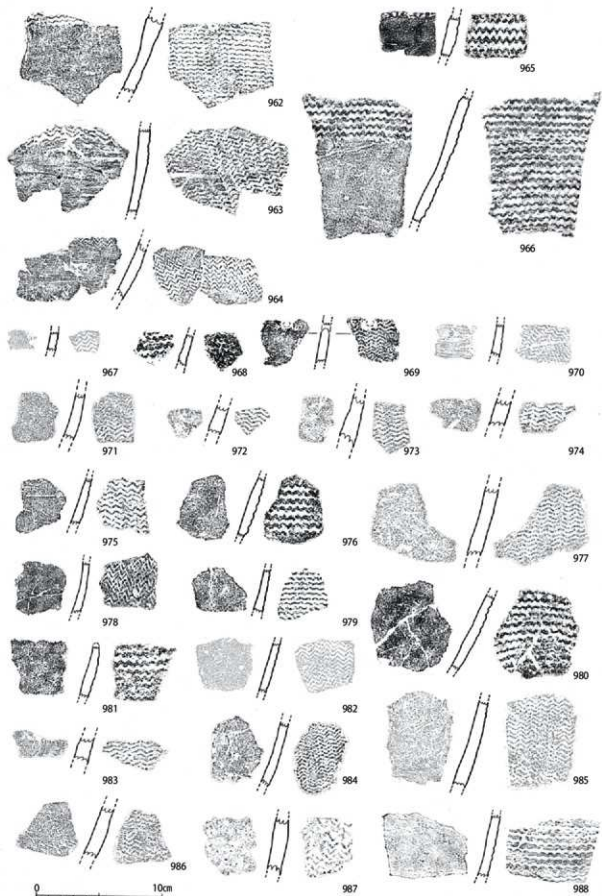
第373図 出土遺物実測図28-縄文時代早期-(15)



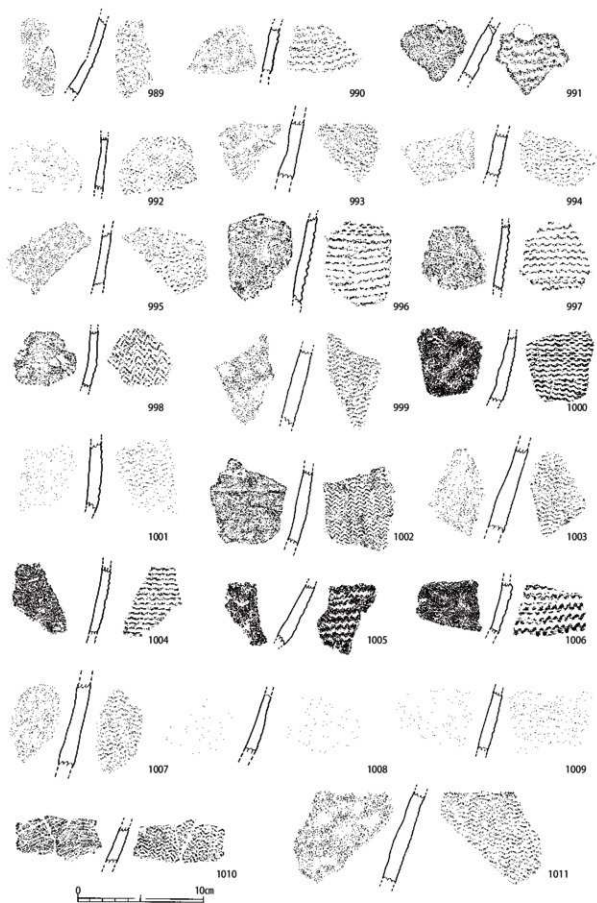
第374図 出土遺物実測図29-縄文時代早期-(16)



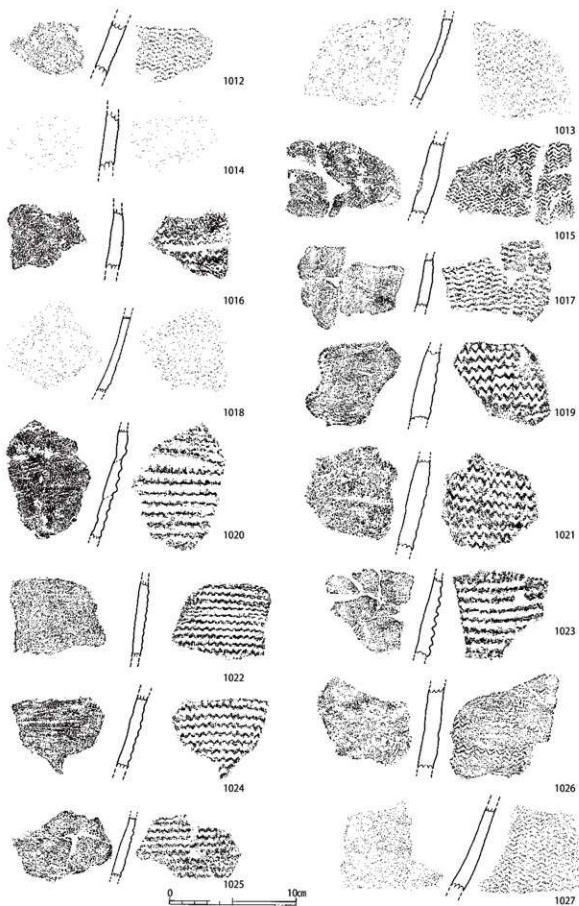
第375図 出土遺物実測図30-縄文時代早期-(17)



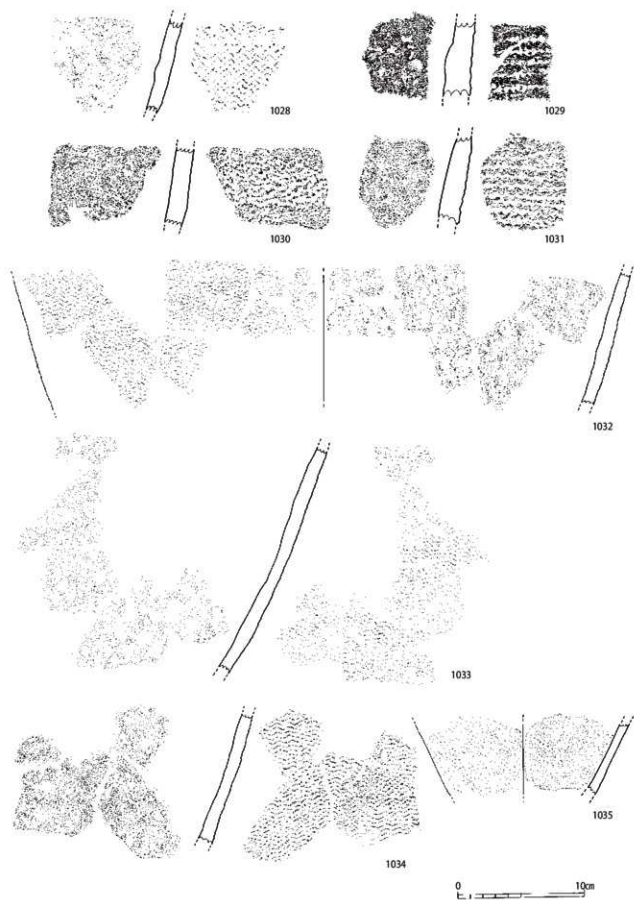
第376図 出土遺物実測図31-縄文時代早期-(18)



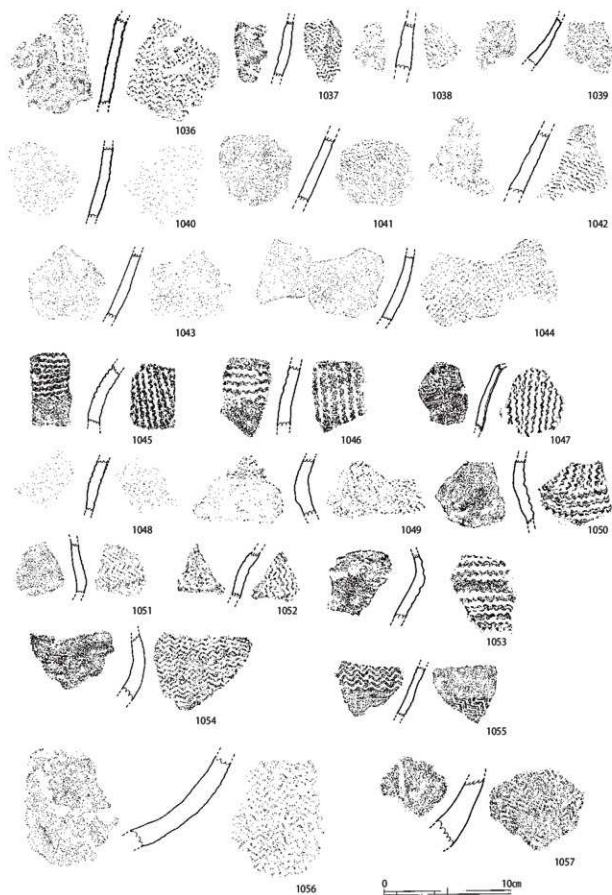
第377図 出土遺物実測図32-縄文時代早期-(19)



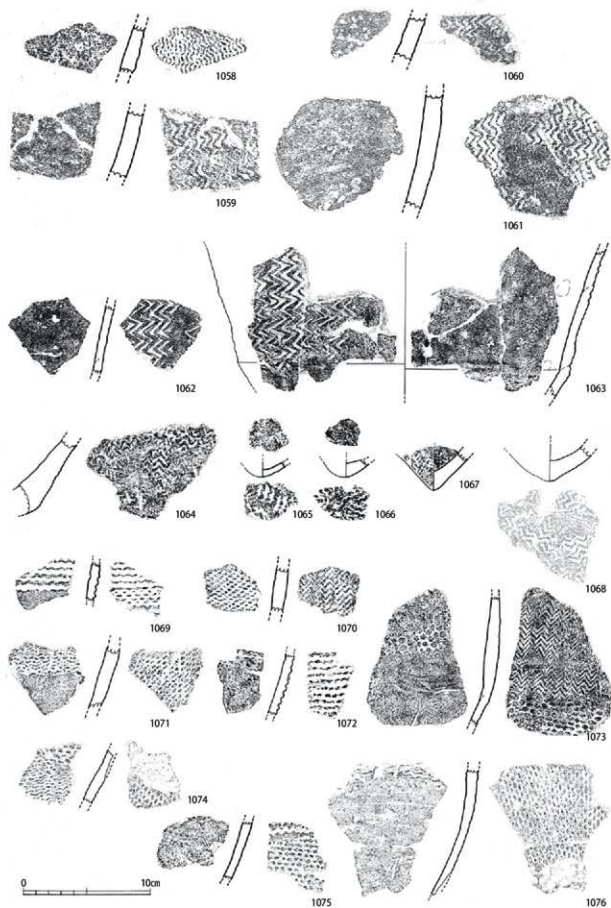
第378図 出土遺物実測図33-縄文時代早期-(20)



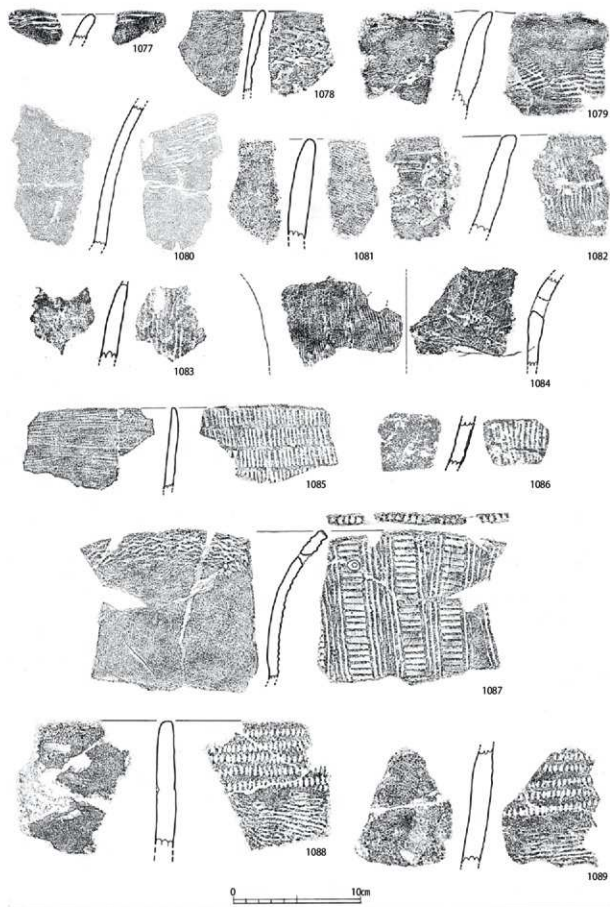
第379図 出土遺物実測図34-縄文時代早期-(21)



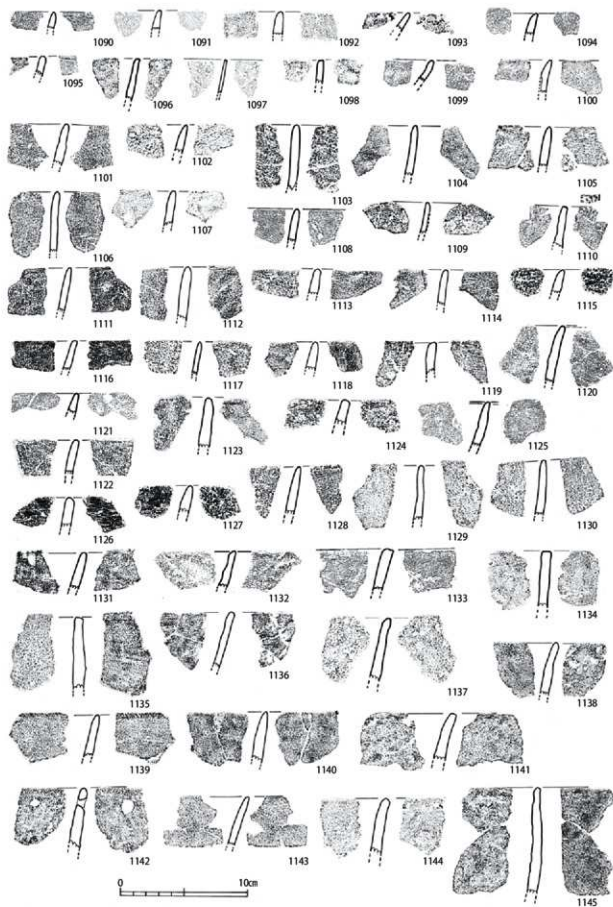
第380図 出土遺物実測図35-縄文時代早期-(22)



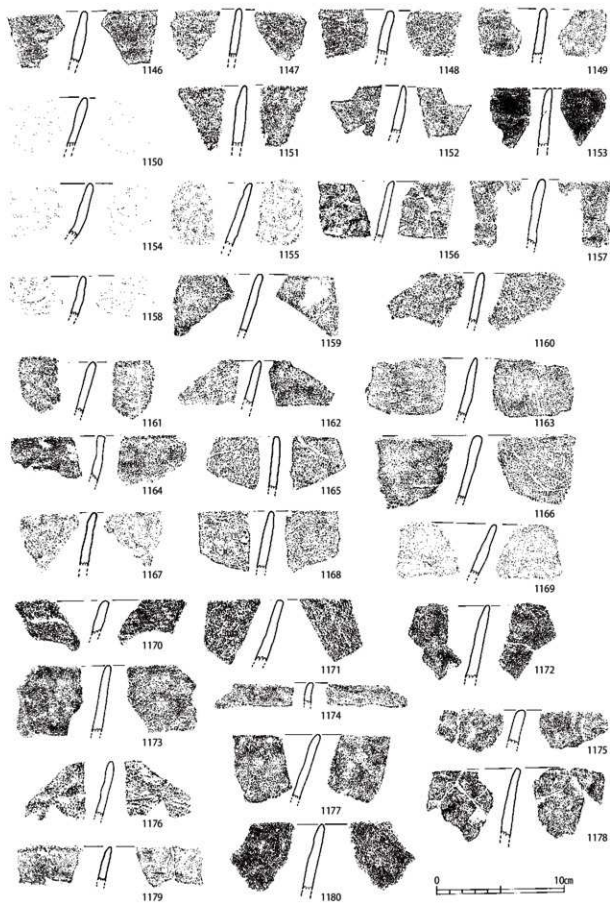
第381図 出土遺物実測図36-縄文時代早期-(23)



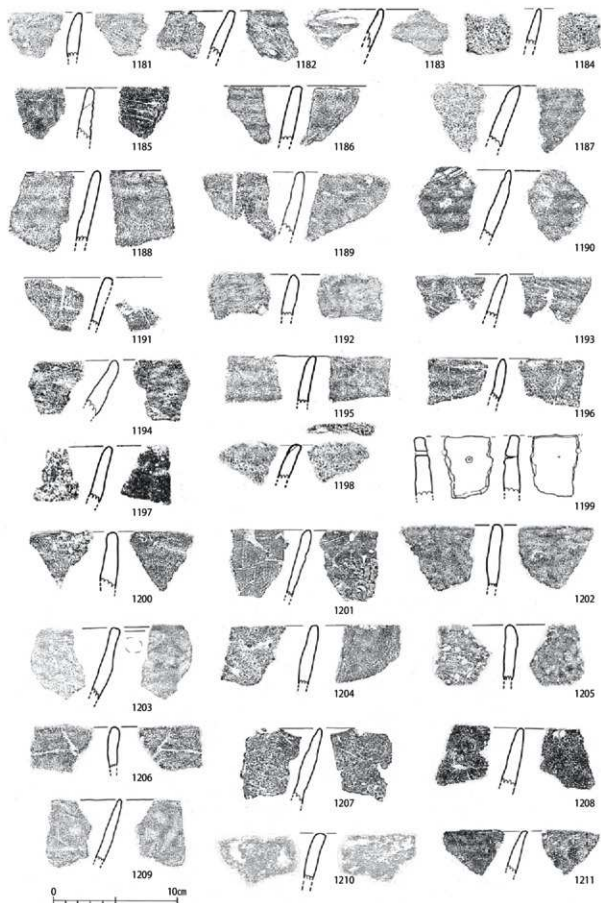
第382図 出土遺物実測図37-縄文時代早期-(24)



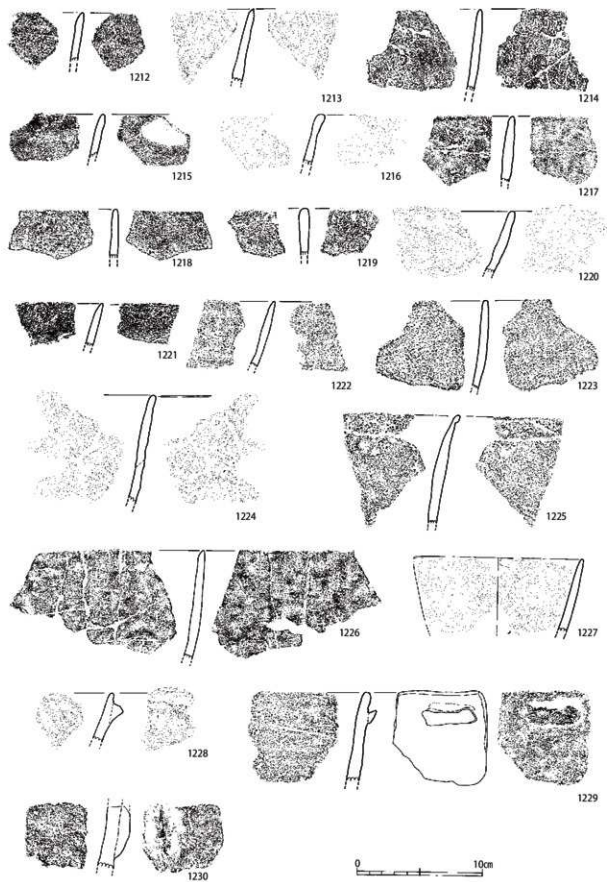
第383図 出土遺物実測図38-縄文時代早期-(25)



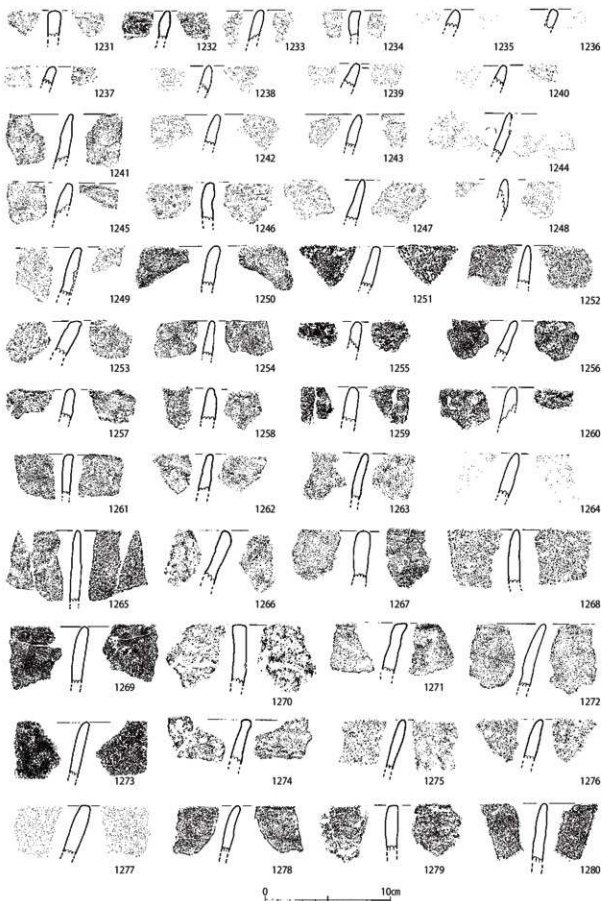
第384図 出土遺物実測図39-縄文時代早期-(26)



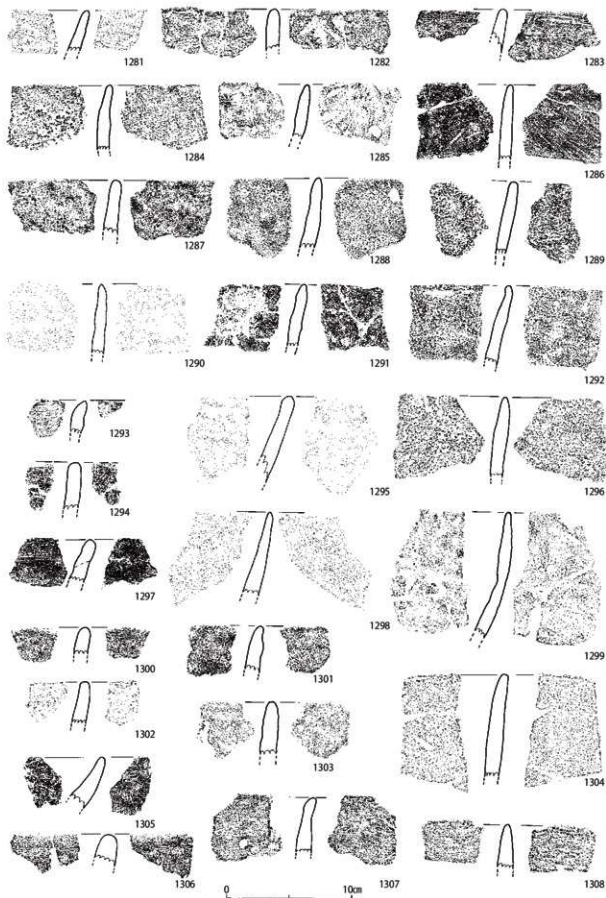
第385図 出土遺物実測図40-縄文時代早期-(27)



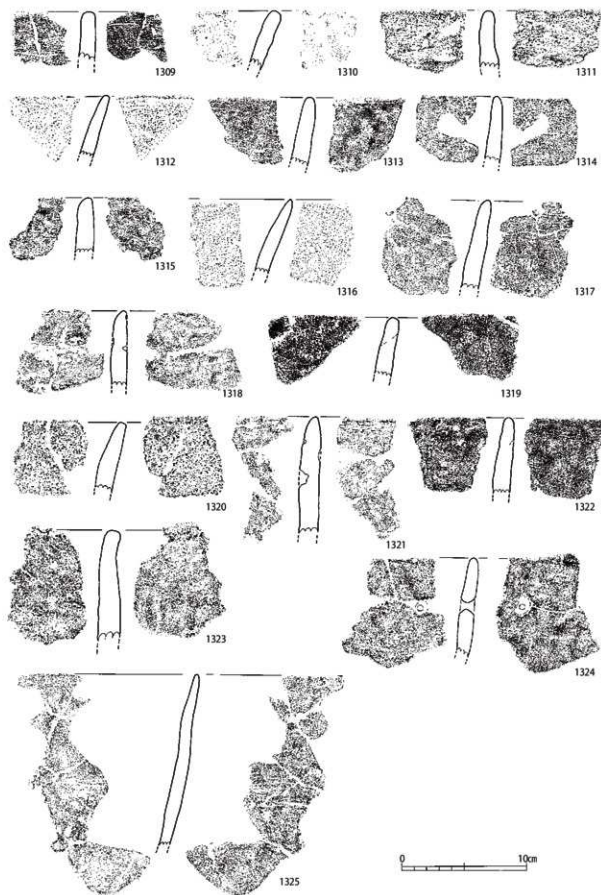
第386図 出土遺物実測図41-縄文時代早期-(28)



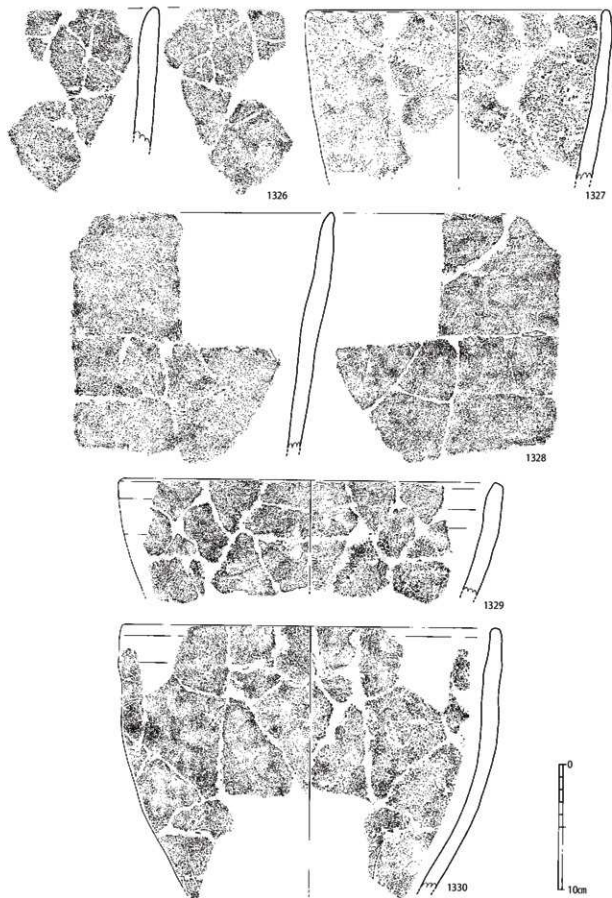
第387図 出土遺物実測図42-縄文時代早期-(29)



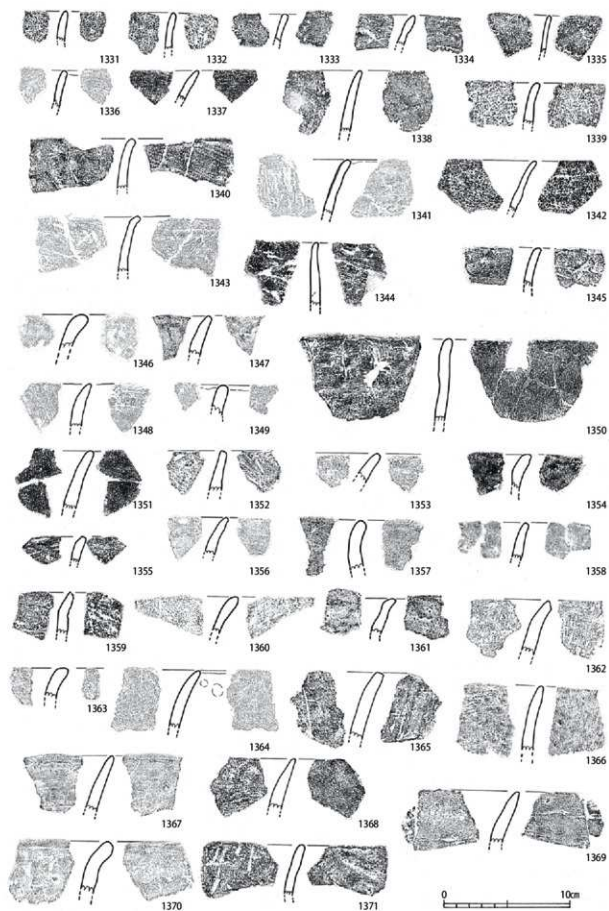
第388図 出土遺物実測図43-縄文時代早期-(30)



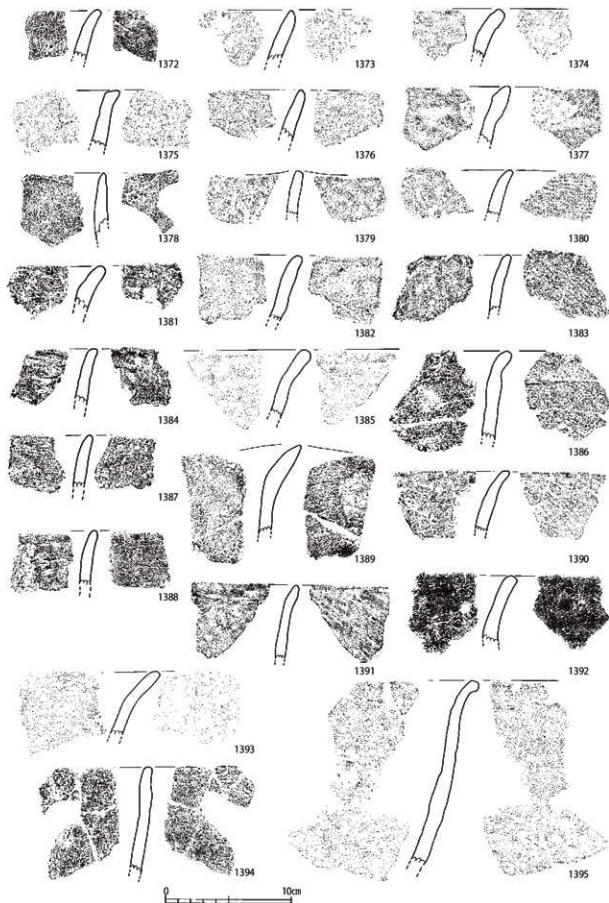
第389図 出土遺物実測図44-縄文時代早期-(31)



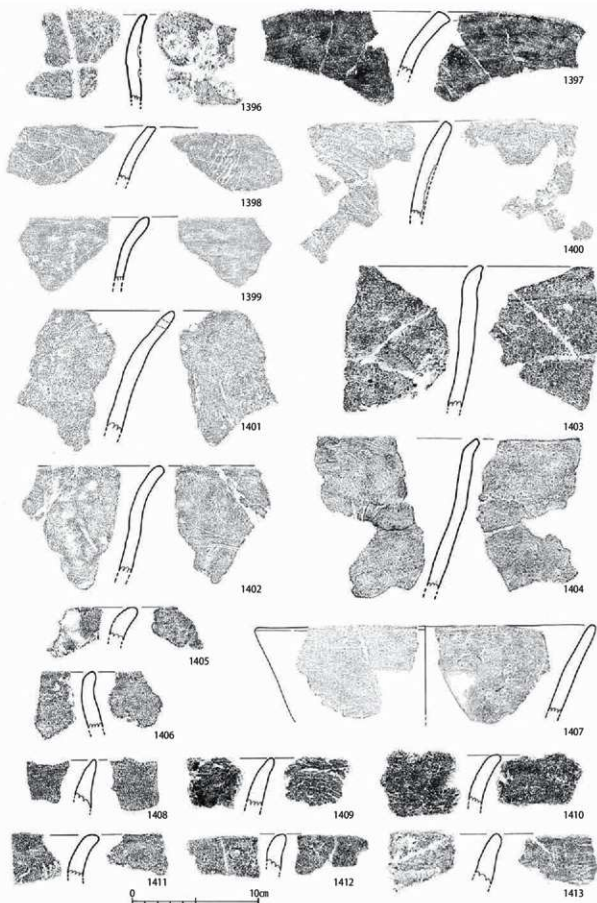
第390図 出土遺物実測図45-縄文時代早期-(32)



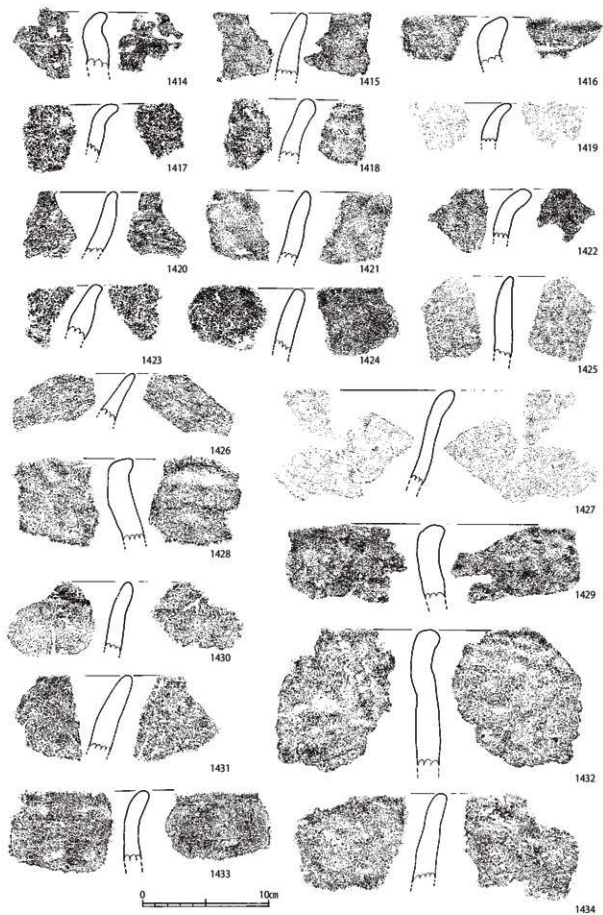
第391図 出土遺物実測図46-縄文時代早期-(33)



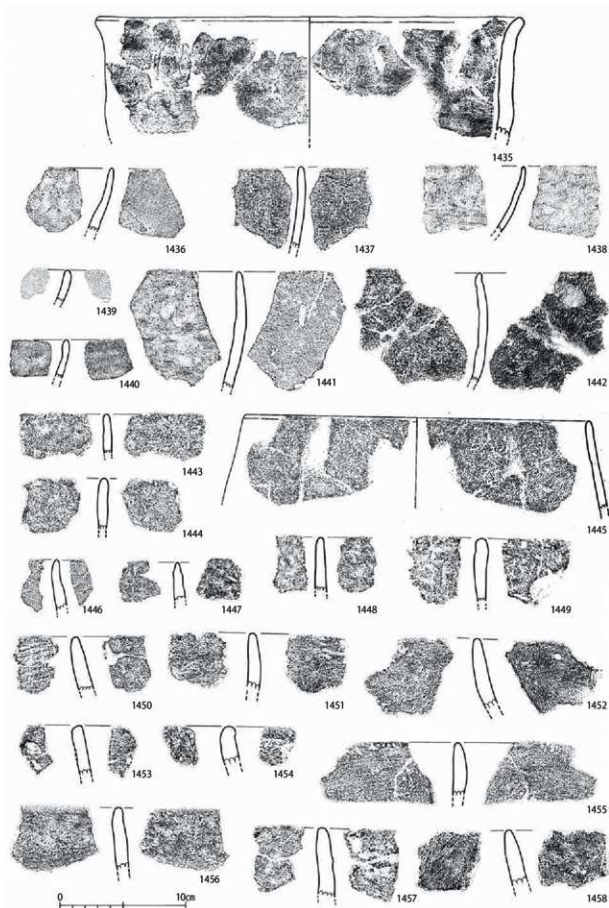
第392図 出土遺物実測図47-縄文時代早期-(34)



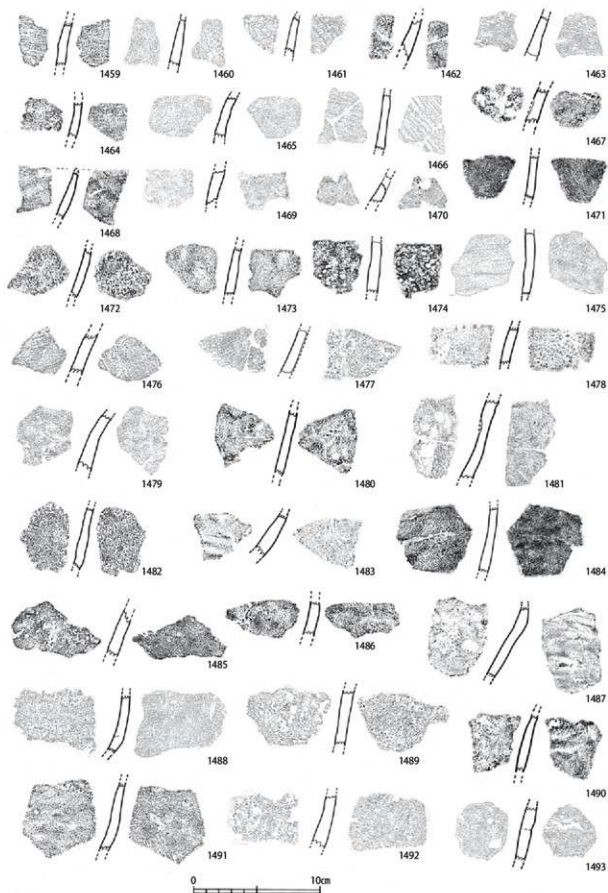
第393図 出土遺物実測図48-縄文時代早期-(35)



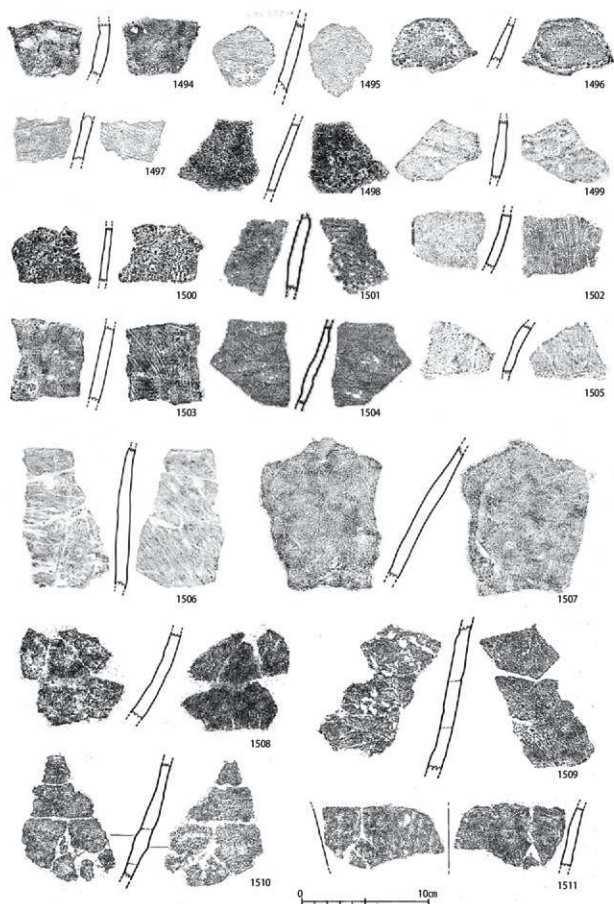
第394図 出土遺物実測図49-縄文時代早期-(36)



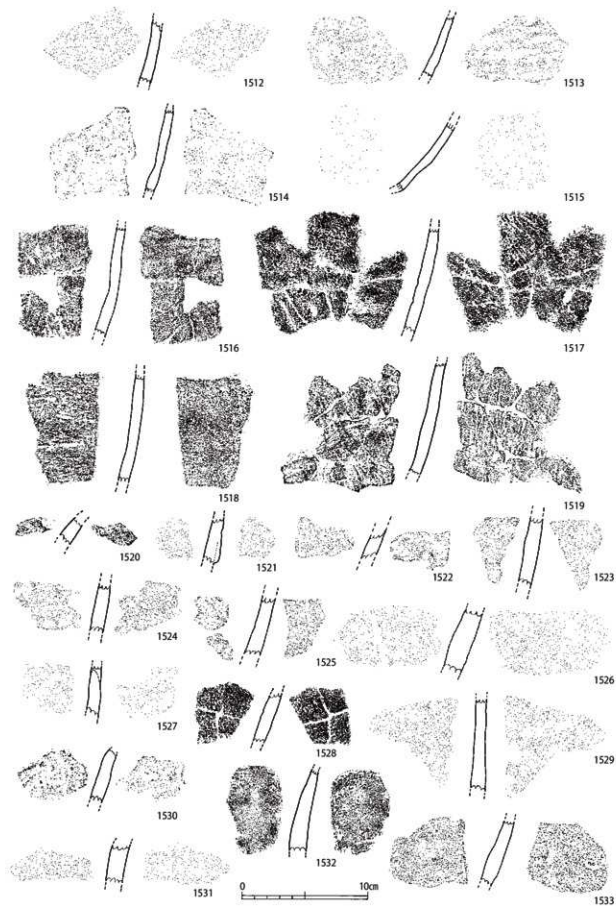
第395図 出土遺物実測図50-縄文時代早期-(37)



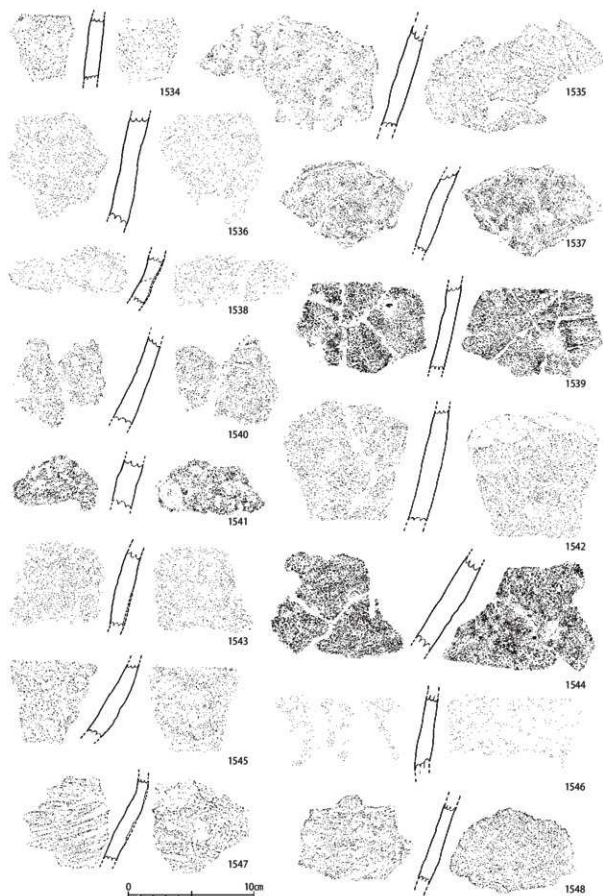
第396図 出土遺物実測図51-縄文時代早期-(38)



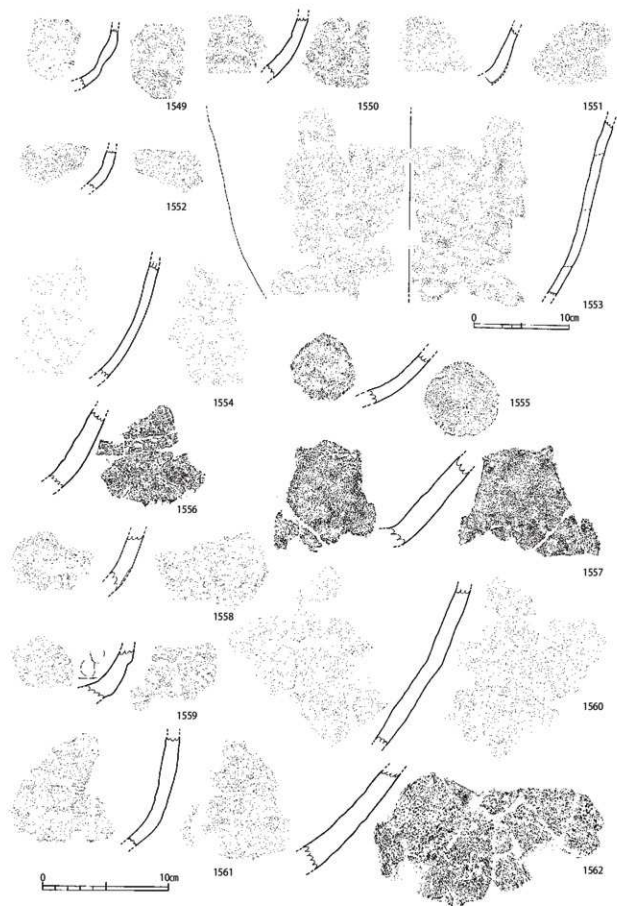
第397図 出土遺物実測図52-縄文時代早期-(39)



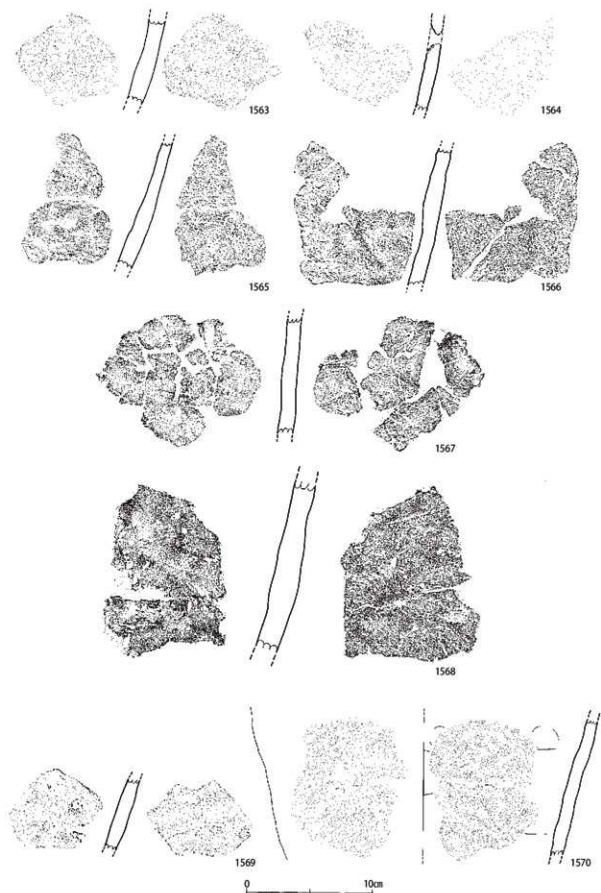
第398図 出土遺物実測図53-縄文時代早期-(40)



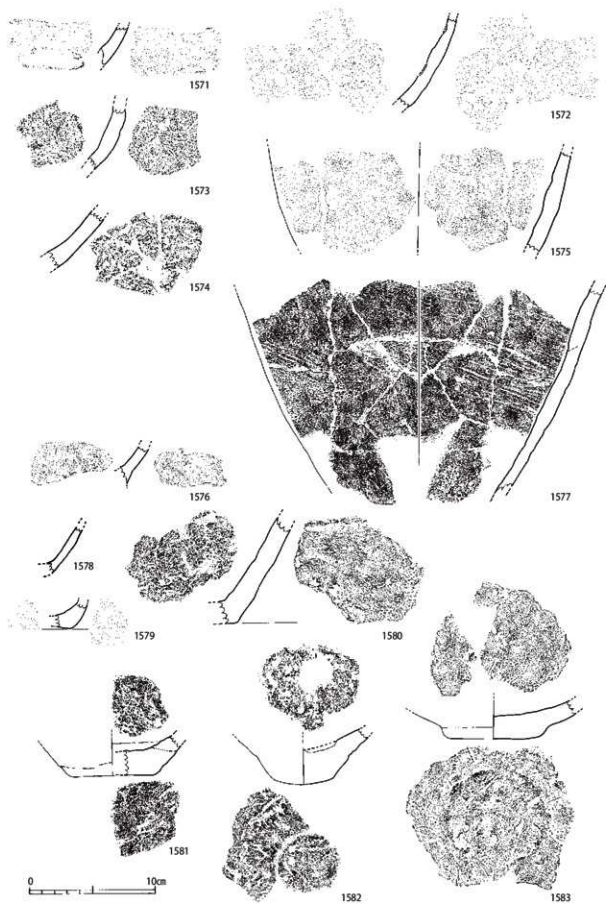
第399図 出土遺物実測図54-縄文時代早期-(41)



第400図 出土遺物実測図55-縄文時代早期-(42)



第401図 出土遺物実測図56-縄文時代早期-(43)



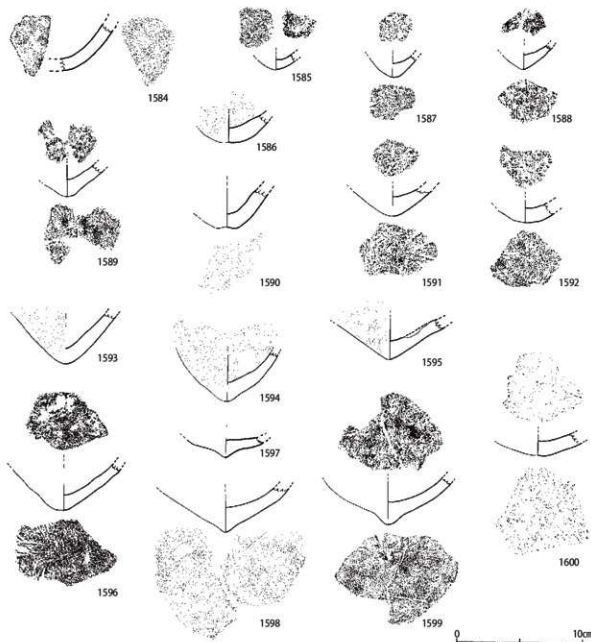
第402図 出土遺物実測図57-縄文時代早期-(44)

地方南部に分布する早期末の天神山式土器は、伊豆諸島ではアカホヤの直下から出土している（杉原・小田・丑野 1983）。そして天神山式土器より新しい下吉井式土器の新相は前期初頭の花積下層式土器と並行する（金子 2008）。したがってアカホヤ上位の轟3式土器（早期末）と下吉井式土器古相は並行関係にあり、轟4式が花積下層式と並行する前期初頭頃となる。

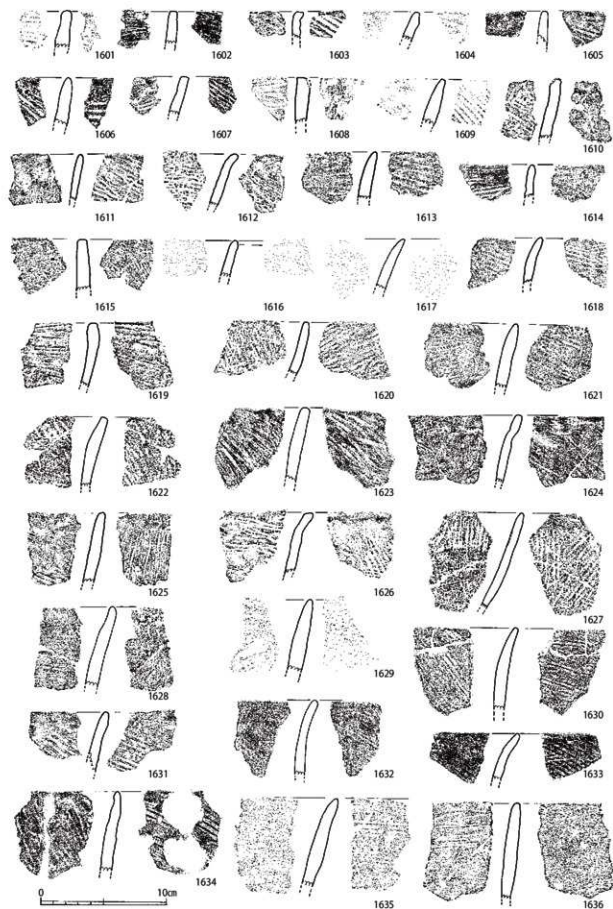
《参考文献》金子直行 2008「条痕文系土器」『総覧縄文土器』（株）アム・プロモーション 138-145

杉原重夫・小田静夫・丑野毅 1983「伊豆大島の鬼界-アカホヤ火山灰と縄文時代の遺跡」『考古学ジャーナル』24, 4-9

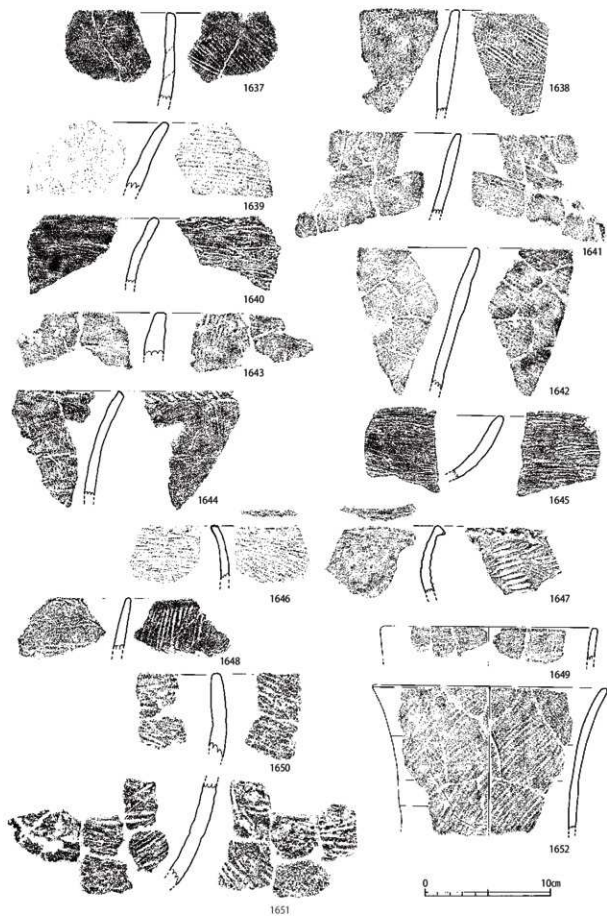
手向山式土器 胴部が鉢形もしくは碗形で胴部上位で屈曲し、ここから口頸部が大きく外反する土器で、口縁部の外面に縦方向の押型文、口縁部内面に横方向の押型文を施した例である（第370図 844・845、第381図 1062・1063、第382図 1087、※ 845・1062・1063は同一個体）。口縁部内面に施されるのは間延びした山形文で共通するが、外面側は大きく異なり、①口頸部の外面に縦方向に山形文の間隔を空けて施す例（892・893・1058～1063）と、②後頸部外面に平行沈線状押型文と梯子状押型文を組み合わせた原体で縦方向に同じ文様を隣接させながら施文した例である（1087）。この平行沈線梯子状押型文は中央に梯子状押型、その周囲に2から3条の平行沈線状押型を刻んだ原体であるが、典型的な手向山式土器ではなく、あるいはプロトタイプの土器かもしれない。なお、この土器はOF区第3a層で出土し、内面側からの焼成前穿孔がある。



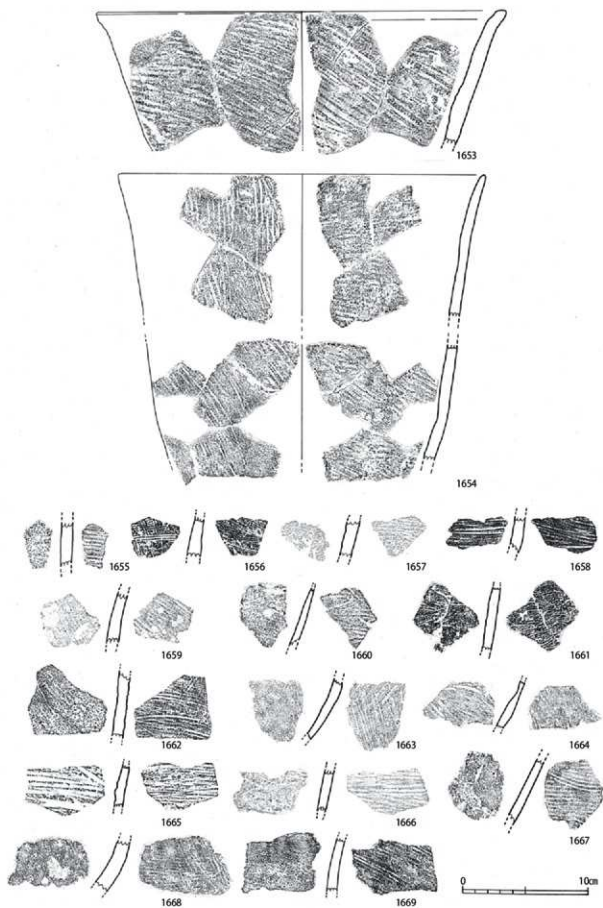
第403図 出土遺物実測図58-縄文時代早期-(45)



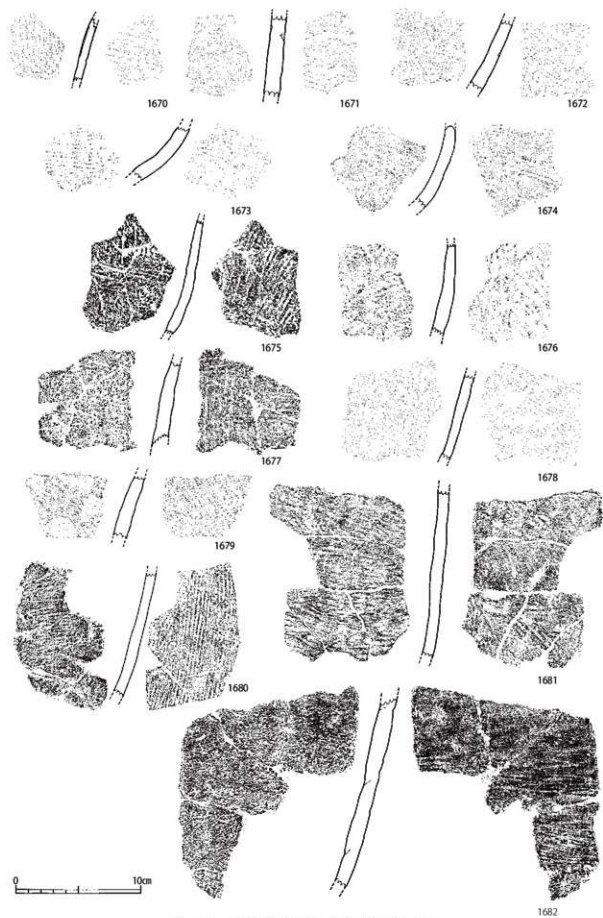
第404図 出土遺物実測図59-縄文時代早期-(46)



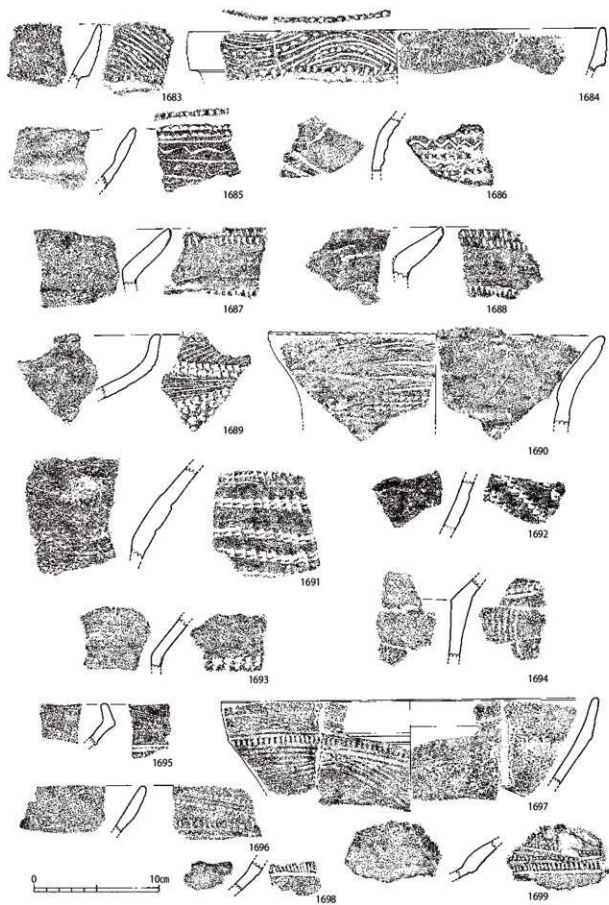
第405図 出土遺物実測図60-縄文時代早期-(47)



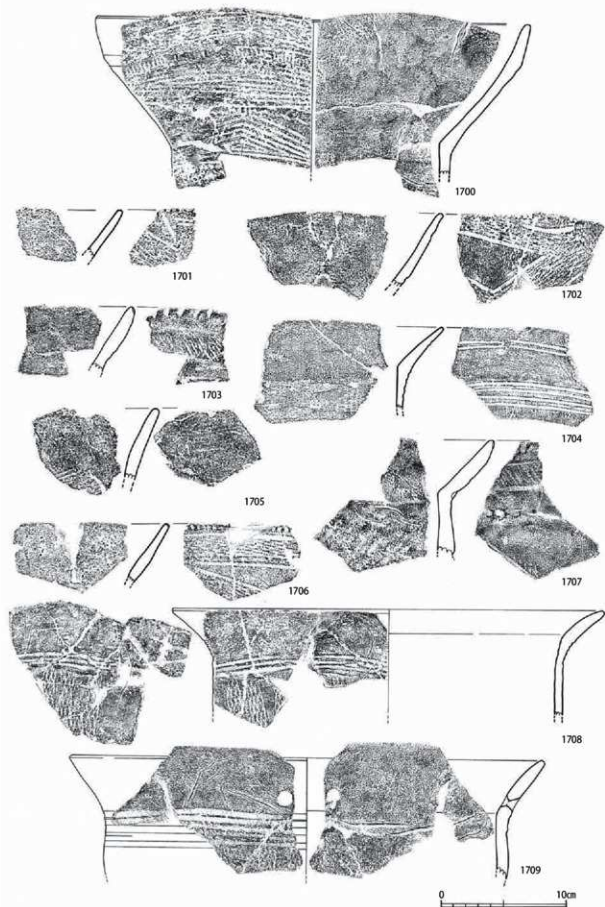
第406図 出土遺物実測図61-縄文時代早期-(48)



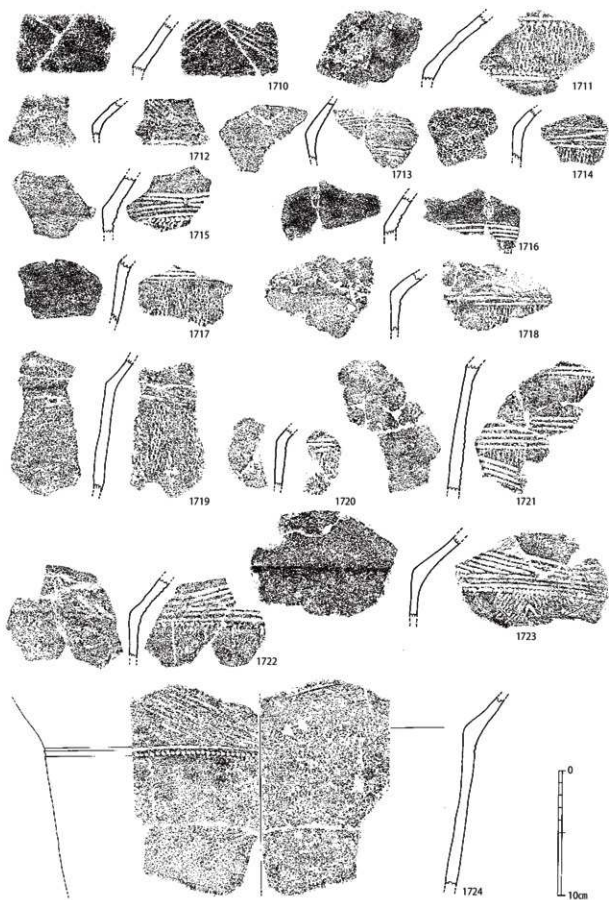
第407図 出土遺物実測図62-縄文時代早期-(49)



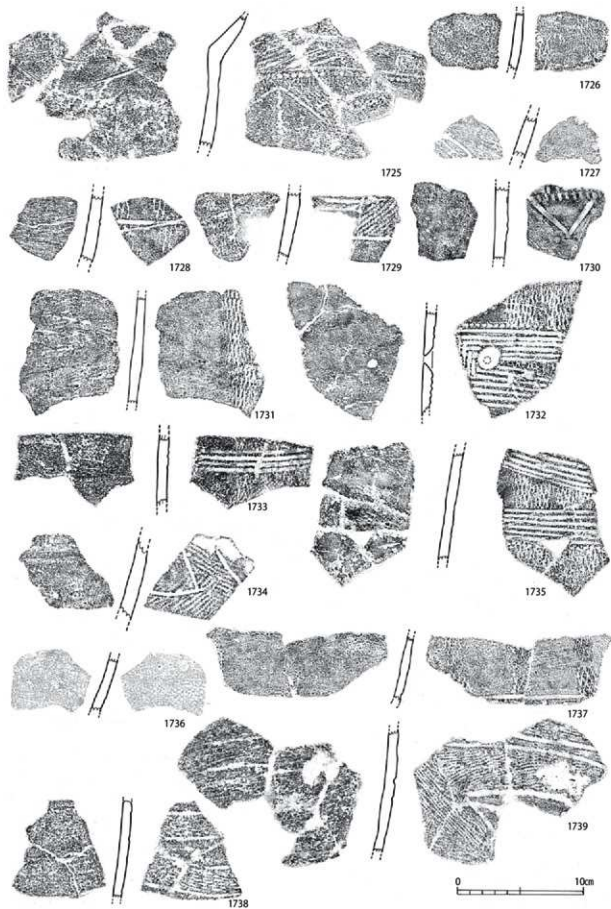
第408図 出土遺物実測図63-縄文時代早期-(50)



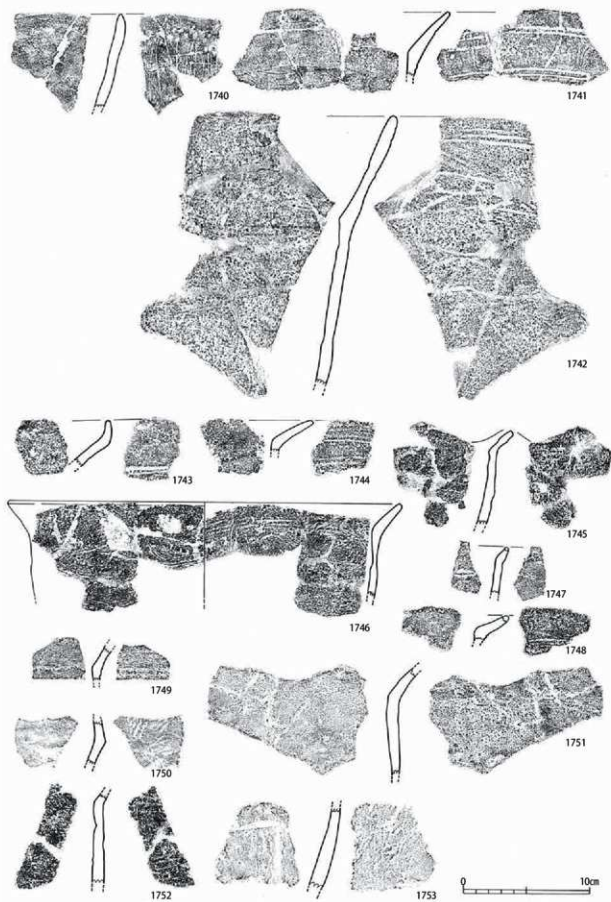
第409図 出土遺物実測図64-縄文時代早期-(51)



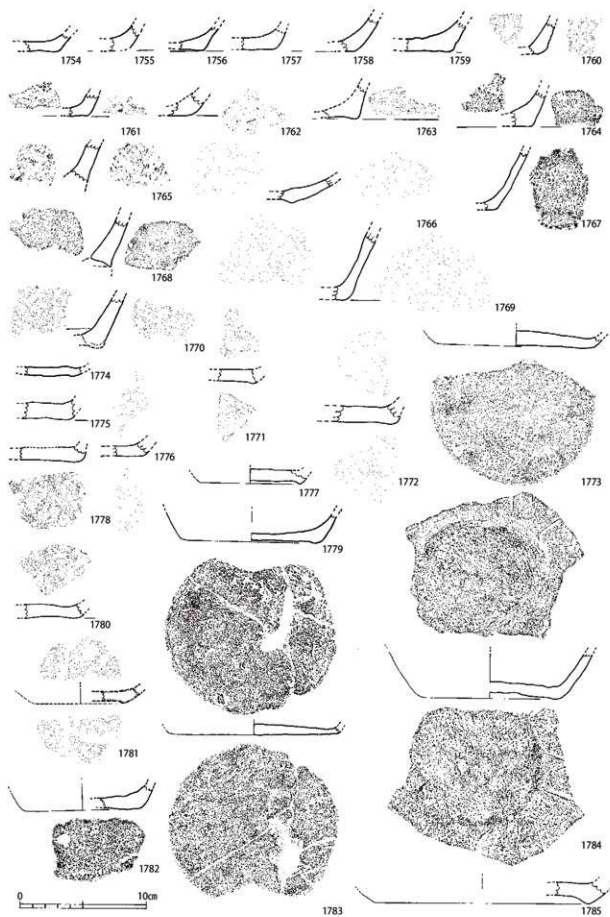
第410図 出土遺物実測図65-縄文時代早期-(52)



第411図 出土遺物実測図66-縄文時代早期-(53)



第412図 出土遺物実測図67-縄文時代早期-(54)



第413図 出土遺物実測図68-縄文時代草創期・早期-(55)

※縄文時代早期1767-1773-1777-1782-1784

平格式土器 平格式土器は、調査区の西端部付近に多く分布している。①胴部の最上部で屈曲し、頸部から口縁部が更に上方へ屈曲した例。口縁部が肥厚した文様帯の中に沈線を曲線状にいわ、間に列点を並べた例（第356図553、第408図1683～1686）。後者には口唇部に刻目がある。文様の特徴から平格式土器に相当する土器である（註）。

塞ノ神式土器 底部平底で、円筒状に立ち上がり、上部でく字状屈折する土器で、沈線や貝殻列点文を施す例（第408図1687～第412図1753）（註）。これらの土器は、調査区の西端部付近に多く分布している。①円筒状の胴部から頸部が斜めに外傾し、口縁部が屈折して立ち上がる例で、塞ノ神Ⅰ式土器中段階と思われる（1695・1697～1699、1700）。②口縁部と頸部の屈折が頸部側で僅かに細くなる程度で差がなくなるが、表面に刻目で表現した例がある（1696）。口頸部に数条の山形沈線文、胴部にも数条の平行沈線を引き、胴部の縦方向の区画に網目襷糸文を施した例があり（1710～1724・1732・1735・1735）、塞ノ神Ⅰ式土器新段階に相当する。③頸部と口縁部の境界がなくなり、口唇部の刻目と口縁部の列点は棒状工具で、頸部の列点は貝殻刺突を行う例で、塞ノ神Ⅱ式土器新段階に相当する（1687・1688・1690）。④口縁部が無紋で、胴部の区画文が網目状襷糸文である。口頸部の傾きが緩くなっているもので（1708・1709）、これも塞ノ神Ⅱ式土器新段階に相当する。⑤胴部の区画が幾何的な鍵状屈折した中に襷糸文を施した例で（1725～1731・1734～1739）、塞ノ神Ⅱ式土器中段階に相当する。⑥口頸部に貝殻列点文を数条施した例は（1691）、塞ノ神Ⅲ式土器中段階に相当する。⑦胴部と口頸部の屈折が緩くなり、外面に簡単な沈線が直線的・曲線的に施されるもので（1740～1752）、塞ノ神Ⅲ式土器新段階に相当する。

底部破片 やや上げ底の平底形態の底部破片であるが（第413図1767・1773・1777・1779・1782～1785）、手向山式土器・平格式土器の可能性もある。

(9) 縄文時代前期

轟式土器 九州北半の轟4式土器は（註）、外反や屈折もない単純な円筒形に近い深鉢である。隆起線は細く、上下を指によってナデつけるためミミズ腫れ状にはならない（第414図1786～1795・1798～1803・1812・1816・1817）。九州北半部の轟5式土器は、隆起線の数が少ない場合や口縁部と胴部に隆起線をもつものなどがある（第414図1796・1797・1801・1804・1805）。

羽島下層3式土器 「3」の字状刺突文ではない半截竹管の刺突を数段にわたって施した例（第415図1819～1825）がある。また直線的で短い刺突痕のある例（第415図1826～1828）は、暫定的に羽島下層3式土器としておき、これらの土器は西唐津海底遺跡から出土した土器にも類似していることを付け加えておきたい。

その他 胴部に一条の隆線を貼り付け、その上にやや直線的で細い爪形状刺突を施した例は（第414図1814・1815・1818）、羽島下層3式土器か。

註 平格式土器・塞ノ神式土器・轟式土器の編年については、下記の論文を参考とした

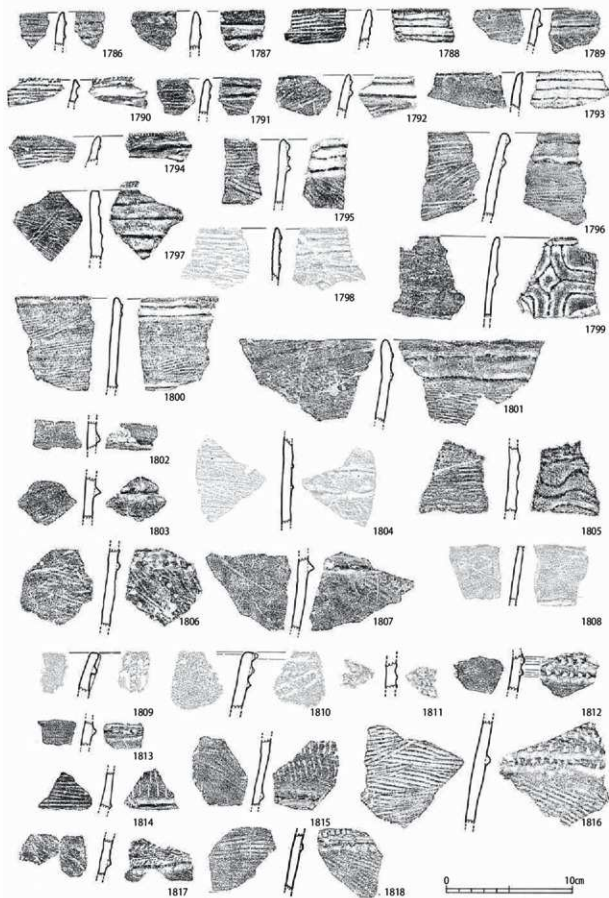
高橋信武 1989「轟式土器再考」『考古学雑誌』第75巻 第1号、日本考古学会、1-39

高橋信武 1997「平格式土器と塞ノ神式土器の編年」『先史学・考古学論究』Ⅱ、熊本大学、1-39

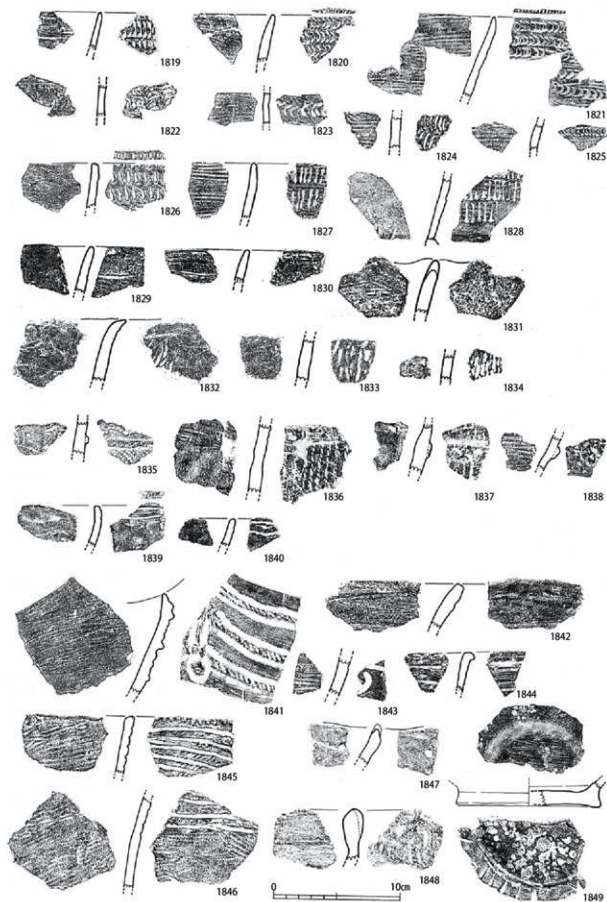
(10) 縄文時代後期

福岡K2式土器 波状口縁部外面の文様体に、二条で一単位の沈線が三単位あり、沈線間に磨りけし縄文が残る例で、波頂部の下に円形の沈線を施している（第415図1841）。

その他 条痕地に口縁部外面に5条前後の沈線をめぐらした例や（第415図1845・1846）、縄文時代後期の土器と思われる小破片がある（第415図1842～1844・1847～1849）。



第414図 出土遺物実測図69-縄文時代草創期・前期- ※縄文時代草創期1809-1811



第415図 出土遺物実測図70-縄文時代前期・中期・後期-

(11) 縄文時代の石器

ここでは森の木遺跡の遺構内ではなく、第Ⅱ層・第Ⅲ層(Ⅲa・Ⅲb層を含む)出土の石器類として取り上げたものを報告する。しかし第Ⅳ層上面で検出された遺構の上部堆積層として第Ⅲ層が堆積しており、本来遺構に帰属する遺物もある。遺物のうち、隆帯文系土器群については第4章で分布図として図示した。石器類については、包含層中における縄文時代各期の時期区分が不可能なので、区分は行ってないが、第Ⅱ層・第Ⅲ層の遺物分布図を提示している。第Ⅱ層は、アカホヤ及びその再堆積層であり、その直上域の黒色土を含んでおり、調査区の全域にわたって面的な取り上げ区分ができなかったことが実情である。第Ⅱ層は縄文時代前期の縄文土器や縄文時代後期の遺物を包含しているが、擾乱や自然的な要因で下層に主要包含層域のある縄文時代早期の土器も多く出土している。したがって、第Ⅱ層内の石器類には各期のものが含まれていることを示している。なお、報告・図示した石器類については巻末に観察表を掲載している。

まず土器の主要分布域について概観し、石器類の時期の参考にしておく。縄文系の土器は量が少ないが、調査区の東部を中心に広範囲に広がる。手向山式土器・平袴式土器・塞ノ神式土器は、調査区の3列以西に分布の中心がある。押型文系の土器は、調査区の5列以西に分布の中心があるが、全域に広がる。無文土器は、調査区の全域に広がるものの、遺構から出土するものは縄文時代草創期後半の南部堅穴建物群として説明してきた5E区・6E区・7E区・8E区・9E区・6F区・7F区・8F区・9F区で多い。縄文時代草創期中頃の隆帯文系土器は8C区・9B区・9C区・10B区・10C区・8D区・9D区・10D区・8E区・9E区・10E区に集中し、その東側の11D区・11E区・12D区・12E区で少量出土している。

石鏃 袂りのある例 (第416図1852~1886、第417図1887~1906・1911・1916・1917、第420図1961・1962、第423図2002、第430図2045)

袂りの奥部の縁部が半円形をした例 ①長さより幅広く袂りのある例で、脚部の端部が水平もしくはやや斜行する例 (第416図1852・1853・1854) いずれも0D区のⅢ層から出土している。②脚部の袂りが深く逆U字形で端部が丸い例で (第416図1860・1864・1865・1866・1870・1871・1873・1877、第417図1893・1897・1899)、このタイプは、縄文時代早期押型文系土器段階に多い銀形石鏃と呼ばれている。③脚部の袂りが浅く逆U字形で端部が丸い例 (第416図1875・1876・1879)、④脚部の袂りが深く端部が内側に内傾する例 (第416図1858・1863・1867・1868・1878、第417図1891・1894) は、縄文時代早期押型文系土器段階に多い銀形石鏃と呼ばれている。⑤脚部の袂りが深く端部が外側に外傾する例 (第416図1855・1856・1859・1872)、⑥脚部袂りが深い鋭角の二等辺三角形で脚部が尖る例 (第416図1857)、⑦脚部の袂りは浅く、鈍角もしくは鋭角な二等辺三角形の例 (第416図1883・1884) がある。⑧直線的な外縁で、脚部袂りが鋭角な例 (第417図1901~1904) は、縄文時代前期以降に多い。⑨脚部の袂りが弧状の例 (第417図1908・1910・1911・1914・1916、第425図1920~1928)

袂りのない例 (第417図1907・1909・1912・1913・1918、第418図1920~1930)

袂りのない例に分類した石鏃のうち9C区と10C区から出土した例は (第417図1907・1909)、これらはこのあたりに特に多い隆帯文系土器段階に帰属する可能性がある。同様に④に分類した袂りの浅い例の石鏃は (第417図1908)、9F区から出土しており、この辺りに多い縄文時代草創期後半の堅穴建物などの時期に帰属する可能性がある。このほか、最大幅が中央やや下に位置し、その最大幅の2.7倍の長さを有する平基の石鏃がある (第418図1929)。これは長崎県あたりで「大久保型石鏃」と呼ばれているもので、塞ノ神式土器もしくは押型文系土器に伴うとされていたものようだ (鎌田1999)。

《参考文献》鎌田洋昭1999「粘地遺跡における粘地型石鏃について - 出自と展開についての展望 -」『第6回 企画展示ドキドキ縄文さがり展』図録 指宿市教育委員会 53-65

石鏃の未成品 (第418図1933~1949、第419図1950~1952・1954・1956、第422図1986~1991、第430図2045~2048・2054)

尖頭状石器 (第419図1953・1955) 石鏃の未成品とも考えたが、石鏃の完成規模からすると2倍もしくは3倍程度あることと、厚さがかなりあるので石鏃の未成品とは考えなかった。暫定的に尖頭状石器と考えておく。

トロトロ石器 上端が半円形で、下端部は石鏃の脚部のような「し」の字状突起がある。石材は、この種の石器に特徴的な青黒い縞模様と白もしくは半透明な縞模様のあるチャートを用いており、縞模様が軸軸に直交するように製作されている場合が多いものである (第420図1957~1959)。トロトロ石器は、石の下に集中する状況で出土することもあって祭祀性の強い石器として知られている。

石錘 端部を尖らせた石器で、穿孔具(工具)と考えられる(第420図1960・1963、第422図1992)。大型品は、あるいは旧石器時代後期の角錐状石器とも考えたが、この時期の類例が本遺跡では出土していないことと、典型的な例からするとやや変形していることから石錘と考えた(第420図1963)。

スクレイパー ①円盤形で、両面に求心的な剝離痕が観察され(第420図1964)、端部が髪状に湾曲している。②縦方向に長い例(第420図1965、第421図1974・1975・1979、第422図1981・1994・2001)。このうち左右の縁部に刃部の加工痕があり、下端で収束する例(1965)、右縁と刃部加工のある左縁が下端で収束する例がある(1981・1994)。③サム・スクレイパーに分類される例(第422図1995・1997、第431図2078)。④片側の縁部に直線的な刃部加工痕のある例(第346図433、第430図2057、第431図2084)。⑤鋸歯縁状の加工がある例(第428図2040)。⑥幅広の半円形のエンド・スクレイパー:縦横が11.5cm×12.8の大きさを有する。加工は表面側に半円状に施す(第433図2099)。⑦縦に長く、平面形が下膨れしたような形のエンド・スクレイパーである(第433図2103)。⑧その他、小型のスクレイパー類もある(第423図2007・2013、第430図2050・2064・2065・2067、第433図2102)。

楔形石器 ①上下両端からの剝離痕が観察される(第421図1976、第422図1985・1993、第430図2060・2061、第431図2075・2076・2077、第432図2088)。②石斧転用の楔形石器(2088)。楔形石器は、フランス語のピーエス・エスキーエ(piece esquille)からきた用語で、上下両端方向から延びる両面調整状の剝離痕が存在することに特徴がある。縄文時代の各期に観察されるが、縄文時代早期に特に多い傾向がある。

石匙 ①横形の石匙(第420図1966・1967、第422図2000):横形の石匙は、握み部が横にずれる例と(1967・2000)、中央に位置する例がある(1966)。②縦形の石匙(第420図1968・1969):縦形の石匙は、幅広の握み部を有する例(1968)と幅狭い握み部の例がある(1969)。この二例と横型の一例は(2000)、第Ⅱ層から出土しており、縄文時代前期以降の可能性がある。

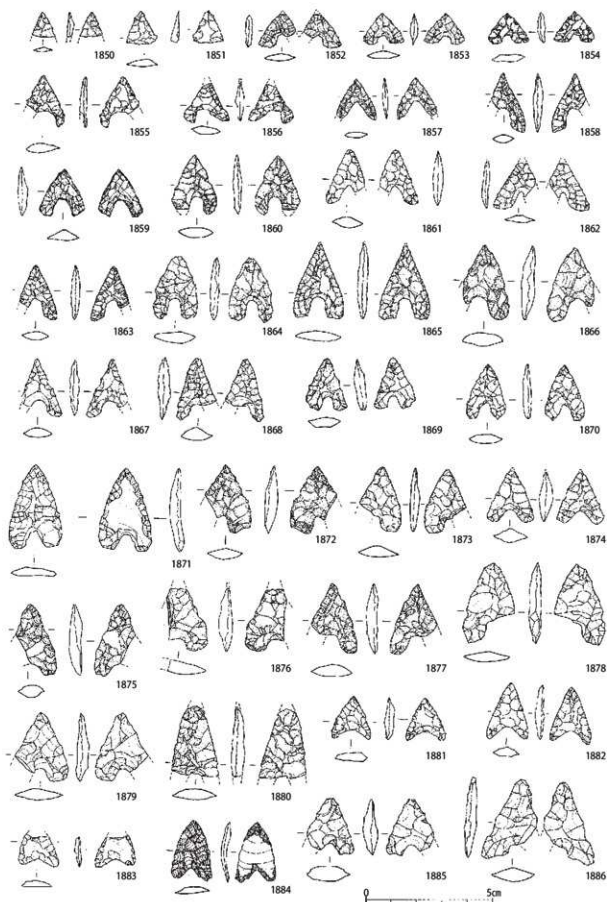
ヘラ状石器 下端部が幅広で、上端部がややすばまる細長い形徳の石器で、表裏両面を調整剝離によって整え、下端部を刃部としている(第346図446、第417図1919)。表面採集品であるが、縄文時代草創期の土器が多い第Ⅳ次調査区で出土している。ヘラ状石器は、愛媛県上黒岩遺跡9層など近畿から中部地方における縄文時代草創期前半の遺跡で特徴的に出土する。

石斧 ①単純な剝離痕であり、扁平で、平面形がダルマ状の形をした例で、石斧の未成品であろう(第432図2094・2095)。前者は、廃土から出土で、後者は0E区の第Ⅲa層から出土したので、向山式土器・塞ノ神式土器・平格式土器など縄文時代早期後半頃の石斧である。②扁平で短冊形をした石斧で、帰属年代が縄文時代後期の可能性がある(第433図2096・2100:表面採集資料)。③細型の短冊状をした扁平な石斧で、第Ⅱ層から出土しているため、縄文時代前期以降の可能性はある。④扁平で短冊形をした石斧:幅広の剝離痕(ボジ面)を裏面側に有しており(第433図2101)、0E区Ⅲa層S045集石から出土しており(第126図)、縄文時代早期後半頃の塞ノ神式土器段階頃と考えられる。⑤胴部から基部側が破損しているが、平面形は下膨れしたような形徳で、刃部が半円形をしている(第433図2104)。刃部側からみると、横断面観が山形・甲高であり、古相のものと考えられる。⑥幅広剥片の長軸方向の端部を研磨した小型の局部磨製石斧である(第432図2087)。剥片をそのまま研磨したとみられ、整形をした剝離痕はない。その他、石斧の破損品がある(第437図2128)。

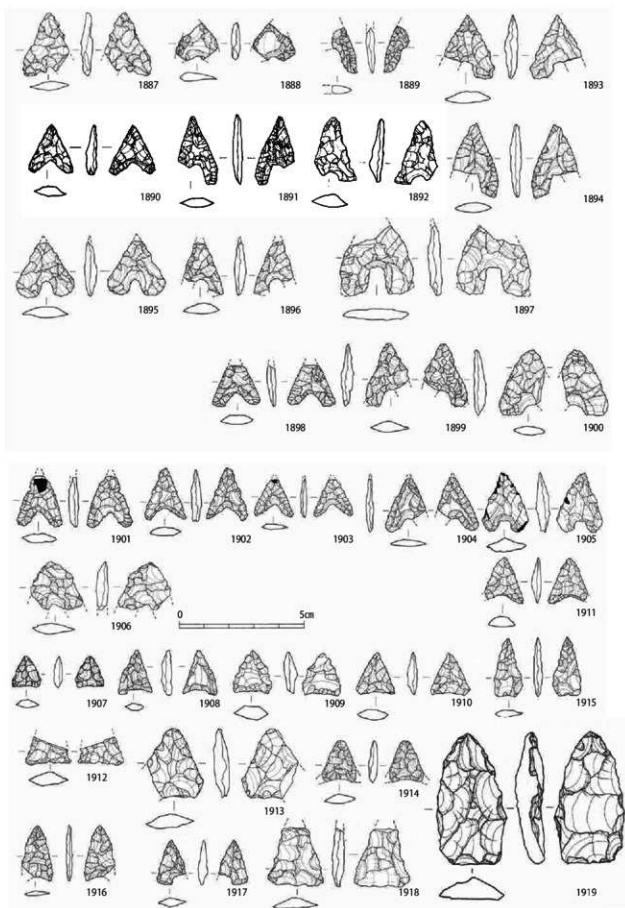
環状石斧 本例は、集石45の付近から出土したので、平格式・手向山式・塞ノ神式土器の段階であろう(第476図2431)。

石錘 長さ5cm・幅4cm程度の石錘が5点見ついている(第475図2411～2415)。一例は第Ⅱ層からの出土で、縄文時代前期以降に帰属する可能性がある(2411)。なお、加工技術は、切目石錘が1点で(2415)、他は打ち欠き石錘である。いずれも小型の石錘で、隣接する大越川・壱田川での河川漁に用いたのだろう。

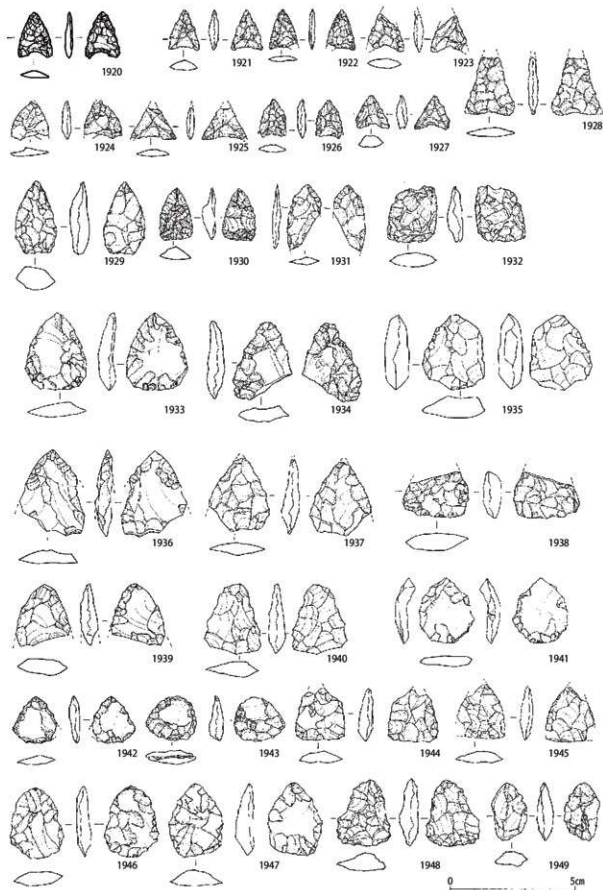
礫器 礫や礫面を多く遺した大型剥片などを素材とし、一端もしくは複数の端部を敲打によって整形した大型石器である(第434図2105～第436図2115、第460図、2320、第465図2361、第467図2365、第468図2378)。素材が様々であり、製作された礫器に形態上の規則性はほぼない。両側面に面的な調整を加えた例がある(2115)、これは石斧の未成品である可能性もある(2115)。これらの礫器は、大分県内の縄文時代早期遺跡において、普遍的な石器であり、大分市一方平1遺跡・同市古城山遺跡・同市黒岩遺跡・日出町早水遺跡・同町エゴノ口遺跡・佐伯市佐伯門前遺跡・同市井ノ上遺跡等、枚挙に暇がない。かつて前期旧石器に関する丹生遺跡などで大量の礫器が出土したことがあるが、今日では斧形石器を除く礫器類は縄文時代早期のものと考えられる。



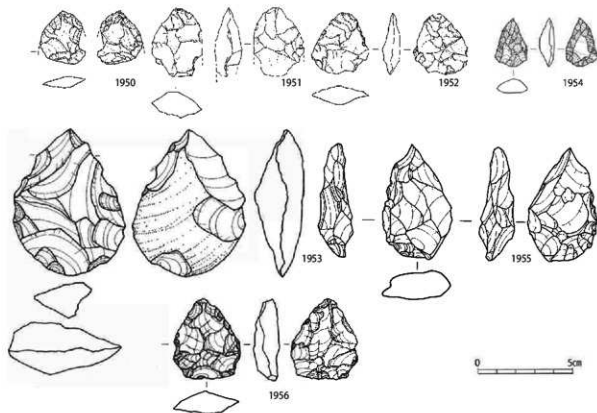
第416図 出土遺物実測図71-縄文時代の石器-(1)



第417図 出土遺物実測図72-縄文時代の石器-(2)



第418図 出土遺物実測図73-縄文時代の石器-(3)



第419図 出土遺物実測図74-縄文時代の石器-(4)

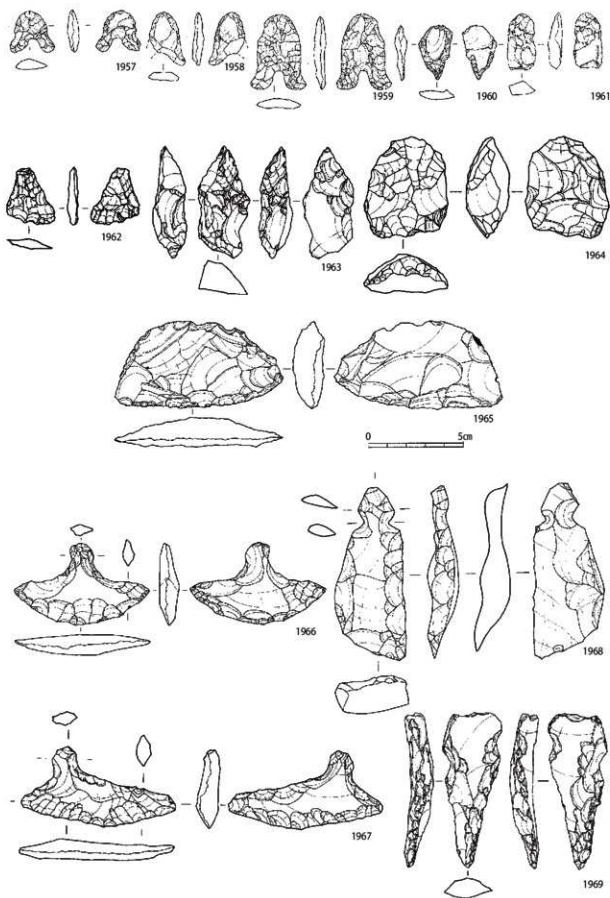
砥石 棒状の結晶変岩礫を用いた砥石で、端部を片刀状に加工しているほか、体部の長軸に対して斜行する線条痕が各面に残っている（第12図6）。その形状と線条痕の付き方から受身としての工具ではなく、むしろ鎌（やすり）のような使い方をした工具と推定される。この砥石は1H区の第Ⅲ層から出土しており、縄文時代早期中頃までの例であろう。この他、扁平な砥石が2点ある（第437図2120・2121）。

凹石 凹石は4点出土しており、平面形が円形で表裏両面に凹部がある（第443図2207、第448図2250、第454図2293、第457図2311）。これらの凹部の状態は内部が滑らかで、敲打で形成されたものではない。一例は、凹部の直径が3.5cm、窪みが著しく、0.6cm・0.7cmもある（2311）。

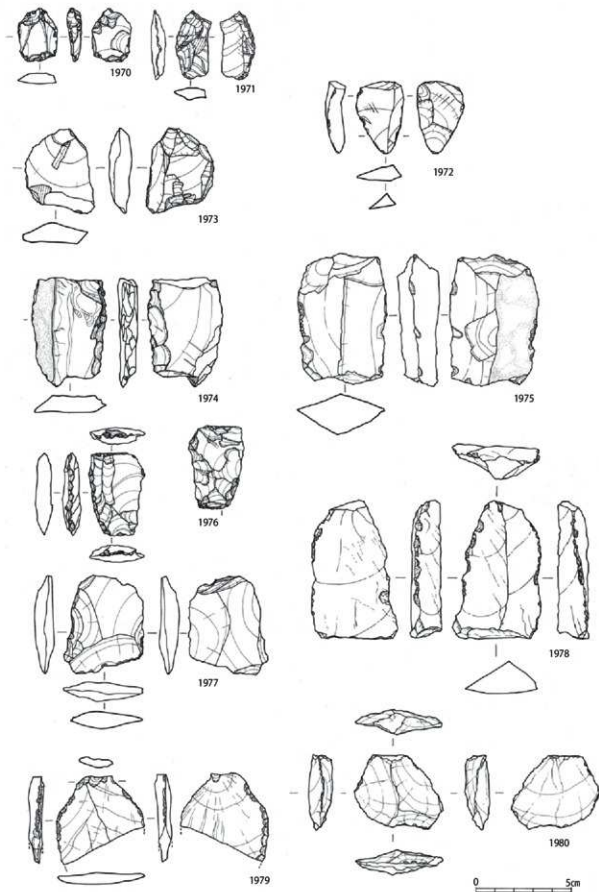
敲石・磨石 棒状角礫を利用したものや（第437図2117～2119・2122～2127、第438図2129～2134）、円礫を利用したものがある（第439図2135～第443図2206、第444図2208～第448図2249、第448図2251～第454図2292・2294～第457図2310・2312～第459図2318）。このうち、敲石・磨石の形態分類上「石礫形」と呼ばれる例が三例ある（2279、2290、2308）。これは、楕円礫の長軸側の両側面が均等な敲打作業によって潰れた結果、平面形や断面形が石礫のような形態になった例であり、縄文時代早期に特有の敲石・磨石である。

台石 大きな石の平坦面に敲打痕や磨滅痕が観察される例で、集石の近くや内部、配石の内部で発見される場合が多い（第460図2319・2321～第465図2360、第465図2362～2364、第466図2366～第468図2377・2379～第474図2410）。中には、礫器の刃部作出のように整形加工を加えた例もある（2361・2365・2378・2409）。これらの加工が、その大きさから敲打具として礫器に加工されたとは考えにくく、一案として設置する際の整形とも考えられる。

石核 剥片石器様の素材を剥離した石核である。森の木遺跡の石核は、基本的に打面を移動させて剥片剥離を行っている。石核は近傍のチャートや泥岩など、角礫形態の原石を用いていることもあって、多面体である。①大型角柱形態で上下両端方向からの剥離の例（第425図2026・2028、第427図2041）、②大型角柱形態で打面を回転しつつ短軸方向からの剥離をした例（第425図2030、第426図2033・2034・2035、第427図2039）③扁平で表裏両面に求心的な剥離を行う例（第425



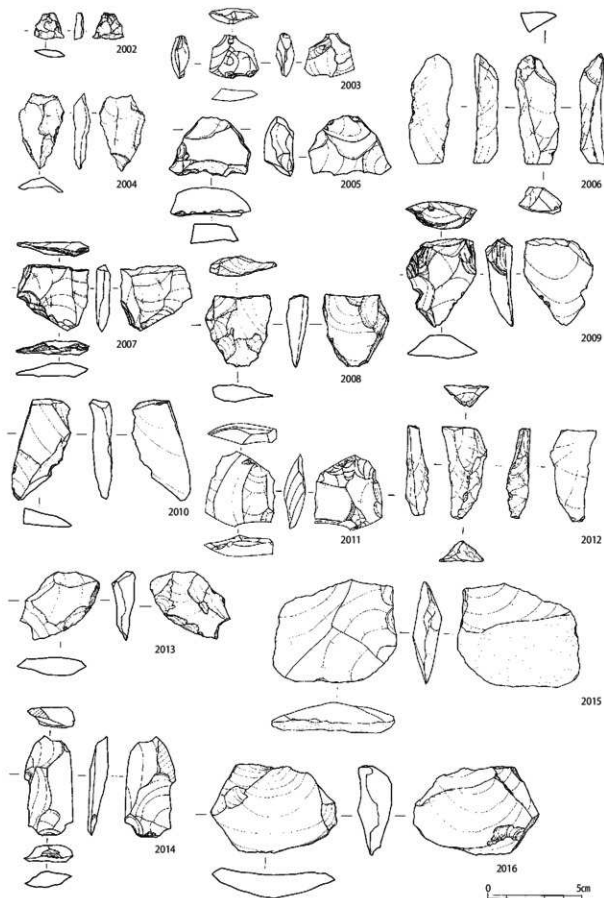
第420図 出土遺物実測図75-縄文時代の石器-(5)



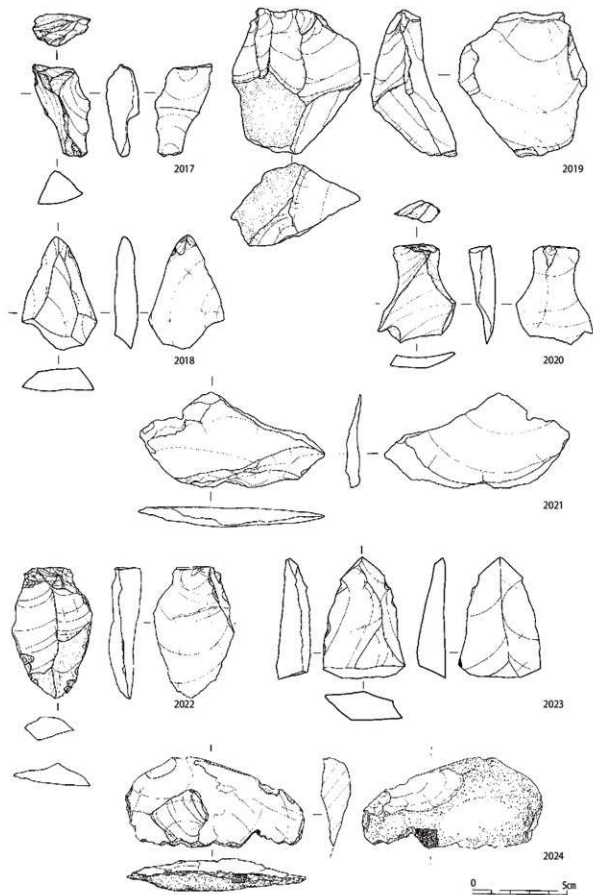
第421図 出土遺物実測図76-縄文時代の石器-(6)



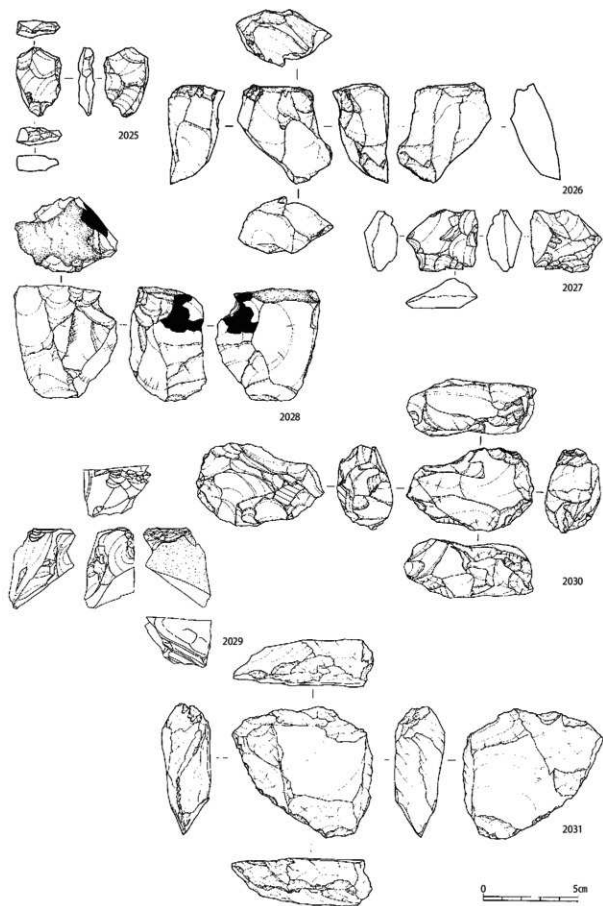
第422図 出土遺物実測図77-縄文時代の石器-(7)



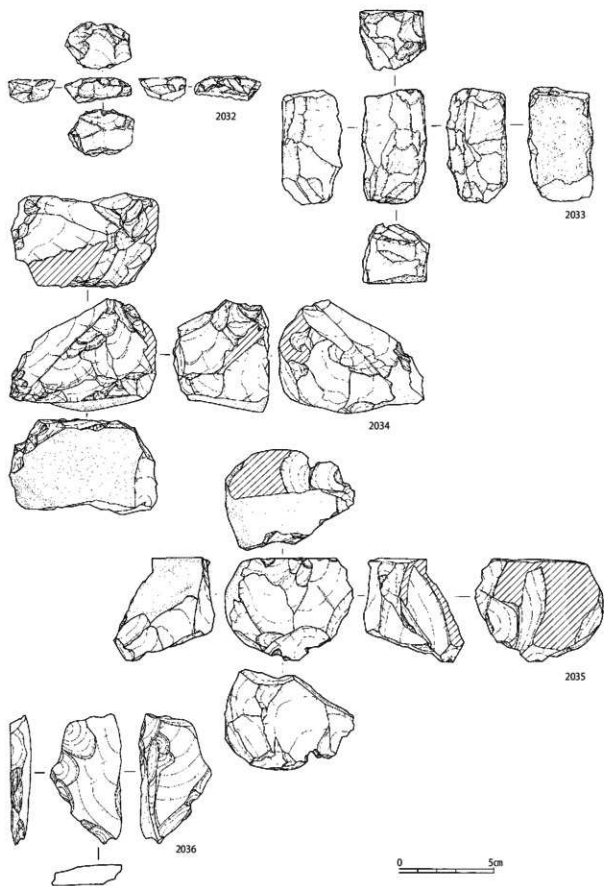
第423図 出土遺物実測図78-縄文時代の石器-(8)



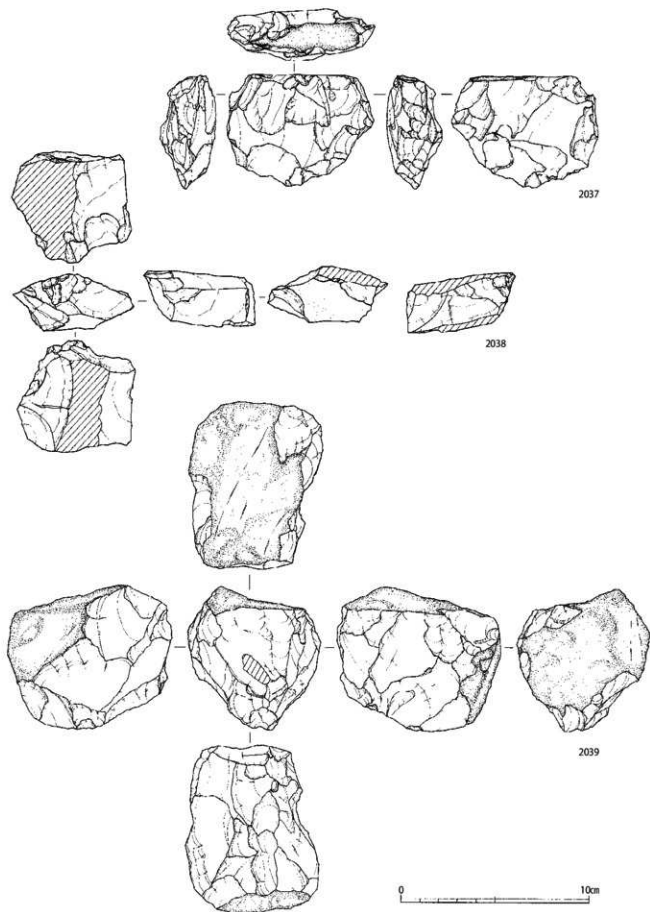
第424図 出土遺物実測図79-縄文時代の石器-(9)



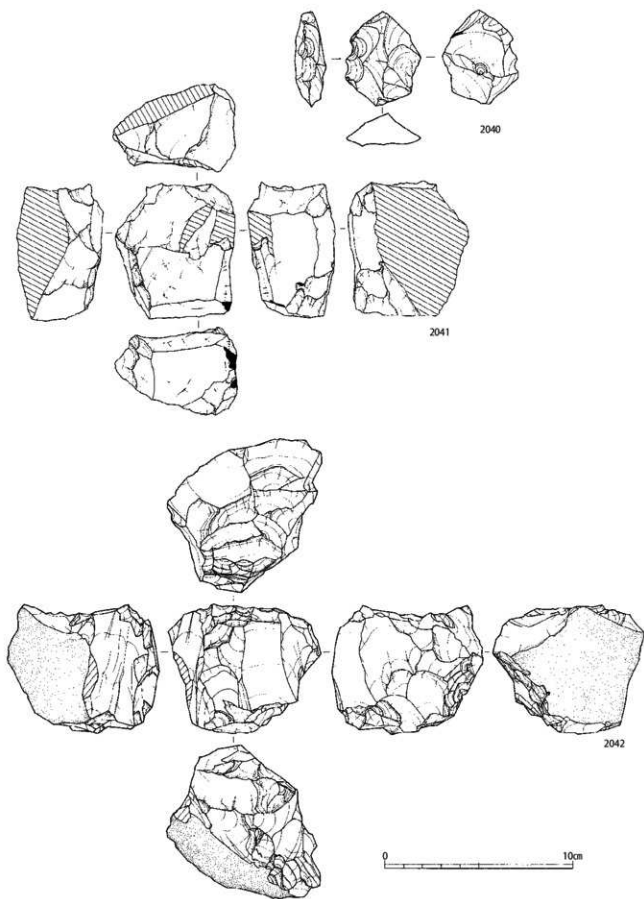
第425図 出土遺物実測図80-縄文時代の石器-(10)



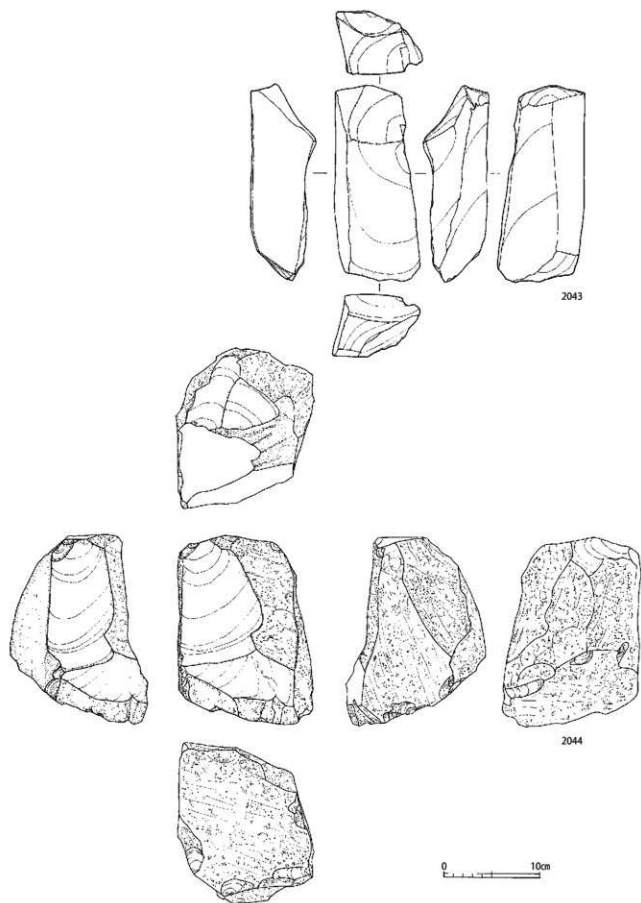
第426図 出土遺物実測図81-縄文時代の石器-(11)



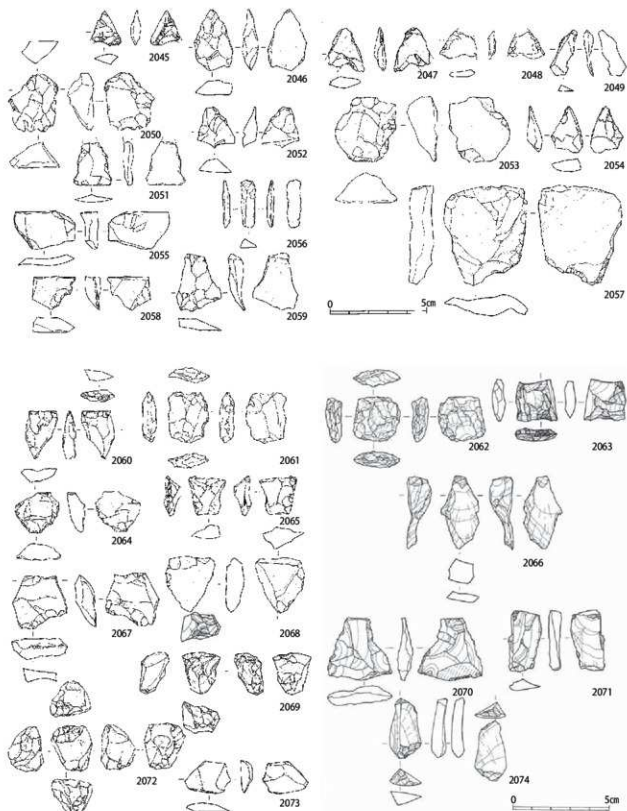
第427図 出土遺物実測図82-縄文時代の石器-(12)



第428図 出土遺物実測図83-縄文時代の石器-(13)

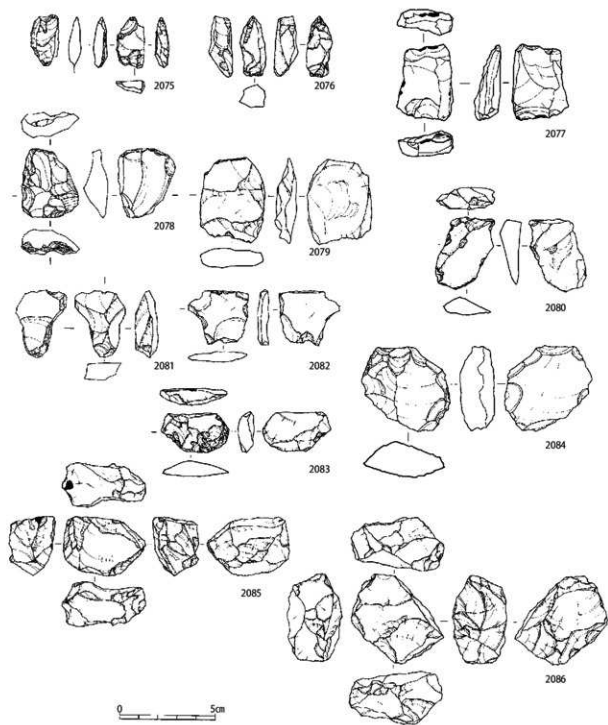


第429図 出土遺物実測図84-縄文時代の石器-(14)

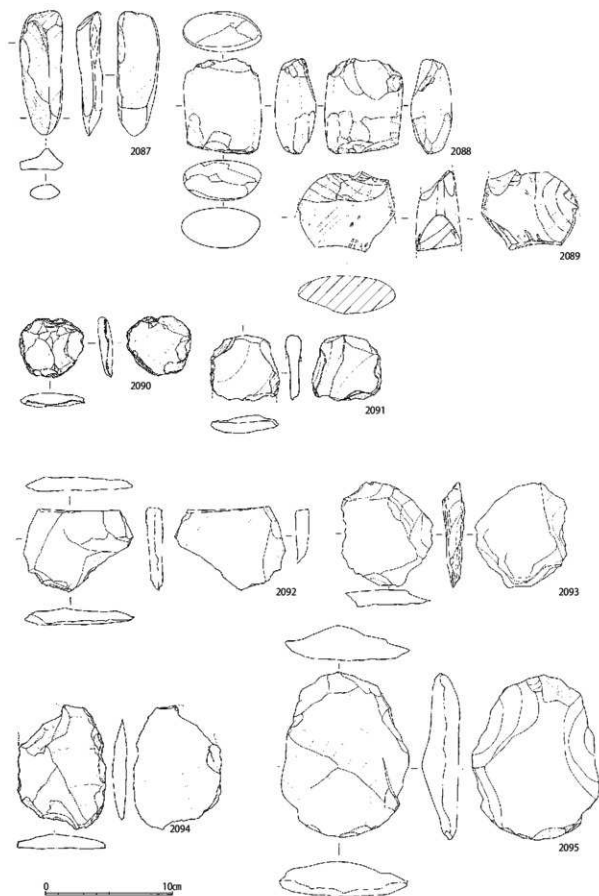


第430図 出土遺物実測図85-縄文時代の石器-(15)

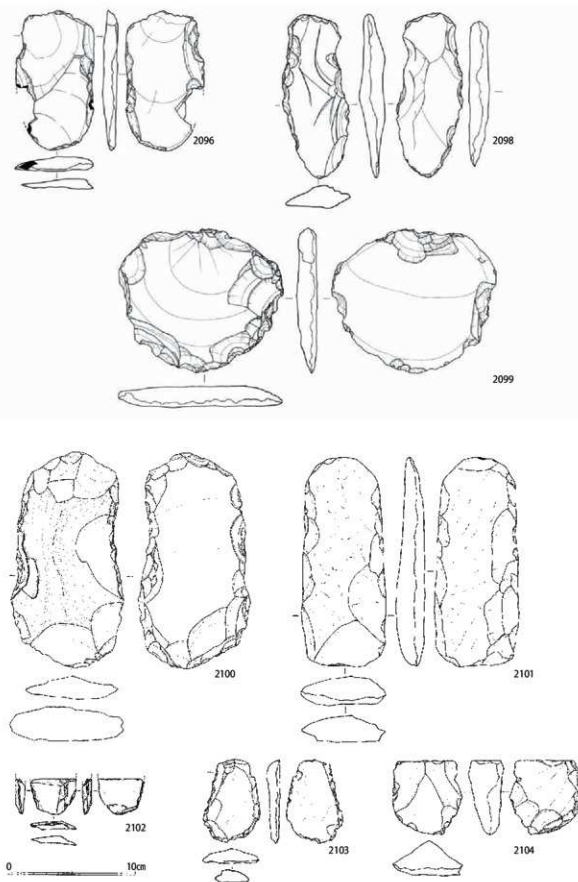
図 2031、第 427 図 2037) ④多面体の石核 (第 428 図 2042 ⑤姫島産黒曜岩の初工程の石核 (第 429 図 2044) : この石核は、風化した角礫面を有する姫島産黒曜岩のもので石核である。高さ 20 cm、幅 14.2 cm、奥行き 16.3 cm、重さ 3.9 kg の法量である。上端に二回の剝離で打面を作出し、打面を打撃して正面側で一、二枚の大型剥片を割りとった石核である。この石核は、OE 区の第 III a 層の S 045 集石から出土した (第 126 図)。この付近は、塞ノ神式土器が出土しており、縄属時期は縄文時代早期後半頃である。⑥その他・残核 (第 425 図 2029、第 427 図 2038、第 429 図 2043) がある。



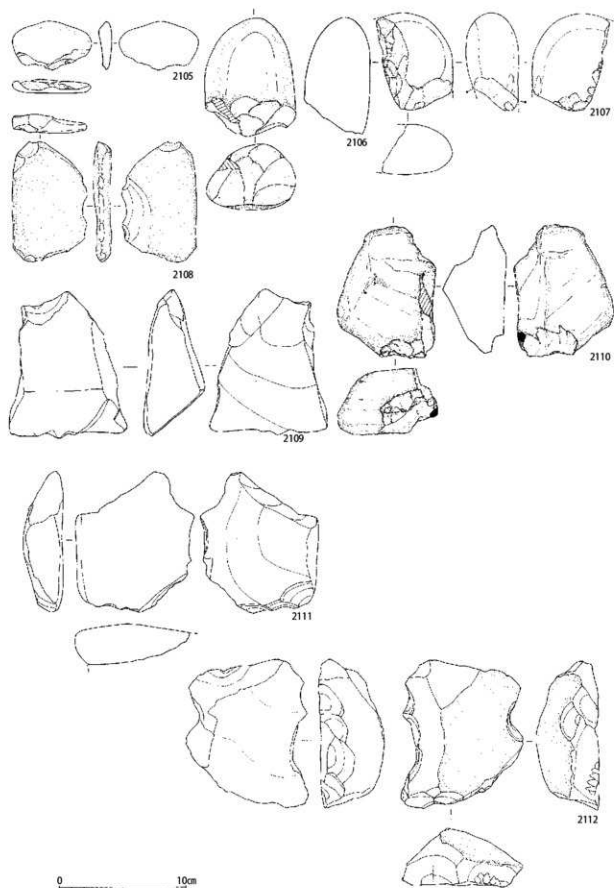
第431図 出土遺物実測図86-縄文時代の石器-(16)



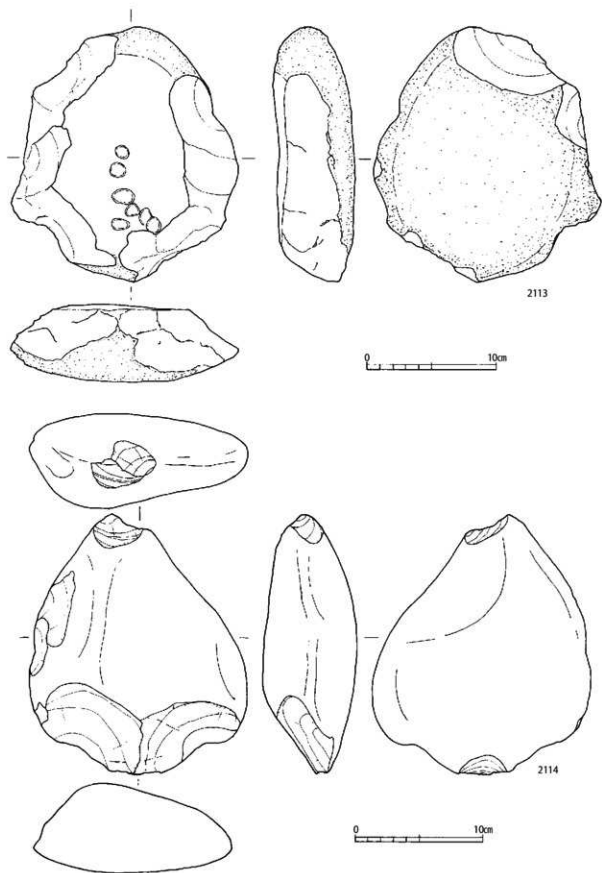
第432図 出土遺物実測図87-縄文時代の石器-(17)



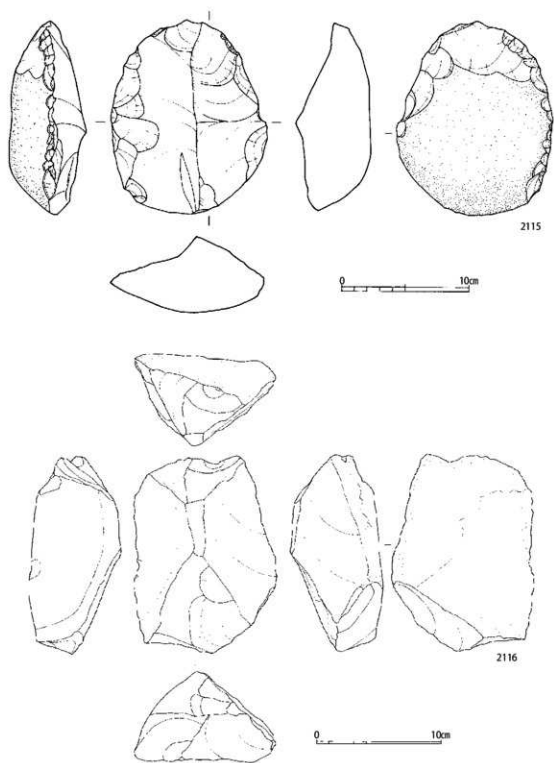
第433図 出土遺物実測図88-縄文時代の石器-(18)



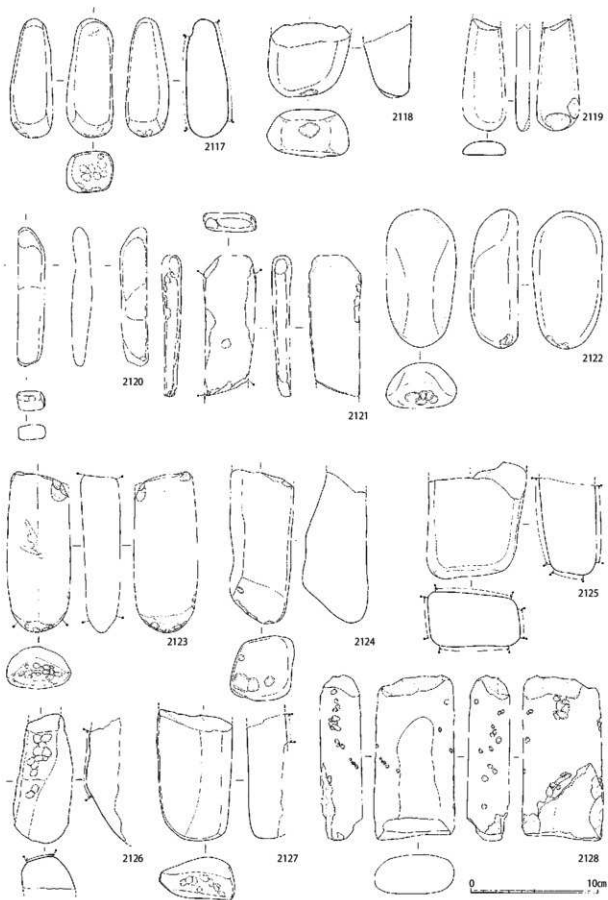
第434図 出土遺物実測図89-縄文時代の石器-(19)



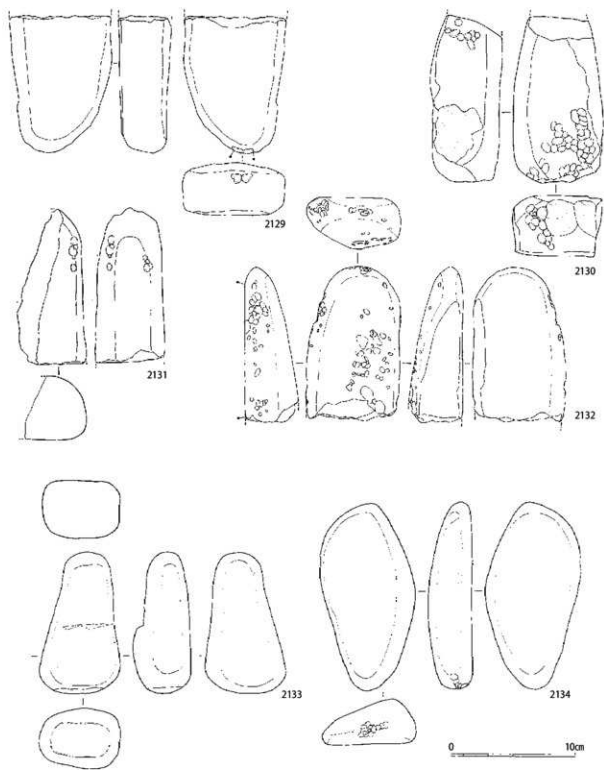
第435図 出土遺物実測図90-縄文時代の石器-(20)



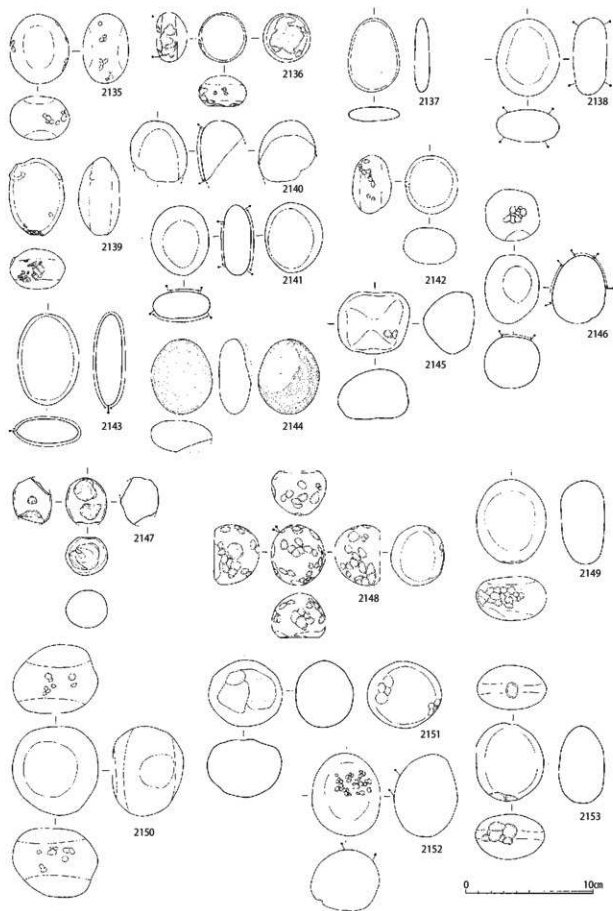
第436図 出土遺物実測図91-縄文時代の石器-(21)



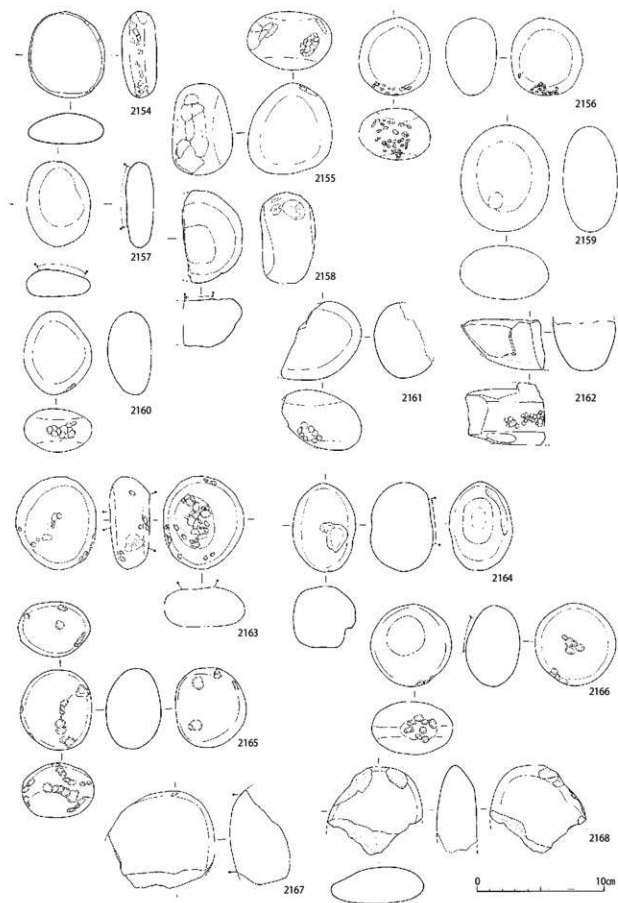
第437図 出土遺物実測図92-縄文時代の石器-(22)



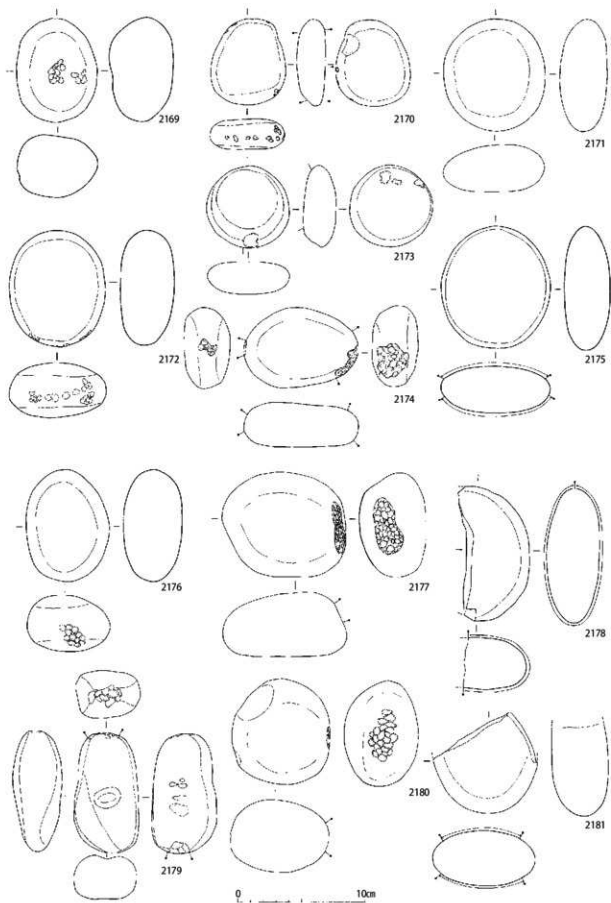
第438図 出土遺物実測図93-縄文時代の石器-(23)



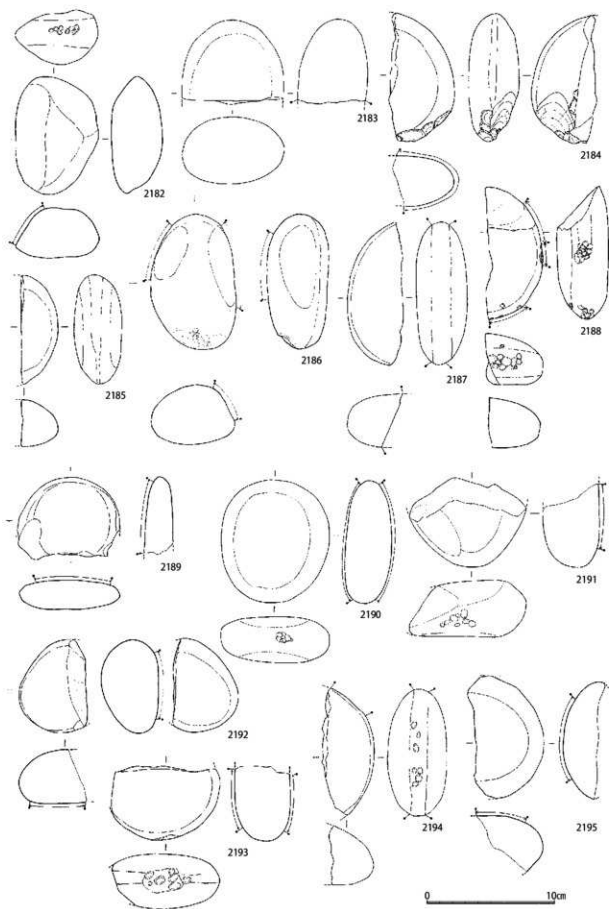
第439図 出土遺物実測図94-縄文時代の石器-(24)



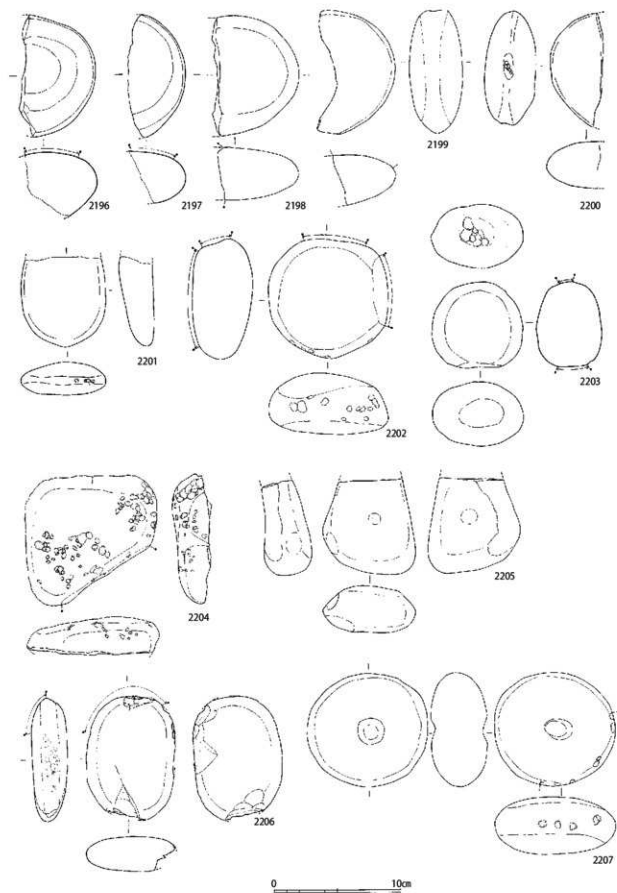
第440図 出土遺物実測図95-縄文時代の石器-(25)



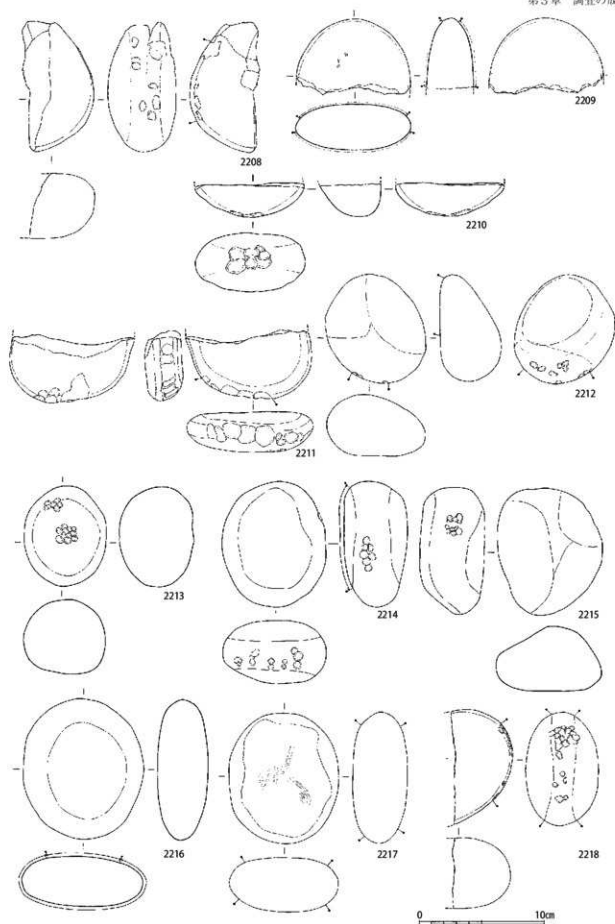
第441図 出土遺物実測図96-縄文時代の石器-(26)



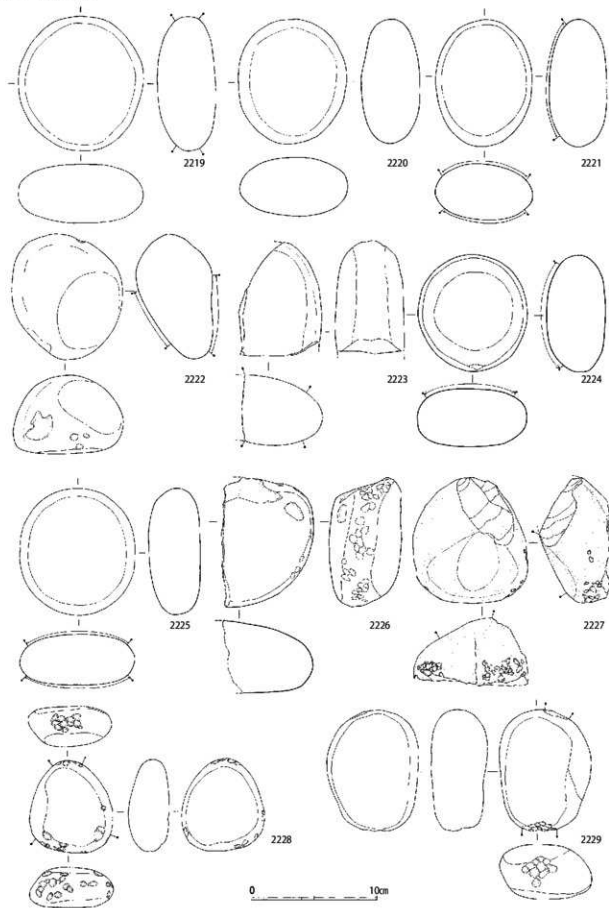
第442図 出土遺物実測図97-縄文時代の石器-(27)



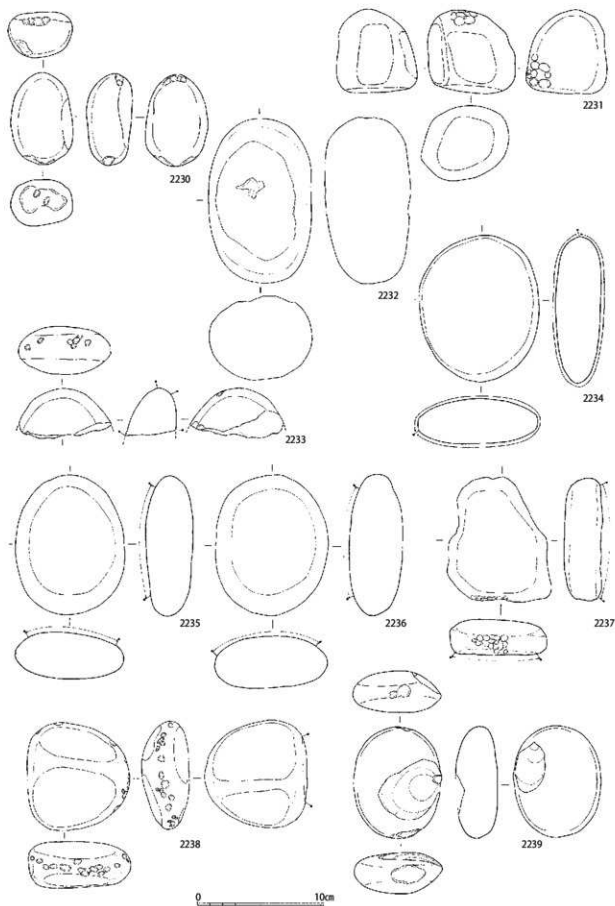
第443図 出土遺物実測図98-縄文時代の石器-(28)



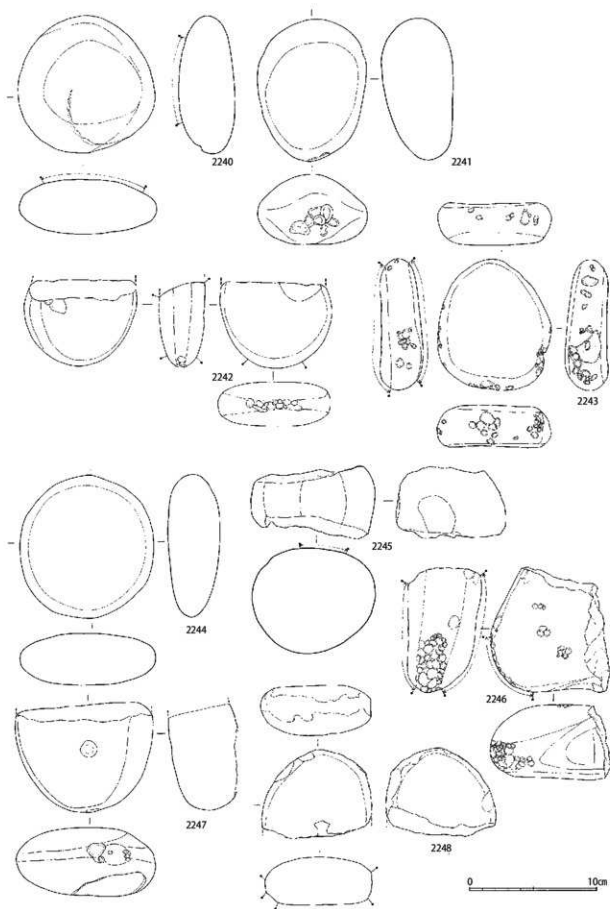
第444図 出土遺物実測図99-縄文時代の石器-(29)



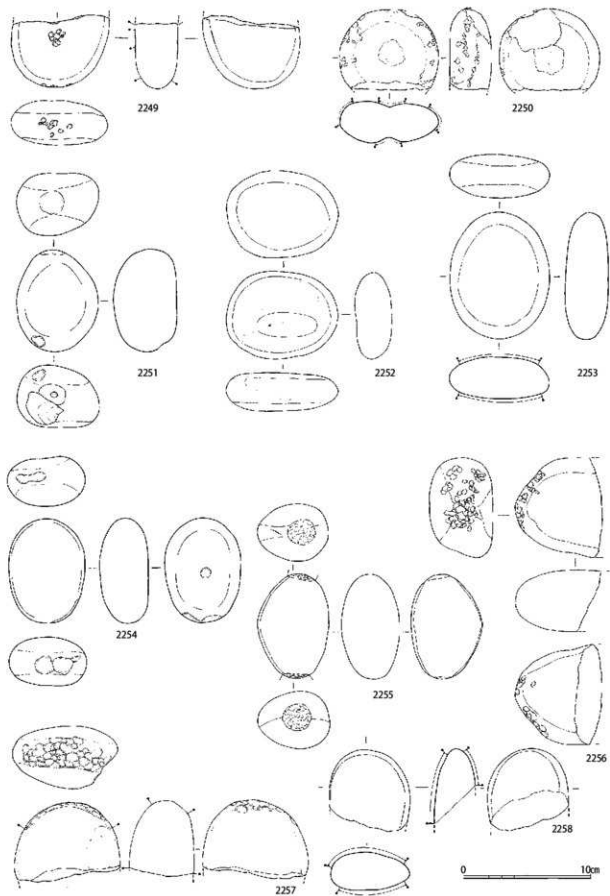
第445図 出土遺物実測図100-縄文時代の石器-(30)



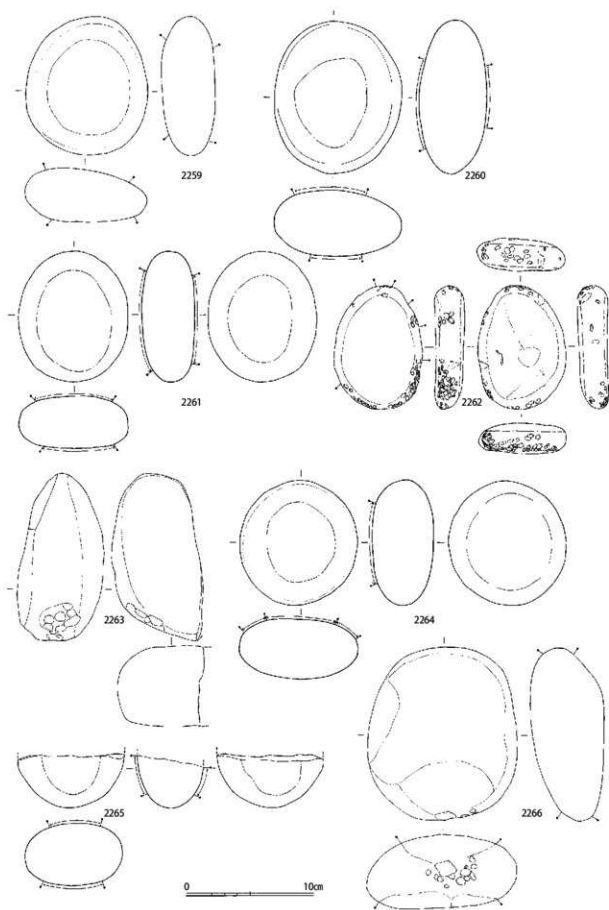
第446図 出土遺物実測図101-縄文時代の石器-(31)



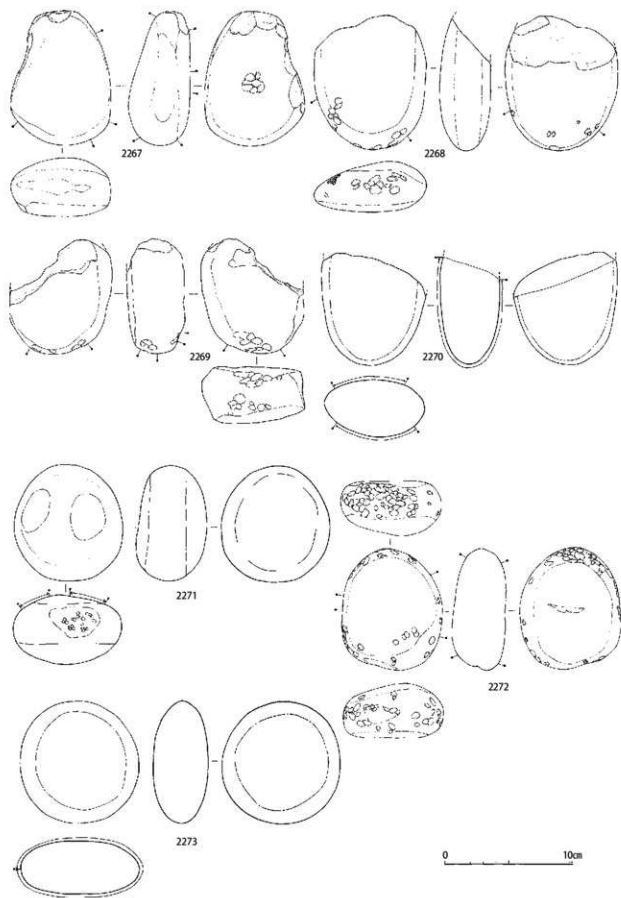
第447図 出土遺物実測図102-縄文時代の石器-(32)



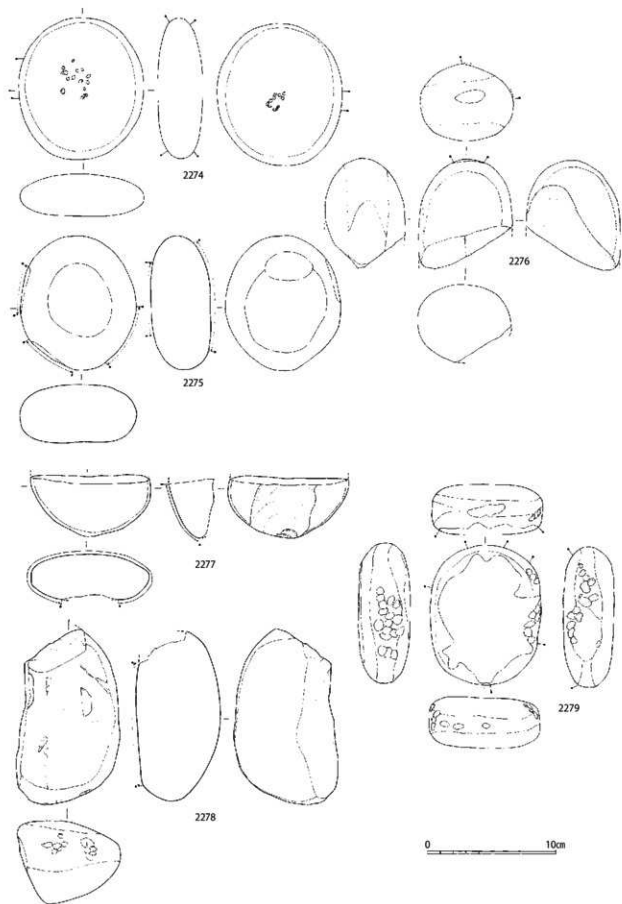
第448図 出土遺物実測図103-縄文時代の石器-(33)



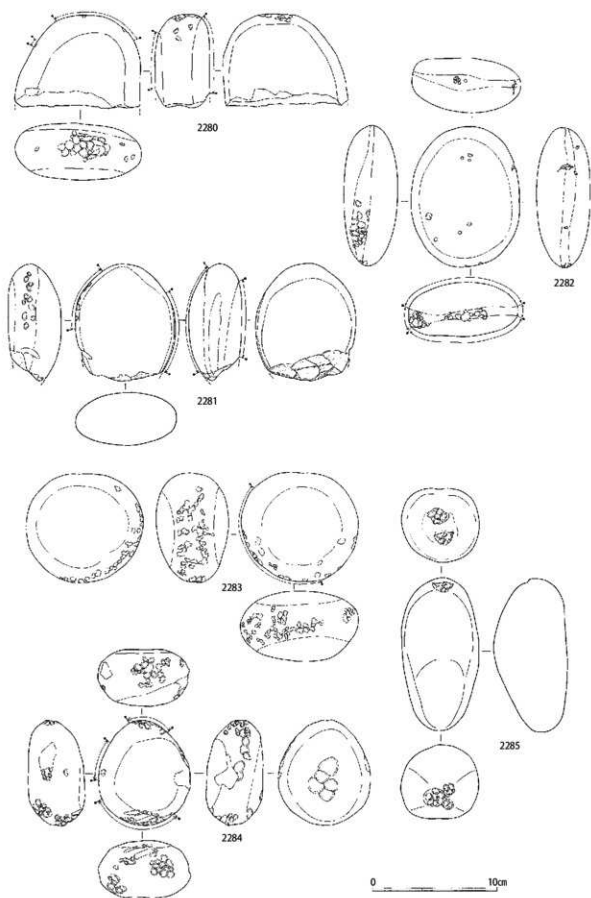
第449図 出土遺物実測図104-縄文時代の石器-(34)



第450図 出土遺物実測図105-縄文時代の石器-(35)



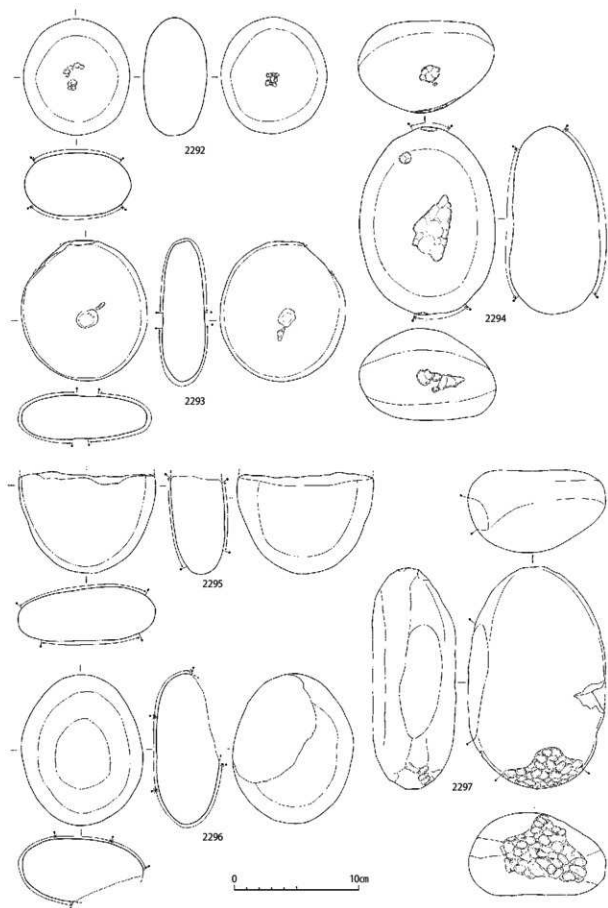
第451図 出土遺物実測図106-縄文時代の石器-(36)



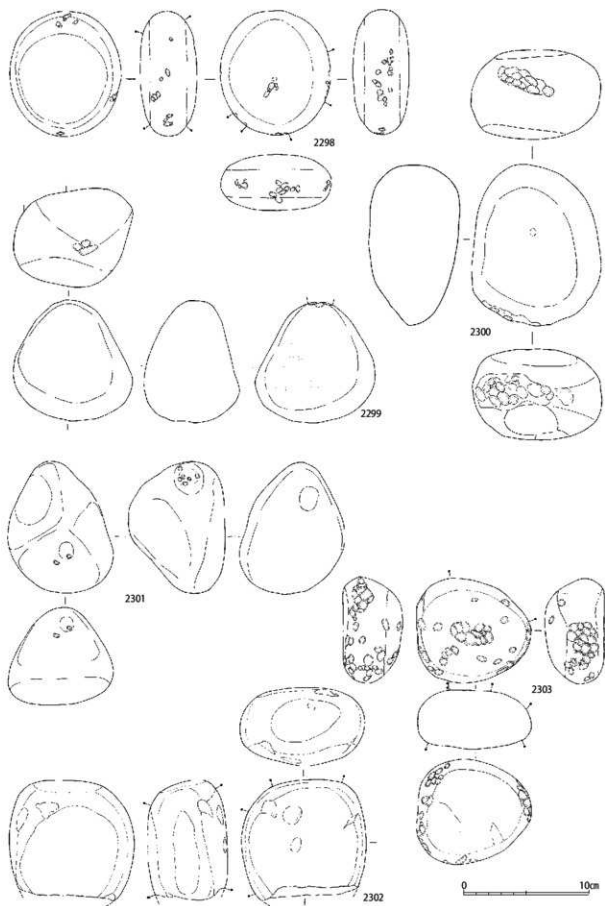
第452図 出土遺物実測図107-縄文時代の石器-(37)



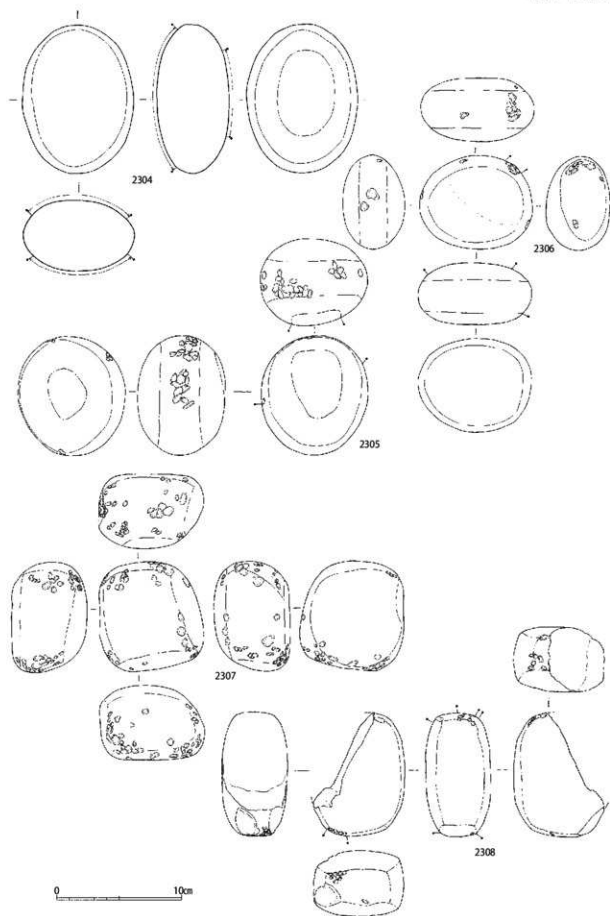
第453図 出土遺物実測図108-縄文時代の石器-(38)



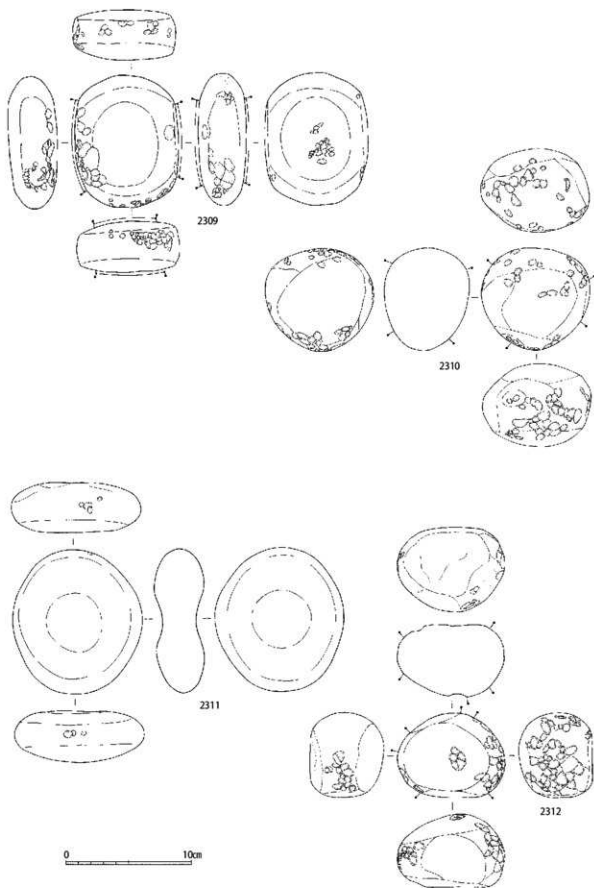
第454図 出土遺物実測図109-縄文時代の石器-(39)



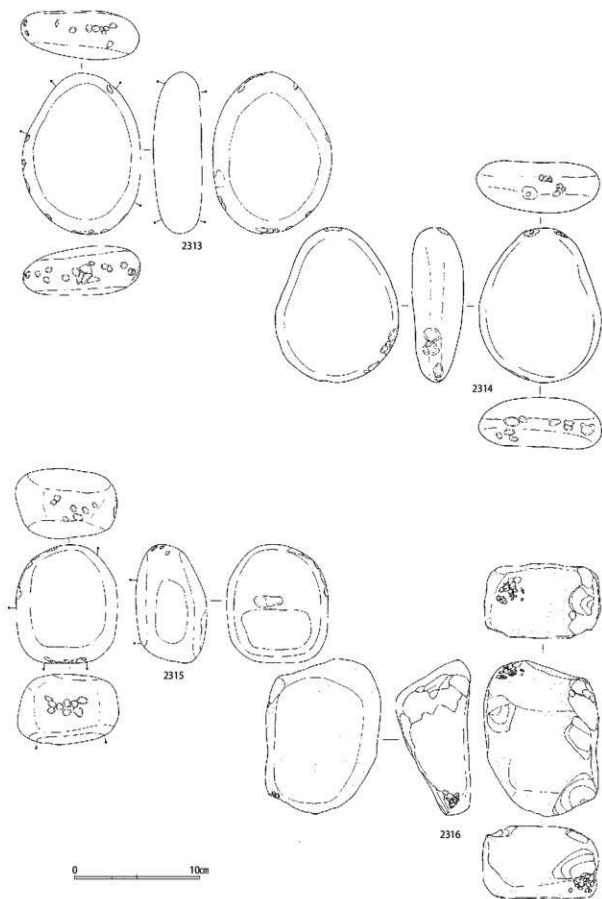
第455図 出土遺物実測図110-縄文時代の石器-(40)



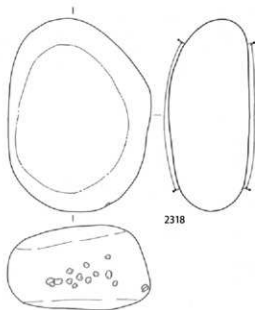
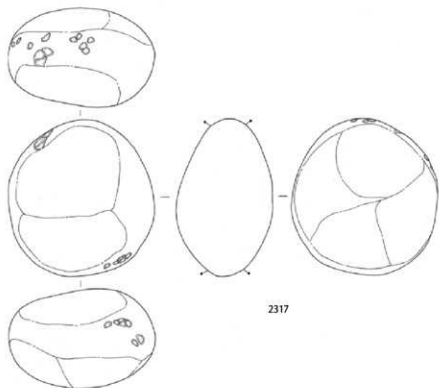
第456図 出土遺物実測図111-縄文時代の石器-(41)



第457図 出土遺物実測図112-縄文時代の石器-(42)

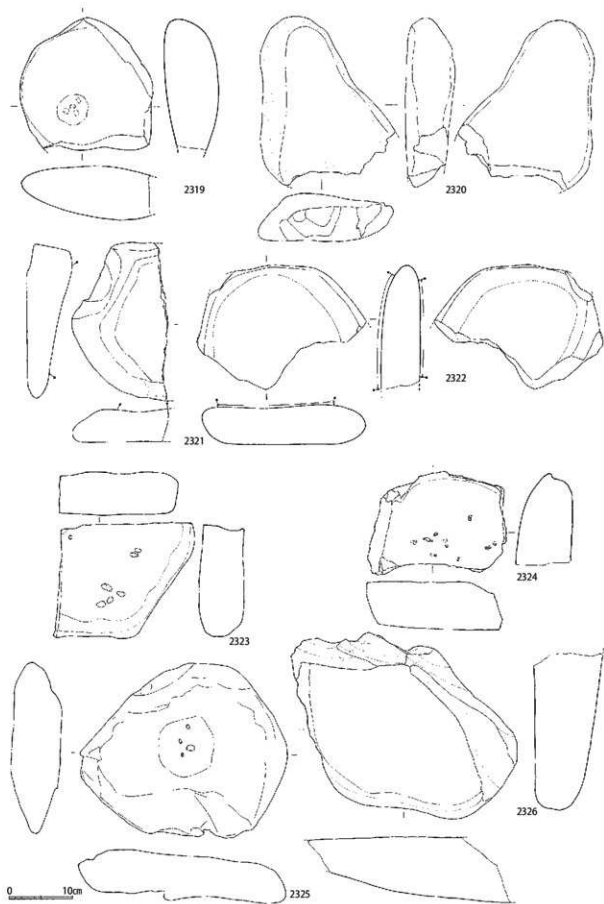


第458図 出土遺物実測図113-縄文時代の石器-(43)

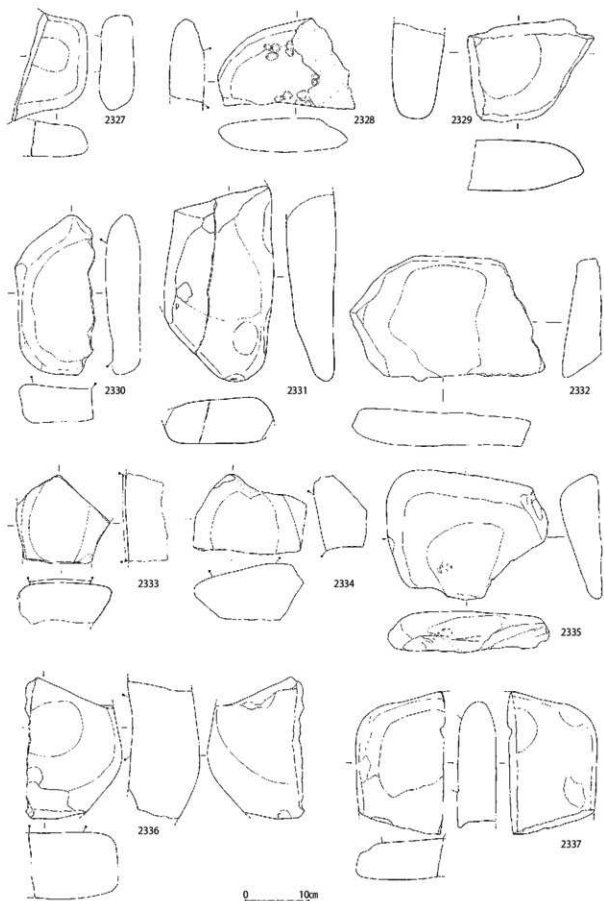


0 10cm

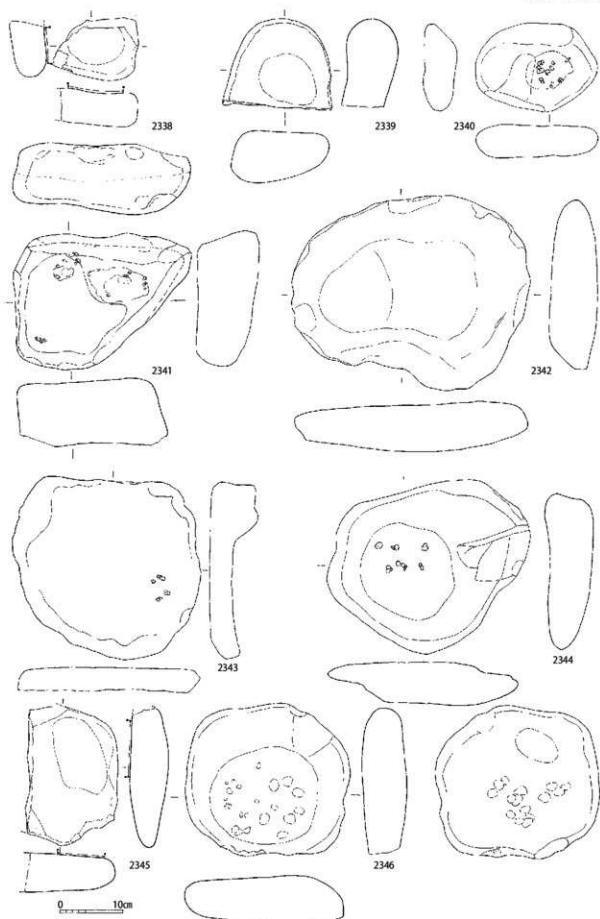
第459図 出土遺物実測図114-縄文時代の石器-(44)



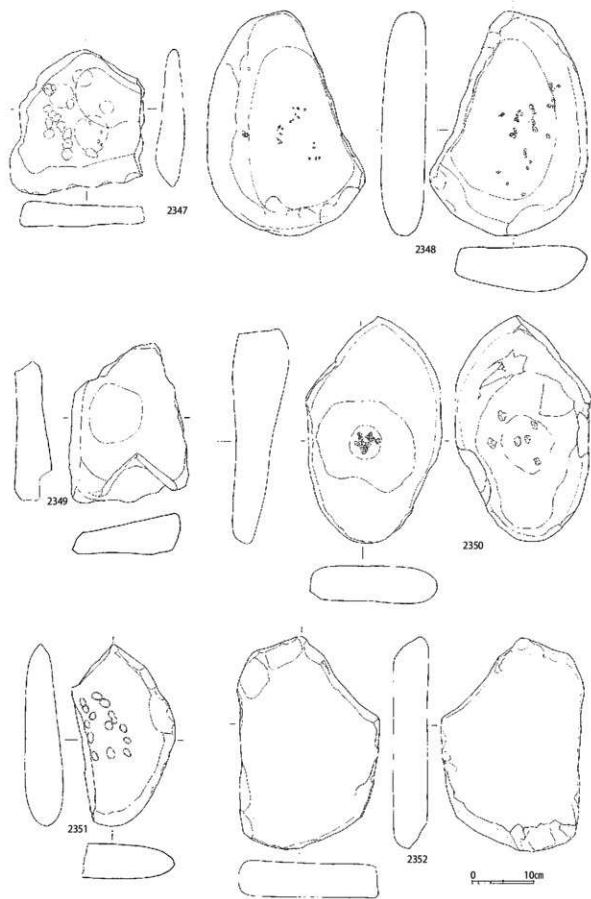
第460図 出土遺物実測図115-縄文時代の石器-(45)



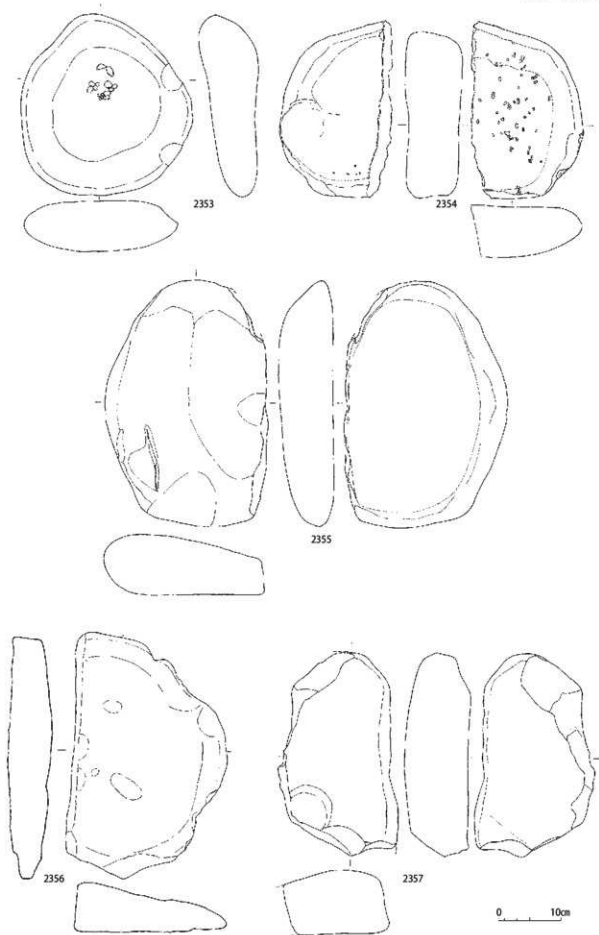
第461図 出土遺物実測図116-縄文時代の石器-(46)



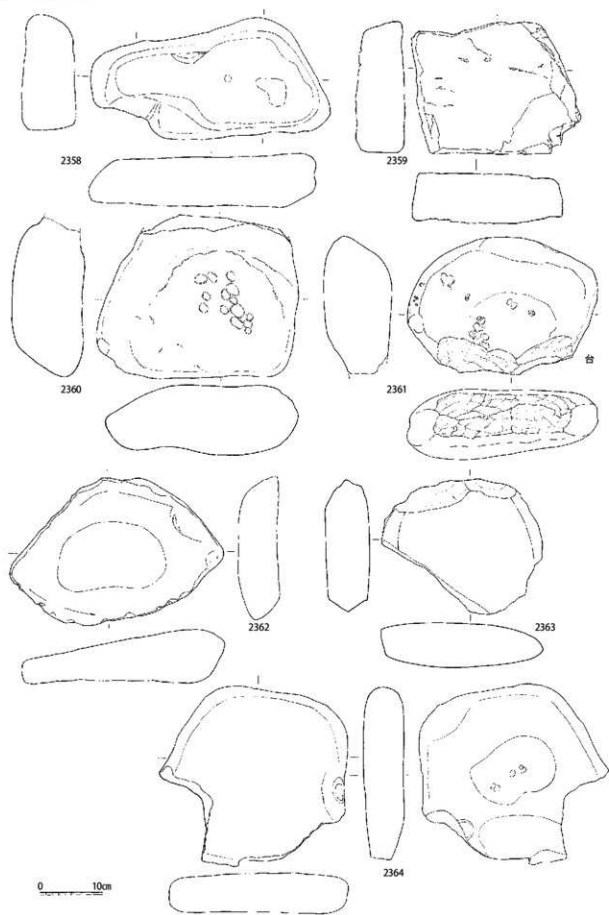
第462図 出土遺物実測図117-縄文時代の石器-(47)



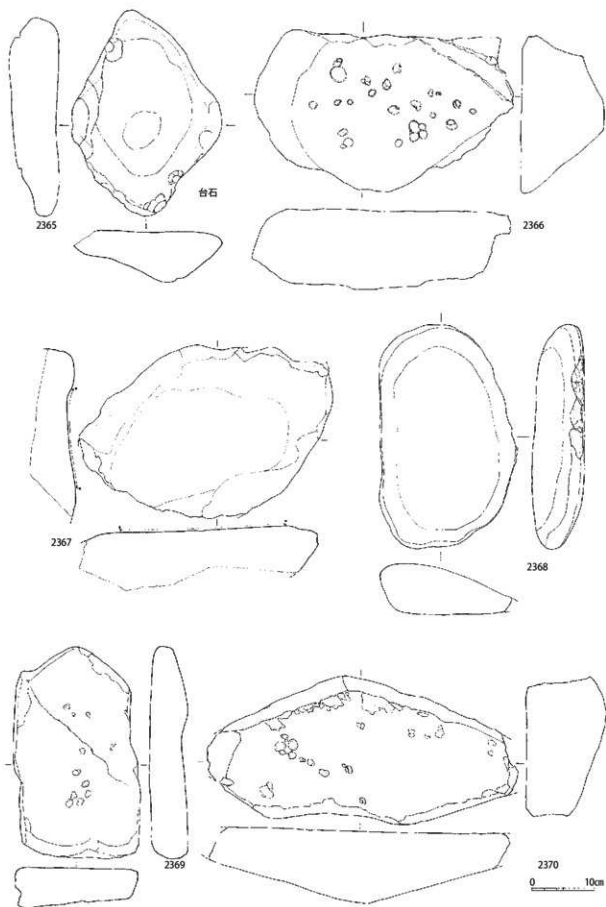
第463図 出土遺物実測図118-縄文時代の石器-(48)



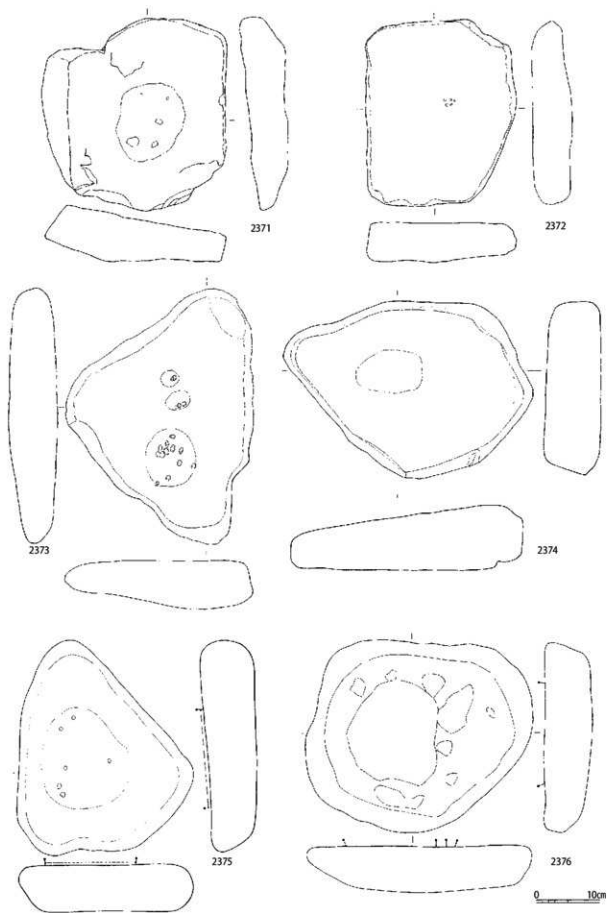
第464図 出土遺物実測図119-縄文時代の石器-(49)



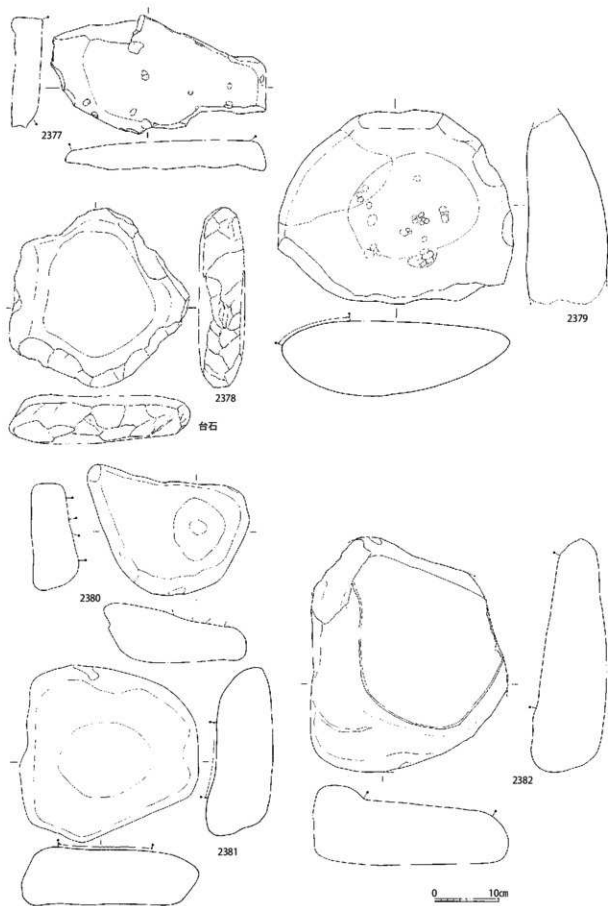
第465図 出土遺物実測図120-縄文時代の石器-(50)



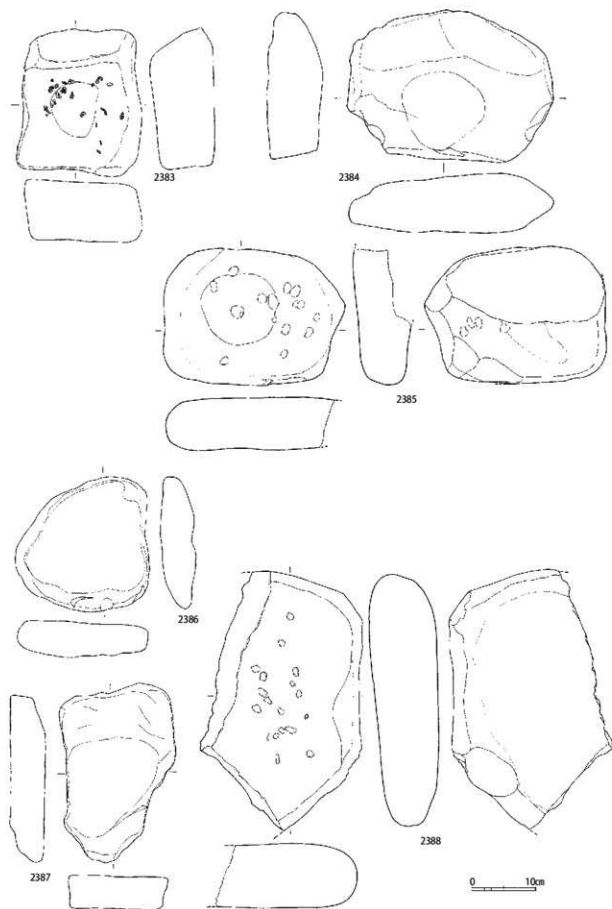
第466図 出土遺物実測図121-縄文時代の石器-(51)



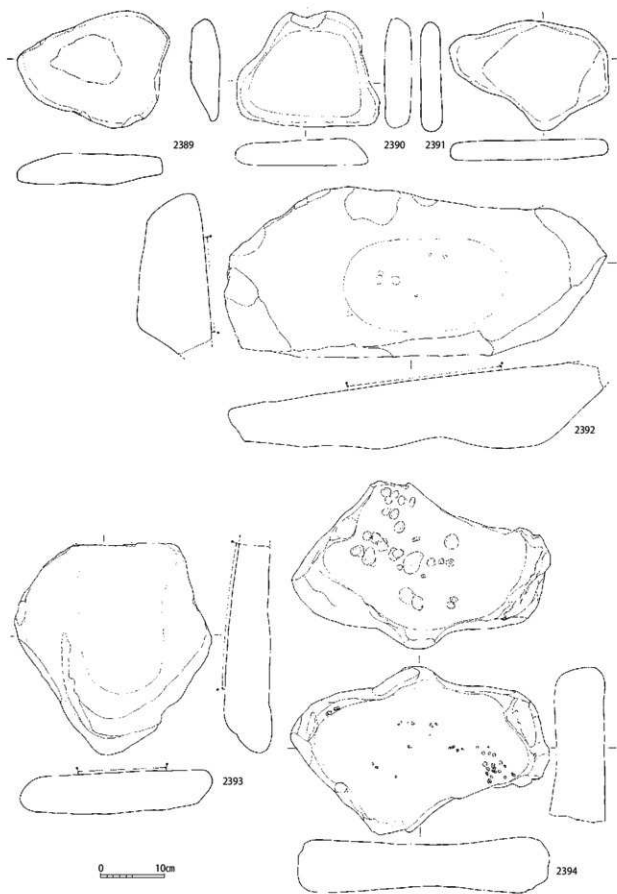
第467図 出土遺物実測図122-縄文時代の石器-(52)



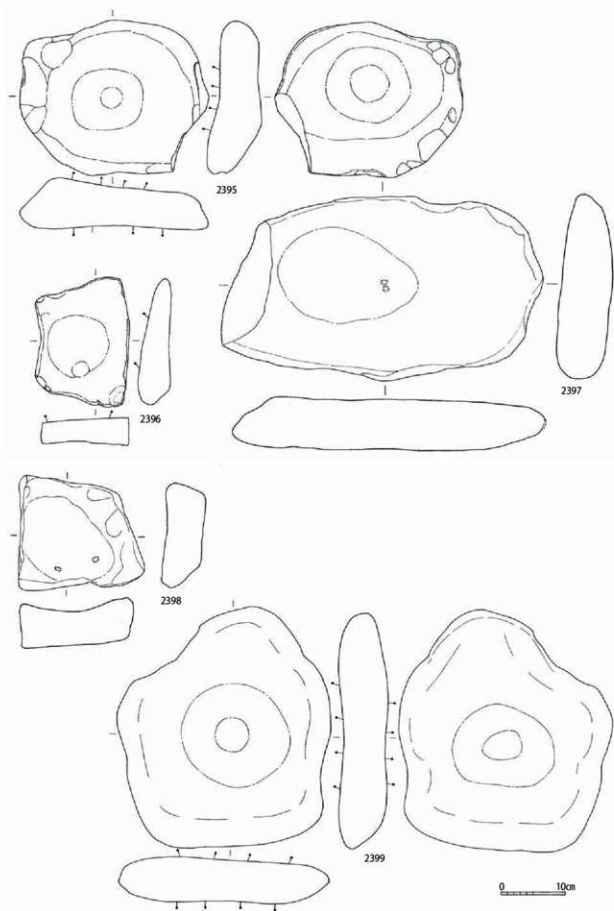
第468図 出土遺物実測図123-縄文時代の石器-(53)



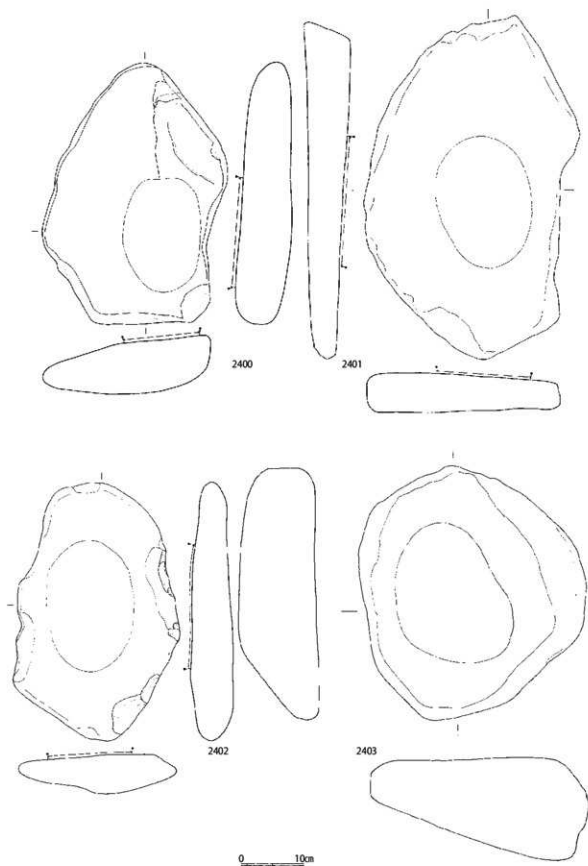
第469図 出土遺物実測図124-縄文時代の石器-(54)



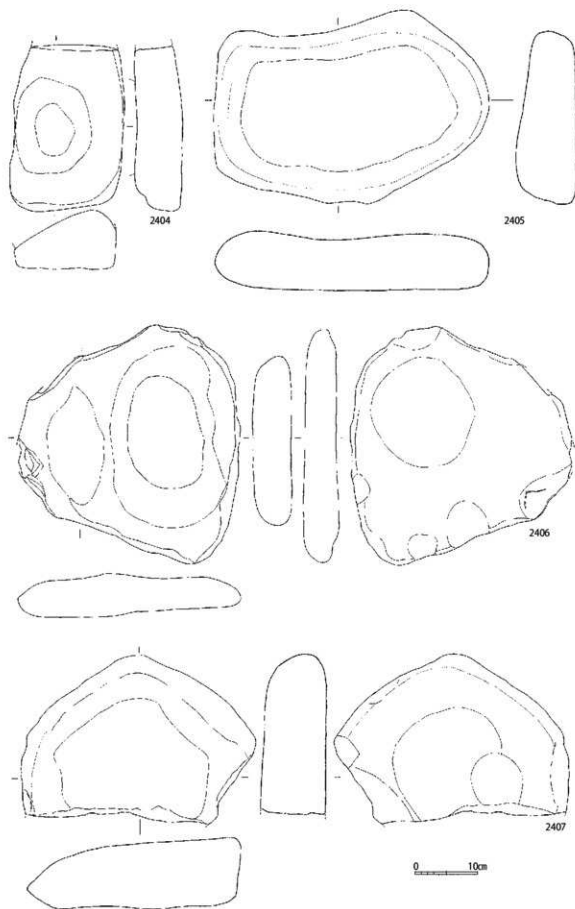
第470図 出土遺物実測図125-縄文時代の石器-(55)



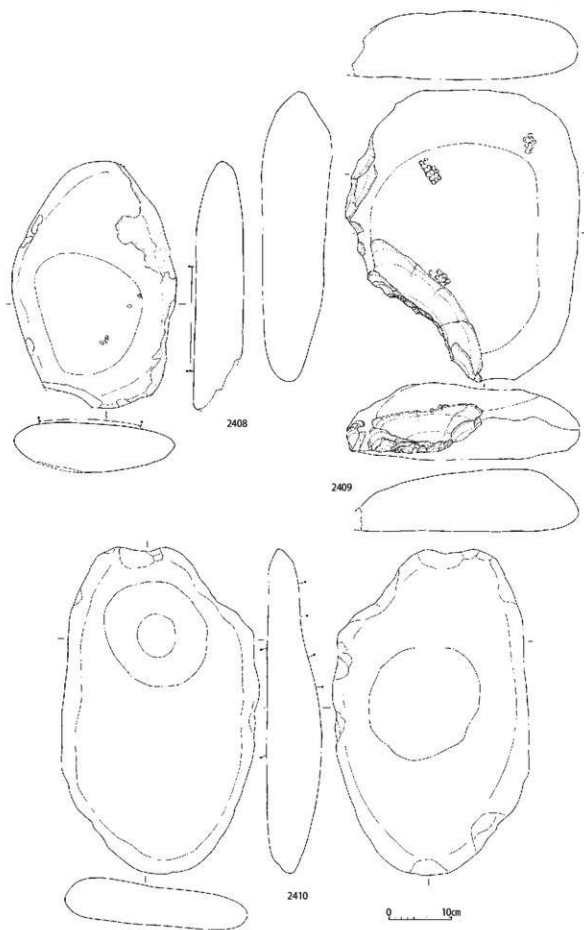
第471図 出土遺物実測図126-縄文時代の石器-(56)



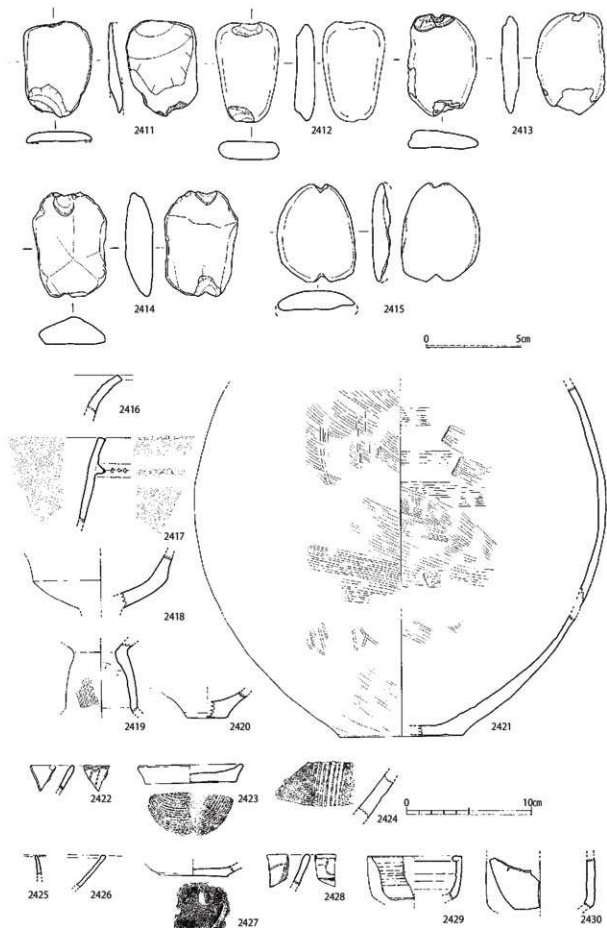
第472図 出土遺物実測図127-縄文時代の石器-(57)



第473図 出土遺物実測図128-縄文時代の石器-(58)



第474図 出土遺物実測図129-縄文時代の石器-(59)



第475図 出土遺物実測図130-縄文時代の石器-(60)-弥生時代-近世-

(12) 弥生時代以降

① 弥生時代

この時代の資料は、本文中でふれた土器以外に数例出土している。①下城式甕：外傾するタイプの例で、口縁端部のやや下に突帯を貼り付け、上に刻み目を入れている（第475図2417）。下城式甕の時期は、弥生時代中期である。②高環：高環の上部破片である。環部の下半が皿状で、鋭く屈曲して口縁部が外方へ立ち上がる特徴があり（第475図2418）、弥生時代後期中頃に比定できる。③甕：甕の底部破片である（第475図2418）。径は小さいが明瞭な平底部分があり、下城式重弧文甕などの底部かもしれない。底部形態から弥生時代中期に比定できる。

② 古墳時代

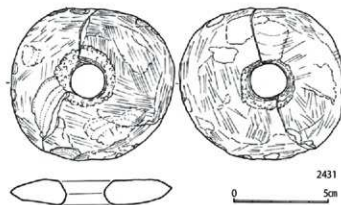
この時代の遺構と遺物としては既にふれたようにS 251 楕円形土坑から出土した土師器甕2点があるが（第332図・第333図）、包含層1点出土しているだけである。①高環：高環の脚部破片で、径に対し脚高が短く、なかほどが僅かに膨らむためずんぐりした印象を受ける（第475図2419）。脚部の外面は縦刷毛で、内面は縦方向のヘラ削りである。下部でへの字状に脚底部が広がるような様子が観察される。器形などから、山陰系の高環のようでもあるが、はっきりしない。本例は、古墳時代の中期・5世紀頃に比定できるものであろう。

③ 中世

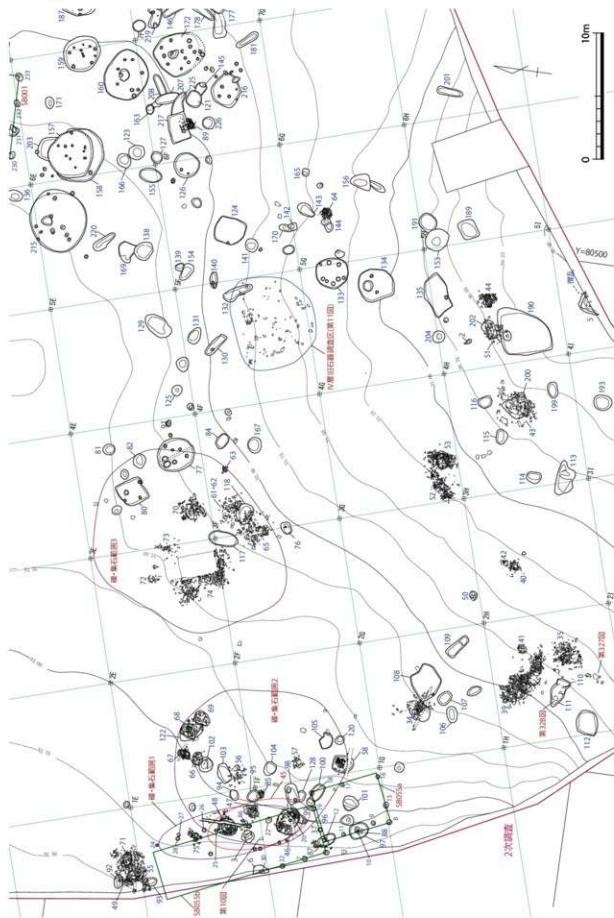
この時代の遺構と遺物としては既にふれたように多くはないが、大きく二箇所に分布していた（第336図）。ここでは包含層や採集された遺物について記載しておく。①青磁碗：形骸化した蓮弁であることから、15世紀中頃から16世紀中頃の龍泉窯産の青磁碗である。この青磁碗破片は、0E区で出土しており、掘立柱建物であるSB055aやSB055bと関係があるのかもしれない（第336図）。②かわらけ：土師質土器の小皿で、口縁部が極短く立ち上がる（第475図2423）。本例は器形からすると14世紀頃に位置付けられる。本例も0E区から出土している。③備前焼の播鉢：播鉢の胴部破片であり、全体の器形は不明であり、0D区から出土している（第475図2424）。掻き目が間隔が開いている点に特徴がある。14～16世紀代のものと思われるが明確ではない。

④ 近世

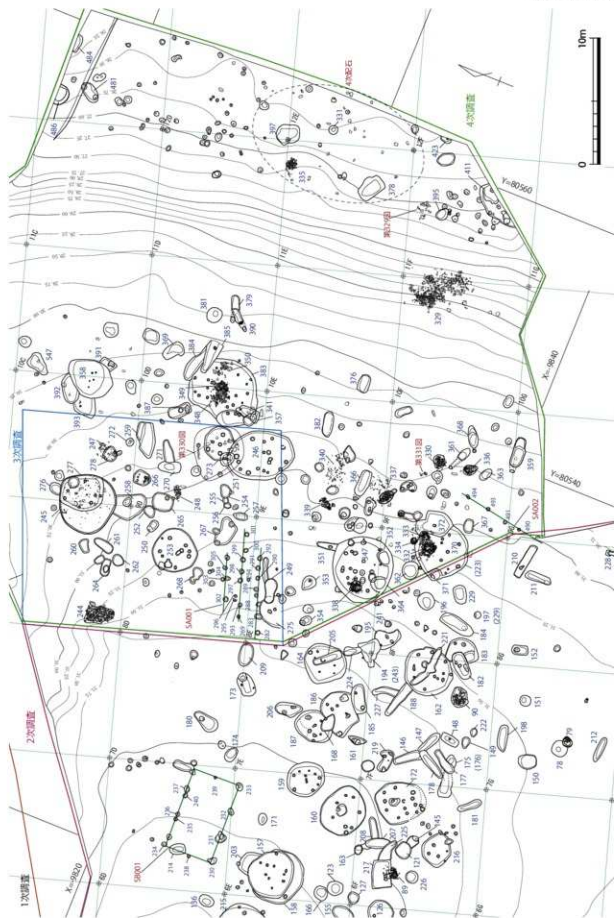
近世の遺物も散発的に出土しているが、遺構は近世のものと推定される播列状の痕跡しかなく、掘立柱等の遺構や土坑はない。ここに集落があったという情報はない。遺物は陶磁器の小破片が少量出ているが、時期のわかるものは少ない（第475図2425～2430、第479図2432～2433、第478図2442）。①染付碗：碗の小破片である（2428）。②青磁香炉：このあたりには発掘調査以前に石塔があったようで、そうした際の仏具であろう（2429）。③底部近くに屈折部のある筒形の青磁碗である（2430）。④播鉢：播鉢の破片であり、詳細は不明（2433）。⑤火鉢：真横に口縁部を突出させた火鉢（2435）。⑥焙烙：焙烙の可能性のあるもの（2436）。⑦関西系陶器瓶：胴部がS字状の形態で、底部が胴径と同じくらいに横へ突出している（2438）。仏具であろう。⑧土鍾：5点の土鍾が出土している（2439～2443）。南側を流れる大越川で用いた川漁用の土鍾であるが、時期は中世の可能性もある。



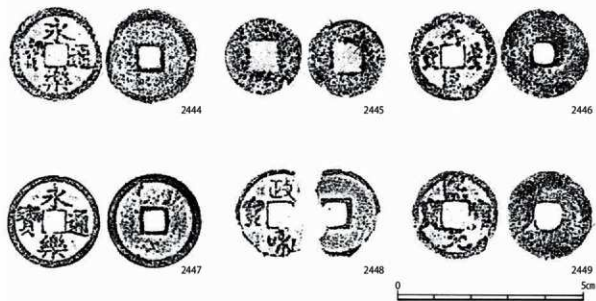
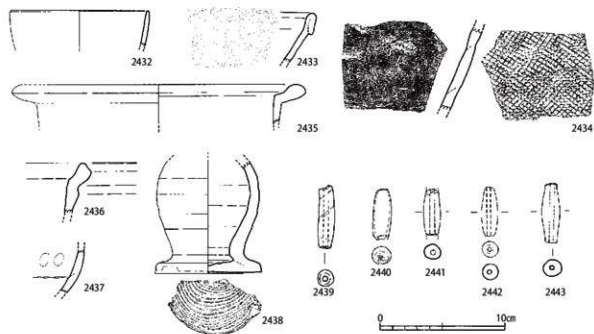
第476図 出土遺物実測図131



第477図 森の木遺跡 調査区西部遺構配置図(1/300)



第478図 森の木遺跡 調査区東部遺構配置図(1/300)



第479図 出土遺物実測図132-弥生時代-近世-

第4章 まとめ

第1節 旧石器時代後期

1 編年上の位置

旧石器時代後期の石器類は、その多くが縄文時代の遺構や包含層中から出土したもので、本来の包含層であるIV層中からの石器類はあまり多くない。そのためもあって、旧石器時代の石器類と同じく同系統の泥岩を多用した縄文時代草創期・早期の石器との区分は、典型的なもの意外は困難であった。IV層の下部に約30,000年前に降灰したAT（始良 Tn 火山灰）が観察されたが、これによりAT降灰以後の時期での位置づけとなる。

まず、森の木遺跡出土の石器類の特徴を簡単に示しておく。やや先細りの石刃を用いた片島型石刃尖頭器4点（第345図422～424、第346図432）、片島型石刃尖頭器の平面形態に近い横長剥片素材のナイフ形石器（第345図421）、石刃を素材にした使用痕ある剥片やスクレイパーが約26点、今峠型ナイフ形石器（第353図519）1点が出土している。以上が、標識的な資料であり、時期区分の比較資料とした。特に、片島型石刃尖頭器は、中型から小型の石刃を用いることが特徴で、初期は中型の石刃と小型の石刃を用い、後期には小型の石刃を用いることが知られている（大分県教育庁埋蔵文化財センター2009）。なお森の木遺跡からは、確実な角錐状石器、有茎剥片尖頭器、二側縁加工のナイフ形石器が出土していないことを押さえておく。

大分県内で最も旧石器時代編年の枠組みが分かる大野川中流域での層的事例から、AT火山灰の上に①二側縁加工のナイフ形石器を主体とする段階、②埋谷型ナイフ形石器を主体とする段階、③今峠型ナイフ形石器・剥片尖頭器・角錐状石器を主体とする段階、④初期：片島型石刃尖頭器（かつて片島型ナイフ形石器と呼称したもの）を主体とする段階、⑤後期：片島型石刃尖頭器を主体とする段階という変遷が知られている。こうした変遷のなかで森の木遺跡の石器類がどのような位置にあるのかを考えたい。

今峠型ナイフ形石器は1点だけで、実体が分からないが、③の段階頃に使われたのだろう。片島型石刃尖頭器の系譜を考える為に、素材の石刃について触れておく。石刃は、二側縁加工のナイフ形石器の素材として使われるが、ATの上位では、AT直上の①の段階と、④・⑤の段階に石器の素材や使用痕ある剥片・加工痕ある剥片として使われている。特に森の木遺跡の石刃の特徴として、やや幅広であることと、表面側にボジ面がないことがある。このボジ面がないということは、剝離された石核が剥片素材の小口から剝離するということではなかったということを示している。したがって森の木遺跡の石刃尖頭器は、幅広の例が多いことから④の段階に平行すると考えられ、多くの石刃もこの段階のものと考えられる。

なお石器の石材は、その多くが泥岩であることが分かった。この遺跡での泥岩は、華大以上の例を含め、大小様々な石核・剥片・石器などがあるが、質的には脈が入るなど良質とはいえない角礫の石材である。しかも多くは流紋岩に比べて質が悪く、打面や打点を入れ替えて剝離した痕跡のある石核が多い。良好な石刃樹はないが、その剝離面から角礫の角部を取り込むようにして剝離した形跡が窺える（第13図13・14、第350図473・476）。

2 意義

森の木遺跡で旧石器時代資料が出土したことは、これまで県南地域における当該期の様子が多少なりとも分かったということに意義がある。特に、この地域（県南地域）の旧石器時代の石器石材として、主体を占めていたのが泥岩ということがわかった点は大変大きい。これまで大野川と五ヶ瀬川地域では、傾山系の本谷山付近から流下した流紋岩を旧石器時代後期の石器石材とすることで知られていた。当然、大野川と五ヶ瀬川に挟まれた県南地域でも大野川・本谷山系の流紋岩を石材とする多量の石器の存在が予測されていたところである。しかし森の木遺跡では予測に反して泥岩を多用していたということである。筆者はかつて大野川本流沿いをその外側方向へ遡るにたがひ、大野川・本谷山系の流紋岩を石材とする石核や石器が石器製作やメンテナンス等によって消耗・消費し、そして遠隔地周辺の様々な石材を臨時的に用いていることを指摘したことがある（大分県教育委員会1999）。この図式でいえば森の木遺跡での居住者たちは、遠隔地で石材を補給したということになるのである。石器石材のほとんどを近隣の泥岩を用いているのである。しかもこの遺跡の旧石器時代人は、ふんだんに泥岩を石器石材としたようで、華大以上の石核も多い状況である。おそらく大野川と五ヶ瀬川方面から遊動してきた人々が、臨時的ではなく、泥岩を主要な石材として選択していたことが判明した点に意義がある。

第2節 縄文時代草創期

1 土器の分類

森の木遺跡の中心となるのは、多数の堅穴建物と細長い戸穴である。これらの遺構からは隆帯文系の土器とナデ調整の無文土器が大量に出土している。このことから森の木遺跡の堅穴建物は最大・大分



第480図 隆帯文土器口縁部分類

果初であるとともに、国内でも屈指の古さを有する集落であることは明らかである。こうした点から森の木遺跡出土の縄文時代草創期の土器群の特徴を抽出・分類・比較し、その位置づけをおこないたい。まずその方向性として、隆帯が消失し無文土器に移り代っていくことを念頭におき、草創期土器群の実体把握を目的とする。また、隆帯上に刻みや刺突がみられる例を隆帯上施文と呼び、ない例を隆帯上無文と呼ぶことにする。なお隆帯がない例に施文している場合においても、隆帯が明確化する以前の施文伝統を引き継いでいるとみなされることから擬隆帯上施文と呼ぶ。

隆帯文系1類：低く幅広い隆帯を口縁部外面に直下に2条貼り付けたもので、隆帯間がナデによって低く連結している。

- ＃ 2類：口縁に接して1条の隆帯を貼り付けたもので、幅狭い2A類と幅広い2B類からなる。
- ＃ 3類：隆帯が幅めて低く目立たないか、全く貼り付けてない場合、擬隆帯上施文の元になる土器。
- ＃ 4類：口縁端部外面側のやや下側に横方向の隆帯を貼り付けた例。
- ＃ 5類：幅広い隆帯の直下に細い隆帯を貼り付けた例で、1類と2B類の中間的な特徴を有する。

以上のうち、隆帯文系2B類は段が高いものと低いものがある。

隆帯上施文・擬隆帯上施文については、以下のような種類がある(第481図)。

隆帯上施文・擬隆帯上施文a種：綾杉状・矢羽状の刻目をいれた例

- ＃ b種：単純な刻目を入れたもの。
- ＃ c種：垂下する短沈線(ヘラ刻み)を入れた例。
- ＃ d種：斜行する短沈線(ヘラ刻み)を入れた例。
- ＃ e種：連続して鋸刃状・山形状の刻目もしくは短沈線を入れた例。
- ＃ f種：X字状/格子目状の刻目を入れた例。隆帯の下にも施文する場合がある。
- ＃ g種：横立連続への字爪形状刻目・刺突を入れた例。
- ＃ h種：ノ字状刻目・刺突を加えた例で、2段の例と、3段の例がある。
- ＃ i種：棒状工具で円形刺突を加えたもので、1段、2段、3段の例がある。
- ＃ j種：D字状の刺突をした例で、1段、2段、3段の例がある。
- ＃ k種：半円形竹管状の刺突を入れた例で、1段、2段、3段の例がある。
- ＃ m種：円形竹管状の刺突を入れた例で、3段の例がある。
- ＃ n種：貝殻文(腹縁文を含む)
- ＃ o種：ハの字爪形状の刺突を刺突した例。
- ＃ p種：左下がりの斜行短沈線を密に引いた後、右下がりの斜行短沈線を0.4cmから0.7cmの間隔を置いて施した例。
- ＃ q種：無文

以上、隆帯上施文・擬隆帯上施文の種類についてはa種～p種の15のパターンが確認された。次に隆帯の特徴である、隆帯文系1類～4類と隆帯上施文・擬隆帯上施文a種～q種の組み合わせは以下のとおりである。

隆帯文系1類a種(S383:第35図152、S358:第31図106、S245:第21図41、S246:第24図76、S383:第35図152)

計5点

降帯文系1類h種 (S245: 第21図41、9D区: 第31図108) 計2点

降帯文系2A類c種 (S383: 第35図150・151、9E区: 第357図574、10D区: 第357図575、9D区: 第357図572、10D区: 第357図573、12F区: 第357図583) 計7点

降帯文系2A d種 (S245: 第21図45、S383: 第35図146。) 2点

降帯文系2A類e種 (S245: 第21図38、S383: 第35図145、9B区: 第357図576、9C区: 第357図577、10C区: 第357図578) 計5点

降帯文系2A類f種 (S245: 第21図39・40、9D区: 第357図579・580、10C: 第357図581、11F/9E: 第357図582) 計6点

降帯文系2A類g種 (12E区: 第357図567、9D区: 第357図568、10E区: 第357図569) 計3点

降帯文系2A類h種 (S383: 第35図149、2A区: 第356図552、10C区: 第357図564) 計3点

降帯文系2A類i種 (S383: 第35図144、9D区: 第356図545・546・551・559、10C区: 第356図547、9C区: 第356図548、9E区: 第356図549、8C区: 第356図550、10D区: 第357図584) 計10点

降帯文系2A類j種 (S190: 第37図39、S246: 第24図73、10C区: 第357図566) 計3点

降帯文系2A類k種 (8E区: 第356図561) 計1点

降帯文系2A類p種 (S383: 第35図148) 計1点

降帯文系2A類q種 (S245: 第21図50、S246: 第24図77、S273: 第27図95、S277: 第28図101、S383: 第35図147・155、9B区: 第358図589、9C区: 第358図592・594、9D区: 第358図587・588・590・591・593・596、11E区: 第358図595) 計16点

降帯文系2B類i種 (S245: 第21図46、S277: 第28図102、S358: 第31図105、S259: 第40図199、8D区: 第356図557)

計5点

降帯文系2B類j種 (10D区: 第356図560、11D区: 第357図565) 計2点

降帯文系2B類o種 (S245: 第21図48) 計1点

降帯文系2B類p種 (9D/11F区: 第358図597) 計1点

降帯文系2B類h種 (9C区: 第356図555) 計1点

降帯文系2B類m種 (10B区: 第356図562) 計1点

降帯文系2B類n種 (9D区: 第357図585、8D区: 第357図586) 計2点

降帯文系3類c種 (S246: 第24図74) 計1点

降帯文系3類d種 (S245: 第21図42、S277: 第28図96) 計2点

降帯文系3類f種 (S246: 第24図75) 計1点

降帯文系3類h種 (8D区: 第356図539) 計1点

降帯文系3類i種 (S277: 第28図97、S358: 第31図105、9E区: 第356図542、9D区: 第356図538、10C区: 第356図534・536、10D区: 第356図535・537、廃土: 第356図541、11E区: 第356図543) 計10点

降帯文系3類j種 (S245: 第21図43/44) 計1点

降帯文系3類k種 (9F区: 第356図558) 計1点

降帯文系4類p種 (S245: 第21図51/52) 計2点

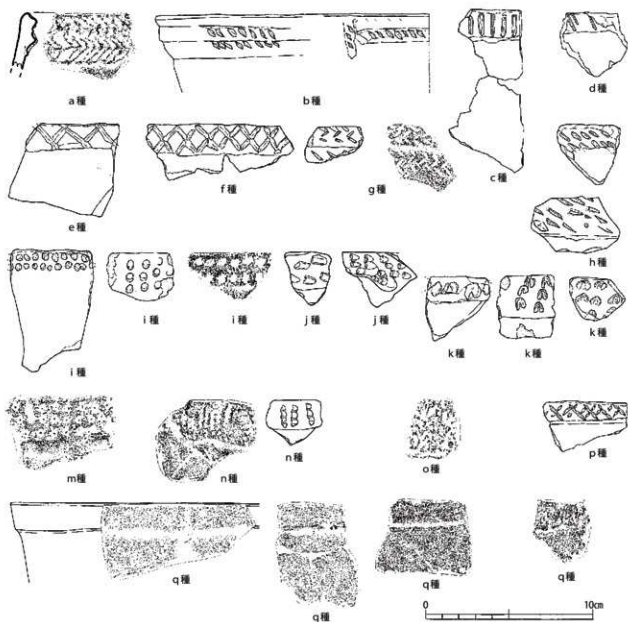
※なお降帯上施文にあるものの、不明瞭で分類のできない降帯文系5類がある (9D区: 第356図554)。

降帯文系土器のなかで1類と結びつく降帯上施文はa種・h種の3種類9点、2a類では10種類55点、2B類は7種類13点、3類は7種類17点、4類は1種類2点である。このように降帯文系土器のなかで2a類が中心をなしている。以上のように降帯文系土器を分類してきたが、共通する特徴もある。特に著しいのは、1類を含めて降帯を口縁端部と高さを揃えるように貼り付けた例が多いことが挙げられ、口唇部と貼り付け部分が一体化して平坦面を形成した例も多い。また降帯を口唇部より高く張り付けたことに起因して、降帯の上端から口唇部の内面側にカマテ斜めに低く傾斜する内向傾斜面がある (降帯文系2A類: 第357図578、降帯文系2B類: 第31図105、第356図562、第357図586、降帯文系5類: 第356図554)。このように内向傾斜面は、上記分類間を越えて存在する。降帯文系3類は各種降帯上施文と結びつく例が多く、その中心は1種で10点あり、他

は1、2点である。このほか、大きくは1類c種に含まれるが、横方向の隆帯間が僅かに開くことと、やや細く、垂下する隆帯が横方向の隆帯上を横断する例である(第414図1809)。この例については楔形細石瓦板に伴う例かもしれない(第344図415)。

隆帯文土器に伴う無文土器は、これまで触れてこなかったが、竪穴建物S245/S246/S273/S277/S358/S383/からも出土している。実質的には隆帯や文様のない無文土器となる。これらの土器は、ナデ調整を行っただけの土器である。この無文土器口縁部の器形が外傾・直行・外反である。底部は隆帯文土器と同様、竪穴建物から出土例を見ると、平底である蓋然性が高い。隆帯文系土器も無文土器も、底部まで繋がる土器がないため詳らかでないが、竪穴建物のS245/S246/S273/S358/S383から平底部が出土しており、平底を基本とした器形となる。隆帯文系土器においては、口縁部が直行・外傾を基本とするもので、平底部から胴下半で外傾しつつ、胴部が直行気味に立ち上る器形が推定される。無文土器も平底部から同様に立ち上がりながら、口縁部は外傾(第21図53、第31図111~114)・直行(第27図91・92、第21図54、第35図158・159)・外反(第21図55、)するという単純な器形と考えられる。

南部竪穴建物群とその周辺の遺構から157点ほど単純に無文土器が出土するが、これらの無文土器についてみてみよう。S159では、直行(第58図220~223)とやや外傾(第58図224)のナデ調整無文土器があり、これに僅かに上げ底の平底の底部破片(第58図225)が伴う。後者の土器は、残存部の最下部が底部方向に向かって傾斜が緩やかになる兆しが窺える。S160(第



第481図 隆帯文土器・擬隆帯文土器の分類図

60 図 227)・S162(第 63 図 223)・S186(第 68 図 238)は直行気味の破片である。S172(第 67 図 236)外傾する破片である。S347は、混入と推定する条痕調整無文土器 1 点・押型文土器 2 点を除く 19 点の無文土器が出土しているが、いずれもナデ調整の直行・外傾・内傾する資料である(第 76 図)。S347 には、底部平底に近い丸底の大型破片がある(第 76 図 262)。これは、半球形の丸底である二日市洞穴第 7 文化層出土の無文土器の丸底部と S347 の例は、後者が曲率が低いという違いがある(九重町教育委員会 2004)。また S347 では、1 点の条痕調整無文土器(混入と考えられる)を除くと、他は全てナデ調整無文土器であることが二日市と違っている。こうした南部堅穴建物群出土のナデ調整無文土器は、内傾する土器を除くと北宮堅穴建物群で隆帯文系土器とともに出土したナデ調整無文土器との違いを識別するのは難しい。したがって南部堅穴建物群とその周辺から出土するナデ調整無文土器群も縄文時代草創期の無文土器と考えるのが自然である。なお、森の木遺跡のⅢ層からは図示してきたように多量の押型文土器が出土している。その一方で堅穴建物や炉穴などの遺構から出土する押型文土器は、1 点もしくは 2 点程度と少ない。更によれば、これまでの研究史に照らしてみても尖底の押型文土器と平底形態のナデ調整無文土器を同一時期と考えることはできない。したがって、押型文土器は堅穴建物や炉穴などに混入したものと考えられる。

2 森の木遺跡出土の縄文時代草創期の土器編年

九州地方の縄文時代草創期の土器の時間的・層位的な変遷は、長崎県の福井洞穴遺跡、泉福寺洞穴遺跡の層位的な成果から、1 隆起線土器(豆粒土器・初期隆帯文土器・細隆線土器)、2 爪形文土器と変遷し、これには西海技法・福井技法という技術にかかわる福井型細石刃核(楔形細石刃核)と、それから生産された細石刃が伴う。こうした福井型細石刃核などは鹿児島県地域からも出土しており、少なくとも爪形文土器の段階まで広がっていたことが窺える。しかし九州地域においては、細石刃を伴う隆起線土器と爪形文土器の間、爪形文土器以降の土器の型式学的な説明ができない。おそらく爪形文土器以降の土器は、福岡県下における最近の事例や大分県二日市洞穴第 9 文化層・帝釈峡渡渡洞穴等の底部平底土器の存在などからすると、概ね九州北半部がナデ調整無文土器、南九州は隆帯文系土器が広がっていたと考えられる。例えば、爪形文土器の C14 年代測定値は、福井洞穴 2 層: Gak-949: 12400 ± 350・IAAA-132061: 12,790 ± 40・河陽 F 遺跡 13 層: Beta-154931: 12,360 ± 50、それに対し南九州の隆帯文系土器は、三角山 I 遺跡: IAAA-31693: 11,480 ± 70・IAAA-31694: 11,990 ± 70・IAAA-31695: 12,040 ± 70・IAAA-31696: 11,630 ± 60・IAAA-31697: 11,090 ± 70・MTC-05834: 12,080 ± 70、志風洞遺跡: Beta-118963: 11,860 ± 50・Beta-118964: 11,780 ± 50 の年代が出ており、細石刃を伴う爪形文土器のほうが古い年代が出ていた。したがって南九州隆帯文土器のうち古段階に置かれることの多い三角山遺跡例を含め、南九州隆帯文土器の年代は 12,000 年代の末から、その主体は 11,000 年代にあるとみるのが自然である。今のところ、南九州の隆帯文土器と福井・泉福寺系の爪形文土器は、型式学的に連続性が全く窺えないのが現状である。この点を説明するために、筆者は、かつて爪形文土器の影響が及ばなかったと考えられる種子島域に存在した北部九州系の隆起線土器が隆帯文土器へと変化して、期間の短い爪形文土器段階(楔形細石刃核を伴う段階)の終了とともに北上したという見通しを述べたことがあるが、その点を踏まえて森の木遺跡の土器を中心に編年観を述べてみたい。まず基本的な考え方として、平底と考えられる隆帯文系土器が環状の北部堅穴建物群の遺構内とその周辺地域で集中して出土したことで、環状という規則的な建物配置の成立は集団による集落構成上の規則と意思が働いており、仮に時間差があっても規則的効力が窺いされる程度のものであったと解釈した。また出土した土器の文様は多様でありながら一条隆帯と隆帯のない無文土器に限定されるので極めて短期間であると推定した。この二つの点に立脚して編年を考えた。

さて代表的な南九州隆帯文系土器編年を提示した村上昇は 4 段階 13 細分(掃除山・三角山段階→堂地西段階→榎屋形段階→水迫・岩本段階)と編年し(村上 2007)、児玉健一郎も隆帯文以前(加治屋園・塚ノ越段階)→隆帯(線)文 I 期(桐木耳取段階)→隆帯文 II 期(三角山・奥ノ仁田・三幸ヶ野・伊敷段階)→隆帯文 III 期(榎屋形・堂地西・白鳥平段階)→隆帯文 IV 期(岩本段階)に編年する(児玉 2008)(註)。両者とも大局的に同じような変遷の方向で理解している。今、この段階編年を論評する余裕はないが、森の木遺跡の隆帯文系の主要な 2 A 類・2 B 類が全く含まれていない。その中で村上の編年図のなかにある刺突文が施された宮崎 V 類・薩摩 V 類・種子島 VII 類は隆帯が消失したもので、水迫・岩本段階(3 細分)の中葉に位置づけられている。この刺突文土器は、森の木遺跡の隆帯文系 3 類・j 類に相当するものである。その上で、森の木の隆帯文系 3 類・i 類・j 類には 2 A 類・2 B 類の他に新しい様相の無文土器を含むことを考えると村上編年のこの部分については支持しやしない。ここで森の木遺跡から出土した縄文時代草創期の土器に類似した他遺跡の状況をおこ。

註 分かりやすくするために兎王健一部の段階区分の末尾に総けて代表的な遺跡名を入れ、段階名とした。なお、福井・泉福寺系の爪形土器と細石刃が相伴した鹿兒島県上場遺跡の例を、兎王は隆帯文Ⅲ期に置いている。

隆帯文系1類 1類a種の土器は(S383:第35図152、S358:第31図106)、1、2条の隆帯を貼り付け、軽くナデた後に綾杉状・矢羽根状・斜行の刻目を隆帯上に貼り付けた例であるが、1類b種も近いものであろう。これと同じような加飾は宮崎県堂地西遺跡のⅡ-A-1類・Ⅱ-A-2類に存在する。しかし堂地西式土器Ⅱ-A-1類・Ⅱ-A-2類の特徴は口縁部外部方に隆帯を折り曲げるように太く突出・肥厚させ、外面側の隆帯を口縁部のやや下に2条を基本としつつも3条貼り付けるのが特徴であるが、森の木1類は口縁部が平坦・丸・緩く尖るなど、基本的に2条隆帯であるのが特徴である。そうした森の木例の特徴を有した例に宮崎県塚原遺跡の第1類がある(宮崎理セ2001)。隆帯上の綾杉状・矢羽根状の刻目については宮崎県王子山遺跡のものに類例がある。

隆帯文系2A類 この一群は、口縁部直下の外面側に幅広い半円形や箱形の隆帯を1条貼り付けており、口唇部と一体化した例も多く、表面には様々な文様が施されている。こうした幅広い断面半円形や断面長方形の隆帯については、宮崎県王子山遺跡(宮崎県教育委員会2011)や宮崎県尾花A遺跡(宮崎県埋蔵文化財センター2009)のものに類例がある。文様については異なる場合が多く、特に尾花例は貝殻腹線を利用した施文が目立つ。宮崎県木脇遺跡では、1条隆帯の上に森の木分類的c種(垂下する短丸線)とi種(刺突)の文様を施したものがある。

隆帯文系2B類 この一群は幅広い隆帯を1条貼り付けたものであるが、その厚さには高い例と低い例がある。後者は、ほとんど隆帯の意味があまりないもので、型式論的には隆帯上施文・細条帯上施文を施した隆帯文系土器3類に近いと言える。幅広い隆帯を貼り付けた土器は、尾花A遺跡と宮崎県木脇遺跡で出土している。両遺跡では、森の木遺跡の2B類n種に相当するような貝殻腹線刺突を施した例がある。しかし尾花Aと木脇の例は、口縁部が尖り気味で細くなるほか、幅広い隆帯の下端が貼り付け面から高くなっているという点に特徴がある。しかも隆帯上施文を施さない例(無文)についても同様な傾向が観察される。この点は、ほぼ均等な高さの森の木例と違いがある。

隆帯文系3類 この一群は、極めて低く目立たないか、全く貼り付けない場合であるが、貼り付けないというだけではない。類例に宮崎県稚屋形第1遺跡(宮崎県教育委員会1996:14頁)・同県清武上猪ノ原遺跡第2地区(平成13・14年度調査:清武町教育委員会2009:22頁)などの擬隆帯上施文がある。無論、両遺跡は、おそらく堂地西式に関わる系譜だと思われ、その特徴として密接する大型爪形状(註)を施文することで異なるが、貼り付けた隆帯が形骸化して消えるという軌を一にした方向性が窺える。この方向性は、大分県地域においては、南九州と異なって縄文時代早期前半頃に無文土器段階が続くということが知られており、これに繋がっていくものと捉えられる。なお隆帯文系3類は、円形の刺突など、i~k種の文様が目立っており、これらについては、南九州における縄文時代草創期終末期とも言われる鹿兒島県水迫遺跡7層出土の土器に例があるものの、類例はあまり多くない。

註 筆者は福井・泉福寺系の爪形土器と南九州の「爪形土器」を似ても似つかぬ時期の土器と考えており、それと区別するために爪形状文としている。

隆帯文系4類 この一群は、最も数が少なく、2点出土しているにすぎないし、類例もない。隆帯上施文をしていないことから無文土器や隆帯文系2A類q種に通じるところがある。

無文土器 無文土器は北部堅穴建物群とその周辺、南部堅穴建物群とその周辺の遺構から出土している。これと同様な無文土器が出土しているのは宮崎県の木脇遺跡程度で、隆帯文土器も出土しているが、遺構から出土しておらず、その関係は不明である。通例、宮崎県や鹿兒島県では同様な隆帯文系の土器だけが無文土器を伴わずに出土するケースが多い。

以上見てきたように、隆帯文系2B類・2A類・3類は、類例が少なく、尾花遺跡・木脇遺跡・王子山遺跡で森の木例に近い土器が散発的に数種ずつある。文様でみると、森の木では文様要素のi種・j種の刺突文やn種の貝殻腹線(この場合は復縁刺突文)があるが、これらは鹿兒島県の水迫遺跡に特徴的な文様でもあることから両遺跡は近い時期にあると推定する。こうした草創期土器群に関して周辺地域からみた森の木遺跡の隆帯文系土器の特徴は、その主体をなす2A類・2B類・3類にあり、隆帯をつける場合は口縁部外面の最上部に1条貼り付け、多様な文様を施す点にある。したがって、2A類・2B類・3類に多様な文様を施した底部平底の土器を森の木1式土器とする。森の木遺跡の隆帯文系2A類・2B類・3類(森の木1式)に類似した例は尾花遺跡・木脇遺跡・王子山遺跡で出土しているが、上記した村上昇・兎王健一部の段階隔年には触れられて

いない。このことは森の木1式土器などの1条降帯文系の土器分布が宮崎県北部から大分県地域に偏った地域的展開をしていることを物語るのであろう。なお、森の木1式土器には既にふれたように降帯上に刺突するパターンもあり（降帯文系2A類1種・降帯文系2B類1種）、その意味では降帯が消失した村上昇編年の水迫・岩本段階中葉よりは僅かに古相と考えられる。

森の木1式土器に近い土器が出土した尾花遺跡・木脇遺跡・王子山遺跡では埜地西・椎形系の土器（線状もしくは矢羽状の文様をもつ土器）も共伴しているが、平底と思われるナデ調整無文土器も出土している。この組み合わせは、森の木遺跡の北部堅穴建物群における出土土器の組み合わせと同様であり、時期的に近いものと推定する。森の木遺跡においては、南部堅穴建物群からも平底と推定するナデ調整無文土器群がほぼ単純な形で出土しており、これら南北堅穴建物群で出土した平底のナデ調整無文土器を森の木2式土器としておきたい（註）。そして森の木2式土器単純段階は、平底のナデ調整無文土器ということで共通する帝釈馬渡岩陰遺跡第IV層出土の無紋平底と並行すると考えておく。

森の木遺跡の土器編年は、これまで述べてきたように平降帯文系土器とナデ調整無文土器が出土した北部堅穴建物群とほぼナデ調整無文土器しか出土していない南部堅穴建物群という土器様相の偏在性から、平底の降帯文系土器と平底のナデ調整無文土器の複合段階から平底のナデ調整無文土器単純段階という変遷の方向性が捉えられる。その後は、二日市洞穴遺跡第9文化層における平底の条痕調整無文土器の段階に繋がっていくと推定する。すなわち降帯文系の森の木1式土器とナデ調整無文土器である森の木2式土器の複合段階→森の木2式土器単純段階→二日市1式土器へと変遷していくと考える。東九州地域やその周辺では、二日市洞穴遺跡例で代表されるように押型文土器以前にナデ調整と条痕調整の無文土器の段階が続いていたことが知られている。こうした地域的な様相の始まりが東九州では森の木1式土器段階に芽生えていたということができると、他方、南九州では水迫式土器・前平式土器岩木タイプを経て円筒土器へと繋がっていくということだろう。

註 森の木2式土器は平底の底部で、口縁部が直行・外傾することを基本とした土器であるが、北部堅穴建物群とその周辺域で降帯文系土器と共伴し、南部堅穴建物群とその周辺の遺構からほぼ単純に出土している。この二様は時期差と考えられ、例えば弥生時代早期末の夜白II a 式土器単純段階と弥生時代前期初期の板付I式土器と夜白II b 式土器の関係に似ていると考えている。

3 堅穴建物の分布と集落の変遷

前節でも述べたように、堅穴建物から数少ない押型文土器が出土しているが、混入と考えている。大分県下では1948年（昭和23）の6月と11月に時期に調査された長良貝塚・下城遺跡の調査から押型文土器の研究が開始されて以来、2009年の森の木遺跡の調査までの61年間、数多くの縄文時代早期の遺跡調査があったにもかかわらず堅穴建物が見つかっていない。このことは、縄文時代早期段階の東九州地域における住まいに通常の堅穴建物とは違った居住方法があったのかもしれない。そこで近年、鹿児島県・宮崎県下で、降帯文土器段階の堅穴建物や煙道付伊穴が出土していることを考えると、森の木遺跡の北部堅穴建物群は南九州系の降帯文土器の影響を受けた降帯文土器段階の施設であったことも考慮される。そして南部堅穴建物群から出土したナデ調整無文土器と北部堅穴建物群で降帯文土器と共伴したナデ調整無文土器との同質性からすれば、南部堅穴建物群は北部堅穴建物群の系譜を引くものと理解できる。こうした理解を基本に森の木遺跡の集落について検討する。

ここでは堅穴建物の分布と土器との関係をみていく。森の木遺跡の堅穴建物は基本的に東部が扇形に開く舌状丘陵上に分布している。この分布状況をよく観察すると不規則に分布しているのではなく、一定のまとまりをもった堅穴建物群が2群分布しているように見える。この点は極めて重要な事柄であって、一定の基準・方針・規制が存在したことを窺わせている。その上であらためて分布をみてみよう。

北部堅穴建物群 舌状台地の北東部の区画で、3F東部から3C西部、8D中部から10D西部、9E北部の区画において、6基の堅穴建物が中央の遺構が少ない空間を取り囲むように分布している。このまとまりを前章・前節までの遺構説明で「北部堅穴建物群」と便宜的に記載してきた。この堅穴建物群の中央にある広場的な空間は、対角線にあたる堅穴建物と堅穴建物の距離は概ね9m～12m前後の距離をもっている（第482図）。堅穴建物間の距離が平均で約10mとすると、概々78.5m程度の面積をもつ小さくまとまった広場的空間である。この堅穴建物群を改めて北部堅穴建物群としておく。この北部堅穴建物群のうちS246・S385・S263などが接近または切りあっているが、それ以外は4m～6mの距離をおいている。これらのことから距離を保ちつつ空間を囲むという規制が働いていたと考えられる。

この北部堅穴建物群の形成時期を知るために出土した土器との関係についてふれておきたい（第482図）。北部堅穴建物群

のうち、S 245・S 277・S 358・S 383・S 273・S 246 から隆帯文土器が出土している。これにナデ調整の無文土器が伴出している場合もあるが、時期的に違和感のある他時期ものは出土していない。したがって隆帯文土器が出土した遺構は、無文土器がセット関係にある時期に造営されたと考えておきたい。なお包含層で出土した隆帯文土器群を前章で報告したが（第356図～第358図、第414図 1809～1811）、これを平面上におとしてみると調査区東端の低地部や4E区・4G区でも散発的に分布するものの、最も集中するのは北部竪穴建物群の範囲内であり、南部竪穴建物群からは1点も出土していない（第482図）。したがって、隆帯文土器の出土していないS 253を含めて北部竪穴建物群を縄文時代早期中期隆帯文土器段階末（森の木1式土器）の集落と推定する。

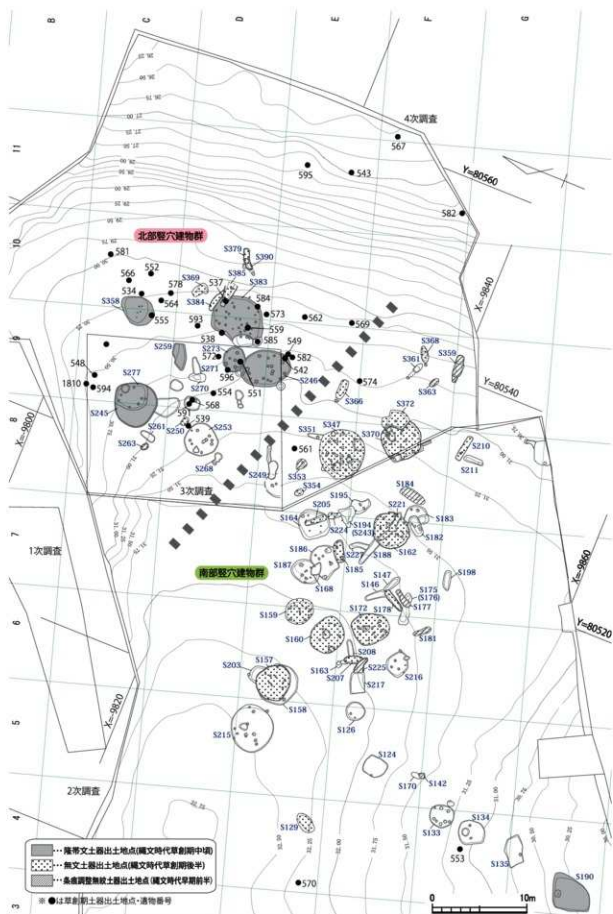
南部竪穴建物群 もう一つの竪穴建物群は、5E北部のS 215と5E北東部のS 126西端として、8E南部のS 347と8F東部のS 370を東端として、15基が帯状に連なるように、ほぼ東西方向に並んでいる。このまわりを前章・前節までの遺構説明で「南部竪穴建物群」と便宜的に記載してきたが、改めて南部竪穴建物群としておく。こうした竪穴建物の帯状分布は、間にS 172が位置するものの概ね北側と南側の2列（北側東西列・南側東西列）に分けられる。竪穴建物群の北側東西列と南側東西列の間は、東端部で約2mと狭いが、約4m近い開きのある回廊状の空間となっている。この南部竪穴建物群のうちS 168とS 186、S 158とS 157、S 370とS 372などが切りあっているが、それ以外は切りあいがなく1m～4mの距離をおいている。これらのことから距離を保ちつつ東西に並ぶという規制が働いていたと考えられる。

南部竪穴建物群の形成時期についてはどうであろうか。北部竪穴建物群と同様に南部竪穴建物群から出土土器を見ると、極僅かに新相の押型文土器等が混入しているが、そのほぼは全てナデ調整無文土器であり、これまで報告してきたとおりである。これに関連して出土した割片石器のなかで、押型文土器段階に特徴的な線形織等の太い脚部を有する石織は一切出土しておらず、無文土器段階の竪穴建物と考える。

このナデ調整無文土器の出土した遺構の分布をみると（第482図）、竪穴建物が北列のS 157・S 159・S 347、南列のS 172・S 162・S 370・S 372、北列と南列との間のS 160から出土している。その他の遺構では、S 129・S 163(207)・S 185・S 224(205)・S 221・S 366・S 210からナデ調整無文土器が出土している。こうしてみるとナデ調整無文土器がほぼ純粋に多量なりとも出土した竪穴建物は南部竪穴建物群に限定される。またその他遺構の土坑や炉穴からナデ調整無文土器が出土したのも南部竪穴建物群の周辺である。このような状況からすると、南部竪穴建物群の景観が東西方向に連続するという状況は、規制が機能した結果と考えられたが、その規制の働いた期間はナデ調整無文土器の段階に限定できる。またその連続性・規則性からするとナデ調整無文土器が出土していないS 215・S 168・S 186・S 164・S 126もナデ調整無文土器の時期に含めて考えることの蓋然性が極めて高い。したがって南部竪穴建物群をナデ調整無文土器段階（森の木2式土器）の集落とし、細長い炉穴の幾つかもその周辺から見ついていることから同様な頃に造営されたと考えたい。なお、竪穴建物と炉穴は、概ね後者が前者から僅かながら距離を置いているような状況がみてとれる。また両者が切りあっている場合もあるが、集落の存続期間中に前者に較べて使用期間が短い後者が廃絶・埋没した竪穴建物の場所で見つかったことが考えられる。

その後の集落景観 森の木2式土器段階の後、森の木遺跡の集落景観ははっきりしないが、土器の時期でいけば縄文時代早期前半の条痕調整無文土器の段階が考えられる。詳細な土器型式名は判断つかないが、条痕調整無文土器の段階の遺構が南部竪穴建物群とその周辺から出土している。遺構はS178・S 225・S 181・S 177・S 184・S 359などで、煙道付炉穴を含む炉穴である。条痕調整無文土器段階の炉穴は、大分県大分市にある野田山遺跡や同県豊後大野市市の久保遺跡から出土した事例があるので、この段階まで残るのは確実である。竪穴建物などの住居遺構ははっきりしないが、居住空間がこの辺りにあったことが推定される。その場合も、炉穴の分布域が南部竪穴建物群（森の木2式土器）の分布域に重なっているの、あるいは縄文時代早期初頭前後頃まで引き続き集落が存続した可能性はある。

なお遊状取っ手や口縁部形態・底部形態からみた縄文時代早期前半のナデ調整無文土器・条痕調整無文土器の時期は、大分市野田山遺跡の段階に相当する土器（第403図 1599）、宇佐市中原遺跡の段階に相当する土器（第386図 1227～1230）、国東市陽弓遺跡の段階に相当する土器（第394図、第395図 1445）などがある。早期中頃以降については、その初頭頃の稲荷山式土器を含め、早水台式土器、下菅生B式土器、田村式土器、手向山式土器、平梅I式土器、塞ノ神II式土器、轟4式土器、轟5式土器、羽島下層3式土器、船元式土器、福田K2式土器と変遷している。この変遷をみると現在の土器型式が全てであるのではなく、欠落した土器型式もある。また手向山式土器、平梅I式土器、轟4式土器、轟5式土器、羽島下層3式



第482図 縄文時代草創期・早期前半の土器分布と集落景観図(1/40)

土器、船元式土器、福田K2式土器は数量的に少ない。こうした土器の増減は、とりもなおさず森の木遺跡に居住した期間の長短や、集団構成員の規模に関する集落の状況を反映していると考えられる。

僅か1点しか出土していない手向山式系土器を除く押型文土器は、森の木遺跡のほぼ全域で出土している。この押型文土器段階の遺構と考えられるのが集石である。この集石も森の木遺跡の西部・東部に分布するが、最も集中するのが西部の斜面や谷部である。また手向山式系土器・森系の土器・平梅I式土器・塞ノ神II式土器・羽鳥下層3式土器の分布をみると西部地区に集中する傾向が窺える。こうした状況から押型文土器段階は遺跡の全域に展開しながらもその主体は西部に、手向山式系土器以降の諸段階も居住空間の主体は西部にであったと推定される。この背景として、炉穴が地面に細長い穴の中で火を焚くのに対し、集石は地面の上に露出した状態で加熱するという特徴がある。したがって集石が南面する谷部・斜面部に大半が位置するという状況からすれば、火を焚いて集石を加熱する際の火の管理・保全を効率的に行うために風除けとなる谷間の斜面部分で行ったことを示すと思われる、これが居住空間の主体を西部に移していたことの理由であろう。

煙道付炉穴について

最後に煙道付炉穴についてふれておきたい。南部堅穴建物群の南側列周辺を中心にして細長い炉穴が多数分布している。この中に煙道付炉穴と呼ばれる遺構がある。古墳時代後期のカマドに似て、炉穴本体の焚口から離れた煙出し部分を有する炉穴である。

幾つかある煙道付炉穴のうち、S205(第102図)・S249(第108図)・S359(第111図)・S361(第113図)・S366(第114図)・S368(第116図)・S390(第119図)を挙げる。構築方法は、最初に幅60cm～100cm前後、長さ200cm～300cm程度の穴を掘る。残りのよい炉穴での回転軸の横断面形は深い逆台形である。この細長い炉穴を掘り下げていくと、どちらか一方の端部近くの底部に20cm、30cm程度の直径を有する赤化した焼土面がある。この焼土面に隣接する炉穴端部の斜面下部を精査すると、焼土・炭灰・黒土等が入り混じった部分(焚口部)が出てきて、掘削すると奥に続いており、この段階で煙道付炉穴であることが分かる。次に煙道が伸びている方向の外部で検出層(IV層上面:黄褐色のローム質土)を精査し、煙出し口を把握する。この焚口部と煙出し口間が地下の煙道で、その上はブリッジとしておきたい。このブリッジ部分は、IV層の土と同じローム質土であり、IV層上面の検出面周辺でも、その痕跡はほぼわからない。煙出し口までの煙道部分の長さがS361のように90cmもある場合がある。そこで、煙道が通っていると想定されるラインに直交するサブトレンチを設定して掘り下げると、検出面から煙道幅部分まで垂下する不整合面が観察された。これが上記に挙げた遺構において、煙道が通っている部分を破線で表現した部分である。この発掘所見が意味するのは、①炉穴本体と煙道部を上から同時に掘り下げ、②焚口から煙出し口までの間に棒や草などを入れ、③掘りあげていたIV層の土を②の上にもどしかためる、④中に敷きこんでいた棒や草などをぬきとることによって煙道付炉穴が完成したということを示している。なおS390・S205・S366ではナデ調整無文土器、S359は茶痕調整無文土器が出土しており、草創期後半から早期前半の運用が想定される。

《参考文献》

- 雨宮瑞生 1995『南九州縄文時代草創期土器編年研究の現状』『旧石器から縄文へ』鹿児島県考古学会 27-34
 大分県教育委員会 1999『スポーツ公園内遺跡群発掘調査報告書(第2分冊)一方平I遺跡』大分県文化財調査報告書 第103編
 大分県教育庁埋蔵文化財センター『茶屋久保B遺跡』大分県教育庁埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第45集
 清武町教育委員会 2009『清武上猪ノ原遺跡』2 清武町埋蔵文化財調査報告書 第26集
 九重町教育委員会 2004『大分県二日市洞穴遺跡 分析編』九重町文化財調査報告書 第27輯
 児玉健一郎 2008『南九州隆帯文・瓜形文系土器』『小林達雄先生古稀記念企画 総覧 縄文土器』アムプロモーション、28-33
 村上 昇 2007『日本列島西部における縄文時代草創期土器編年』『日本考古学』第24号、日本考古学会、1-20
 都城市教育委員会 2011『王子山遺跡』都城市文化財調査報告書 第107集
 宮崎県教育委員会 1985『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告(堂地西遺跡)』第2集
 宮崎県埋蔵文化財センター 2001『松元遺跡・井手口遺跡・塚原遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター報告書 第44集
 宮崎県埋蔵文化財センター 2009『尾花A遺跡I』宮崎県埋蔵文化財センター報告書 第185集
 宮崎県教育委員会 1996『椎屋形第1遺跡・椎屋形第2遺跡・上の原遺跡』

森の木遺跡遺物観察表

発掘番号	区画	遺物番号	遺物	層位	種類	形状	口径 (mm)	残存高さ (mm)	遺跡番号	外周の文様・装飾	外面の色	内面の文様・装飾	内面の色	発掘日	調査者	備考	
35-113	B	KCH	7079	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	3.80 a	-	素焼	いよひ模焼	ナベ	焼褐色	森 真	森	
35-114	B	KCH	7080	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	3.20 a	-	粘り付、ナベ (漆 塗)	深褐色	ナベ (漆塗)	深褐色	森 真	森	
35-117	B	KCH	7081	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	2.80 a	-	ナベ (漆塗)	深褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-118	B	KCH	7084	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	4.30 a	-	ナベ (漆塗)	褐色	ナベ	焼褐色	森 真	森	
35-119	B	KCH	7087	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	4.30 a	-	ナベ (漆塗)	褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-120	B	KCH	7088	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	4.90 a	-	ナベ (漆塗)	深褐色	ナベ (漆塗)	深褐色	森 真	森	
35-121	B	KCH	7089	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	3.50 a	-	ナベ (漆塗)	深褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-122	B	KCH	7090	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	4.90 a	-	ナベ (漆塗)	深褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-123	B	KCH	7090	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	3.70 a	-	ナベ (漆塗)	褐色	ナベ	焼褐色	森 真	森	
35-124	B	KCH	7094	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	2.50 a	-	素焼	いよひ模焼 色・黒色	ナベ	焼褐色	森 真	森	
35-125	B	KCH	7095	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	3.20 a	-	ナベ (漆塗)	褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-126	B	KCH	7096	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	4.00 a	-	ナベ	褐色	ナベ	褐色	森 真	森	
35-127	B	KCH	7096	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	4.40 a	-	ナベ	いよひ模焼 色・焼褐色	ナベ	いよひ模焼 色・焼褐色	森 真	森	
35-128	B	KCH	7096	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	6.80 a	-	ナベ	深褐色	ナベ	褐色	森 真	森	
35-129	B	KCH	7097	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	2.50 a	-	ナベ	深褐色	ナベ	褐色	森 真	森	
35-130	B	KCH	7094	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	3.00 a	-	ナベ (漆塗)	深褐色	ナベ	褐色	森 真	森	
35-131	B	KCH	7098	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	6.50 a	-	ナベ (漆塗)	深褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-132	B	KCH	7097	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	-	-	素焼	いよひ模焼 色・焼褐色	ナベ (漆塗)	いよひ模焼 色・焼褐色	森 真	森	
35-133	B	KCH	7093	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	3.70 a	-	ナベ	いよひ模焼 色・ナベ	ナベ	焼褐色	森 真	森	
35-134	B	KCH	7092	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	6.20 a	-	ナベ (漆塗)	褐色	ナベ	褐色	森 真	森	
35-135	B	KCH	7091	3509	-	早期弥生土器	深鉢 胴部	-	3.30 a	135 a	ナベ (漆塗)	いよひ模焼 色・焼褐色	ナベ (漆塗)	いよひ模焼 色・焼褐色	森 真	森	
35-142	B	H010	7032	3303	-	弥生土器ナベ	口縁部	-	-	-	素焼	褐色	ナベ	焼褐色	森 真	森	
35-143	B	H010	7054	3303	-	弥生土器ナベ	口縁部	-	-	-	素焼	褐色	ナベ	焼褐色	森 真	森	
35-144	B	H010	7028	3303	-	弥生土器ナベ	口縁部	-	-	-	ナベ、竹管支	深褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-145	B	H010	7029	3303	-	弥生土器ナベ	口縁部	-	-	-	素焼	褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-146	B	H010	7029	3303	-	弥生土器ナベ	口縁部	-	-	-	素焼	褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-147	B	H010	7031	3303	-	弥生土器ナベ	口縁部	-	-	-	ナベ	深褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
35-148	B	H010	7023	3303	-	弥生土器ナベ	口縁部	-	-	-	素焼	褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-149	B	H010	7027	3303	-	弥生土器ナベ	口縁部	-	-	-	素焼	褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-150	B	H010	7028	3303	-	弥生土器ナベ	口縁部	-	-	-	素焼	褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-151	B	H010	7026	3303	-	弥生土器ナベ	口縁部	-	-	-	素焼	褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-152	B	H010	7030	3303	-	弥生土器ナベ	口縁部	-	-	-	ナベ、漆管支	褐色	ナベ	褐色	森 真	森	
35-153	B	H010	7024	3303	-	弥生土器ナベ	口縁部	-	-	-	ナベ	褐色	ナベ	褐色	森 真	森	
35-154	B	H010	7033	3303	-	弥生土器ナベ	口縁部	-	-	-	素焼	褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-155	B	H010	7033	3303	-	弥生土器ナベ	口縁部	-	-	-	漆管支	深褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-156	B	H010	7032	3303	-	早期弥生土器	口縁部	-	-	-	ナベ	深褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-157	B	H010	7038	3303	-	早期弥生土器	口縁部	-	-	-	ナベ	深褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-158	B	H010	7036	3303	-	早期弥生土器	口縁部	-	-	-	ナベ	深褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
35-159	B	H010	7031	3303	-	早期弥生土器	口縁部	-	-	-	ナベ	深褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-160	B	H010	7020	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	灰褐色	ナベ	灰褐色	森 真	森	
35-161	B	H010	7049	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	赤褐色	ナベ	赤褐色	森 真	森	
35-162	B	H010	7019	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ、赤褐色	深褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
35-163	B	H010	7052	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	赤褐色	ナベ	赤褐色	森 真	森	
35-164	B	H010	7026	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	深褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
35-165	B	H010	7047	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
35-166	B	H010	7028	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
35-167	B	H010	7028	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	深褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-168	B	H010	7030	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	深褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
35-169	B	H010	7030	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	褐色	ナベ	褐色	森 真	森	
35-170	B	H010	7039	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
35-171	B	H010	7033	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
35-172	B	H010	7029	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
35-173	B	H010	7029	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
35-174	B	H010	7030	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
35-175	B	H010	7029	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
35-176	B	H010	7028	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
35-177	B	H010	7029	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
35-178	B	H010	7026	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
35-179	B	H010	7021	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	深褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
35-180	B	H010	7033	3303	-	早期弥生土器	胴部	-	-	-	ナベ	褐色	口縁部	深褐色	森 真	森	
409-089	4E	4E	7262	3359	-	弥生土器ナベ	口縁部	-	-	-	素焼	深褐色	ナベ	深褐色	森 真	森	
514-203	4E	4E	7006	3157	-	縄文土器	器 口縁部	(14.4)	3.2	-	ナベ、縄文土	深褐色	褐色	深褐色	少	森	下部弥生土器
514-204	4E	4E	7227	3157	-	早期弥生土器	口縁部	-	-	-	ナベ	褐色	ナベ	褐色	少	森	
514-205	4E	4E	7298	3158	-	縄文土器	口縁部	-	-	-	ナベ	深褐色	褐色	深褐色	少	森	
514-206	4E	4E	6799	3139	4	早期弥生土器	口縁部	-	-	-	ナベ	深褐色	ナベ	深褐色	少	森	
514-207	4E	4E	6782	3139	4	早期弥生土器	口縁部	-	-	-	ナベ	深褐色	ナベ	深褐色	少	森	
514-208	4E	4E	6703	3139	4	早期弥生土器	口縁部	-	-	-	ナベ	褐色	口縁部	深褐色	少	森	

探検回数	区画	遺物番号	層位	種類	器種	口径 (mm)	残存高 (mm)	遺跡層 (m)	外装の文様・装飾	外装色調	内装の文様・装飾	内装色調	形状	材質	備考			
549	223	区	4E	4033	1339	+		早稲田層上土層	土線彫	-	-	ナメ	褐色色	ナメ	褐色色	多	少	
549	223	区	4E	-	-	-	-	早稲田層上土層	土線彫	26.4	-	-	波線文、ナメ	褐色色	ナメ	褐色色	多	多
549	223	区	4E	2900	1339	+		早稲田層上土層	手取	-	-	ナメ、ボコナメ	褐色	ナメ	褐色	多	多	
603	227	区	7F	7339	1343	+		早稲田層上土層	土線彫	-	-	ナメ	茶褐色	ナメ	茶褐色	多	多	
603	233	区	4E	3034	1362	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	波線文	黒コナメ	褐色色	多	多		
647	236	区	4F	7395	1372	-		早稲田層上土層	溝、土線彫	-	-	ナメ	茶褐色	ナメ	茶褐色	多	多	
648	238	区	7E	7644	1346	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	ナメ	褐色色	ナメ	褐色色	多	多	
733	241	区	4E	2300	1253	-		早稲田層上土層	遺跡、土線彫	-	-	ナメ	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多	
733	242	区	4E	7546	1347	-		縄文土層	溝	-	-	ナメ	褐色	ナメ	褐色	多	多	
733	243	区	4E	7529	1347	-		縄文土層	溝	-	-	土線彫	土色・褐色	ナメ	土色・褐色	多	多	
733	244	区	4E	7528	1347	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	波線下	褐色色	ナメ	褐色色	多	多	
733	245	区	4E	7529	1347	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	ナメ	茶褐色	ナメ	茶褐色	多	多	
733	246	区	4E	7529	1347	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	ナメ	茶褐色	ナメ	茶褐色	多	多	
733	247	区	4E	7529	1347	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	ナメ	茶褐色	ナメ	茶褐色	多	多	
733	248	区	4E	7529	1347	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	ナメ	茶褐色	ナメ	茶褐色	多	多	
733	249	区	4E	7529	1347	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	波線下	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多	
733	250	区	4E	7529	1347	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	ナメ	褐色色	ナメ	褐色色	多	多	
733	251	区	4E	7343	1347	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	ナメ	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多	
733	252	区	4E	7529	1347	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	ナメ	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多	
733	253	区	4E	7565	1347	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	ナメ	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多	
733	254	区	4E	7584	1347	-		早稲田層上土層	土線彫 (19.4)	-	-	ナメ	茶褐色	ナメ	茶褐色	多	多	
733	255	区	4E	7529	1347	-		早稲田層上土層	溝	-	-	ナメ	茶褐色	ナメ	茶褐色	多	多	
733	256	区	4E	7529	1347	-		早稲田層上土層	溝	-	-	ナメ	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多	
733	257	区	4E	7542	1347	-		早稲田層上土層	溝	-	-	ナメナメ	褐色	ナメ	褐色	多	多	
733	258	区	4E	7568	1347	-		早稲田層上土層	溝	-	-	ナメ	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多	
733	259	区	4E	7568	1347	-		早稲田層上土層	溝	-	-	ナメ	褐色色	ナメ	褐色色	多	多	
733	260	区	4E	7529	1347	-		早稲田層上土層	遺跡、土線彫	-	-	ナメ	褐色色	ナメ	褐色色	多	多	
733	261	区	4E	7542	1347	-		早稲田層上土層	遺跡、土線彫	-	-	ナメ	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多	
733	262	区	4E	7379	1347	-		早稲田層上土層	遺跡、丸先	-	-	ナメ	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多	
733	263	区	4E	7546	1347	-		早稲田層上土層	溝	-	-	波線文	褐色色	ナメ	褐色色	多	多	
801	269	区	4F9F	7367	1370	-		縄文土層	溝	-	-	2.0+ナ	褐色色	ナメ	土色・褐色	多	多	
801	271	区	4E	1370	1370	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	ナメ	褐色色	ナメ	褐色色	多	多	
801	272	区	4E	1370	1370	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	波線文	褐色色	ナメ	褐色色	多	多	
801	283	区	4F9F	7363	1370	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	4.2+ナ	褐色色、茶褐色	ナメ	褐色色、茶褐色	多	多	
801	284	区	4F9F	7363	1370	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	3.7+ナ	褐色色、茶褐色	ナメ	褐色色、茶褐色	多	多	
801	285	区	4F9F	7360	1370	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	2.2+ナ	褐色色、茶褐色	ナメ	褐色色、茶褐色	多	多	
801	286	区	4F9F	7360	1370	-		早稲田層上土層	遺跡、土線彫	-	-	4.1+ナ	褐色色、茶褐色	ナメ	土色・褐色色	多	多	
801	287	区	4F9F	7362	1370	-		早稲田層上土層	溝	-	-	2.2+ナ	ナメ	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多
801	288	区	4F9F	7364	1370	-		早稲田層上土層	溝	-	-	2.2+ナ	ナメ	土色・褐色色	ナメ	褐色色	多	多
801	289	区	4E	-	1370	溝		早稲田層上土層	溝	-	-	3.0+ナ	ナメ	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多
801	290	区	4E	-	1370	溝		早稲田層上土層	土線彫	-	-	3.3+ナ	ナメ	褐色色	ナメ	褐色色	多	多
801	291	区	4F	4F9F	7363	1370	-	早稲田層上土層	溝	-	-	2.2+ナ	ナメ	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多
801	292	区	4F	742	1370	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	ナメ	褐色色	ナメ	褐色色	多	多	
81	296	区	-	-	1370- 1372	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	ナメ	茶褐色	ボコナメナメ	褐色色	多	多	
81	297	区	-	-	1370- 1372	-		非縄文層上層	溝	-	-	4.2+ナ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	多	多	
81	298	区	-	-	1370- 1372	-		早稲田層上土層	丸先小	-	-	1.9+ナ	ナメ	茶褐色	ナメ	褐色色	多	多
801	299	区	-	-	137	溝		縄文土層	土線彫	-	-	-	茶褐色	褐色文・山形文	茶褐色	多	多	
801	300	区	-	-	137	溝		非縄文層上層	土線彫	-	-	-	ボコナメ、ナメ及 特殊茶褐色	褐色色、茶褐色	ボコナメナメ	褐色色、茶褐色	多	多
901	306	区	4F	7363	1384	-		非縄文層上層	土線彫	-	-	-	茶褐色、茶褐色 (二 枚)	茶褐色 (二枚)	茶褐色	多	多	
901	307	区	4F	7362	1384	-		非縄文層上層	土線彫	-	-	(17.6)	茶褐色	ナメ	茶褐色	多	多	
101	309	区	4E	768	1221	-		早稲田層上土層	遺跡	-	-	-	ナメナメ	茶褐色	ナメナメ	茶褐色	多	多
106	310	区	4F	7341	1337	-		早稲田層上土層	溝、土線彫	-	-	-	褐色色、ナメナメの ナメ	褐色色	褐色文、ナメ	褐色色	多	多
112	312	区	4F	4F9F	7366	1389	-	縄文土層	遺跡、土線彫	-	-	4.2+ナ	ナメ	茶褐色	茶褐色	多	多	
112	313	区	4F	7343	1389	-		非縄文層上層	溝	-	-	11.9+ナ	茶褐色	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多
112	314	区	-	-	1386	-		早稲田層上土層	遺跡、土線彫	-	-	-	ボコナメのナメ	ナメ	褐色色	多	多	
112	316	区	4E	7527	1377	-		早稲田層上土層	土線彫	-	-	ナメ	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多	
112	317	区	4E	7545	1378	-		早稲田層上土層	溝	-	-	3.0+ナ	ナメ	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多
112	318	区	4E	7545	1378	-		早稲田層上土層	溝	-	-	3.0+ナ	ナメ	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多
112	319	区	4E	7579	1379	-		早稲田層上土層	溝	-	-	4.0+ナ	ナメ	土色・褐色色	ナメ	土色・褐色色	多	多
112	319	区	4F9F	7376	1380	-		早稲田層上土層	溝	-	-	-	ボコナメのナメ	褐色色、茶褐色	ボコナメナメ	褐色色、茶褐色	多	多
122	320	区	4E	2847	139	-		縄文土層	土線彫	-	-	-	ナメ、ボコナメの 丸先	褐色	褐色文	褐色	多	多
124	320	区	-	3628	349	-		縄文土層	土線彫	-	-	-	ボコナメ	茶褐色	ボコナメ	褐色色	多	多
173	333	区	4F	73319	1332	溝		縄文土層	遺跡、土線彫	-	-	2.8+ナ	ボコナメ、ナメ及 特殊茶褐色	褐色色	褐色文、ナメ	褐色文、褐色	多	多
147	341	区	4E	1496	36	-		縄文土層	土線彫	-	-	-	土線彫	褐色色	褐色文	褐色色	多	多
147	342	区	4E	1496	36	-		縄文土層	溝	-	-	-	土線彫	茶褐色	茶褐色	褐色色	多	多
201	347	区	4F	734	1330	+		縄文土層小	溝	-	-	-	土線彫	褐色	ナメ	褐色	多	多

森の木遺跡遺物観察表

発見番号	区画	遺物番号	遺物	層位	類別	形状	口径 (mm)	遺存高 (mm)	遺跡番号	外部の状況・調査	外部色調	内部の文様・調査	内部色調	素材	用途	備考
225	154	4	DF	2129	1129	-	-	-	-	-	黒コブナデ	褐色	褐色	土	遺物	少
235	165	8	DF	2730	1142	-	-	-	-	-	ナデ	褐色色	ナデ	遺物	少	19
235	168	3	TF	7335	1177	-	-	-	-	-	赤土器	白線部	-	-	-	-
235	169	4	TF	7448	1177	-	-	-	-	-	赤土器	白線部	-	-	-	-
235	190	3	TF	7335	1177	-	-	-	-	-	赤土器	白線部	-	-	-	-
235	191	4	TF	-	1177	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	(32.0)	17.4cm	-	-
235	192	8	TF	7332	1177	-	-	-	-	-	赤土器	底面	-	-	-	-
235	193	2	TF	7249	1177	-	-	-	-	-	赤土器	底面	-	-	-	-
236	194	2	TF	7141	1178	a	-	-	-	-	赤土器	白線部	-	-	-	-
239	199	2	DF	7256	1181	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	-	-	-	-
239	197	4	DF	7322	1181	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	白線部	-	-	-
241	198	3	DF	7382	1185	-	-	-	-	-	赤土器	白線部	-	-	-	-
272	211	3	DF	7348	1219	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	白線部	-	-	-
281	212	3	TF	7324	1221	-	-	-	-	-	赤土器	白線部	-	-	-	-
281	213	3	TF	7322	1221	-	-	-	-	-	赤土器	白線部	-	-	-	-
281	214	3	TF	7322	1221	-	-	-	-	-	赤土器	白線部	-	-	-	-
284	215	3	DF	7343	1225	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	白線部	-	-	-
287	216	3	DF	7389	1230	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	白線部	-	-	-
287	216	3	DF	7391	1230	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	白線部	-	-	-
287	216	3	DF	7396	1230	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	白線部	-	-	-
287	216	3	DF	7392	1232	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	白線部	-	-	-
297	191	9	DF	7206	1205	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡
297	192	9	DF	7206	1205	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡
314	182	3	DF	7222	1222	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡
314	182	3	DF	7222	1222	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡
314	184	3	DF	7324	1224	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡
315	189	3	-	1263	-	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	2.5cm	-	-	-
315	187	3	-	1263	-	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	2.5cm	-	-	-
319	189	3	DF	7438	1249	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	2.5cm	-	-	-
319	190	3	DF	7440	1249	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	4.0cm	-	-	-
319	191	3	DF	7447	1249	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	2.8cm	-	-	-
312	193	3	DF	7497	1272	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	4.5cm	-	-	-
312	194	3	DF	7499	1272	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	4.2cm	-	-	-
314	196	3	DF	7452	1281	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	6.4cm	-	-	-
314	198	3	DF	7443	1284	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
314	199	3	DF	7475	1286	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
314	199	3	DF	7475	1286	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
317	191	3	DF	7434	1284	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
317	192	3	DF	7430	1283	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
324	193	3	DF	7714	1314	-	-	-	-	-	赤土器	白線部	-	-	-	-
325	194	3	DF	7282	1255	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	白線部	-	-	-
326	193	3	DF	7474	1287	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	白線部	-	-	-
326	194	3	DF	7456	1285	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	白線部	-	-	-
333	197	3	DF	7257	1251	-	-	-	-	-	土器	遺跡	遺跡	-	-	-
333	198	3	DF	7226	1251	1	土器	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡	遺跡
335	199	3	DF	77	57	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	白線部	-	-	-
335	191	3	DF	87	-	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	白線部	-	-	-
335	111	3	DF	1549	1936	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
335	112	3	DF	1549	1936	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
343	113	3	DF	7440	1127	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
343	114	3	DF	7441	1127	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
346	114	3	DF	7286	-	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
346	115	3	DF	7254	-	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
346	117	3	DF	7107	-	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
346	118	3	DF	7496	-	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
346	119	3	DF	7213	-	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
346	120	3	DF	7254	-	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
346	121	3	DF	1121	1121	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
346	142	3	DF	7140	-	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
346	143	3	DF	1116	1100	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
346	144	3	DF	7272	-	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
346	145	3	DF	7245	-	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
346	146	3	DF	7259	-	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-
346	147	3	DF	7514	-	-	-	-	-	-	赤土器	遺跡	遺跡	-	-	-

発掘調査 年度	区画	遺物番号	遺物 属性	種類	器種	口径 (mm)	残存高 (mm)	遺跡層 (m)	外装の文様・装飾	外装色原	内装の文様・装飾	内装色原	素材	数量	備考	
204	50	9C	25462	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	斜線文、ナメ	茶褐色	ナメ	茶褐色	赤土	8	F96	
204	50	9C	25460	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	2.50a	斜線文、ナメ	茶褐色	ナメ	茶褐色	赤土	29	F28	
204	50	9C	25254	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	斜線文、ナメ	茶褐色	ナメ	茶褐色	赤土	8		
204	51	9C	25061	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	4.50a	ヨコナメ、四角文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F120	
204	52	9C	25447	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	2.50a	斜線文、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8	F13	
204	53	9C	-	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	波状斜線文、斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8	F96	
204	54	9C	25429	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	2.17a	ナメ	茶褐色	ナメ	茶褐色	赤土	8	F506	
204	55	9C	25411	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	斜線文、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8		
204	56	9C	25423	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	斜線文、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8		
204	57	9C	25065	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	ナメ、波状文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8		
204	58	9C	25068	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	2.47a	四角文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8		
204	59	9C	24949	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	2.50a	斜線文、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F273	
204	60	9C	25024	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	ナメ、半波状文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
204	61	9C	91130	-	埴輪文土器	土師器	-	-	ぼろぼろ斜線文、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8	F24	
204	62	9C	24990	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
207	563	9C	25240	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	1.27a	波状	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8		
207	564	9C	25284	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	1.67a	波状文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F74	
207	565	9C	25286	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	ナメ、波状文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
207	566	9C	25285	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	5.27a	斜線文、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8	F114	
207	567	9C	24874	-	埴輪文土器	土師器	-	-	ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
207	568	9C	25297	-	埴輪文土器	土師器	-	3.50a	斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F138	
207	569	9C	24840	-	埴輪文土器	土師器	-	-	斜線文、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
207	570	9C	91693	-	埴輪文土器	土師器	-	-	ヨコナメ、斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F15	
207	571	9C	25246	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	1.27a	波状	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8		
207	572	9C	25241	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	3.50a	斜線文、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F142	
207	573	9C	25228	-	埴輪文土器	土師器	-	-	斜線文、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
207	574	9C	24840	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	3.60a	斜線文、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
207	575	9C	24824	-	埴輪文土器	土師器	-	-	斜線文、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
207	576	9C	25213	-	埴輪文土器	土師器	-	-	斜線文、波状文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8		
207	577	9C	25247	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	2.47a	波状	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8		
207	578	9C	25249	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	5.50a	斜線文、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8	F155	
207	579	9C	73149	調査区 北	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	ヨコナメ、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8		
207	580	9C	25297	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	ナメ、ヨコナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8		
207	581	9C	25420	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	2.50a	斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8		
207	582	9C	25127	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	(2)	2.87a	斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8	F14	
207	583	9C	25146	調査区 北	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	斜線文、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
207	584	9C	25149	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	波状文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F128	
207	585	9C	25152	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	2.50a	斜線文、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8		
207	586	9C	25153	調査区 北	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	ナメ、波状文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8		
207	587	9C	25146	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	1.50a	ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
207	588	9C	25296	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	2.00a	斜線文、波状文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
207	589	9C	25121	-	埴輪文土器	土師器	-	-	ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8		
207	590	9C	24957	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	3.60a	ナメ(波状)	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8		
207	591	9C	25119	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F7	
207	592	9C	25029	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F149	
207	593	9C	25041	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	4.00a	ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F223	
207	594	9C	25280	-	埴輪文土器	土師器	-	-	ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8	F26	
207	595	9C	25281	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	斜線文、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F124	
207	596	9C	25284	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	4.00a	斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8	F96	
207	597	9C	90147	25036	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	20	-	斜線文、ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8	
207	598	9C	25254	-	埴輪文土器	土師器	-	-	四角文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
207	599	9C	25024	-	埴輪文土器	土師器	-	-	四角文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
207	600	9C	25246	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	四角文、ナメ、波状	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	8	F83	
207	601	9C	25149	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	ナメ、四角文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
207	602	9C	25026	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	ナメ、四角文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F147	
207	603	9C	25149	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	ナメ、四角文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
207	604	9C	25149	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	ヨコナメ、斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F120	
207	605	9C	25048	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	ナメ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F79	
207	606	9C	25128	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	ヨコナメ、斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F129	
207	607	9C	91631	-	埴輪文土器	土師器	-	-	ナメ、波状文(1層文)	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F123	
207	608	9C	25041	-	埴輪文土器	鉢(土師器)	-	-	ナメ、ヨコナメ、斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F143	
207	609	9C	25041	-	埴輪文土器	土師器	-	-	ナメ、ヨコナメ、斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
207	610	9C	25041	-	埴輪文土器	土師器	-	-	ナメ、ヨコナメ、斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29		
207	611	9C	25041	-	埴輪文土器	土師器	-	-	ナメ、ヨコナメ、斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F143	
207	612	9C	25041	-	埴輪文土器	土師器	-	-	ナメ、ヨコナメ、斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	赤土	29	F143	

森の木遺跡遺物観察表

発掘番号	区画	遺物番号	遺種	層位	類別	器種	口径 (mm)	残存高さ (mm)	遺跡群 (m)	外郭の区画・遺構	外壁色調	内面の区画・遺構	内底色調	形状	数量	位置	備考
339	412	1	IP	5651	-	瓦	白灰瓦土器	遺跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	茶褐色	茶褐色	片断	5	9	P9
339	413	1	20	4630	-	瓦	白灰瓦土器	遺跡 L1線部	-	-	白灰瓦、ナブ	褐色	白灰色	片断	9	9	9
339	414	1	2F	5622	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	暗茶褐色	暗茶褐色	片断	8	8	8
339	415	1	2F	7242	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	暗茶褐色	暗茶褐色	片断	1	9	9
339	416	1	9C	5867	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	茶褐色	茶褐色	片断	9	9	P15
339	417	1	2F	1164	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	茶褐色	茶褐色	片断	9	9	P18
339	418	1	2E	7260	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	茶褐色	茶褐色	片断	9	9	9
339	419	1	4F	7374	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	暗茶褐色	暗茶褐色	片断	9	9	P10
339	420	1	2F	8000	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	茶褐色	茶褐色	片断	9	9	9
339	421	1	1E	1382	-	瓦	白灰瓦土器	遺跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	茶褐色	茶褐色	片断	8	8	P6
339	422	1	1C	3498	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	褐色	褐色	片断	9	9	P11
340	423	1	9C	4654	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	茶褐色	茶褐色	片断	8	8	P13
340	424	1	2F	4934	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、焼瓦瓦	黒茶-茶褐色	茶褐色	片断	9	9	P14
340	425	1	9C	5625	-	瓦	焼瓦土器	遺跡 L1線部	-	-	ナブ、焼瓦瓦	紅い-茶褐色	茶褐色	片断	9	9	9
340	426	1	3A	5486	-	瓦	焼瓦土器	遺跡 L1線部	-	-	焼瓦	紅い-褐色	紅い-褐色	片断	9	9	P17
340	427	1	9C	6080	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、焼瓦瓦	茶褐色	茶褐色	片断	8	8	8
340	428	1	9C	5947	-	瓦	焼瓦土器	遺跡 跡口1 線	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	紅い-褐色	紅い-褐色	片断	9	9	9
340	429	1	3A	-	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	焼瓦瓦	灰褐色	灰褐色	片断	8	8	P8
340	430	1	3B	5272	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、焼瓦瓦	紅い-茶褐色	茶褐色	片断	9	9	9
340	431	1	3B	-	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	焼瓦瓦、焼瓦瓦	茶褐色-褐色	茶褐色-褐色	片断	9	9	9
340	432	1	4E	5913	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	白灰瓦	褐色	褐色	片断	9	9	9
340	433	1	3C	1455	-	瓦	焼瓦土器	遺跡 L1線部	-	-	焼瓦瓦	茶褐色	茶褐色	片断	9	9	P16
340	434	1	9F	2800	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	焼瓦瓦	茶褐色	茶褐色	片断	9	9	9
340	435	1	4E	6072	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	焼瓦瓦	茶褐色	茶褐色	片断	9	9	9
340	436	1	3A	1227	-	瓦	焼瓦土器	遺跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	紅い-褐色	茶褐色	片断	9	9	P11
340	437	1	4F	6306	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	焼瓦瓦、ナブ	暗茶褐色	茶褐色	片断	8	8	P11
340	438	1	4E	4656	-	瓦	焼瓦土器	遺跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	紅い-褐色	紅い-褐色	片断	9	9	P17
340	439	1	2E	4204	-	瓦	焼瓦土器	遺跡 L1線部	-	-	焼瓦瓦	暗褐色	暗褐色	片断	9	9	9
340	440	1	4F	-	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、焼瓦瓦	暗褐色	暗褐色	片断	8	8	8
340	441	1	2E	-	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	焼瓦瓦、ナブ	暗褐色	暗褐色	片断	8	8	P100
340	442	1	2E	-	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	茶褐色	茶褐色	片断	9	9	9
340	443	1	2E	-	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	茶褐色	茶褐色	片断	8	8	8
341	444	1	4F	4279	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	焼瓦瓦、ナブ	茶褐色	茶褐色	片断	9	9	P15
341	445	1	2E	5132	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	焼瓦瓦	茶褐色	茶褐色	片断	9	9	P9
341	446	1	11F	73125	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	2.0m	ナブ、焼瓦瓦	褐色	褐色	片断	9	9	P1
341	447	1	2F	6080	-	瓦	焼瓦土器	跡 L1線部	-	-	焼瓦瓦	茶褐色	茶褐色	片断	9	9	P8
341	448	1	2E	3426	-	瓦	白灰瓦土器	-	-	-	白灰瓦	褐色	褐色	片断	9	9	9
341	449	1	10C	73361	-	瓦	焼瓦土器	遺跡 L1線部	-	1.2m	ナブ、四方角の内 郭瓦	暗茶褐色	暗茶褐色	片断	8	8	8
341	450	1	3E	3913	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、白灰瓦	茶褐色	茶褐色	片断	9	9	9
341	451	1	4F	-	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	暗褐色	暗褐色	片断	9	9	9
341	452	1	4F	4634	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	茶褐色	茶褐色	片断	9	9	P128
341	453	1	4E	4086	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、ナブ	褐色	褐色	片断	9	9	9
341	454	1	3E	2807	-	瓦	白灰瓦土器	遺跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	紅い-褐色	紅い-褐色	片断	9	9	9
341	455	1	3F	3914	-	瓦	白灰瓦土器	遺跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	茶褐色	茶褐色	片断	9	9	9
341	456	1	2F	9000	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	暗褐色	暗褐色	片断	9	9	9
341	457	1	9C	-	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	茶褐色	茶褐色	片断	9	9	P16
341	458	1	9C	2787	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	-	ナブ、四方角の内 郭瓦	茶褐色	茶褐色	片断	9	9	9
341	459	1	9C	73167	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	2.4m	ナブ、白灰瓦	褐色	褐色	片断	8	8	8
341	460	1	11F	73163	-	瓦	白灰瓦土器	跡 L1線部	-	2.2m	ナブ	紅い-褐色	茶褐色	片断	9	9	P3

洋館番号	本館	区域	遺物番号	遺物	層位	類別	形状	口径 (mm)	残存高 (mm)	遺跡径 (mm)	外観の文様・装飾	外装色原	内装の文様・装飾	内装色原	発見 年月	位置	備考	
301	461	3	04	1222	-	Ⅱ	山形瓦土器	遺跡 土師器	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	褐色色	褐色色	少	少	P271	
301	462	3	04	6071	-	Ⅱ	山形瓦土器	鉢 土師器	-	-	-	ボコ方向の山形文 ナメ	茶褐色	茶褐色	多	多	8	
301	463	3	04	7204	-	Ⅱb	山形瓦土器	鉢 土師器	-	3.5φ	-	ナメ、ボコ方向の山形文	褐色	褐色	少	少	P172	
301	464	3	04	-	-	-	山形瓦土器	-	-	-	-	にじみ装飾色	茶褐色	にじみ装飾色	多	多	9	
301	465	3	04	2677	-	Ⅱ	山形瓦土器	鉢 土師器	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	茶褐色	茶褐色	多	多	P111	
301	466	3	04	72002	-	Ⅱ	山形瓦土器	遺跡 土師器	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	褐色	褐色	多	多	8	
301	467	3	04	72032	-	Ⅱ	山形瓦土器	鉢 土師器	-	3.2φ	-	ボコ方向の山形文	褐色	褐色	多	多	8	
301	468	3	04	3406	-	Ⅱ	山形瓦土器	遺跡 土師器	-	-	-	ボコ方向の山形文	褐色	褐色	多	多	P17	
301	469	3	04	1546	-	Ⅱ	山形瓦土器	土師器	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	にじみ褐色	にじみ褐色	少	少		
301	470	3	04	3022	-	Ⅱ	山形瓦土器	遺跡	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	にじみ褐色	にじみ褐色	少	少	P343	
301	471	3	04	3600	-	Ⅱ	山形瓦土器	鉢 土師器	-	-	-	ボコ方向の山形文、ナメ	褐色	茶褐色	少	多		
301	472	3	04	1771	-	Ⅱ	山形瓦土器	土師器	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	淡褐色	淡褐色	少	少	P29	
301	473	3	04	2863	-	Ⅱ	山形瓦土器	鉢 土師器	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	にじみ装飾色	茶褐色	にじみ装飾色	多	多	
301	474	3	04	4638	-	Ⅱ	山形瓦土器	土師器	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	茶褐色	茶褐色	少	少		
301	475	3	04	6361	-	-	山形瓦土器	土師器	-	-	-	ナメ、山形文	褐色	褐色	多	多	8	
301	476	3	04	156	-	Ⅱ	山形瓦土器	土師器	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	褐色	褐色	少	少	P2	
301	479	3	04	1272	-	Ⅱa	山形瓦土器	土師器	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	茶褐色	茶褐色	多	多	9	
301	480	3	04	-	-	Ⅱ	山形瓦土器	土師器	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	褐色	褐色	多	多	9	
301	481	3	04	7327	-	Ⅱb	山形瓦土器	鉢 土師器	-	-	-	山形文	褐色	褐色	多	多	9	
301	482	3	04	2788	-	Ⅱ	山形瓦土器	鉢 土師器	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	にじみ褐色	にじみ褐色	少	少		
301	483	3	04	2823	-	Ⅱa	山形瓦土器	遺跡 土師器	-	-	-	ボコ方向の山形文	褐色	褐色	少	少		
301	484	3	04	1072	-	Ⅱ	山形瓦土器	土師器	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	にじみ褐色	にじみ褐色	多	多	9	
301	485	3	04	6144	-	Ⅱa	山形瓦土器	遺跡 土師器	-	-	-	ボコ方向の山形文	褐色	褐色	少	少	P14	
301	486	3	04	7401	-	Ⅱb	山形瓦土器	鉢 土師器	-	4.3φ	-	ボコ方向の山形文、ナメ	褐色	褐色	多	多	P154	
301	487	3	04	1381	-	Ⅱ	山形瓦土器	遺跡 土師器	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	褐色	褐色	多	多	P5	
301	488	3	04	-	-	遺跡	山形瓦土器	土師器	-	-	-	ボコ方向、山形文	茶褐色	茶褐色	多	多	9	
301	489	3	04	7410	-	Ⅱb	山形瓦土器	鉢 土師器	-	4.3φ	-	ナメ、ボコ方向の山形文	茶褐色	褐色	多	多	P146	
301	490	3	04	4432	-	Ⅱ	山形瓦土器	鉢 土師器	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	茶褐色	茶褐色	多	多	P159	
301	491	3	04	-	-	Ⅱ	山形瓦土器	遺跡 土師器	-	-	-	ボコ方向の山形文	茶褐色	茶褐色	多	多		
301	492	3	04	1278	-	Ⅱ	山形瓦土器	遺跡 土師器	-	-	-	ボコ方向の山形文	にじみ装飾色	茶褐色	にじみ装飾色	少	少	
301	493	3	04	72002	-	Ⅱ	山形瓦土器	鉢	-	-	-	ボコ方向の山形文	褐色	褐色	少	少		
301	494	3	04	4717	-	Ⅱ	山形瓦土器	鉢 土師器	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	褐色	褐色	多	多	P112	
301	495	3	04	5603	-	Ⅱa	山形瓦土器	遺跡 土師器	-	-	-	ボコ方向の山形文	茶褐色	茶褐色	多	多	P50	
301	496	3	04	6406	-	Ⅱ	山形瓦土器	遺跡 土師器	-	-	-	山形文	茶褐色	茶褐色	多	多	8	
301	497	3	04	1946	-	Ⅱ	山形瓦土器	遺跡 土師器	-	-	-	ボコ方向の山形文	茶褐色	茶褐色	多	多	9	
301	498	3	04	1346	-	Ⅱ	山形瓦土器	遺跡 土師器	-	-	-	ボコ方向の山形文	茶褐色	茶褐色	多	多	P12	
301	499	3	04	72296	122	-	山形瓦土器	鉢 土師器	-	3.3φ	-	ナメ、褐色文、山形文	にじみ装飾色	褐色文、褐色文	にじみ装飾色	少	少	
301	500	3	04	3863	-	Ⅱ	山形瓦土器	遺跡 土師器	-	-	-	ナメ、ボコ方向の山形文	にじみ装飾色	茶褐色	にじみ装飾色	多	多	9

森の木遺跡遺物観察表

発見番号	区画	遺物番号	遺物	層位	類別	形状	口径 (mm)	残存高さ (mm)	遺跡番号	外装の文様・装飾	外装色調	内装の文様・装飾	内装色調	素材	形状	口径 (mm)	備考
302-751	3	328	-	Ⅱ	白磁瓦土器	遺跡 土師器	-	-	-	ボコ字向の山形文	黄褐色	横線文、ボコ字向の山形文	黄褐色	Ⅱ	8	73	
302-752	3	41	4321	-	Ⅱ	白磁瓦土器	遺跡 土師器	-	-	ナブ、ボコ字向の山形文	にがい黄褐色	横線文、ボコ字向の山形文	にがい黄褐色	Ⅱ	8	76	
302-753	3	17	421	-	Ⅱ	白磁瓦土器	遺跡 土師器	-	-	ボコ字向の山形文	赤褐色	横線文、ボコ字向の山形文	赤褐色	Ⅱ	8	77	
302-754	3	103	74859	-	Ⅱa	白磁瓦土器	遺跡 土師器	-	-	ナブ、ボコ字向の山形文	明褐色	横線文、ボコ字向の山形文	明褐色	Ⅱ	8	79	
302-755	3	38	5430	-	-	白磁瓦土器	遺跡 土師器	-	-	山形文	褐色	横線文、山形文	褐色	Ⅱ	8	78	
302-756	3	28	303	-	Ⅱa	白磁瓦土器	土師器	-	-	ナブ、山形文	褐色	横線文、ボコ字向の山形文	褐色	Ⅱ	8	773	
302-757	3	12	3278	-	Ⅱ	白磁瓦土器	遺跡 土師器	-	-	ナブ、ボコ字向の山形文	黄褐色	横線文、ボコ字向の山形文	黄褐色	Ⅱ	8	794	
302-758	3	40	2619	-	Ⅱ	白磁瓦土器	新 土師器	-	-	ボコ字向の山形文	紅褐色	横線文、ボコ字向の山形文	紅褐色	Ⅱ	8	795	
302-759	3	17	4710	-	Ⅱ	白磁瓦土器	新 土師器	-	-	ナブ、ボコ字向の山形文	紅褐色	横線文、ボコ字向の山形文	紅褐色	Ⅱ	8	7510	
302-759	3	33	4619	-	-	白磁瓦土器	遺跡	-	-	ナブ、ボコ字向の山形文	紅褐色	横線文、ボコ字向の山形文	紅褐色	Ⅱ	8	7511	
302-761	3	30	397	-	Ⅱ	白磁瓦土器	新 土師器	-	-	ボコ字向の山形文、ボコ字向のナブ	紅褐色	横線文、ボコ字向の山形文、ナブ	紅褐色	Ⅱ	8	7514	
302-762	3	41	6149	-	Ⅱ	白磁瓦土器	遺跡 土師器	-	-	ボコ字向の山形文	黄褐色	横線文、ボコ字向の山形文	黄褐色	Ⅱ	8	7521	
302-763	3	36	3022	-	Ⅱa	白磁瓦土器	新 土師器	-	-	ボコ字向の山形文	赤褐色	横線文、ボコ字向の山形文	赤褐色	Ⅱ	8	758	
302-764	3	12	4871	-	Ⅱ	白磁瓦土器	-	-	-	ナブ、ボコ字向の山形文、ナブ	褐色	横線文、ボコ字向の山形文、ナブ	褐色	Ⅱ	8	7303	
302-765	3	37	-	-	-	白磁瓦土器	遺跡 土師器	-	-	ボコ字向の山形文	黄褐色	横線文、ボコ字向の山形文	黄褐色	Ⅱ	8	7512	
302-766	3	12	4103	-	Ⅱ	白磁瓦土器	土師器	-	-	ナブ、ボコ字向の山形文	黄褐色	横線文、ボコ字向の山形文、ナブ	黄褐色	Ⅱ	8	7520	
302-767	3	17	4913	-	Ⅱ	白磁瓦土器	新 土師器	-	-	ナブ、ボコ字向の山形文	赤褐色	横線文、ボコ字向の山形文、ナブ	赤褐色	Ⅱ	8	7513	
302-768	3	10	3110	-	Ⅱ	白磁瓦土器	新 土師器	-	-	ナブ、ボコ字向の山形文	紅褐色	横線文、ボコ字向の山形文	紅褐色	Ⅱ	8	756	
302-769	3	35	1847	-	Ⅱ	白磁瓦土器	遺跡 土師器	-	-	ナブ、ボコ字向の山形文	明褐色	横線文、ボコ字向の山形文	明褐色	Ⅱ	8	7515	
302-770	3	31	2212	-	Ⅱ	白磁瓦土器	遺跡 土師器	-	-	ボコ字向の山形文	灰黄褐色	横線文、ボコ字向の山形文	灰黄褐色	Ⅱ	8	7517	
302-771	3	17	3890	-	Ⅱ	白磁瓦土器	土師器	-	-	ナブナブ、山形文	褐色・淡褐色	横線文、山形文、ボコ字ナブ	褐色・淡褐色	Ⅱ	8	7517	
302-772	3	47	4637	-	Ⅱ	白磁瓦土器	土師器	-	-	ナブ、ボコ字向の山形文	黄褐色	横線文、ボコ字向の山形文	黄褐色	Ⅱ	8	7518	
302-773	3	70	4406	-	Ⅱ	白磁瓦土器	遺跡 土師器	-	-	山形文	明褐色	横線文、山形文	明褐色	Ⅱ	8	7519	
302-774	3	102	73323	-	Ⅱa	白磁瓦土器	新 土師器	-	6.5g	ボコ字向の山形文	にがい赤褐色	横線文、ボコ字向の山形文	にがい赤褐色	Ⅱ	8	754	
302-775	3	17	4307	-	Ⅱa	白磁瓦土器	遺跡 土師器	-	-	ナブ、ボコ字向の山形文	褐色	横線文、ボコ字向の山形文	褐色	Ⅱ	8	7518	
302-776	3	51	5498	-	Ⅱ	白磁瓦土器	遺跡 土師器	-	-	ボコ字向の山形文	にがい黄褐色	横線文、ボコ字向の山形文	にがい黄褐色	Ⅱ	8	7517	
302-777	3	21	-	-	Ⅱ	白磁瓦土器	遺跡 土師器	-	-	ボコ字向の山形文	にがい黄褐色	横線文、ボコ字向の山形文、ナブ	にがい黄褐色	Ⅱ	8	7519	
302-778	3	12	7396	-	Ⅱa	白磁瓦土器	遺跡 土師器	-	-	ボコ字向の山形文	紅褐色	横線文、ボコ字向の山形文、ナブ	紅褐色	Ⅱ	8	7519	
302-779	3	47	4071	-	Ⅱ	白磁瓦土器	新 土師器	-	-	ボコ字向のナブ、ボコ字向の山形文	黄褐色・黄褐色	横線文、ボコ字向の山形文	黄褐色・黄褐色	Ⅱ	8	7519	
302-780	3	47	7289	-	Ⅱ	白磁瓦土器	新 土師器	-	4.3g	ボコ字向の山形文	褐色	横線文、ボコ字向の山形文	褐色	Ⅱ	8	7519	
302-781	3	40	7226	-	Ⅱ	白磁瓦土器	新 土師器	-	-	ボコ字向の山形文、ナブ	褐色	横線文、ボコ字向の山形文	褐色	Ⅱ	8	7402	
302-782	3	40	9629	-	Ⅱ	白磁瓦土器	-	-	-	ボコ字向の山形文	赤褐色	横線文、ボコ字向の山形文	赤褐色	Ⅱ	8	7519	
302-783	3	12	4341	-	Ⅱ	白磁瓦土器	土師器	-	-	ボコ字向の山形文	黄褐色	横線文、ボコ字向の山形文、ナブ	黄褐色	Ⅱ	8	7513	
302-784	3	15	2788	-	Ⅱ	白磁瓦土器	新 土師器	-	-	ナブ、ボコ字向の山形文	褐色	横線文、ボコ字向の山形文	褐色	Ⅱ	8	7519	
302-785	3	47	2321	-	Ⅱa	白磁瓦土器	土師器	-	-	ナブ、ボコ字向の山形文	褐色	横線文、ボコ字向の山形文	褐色	Ⅱ	8	7511	

森の木遺跡遺物観察表

発見番号	区画	遺物番号	遺物	層位	形状	口径 (mm)	残存高さ (mm)	遺跡番号	外郭の状況・遺構	外郭の形状	内郭の状況・遺構	内郭の形状	発見位置	位置	備考
364	281	9	10C	75277	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P2
364	281	9	10C	75266	-	皿	-	-	-	-	-	-	焼瓦	焼瓦	8
367	286	9	9C	75265	-	皿	-	-	-	-	-	-	焼瓦	焼瓦	8
367	286	9	9C	75495	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P143
367	287	9	9C	75495	-	皿	-	-	-	-	-	-	焼瓦	焼瓦	8
367	288	9	9C	75498	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P133
367	289	9	9C	75262	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P144
367	290	9	10B	74408	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
367	291	9	10B	7296	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
367	292	9	1F	874	-	皿	10.6	5.1	-	-	-	-	瓦	瓦	9
367	293	9	11B	73225	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
367	294	9	9C	73609	-	皿	-	2.2	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
367	295	9	10C	75244	-	皿	-	2.9	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
367	296	9	10C	75263	-	皿	-	2.9	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
367	297	9	9C	74303	-	皿	-	2.1	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
367	298	9	10C	75264	-	皿	-	2.5	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
367	299	9	9F	73269	-	皿	-	2.2	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
367	300	9	9C	75243	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
367	301	9	9B	74267	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
367	302	9	3B	5418	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P22
367	303	9	3B	5917	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
367	304	9	9F	9071	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	8
367	305	9	9C	5947	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
367	306	9	3F	5332	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	8
367	307	9	1F	9523	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P22
368	308	9	1F	9814	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
368	309	9	9C	9073	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P16
368	310	9	7F	9079	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
368	311	9	1F	-	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P20
368	312	9	9C	75967	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P112
368	313	9	9C	75240	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P24
368	314	9	1F	286	-	皿	-	-	-	-	-	-	瓦	瓦	P22
368	315	9	9C	1380	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P209
368	316	9	9C	75279	-	皿	10.13	5.7	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P148
368	317	9	9C	-	-	皿	10.45	7.0	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P147
368	318	9	10A	-	-	皿	12.45	10.0	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P15
368	319	9	9C	-	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P116
368	320	9	9C	9449	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P140
368	321	9	3B	5471	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
368	322	9	9C	1300	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
368	323	9	3B	5438	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	9
368	324	9	9F	3087	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P139
368	325	9	10A	1494	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P14
368	326	9	9C	1248	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P55
368	327	9	4B	3483	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P113
368	328	9	-	75124	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P12
368	329	9	9A	75822	-	皿	-	3.2	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P222
368	330	9	9C	75242	-	皿	-	3.9	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P153
368	331	9	9C	75259	-	皿	-	3.5	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P20
368	332	9	9C	9871	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	P8
368	333	9	7B	6289	-	皿	-	-	-	-	-	-	ナメ	ナメ	8

発見番号	土器	区域	遺物番号	遺物	形状	類別	器種	口径 (mm)	残存高 (mm)	遺跡層	外観の文様・装飾	外底色	内底の文様・装飾	内底色	底面	口縁	備考
309	424	Ⅱ	40	-	Ⅱ	土器	土器	22.0	-	-	横線文、十字目文	褐色	ヨコ方向の十字	褐色	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
309	430	Ⅱ	40	22907	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	褐色	横線文(木製)	褐色	Ⅱ	Ⅱ	31 横線文
309	433	Ⅱ	40	2428	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	褐色	ヨコ方向の横線文	褐色	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
309	437	Ⅱ	40	2676	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器、ヨコ方向の横線文	褐色	横線文、ヨコ方向の横線文	褐色	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P25
309	438	Ⅱ	40	3017	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	ヨコ方向の横線文	土器	ヨコ方向の横線文	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
309	439	Ⅱ	40	3660	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	横線文	褐色	横線文、十字	褐色	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
310	443	Ⅱ	40	2245	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器、ヨコ方向の横線文	土器	ヨコ方向の横線文	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	441	Ⅱ	40	3058	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器、ヨコ方向の横線文	褐色	横線文、ヨコ方向の横線文、十字	褐色	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P14
310	442	Ⅱ	40	3032	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器、ヨコ方向の横線文	褐色(木製)	横線文、ヨコ方向の横線文	褐色(木製)	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P13
310	443	Ⅱ	40	3037	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器、ヨコ方向の横線文	土器	ヨコ方向の横線文、十字	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P14
310	444	Ⅱ	40	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	
310	445	Ⅱ	40	4022	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P14 302・303付
310	446	Ⅱ	40	2267	調査区	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
310	447	Ⅱ	40	24849	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P20
310	448	Ⅱ	40	25197	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
310	449	Ⅱ	40	27296	322	Ⅱ	土器	土器	2.2	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
310	450	Ⅱ	40	22652	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P26
310	451	Ⅱ	40	22780	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P25
310	452	Ⅱ	40	22685	-	Ⅱ	土器	土器	4.2+4	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P25
310	453	Ⅱ	40	22686	-	Ⅱ	土器	土器	6.2+4	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P26
310	454	Ⅱ	40	22687	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P26
310	455	Ⅱ	40	24912	-	Ⅱ	土器	土器	6.2+4	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P11
310	456	Ⅱ	40	24913	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P11
310	457	Ⅱ	40	25229	-	Ⅱ	土器	土器	4.4+4	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P14
310	458	Ⅱ	40	25296	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P14
310	459	Ⅱ	40	24796	-	Ⅱ	土器	土器	4.0+4	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P14
310	460	Ⅱ	40	2662	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P22
310	461	Ⅱ	40	27134	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	462	Ⅱ	40	24244	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P15
310	463	Ⅱ	40	2569	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P15
310	464	Ⅱ	40	2644	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P15
310	465	Ⅱ	40	22332	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P14
310	466	Ⅱ	40	22629	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P14
310	467	Ⅱ	40	4034	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P26
310	468	Ⅱ	40	3623	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P16
310	469	Ⅱ	40	3436	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	470	Ⅱ	40	3428	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	471	Ⅱ	40	3913	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	472	Ⅱ	40	3913	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	473	Ⅱ	40	3343	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	474	Ⅱ	40	22366	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	475	Ⅱ	40	2448	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P20
310	476	Ⅱ	40	4037	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	477	Ⅱ	40	22544	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	478	Ⅱ	40	2589	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	479	Ⅱ	40	24865	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	480	Ⅱ	40	22320	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	481	Ⅱ	40	4010	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	482	Ⅱ	40	22386	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	483	Ⅱ	40	3025	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	484	Ⅱ	40	22400	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P20
310	485	Ⅱ	40	22415	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	486	Ⅱ	40	22415	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	487	Ⅱ	40	22320	-	Ⅱ	土器	土器	3.2+4	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P20
310	488	Ⅱ	40	22472	-	Ⅱ	土器	土器	4.2+4	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P20
310	489	Ⅱ	40	3012	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P12
310	490	Ⅱ	40	2662	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P14
310	491	Ⅱ	40	1486	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P14
310	492	Ⅱ	40	2084	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P14
310	493	Ⅱ	40	1128	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P16
310	494	Ⅱ	40	1128	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P16
310	495	Ⅱ	40	1080	-	Ⅱ	土器	土器	-	-	土器	土器	土器	土器	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ P20

森の木遺跡遺物観察表

発掘年度	土器	区域	遺物番号	遺物	形状	種類	口径 (mm)	残存高さ (mm)	遺跡層 (m)	外観の文様・装飾	外底装飾	内底の文様・装飾	内底装飾	底面	口縁	備考
252	906	E	10	3022	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	いよひ装飾	ナシ	縦線	底	底	P9
252	907	E	11E	2446	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P132
252	908	E	11E	2448	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	909	E	11E	2284	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	いよひ装飾	ナシ	いよひ装飾	底	底	P15
252	911	E	10C	2330	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	いよひ装飾	ナシ	いよひ装飾	底	底	
252	912	E	10C	2343	-	埴内土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の埴内土	横線	ヨコ方向のナシ	横線	底	底	P182
252	912	E	10C	2343	-	埴内土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の埴内土	横線	ヨコ方向のナシ	横線	底	底	P18
252	913	E	10C	2343	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P1
252	914	E	9E	2480	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P102
252	915	E	9E	2480	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P102
252	916	E	9E	2480	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P102
252	917	E	10C	2336	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P12
252	918	E	9E	2480	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P102
252	919	E	10C	2329	-	埴内土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の埴内土	横線	ヨコ方向のナシ	横線	底	底	P12
252	920	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の埴内土	横線	ヨコ方向のナシ	横線	底	底	P103
252	921	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	いよひ装飾	ナシ	いよひ装飾	底	底	P103
252	922	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	923	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	924	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	925	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	926	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	927	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	928	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	929	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	930	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	931	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	932	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	933	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	934	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	935	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	936	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	937	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	938	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	939	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	940	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	941	E	9E	2449	-	埴内土器	鉢	縦線	-	埴内土	横線	ナシ	横線	底	底	P103
252	942	E	11	2380	-	白根土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の白根土	横線	ヨコ方向のナシ	横線	底	底	P182
252	943	E	10	3022	-	白根土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の白根土	横線	ヨコ方向の白根土	横線	底	底	P10
252	944	E	9E	2213	-	白根土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の白根土	横線	ヨコ方向の白根土	横線	底	底	
252	945	E	9E	4390	-	白根土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の白根土	横線	ヨコ方向の白根土	横線	底	底	
252	946	E	1F	9813	-	白根土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の白根土	横線	ヨコ方向の白根土	横線	底	底	
252	947	E	9E	2820	-	白根土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の白根土	横線	ヨコ方向の白根土	横線	底	底	
252	948	E	2E	1891	-	白根土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の白根土	横線	ヨコ方向の白根土	横線	底	底	
252	949	E	9E	3221	-	白根土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の白根土	横線	ヨコ方向の白根土	横線	底	底	P220
252	950	E	2E	1898	-	白根土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の白根土	横線	ヨコ方向の白根土	横線	底	底	P28
252	951	E	2F	6322	-	白根土器	鉢	縦線	-	横線	横線	ヨコ方向のナシ	横線	底	底	P15
252	952	E	9E	1451	-	白根土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の白根土	横線	ヨコ方向の白根土	横線	底	底	P31
252	953	E	1E	2798	-	白根土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の白根土	横線	ヨコ方向の白根土	横線	底	底	P130
252	954	E	-	1362	-	白根土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の白根土	横線	ヨコ方向の白根土	横線	底	底	P200
252	955	E	2E	1829	-	白根土器	鉢	縦線	-	ナリ方向の白根土	横線	ヨコ方向の白根土	横線	底	底	P16

洋館番号	本館	区域	遺物番号	遺物	方位	遺物	形状	口径 (mm)	残存高 (mm)	遺跡番号	外観の状況・遺構	外観色調	内装の状況・遺構	内装色調	発見 年月	調査 年月	備考	
271	156	9	7395	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	3.3×φ	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	少	少	F11
272	167	8	7430	-	瓦	山形瓦土器	-	-	-	-	-	山形瓦	焼色	山形瓦、ナガ	焼色	少	少	
273	168	8	7369	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	少	少	
274	169	9	7396	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	少	少	F27
275	161	8	7414	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	少	少	F29
276	162	8	7407	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	茶褐色	ナガ	茶褐色	少	少	F30
277	163	8	7379	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	茅葺瓦葺の山形瓦土器	茶褐色	少	少	F8
278	164	9	7327	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	緑色	焼色	焼色	少	少	
279	165	8	7417	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	山形瓦	茶褐色	焼瓦土、ヨコナガ	茶褐色	少	少	F21
280	166	8	7383	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	少	少	
281	167	9	7375	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	淡黄褐色	ナガ	淡黄褐色	少	少	F28
282	168	8	7446	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	山形瓦	茶褐色	茶褐色	茶褐色	少	少	
283	169	8	7411	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	等瓦、茅葺瓦葺の山形瓦土器	茶褐色	ナガ	茶褐色	少	少	
284	169	9	7401	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	ナガ	焼色	少	少	
285	171	9	7329	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	3.9×φ	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	淡黄褐色	ナガ	焼色	多	多	
286	172	9	7443	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	3.2×φ	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	淡黄褐色	ナガ	淡黄褐色	多	多	
287	173	9	7326	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	4.2×φ	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	淡黄褐色	ナガ	淡黄褐色	多	多	F21
288	174	9	7326	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	3.2×φ	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	淡黄褐色	ナガ	淡黄褐色	多	多	F16
289	175	9	7327	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	3.2×φ	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	ナガ	焼色	少	少	F1
290	176	8	7413	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	ナガ	焼色	少	少	
291	177	10	7329	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	3.5×φ	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	淡黄褐色	ナガ	淡黄褐色	多	多	
292	178	8	7393	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	ナガ	焼色	多	多	F92
293	179	8	7403	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	ナガ	焼色	少	少	
294	180	8	7424	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	茶褐色	茅葺瓦葺のナガ	茶褐色	多	多	
295	181	8	7374	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	ナガ	焼色	多	多	F46
296	182	9	7293	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	淡褐色	ナガ	焼色	多	多	
297	183	9	7411	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	3.1×φ	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	淡黄褐色	ナガ	淡黄褐色	多	多	F39
298	184	9	7238	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	3.2×φ	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	ナガ	焼色	多	多	
299	185	9	7397	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	ナガ	にんべん焼色	多	多	F29
300	186	9	7429	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	3.1×φ	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	ナガ	淡黄褐色	多	多	
301	187	9	7398	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	山形瓦	にんべん焼色	多	多	F47
302	188	9	7401	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	茶褐色	ナガ	淡褐色	多	多	
303	189	9	7394	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	ナガ	焼色	多	多	F28
304	190	9	7394	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	淡黄褐色	ナガ	淡黄褐色	多	多	F28
305	191	8	7359	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	等瓦、山形瓦	焼色	ヨコナガ	焼色	少	少	F173
306	192	9	7363	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	ナガ	にんべん焼色	少	少	F134
307	193	9	7406	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	4.7×φ	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	淡黄褐色	ナガ	淡黄褐色	多	多	
308	194	9	7416	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	淡褐色	淡褐色	淡褐色	少	少	F28
309	195	9	7406	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	淡褐色	ナガ	淡褐色	多	多	
310	196	8	7421	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	茶褐色	ナガ	茶褐色	多	多	
311	197	8	7426	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	茶褐色	ナガ	茶褐色	多	多	
312	198	8	7425	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	茶褐色	茶褐色	茶褐色	少	少	F1
313	199	9	7403	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	ナガ	にんべん焼色	多	多	F212
314	200	8	7329	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	山形瓦	焼色	ナガ	焼色	多	多	F20
315	183	9	7374	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	焼瓦土、ナガ	焼色	少	少	F19
316	183	8	7428	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	山形瓦	淡褐色	淡褐色	淡褐色	少	少	
317	183	9	7316	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	6.8×φ	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	ナガ	にんべん焼色	多	多	F6
318	184	8	7391	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	ナガ	にんべん焼色	少	少	F95
319	185	8	7325	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	山形瓦	にんべん焼色	ナガ	にんべん焼色	少	少	
320	186	8	7438	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	山形瓦	焼色	不定形瓦葺のナガ	焼色	少	少	F12
321	187	9	7402	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	6.8×φ	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	淡黄褐色	ナガ	淡黄褐色	多	多	
322	188	9	7326	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	焼瓦土	にんべん焼色	多	多	F29
323	189	9	7412	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	茶褐色	焼瓦土、ナガ	茶褐色	少	少	F19
324	190	9	7415	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	2.2×φ	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	不定形瓦葺のナガ	焼色	多	多	F16
325	191	9	7471	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	7.2×φ	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	ナガ	にんべん焼色	多	多	
326	192	9	7407	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	4.4×φ	-	山形瓦	淡黄褐色	ナガ	淡黄褐色	多	多	
327	193	9	7410	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	6.3×φ	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	ナガ	焼色	多	多	
328	194	9	7342	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	ナガ	にんべん焼色	多	多	F12
329	195	8	7429	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	山形瓦	淡褐色	焼瓦土、ナガ	淡褐色	少	少	F17
330	196	8	7412	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	ナガ	焼色	多	多	
331	197	9	7449	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	茶褐色	焼瓦土、ナガ	茶褐色	多	多	F13
332	198	9	7416	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	茶褐色	ナガ	焼色	多	多	
333	199	8	7392	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	焼色	ナガ	焼色	多	多	F16
334	200	8	7321	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	茶褐色	山形瓦、ナガ	茶褐色	少	少	F17
335	201	8	7322	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	山形瓦	にんべん焼色	多	多	F15
336	202	8	7324	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	茶褐色	ナガ	茶褐色	少	少	F15
337	203	8	7394	-	瓦	山形瓦土器	鉢	楕圓	-	-	-	茅葺瓦葺の山形瓦土器	にんべん焼色	ナガ	にんべん焼色	多	多	

森の木道跡遺物観察表

月日	区画	遺物番号	遺物	形状	類別	数量	口徑 (mm)	埋存高 (mm)	遺跡種	外郭の状況・遺構	外周施設	内郭の状況・遺構	内周施設	形状	数量	位置	備考
2013	2023	30	1307	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F22
2013	2023	30	1379	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	1	1	F1
2013	2026	30	1507	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	山形瓦、オゾ支那のオゾ、オゾ	山形瓦	オゾ	山形瓦	片割れ	3	3	F1
2013	2027	30	17311	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	6.71g	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F6、埋蔵土層裏
2013	2028	30	17337	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F12
2013	2029	30	1814	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	1	1	F11
2013	2030	30	1830	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦、オゾ	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	
2013	2031	30	1840	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F30
2013	2032	30	1849	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	10.34g	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	
2013	2033	30	18423	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	17.84g	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F38
2013	2034	30	18493	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	10.07g	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	
2013	2035	30	18517	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F20
2013	2036	30	18599	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F20
2013	2037	30	173307	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	4.14g	山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F9
2013	2038	30	17343	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	4.39g	山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	
2013	2039	30	17377	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F19
2013	2040	30	17380	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F15
2013	2041	30	17329	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	5.37g	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	
2013	2042	30	17383	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	5.67g	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F13 内蔵土層裏
2013	2043	30	17323	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	
2013	2044	30	17529	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F50
2013	2045	30	1811	-	瓦	山形瓦土器	埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	オゾ支那の山形瓦、オゾ	山形瓦	山形瓦	3	3	F37
2013	2046	30	1817	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F23
2013	2047	30	18300	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F63
2013	2048	30	17342	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	
2013	2049	30	17377	-	瓦	山形瓦土器	埋蔵	-	-	オゾ支那のオゾ、竹管瓦	山形瓦	オゾ支那のオゾ	山形瓦	片割れ	3	3	
2013	2050	30	1817	-	瓦	山形瓦土器	埋蔵	-	-	オゾ、オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F8
2013	2051	30	17310	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	
2013	2052	30	17299	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	2.77g	山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F9
2013	2053	30	18173	-	瓦	山形瓦土器	埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	
2013	2054	30	18223	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	
2013	2055	30	1828	-	瓦	山形瓦土器	口埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦、山形瓦、山形瓦、山形瓦、山形瓦、山形瓦	山形瓦	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F7
2013	2056	30	17303	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	7.39g	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F13
2013	2057	30	18413	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F14
2013	2058	30	17303	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	3.87g	山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F13 内蔵土層裏
2013	2059	30	17304	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	3.47g	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	
2013	2060	30	17317	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	3.57g	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F14
2013	2061	30	17322	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	9.25g	オゾ支那の山形瓦、オゾ	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F1
2013	2062	30	18141	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F6
2013	2063	30	18152	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F10 埋蔵土層裏
2013	2064	30	18181	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F10 埋蔵土層裏
2013	2065	30	18153	-	瓦	山形瓦土器	埋蔵	-	-	山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F80
2013	2066	30	18147	-	瓦	山形瓦土器	埋蔵	-	-	山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	
2013	2067	30	18149	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	3.07g	山形瓦、オゾ	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	
2013	2068	30	18163	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F14
2013	2069	30	18133	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	オゾ支那の山形瓦、オゾ	山形瓦	片割れ	3	3	F13
2013	2070	30	18139	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F13
2013	2071	30	17317	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	4.87g	山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F22
2013	2072	30	18132	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	
2013	2073	30	1117	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦、山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F13
2013	2074	30	17319	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	4.37g	山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F20
2013	2075	30	1816	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那の山形瓦、山形瓦、山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F10
2013	2076	30	17319	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	10.37g	山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F13
2013	2077	30	18146	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那のオゾ	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	F13
2013	2078	30	18179	-	瓦	山形瓦土器	遺跡 埋蔵	-	-	オゾ支那のオゾ、山形瓦、山形瓦	山形瓦	山形瓦	山形瓦	片割れ	3	3	

発掘番号	土器	区域	遺物番号	遺物	部位	類別	形状	口径 (mm)	残存高さ (mm)	遺跡層 (m)	外装の文様・装飾	外装色調	内装の文様・装飾	内装色調	重量 (g)	容積 (ml)	備考
302-1079	Ⅱ	Ⅱ	4239	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ、肩付丸、赤黒	褐色色	赤黒文、ナデ	褐色色	9	9	
302-1080	Ⅱ	Ⅱ	5292	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	10.5φ	-	赤黒文、ナデ	紅褐色	紅褐色	赤褐色	5	5	F1
302-1081	Ⅱ	Ⅱ	5411	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	赤褐色	ナデ	赤褐色	赤褐色	9	9	F12
302-1082	Ⅱ	Ⅱ	7003	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	7.8φ	-	赤褐色	ナデ	褐色	褐色	5	5	F23
302-1083	Ⅱ	Ⅱ	-	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	赤褐色	紅褐色	紅褐色	赤褐色	9	9	F17
302-1084	Ⅱ	Ⅱ	4242	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ(肩付)ナデ、赤	褐色色	ナデ、肩付丸	褐色色	9	9	
302-1085	Ⅱ	Ⅱ	4653	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	9	9	F1
302-1086	Ⅱ	-	-	-	赤褐色	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	赤褐色	紅褐色	紅褐色	紅褐色	9	9	F11
302-1087	Ⅱ	Ⅱ	5058	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	赤褐色	紅褐色	紅褐色	赤褐色	9	9	
302-1088	Ⅱ	Ⅱ	2621	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ(肩付)ナデ、赤	褐色色	ナデ、肩付丸	褐色色	9	9	
302-1089	Ⅱ	Ⅱ	5248	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	9	9	
302-1090	Ⅱ	Ⅱ	5264	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	9	9	F21
302-1091	Ⅱ	Ⅱ	7203	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ、肩付丸	紅褐色	紅褐色	紅褐色	9	9	F125
302-1092	Ⅱ	Ⅱ	71479	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	1.9φ	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	9	9	
302-1093	Ⅱ	Ⅱ	72196	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	9	9	
302-1094	Ⅱ	-	70352	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	赤褐色	紅褐色	紅褐色	紅褐色	9	9	F132
302-1095	Ⅱ	Ⅱ	73715	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	9	9	
302-1096	Ⅱ	-	23670	調査区	-	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	9	9	
302-1097	Ⅱ	Ⅱ	74799	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	9	9	
302-1098	Ⅱ	Ⅱ	75335	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	9	9	
302-1099	Ⅱ	Ⅱ	75294	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	9	9	
302-1100	Ⅱ	Ⅱ	75982	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	2.5φ	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	9	9	
302-1101	Ⅱ	Ⅱ	4889	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	9	9	F43
302-1102	Ⅱ	Ⅱ	73313	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	9	9	F56
302-1103	Ⅱ	Ⅱ	4829	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	9	9	F2
302-1104	Ⅱ	Ⅱ	5427	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	9	9	F22
302-1105	Ⅱ	Ⅱ	5086	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	9	9	
302-1106	Ⅱ	Ⅱ	5299	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	9	9	F20
302-1107	Ⅱ	Ⅱ	497	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	9	9	
302-1108	Ⅱ	Ⅱ	5252	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	9	9	F60
302-1109	Ⅱ	Ⅱ	5272	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ(肩付)ナデ	紅褐色	紅褐色	紅褐色	9	9	
302-1110	Ⅱ	Ⅱ	1495	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	9	9	
302-1111	Ⅱ	Ⅱ	5443	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	9	9	
302-1112	Ⅱ	Ⅱ	4884	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	9	9	
302-1113	Ⅱ	Ⅱ	4943	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	赤褐色	紅褐色	紅褐色	紅褐色	9	9	F44
302-1114	Ⅱ	Ⅱ	4554	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	9	9	F29
302-1115	Ⅱ	Ⅱ	4668	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	9	9	F118
302-1116	Ⅱ	Ⅱ	2301	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	9	9	
302-1117	Ⅱ	Ⅱ	4600	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	9	9	
302-1118	Ⅱ	Ⅱ	5178	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	9	9	
302-1119	Ⅱ	Ⅱ	5365	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	9	9	
302-1120	Ⅱ	Ⅱ	74900	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	9	9	F117
302-1121	Ⅱ	Ⅱ	-	-	赤褐色	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	赤褐色	紅褐色	紅褐色	紅褐色	9	9	
302-1122	Ⅱ	Ⅱ	5387	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	9	9	
302-1123	Ⅱ	Ⅱ	5946	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	9	9	F7
302-1124	Ⅱ	Ⅱ	5788	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	9	9	
302-1125	Ⅱ	Ⅱ	74717	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ(肩付)赤褐色	赤褐色	ナデ	赤褐色	9	9	
302-1126	Ⅱ	Ⅱ	5429	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	9	9	F204
302-1127	Ⅱ	Ⅱ	4668	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	9	9	
302-1128	Ⅱ	Ⅱ	5788	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	9	9	
302-1129	Ⅱ	Ⅱ	5243	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	9	9	
302-1130	Ⅱ	Ⅱ	5366	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ(肩付)赤褐色	赤褐色	ナデ	赤褐色	9	9	F124
302-1131	Ⅱ	Ⅱ	497	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ(肩付)ナデ	褐色	ナデ(肩付)ナデ	褐色	9	9	F227
302-1132	Ⅱ	Ⅱ	75966	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	9	9	F64
302-1133	Ⅱ	Ⅱ	75124	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	9	9	F66
302-1134	Ⅱ	Ⅱ	72596	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	9	9	F32
302-1135	Ⅱ	Ⅱ	5268	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	9	9	
302-1136	Ⅱ	Ⅱ	4874	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	9	9	
302-1137	Ⅱ	Ⅱ	73732	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	9	9	F66
302-1138	Ⅱ	Ⅱ	6665	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	9	9	F20
302-1139	Ⅱ	Ⅱ	5073	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ、肩付丸	紅褐色	ナデ、肩付丸	紅褐色	9	9	
302-1140	Ⅱ	Ⅱ	5861	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	9	9	F272
302-1141	Ⅱ	-	-	-	-	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ(ナデ)、赤褐色	褐色	ナデ(ナデ)	褐色	9	9	
302-1142	Ⅱ	-	4611	調査区	-	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ(ナデ)、赤褐色	褐色	ナデ(ナデ)、赤褐色	褐色	9	9	
302-1143	Ⅱ	Ⅱ	4287	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ(肩付)ナデ、ナ	赤褐色	ナデ	赤褐色	9	9	
302-1144	Ⅱ	Ⅱ	5243	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	4.5φ	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	9	9	
302-1145	Ⅱ	Ⅱ	5048	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ(ナデ)	赤褐色	ナデ(ナデ)ナデ	赤褐色	9	9	F133
302-1146	Ⅱ	Ⅱ	5438	-	Ⅱ	弥生土器	遺鉢(土師製)	-	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	9	9	F6

森の木道跡遺物観察表

発見番号	区画	遺物番号	遺物	層位	類別	形状	口径 (mm)	持ち高さ (mm)	遺跡番号	外周の文様・調整	外周色調	内周の文様・調整	内周色調	発見 位置	位置 説明	備考
204-1147	区 40	941	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	土色	土色	土色	少	少	
204-1148	区 30	1476	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	土色	土色	土色	少	少	P22
204-1149	区 30	1442	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	土色	褐色	少	少	
204-1150	区 30	1551	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	土色	土色	褐色	少	少	
204-1151	区 26	1171	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	土色	褐色	少	少	
204-1152	区 40	1075	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	土色	土色	褐色	少	少	
204-1153	区 30	1614	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P48
204-1154	区 40	1123	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1155	区 40	12519	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	3.0×φ	調整	-	褐色	土色	褐色	少	少	
204-1156	区 40	1146	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	土色	土色	褐色	少	少	
204-1157	区 40	1713	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	土色	褐色	少	少	
204-1158	区 11E	12608	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	土色	褐色	少	少	
204-1159	区 26	1430	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P64
204-1160	区 2F	1174	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	土色	褐色	少	少	P115
204-1161	区 2F	1069	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	土色	土色	褐色	少	少	
204-1162	区 2F	1072	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ヨコナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P28
204-1163	区 1E	1776	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	土色	褐色	少	少	P29
204-1164	区 40	1421	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	土色	褐色	少	少	P138
204-1165	区 2F	1029	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P73
204-1166	区 2E	1078	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P25
204-1167	区 40	11175	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P14
204-1168	区 2F	1047	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P21
204-1169	区 1E	17126	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	4.1×φ	調整	-	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1170	区 2E	1094	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	土色	土色	褐色	少	少	P6
204-1171	区 2E	1047	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ヨコナダ	ナダ	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1172	区 2E	1029	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	ヨコナダ、ナダ	褐色	少	少	
204-1173	区 2E	1096	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	土色	土色	褐色	少	少	P2
204-1174	区 40	1409	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	土色	土色	褐色	少	少	
204-1175	区 2E	1101	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	土色	褐色	少	少	P113
204-1176	区 2E	1047	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	不明	-	褐色	不明	褐色	少	少	
204-1177	区 40	1014	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P104
204-1178	区 2F	1261	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ヨコナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1179	区 2F	1014	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1180	区 41	1082	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1181	区 50	1417	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	赤褐色	-	赤褐色	土色	赤褐色	少	少	
204-1182	区 4F	12343	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	3.0×φ	調整	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P114
204-1183	区 40	11446	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	土色	土色	褐色	少	少	P20
204-1184	区 1E	1611	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P23
204-1185	区 11	1402	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ、赤褐色	-	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1186	区 1E	11623	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1187	区 11F	12603	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1188	区 4F	12372	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	5.5×φ	ナダ	-	土色	土色	褐色	少	少	P88
204-1189	区 40	1001	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P89
204-1190	区 10C	12386	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	4.4×φ	ナダ	-	土色	土色	褐色	少	少	
204-1191	区 1E	11491	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	赤土(調整)	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P76
204-1192	区 40	1412	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1193	区 4F	11414	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	赤褐色	ナダ	赤褐色	褐色	褐色	少	少	P12
204-1194	区 40	1023	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	土色	土色	褐色	少	少	P17
204-1195	区 11E	12612	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P29
204-1196	区 4F	12602	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	4.4×φ	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P79
204-1197	区 11E	12610	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	土色	土色	褐色	少	少	P144
204-1198	区 40	11133	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1199	区 40	1144	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ、赤土	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P17
204-1200	区 4F	1071	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P42
204-1201	区 2F	1167	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ヨコナダ(赤褐色)調整	-	褐色	ヨコナダ(赤褐色)調整	褐色	少	少	
204-1202	区 50	1385	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P11
204-1203	区 11E	12605	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ、調整	-	土色	土色	褐色	少	少	
204-1204	区 4F	1099	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	不明	褐色	少	少	P12
204-1205	区 2F	1062	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P13
204-1206	区 40	1417	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1207	区 40	1079	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1208	区 2E	1048	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P74
204-1209	区 40	11412	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	4.8×φ	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1210	区 40	11262	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	土色	土色	褐色	少	少	P83
204-1211	区 2E	1174	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	土色	土色	褐色	少	少	P84
204-1212	区 2E	1067	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	土色	土色	褐色	少	少	
204-1213	区 11E	12609	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1214	区 50	1404	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	土色	土色	褐色	少	少	P87
204-1215	区 2E	1099	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P17
204-1216	区 40	1042	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	調整	ナダ	土色	褐色	褐色	少	少	
204-1217	区 2F	1014	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	P30
204-1218	区 40	1291	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1219	区 40	1013	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	ナダ	-	褐色	褐色	褐色	少	少	
204-1220	区 -	-	-	表層	弥生土器	土師器	-	-	不明	-	褐色	ヨコナダ	褐色	少	少	P41

採集番号	区画	遺物番号	遺物	層位	類別	器種	口径 (mm)	残存高 (mm)	遺跡層 (m)	外観の形状・装飾	外底形状	内底の形状・装飾	内底底面	底面 形状	口縁 形状	備考	
366-1223	区	5277	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	深褐色	黒コテテ、ナデ	深褐色	円形	少		
366-1223	区	7491	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	3.2cm	-	ナデ	土色(深褐色)	ナデ	土色(深褐色)	多	多		
366-1223	区	7671	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	深褐色	ナデ	土色(深褐色)	多	多	P14	
366-1231	区	75476	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ、筒状文	深褐色(一部 灰褐色)	ナデ(筒状文の非施文)	深褐色(一部 灰褐色)	円形	多	P5	
366-1233	区	-	-	-	弥生土器	土師器	-	-	-	浅褐色、不明	褐色	不明	褐色	円形	少		
366-1236	区	6413	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色(土色)	ナデ、筒状文	褐色(土色)	円形	少		
366-1237	区	75006	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	(13.1)	-	-	黒コテテ、ナデ	深褐色	筒状文ナデ	深褐色	多	多	P13	
366-1238	区	75147	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	3.9cm	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多	P39	
366-1239	区	1400	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ、黒土状斑	褐色	ナデ	褐色	多	多	P11	
366-1239	区	361	2668	-	弥生土器	土師器	-	-	-	土色(深褐色)	ナデ	土色(深褐色)	多	多			
367-1231	区	72403	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	2.6cm	-	黒コテテ	土色(深褐色)	黒コテテ	土色(深褐色)	多	多		
367-1232	区	72522	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	2.2cm	-	褐色	ナデ	土色(深褐色)	多	多	P71		
367-1233	区	72403	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ、黒土	-	ナデ	-	少			
367-1234	区	72679	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	深褐色	ナデ	深褐色	少			
367-1235	区	72682	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少			
367-1236	区	72526	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少			
367-1237	区	72715	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少			
367-1238	区	72951	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多		
367-1239	区	72647	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多		
367-1240	区	72396	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ、赤褐色	褐色	ナデ	褐色	多	多		
367-1241	区	72676	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多		
367-1242	区	72465	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	3.5cm	-	ナデ	土色(深褐色)	ナデ	土色(深褐色)	多	多	P21	
367-1243	区	72495	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	2.2cm	-	ナデ	浅褐色	ナデ	浅褐色	少	少	P20	
367-1244	区	72619	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ(割破)	褐色	ナデ、筒状文	褐色	多	多		
367-1245	区	72496	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	3.0cm	-	ナデ	褐色	ナデ	浅褐色	少	多		
367-1246	区	72396	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	3.5cm	-	黒コテテ、ナデ	土色(深褐色)	ナデ	土色(深褐色)	少	多		
367-1247	区	72494	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多	P15	
367-1248	区	72673	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多	P16	
367-1249	区	72214	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	2.1cm	-	ナデ	土色(深褐色)	ナデ	土色(深褐色)	多	多		
367-1250	区	6426	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少		P125	
367-1251	区	2282	2282	-	弥生土器	土師器	-	-	-	不明(割破)	褐色	ナデ	褐色	少			
367-1252	区	6416	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	深褐色	ナデ	深褐色	多	多	P92	
367-1253	区	60269	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	2.2cm	-	ナデ	浅褐色	ナデ	浅褐色	少	多	P90	
367-1254	区	7239	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ(筒状文の非施文 土色) 黒コテテ	褐色	ナデ	褐色	少	多		
367-1255	区	1177	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ、赤褐色	灰褐色	ナデ、赤褐色	灰褐色	多	多		
367-1256	区	3222	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	多	P1	
367-1257	区	3217	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	多	P20	
367-1258	区	3627	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	多		
367-1259	区	3233	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	多		
367-1260	区	6126	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	土色(深褐色)	ナデ	土色(深褐色)	多	多	P90	
367-1261	区	3232	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	多	P9	
367-1262	区	72652	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多	P21	
367-1263	区	72136	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多	P3	
367-1264	区	74221	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ、黒土	褐色	ナデ	褐色	少	多	P1	
367-1265	区	2289	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	黒コテテ、ナデ	深褐色	ナデ	深褐色	多	多		
367-1266	区	72615	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	土色(深褐色)	ナデ	土色(深褐色)	多	多		
367-1267	区	3636	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	土色(深褐色)	筒状文	土色(深褐色)	多	多		
367-1268	区	3412	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	赤褐色	褐色	褐色	褐色	多	多	P12	
367-1269	区	6363	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ(筒状文の非施文)	褐色	ナデ	褐色	少	多		
367-1270	区	72489	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ(割破)	褐色	ナデ	土色(深褐色)	多	多		
367-1271	区	60229	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多	P10	
367-1272	区	72136	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	3.0cm	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多	P1	
367-1273	区	3246	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	深褐色	ナデ	深褐色	多	多		
367-1274	区	22870	赤褐色	-	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ、筒状文の非施文	浅褐色	ナデ	褐色	少	多		
367-1275	区	72366	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	浅褐色	ナデ	浅褐色	多	多		
367-1276	区	72157	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	浅褐色	ナデ	浅褐色	多	多	P16	
367-1277	区	72524	-	Ⅱ	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多	P5	
367-1278	区	41	7514	-	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ(筒状文の非施文)	土色(深褐色)	ナデ(筒状文の非施文)	土色(深褐色)	少	多		
367-1279	区	41	2194	-	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	土色(深褐色)	ナデ	土色(深褐色)	少	多	P4	
367-1280	区	31	3272	-	弥生土器	土師器	-	-	-	ナデ	土色(深褐色)	ナデ	土色(深褐色)	少	多		
368-1281	区	39	72516	-	弥生土器	土師器(土師器)	-	3.2cm	-	ナデ	土色(深褐色)	ナデ	土色(深褐色)	多	多		
368-1282	区	39	3212	-	Ⅱ	弥生土器	土師器(土師器)	-	-	ナデ(割破)	褐色	ナデ(筒状文の非施文 土色) 黒コテテ	褐色	多	多	P12	
368-1283	区	51	2249	-	Ⅱ	弥生土器	土師器(土師器)	-	-	ナデ(ナデ、筒状文)	土色(深褐色)	ナデ(ナデ)	土色(深褐色)	多	多	P12	
368-1284	区	39	2279	-	Ⅱ	弥生土器	土師器(土師器)	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	多	多	P11(筒状文の非施文)	
368-1285	区	60229	-	Ⅱ	弥生土器	土師器(土師器)	-	-	-	ナデ、赤褐色	ナデ、筒状文	ナデ、筒状文	褐色	多	多	P16	
368-1286	区	71	6236	-	Ⅱ	弥生土器	土師器(土師器)	-	-	ナデ(筒状文の非施文)	深褐色	ナデ、筒状文	深褐色	少	多		
368-1287	区	41	2714	-	Ⅱ	弥生土器	土師器(土師器)	-	-	ナデ(筒状文の非施文)	褐色	ナデ(ナデ)	褐色	多	多	P11	
368-1288	区	12	4276	-	Ⅱ	弥生土器	土師器(土師器)	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少			
368-1289	区	22	345	-	Ⅱ	弥生土器	土師器(土師器)	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	多	P27	
368-1290	区	40	7502	-	Ⅱ	弥生土器	土師器(土師器)	-	3.2cm	-	ナデ	土色(深褐色)	ナデ	土色(深褐色)	少	多	P12

森の木道跡遺物観察表

採集番号	区画	遺物番号	遺物	種別	器種	口径 (mm)	残存高 (mm)	遺跡番号	外装の文様・装飾	外装色調	内装の文様・装飾	内装色調	形状	材質	備考	
300	1292	4C	5629	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	滑明褐色	ナデ	滑明褐色	ナデ	ナ	F306
300	1292	4F	5633	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	緑褐色	ナデ	緑褐色	ナデ	ナ	
300	1293	4F	5720	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	2.7cm	ナデ、赤線	浅黄褐色	ナデ	浅黄褐色	ナデ	ナ	
300	1294	4E	5662	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	ナデ	ナ	F100
300	1295	4F	5747	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	ナデ	ナ	
300	1296	4C	5651	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	F19
300	1297	4E	5643	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	明褐色	ナデ	明褐色	ナデ	ナ	F16
300	1298	4E	5657	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	F10
300	1299	4E	5704	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	ナデ	ナ	
300	1300	4F	5611	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	ナデ	ナ	F1
300	1301	4E	5647	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	
300	1302	4F	-	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	F8
300	1303	4A	5580	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	ナデ	ナ	
300	1304	4F	-	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	
300	1305	4E	5518	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	ナデ	ナ	F50
300	1306	4E	5562	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	ナデ	ナ	F12
300	1307	4F	5584	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ、磨光面	紅褐色	ナデ、磨光面	紅褐色	ナデ	ナ	
300	1308	4F	5609	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	磨光	黄褐色	磨光	黄褐色	ナデ	ナ	F283	
300	1309	4E	5613	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	ボコボコ	黄褐色	ボコボコ	黄褐色	ナデ	ナ	F90	
300	1310	4F	5725	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	
300	1311	4F	5758	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	
300	1312	4F	-	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ボコボコ面ナデ、ボコボコ面ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	F98
300	1313	4E	5689	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ、磨光面	紅褐色	ナデ、磨光面	紅褐色	ナデ	ナ	F72
300	1314	4F	5665	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	
300	1315	4E	5519	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	ナデ	ナ	
300	1316	4F	5745	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	
300	1317	4F	5604	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ボコボコ面赤褐色ナデ	黄褐色	ボコボコ面ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	
300	1318	4E	5694	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	ナデ	ナ	F3
300	1319	4E	5751	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	F73
300	1320	4E	5629	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	F23
300	1321	4E	5627	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	ナデ	ナ	F112
300	1322	4E	5554	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ボコボコ、磨光面ナデ	黄褐色	ボコボコナデ、磨光面ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	
300	1323	4E	-	-	赤線	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ボコボコ面ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	F15
300	1324	4E	5475	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	磨光、不明	明褐色	磨光、磨光面	明褐色	ナデ	ナ	
300	1325	4E	5608	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	F41
300	1326	4E	5629	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	F210
300	1327	4F	5707	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	磨光面、ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	ナデ	ナ	F18
300	1328	4E	5694	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	ナデ	ナ	F186
300	1329	4E	5675	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	30.0	8.5cm	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	F18
300	1330	4E	5694	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	29.4	29.4cm	ナデ	褐色	ナデ	褐色	ナデ	ナ	F287
300	1331	4F	5618	-	瓦	弥生土器	1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	F145
300	1332	4F	5735	-	瓦	弥生土器	1300線	-	-	磨光	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	F165
300	1333	4F	5756	-	瓦	弥生土器	1300線	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	ナデ	ナ	F98
300	1334	4E	5679	-	瓦	弥生土器	1300線	-	-	ボコボコ面赤褐色ナデ、磨光面ナデ	黄褐色、赤褐色	ボコボコ面赤褐色ナデ、磨光面ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	
300	1335	4F	5703	-	瓦	弥生土器	1300線	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	ナデ	ナ	
300	1336	4F	5737	-	瓦	弥生土器	1300線	-	-	ボコボコ面赤褐色ナデ	黄褐色	磨光、磨光面	黄褐色	ナデ	ナ	F222
300	1337	4E	576	-	瓦	弥生土器	1300線	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナ	F222
300	1338	4E	5703	-	瓦	弥生土器	1300線	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	ナデ	ナ	F173
300	1339	4F	5736	-	瓦	弥生土器	1300線	-	-	ナデ	黄褐色・黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	F205
300	1340	4E	5624	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ボコボコ面赤褐色ナデ	紅褐色	紅褐色	ナデ	ナ	F1	
300	1341	4F	5740	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ、磨光面	滑明褐色・黄褐色	磨光面ナデ	滑明褐色・黄褐色	ナデ	ナ	F90
300	1342	4E	5789	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色・黄褐色	ナデ	黄褐色・黄褐色	ナデ	ナ	
300	1343	4F	5745	-	瓦	弥生土器	赤 1300線	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	ナデ	ナ	F76
300	1344	4E	5746	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	ナデ	ナ	F9
300	1345	4E	5706	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	ナデ	ナ	F19
300	1346	4F	5706	-	瓦	弥生土器	1300線	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	ナデ	ナ	
300	1347	4E	5732	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナ	F90
300	1348	4E	5740	-	瓦	弥生土器	赤 1300線	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	ナデ	ナ	F9
300	1349	4E	5725	-	瓦	弥生土器	1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	F16
300	1350	4E	5699	-	瓦	弥生土器	1300線	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	ナデ	ナ	F19
300	1351	4E	5744	-	瓦	弥生土器	1300線	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	ナデ	ナ	F12
300	1352	4F	5732	-	瓦	弥生土器	赤 1300線	-	3.0cm	磨光面	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	
300	1353	4F	5749	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	
300	1354	4E	5671	-	瓦	弥生土器	1300線	-	-	磨光面ナデ	黄褐色	磨光面ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	
300	1355	4E	5756	-	瓦	弥生土器	赤 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ボコボコ面赤褐色	黄褐色	ナデ	ナ	
300	1356	4F	5790	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	F209
300	1357	4F	5744	-	瓦	弥生土器	遺跡 1300線	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	
300	1358	4E	5740	-	瓦	弥生土器	赤	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	ナデ	ナ	
300	1359	4F	5700	-	瓦	弥生土器	赤 1300線	-	-	不明	黄褐色	不明	黄褐色	ナデ	ナ	
300	1360	4E	5740	-	瓦	弥生土器	赤 1300線	-	-	ナデ	紅褐色	ナデ	紅褐色	ナデ	ナ	

発掘番号	土器	区域	遺物番号	遺物	形状	類別	器種	口径 (cm)	遺存高 (cm)	遺跡番号	外郭の文様・装飾	外郭色調	内面の文様・装飾	内面色調	底面	口縁	備考
301-1262	Ⅱ	ⅡF	3033	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	F17
301-1262	Ⅱ	ⅡF	2926	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	4.2cm	-	ナデ	浅黄褐色	ナデ	無文	無文	底面	底	F23
301-1262	Ⅱ	ⅡE	3222	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	2.6cm	-	ナデ	褐色	ナデ	無文	無文	底面	底	ナ
301-1264	Ⅱ	ⅡC	2159	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	無文	ナデ	無文	無文	無文	底面	底	ナ
301-1263	Ⅱ	ⅡA	4233	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	ナ
301-1266	Ⅱ	ⅡD	2313	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	4.7cm	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	ナ
301-1267	Ⅱ	ⅡF	-	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	F104
301-1266	Ⅱ	ⅡA	3228	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	ナ
301-1269	Ⅱ	ⅡE	-	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	ナ
301-1259	Ⅱ	ⅡE	2903	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	4.1cm	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	褐色	底面	底	F14
301-1251	Ⅱ	ⅡF	3200	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	F24
301-1272	Ⅱ	ⅡE	3047	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	黄褐色	底面	底	ナ
301-1273	Ⅱ	ⅡF	2209	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	4.0cm	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	F113
301-1274	Ⅱ	ⅡE	2433	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	3.9cm	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	褐色	底面	底	F11
301-1275	Ⅱ	ⅡB	2422	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	黄褐色	底面	底	F28
301-1276	Ⅱ	ⅡF	2294	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	4.0cm	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	褐色	底面	底	F145
301-1277	Ⅱ	ⅡF	2210	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	4.8cm	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	黄褐色	底面	底	F276
301-1278	Ⅱ	ⅡI	2200	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	不明	土師製	不明	土師製	土師製	底面	底	ナ
301-1259	Ⅱ	ⅡI	2997	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	3.5cm	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	黄褐色	底面	底	ナ
301-1260	Ⅱ	ⅡE	2329	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	3.6cm	-	無文	土師製	無文	土師製	土師製	底面	底	F210
301-1261	Ⅱ	ⅡI	3237	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	F276
301-1262	Ⅱ	ⅡC	2722	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	5.2cm	-	ナデ	黄褐色	ナデ	褐色	褐色	底面	底	F17
301-1263	Ⅱ	ⅡF	3286	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	F1
301-1264	Ⅱ	ⅡI	2428	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	ナ
301-1265	Ⅱ	ⅡB	2402	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	黄褐色	底面	底	ナ
301-1266	Ⅱ	ⅡE	2271	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	土師製	無文	土師製	底面	底	ナ
301-1267	Ⅱ	ⅡI	2223	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	褐色	底面	底	F278
301-1268	Ⅱ	ⅡI	2261	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	ナ
301-1269	Ⅱ	ⅡE	2486	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	ナ
301-1290	Ⅱ	ⅡF	-	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	無文	土師製	無文	土師製	土師製	底面	底	F28
301-1261	Ⅱ	ⅡE	4626	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	土師製	無文	土師製	土師製	底面	底	F24
301-1262	Ⅱ	ⅡE	5614	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	無文	土師製	無文	土師製	土師製	底面	底	F22
301-1263	Ⅱ	ⅡF	2228	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	969
301-1264	Ⅱ	ⅡF	3265	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	不明	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	F14
301-1265	Ⅱ	ⅡE	2213	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	14.6	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	ナ
301-1266	Ⅱ	ⅡC	2266	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	6.8cm	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	ナ
301-1267	Ⅱ	ⅡE	2617	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	24
301-1268	Ⅱ	ⅡD	2260	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	4.4cm	-	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	底面	底	F1
301-1269	Ⅱ	ⅡC	2653	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	ナ
301-1270	Ⅱ	ⅡD	2229	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	無文	土師製	無文	土師製	土師製	底面	底	ナ
301-1271	Ⅱ	ⅡF	2281	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	10.0cm	-	ナデ	黄褐色	ナデ	黄褐色	黄褐色	底面	底	ナ
301-1262	Ⅱ	ⅡE	2277	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	8.5cm	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	F26
301-1263	Ⅱ	ⅡE	2428	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	褐色	底面	底	ナ
301-1264	Ⅱ	ⅡC	2280	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	不明	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	F138
301-1265	Ⅱ	ⅡE	2613	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	褐色	底面	底	F1
301-1266	Ⅱ	ⅡF	4433	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	ナ
301-1267	Ⅱ	ⅡF	-	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	26.4	7.9	土師製	土師製	土師製	土師製	土師製	底面	底	ナ
301-1268	Ⅱ	ⅡF	4584	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	F26
301-1269	Ⅱ	ⅡD	4746	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	無文	土師製	無文	土師製	土師製	底面	底	ナ
301-1269	Ⅱ	ⅡE	4414	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	無文	土師製	無文	土師製	土師製	底面	底	F18
301-1261	Ⅱ	ⅡF	3127	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	969
301-1262	Ⅱ	ⅡI	2138	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	不明	褐色	不明	褐色	褐色	底面	底	F11
301-1263	Ⅱ	ⅡC	1297	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	4.0cm	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	F18
301-1264	Ⅱ	ⅡE	3613	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	F24
301-1265	Ⅱ	ⅡE	4245	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	ナ
301-1266	Ⅱ	ⅡE	5612	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	F102
301-1267	Ⅱ	ⅡE	2226	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	ナ
301-1268	Ⅱ	ⅡE	4149	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	土師製	無文	土師製	底面	底	F138
301-1269	Ⅱ	ⅡD	2629	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	F29
301-1269	Ⅱ	ⅡF	2285	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	土師製	無文	土師製	底面	底	F26
301-1269	Ⅱ	ⅡE	2286	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	土師製	無文	土師製	底面	底	F26
301-1269	Ⅱ	ⅡE	2222	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	F21
301-1269	Ⅱ	ⅡE	2219	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	F202
301-1269	Ⅱ	ⅡE	2427	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	F22
301-1269	Ⅱ	ⅡE	2436	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	無文	ナデ	無文	無文	底面	底	28
301-1270	Ⅱ	ⅡE	2282	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	7.2cm	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	F20
301-1269	Ⅱ	ⅡI	2614	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	無文	土師製	無文	土師製	土師製	底面	底	F49
301-1270	Ⅱ	ⅡE	2667	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	土師製	無文	土師製	無文	土師製	底面	底	F15
301-1269	Ⅱ	ⅡI	3142	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	土師製	ナデ	土師製	土師製	底面	底	F46
301-1261	Ⅱ	ⅡE	4243	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	無文	土師製	無文	土師製	土師製	底面	底	F13
301-1262	Ⅱ	ⅡF	5026	-	底	弥生土器	鉢(土師製)	-	-	ナデ	土師製	無文	土師製	土師製	底面	底	F102

森の木道跡遺物観察表

採集番号	区画	遺物番号	遺物	種別	形状	口径 (mm)	持ち高さ (mm)	遺跡深さ (mm)	外周の文様・装飾	外周色調	内面の文様・装飾	内面色調	発見時期	調査者		
204 1433	区	0021	-	瓦	瓦文部(下)	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	褐色色	ナデ	褐色色	少	少	F18	
204 1434	区	0449	-	瓦	瓦文部(下)	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	褐色色	褐色ナデ	褐色色	中	中		
204 1435	区	2990	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	32.4	-	ナデ	褐色色	ナデ	褐色色	少	少	F113	
204 1436	区	2923	-	瓦	瓦文部	跡(土師器)	5.9mm	-	ナデ	褐色色	ナデ	褐色色	中	中		
204 1437	区	3077	-	瓦	瓦文部	跡(土師器)	-	-	ナデ	褐色色	ナデ	褐色色	少	少	F141	
204 1438	区	2980	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	褐色色	中	中	F12	
204 1439	区	-	表割	瓦	瓦文部	跡(土師器)	-	-	条板文?	褐色色	条板文?	褐色色	少	少	F19	
204 1440	区	6022	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	褐色色	褐色ナデ	褐色色	少	少	F19	
204 1441	区	5612	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	淡褐色色	褐色ナデ	褐色色	中	中	F19	
204 1442	区	6006	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	褐色色	褐色ナデ	褐色色	中	中	F8	
204 1443	区	3171	-	瓦	瓦文部	跡(土師器)	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	褐色色	中	中	F1	
204 1444	区	617	-	瓦	瓦文部	跡(土師器)	-	-	ナデ	土師(淡褐色)	ナデ	土師(淡褐色)	少	少		
204 1445	区	2860	-	瓦	瓦文部	土師器	(表?)	-	ナデ	褐色色	褐色色	褐色色	中	中	F16	
204 1446	区	6040	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	淡褐色色	ナデ	淡褐色色	少	少	F19	
204 1447	区	6012	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	土師(淡褐色)	ナデ	土師(淡褐色)	少	少	F19	
204 1448	区	1416	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	褐色色	ナデ	褐色色	中	中		
204 1449	区	6176	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	淡褐色色	ナデ	淡褐色色	中	中	F213	
204 1450	区	1402	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	褐色色	条板文ナデ	褐色色	少	少	F65	
204 1451	区	3967	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	褐色色	中	中	F229	
204 1452	区	6113	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	褐色色	中	中	F22	
204 1453	-	-	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	土師(淡褐色)	ナデ	土師(淡褐色)	中	中	F1	
204 1454	区	61	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	土師(淡褐色)	ナデ	土師(淡褐色)	少	少		
204 1455	区	2921	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	土師(淡褐色)	ナデ	土師(淡褐色)	少	少	F19	
204 1456	区	15	2546	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	少	少		
204 1457	区	15	459	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	中	中	F30	
204 1458	区	26	662	-	瓦	瓦文部	遺跡(土師器)	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	少	少	F30	
204 1459	区	11P	2346	瓦	瓦文部	遺跡	3.5mm	-	条板文	褐色色	褐色色	褐色色	少	少	F14	
204 1460	区	-	表割	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	不規則	褐色色	褐色色	褐色色	少	少	F15	
204 1461	区	6162	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	褐色色	中	中		
204 1462	区	60	2864	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	土師(淡褐色)	ナデ	土師(淡褐色)	中	中	F15
204 1463	区	-	7052	条板文(瓦)	瓦文部	遺跡	-	-	条板文	土師(褐色)	ワフ条板ナデ	土師(褐色)	中	中		
204 1464	区	65	2250	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	土師(淡褐色)	ナデ	土師(淡褐色)	中	中	
204 1465	区	-	表割	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	条板文	土師(褐色)	条板文	褐色色	少	少	F8	
204 1466	区	65	2326	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	不規則条板文	淡褐色色	不規則条板文	淡褐色色	中	中	
204 1467	区	60	2220	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	土師(淡褐色)	褐色色	褐色色	中	中	F160
204 1468	区	60	2249	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	中	中		
204 1469	区	11D	2324	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	中	中		
204 1470	区	10C	2324	-	瓦	瓦文部	遺跡	1.3mm	条板文	褐色色	褐色色	褐色色	少	少		
204 1471	区	26	6301	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	少	少	F46	
204 1472	区	6C	2322	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	中	中		
204 1473	区	11P	2411	-	瓦	瓦文部	遺跡	2.5mm	ナデ	土師(淡褐色)	ナデ	褐色色	中	中		
204 1474	区	6C	3001	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	條板文(条板)	褐色色	褐色色	中	中	F14	
204 1475	区	-	表割	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	条板文	褐色色	褐色色	褐色色	少	少	F19	
204 1476	区	6E	2376	-	瓦	瓦文部	遺跡	2.0mm	ナデ	土師(淡褐色)	ナデ	褐色色	中	中		
204 1477	区	10C	2446	-	瓦	瓦文部	遺跡	2.3mm	条板文	褐色色	褐色色	褐色色	少	少	F50	
204 1478	区	10B	2301	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ワフ条板(白粘土) 褐色	褐色色	ワフ条板(白粘土) 褐色	褐色色	中	中	F104
204 1479	区	6E	2366	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ワフ条板(白粘土) 褐色	褐色色	褐色色	中	中	F11	
204 1480	区	6C	2345	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	褐色色(淡褐色)	ナデ	褐色色	中	中	F11
204 1481	区	11E	7430	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	中	中	F82	
204 1482	区	09	1480	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	褐色色(条板)	褐色色	褐色色	中	中	
204 1483	区	10D	7380	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	中	中		
204 1484	区	26	2212	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	不規則	褐色色	不規則	土師(淡褐色)	中	中	F19
204 1485	区	11P	2411	-	瓦	瓦文部	遺跡	4.0mm	ナデ	土師(淡褐色)	褐色色	褐色色	少	少	F8	
204 1486	区	6E	2398	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	土師(淡褐色)	ナデ	褐色色	少	少	F13
204 1487	区	10B	7479	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ワフ条板(白粘土) 褐色	褐色色	褐色色	中	中	F1	
204 1488	区	09	2329	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	淡褐色色	褐色色	褐色色	中	中	F11
204 1489	区	12B	7529	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	条板文	褐色色	褐色色	少	少		
204 1490	区	6C	2323	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	中	中		
204 1491	区	0F	2518	-	瓦	瓦文部	遺跡	5.2mm	ナデ	褐色色	褐色色	褐色色	中	中	F56	
204 1492	区	10C	2688	-	瓦	瓦文部	遺跡	3.2mm	ナデ	褐色色	褐色色	褐色色	中	中	F156	
204 1493	区	6E	2347	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	條板文	褐色色	褐色色	中	中	F15	
204 1494	区	26	2492	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	不規則	土師(淡褐色)	褐色色	褐色色	中	中	F256
204 1495	区	6E	2360	-	瓦	瓦文部	遺跡	5.3mm	ナデ	褐色色	褐色色	褐色色	中	中	F19	
204 1496	区	09	2889	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	中	中	F102	
204 1497	区	12B	7417	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	中	中	F92	
204 1498	区	41	2881	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	中	中		
204 1499	区	10B	-	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ワフ条板(白粘土) 褐色	褐色色	ワフ条板(白粘土) 褐色	褐色色	中	中	
204 1500	区	6E	2367	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	中	中	F104	
204 1501	区	6E	2362	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	条板文	褐色色	褐色色	中	中	F102	
204 1502	区	11E	2613	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	条板文	褐色色	褐色色	中	中		
204 1503	区	6C	3023	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	条板文	ナデ	土師(淡褐色)	褐色色	中	中	F48
204 1504	区	6E	2326	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ワフ条板(白粘土) 褐色	褐色色	ワフ条板(白粘土) 褐色	褐色色	少	少	F12
204 1505	区	10B	2529	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	ナデ	褐色色	褐色色	褐色色	中	中	F10
204 1506	区	6E	2328	-	瓦	瓦文部	遺跡	-	-	条板文	褐色色	褐色色	褐色色	少	少	F10

発掘番号	土層	区域	遺物番号	遺物	層位	類別	形状	口径 (mm)	残存高さ (mm)	遺跡番号	外装の文様・装飾	外装色原	内装の文様・装飾	内装色原	形状	材質	数量	位置	備考
387	1107	E	1C	1040	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	緑褐色	ナナ	緑褐色	片断	漆	1		
387	1108	E	1C	1044	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	緑褐色	ナナ	緑褐色	片断	漆	1		
387	1109	E	1C	2904	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナナナ	赤褐色	縁線、ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P120
387	1110	E	1C	2920	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P13
387	1111	E	1C	2320	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	緑褐色	ナナ	緑褐色	片断	漆	1		P90
388	1112	E	1C	2940	-	瓦	粘土瓦部	縁線	-	-	ナナ	浅黄色	無装飾	浅黄色	片断	漆	1		P80
388	1113	E	1C	2946	-	瓦	粘土瓦部	縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P80
388	1114	E	1C	-	-	瓦	粘土瓦部	縁線	-	-	縁線付、ナナ以外のナナ	緑褐色	縁線付、ナナ以外のナナ	緑褐色	片断	漆	1		P101
388	1115	E	1C	2947	-	瓦	粘土瓦部	縁線	-	-	ナナ	緑褐色	ナナ	緑褐色	片断	漆	1		P118
388	1116	E	1C	1684	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	緑褐色	ナナ	緑褐色	片断	漆	1		P220
388	1117	E	11	1621	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P144
388	1118	E	1P	3011	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P99
388	1119	E	1P	1656	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P26
388	1120	E	1C	2945	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P11
388	1121	E	1C	2948	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P115
388	1122	E	1C	2327	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	緑褐色	ナナ	緑褐色	片断	漆	1		P8
388	1123	E	1C	2326	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	緑褐色	ナナ	緑褐色	片断	漆	1		P21
388	1124	E	1C	2951	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	緑褐色	ナナ	緑褐色	片断	漆	1		P21
388	1125	E	1C	2321	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	緑褐色	ナナ	緑褐色	片断	漆	1		P14
388	1126	E	1C	2950	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P14
388	1127	E	1C	2949	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P10
388	1128	E	1C	1646	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P10
388	1129	E	1C	2944	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P18
388	1130	E	1C	2956	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P18
388	1131	E	1C	2980	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P18
388	1132	E	2B	1684	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	不明	赤褐色	不明	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1133	E	1C	2946	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P75
388	1134	E	1C	168	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P99
388	1135	E	1C	2322	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P71
388	1136	E	1C	2958	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P17
388	1137	E	1C	2411	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P279
388	1138	E	1C	2322	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	不明	緑褐色	不明	緑褐色	片断	漆	1		P62
388	1139	E	2B	1656	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	不明	赤褐色	不明	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1140	E	1C	2943	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P21
388	1141	E	1C	2944	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P23
388	1142	E	1C	1647	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P42
388	1143	E	1C	1627	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	縁線(赤褐色)	赤褐色	ナナ、赤褐色	赤褐色	片断	漆	1		P27
388	1144	E	1C	1630	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1145	E	1B	2914	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P211
388	1146	E	1C	2956	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1147	E	1B	2906	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	赤褐色(漆絵)	赤褐色	赤褐色	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1148	E	1C	2956	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1149	E	1B	2912	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	赤褐色、ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P42
388	1150	E	11E	1380	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	緑褐色	ナナ	緑褐色	片断	漆	1		P1
388	1151	E	1C	2930	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	漆絵	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P17
388	1152	E	1C	2325	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	浅黄色	ナナ	浅黄色	片断	漆	1		P10
388	1153	E	1C	2412	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P66
388	1154	E	1C	2926	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1155	E	11F	2929	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P261
388	1156	E	2P	1620	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	浅黄色	ナナ	浅黄色	片断	漆	1		P23
388	1157	E	1E	1646	-	瓦	早期弥生土層	漆絵 平瓦	-	-	ナナ	緑褐色	ナナ	緑褐色	片断	漆	1		P13
388	1158	E	1C	2324	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P97
388	1159	E	1C	2418	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ以外の赤褐色	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P97
388	1160	E	1C	2419	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P97
388	1161	E	1C	2917	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1162	E	1C	2917	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1163	E	1C	2917	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1164	E	1C	2917	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1165	E	1C	2917	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1166	E	1C	2917	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1167	E	1C	2917	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1168	E	1C	2917	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1169	E	1C	2917	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1170	E	1C	2917	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1171	E	1C	2917	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1172	E	1C	2917	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1
388	1173	E	11F	2912	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P151
388	1174	E	2P	1671	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P90
388	1175	E	11E2B	2369	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P6
388	1176	E	11E	2411	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P6
388	1177	E	2D	2126	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	縁線付ナナ、赤褐色	赤褐色	縁線付ナナ、赤褐色	赤褐色	片断	漆	1		P127
388	1178	E	1C	2980	-	瓦	粘土瓦部	漆絵 縁線	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P8
388	1179	E	-	-	-	瓦	粘土瓦部	平瓦	-	-	赤褐色	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P3
388	1180	E	1E	1616	-	瓦	早期弥生土層	漆絵 平瓦	-	-	ナナ	赤褐色	ナナ	赤褐色	片断	漆	1		P1

森の木遺跡遺物観察表

発見番号	土器	区域	遺物番号	遺種	形状	器種	口径 (mm)	残高 (mm)	遺跡層 (m)	外郭の文様・調整	外底文様	内底の文様・調整	内底文様	底面 形状	口縁 形状	備考	
001	1302	E	17	204	-	甍	寛文5部(初期)	遺跡 土器	-	-	丸	ナデ	褐色	円形	底面	8	F54
001	1302	E	41	448	-	甍	寛文5部(初期)	遺跡 土器	-	-	ナデ, 赤文	いらい-調整色	ナデ	いらい-調整色	少	少	8
001	1303	E	79	4903	-	甍	寛文5部(初期)	遺跡 丸底	-	-	ナデ	調整色	ナデ	調整色	少	少	F58
001	1304	BE	80	72713	-	甍	寛文5部(初期)	遺跡 丸底	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	底	底	F1
001	1305	E	18	4074	-	甍	寛文5部(初期)	遺跡 丸底	-	-	ナデ	調整色	ナデ	調整色	底	底	F23
001	1306	IF	86	74270	-	甍	寛文5部(初期)	遺跡	-	-	ナデ	いらい-調整色	ナデ	いらい-調整色	少	少	F30
001	1307	E	19	3321	-	甍	寛文5部(初期)	遺跡 丸底	-	-	ナデ	調整色	ナデ	調整色	少	少	F36
001	1308	E	16	3622	-	甍	寛文5部(初期)	遺跡 丸底	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	少	F37
001	1309	E	34	4471	-	甍	寛文5部(初期)	遺跡 丸底	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	底	底	F39
001	1309	IF	80	75423	-	甍	寛文5部(初期)	遺跡 丸底	-	-	ナデ	いらい-調整色	ナデ	いらい-調整色	少	少	F41
001	1310	E	-	4628	-	甍	寛文5部(初期)	遺跡 丸底	-	-	いらい+調整色, ナデ	褐色	オコナデ	褐色	底	底	F28
001	1310	IF	87	8673	-	甍	寛文5部(初期)	遺跡 丸底	-	-	オコナデ	調整色	ナデ	調整色	底	底	F49
001	1313	IF	-	-	赤褐色	-	寛文5部(初期)	遺跡 丸底	-	-	ナデ	いらい-調整色	ナデ	いらい-調整色	少	少	F50
001	1314	IF	86	75009	-	甍	寛文5部(初期)	遺跡 丸底	-	-	ナデ	赤褐色	ナデ	赤褐色	少	少	F51
001	1316	IF	86	73266	-	甍	寛文5部(初期)	遺跡 丸底	-	-	ナデ	いらい-調整色	ナデ	いらい-調整色	少	少	F26
001	1316	E	16	3947	-	甍	寛文5部(初期)	遺跡 丸底	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	少	F52
001	1317	BE	86	72227	-	甍	寛文5部(初期)	既西丸底	-	-	ナデ	いらい-調整色	ナデ	いらい-調整色	底	底	F53
001	1318	IF	87	73226	-	甍	寛文5部(初期)	既西丸底	-	-	ナデ	いらい-調整色	ナデ	いらい-調整色	底	底	F27
001	1319	E	34	4908	-	甍	寛文5部(初期)	既西丸底	-	-	ナデ	いらい-調整色	ナデ	いらい-調整色	底	底	F54
001	1320	IF	87	-	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色, ナデ	調整色	赤褐色, ナデ	調整色	底	底	F1
001	1321	IF	87	-	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色	調整色	ナデ	調整色	底	底	F26
001	1322	E	40	4074	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色	調整色	赤褐色	調整色	少	少	F55
001	1323	E	-	-	赤褐色	-	寛文5部(初期)	丸底	-	-	オコナデ, ナデ乃至 沖の赤褐色	調整色	オコナデ	調整色	底	底	F56
001	1324	BE	118	72306	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	ナデ, 赤褐色	褐色	ナデ	褐色	少	少	F57
001	1326	E	38	3333	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	ナデ	いらい-調整色	ナデ	いらい-調整色	底	底	F58
001	1326	E	18	3335	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	ナデ, ナデ以外の赤褐色 土	褐色	ナデ, ナデ以外の 赤褐色	褐色	少	少	F59
001	1327	E	18	3335	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	ナデ, ナデ以外の 赤褐色	丸褐色	ナデ	丸褐色	少	少	F60
001	1328	BE	80	72223	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	ナデ(調整)	褐色	赤褐色	褐色	底	底	F61
001	1329	IF	86	71386	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色(直埋)+ ナデ	調整色	ナデ	調整色	少	少	F62
001	1330	E	40	4282	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	ナデ	赤褐色, ナデ	調整色	赤褐色	少	少	F63
001	1331	E	40	4070	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	自然赤褐色	褐色	筒形, ナデ	褐色	底	底	F22
001	1332	E	40	3660	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色, ナデ	褐色	赤褐色, ナデ	褐色	少	少	F1
001	1333	IF	1403	-	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	ナデ, 赤褐色ナデ	調整色	赤褐色	調整色	底	底	F64
001	1334	BE	80	7442	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色	褐色	赤褐色	褐色	底	底	F20
001	1335	IF	87	4629	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色, ナデ	褐色	オコナデナデ	褐色	底	底	F65
001	1336	IF	86	74348	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	ナデ以外の赤褐色 土	褐色	ナデ	褐色	底	底	F22
001	1337	IF	86	74900	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色, ナデ	いらい-調整色	赤褐色, ナデ	いらい-調整色	底	底	F225
001	1338	E	34	5477	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色	調整色	赤褐色	調整色	少	少	F303
001	1339	IF	87	1632	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色, ナデ	褐色	自然赤褐色, ナデ	褐色	底	底	F66
001	1339	IF	87	1286	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	自然赤褐色	褐色	自然赤褐色	褐色	底	底	F67
001	1343	E	78	4094	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	ナデ, ナデ以外の 赤褐色	褐色	赤褐色ナデ	褐色	少	少	F18
001	1343	E	18	3764	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	ナデ, 赤褐色ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	少	F13
001	1343	E	38	3331	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	ナデ以外の赤褐色 土	いらい-調整色	ナデ以外の赤褐色 土	いらい-調整色	底	底	F22
001	1343	E	16	3684	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	ナデ以外のナデ, 赤 土質, 赤褐色	いらい-調整色	筒形ナデ, ナデ	いらい-調整色	少	少	F1
001	1343	E	40	4027	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色, ナデ	褐色	バツ形のナデ, 赤 褐色	褐色	少	少	F112
001	1348	IF	87	3614	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色, ナデ	褐色	赤褐色	褐色	少	少	F7
001	1347	E	40	4770	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	オコナデナデ, 赤 褐色	褐色	筒形, ナデ	褐色	底	底	F16
001	1348	E	34	4252	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	底	底	F32
001	1349	IF	87	-	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	自然赤褐色, ナデ	褐色	自然赤褐色, ナデ	褐色	底	底	F68
001	1349	E	41	4199	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色	いらい-調整色	赤褐色	いらい-調整色	少	少	F69
001	1351	IF	87	-	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	オコナデナデ, 既 褐色	褐色	赤褐色, ナデ	褐色	底	底	F68
001	1352	E	41	4148	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色	いらい-調整色	赤褐色	いらい-調整色	底	底	F15
001	1353	E	70	4688	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	オコナデ以外の赤褐色 土	調整色	オコナデ, ナデ	調整色	少	少	F18
001	1354	E	70	4094	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色ナデ	褐色	筒形, ナデ	褐色	底	底	F68
001	1355	E	12	74222	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色	褐色	筒形, ナデ	褐色	底	底	F5
001	1356	IF	87	1612	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	ナデ	いらい-調整色	筒形, ナデ	褐色	底	底	F27
001	1357	E	41	2485	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	オコナデ以外の赤褐色 土	調整色	筒形ナデ	褐色	底	底	F6
001	1358	E	34	5143	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色	いらい-調整色	筒形, ナデ	いらい-調整色	底	底	F6
001	1359	IF	86	72797	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色	いらい-調整色	ナデ	いらい-調整色	少	少	F40
001	1360	E	34	3913	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	オコナデ以外の赤褐色 土	調整色	調整色	調整色	少	少	F71
001	1361	E	78	4027	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	ナデ	褐色	ナデ	褐色	少	少	F1
001	1362	E	78	4619	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	赤褐色ナデ	ナデ	調整色	調整色	少	少	F19
001	1363	E	78	4330	-	甍	寛文5部(初期)	丸底	-	-	オコナデ以外の赤褐色 土	褐色	オコナデ以外の赤褐色 土	褐色	少	少	F19

発見番号	土器	区域	遺物番号	遺物	層位	類別	形状	口径 (mm)	残存高さ (mm)	遺跡番号	外周の文様・調整	外周色調	内周の文様・調整	内周色調	発見位置	位置	数量	備考	
005-1044	Ⅲ	ⅢC	1021	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	-	-	黒土器、コゴテが施された文	黒褐色	ナシ	黒褐色	壁内	壁内	少	P5	
005-1045	Ⅲ	ⅢC	1008	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢(土器類)	-	-	-	コゴテ付の赤土文	黒褐色	ナシ	黒褐色	壁内	壁内	少	P2	
005-1046	Ⅲ	ⅢC	1029	122	-	灰土器(注)	鉢(土器類)	-	4.3g	-	赤土文	以土の褐色	赤土文	以土の褐色	壁内	壁内	少	P2	
005-1047	Ⅲ	ⅢF	1004	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	-	-	赤土文	黒褐色	コゴテ付の赤土	黒褐色	壁内	壁内	少	P2	
005-1048	Ⅲ	ⅢE	1045	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	-	-	赤土文	暗赤褐色	赤土文	以土の褐色	壁内	壁内	少	P11	
005-1049	Ⅲ	ⅢF	1242	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	2.59g	-	ナシ	黒褐色	ナシ	以土の褐色	壁内	壁内	少	P10	
005-1050	Ⅲ	ⅢE	1031	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	-	-	ナシ、赤土文	以土の褐色	赤土文	以土の褐色	壁内	壁内	少	P12	
005-1051	Ⅲ	ⅢE	1030	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	-	-	赤土文	以土の褐色	赤土文	以土の褐色	壁内	壁内	少	同・赤土	
005-1052	Ⅲ	ⅢE	1041	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	108.40	11.27g	-	ナシ	コゴテ付の赤土文	赤褐色	コゴテ付の赤土文	壁内	壁内	少	P2	
005-1053	Ⅲ	ⅢE	1033	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	122.00	10.70g	-	ナシ、ナメタ方向の赤土文	暗褐色	ナメタ方向の赤土文	暗褐色	壁内	壁内	少	P13A	
005-1054	Ⅲ	ⅢF	1202	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	11.27g	-	赤土文	明褐色	赤土文	明褐色	壁内	壁内	少	同	
005-1055	Ⅲ	ⅢF	1200	-	Ⅱ	赤土器	鉢類	-	8.21g	-	赤土文	以土の褐色	赤土文	以土の褐色	壁内	壁内	少	同	
005-1056	Ⅲ	ⅢE	1222	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢類	-	-	-	赤土文	以土の褐色	赤土文	以土の褐色	壁内	壁内	少	P11 同・赤土	
005-1057	Ⅲ	ⅢE	1203	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢類	-	2.61g	-	赤土文	以土の褐色	ナシ	以土の褐色	壁内	壁内	少	P29	
005-1058	Ⅲ	ⅢE	1043	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢類	-	-	-	赤土文	赤褐色	ナシ	赤褐色	壁内	壁内	少	P13	
005-1059	Ⅲ	ⅢE	1207	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢類	-	-	-	赤土文	以土の褐色	赤土文	以土の褐色	壁内	壁内	少	同	
005-1060	Ⅲ	ⅢF	1207	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢類	-	8.89g	-	赤土文	浅黄褐色	ナシ	浅黄褐色	壁内	壁内	少	P13	
005-1061	Ⅲ	ⅢE	1020	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢類	-	-	-	コゴテ付の赤土文	黒褐色	コゴテ付の赤土文	黒褐色	壁内	壁内	少	P25	
005-1062	Ⅲ	ⅢC	11	21	-	灰土器(注)	鉢類	-	-	-	コゴテ付の赤土文(二色施)・黒ナシ	黒褐色	コゴテ付の赤土文(二色施)・黒ナシ	黒褐色	壁内	壁内	少	同	
005-1063	Ⅲ	ⅢE	1206	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢類	-	-	-	赤土文	暗褐色	ナシ	暗褐色	壁内	壁内	少	P21	
005-1064	Ⅲ	ⅢE	1214	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢類	-	-	-	赤土文	暗褐色	ナシ	暗褐色	壁内	壁内	少	P14	
005-1065	Ⅲ	ⅢF	1009	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢類	-	-	-	白褐色の赤土	暗褐色	白褐色の赤土	暗褐色	壁内	壁内	少	P20 陶器大目録	
005-1066	Ⅲ	ⅢE	1223	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢類	-	-	-	赤土文	暗褐色	ナシ	暗褐色	壁内	壁内	少	同	
005-1067	Ⅲ	ⅢE	1212	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢類	-	-	-	コゴテ付の赤土文	以土の褐色	ナシ	以土の褐色	壁内	壁内	少	P12	
005-1068	Ⅲ	ⅢE	1208	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢類	-	8.59g	-	ナシ	以土の褐色	ナシ	以土の褐色	壁内	壁内	少	P12	
005-1069	Ⅲ	ⅢE	1024	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢類	-	-	-	ナメタ方向の赤土文	以土の褐色	ナシ	以土の褐色	壁内	壁内	少	P11	
005-1070	Ⅲ	ⅢE	1205	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢類	-	-	-	ナメタ方向の赤土文	明褐色	ナシ	明褐色	壁内	壁内	少	P10	
005-1071	Ⅲ	ⅢE	1211	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	-	-	赤土文	以土の褐色	コゴテ付のナシ	以土の褐色	壁内	壁内	少	P20	
005-1072	Ⅲ	ⅢE	1210	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	-	-	赤土文	以土の褐色	ナシ	以土の褐色	壁内	壁内	少	P10	
005-1073	Ⅲ	ⅢE	1217	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢類	-	-	-	赤土文	明褐色	明褐色	明褐色	壁内	壁内	少	P14	
005-1074	Ⅲ	ⅢE	1217	-	Ⅱ	灰土器(注)	鉢類	-	-	-	赤土文	明褐色	ナシ	明褐色	壁内	壁内	少	同	
005-1075	Ⅲ	ⅢE	1207	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	-	-	赤土文	以土の褐色	赤土文	以土の褐色	壁内	壁内	少	P11	
005-1076	Ⅲ	ⅢE	1207	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	-	-	白褐色の赤土	暗褐色	暗褐色	暗褐色	壁内	壁内	少	P17	
005-1077	Ⅲ	ⅢF	1009	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	-	-	赤土文	暗褐色	暗褐色	暗褐色	壁内	壁内	少	同	
005-1078	Ⅲ	ⅢE	1208	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	-	-	赤土文	暗赤褐色	ナシ	暗赤褐色	壁内	壁内	少	P20	
005-1079	Ⅲ	ⅢE	2006	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	2.09g	-	赤土文	以土の褐色	ナシ	以土の褐色	壁内	壁内	少	P13	
005-1080	Ⅲ	ⅢE	1043	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	-	-	ナシ、ナメタ方向の赤土文	以土の褐色	コゴテ付の赤土文	以土の褐色	壁内	壁内	少	P13	
005-1081	Ⅲ	ⅢE	1071	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	-	-	コゴテ付の赤土文	ナシ	コゴテ付の赤土文	ナシ	壁内	壁内	少	P14	
005-1082	Ⅲ	ⅢE	1038	-	Ⅱ	灰土器(注)	遺跡(土器類)	-	-	-	コゴテ付の赤土文、ナシ	暗赤褐色	ナシ	暗赤褐色	壁内	壁内	少	P10	
005-1083	Ⅲ	ⅢE	104	-	Ⅱ	平腹式土器	遺跡(土器類)	-	-	-	法政院文、柳文文	黒褐色	不明	黒褐色	壁内	壁内	少	P56	
005-1084	Ⅲ	ⅢF	1011	1018	-	平腹式土器	遺跡(土器類)	132.40	2.19g	-	法政院文	暗褐色	不明	暗褐色	壁内	壁内	少	P56	
005-1085	Ⅲ	ⅢF	1011	-	Ⅱ	平腹式土器	遺跡(土器類)	-	-	-	黒土器、柳文文、法政院文	褐色	ナシ	褐色	壁内	壁内	少	同	
005-1086	Ⅲ	ⅢF	1216	-	Ⅱ	平腹式土器	口縁類	-	-	-	柳文文、竹文文	黒褐色	コゴテ付	黒褐色	壁内	壁内	少	同	
005-1087	Ⅲ	ⅢF	1049	-	Ⅱ	平腹式土器	遺跡(土器類)	-	-	-	黒土器	以土の褐色	不明	以土の褐色	壁内	壁内	少	同	
005-1088	Ⅲ	ⅢE	104	-	Ⅱ	平腹式土器	遺跡(土器類)	-	-	-	柳文文	以土の褐色	不明	以土の褐色	壁内	壁内	少	P14	
005-1089	Ⅲ	ⅢE	1004	-	Ⅱ	平腹式土器	遺跡(土器類)	-	-	-	赤土文	以土の褐色	ナシ	以土の褐色	壁内	壁内	少	同	
005-1090	Ⅲ	ⅢE	1020	-	Ⅱ	平腹式土器	遺跡(土器類)	126.40	-	-	黒土器、法政院文、柳文文	暗褐色	ナシ	暗褐色	壁内	壁内	少	P1	
005-1091	Ⅲ	ⅢE	103	-	Ⅱ	平腹式土器	遺跡(土器類)	-	-	-	白褐色	暗赤褐色	ナシ	暗赤褐色	壁内	壁内	少	P1	
005-1092	Ⅲ	ⅢE	1017	-	Ⅱ	平腹式土器	遺跡(土器類)	-	-	-	柳文文	以土の褐色	不明	以土の褐色	壁内	壁内	少	P1	
005-1093	Ⅲ	ⅢF	1040	-	Ⅱ	平腹式土器	鉢(土器類)	-	-	-	ナシ、法政院文、柳文文	暗褐色	ナシ	暗褐色	壁内	壁内	少	同	
005-1094	Ⅲ	ⅢE	1038	-	Ⅱ	平腹式土器	遺跡(土器類)	-	-	-	ナシ、柳文文、法政院文	暗褐色	不明	暗褐色	壁内	壁内	少	P18	
005-1095	Ⅲ	ⅢF	1011	-	Ⅱ	平腹式土器	遺跡(土器類)	-	-	-	ナシ、法政院文、ナシ、法政院文	以土の褐色	ナシ	以土の褐色	壁内	壁内	少	P11	
005-1096	Ⅲ	ⅢE	1047	-	Ⅱ	平腹式土器	遺跡(土器類)	-	-	-	黒土器、ナシ、柳文文	暗褐色	ナシ	暗褐色	壁内	壁内	少	P1	
005-1097	Ⅲ	ⅢF	1245	-	Ⅱ	平腹式土器	遺跡(土器類)	120.40	4.29g	-	コゴテ付の赤土文、黒土器、ナシ	暗赤褐色	ナシ	暗赤褐色	壁内	壁内	少	P12	
005-1098	Ⅲ	ⅢE	1188	-	Ⅱ	平腹式土器	遺跡(土器類)	-	-	-	白褐色、浅黄褐色、ナシ	褐色	ナシ	褐色	壁内	壁内	少	P16	
005-1099	Ⅲ	ⅢF	1204	-	Ⅱ	平腹式土器	遺跡(土器類)	-	-	-	浅黄褐色、柳文文	ナシ	浅黄褐色	ナシ	浅黄褐色	壁内	壁内	少	P11
005-1100	Ⅲ	ⅢE	1018	-	Ⅱ	平腹式土器	遺跡(土器類)	14.00	11.97g	-	コゴテ付の赤土文、黒土器、ナシ	暗赤褐色	ナシ	暗赤褐色	壁内	壁内	少	P13	

森の木遺跡遺物観察表

発見番号	土器	区域	遺物番号	遺物	種類	器種	口径 (cm)	残存高 (cm)	遺跡番号	外装の文様・調整	外装色調	内装の文様・調整	内装色調	発見 位置	位置 説明	備考
809	1304	2	1F	1330	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	瓦線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F00
809	1302	2	1C	1252	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	-	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F02
809	1303	2	3E	116	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	斜線文、斜線文、ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F7
809	1304	2	1F	843	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	ナゲ	茶褐色	中	中	9 F7
809	1305	2	2E	2643	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	多岐刻ナゲ文	褐色	褐色	褐色	中	中	9 F13
809	1306	2	1F	995	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	斜線文、波線文、斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F12
809	1307	2	3E	1234	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	斜線文、波線文、斜線文、波線文、ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F02
809	1308	2	3E	1264	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	28.0	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F7
809	1309	2	2F	1207	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	28.0	3.4	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F1
809	1310	2	3E	1472	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F9
809	1311	2	1F	1802	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文、斜線文、ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9
809	1312	2	1F	2230	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文、ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F20
809	1313	2	2F	688	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F19
809	1314	2	2F	8618	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F7
809	1315	2	1F	3019	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F14
809	1316	2	2E	1271	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9
809	1317	2	2F	1041	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文、波線文、斜線文	褐色	褐色	褐色	中	中	9 F10
809	1318	2	1E	1851	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F11
809	1319	2	-	1229	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F0
809	1320	2	1F	1411	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文、ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F7
809	1321	2	2F	1811	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文、ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F17
809	1322	2	1F	1227	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F13
809	1323	2	3E	1253	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文、斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F8
809	1324	2	1E	2884	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文、ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F6
809	1325	2	1E	1075	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	斜線文、波線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F0
809	1326	2	2F	4794	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F2
809	1327	2	1E	14258	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	2.4	0.4	ナゲ	褐色	褐色	褐色	中	中	9 F3
809	1328	2	1F	-	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文、斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F28
809	1329	2	1F	1611	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F5
809	1330	2	2E	1782	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文、斜線文、波線文、ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F16
809	1331	2	3E	1077	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F8
809	1332	2	3E	616	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文、波線文	褐色	褐色	褐色	中	中	9 F26
809	1333	2	-	1221	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文、波線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F4
809	1334	2	1E	1003	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文、斜線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F2
809	1335	2	1E	7417	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F28
809	1337	2	1F	1208	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F12
809	1338	2	2F	1200	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F12
809	1339	2	1E	218	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9
809	1340	2	1E	637	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	斜線文、波線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F8
809	1341	2	1F	1962	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F16
809	1342	2	2F	1982	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F11
809	1343	2	2F	1611	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F8
809	1344	2	2E	112	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F8
809	1345	2	1E	1234	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文、波線文	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F4
809	1346	2	1E	1894	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	20.0	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F11
809	1347	2	1E	2615	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F14
809	1348	2	1F	1886	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F7
809	1349	2	1F	1256	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F8
809	1350	2	1E	100	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	波線文、斜線文、ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F23
809	1351	2	1F	2889	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F11
809	1352	2	1E	1646	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F13
809	1353	2	1E	1960	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	茶褐色	茶褐色	茶褐色	中	中	9 F12
809	1354	2	1E	1256	-	灰ノ舞式土器	深鉢 土師焼	-	-	ナゲ	褐色	褐色	褐色	中	中	9 F2

洋館番号	本館	区域	遺物番号	遺物	層位	類別	形状	口径 (mm)	残存高さ (mm)	遺跡番号	外観の文様・装飾	外装色調	内装の文様・装飾	内装色調	発見 位置	位置	数量	備考	
413	1215	9C	7246	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	-	ナラ (楕円)	褐色	ナラ	緑色	赤	表	表			
413	1216	9C	7256	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F129	
413	1217	9C	7306	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	1.8cm	榎	緑色	緑色	緑色	赤	表	表			
413	1218	9C	7387	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	2.4cm	ナラ	緑色	緑色	緑色	赤	表	表		F127	
413	1219	9C	-	-	Ⅱ	-	底紙	-	-	ナラ (楕円ナラ, ナラ)	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表			
413	1290	9C	7247	-	Ⅱ	-	-	-	-	榎	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表			
413	1291	9C	7274	-	Ⅱ	-	-	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表			
413	1292	9C	7300	-	Ⅱ	-	紙	-	-	ナラ	褐色	緑色	褐色	赤	表	表			
413	1293	9C	7320	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	-	ナラ	褐色	緑色	褐色	赤	表	表		960	
413	1294	9C	7341	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	2.0cm	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表			
413	1295	9C	-	-	Ⅱ	-	-	-	-	赤松	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表			
413	1296	9C	7364	-	Ⅱ	-	紙 底紙?	-	-	ナラ	緑色	緑色	緑色	赤	表	表		984	
413	1297	9C	7364	-	Ⅱ	-	底紙	-	-	ナラ	緑色	ナラ	褐色	赤	表	表		7209	
413	1298	9C	7369	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	4.0cm	ナラ	緑色	ナラ	褐色	赤	表	表		F130	
413	1299	9C	7345	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	-	ナラ	緑色	ナラ	褐色	赤	表	表			
413	1270	9C	7345	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	-	ナラ	緑色	ナラ	褐色	赤	表	表		F210	
413	1271	9C	7324	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表			
413	1272	9C	7326	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表			
413	1273	9C	7326	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F220	
413	1274	9C	-	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表			
413	1275	9C	7318	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	1.9cm	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F260	
413	1276	9C	7364	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	-	ナラ	緑色	ナラ	褐色	赤	表	表		F11	
413	1277	9C	7444	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	3.1cm	榎	緑色	ナラ	褐色	赤	表	表		F209	
413	1278	9C	7426	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F24	
413	1279	9C	7361	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F14	
413	1280	9C	7340	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	3.7cm	ナラ	緑色	ナラ	褐色	赤	表	表		F18	
413	1281	9C	7274	-	Ⅱ	-	紙 底紙	-	-	ナラ	褐色	緑色	褐色	赤	表	表		F98	
413	1282	9C	7311	-	Ⅱ	-	紙/木片土器	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表			
413	1283	9C	7292	-	Ⅱ	-	紙/木片土器	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F102	
413	1284	9C	1842	-	Ⅱ	-	紙/木片土器	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F210 (二枚裏面あり、 1/20mm×1.7mm)	
413	1285	9C	7324	-	Ⅱ	-	紙/木片土器	-	1.9cm	赤松	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F10	
413	1286	9C	121	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F117
413	1287	9C	1000	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F61
413	1288	9C	2003	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F25
413	1289	9C	2	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		
413	1290	9C	3099	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F71
413	1291	9C	14	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F146
413	1292	9C	124	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F12
413	1293	9C	638	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F19
413	1294	9C	1862	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F36
413	1295	9C	127	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F14
413	1296	9C	7274	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F19
413	1297	9C	1269	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F29
413	1298	9C	-	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		
413	1299	9C	927	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		
413	1300	9C	1142	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F25
413	1301	9C	92	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F13
413	1302	9C	133	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F14
413	1303	9C	1248	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F26
413	1304	9C	-	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F6
413	1305	9C	1860	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F29
413	1306	9C	-	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F229
413	1307	9C	18	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		
413	1308	9C	7229	1242	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F14
413	1309	9C	7226	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		
413	1310	9C	7242	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢土土器	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F26
413	1311	9C	128	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢	-	-	襦袢土土器	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		
413	1312	9C	667	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F60 (一枚裏面あり)
413	1313	9C	91	-	Ⅱ	-	襦袢土土器	襦袢	-	-	ナラ	褐色	ナラ	褐色	赤	表	表		F70

発見番号	土器	区域	遺物番号	遺物	層位	種類	口徑 (mm)	残存高 (mm)	遺跡層 (m)	外装の文様・調整	外装色調	内装の文様・調整	内装色調	形状	位置	備考
411-1814	Ⅱ	Ⅱ	1314	Ⅱ	Ⅱ	弥生下層式土器	胴部	—	—	貝殻の文様・捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P11
411-1815	Ⅱ	Ⅱ	1313	Ⅱ	Ⅱ	弥生下層式土器	胴部	—	—	鳥肌文様・捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1816	Ⅱ	Ⅱ	1330	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	鳥肌文様・捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1817	Ⅱ	Ⅱ	1340	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	ナメ、捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P12
411-1818	Ⅱ	Ⅱ	—	表層	Ⅱ	弥生下層式土器	胴部	—	—	鳥肌文様・捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1819	Ⅱ	Ⅱ	1412	Ⅱ	Ⅱ	弥生下層式土器	胴部	—	—	鳥肌文様・捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1820	Ⅱ	Ⅱ	1296	Ⅱ	Ⅱ	弥生下層式土器	胴部	—	—	鳥肌文様・捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P30
411-1821	Ⅱ	Ⅱ	1414	Ⅱ	Ⅱ	弥生下層式土器	胴部	—	—	鳥肌文様・捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1822	Ⅱ	Ⅱ	1343	Ⅱ	Ⅱ	弥生下層式土器	胴部	—	—	鳥肌文様・捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P13
411-1823	Ⅱ	Ⅱ	1317	Ⅱ	Ⅱ	弥生下層式土器	胴部	—	—	ナメ鳥肌文様	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1824	Ⅱ	Ⅱ	1316	Ⅱ	Ⅱ	弥生下層式土器	胴部	—	—	波線文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P14
411-1825	Ⅱ	Ⅱ	1379	Ⅱ	Ⅱ	弥生下層式土器	胴部	—	—	鳥肌文様・捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P20
411-1828	Ⅱ	Ⅱ	32	Ⅱ	Ⅱ	弥生下層式土器	胴部	—	—	波線文、捺印文 (二枚目)	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P21
411-1827	Ⅱ	Ⅱ	5620	Ⅱ	Ⅱ	弥生下層式土器	胴部	—	—	ナメ、捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P30
411-1828	Ⅱ	Ⅱ	1330	Ⅱ	Ⅱ	弥生下層式土器	胴部	—	—	捺印文、ナメ	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1829	Ⅱ	Ⅱ	4813	Ⅱ	Ⅱ	弥生土器	胴部	—	—	鳥肌文 (二枚目)、ナメ捺印調整	褐色	赤褐色 (二枚目)	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1830	Ⅱ	Ⅱ	47	Ⅱ	Ⅱ	弥生土器	胴部	—	—	ハナダのナメ	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1831	Ⅱ	Ⅱ	1334	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	ナメ	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1832	Ⅱ	Ⅱ	1314	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	ナメ	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1833	Ⅱ	Ⅱ	1314	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	ナメ	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P23
411-1834	Ⅱ	Ⅱ	1340	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	波線文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1835	Ⅱ	Ⅱ	1340	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	ナメ	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P27
411-1835	Ⅱ	Ⅱ	1418	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	鳥肌文、ナメ、捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1836	Ⅱ	Ⅱ	1317	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文、捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1837	Ⅱ	Ⅱ	3164	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	波線文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P54
411-1838	Ⅱ	Ⅱ	47	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文、捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P22
411-1839	Ⅱ	Ⅱ	1889	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	ナメ鳥肌文様・捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P22
411-1840	Ⅱ	Ⅱ	1438	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	波線文、捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1841	Ⅱ	Ⅱ	5620	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	ハナダのナメ、捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1842	Ⅱ	Ⅱ	1369	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	鳥肌文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1843	Ⅱ	Ⅱ	1313	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	ナメ、捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P9
411-1844	Ⅱ	Ⅱ	1302	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	ナメ、捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1845	Ⅱ	Ⅱ	147	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文、ナメ捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P22
411-1846	Ⅱ	Ⅱ	145	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文、捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P29
411-1847	Ⅱ	Ⅱ	1407	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	ナメ	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P22
411-1848	Ⅱ	Ⅱ	1894	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	波線文、捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P26
411-1849	Ⅱ	Ⅱ	1313	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	11.2	波線文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P10
411-1850	Ⅱ	Ⅱ	—	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文、捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1851	Ⅱ	Ⅱ	1905	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文、捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P23
411-1852	Ⅱ	Ⅱ	—	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1853	Ⅱ	Ⅱ	4813	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文、捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1854	Ⅱ	Ⅱ	198	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	13.2	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1855	Ⅱ	Ⅱ	2261	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	ハナダのナメ	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	P13
411-1856	Ⅱ	Ⅱ	2262	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	13.0	ハナダのナメ	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1857	Ⅱ	Ⅱ	195	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	1.1	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1858	Ⅱ	Ⅱ	1713	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1859	Ⅱ	Ⅱ	1855	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	ナメ、捺印調整	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1860	Ⅱ	Ⅱ	1710	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	2.0g	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1861	Ⅱ	Ⅱ	1638	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1862	Ⅱ	Ⅱ	1638	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1863	Ⅱ	Ⅱ	1947	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1864	Ⅱ	Ⅱ	—	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1865	Ⅱ	Ⅱ	2226	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1866	Ⅱ	Ⅱ	—	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1867	Ⅱ	Ⅱ	—	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1868	Ⅱ	Ⅱ	—	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1869	Ⅱ	Ⅱ	—	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1870	Ⅱ	Ⅱ	—	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1871	Ⅱ	Ⅱ	—	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1872	Ⅱ	Ⅱ	—	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1873	Ⅱ	Ⅱ	—	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ
411-1874	Ⅱ	Ⅱ	1843	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ式土器	胴部	—	—	捺印文	褐色	赤褐色	褐色	口	Ⅱ	Ⅱ

発掘番号	区画	遺物番号	遺種	層位	遺物	形状	口径 (mm)	残存高 (mm)	遺跡層 (m)	外装の文様・装飾	外装色調	内装の文様・装飾	内装色調	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	
479	2133	3	40	2007	-	瓦葺き土器	-	121.40	-	ナメ	黄褐色	黄褐色	黄褐色	-	-	-	-	9	1
479	2133	3	46	1121	-	瓦葺き土器	線	-	-	ナメナメ	黄褐色・黄褐色	ナメナメ	黄褐色・黄褐色	-	-	-	-	9	1
479	2133	3	49	130	2007	-	瓦葺き土器	線小	-	ナメ	黄褐色	黄褐色・ナメ	黄褐色	-	-	-	-	9	1
479	2133	3	-	1049	瓦葺き	瓦葺き土器	線	線細	-	赤土	黄褐色・黄褐色	黄褐色	黄褐色	-	-	-	-	9	1

第2表 森の木遺跡遺物観察表(石器)

発掘番号	区画	取上番号	遺物番号	遺種	層位	種 類	石 材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考			
12	1	3	20	5-3	6004	-	シラト	-	6.9	5.0	1.8	56.6	研石		
12	2	3	10	-	1791	-	シラト	-	9.5	4.6	1.5	79.4	研石		
12	3	3	40	5620	7210	-	シラト/イロ	波状	9.1	8.5	1.4	68.6	研石		
12	4	3	30	5-3	6005	-	シラト	波状	9.1	2.9	1.3	52.2	研石		
12	5	3	40	5-1	6002	-	シラト	波状	10.2	6.1	3.2	148.1	研石		
12	6	3	10	-	2508	-	シラト	粗面片	9.8	1.3	1.1	20.1	研石		
12	7	3	20	3-4	6006	-	シラト	波状	2.6	2.7	0.9	14.0	研石		
12	8	3	40	3-25	6003	-	石	波状	17.0x10.1	5.5	8.5	4.2	102.6	研石	
12	9	3	10	3-46	6460	-	石	波状	ナメ	2.9	3.0	1.7	13.8	研石	
12	10	3	40	6442	7777	-	石	波状	17.0x10.1	4.2	9.2	7.3	63.9	研石	
12	11	3	30	5-2	6003	-	石	線小	2.3	1.1	1.0	3.1	研石		
12	12	3	40	5-8	7402	-	石	波状	4.5	3.2	0.9	9.5	研石		
12	13	3	40	5636	7771	-	石	波状	9.7	2.9	2.9	40.3	研石		
12	14	3	10	5-1	6004	-	石	波状	-	10.26	2.3	1.7	32.4	研石	
12	15	3	40	5-13	6021	-	石	波状	8.5	3.1	1.3	66.6	研石		
12	16	3	40	5638	7773	-	石	波状	8.5	3.0	2.2	66.7	研石		
12	17	3	40	5-1	5638	-	石	波状	6.9	4.0	1.0	32.6	研石		
12	18	3	40	5645	-	石	波状	6.1	5.1	1.8	41.5	研石			
12	19	3	30	5-2	6006	-	石	波状	1.9	2.9	0.6	11.4	研石		
12	20	3	10	5-1	6005	-	シラト	-	7.6	4.20	1.20	29.4	研石		
12	21	3	10	5-1	6005	-	石	ナメ	4.6	2.7	1.0	8.7	研石		
12	22	3	40	5-16	6674	-	石	波状	7.8	5.9	0.9	52.5	研石		
12	23	3	40	5639	7763	-	石	波状	6.20	6.20	1.40	21.9	研石		
12	24	3	40	3-20	6066	-	石	波状	4.7	3.2	0.8	27.2	研石		
12	25	3	40	5631	7796	-	石	波状	-	7.40	8.40	2.30	62.7	研石	
12	26	3	40	5-2	5294	-	石	波状	6.3	7.6	2.2	141.7	研石		
12	27	3	30	5-1	6208	-	シラト	波状	6.6	9.8	2.4	161.3	研石		
12	28	3	40	5-19	7270	-	石	波状	17.7x4	17.0x4	6.7	300.0	研石		
12	29	3	20	5-4	7700	-	石	波状	16.3	26.2	6.7	400.0	研石		
12	30	3	30	5-6	7702	-	石	波状	27.8	33.7	11.7	1400.0	研石		
12	31	3	10	5-1	7747	-	石	波状	20.7	26.8	10.2	1030.0	研石		
12	32	3	30	5-1	7749	-	石	波状	23.3	32.1	10.1	1200.0	研石		
12	33	3	10	5-1	7749	-	石	波状	26.9	26.4	7.9	750.0	研石		
12	34	3	40	5633	7799	-	石	波状	25.7	37.3	7.5	900.0	研石		
12	35	3	10	5-23	7802	-	石	波状	25.5	26.2	7.4	1200.0	研石		
12	36	3	30	5-2	7704	-	石	波状	30.9x4	42.3	14.9	2100.0	研石		
12	40	3	40	5639	7273	5243	-	石	波状	10.4	2.1	3.0	387.0	研石	
12	46	3	40	5666	7262	5243	-	石	波状	10.9x4	11.6	4.0	110.0	研石	
12	47	3	40	5669	7270	5243	-	石	波状	9.7	7.9x4	5.9	40.0	研石	
12	48	3	40	5630	7271	5243	-	石	波状	29.0	28.8	9.8	900.0	研石	
12	49	3	40	5631	7272	5243	-	石	波状	19.8	18.8	6.9	360.0	研石	
12	50	3	40	5632	7273	5243	-	石	波状	25.6	26.5	5.0	300.0	研石	
12	55	3	40	-	5627	-	5248	-	石	波状	17.2	14.0	5.1	200.0	研石
12	55	3	40	-	5629	-	5246	-	石	波状	15.7	16.7	8.4	200.0	研石
12	55	3	40	-	5634	-	5248	-	石	波状	13.8	17.1	10.3	300.0	研石
12	103	3	40	5-9C	5620	7265	5277	-	石	波状	13.6	11.8	4.2	120.0	研石
12	104	3	40	5-9C	5621	7266	5277	-	石	波状	10.7x4	9.9x4	5.5	70.0	研石
12	130	3	40	5-21	7800	5254	-	シラト/シラト/イロ	ナメ	2.2	1.8	0.6	2.4	研石	
12	137	3	40	5-20	5-20	7808	5258	-	石	波状	3.1	2.6	2.5	11.2	研石
12	138	3	40	5-20	5-20	7807	5258	-	石	波状	19.7	20.7	8.2	700.0	研石
12	139	3	40	5-20	5-20	7809	5258	-	石	波状	13.1	16.9	8.0	200.0	研石
12	140	3	40	5-20	5-20	7807	5258	-	石	波状	19.7	19.9	9.7	1200.0	研石
12	141	3	40	5-20	5-20	7809	5258	-	石	波状	18.4	20.0	9.1	1300.0	研石
12	142	3	40	5-20	5-20	7810	5263	-	石	波状	2.2	1.2	0.5	1.1	研石
12	182	3	40	5-10	5-10	7822	5263	-	石	波状	2.0	1.4	0.6	1.8	研石
12	183	3	40	5-10	5-10	7818	5263	-	石	波状	2.6	2.1	0.5	2.8	研石
12	184	3	40	5-10	5-10	7813	5263	-	シラト/シラト/イロ	ナメ	2.6	1.9	0.7	2.3	研石
12	185	3	40	5-10	-	7822	5263	-	石	波状	2.3	2.1	0.8	2.8	研石
12	186	3	40	5-10	5-10	7814	5263	-	シラト/イロ	波状	2.7	2.7	0.7	4.5	研石
12	187	3	40	5-10	-	-	5263	-	石	波状	3.1	2.5	0.9	4.0	研石
12	188	3	40	5-10	-	7822	5263	-	石	波状	3.8	3.4	0.6	10.2	研石
12	189	3	40	5-10	5-10	7825	5263	-	石	波状	2.2	4.2	1.0	8.2	研石
12	190	3	40	5-10	5-10	7823	5263	-	石	波状	2.8	3.1	1.1	16.7	研石
12	191	3	40	5-10	-	7822	5263	-	シラト/イロ	波状	2.9	4.3	1.4	30.4	研石
12	192	3	40	5-10	-	-	5263	-	石	波状	4.0	2.5	0.6	9.8	研石
12	193	3	40	5-10	5-27	7820	5263	-	石	波状	7.0	8.7	4.0	261.0	研石

森の木造路遺物観察表

月日番号	区画	目上番号	遺物番号	遺物	層位	種類	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考		
27	194	区	5-10	5-1	3000	-	白石	笠石	30.2	20.0	7.5	200.0		
28	195	区	5-10	5-91	2980	3000	-	白石	笠石	30.8	19.2	8.1	300.0	
29	196	区	5-10	5-12	2918	3000	-	白石	礎石	22.5	14.4	8.5	600.0	
29	197	区	5-10	5-89	2910	3000	-	白石	笠石	21.1	12.7	6.5	200.0	
29	198	区	5-10	5-95	2981	3000	-	白石	礎石	21.7	22.3	6.5	600.0	
47	200	区	5-1	5-11	3077	3	白石・石灰	礎石	25.3×4	15.0×4	10.7	600.0		
47	201	区	5-1	5-12	3080	3000	-	石積木瓦葺	溝板	1.8	0.9	0.2	0.3	
47	202	区	5-1	5-13	3107	3000	-	礎石	礎石	6.2×4	4.2×4	1.6×4	54.3	礎石
47	203	区	5-1	5-14	3108	3000	-	礎石	礎石	6.2	2.9	0.7	202.3	
48	204	区	5-1	5-15	3109	3220	-	白石	礎石	11.2×4	10.7	8.4	200.0	
51	207	区	5-1	5-16	3154	3227	a	石積	木瓦葺	1.2	1.2	0.25	0.4	瓦葺の礎石
52	208	区	5-1	5-17	3157	3227	a	石積	ササヅク	1.0	1.0	0.2	0.4	
53	209	区	5-1	5-18	3152	3227	a	石積	瓦葺	0.5	0.8	0.1	85.4	礎石の礎石
53	210	区	5-1	5-19	3153	3227	a	石積	瓦葺	0.3	0.2	0.0	0.0	礎石の礎石
54	211	区	5-1	5-20	3152	3227	a	礎石	礎石	6.7	5.4	2.4	-	
54	212	区	5-1	5-21	3152	3227	a	礎石	溝板	1.1	0.8	0.7	-	
54	213	区	5-1	5-22	3098	3152	a	礎石	溝板	7.3	7.2	3.5	-	
55	214	区	5-1	5-23	3128	3152	-	白石・石積	礎石	25.0×4	9.0×4	9.8	200.0	礎石
55	215	区	5-1	5-24	3152	3152	-	白石・石積	礎石	25.3×4	11.0×4	7.9	300.0	礎石
55	216	区	5-1	5-25	3152	3152	-	白石・石積	礎石	21.3	22.2	5.2	300.0	
56	217	区	5-1	5-26	3149	3158	-	石積	ササヅク	1.5	1.1	0.25	0.5	石積の礎石
56	218	区	5-1	5-27	3149	3158	-	礎石・溝板	礎石	8.1	7.2	3.4	185.6	
59	226	区	5-1	5-28	3159	3159	a	礎石	礎石	8.6	8.6	3.6	-	
61	229	区	5-1	5-29	3160	3160	a	礎石・溝石	溝石	8.6	8.7	3.1	-	礎石
61	229	区	5-1	5-30	3160	3160	a	礎石・溝石	ホルトアケテ	8.7	7.1	3.6	-	礎石
61	229	区	5-1	5-31	3160	3160	a	礎石・溝石	礎石	9.2	8.0	4.9	-	礎石
61	231	区	5-1	5-32	3160	3160	a	礎石	礎石	22.7×4	10.0×4	8.7	200.0	
61	232	区	5-1	5-33	3160	3160	a	礎石・溝石	礎石	11.9	10.0	5.8	-	
62	234	区	5-1	5-34	3162	3162	a	礎石・溝石	溝板	9.3	10.1	4.4	671.3	礎石の礎石
62	235	区	5-1	5-35	3162	3162	a	礎石	礎石	11.0	8.5	4.2	438.3	
62	237	区	5-1	5-36	3174	3174	-	溝石	溝石	1.5	0.0	0.2	0.1	溝石の礎石
66	239	区	5-1	5-37	3166	3166	-	礎石・溝石	-	7.6	8.4	2.2	301.3	
66	241	区	5-1	5-38	3164	3164	-	礎石・溝石	礎石	12.5	8.5	2.8	281.6	
77	264	区	5-1	5-39	3167	3167	-	石積	チャート	1.5	1.0	0.3	0.4	
77	265	区	5-1	5-40	3167	3167	-	石積	チャート	1.7	1.2	0.3	0.5	
77	266	区	5-1	5-41	3167	3167	-	石積	チャート	2.8	1.5	0.5	1.8	木瓦葺
77	267	区	5-1	5-42	3167	3167	-	石積	チャート	1.6	1.2	0.4	0.9	
77	268	区	5-1	5-43	3167	3167	-	石積	チャート	2.6	1.5	0.6	2.4	
77	269	区	5-1	5-44	3167	3167	-	溝石	溝石	2.5	2.6	0.6	1.1	
77	270	区	5-1	5-45	3167	3167	-	溝石	溝石	3.7	2.3	0.8	0.5	
77	271	区	5-1	5-46	3167	3167	-	石積	溝石	6.0	1.9	0.7	2.8	
77	272	区	5-1	5-47	3166	3166	-	溝石	溝石	2.9	4.8	0.6	4.0	
77	273	区	5-1	5-48	3167	3167	-	溝石	溝石	6.2	6.1	3.1	115.0	
77	274	区	5-1	5-49	3167	3167	-	溝石	溝石	6.6	9.8	4.4	192.1	
77	275	区	5-1	5-50	3167	3167	-	溝石	溝石	11.6	10.7	5.1	298.3	
77	276	区	5-1	5-51	3166	3166	-	溝石	溝石	22.2×4	25.1×4	6.5×4	200.0	
79	277	区	5-1	5-52	3167	3167	-	礎石	礎石	6.3	4.2	3.6	129.3	
79	278	区	5-1	5-53	3167	3167	-	礎石	瓦葺	6.1	8.8	4.1	418.4	礎石
79	279	区	5-1	5-54	3167	3167	-	白石	礎石	9.5	27.9	7.9	2130.9	礎石
80	281	区	5-1	5-55	3170	3170	-	石積木瓦葺	チャート	4.4	2.8	0.9	10.1	瓦葺(瓦葺石)
80	284	区	5-1	5-56	3168	3170	-	石積	溝板	9.5	6.4	2.1	145.9	
80	285	区	5-1	5-57	3169	3170	-	白石	笠石	22.3	28.2	6.0	1000.0	
81	289	区	5-1	5-58	3171	3171	-	溝石	チャート	2.0	1.6	0.5	1.8	525に埋まる可能性
82	290	区	5-1	5-59	3171	3171	-	溝石	チャート	2.7	1.8	0.3	17.9	
84	301	区	5-1	5-60	3040	3040	-	石積	礎石	28.3	15.8	11.6	3000.0	201 No.1 201 No.2 埋石
87	304	区	5-1	5-61	3075	3075	溝	礎石・溝石	溝板	6.1	7.3	3.6	317.2	2F No.2 埋石
87	305	区	5-1	5-62	3075	3075	溝	礎石	溝板	3.2×4	2.6	0.9	18.4	
102	308	区	5-1	5-63	3076	3076	-	溝石	溝石	5.4	2.8	0.9	1.2	
109	311	区	5-1	5-64	3104	3104	-	白石・石積	溝石	20.4	11.7	7.1	1200.0	
124	321	区	5-1	5-65	3042	3042	溝	溝石	溝石	18.1	29.2	8.0	1000.0	
124	322	区	5-1	5-66	3042	3042	溝	白石・石積	溝石	22.3	25.1	7.7	6000.0	
124	323	区	5-1	5-67	3043	3043	溝	白石	礎石	22.0	26.2	8.2	2600.0	
125	324	区	5-1	5-68	3076	3076	溝	石積	溝板	6.8×4	8.1×4	2.3	123.7	
145	326	区	5-1	5-69	3129	3129	溝	溝石	溝石	4.2	2.9	1.0	6.1	溝石
145	327	区	5-1	5-70	3129	3129	溝	溝石	溝石	1.2	0.7	0.5	2.1	
147	328	区	5-1	5-71	3129	3129	溝	白石	礎石	10.6	11.4	5.9	1400.0	石積の礎石
147	329	区	5-1	5-72	3129	3129	溝	溝石	溝石	2.6	3.0	1.0	11.6	
162	331	区	5-1	5-73	3067	3067	-	石積	チャート	2.1	1.5	0.4	1.1	瓦葺
171	332	区	5-1	5-74	3130	3130	-	石積	礎石	13.6	10.8	6.3	200.0	
171	333	区	5-1	5-75	3130	3130	溝	溝石	溝石	6.1	3.6	1.9	97.5	
176	335	区	5-1	5-76	3130	3130	-	石積	溝石	3.2	3.8	2.5	27.7	
176	336	区	5-1	5-77	3130	3130	-	溝石	溝石	22.8	14.7	5.9	200.0	
177	337	区	5-1	5-78	3130	3130	-	溝石	瓦葺	11.2	7.7	7.1	101.9	瓦葺
183	339	区	5-1	5-79	3130	3130	-	白石	溝石	28.2	18.3	8.8	1060.0	
183	340	区	5-1	5-80	3130	3130	-	白石	溝石	15.7	19.0	10.0	2130.0	
183	341	区	5-1	5-81	3130	3130	-	白石	溝石	18.5	13.6	9.0	100.0	
184	343	区	5-1	5-82	3039	3039	溝	溝石	溝石	9.3	8.2	4.9	100.1	

発掘番号	土層	区域	目上番号	遺物番号	遺物	単位	種類	素材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考		
									(mm)	(mm)	(mm)	(g)			
189	244	5	19	--	2872	9059	遺	石包・瓦葺	赤瓦	25.1	18.8	4.9	4000.0		
189	345	5	25	--	3904	9078	遺	焼石	瓦葺材	1.1	0.8	0.2	0.2		
189	246	5	25	--	3904	9078	遺	焼石	瓦葺材	2.0	1.6	0.1	0.5		
201	248	5	09	--	7143	5209	遺	焼石・焼石	赤瓦	4.8	4.0	2.0	45.1	焼石	
201	249	5	19	--	7143	5209	遺	焼石・焼石	赤瓦	19.2	8.0	3.0	303.2		
202	250	5	19	--	6136	5201	遺	焼石・焼石	赤瓦	10.0	9.0	4.8	--		
212	251	5	10	--	7713	5210	遺	石包・瓦葺	赤瓦	26.2	40.2	10.1	2000.0	横置きのハコリ	
213	252	5	30	863	7413	5213	遺	スチロイター	瓦葺材	9.1	3.2	1.3	42.2	焼石	
201	253	5	10	861	7197	5212	遺	スチロイター	壁面材	9.00	3.2	1.45	28.1		
201	254	5	30	861	7274	5215	遺	白灰	赤瓦	22.2	26.2	7.6	4000.0		
202	257	5	10	--	4077	5226	遺	白磁器片	赤瓦	13.2	8.0	4.2	107.3	横置きの	
202	260	5	19	--	7146	5278	遺	焼石	赤瓦	3.2	2.5	3.5	187.0		
201	269	5	25	861	7389	5283	遺	白灰	赤瓦	10.9	6.4	5.5	3.0	213.0	石包等の残部
272	271	5	49	861	7106	5288	遺	焼石・焼石	瓦葺石(赤瓦)	8.5	7.1	3.9	30.1		
289	277	5	40	861	72819	5292	遺	焼石・焼石	赤瓦	8.1	7.0	3.9	28.4		
294	285	5	00	--	7333	5313	遺	スチロ	チャート	2.0	1.0	0.4	0.8		
292	288	5	39	87	--	5302	遺	焼石	赤瓦	11.9	6.2	3.4	217.0		
311	292	5	09	--	5370	--	遺	白磁	瓦葺(チャート)	3.5	2.4	1.9	13.4	S35以内(土層S27)出土	
312	295	5	0	869	5022	29030	5372	遺	焼石	赤瓦	8.0	7.2	6.1	400.0	
314	297	5	00	862	7623	5381	遺	白灰	赤瓦	10.1	22.0	7.7	400.0		
344	413	5	10	P-4	3923	--	遺	焼石(瓦葺)	鎌倉半田赤瓦葺材	3.2	4.3	2.05	10.0	焼石	
344	414	5	10	P-11	3133	--	遺	焼石(瓦葺)	鎌倉半田赤瓦葺材	1.5	1.2	0.05	0.2	焼石	
344	417	5	20	S-02	6239	--	遺	スチロ	鎌倉半田赤瓦葺材	1.8	1.1	0.2	0.3	焼石	
344	418	5	20	--	6618	--	遺	スチロ	鎌倉半田赤瓦葺材	2.45	1.3	0.25	0.7	焼石	
344	419	5	20	S-1	6236	--	遺	スチロ	鎌倉半田赤瓦葺材	4.25	2.2	0.45	4.1	焼石	
344	420	5	20	S-2	6610	--	遺	焼石(瓦葺)	鎌倉半田赤瓦葺材	3.5	3.6	1.0	38.0	焼石	
344	421	5	00	S-4	72801	--	遺	スチロ(瓦葺)	瓦葺	4.0	2.0	0.2	6.2	焼石	
344	422	5	00	S-4	3642	--	遺	石室瓦葺部	瓦葺	4.6	1.6	1.0	6.2	焼石	
344	423	5	00	--	--	表紙	--	石室瓦葺部	管化瓦葺	6.3	2.4	1.3	11.9	焼石	
344	424	5	20	S-11	3615	--	遺	石室瓦葺部	チャート	6.3	2.2	1.3	26.0	焼石	
344	425	5	119	--	7722	--	遺	瓦葺	チャート	2.1	1.9	0.4	1.4	焼石	
344	426	5	119	S-1	2968	--	遺	スチロイター	チャート	4.7	2.7	1.1	17.8	焼石	
344	427	5	21	S-26	1292	--	遺	スチロイター	チャート	4.8	3.4	1.0	19.3	焼石	
344	428	5	--	--	--	表紙	--	スチロイター	瓦葺材	4.9	3.5	1.0	19.7	焼石	
344	429	5	39	8630	7101	6236	遺	スチロ	瓦葺	4.7	3.0	1.1	14.9	焼石	
344	430	5	20	S-14	4758	--	遺	スチロ	瓦葺材	9.2	4.3	2.3	71.4	焼石	
344	431	5	16	S-12	4764	--	遺	スチロ	瓦葺材	6.8	3.0	0.25	21.7	焼石	
344	432	5	40	862	7388	5283	遺	石室瓦葺部	焼瓦葺・瓦葺	3.4	1.5	0.8	3.8	焼石	
344	433	5	00	S-17	--	--	遺	スチロ(瓦葺)	敷居板(瓦葺)	4.25	1.9	0.5	6.1	焼石	
344	434	5	21	S-26	1263	--	遺	スチロイター	瓦葺材	3.9	2.8	1.4	22.9	焼石	
344	435	5	120	S-16	7409	--	遺	スチロイター	チャート	4.0	3.6	0.8	10.5	焼石	
344	436	5	--	--	--	表紙	--	スチロイター	焼瓦葺	2.1	4.2	1.2	13.1	焼石	
344	437	5	117	S-6	7307	--	遺	スチロイター	チャート	4.4	3.9	0.8	18.2	焼石	
344	438	5	100	S-25	7309	--	遺	スチロイター	チャート	4.4	2.0	1.1	14.4	焼石	
344	439	5	00	S-25	48	--	遺	スチロ	敷居板(瓦葺)	1.3	1.4	0.2	0.3	焼石	
344	440	5	113	--	73618	--	遺	スチロ	チャート	2.1	1.9	0.6	2.8	焼石	
344	441	5	00	S-14	4638	--	遺	スチロ(スチロイター)	瓦葺材	4.8	2.3	0.9	12.0	焼石	
344	442	5	09	--	6142	--	遺	スチロ(スチロイター)	瓦葺	2.8	2.0	0.45	2.9	焼石	
344	443	5	00	S-22	72796	--	遺	スチロ	瓦葺材	7.2	9.7	3.2	37.1	焼石	
344	444	5	00	S-99	73036	--	遺	白磁	チャート	3.1	2.8	1.6	13.0	焼石	
344	445	5	00	S-110	73087	--	遺	スチロ	管化瓦葺	3.6	4.6	2.4	--	焼石	
344	446	5	70	P-13	6340	--	遺	へり形瓦葺	焼瓦葺	7.5	5.5	1.9	79.7	焼石	
347	447	5	16	S-113	3252	--	遺	スチロ	管化瓦葺	7.25	7.05	2.05	88.5	焼石	
347	448	5	20	S-14	4932	--	遺	焼石	瓦葺材	1.6	4.2	2.4	24.6	焼石	
347	449	5	--	--	--	表紙	--	白磁	瓦葺	3.6	4.9	3.6	110.6	焼石	
347	450	5	21	S-2	3863	--	遺	白磁	瓦葺	16.0	17.7	3.5	176.0	焼石	
348	451	5	--	--	--	表紙	--	白磁	瓦葺	4.1	4.3	4.2	141.5	焼石	
348	452	5	--	--	--	表紙	--	白磁	瓦葺	6.1	2.1	6.4	201.0	焼石	
348	453	5	--	--	--	表紙	--	白磁	瓦葺	3.5	2.4	6.0	118.2	焼石	
348	454	5	--	--	--	表紙	--	白磁	瓦葺	3.7	2.3	1.1	12.9	焼石	
348	455	5	--	--	--	表紙	--	白磁	瓦葺	3.9	1.9	9.7	6.7	焼石	
348	456	5	--	--	--	表紙	--	白磁	瓦葺	3.7	2.40	6.96	14.3	焼石	
348	457	5	--	--	--	表紙	--	白磁	瓦葺	2.8	3.2	1.3	23.4	焼石	
348	458	5	--	--	--	表紙	--	白磁	瓦葺	4.3	1.5	0.4	4.3	焼石	
348	459	5	--	--	--	表紙	--	白磁	瓦葺	3.3	3.6	1.3	18.4	焼石	
348	460	5	--	--	--	表紙	--	白磁	瓦葺	2.1	1.9	1.5	21.6	焼石	
348	461	5	--	--	--	表紙	--	白磁	瓦葺	6.2	3.8	1.1	20.2	焼石	
348	462	5	--	--	--	表紙	--	白磁	瓦葺	6.2	3.4	1.1	13.7	焼石	
348	463	5	--	--	--	表紙	--	白磁	瓦葺	3.7	2.7	1.4	13.3	焼石	
348	464	5	--	--	--	表紙	--	白磁	瓦葺	2.9	4.3	1.9	48.0	焼石	
348	465	5	30	S-10	72986	--	遺	焼石	チャート	3.5	2.0	0.6	4.5	焼石	
348	466	5	30	S-11	72911	--	遺	焼石	瓦葺	2.8	1.3	0.4	2.0	焼石	
348	467	5	21	S-20	1276	--	遺	白磁	瓦葺	3.9	2.05	0.45	3.0	焼石	
348	468	5	180	S-19	74966	--	遺	白磁	管化瓦葺	2.5	2.4	0.7	4.8	焼石	
348	469	5	00	S-13	298	--	遺	白磁	瓦葺	4.2	2.7	0.2	6.1	焼石	
348	470	5	21	S-20	1303	--	遺	白磁	瓦葺	6.2	2.4	0.8	13.8	焼石	
348	471	5	30	--	432	--	遺	白磁	瓦葺	6.1	1.8	9.7	8.4	焼石	
348	472	5	30	S-10	434	--	遺	白磁	瓦葺	6.7	1.5	0.7	10.0	焼石	
348	473	5	40	864	7630	5283	遺	焼石	瓦葺	4.9	2.4	0.4	0.8	焼石	

森の木道跡遺物観察表

月日番号	区画	目上番号	遺物番号	遺物	層位	種類	素材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考			
101	27	2	5439	-	-	土器	磁器	6.5	3.5	1.0	14.4	研石器			
101	37	109	7302	赤土	Ⅱ	磁器	磁石	5.1	3.7	0.7	19.0	研石器			
101	47	10	2706	-	-	土器	磁器	9.7	3.2	1.30	53.6	研石器			
101	47	10	3-11	6140	-	Ⅱ	土器	赤土	9.8	3.3	1.6	-	研石器		
101	57	80	3-11	73011	-	Ⅱ	土器	磁器	7.7	1.9	0.6	2.9	研石器		
101	57	30	3-9	3003	-	Ⅱ	土器	磁器	2.6	2.1	0.60	4.3	研石器		
101	61	5	3-11	4213	-	Ⅱ	土器	チャート	3.0×6	1.8	0.6	5.9	研石器		
101	61	5	10	2706	-	Ⅱ	土器	-	4.80	2.2	0.25	7.8	研石器		
101	62	3	-	6039	-	Ⅱ	土器	磁器	4.50	2.20	0.9	8.4	研石器		
101	65	2	30	3-9	2346	-	Ⅱ	土器	磁器	6.4	2.1	1.0	17.9	研石器	
101	69	3	11	3-10	1300	-	Ⅱ	土器	磁器	9.1	2.4	1.30	39.9	研石器	
101	69	3	40	3-2	6003	-	Ⅱ	土器	磁器	9.7	2.5	1.1-1.4	39.9	研石器	
101	69	3	13	3-7	4130	-	Ⅱ	土器	磁器	7.50	4.60	1.30	43.6	研石器	
101	67	3	21	-	1407	赤土	Ⅱ	土器	磁器	11.2	3.0	1.7	37.2	研石器	
101	68	2	20	3-4	4620	-	Ⅱ	土器	磁器	7.4	3.10	0.80	20.3	研石器	
101	69	3	30	3-41	7490	-	Ⅱ	土器	磁器	2.8	1.8	0.5	2.3	研石器	
101	69	2	10	3-13	3002	-	Ⅱ	土器	磁器	7.2	2.3	0.9	14.9	研石器	
101	69	3	-	-	-	赤土	-	チャート	3.5	2.6	1.1	9.5	研石器		
101	69	3	-	-	-	赤土	-	研石器	4.4	4.7	1.6	41.2	研石器		
101	69	3	-	-	-	赤土	-	研石器	3.9	4.4	0.9	10.2	研石器		
101	69	2	49	3-9	6110	-	Ⅱ	土器	チャート	3.3	1.3	0.6	1.9	研石器	
101	69	2	49	3-9	7198	3802	-	Ⅱ	土器	チャート	2.4	2.3	0.8	2.2	研石器
101	69	3	117	3-4	7307	-	Ⅱ	土器	磁器	2.6	1.9	0.6	2.9	研石器	
101	67	3	30	-	7209	-	Ⅱ	土器	磁器	3.1	2.3	0.9	5.9	研石器	
101	68	3	30	-	7209	-	Ⅱ	土器	チャート	2.4	2.5	0.7	4.3	研石器	
101	69	3	120	3-5	7302	-	Ⅱ	土器	磁器	3.3	2.5	0.9	8.0	研石器	
101	69	3	80	-	7207	-	Ⅱ	土器	磁器	2.9	2.4	0.6	7.4	研石器	
101	69	3	10	3-24	320	-	Ⅱ	土器	チャート	4.6	3.00	0.0	9.6	研石器	
101	62	3	140	3-15	7522	-	Ⅱ	土器	磁器	2.7	2.9	0.9	7.6	研石器	
101	63	2	40	3-10	371	-	Ⅱ	土器	オパール製成土器	3.1	1.90	1.2	9.0	研石器 磁石	
101	64	3	40	3-4	7204	-	Ⅱ	土器	磁器	3.4	4.2	1.0	18.1	研石器	
101	65	3	109	-	7303	赤土	Ⅱ	土器	チャート	2.8	4.0	0.9	10.6	研石器	
101	65	2	30	3-12	436	-	Ⅱ	土器	磁器	5.9	2.1	0.6	10.0	研石器	
101	67	2	40	3-19	779	-	Ⅱ	土器	磁器	5.5	2.0	0.8	10.0	研石器	
101	68	2	49	3-64	7779	-	Ⅱ	土器	磁器	7.3	2.40	1.40	20.5	研石器	
101	69	2	40	3-24	917	-	Ⅱ	土器	-	8.0	6.1	1.8	92.8	研石器	
101	69	2	10	3-130	3103	-	Ⅱ	土器	赤土	5.0	6.1	1.6	33.7	研石器	
101	69	3	100	3-18	7499	-	Ⅱ	土器	磁器	2.9	3.4	1.0	6.7	研石器	
101	64	3	30	-	7302	-	Ⅱ	土器	磁器	3.1	3.4	0.7	7.1	研石器	
101	64	3	30	-	7302	-	Ⅱ	土器	磁器	3.7	3.7	0.6	6.7	研石器	
101	64	3	30	-	-	-	Ⅱ	土器	磁器	3.4	3.7	1.0	8.1	研石器	
101	64	3	100	3-11	7526	-	Ⅱ	土器	磁器	3.5	2.9	0.8	3.5	研石器	
101	64	3	20	3-30	3109	-	Ⅱ	土器	チャート	1.4	2.3	1.2	-	研石器	
101	67	3	30	3-11	7493	-	Ⅱ	土器	-	4.4	2.9	0.6	6.8	研石器	
101	68	3	30	3-18	7528	-	Ⅱ	土器	磁器	4.8	2.9	1.2	16.2	研石器	
101	69	3	110	3-7	7302	-	Ⅱ	土器	磁器	3.9	4.4	0.9	22.0	研石器	
101	69	3	-	-	3409	-	Ⅱ	土器	磁器	5.1	2.0	0.9	7.7	研石器	
101	62	2	40	3-4	4221	-	Ⅱ	土器	磁器	4.15	2.20	1.1	10.0	研石器	
101	62	2	30	3-11	4080	-	Ⅱ	土器	チャート	5.3	4.1	1.6	30.2	研石器	
101	63	2	11	3-4	1205	-	Ⅱ	土器	磁器	6.1	3.7	1.3	29.1	研石器	
101	64	2	49	3-24	5772	-	Ⅱ	土器	磁石	4.2	6.1	1.6	46.7	研石器	
101	65	2	30	3-5	5104	-	Ⅱ	土器	磁石	6.8	4.8	1.3	36.9	研石器	
101	68	3	40	3-39	7303	-	Ⅱ	土器	チャート	3.2	5.2	0.7	13.5	研石器	
101	67	2	10	3-30	2290	-	Ⅱ	土器	チャート	1.30	0.8	0.2	0.2	研石器	
101	68	3	100	-	7149	赤土	-	土器	チャート	2.6	1.8	0.7	2.9	研石器	
101	69	3	10	3-1	3497-2	-	Ⅱ	土器	チャート	2.90	2.4	0.60	3.5	研石器	
101	69	3	21	3-11	361	-	Ⅱ	土器	磁器	2.7	4.6	0.6	11.4	研石器	
101	69	3	40	3-7	730	-	Ⅱ	土器	磁器	2.8	6.8	0.5	2.3	研石器	
101	69	3	21	3-22	1219	-	Ⅱ	土器	磁器	7.9	2.4	1.6	32.4	研石器	
101	69	3	21	3-25	1262	-	Ⅱ	土器	磁器	6.0	2.9	1.3	26.9	研石器	
404	1400	3	-	-	-	赤土	-	磁器	1.0×4	0.9×4	0.2	0.2	磁石		
404	1401	2	10	3-36	360	-	Ⅱ	土器	磁石	1.3	1.2	0.3	0.4		
404	1402	2	00	3-14	3941	-	Ⅱ	土器	チャート	1.4×4	1.5×4	0.3	0.4		
404	1403	2	00	3-20	2903	-	Ⅱ	土器	チャート	1.3	1.0	0.3	0.4		
404	1404	2	00	3-20	2903	-	Ⅱ	土器	チャート	1.2	1.0	0.3	0.4		
404	1405	2	30	3-1	3109	-	Ⅱ	土器	磨面平石製成物	2.0	1.3	0.20	0.7		
404	1406	2	40	3-40	310	-	Ⅱ	土器	チャート	1.9×4	1.8	0.5	0.6		
404	1407	2	00	3-9	44	-	Ⅱ	土器	磨面平石製成物	1.7	1.6	0.2	0.3		
404	1408	3	-	-	-	赤土	-	土器	磨面平石製成物	2.3	1.9×4	0.3	0.6		
404	1409	3	40	3-1	7302	-	Ⅱ	土器	チャート	1.9	1.8	0.4	1.0		
404	1400	3	10	3-11	4106	-	Ⅱ	土器	チャート	2.4	1.8	0.4	1.2		
404	1401	3	21	3-21	1075	-	Ⅱ	土器	チャート	2.1	1.9×4	0.4	0.8		
404	1402	3	10	3-40	1010	-	Ⅱ	土器	磨面平石製成物	1.9×4	1.9×4	0.3	0.3		
404	1403	3	20	3-7	1034	-	Ⅱ	土器	チャート	2.2	1.3	0.2	0.3		
404	1404	3	10	3-40	1039	-	Ⅱ	土器	チャート	2.4	1.8	0.4	1.3	磨面平石	
404	1405	3	100	3-23	7126	-	Ⅱ	土器	チャート	3.0×4	2.0	0.4	1.8	磨面平石	
404	1406	3	10	3-27	3620	-	Ⅱ	土器	磁器	2.9	1.8	0.3	2.3	磨面平石	
404	1407	3	10	3-4	3232	-	Ⅱ	土器	磨面平石製成物	2.3	1.7	0.20	0.9		
404	1408	3	10	3-4	3608	-	Ⅱ	土器	チャート	2.0	1.6	0.3	1.3		

発掘番号	区画	目上番号	遺物番号	遺物	層位	種類	素材	高さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	
414	1009	2	20	5-0	2061	-	土器	敷瓦片断破片	2.0	1.6	0.4	0.8	
414	1009	2	30	5-1	2064	-	土器	チャート	2.2	1.5	0.3	0.8	
414	1011	2	40	5-17	2068	-	土器	チャート	3.5	2.1	0.3	2.6	
414	1012	2	11	5-3	2063	-	土器	チャート	2.7	1.8	0.5	1.9	
414	1013	2	10	5-4	2060	-	土器	針葉樹葉破片	2.6	1.6	0.4	1.2	
414	1014	2	16	5-4	1925	-	土器	チャート	2.1	1.8	0.5	1.3	
414	1015	2	11	5-12	2034	-	土器	チャート	2.8	1.6	0.5	1.8	
414	1016	2	20	5-7	2009	-	土器	チャート	2.5	1.6	0.5	2.0	
414	1017	2	20	5-4	2009	-	土器	チャート	2.8	1.8	0.5	1.7	
414	1018	2	20	5-27	409	-	土器	チャート	3.2	2.0	0.4	2.2	
414	1019	2	20	5-1	4057	-	土器	チャート	2.8	2.0	0.4	2.1	
414	1019	2	40	5-13	2256	-	土器	敷瓦片断破片	2.9*	1.9*	0.4	2.1	
414	1019	2	40	5-4	6262	-	土器	チャート	1.7	1.5	0.35	0.6	
414	1022	2	06	5-1	1891	-	土器	敷瓦片断破片	2.3	1.6	0.4	0.8	
414	1022	2	20	-	-	-	土器	敷瓦片断破片	1.3*	1.6	0.3	0.4	
414	1014	2	30	5a2	2140	-	土器	敷瓦片断破片	2.1	1.6	0.3	0.8	
414	1015	2	10	5-20	2055	-	土器	チャート	2.2	1.9	0.6	1.7	
414	1016	2	10	5-11	2438	-	土器	チャート	3.25	2.1	0.5	2.5	
417	1007	2	00	-	5102	-	土器	チャート	2.6	1.8	0.5	1.4	
417	1008	2	03	5-3	3347	-	土器	敷瓦片断破片	1.45	1.7	0.35	0.8	遺物 先発見
417	1009	2	01	-	5613	表層	土器	チャート	1.8	1.0	0.3	0.5	
417	1010	2	20	5-42	3238	-	土器	チャート	1.9	1.2	0.4	-	
417	1016	2	20	5-41	6172	-	土器	チャート	2.7	1.5	0.4	-	
417	1012	2	10	5-10	4664	-	土器	チャート	2.5	1.5	0.5	1.5	
417	1012	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
417	1016	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
417	1016	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
417	1016	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
417	1017	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
417	1018	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
417	1019	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
417	1000	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
417	1001	2	-	-	1090	表層	-	-	-	-	-	-	
417	1002	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
417	1002	2	-	-	213	層上	-	-	-	-	-	-	
417	1004	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
417	1005	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
417	1006	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
417	1007	2	100	5-24	2100*	-	土器	チャート	1.2	1.1	0.3	0.4	破片
417	1008	2	30	-	2922	-	土器	チャート	1.8	1.4	0.3	0.7	
417	1009	2	30	5-26	2526	-	土器	-	1.6	1.5	0.5	1.1	
417	1010	2	10	5-20	2055	-	土器	チャート	1.7	1.6	0.4	0.9	
417	1011	2	07	5-1	1286	-	土器	チャート	1.8	1.9	0.4	0.8	
417	1012	2	20	5-1	5116	-	土器	敷瓦片断破片	1.1	1.9	0.05	0.7	
417	1013	2	10	5-43	4022	-	土器	チャート	2.8	2.3	0.55	2.2	木炭片断破片
417	1014	2	30	5-1	5136	-	土器	チャート	1.7	1.4	0.4	0.7	
417	1015	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
417	1015	2	100	5-2	2140	-	土器	チャート	2.2	1.2	0.2	0.6	破片
417	1017	2	-	-	2000	表層	-	-	-	-	-	-	破片
417	1018	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	破片
417	1019	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	破片
417	1019	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	破片
418	1000	2	20	5-24	6160	-	土器	敷瓦片断破片	1.8	1.3	0.3	-	
418	1002	2	-	-	-	-	土器	笠形瓦片	1.6	1.2	0.4	0.6	
418	1002	2	-	-	2000	表層	-	-	-	-	-	-	
418	1003	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
418	1004	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
418	1004	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
418	1005	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
418	1006	2	100	5-25	2549	-	土器	敷瓦片断破片	1.3*	1.9*	0.2	0.1	
418	1006	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
418	1007	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
418	1008	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
418	1009	2	20	-	4271	-	土器	チャート	2.9	1.6	0.9	2.5	
418	1000	2	00	5a2	2140	-	土器	チャート	2.1	1.3	0.5	1.2	
418	1011	2	00	5-1	1912	-	土器	奈良山アサギ	2.6*	1.3*	0.3	0.9	
418	1012	2	00	5-3	2475	-	土器	敷瓦片断破片	2.2	2.0	0.6	2.9	
418	1013	2	00	5-24	2275	-	土器	石製瓦片	2.1	2.5	0.6	2.0	
418	1014	2	100	5-26	2549	-	土器	石製瓦片	3.3	2.1	0.5	2.9	
418	1015	2	30	5-11	430	-	土器	石製瓦片	2.6	2.8	0.9	2.6	
418	1016	2	100	5-25	2549	-	土器	石製瓦片	3.2	2.4	0.6	2.6	
418	1017	2	00	5-12	2306	-	土器	石製瓦片	2.9*	3.4*	0.4	3.7	
418	1018	2	20	5-11	6225	-	土器	石製瓦片	1.8	2.6	0.7	3.7	
418	1019	2	110	5-4	2361	-	土器	石製瓦片	2.2	2.0	0.7	3.5	
418	1019	2	20	5-2	631	-	土器	石製瓦片	2.8	2.2	0.6	3.5	
418	1019	2	100	5-7	2679	-	土器	石製瓦片	2.6	2.2	0.5	3.1	
418	1012	2	10	-	4022	表層	-	-	-	-	-	-	
418	1013	2	120	5-2	2263	-	土器	石製瓦片	2.50	1.75	0.25	1.2	
418	1014	2	100	5-19	1428	-	土器	石製瓦片	1.8	2.0	0.6	1.8	
418	1014	2	10	5-19	1428	-	土器	石製瓦片	2.1	2.0	0.5	2.0	
418	1015	2	30	5-72	2530	-	土器	石製瓦片	2.2	1.9	0.4	1.8	
418	1016	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
418	1017	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	
418	1017	2	-	-	-	表層	-	-	-	-	-	-	

森の木道跡遺物観察表

月日番号	区画	目上番号	遺物番号	遺物	層位	種類	素材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	
418	1949	-	-	-	-	石製成品	チャート	2.7	2.1	0.7	2.7		
419	1949	-	-	-	-	石製成品	チャート	2.3	1.6	0.6	1.9		
419	1950	-	-	-	-	石製成品	チャート	2.1	1.9	0.4	1.9		
419	1951	-	-	-	-	石製成品	チャート	2.3	2.0	1.1	4.9		
419	1952	-	-	-	-	石製成品	チャート	2.0	2.3	0.8	3.2		
419	1953	-	-	-	-	瓦製瓦片	窯山竹	6.9	4.3	2.1	86.3		
419	1954	18	-	1127	-	石製成品	チャート	2.2	1.4	0.7	1.8		
419	1955	30	5-6	1448	-	瓦製瓦片	チャート	4.95	2.7	1.0	13.6		
419	1956	-	-	-	-	石製成品	チャート	3.2	2.6	0.9	6.0		
420	1957	-	-	-	-	石製成品	チャート	1.6	1.6	0.4	0.9		
420	1958	-	-	-	-	石製成品	チャート	2.1	2.2	0.3	1.9		
420	1959	100	5-13	7494	-	瓦	1号下石瓦	2.9	2.2	0.4	2.9		
420	1960	16	5-17	7498	-	瓦	3号下石瓦	1.8	1.3	0.3	1.1		
420	1961	-	-	-	-	石製	チャート	2.2	1.1	0.6	1.7		
420	1962	28	5-26	1039	-	瓦	石製	2.3	1.8	0.4	-		
420	1963	-	-	-	-	石製	チャート	4.1	2.0	1.2	9.3	内線瓦片?	
420	1964	31	5-3	389	-	瓦	スズレイバー	3.9	2.2	1.4	21.0		
420	1965	-	-	-	-	瓦	スズレイバー	4.6	3.6	1.5	58.0		
420	1966	05	5-2	1892	-	瓦	石製	4.2	7.15	1.0	22.5		
420	1967	40	-	2614	-	瓦	石製	4.2	8.2	1.4	24.0		
420	1968	10	5-1	71	-	瓦	石製	4.4	1.8	0.7	3.5		
420	1969	30	5-7	5349	-	瓦	石製	6.2	3.1	1.2	26.4		
421	1970	06	5-107	3234	-	瓦	サシユド	2.8	2.1	0.7	4.4		
421	1971	30	5-35	7492	-	瓦	スズレイバー	3.6	1.6	0.6	4.8		
421	1972	40	5-42	366	-	瓦	石製	3.7	2.4	0.8	7.8		
421	1973	31	5-27	327	-	瓦	スズレイバー	5.1	2.4	1.1	29.2		
421	1974	30	5-29	7333	-	瓦	スズレイバー	3.8	2.9	0.8	27.4		
421	1975	-	-	-	-	瓦	スズレイバー	4.9	4.7	2.1	66.3		
421	1976	06	5-103	7586	-	瓦	製物瓦	4.3	2.9	0.8	11.4		
421	1977	20	5-32	436	-	瓦	スズレイバー	4.7	3.8	0.9	21.3		
421	1978	10	5-1	8912	-	瓦	スズレイバー	2.5	4.6	1.3	32.2	研石	
421	1979	10	5-12	47	-	瓦	スズレイバー	3.9	4.6	0.4	14.9		
421	1980	00	5-1	7130	3230	-	瓦	スズレイバー	3.9	4.7	1.3	20.4	
421	1981	10	5-24	249	-	瓦	スズレイバー	4.2	6.0	1.3	31.7		
421	1982	10	5-7	7349	-	瓦	製物	2.7	6.2	0.9	14.2		
421	1983	20	5-1	6610	-	瓦	スズレイバー	7.2	6.0	1.8	110.0	研石	
421	1984	10	-	7374	-	瓦	瓦	1.9	1.4	0.4	0.9		
421	1985	30	5-44	7496	-	瓦	製物瓦	1.8	2.4	0.3	1.6		
421	1986	10	-	7348	-	瓦	石製成品	2.0	1.8	0.4	1.6		
421	1987	30	5-17	7503	-	瓦	石製成品	2.5	2.1	0.5	2.3		
421	1988	-	-	-	-	瓦	石製	2.2	2.3	0.5	2.6		
421	1989	5	10	5-107	4678	-	瓦	石製成品	2.95	2.25	1.0	2.1	
421	1990	10	5-1	7346	-	瓦	石製成品	2.9	2.3	0.7	3.8		
421	1991	16	5-42	2982	-	瓦	石製成品	2.7	2.4	0.55	2.9		
421	1992	30	5-3	3327	-	瓦	石製	2.9	1.9	0.9	3.3		
421	1993	100	5-27	7432	-	瓦	製物瓦	2.0	1.6	0.6	2.0		
421	1994	120	5-10	7360	-	瓦	スズレイバー	2.4	3.7	1.1	8.2		
421	1995	10	5-14	1421	-	瓦	サシユド	2.0	2.6	0.8	40.2		
421	1996	10	-	-	-	瓦	石製	3.0	1.8	0.6	2.2		
421	1997	40	5-39	342	-	瓦	スズレイバー	3.7	2.0	1.1	13.9		
421	1998	10	5-12	2942	-	瓦	石製成品	2.3	4.4	2.7	40.4		
421	1999	21	5-43	2123	-	瓦	製物	6.1	4.3	1.95	53.7		
421	2000	-	-	5-12	1419	-	瓦	石製	2.9	4.1	0.8	9.8	
421	2001	-	-	5-32	3949	-	瓦	スズレイバー	4.3	3.8	0.75	13.9	
421	2002	18	5-149	4278	-	瓦	石製	2.4	1.8	0.5	1.6		
421	2003	100	5-25	7540	-	瓦	瓦	1.2	2.6	0.9	3.9		
421	2004	30	-	7333	-	瓦	製物	4.0	2.3	0.6	3.2		
421	2005	5	10	5-11	3511	-	瓦	スズレイバー	2.1	4.3	1.3	21.3	
421	2006	30	-	-	-	瓦	瓦	2.78	2.3	0.4	16.1	研石	
421	2007	100	5-1	7412	-	瓦	スズレイバー	3.4	2.7	0.7	9.8		
421	2008	20	5-11	4600	-	瓦	瓦	2.8	2.5	0.95	12.6		
421	2009	100	-	7490	-	瓦	瓦	4.5	2.6	1.3	19.6		
421	2010	10	5-113	4382	-	瓦	製物	4.3	2.4	0.9	14.6		
421	2011	30	-	7327	-	瓦	瓦	2.3	2.9	1.0	12.7		
421	2012	40	5-3	5602	-	瓦	瓦	1.8	2.4	1.25	8.4	研石	
421	2013	10	5-92	4395	-	瓦	製物	3.3	3.7	1.0	14.0		
421	2014	10	5-2	2614	-	瓦	製物	3.3	3.5	0.9	11.0		
421	2015	40	5-24	6229	-	瓦	製物	5.4	6.4	1.4	48.3		
421	2016	20	5-13	4732	-	瓦	製物	1.45	6.3	1.20	21.1		
421	2017	10	5-36	2296	-	瓦	瓦	4.9	2.4	1.7	23.5		
421	2018	40	5-15	4395	-	瓦	製物	6.0	3.9	1.1	28.5		
421	2019	30	-	7299	瓦	瓦	製物・製物	7.6	6.7	4.3	138.3		
421	2020	5	10	5-45	2617	-	瓦	瓦	3.2	3.5	1.0	13.9	
421	2021	5	10	5-26	2239	-	瓦	瓦	3.0	4.9	0.7	21.5	
421	2022	10	5-42	7236	-	瓦	瓦	6.9	4.2	1.3	38.4		
421	2023	20	5-11	6492	-	瓦	製物	6.4	4.3	1.5	41.7		
421	2024	40	5-4	4611	-	瓦	製物	4.8	3.3	1.7	48.3		
421	2025	20	5-11	3612	-	瓦	製物瓦	3.1	2.3	0.8	8.7		
421	2026	10	5-140	1030	-	瓦	製物	4.2	4.8	2.5	66.2		

月日番号	区	区画	目上番号	遺物番号	遺物	単位	種類	石材	高さ	幅	厚さ	長さ	備考
									(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	
02 2027	5	30	3-54	317	--	遺	スクリューバー	チャート	3.3	3.7	1.2	17.3	
02 2028	5	30	3-51	690	--	遺	石版	アワナシ	6.0	5.6	3.6	128.4	
02 2029	5	30	3-50	7519	3050	--	遺	瓦片	3.1	2.4	2.5	31.2	
02 2030	5	08	3-49	2561	--	遺	石版	石版片	4.4	6.7	2.8	96.2	
02 2031	5	07	3-5	6136	--	遺	石版	炭山竹	6.9	7.4	2.5	136.5	
02 2032	5	08	--	7292	--	遺	石版	チャート	1.3	3.6	1.3	11.7	
02 2033	5	30	3-1	7612	--	遺	石版	建築瓦片	6.0	3.6	3.0	90.3	
02 2034	5	07	3-61	7775	--	遺	石版	アワナシ	3.6	7.5	3.5	136.4	
02 2035	5	30	3-64	3311	--	遺	石版	アワナシ	3.4	6.7	4.6	161.4	
02 2036	5	12	3-129	6090	--	遺	スクリューバー	炭片	6.6	2.7	1.0	20.0	
02 2037	5	02	3-23	2610	--	遺	石版	炭片	3.6	7.8	2.6	131.3	
02 2038	5	17	3-164	7117	--	遺	スクリューバー	アワナシ	2.8	3.6	3.1	100.3	
02 2039	5	30	3-59	7293	--	遺	石版	チャート	7.5	7.1	6.9	324.1	赤褐色
02 2040	5	30	3-58	361	--	遺	スクリューバー	炭山竹	4.8	3.9	1.8	27.1	
02 2041	5	30	3-53	3609	--	遺	石版	アワナシ	7.0	6.4	4.1	190.5	
02 2042	5	30	3-5	6228	--	遺	石版	アワナシ	6.7	7.8	7.9	403.8	
02 2043	5	03	3-4	1807	--	遺	石版	炭竹?	20.3	6.4	6.6	1330.0	
02 2044	5	08	3-112	3209	--	遺	石版	炭山竹瓦片	20.0	14.2	16.3	2000.0	
02 2045	5	12	--	1127	--	遺	石版瓦片	炭山竹瓦片	1.8	1.5	0.5	0.8	
02 2046	5	20	--	5412	--	遺	石版瓦片	炭山竹瓦片	3.2	2.0	0.8	3.9	
02 2047	5	100	3-13	7402	--	遺	石版瓦片	炭山竹?	2.3	1.9	0.6	1.9	
02 2048	5	20	--	--	--	遺	石版瓦片	炭片	1.6	1.8	0.4	1.0	
02 2049	5	02	3-29	2611	--	遺	チャップ	炭片	2.30	0.90	0.3	0.8	
02 2050	5	25	3-4	6110	--	遺	スクリューバー	チャート	3.0	2.6	1.4	7.7	
02 2051	5	30	3-59	--	--	遺	炭片	チャート	2.3	2.0	0.5	1.8	
02 2052	5	30	3-55	6212	--	遺	炭山竹瓦片	炭山竹瓦片	2.2	2.0	0.7	2.1	
02 2053	5	27	3-18	1275	--	遺	スクリューバー	チャート	2.4	2.3	1.20	15.4	
02 2054	5	12	3-171	3613	--	遺	石版瓦片	チャート	2.01	1.6	6.0	2.7	
02 2055	5	12	3-118	4329	--	遺	アワナ	チャート	3.90	3.10	3.0	4.7	
02 2056	5	20	3-13	4615	--	遺	チャップ	炭山竹瓦片	2.5	3.7	0.4	0.6	
02 2057	5	21	3-44	2124	--	遺	スクリューバー	チャート	3.1	4.2	0.9	22.6	
02 2058	5	02	3-54	140	--	遺	スクリューバー	炭山竹瓦片	1.7	2.1	0.5	3.0	
02 2059	5	12	3-11	7407	--	遺	炭片	チャート	3.0	2.4	0.5	4.4	
02 2060	5	100	3-22	7540	--	遺	炭山竹	アワナ炭山竹	2.5	1.7	0.6	2.5	
02 2061	5	30	--	3914	--	遺	炭山竹	炭竹・チャート	2.7	2.1	0.6	4.6	
02 2062	5	07	3-9	5648	--	遺	スクリューバー	チャート	2.3	2.4	0.9	6.1	
02 2063	5	16	3-27	2230	--	遺	スクリューバー	炭山竹瓦片	2.10	2.1	0.5	3.3	
02 2064	5	25	--	6382	炭片	遺	スクリューバー	チャート	2.1	2.2	0.9	2.2	
02 2065	5	100	--	7526	--	遺	スクリューバー	アワナ炭山竹	2.1	1.8	0.6	2.4	
02 2066	5	21	3-14	1271	--	遺	炭山竹・石版	チャート	3.6	1.9	1.1	61.9	
02 2067	5	30	3-4	628	--	遺	スクリューバー	チャート	2.6	2.8	0.9	8.1	
02 2068	5	27	3-27	1284	--	遺	石版瓦片	チャート	2.9	2.4	1.1	10.9	
02 2069	5	110	3-1	--	炭片	遺	石版	チャート	2.2	1.9	1.3	6.0	
02 2070	5	--	--	3196	炭片	遺	石版	チャート	2.2	2.5	0.8	7.6	
02 2071	5	120	3-9	7361	--	遺	炭片	チャート	2.1	1.7	0.6	3.7	
02 2072	5	02	3-94	25675	--	遺	石版	チャート	2.4	2.1	1.9	101.1	
02 2073	5	08	--	2619	--	遺	炭片	チャート	2.00	2.00	0.60	1.9	
02 2074	5	02	3-58	130	--	遺	石版瓦片	炭山竹瓦片	1.7	3.1	0.6	2.9	
02 2075	5	--	--	--	炭片	遺	炭山竹	チャート	2.7	1.8	0.7	2.8	
02 2076	5	--	--	--	炭片	遺	炭山竹	チャート	3.2	1.3	1.2	3.5	
02 2077	5	--	--	--	炭片	遺	炭山竹	アワナシ	4.0	2.9	1.3	13.3	
02 2078	5	--	--	--	炭片	遺	スクリューバー	炭山竹	3.4	2.9	1.3	13.0	
02 2079	5	--	--	--	炭片	遺	アワナ	炭山竹	3.4	4.5	1.1	18.5	
02 2080	5	--	--	--	炭片	遺	炭片	チャート	2.8	2.8	1.2	10.5	
02 2081	5	--	--	--	炭片	遺	アワナ炭山竹	アワナシ	3.5	2.6	1.1	9.5	
02 2082	5	--	--	--	炭片	遺	炭片	炭片	2.9	3.2	0.5	5.5	
02 2083	5	--	--	--	炭片	遺	スクリューバー	チャート	2.1	2.6	0.9	7.3	
02 2084	5	--	--	--	炭片	遺	スクリューバー	炭山竹	3.70	4.1	1.8	20.7	
02 2085	5	--	--	--	炭片	遺	炭片	炭山竹	3.1	4.2	0.9	26.4	
02 2086	5	--	--	--	炭片	遺	石版	炭片	4.7	6.9	2.8	27.4	
02 2087	5	30	3-7	3106	--	遺	炭山竹瓦片	スクリューバー(炭片)	9.9	2.5	1.7	76.1	
02 2088	5	40	3-18	6602	--	遺	炭山竹	炭山竹	7.6	6.0	3.2	231.1	石版瓦片
02 2089	5	30	3-17	7393	--	遺	炭山竹	炭山竹	6.40	7.70	3.9	199.5	
02 2090	5	20	3-5	6228	--	遺	石版	炭山竹	4.7	5.1	1.1	26.4	
02 2091	5	37	3-18	470	--	遺	スクリューバー	炭山竹	3.1	3.3	1.2	38.3	
02 2092	5	17	3-105	1405	--	遺	スクリューバー	手板竹	6.6	6.6	1.3	81.3	
02 2093	5	09	3-111	6521	--	遺	炭山竹	炭片	6.4	7.1	1.1	94.9	
02 2094	5	--	--	381	--	遺	石版	--	6.9	9.90	1.2	86.0	木瓦片
02 2095	5	16	3-124	6790	--	遺	石版	炭片	13.2	40.0	2.7	461.7	木瓦片
02 2096	5	--	--	6612	炭片	遺	石版	炭山竹	11.3	6.2	0.9	79.8	
2097 瓦片													
02 2098	5	120	3-2	14728	--	遺	石版	炭山竹	13.0	3.1	1.9	121.9	
02 2099	5	40	3-7	6101	--	遺	スクリューバー	炭山竹	11.5	12.8	1.6	201.8	
02 2100	5	--	--	--	炭片	遺	石版	炭山竹	12.7	8.9	2.5	109.2	
02 2101	5	100	3-113	3204	--	遺	石版	炭山竹・アワナ	10.8	6.6	3.7	104.7	
02 2102	5	--	--	--	炭片	遺	スクリューバー	アワナシ	1.5	2.9	0.8	7.8	
02 2103	5	--	--	--	炭片	遺	スクリューバー	炭山竹	6.7	4.5	1.0	26.0	
02 2104	5	--	--	--	炭片	遺	石版	炭山竹	5.9	5.5	2.4	47.7	
02 2105	5	21	3-7	309	--	遺	炭片	炭山竹	3.60	6.2	0.80	11.4	

森の木道跡遺物観察表

発掘番号	土器	区域	目上番号	遺物番号	遺物	層位	種類	素材	高さ	幅	厚さ	重さ	備考	
034	Z506	F	19	S-52	T304	-	皿	磁器	9.5	7.1	3.1	492.1		
034	Z507	F	38	-	393	-	皿	磁器	7.8	6.6	4.1	331.0		
034	Z508	F	33	S-7	1625	-	皿	磁器	9.6	5.9	1.2	96.8		
034	Z509	F	30	S-29	-	-	皿	磁器	13.6	9.2	4.5	594.0		
034	Z510	F	47	S-25	T390	-	皿	磁器	10.5	7.6	3.3	437.2		
034	Z511	F	30	S-18	T324	-	皿	磁器	13.2	9.1	3.9	336.9		
034	Z512	F	40	S-22	845	-	皿	磁器	11.85	9.5	4.7	619.1		
034	Z513	F	18	S-19	2949	-	皿	磁器	26.1	17.6	5.5	2300.0		
034	Z514	F	16	S-14	1937	-	皿	磁器	19.2	8.8	6.9	2480.0		
034	Z515	F	17	S-25	3274	-	皿	磁器	15.5	12.1	6.0	978.2	石野山遺跡品か	
034	Z516	F	30	S-7	125	-	皿	磁器	20.4	11.5	7.2	1250.0		
034	Z517	F	40	S-1	402	-	皿	磁器	9.5	2.8	3.3	170.4		
034	Z518	F	40	S-3	2986	-	皿	磁器	5.9	9.4	3.7	103.9		
034	Z519	F	13	S-15	1817	-	皿	磁器	8.5+4	3.4	1.1	102.2	新橋南の森土器	
034	Z520	F	10	-	2788	-	皿	磁器	-	11.1	2.2	1.9	87.3	
034	Z521	F	28	-	1482	表層 第4	皿	磁器	10.9	4.1	1.5	113.7		
034	Z522	F	30	S-9	3145	-	皿	磁器	13.0	5.4	3.7	323.1		
034	Z523	F	75	-	6877	-	皿	磁器	12.9	5.0	2.5	396.4		
034	Z524	F	10	S-62	3051	-	皿	磁器	12.8	5.0	5.1	636.6		
034	Z525	F	25	S-26	1973	-	皿	磁器	7.9+4	7.4	4.2	510.0		
034	Z526	F	40	S-4	6123	-	皿	磁器	10.2+4	4.7	2.5	128.3		
034	Z527	F	33	S-18	1844	-	皿	磁器・磁石	10.0	5.9	3.1	262.0		
034	Z528	F	28	S-41	1449	-	皿	磁器	12.7	6.1	3.1	622.4		
034	Z529	F	19	S-48	2511	-	皿	磁器	10.9	7.8	4.1	399.6	石野山遺跡品	
034	Z530	F	30	S-14	2659	-	皿	磁器	13.1+4	5.2+4	4.9	671.9		
034	Z531	F	30	S-12	2657	-	皿	磁器・磁石	12.3	4.9	5.1	696.3		
034	Z532	F	30	-	2291	-	皿	磁器・磁石	12.2+4	7.4	4.2	651.4		
034	Z533	F	10	S-6	1541	-	皿	磁器	11.0	6.5	4.5	427.0		
034	Z534	F	10	S-9	2420	-	皿	磁器	14.55	7.6	2.9+3.5	678.0		
034	Z535	F	10	S-7	1831	-	皿	磁器	5.5	4.6	3.6	118.0		
034	Z536	F	48	S-5	4322	-	皿	磁器	4.0	3.7	2.4	-		
034	Z537	F	40	-	2669	-	皿	磁器	4.0	4.0	1.2	43.2		
034	Z538	F	9C	S-4	7283	-	皿	磁器	6.6	3.2	2.8	121.2	磁石	
034	Z539	F	75	S-17	7393	-	皿	磁器	6.2	4.3	3.2	175.0		
034	Z540	F	10	S-7	3422	-	皿	磁器	4.9+4	4.4	3.3	74.1		
034	Z541	F	40	-	1054	-	皿	磁器	3.6	4.5	2.1	86.8		
034	Z542	F	38	-	6192	-	皿	磁器	4.7	4.1	2.9	79.9		
034	Z543	F	38	-	5492	-	皿	磁器	7.3	4.8	2.0	97.1		
034	Z544	F	30	S-19	1613	-	皿	磁器	12.0	9.6	4.9+4	729.7		
034	Z545	F	30	S-25	2969	-	皿	磁器	4.9	3.5	3.9	102.8		
034	Z546	F	18	S-4	3336	-	皿	磁器・磁石	5.4	4.2	4.1	127.0		
034	Z547	F	40	S-1	2995	-	皿	磁器	3.7	2.3	3.0	45.7		
034	Z548	F	10	S-18	6373	-	皿	磁器	4.8	4.2	3.0	82.1		
034	Z549	F	60	S-14	49	-	皿	磁器	6.7	3.4	2.1	180.3		
034	Z550	F	30	S-27	2655	-	皿	磁器・磁石	7.1	6.7	3.5	376.0		
034	Z551	F	30	S-28	2658	-	皿	磁器	5.3	5.8	4.3	182.3		
034	Z552	F	90	S-4	7318	-	皿	磁器	6.8	3.2	4.9	229.3		
034	Z553	F	40	S-32	5431	-	皿	磁器	4.1	3.3	3.5	127.9		
034	Z554	F	30	S-1	1389	-	皿	磁器	6.9	5.9	2.5	144.0		
034	Z555	F	10	S-5	1429	-	皿	磁器	7.3	6.5	4.7	248.5		
034	Z556	F	9C	S-3	7237	-	皿	磁器	6.6	6.0	4.5	229.9		
034	Z557	F	75	S-5	6196	-	皿	磁器	6.8	3.0	2.2	98.8		
034	Z558	F	40	S-34	827	-	皿	磁器	7.3	4.8	3.8	283.7		
034	Z559	F	9C	S-65	73618	520	皿	磁器	6.5	6.8	4.3	382.0	資料上納	
034	Z560	F	16	S-1	36	-	皿	磁器	6.6	3.3	3.45	105.0		
034	Z561	F	40	S-7	4225	-	皿	磁器	6.9	3.05	3.7+4	252.9		
034	Z562	F	30	S-14	428	-	皿	磁器	3.9+4	6.0+4	4.9	136.1		
034	Z563	F	30	S-1	3653	-	皿	磁器	7.4	6.2	3.1	199.1		
034	Z564	F	30	-	2652	-	皿	磁器	7.9	6.4	4.9	319.3		
034	Z565	F	40	S-7	3980	-	皿	磁器	6.3	3.5	4.3	187.3		
034	Z566	F	30	S-7	3191	-	皿	磁器・磁石	6.6	6.4	4.2	227.9		
034	Z567	F	17	S-122	4520	-	皿	磁器	7.7	8.2	4.4	317.2		
034	Z568	F	11E	-	73289	表層	磁器・瓦葺	瓦葺	7.1	7.4	3.1	176.0		
034	Z569	F	30	S-41	3894	-	皿	磁器	8.3	6.3	4.85	326.8		
034	Z570	F	40	S-7	6315	-	皿	磁器	6.9	6.8	2.5	-		
034	Z571	F	9C	S-67	73618	520	皿	磁器	9.0	4.9	3.7	389.0	資料上納	
034	Z572	F	33	-	1437	表層	磁器・磁石	磁石	9.2	7.3	4.3	445.0		
034	Z573	F	17	S-129	4718	-	皿	磁器	6.5	6.4	2.6	144.6		
034	Z574	F	17	S-26	3713	-	皿	磁器	6.4	6.0	3.6	276.5	焼けてる	
034	Z575	F	40	S-2	3635	-	皿	磁器	9.8	8.6	3.7	648.6		
034	Z576	F	30	S-40	1645	-	皿	磁器	6.9	6.5	4.5	327.0		
034	Z577	F	9C	S-28	7214	-	皿	磁器	6.4	9.7	3.1	266.1		
034	Z578	F	30	S-9	2168	-	皿	磁器	10.7	4.9+4	4.1	281.6		
034	Z579	F	17	S-118	4198	-	皿	磁器	9.6	3.1	3.6	229.9		
034	Z580	F	9C	S-1	72133	-	皿	磁器	6.4	7.7	3.8	465.3		
034	Z581	F	15	S-2	1428	-	皿	磁器	6.9+4	4.0	4.1	276.0		
034	Z582	F	30	S-36	2670	-	皿	磁器	6.1	6.0	4.0	315.2		

発掘番号	土器	区画	目上番号	遺物番号	遺物	層位	種類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	
									(mm)	(mm)	(mm)	(g)		
442	2043	区	3C	5-3	7232	--	皿	磁石	7.2×4	8.5	3.8	367.4	全長不足(破損)	
443	2044	区	3C	5-3	7233	--	皿	磁石	10.2	5.1	4.0	381.0		
444	2045	区	3C	--	2004	--	皿	磁石	6.7	2.9	2.8	124.9		
445	2046	区	3F	5-1	6982	--	皿	磁石・磨石	10.8	6.7	4.8	483.8		
446	2047	区	3F	5-1	6984	--	皿	磁石	13.4	4.0	4.2	250.9		
447	2048	区	3F	5-18	6432	--	皿	磁石・磨石	10.6	4.3	3.9	228.6		
448	2049	区	--	--	--	--	皿	磨石	6.8×4	8.0	2.3	136.6		
449	2050	区	3E	5-12	3009	--	皿	磁石・磨石	9.8	8.5	2.6	653.0		
450	2051	区	3E	5-12	3010	--	皿	磁石	8.7×4	9.9×4	4.5	309.6	石全体が破損	
451	2052	区	3E	5-20	2039	--	皿	磨石	7.4	3.3	4.5	228.2		
452	2053	区	3F	5-23	2967	--	皿	磁石・磨石	5.9	8.3	4.3	226.9	石全体が破損	
453	2054	区	3F	5-22	3230	--	皿	磁石・磨石	精石(全長)計	10.4	--	124.8		
454	2055	区	3F	5-7	431	--	皿	磨石	9.4	3.3	2.7	112.6		
455	2056	区	--	--	2802	--	皿	磨石	9.8	3.7	--	361.9		
456	2057	区	4E	5-15	796	--	皿	磨石	9.8	4.0	--	103.6		
457	2058	区	4E	5-22	2823	--	皿	磨石	9.6	6.4×4	4.2	303.9		
458	2059	区	4F	5-29	3777	--	皿	磨石	9.9	4.8	4.0	307.2		
459	2060	区	4E	5-22	3389	--	皿	磨石	9.1	4.0	3.7	165.6		
460	2061	区	3C	5-5	3151	--	皿	磨石	7.1×4	6.6	2.6	194.6		
461	2062	区	11	5-19	1952	--	皿	磁石・磨石	9.5	9.4	4.7	635.0		
462	2063	区	10	5-4	2627	--	皿	磁石・磨石	6.8	7.0	5.1	284.8		
463	2064	区	4F	3F	7789	--	皿	磨石	10.4	10.4	3.1	380.4		
464	2065	区	4E	5-12	7230	--	皿	石	7.4×4	7.2	3.4	274.3		
465	2066	区	3F	5-15-1	7514	--	皿	磨石	9.9	7.0	2.8	398.0		
466	2067	区	4F	5-20	6911	--	皿	磨石	9.1	9.5	4.4	307.6		
467	2068	区	4F	5-20	3275	--	皿	磨石	10.4	3.2	3.2	202.8	石全体が破損	
468	2069	区	4F	5-23	7264	--	皿	磨石	6.1	8.9	3.7	251.0		
469	2070	区	3C	5-3	3140	--	皿	磨石	2.5×4	8.6	4.8	128.2		
470	2071	区	4E	5-28	2762	--	皿	磨石	2.6×4	9.9	3.2	289.0		
471	2072	区	4F	5-26	3778	--	皿	磨石	8.6	7.7	3.0	401.1		
472	2073	区	3E	5-25	2822	--	皿	磁石・磨石	8.0	8.0	3.9	388.0		
473	2074	区	3C	5-11	3026	--	皿	磁石・磨石	10.0	8.2	3.0	420.7		
474	2075	区	3C	5-1	5433	--	皿	磨石	10.7	8.3	5.1	677.0		
475	2076	区	4E	5-13	4075	--	皿	磨石	11.3	9.6	4.0	696.2		
476	2077	区	4E	5-22	2796	--	皿	磨石	11.2	9.4	4.2	708.6		
477	2078	区	1F	5-126	4513	--	皿	磁石・磨石	9.1	4.4	3.7	311.0		
478	2079	区	4E	5-16	7380	--	皿	磨石	11.8	10.7	5.0	672.2		
479	2080	区	3E	5-14	6932	--	皿	磨石	9.9	8.6	4.7	600.0		
480	2081	区	3C	--	4899	遺跡	皿	磨石	10.2	7.7	4.5	388.5		
481	2082	区	2E	5-21	1922	--	皿	磁石・磨石	10.8	8.8	6.1	688.9		
482	2083	区	3E	5-2	7217	--	皿	磨石	9.9×4	6.6×4	3.5	493.3		
483	2084	区	3C	5-4	3420	--	皿	磨石	9.3	8.7	4.2	479.2		
484	2085	区	1E	5-1	1805	--	皿	磨石	10.4	9.1	6.1	661.0		
485	2086	区	2E	5-19	1648	--	皿	磨石	10.4	7.1	3.6	509.2		
486	2087	区	4F	5-63	7778	--	皿	磨石	10.0	9.1	3.3	327.1		
487	2088	区	4E	5-4	5843	--	皿	磨石	7.4	8.6	3.2	279.7		
488	2089	区	1F	5-131	4488	--	皿	磨石	9.7	7.2	4.3	428.0		
489	2090	区	4E	5-11	3308	--	皿	磨石?	7.3	4.9	3.4	181.1		
490	2091	区	3E	5-30	2964	--	皿	磁石・磨石	6.3	8.8	6.1	347.2		
491	2092	区	4E	5-9	7206	--	皿	磨石	11.2	8.7	7.2	630.0		
492	2093	区	1F	5-106	3989	--	皿	磁石・磨石	精石(全長)計	3.7	7.3	4.9	122.0	
493	2094	区	3C	5-15	3030	--	皿	磨石	11.7	9.4	3.6	493.4		
494	2095	区	3F	5-11	6132	--	皿	磨石	11.2	8.6	3.7	534.0		
495	2096	区	3F	5-13	6134	--	皿	磨石	11.3	8.9	4.2	623.0		
496	2097	区	3F	5-1	7184	--	皿	磨石	10.0	8.2	2.9	303.7		
497	2098	区	4F	5-25	5151	--	皿	磁石・磨石	8.7	8.0	3.7	366.5		
498	2099	区	4E	--	3256	--	皿	磨石	6.9	6.9	3.3	187.5	石全体が破損	
499	2100	区	3F	5-22	6135	--	皿	磨石	10.0	10.8	4.4	720.9		
500	2101	区	3C	5-3	3106	--	皿	磨石	11.3	8.4	3.6	447.6	石全体が破損	
501	2102	区	1E	5-21	2650	--	皿	磁石・磨石	8.9×4	8.6	3.0	319.1	石全体が破損	
502	2103	区	4F	5-4	4280	--	皿	磁石・磨石	10.4	9.9	3.4	470.0	石全体が破損	
503	2104	区	7E	5-1	6323	--	皿	磨石	11.4	10.8	4.3	720.0		
504	2105	区	4E	5-9	489	--	皿	磨石	8.2	9.7	8.4	401.4		
505	2106	区	4F	5-7	3908	--	皿	磨石	9.9	9.4	3.8	600.0	石全体が破損	
506	2107	区	3C	--	2391	--	皿	磨石	8.8	10.9	3.4	751.8	石全体が破損	
507	2108	区	4E	5-11	7215	--	皿	磁石・磨石	7.1×4	6.5	3.8	355.1		
508	2109	区	3F	5-6	3884	--	皿	磨石	3.2	7.6	3.3	218.8		
509	2110	区	4E	5-5	7163	--	皿	磨石	6.5	7.8	3.3	247.0		
510	2111	区	3E	5-5	7176	--	皿	磨石	8.1	6.4	4.9	342.5		
511	2112	区	2E	5-28	3943	--	皿	磨石	7.0	8.8	2.8	283.3		
512	2113	区	1E	5-15	3614	--	皿	磨石	10.5	7.8	3.0	407.0		
513	2114	区	4E	5-13	3210	--	皿	磨石	8.4	3.9	3.8	250.2		
514	2115	区	1F	5-91	4489	--	皿	磨石	8.4	3.6	4.6	281.9		
515	2116	区	4E	5-27	7282	--	皿	磨石	9.6	7.9×4	3.3	420.2		
516	2117	区	3F	5-3	1657	--	皿	磨石	6.3	8.2	3.0	244.7		
517	2118	区	--	--	--	--	皿	磨石	8.5×4	8.2	3.0	187.8		
518	2119	区	4E	5-4	72142	--	皿	磨石	11.3	9.5	4.1	423.7		
519	2120	区	4E	5-24	5480	--	皿	磨石?	12.2	9.9	5.3	606.9		
520	2121	区	1E	5-4	1943	--	皿	磨石	10.1	8.0	4.2	474.5		

森の木道跡遺物観察表

月日番号	区画	目上番号	遺物番号	遺物	単位	種類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考		
189	2862	5	5-7	3065	-	瓦	磁石・磨石	9.9	8.9	2.2	230.8			
189	2863	5	18	5-10	3787	-	磨石	13.3	6.7	6.4	721.0			
189	2864	5	25	5-4	6873	-	瓦	磨石	9.9	9.1	4.8	626.7		
189	2865	5	31	-	2210	遺跡	磨石?	4.2	6.3	3.0	238.1			
189	2866	5	40	5-14	72786	-	瓦	磨石	13.8	12.3	6.3	1000.0		
491	2287	5	45	5-6	3962	-	-	磨石	10.8	7.8	4.7	331.7		
491	2288	5	57	5-1	3994	-	-	磨石	10.8	8.7	4.0	384.2		
491	2289	5	57	5-6	1163	-	-	磨石・磁石	8.2*	8.0	4.3	315.6		
491	2290	5	25	3-4	530	-	-	磨石	9.0	8.0	4.5	339.4		
491	2291	5	40	5-5	6252	-	-	磨石	9.2	8.9	5.1	369.2		
491	2292	5	27	5-18	4027	-	-	磨石・磨石	9.7	7.8	4.1	366.0		
491	2293	5	47	5-3	6223	-	-	磨石	9.8	9.2	4.2	371.3		
491	2294	5	18	5-10	-	-	-	磨石	11.2	9.6	3.1	329.6		
491	2295	5	-	-	5461	-	-	磨石	10.7	9.0	4.5	443.9		
491	2296	5	13	3-18	4322	-	-	磨石・磨石	8.8	7.2	6.2	471.9		
491	2297	5	25	3-11	6860	-	-	磨石	4.7	8.2	2.3*	208.3		
491	2298	5	31	3-2	2036	-	-	磨石	14.3	8.1	6.0	873.8		
491	2299	5	17	3-10	1171	-	-	磨石・磨石	11.2	8.6	4.0	414.4	石磨粉	
491	2300	5	05	3-1	5106	-	-	磨石・磨石	7.2*	10.0	4.5	514.9		
491	2301	5	13	3-10	4961	-	-	磨石	9.4	8.0	4.2	338.4		
491	2302	5	49	3-6	6122	-	-	磨石・磨石	11.2	8.7	4.3	600.0		
491	2303	5	39	3-3	73252	-	-	磨石	8.7	9.4	3.8	600.0		
491	2304	5	38	3-17	6126	-	瓦	磨石	8.4	7.4	4.6	342.6	石分厚み数値	
491	2305	5	45	3-16	3213	-	-	磨石	12.2	8.2	5.9	365.2		
491	2306	5	38	3-9	6639	-	瓦	磨石・磨石	9.8	8.4	4.1	621.3		
491	2307	5	13	3-6	4117	-	-	磨石・磨石	9.0	7.4	2.9	284.1		
491	2308	5	27	3-25	2961	-	-	磨石	12.2*	7.0*	3.3	427.4		
491	2309	5	30	-	3912	-	-	磨石	7.8	7.5	3.0	286.8		
491	2310	5	13	3-7	1471	-	-	磨石・磨石	11.3	9.4	4.3	502.0	石磨粉	
491	2311	5	11	3-19	2626	-	-	磨石・磨石	12.0	8.7	4.8	1040.6		
491	2312	5	45	3-12	4574	-	-	磨石	9.4	8.0	3.9	363.6		
491	2313	5	30	3-12	4358	-	-	瓦	磨石	11.2	10.0	3.3	391.7	石分厚み数値?
491	2314	5	25	3-18	7104	-	-	磨石・磨石	15.0	10.3	7.3	1200.0		
491	2315	5	41	3-19	5432	-	-	磨石	8.0	10.9	4.1	347.9		
491	2316	5	23	3-19	5113	-	-	磨石	12.0	9.4	4.6*	729.7		
491	2317	5	13	3-14	4961	-	-	瓦	磨石	17.8	10.9	4.3	660.0	7月18日調査
491	2318	5	18	3-15	4962	-	-	瓦	磨石	10.0	8.8	4.5	375.6	
491	2319	5	05	3-12	5139	-	瓦	磨石	9.7	9.1	7.6	612.3		
491	2320	5	-	-	-	遺跡	-	磨石	12.8	10.3	7.2	1.25		
491	2321	5	49	3-21	7136	-	-	磨石	10.4	8.0	7.1	798.1		
491	2322	5	39	3-13	4824	-	-	磨石	9.6	8.9	6.2	397.0		
491	2323	5	27	3-19	4927	-	-	磨石・磨石	8.4	9.1	6.7	661.4		
491	2324	5	-	-	-	遺跡	-	磨石	12.6	8.9	3.6	364.7		
491	2325	5	17	3-11	4917	-	-	磨石	9.5	9.5	3.9	329.2		
491	2326	5	22	3-12	5322	-	瓦	磨石・磨石	7.5	9.0	5.9	484.8		
491	2327	5	28	3-14	4362	-	瓦	磨石	6.7	8.2	4.9	432.0		
491	2328	5	57	-	-	-	-	磨石	8.9	5.2	5.2	461.2		
491	2329	5	-	-	-	遺跡	-	磨石	10.8	8.2	3.9	330.0		
491	2330	5	38	3-1	5106	-	-	磨石	8.2	8.7	2.7	402.3		
491	2331	5	11	3-20	2929	-	-	磨石	11.5	10.2	3.9	496.0		
491	2332	5	13	3-10	4118	-	-	磨石	6.8	6.5	5.8	431.2		
491	2333	5	45	3-1	5109	-	-	磨石	12.9	9.3	3.8	609.2		
491	2334	5	25	3-9	2419	-	-	磨石	12.4	9.8	4.0	675.6	石分厚み数値	
491	2335	5	18	3-12	5786	-	瓦	磨石	9.5	8.8	5.6	379.6		
491	2336	5	49	3-23	7139	-	-	磨石	12.4	9.1	5.7	476.6		
491	2337	5	13	3-17	6373	-	-	磨石	11.7	12.4	7.9	1280.0		
491	2338	5	11	3-17	1819	-	-	瓦	磨石	11.3	11.3	6.4	1276.0	
491	2339	5	45	3-20	6739	-	-	瓦	磨石	21.2	21.2	8.6	3100.0	
491	2340	5	31	3-18	1847	-	-	磨石	13.5	10.7	3.9	435.0		
491	2341	5	36	3-6	7920	3245	新発見	瓦	磨石	25.3	15.2*	7.0	3130.0	
491	2342	5	12	3-28	7423	-	瓦	磨石	19.9	18.7	6.3	4400.0		
491	2343	5	26	3-4	3146	-	-	瓦	磨石	18.3	26.1	7.0	3000.0	
491	2344	5	41	3-17	3214	-	-	瓦	磨石	18.6	22.0	8.8	4300.0	
491	2345	5	05	3-7	2761	-	-	瓦	磨石	27.9	29.9	8.4	3600.0	
491	2346	5	13	3-10	6166	-	-	瓦	磨石	29.7	36.0	11.0	12400.0	
491	2347	5	17	3-10	4946	-	瓦	磨石	13.2	10.1	5.2	1400.0		
491	2348	5	17	-	-	-	-	瓦	磨石	13.5	10.4	5.3	2300.0	
491	2349	5	45	3-20	5423	-	-	瓦	磨石?	15.3*	19.4*	8.1	3100.0	
491	2350	5	36	3-11	73622	3245	新発見	瓦	磨石	25.5	11.8	6.0	3000.0	
491	2351	5	38	3-9	2136	-	-	瓦	磨石	18.3*	17.3*	7.8	3000.0	
491	2352	5	13	3-10	3125	-	-	瓦	磨石	20.2	30.9	6.0	3130.0	
491	2353	5	12	3-28	7423	-	瓦	磨石	11.3	11.8	6.6	2100.0		
491	2354	5	18	3-11	7366	-	-	瓦	磨石	12.7	11.6	9.0	2400.0	
491	2355	5	40	3-1	3654	-	-	瓦	磨石	20.9	20.5	6.0	4130.0	
491	2356	5	36	3-6	7363	3245	新発見	瓦	磨石	22.5	13.0	11.1	4100.0	
491	2357	5	28	3-12	4375	-	-	瓦	磨石	22.9	14.2	6.4	3450.0	

発掘番号	土器	区域	目上番号	遺物番号	遺物	層位	種類	素材	高さ	幅	厚さ	重さ	備考	
									(mm)	(mm)	(mm)	(g)		
402	2339	Ⅱ	120	5631	7426	-	器Ⅳ	赤瓦	10.0×4	12.3×4	4.2	120.0		
403	2339	Ⅱ	30	5-39	2927	-	器Ⅳ	赤瓦?	14.3	17.5	8.2	300.0		
404	2340	Ⅱ	40	5-4	6311	-	器Ⅳ	赤瓦・白磁	14.8	19.8	5.3	300.0		
405	2341	Ⅱ	40	5-4	3961	-	器Ⅳ	赤瓦	23.5	28.0	11.5	600.0		
406	2342	Ⅱ	30	5-15	2139	-	器Ⅳ	紫山打	26.1	32.8	8.0	1200.0		
407	2343	Ⅱ	40	5-14	4326	-	器Ⅳ	赤瓦	28.4	28.0	7.5	700.0		
408	2344	Ⅱ	00	5-40	3476	-	器Ⅳ	赤瓦	24.5	30.2	6.7	450.0		
409	2345	Ⅱ	110	5625	7429	-	器Ⅴ	白磁	22.4	14.7	6.1	300.0		
410	2346	Ⅱ	10	5-0	2198	-	器Ⅳ	赤瓦	24.3	28.8	7.1	700.0		
411	2347	Ⅱ	20	5-4	2576	-	器Ⅳ	赤瓦	25.1	24.4	4.8	300.0		
412	2348	Ⅱ	50	5-13	6326	-	器Ⅳ	赤瓦	23.8	26.0	7.1	600.0		
413	2349	Ⅱ	10	5-9	3122	-	器Ⅳ	赤瓦	25.5	28.9	5.8	600.0		
414	2350	Ⅱ	40	5-2	2965	-	器Ⅳ	赤瓦?	38.4	26.2	9.0	600.0		
415	2351	Ⅱ	13	5-13	4325	-	器Ⅳ	赤瓦	28.9	34.3×4	5.3	300.0		
416	2352	Ⅱ	90	5-18	7293	-	器Ⅳ	横線赤瓦	32.3	22.8	5.4	700.0		
417	2353	Ⅱ	-	-	-	-	器Ⅳ	赤瓦	29.0	27.2	8.7	600.0		
418	2354	Ⅱ	30	5-4	3132	-	器Ⅳ	赤瓦	28.3	18.0×4	9.0	700.0		
419	2355	Ⅱ	21	5-39	2940	-	器Ⅳ	-	39.0	38.2	9.5	1400.0		
420	2356	Ⅱ	00	5-4	2967	-	器Ⅳ	赤瓦	39.5	25.5	6.7	900.0		
421	2357	Ⅱ	21	5-40	2949	-	器Ⅳ	赤瓦	32.7	18.9	10.1	900.0		
422	2358	Ⅱ	40	5-79	432	-	器Ⅳ	赤瓦	19.8	37.5	8.0	800.0		
423	2359	Ⅱ	30	5-1	4328	-	器Ⅳ	赤瓦?	21.2	28.9	7.8	700.0		
424	2360	Ⅱ	5	5-16	2130	-	器Ⅳ	赤瓦	28.2×4	31.7	11.3	1200.0		
425	2361	Ⅱ	51	5-25	2640	-	器Ⅳ	赤瓦	22.1	28.8	11.2	600.0	横線赤瓦の型残が有る。	
426	2362	Ⅱ	10	5-2	1827	-	器Ⅳ	赤瓦	25.8	32.7	8.5	700.0		
427	2363	Ⅱ	17	5-25	2933	-	器Ⅳ	赤瓦	25.1	29.2	7.2	300.0		
428	2364	Ⅱ	90	5-2	3034	-	器Ⅳ	赤瓦・白磁	28.7	29.7	6.3	600.0		
429	2365	Ⅱ	-	-	-	-	器Ⅳ	赤瓦	32.9×4	32.0×4	8.0	600.0	横線赤瓦の型残が有る。	
430	2366	Ⅱ	10	5-10	3146	-	器Ⅳ	赤瓦	23.2	40.2	12.0	1600.0		
431	2367	Ⅱ	-	-	-	-	器Ⅳ	赤瓦	27.4	47.0	10.2	1100.0		
432	2368	Ⅱ	10	5-41	3477	-	器Ⅳ	赤瓦・白磁	22.2	23.9	7.9	800.0		
433	2369	Ⅱ	30	5-2	3229	-	器Ⅳ	赤瓦・白磁	22.7	26.1	6.5	700.0		
434	2370	Ⅱ	30	5-43	2858	-	器Ⅳ	赤瓦	23.8	49.1	12.5	1600.0		
435	2371	Ⅱ	80	5-4	5827	-	器Ⅳ	赤瓦	39.2	39.5	7.8	900.0		
436	2372	Ⅱ	30	5-24	2989	-	器Ⅳ	赤瓦?	29.4	39.0	6.1	740.0		
437	2373	Ⅱ	80	5-5	5828	-	器Ⅳ	赤瓦	40.8	39.4	7.8	1100.0		
438	2374	Ⅱ	35	-	373	-	器Ⅳ	紫山打	28.4	39.1	10.4	1000.0		
439	2375	Ⅱ	80	5-29	7173	-	器Ⅴ	白磁	34.7	27.8	9.0	1100.0		
440	2376	Ⅱ	10	5-29	2184	-	器Ⅳ	赤瓦	36.0	36.0	7.5	1200.0		
441	2377	Ⅱ	30	5-15	2798	-	器Ⅳ	赤瓦	26.8	36.0	5.3	600.0		
442	2378	Ⅱ	10	5-160	6323	-	器Ⅳ	赤瓦	28.3	28.8	7.1	700.0	横線赤瓦の型残が有る。	
443	2379	Ⅱ	-	5620	-	器Ⅳ	赤瓦	26.1×4	26.8	12.7	1900.0			
444	2380	Ⅱ	90	5-23	7292	-	器Ⅳ	赤瓦	29.9	28.4	8.7	700.0		
445	2381	Ⅱ	80	5-14	7278	-	器Ⅳ	赤瓦?	28.5	26.0	9.4	1200.0		
446	2382	Ⅱ	90	5-25	7298	-	器Ⅳ	紫山打	32.7	30.4	12.2	1900.0		
447	2383	Ⅱ	50	5-7	2680	-	器Ⅳ	赤瓦	22.5	18.5	9.8	600.0		
448	2384	Ⅱ	10	5-42	3480	-	器Ⅳ	赤瓦・白磁	24.3	32.1	9.5	1010.0		
449	2385	Ⅱ	20	5-7	2332	-	器Ⅳ	赤瓦	22.0	28.2	9.0	800.0		
450	2386	Ⅱ	21	5-38	2986	-	器Ⅳ	赤瓦	25.3	28.5	5.7	300.0		
451	2387	Ⅱ	00	5-201	3994	-	器Ⅳ	赤瓦・白磁	28.8	18.0	5.8	600.0		
452	2388	Ⅱ	20	5-13	3142	-	器Ⅳ	赤瓦・白磁	41.5	25.0	10.2	1600.0		
453	2389	Ⅱ	00	5-84	2884	-	器Ⅳ	赤瓦	38.3	22.8	5.0	200.0		
454	2390	Ⅱ	10	5-1	1133	-	器Ⅳ	赤瓦	18.2	22.1	4.1	200.0		
455	2391	Ⅱ	10	5-132	4949	-	器Ⅳ	赤瓦	17.7	24.8	3.3	200.0		
456	2392	Ⅱ	90	5-23	2628	-	器Ⅳ	紫山打	27.4	38.9	13.8	2800.0		
457	2393	Ⅱ	30	5-25	2578	-	器Ⅳ	紫山打	28.9	36.6	7.4	1000.0		
458	2394	Ⅱ	21	5-27	2950	-	器Ⅳ	赤瓦・白磁	28.9	40.0	9.0	1200.0		
459	2395	Ⅱ	90	5-23	7298	-	器Ⅳ	赤瓦	28.7	31.4	8.9	1010.0		
460	2396	Ⅱ	80	5-13	7286	-	器Ⅳ	赤瓦	22.4	19.6	5.4	200.0		
461	2397	Ⅱ	80	5-2	5825	-	器Ⅳ	赤瓦	28.1	30.4	8.0	1000.0		
462	2398	Ⅱ	00	5-43	2680	-	器Ⅳ	赤瓦	18.2	19.5	8.2	600.0		
463	2399	Ⅱ	90	5-1	7284	-	器Ⅳ	紫山打	38.2	29.2	7.9	1000.0		
464	2400	Ⅱ	-	5636	-	-	器Ⅳ	紫山打	42.0	28.2	9.3	1100.0		
465	2401	Ⅱ	9-100	56121	2658	5080	-	器Ⅳ	赤瓦	52.3	26.4	8.0	1800.0	
466	2402	Ⅱ	120	5-4	3031	-	器Ⅳ	紫山打	41.4	38.8	8.7	900.0		
467	2403	Ⅱ	80	5-29	2788	-	器Ⅳ	赤瓦	40.8	39.3	10.3	2800.0		
468	2404	Ⅱ	10	5-175	6321	-	器Ⅳ	赤瓦	38.8	18.2	9.4	-		
469	2405	Ⅱ	21	5-20	2940	-	器Ⅳ	-	35.0	43.8	8.5	2900.0		
470	2406	Ⅱ	35	5-7	3487	-	器Ⅳ	紫山打	39.5	35.4	6.9	1200.0		
471	2407	Ⅱ	30	5-14	6327	-	器Ⅳ	赤瓦	27.9×4	37.7	11.4	1200.0		
472	2408	Ⅱ	90	5-24	7271	-	器Ⅳ	紫山打	28.0×4	38.0×4	8.2	1980.0		
473	2409	Ⅱ	40	5-27-562	2698	5-29	器Ⅳ	赤瓦	46.9	37.4	11.3	2000.0	横線赤瓦の型残が有る。	
474	2410	Ⅱ	80	5-4	7280	-	器Ⅳ	赤瓦	32.8	31.0	8.9	1010.0		
475	2411	Ⅱ	90	5-22	625	-	器Ⅳ	横線赤瓦	5.0	2.6	0.2×0.6	15.7		
476	2412	Ⅱ	-	-	-	-	器Ⅳ	赤瓦	1.3	2.3	1.1	30.0		
477	2413	Ⅱ	-	-	-	-	器Ⅳ	紫山打	5.3	2.8	0.9	27.9		
478	2414	Ⅱ	-	-	-	-	器Ⅳ	赤瓦	5.4	3.9	1.3	26.9		
479	2415	Ⅱ	-	-	-	-	器Ⅳ	赤瓦	5.1	4.0	1.9	25.4		
479	2415	Ⅱ	-	-	-	-	器Ⅳ	赤瓦	4.4	4.7	1.50	100.28	番号4001と4011の重複	

第3表 森の木遺跡遺物観察表（土鍾）

検出番号	遺物番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	出土区・遺構名
479	2339	土鍾	3.0	1.3	0.4	7.80	2期跡(平上)
479	2340	土鍾	4.0	1.3	0.20	9.1	2期跡(平上)2層
479	2341	土鍾	3.7	1.3	0.20	3.8	2期跡表層
479	2342	土鍾	3.9	1.3	0.20	3.4	2期跡(平上)2層
479	2343	土鍾	4.0	1.3	0.20	8.1	2期跡(平上)2層

第4表 森の木遺跡遺物観察表（銭貨）

検出番号	遺物番号	遺物名	製造国	期・王朝名	記 録 年	量 (g)	直径 (cm)	備 考
479	2344	銅貨(銅貨)	本朝(新元)	日本	中世(本朝一定年以降)	2.8	2.5	
479	2345	銅貨(銅貨)	新元	日本	中世・本朝	0.9	2.1	
479	2346	銅貨(銅貨)	本朝(新元)	中国	北宋・南宋	2.3	2.5	中国
479	2347	銅貨(銅貨)	本朝(新元)	日本	中世(本朝一定年以降)	2.3	2.5	
479	2348	銅貨(銅貨)	本朝(新元)	中国	北宋・南宋	1.1	2.4	中国
479	2349	銅貨(銅貨)	中国	北宋	北宋	2.2	2.2	中国

第5表 森の木遺跡遺構一覧表

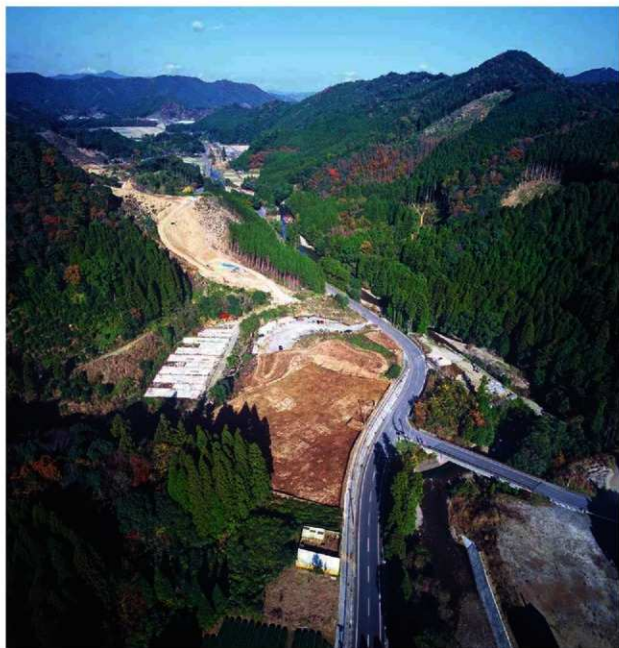
遺構番号	次 数	ブリッド番号	種 別	時 期	備 考	遺構番号	次 数	ブリッド番号	種 別	時 期	備 考
3005	1				左書	3056	1	15	集石遺構	縄文時代早期	
3006	1	48	土坑	縄文時代早期		3057	1	17	土坑	縄文時代早期	
3007	1	06	土坑	縄文時代早期		3058	1	19	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
3008	1	21	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期		3059	1	20	土坑	縄文時代早期	
3009	1	41	土坑	縄文時代早期		3060	1	21	集石遺構	縄文時代早期	
3010	1	02	土坑	縄文時代早期		3061	1	22	集石遺構	縄文時代早期	
3011	1	07	土坑	縄文時代早期		3062	1	23	集石遺構	縄文時代早期	
3012	1	08	土坑	縄文時代早期		3063	1	24	集石遺構	縄文時代早期	
3013	1	09	土坑	縄文時代早期		3064	1	25	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
3014	1	10	土坑	縄文時代早期		3065	1	26	集石遺構	縄文時代早期	
3015	1	11	土坑	縄文時代早期		3066	1	27	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
3016	1	12	土坑	縄文時代早期		3067	1	28	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
3017	1	13	土坑	縄文時代早期		3068	1	29	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
3018	1	14	土坑	縄文時代早期		3069	1	30	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
3019	1	15	土坑	縄文時代早期		3070	1	31	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
3020	1	16	土坑	縄文時代早期		3071	1	32	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
3021	1	17	土坑	縄文時代早期		3072	1	33	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
3022	1	18	土坑	縄文時代早期		3073	1	34	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
3023	1	19	土坑	縄文時代早期		3074	1	35	集石遺構	縄文時代早期	
3024	1	20	土坑	縄文時代早期		3075	1	36	集石遺構	縄文時代早期	
3025	1	21	土坑	縄文時代早期		3076	1	37	土坑	縄文時代早期	
3026	1	22	土坑	縄文時代早期		3077	1	38	土坑	縄文時代早期	
3027	1	23	土坑	縄文時代早期		3078	1	39	土坑	縄文時代早期	
3028	1	24	土坑	縄文時代早期		3079	1	40	土坑を伴う集石遺構	縄文時代早期	
3029	1	25	土坑	縄文時代早期		3080	1	41	土坑	縄文時代早期	
3030	1	26	土坑	縄文時代早期		3081	1	42	土坑	縄文時代早期	
3031	1	27	土坑	縄文時代早期		3082	1	43	土坑	縄文時代早期	
3032	1	28	土坑	縄文時代早期		3083	1	44	土坑	縄文時代早期	
3033	1	29	土坑	縄文時代早期		3084	1	45	土坑	縄文時代早期	
3034	1	30	土坑	縄文時代早期		3085	1	46	土坑	縄文時代早期	
3035	1	31	土坑	縄文時代早期		3086	1	47	土坑	縄文時代早期	
3036	1	32	土坑	縄文時代早期		3087	1	48	土坑	縄文時代早期	
3037	1	33	土坑	縄文時代早期		3088	1	49	土坑	縄文時代早期	
3038	1	34	土坑	縄文時代早期		3089	1	50	土坑	縄文時代早期	
3039	1	35	土坑	縄文時代早期		3090	1	51	土坑	縄文時代早期	
3040	1	36	土坑	縄文時代早期		3091	1	52	土坑	縄文時代早期	
3041	1	37	土坑	縄文時代早期		3092	1	53	土坑	縄文時代早期	
3042	1	38	土坑	縄文時代早期		3093	1	54	土坑	縄文時代早期	
3043	1	39	土坑	縄文時代早期		3094	1	55	土坑	縄文時代早期	
3044	1	40	土坑	縄文時代早期		3095	1	56	土坑	縄文時代早期	
3045	1	41	土坑	縄文時代早期		3096	1	57	土坑	縄文時代早期	
3046	1	42	土坑	縄文時代早期		3097	1	58	土坑	縄文時代早期	
3047	1	43	土坑	縄文時代早期		3098	1	59	土坑	縄文時代早期	
3048	1	44	土坑	縄文時代早期		3099	1	60	土坑	縄文時代早期	
3049	1	45	土坑	縄文時代早期		3100	1	61	土坑	縄文時代早期	
3050	1	46	土坑	縄文時代早期		3101	1	62	土坑	縄文時代早期	
3051	1	47	土坑	縄文時代早期		3102	1	63	土坑	縄文時代早期	
3052	1	48	土坑	縄文時代早期		3103	1	64	土坑	縄文時代早期	
3053	1	49	土坑	縄文時代早期		3104	1	65	土坑	縄文時代早期	
3054	1	50	土坑	縄文時代早期		3105	1	66	土坑	縄文時代早期	
3055	1	51	土坑	縄文時代早期		3106	1	67	土坑	縄文時代早期	
3056	1	52	土坑	縄文時代早期		3107	1	68	土坑	縄文時代早期	
3057	1	53	土坑	縄文時代早期		3108	1	69	土坑	縄文時代早期	
3058	1	54	土坑	縄文時代早期		3109	1	70	土坑	縄文時代早期	
3059	1	55	土坑	縄文時代早期		3110	1	71	土坑	縄文時代早期	
3060	1	56	土坑	縄文時代早期		3111	1	72	土坑	縄文時代早期	

遺構番号	次	ブワット番号	種別	時期	備考	遺構番号	次	ブワット番号	種別	時期	備考
5112	2	18	土坑	縄文時代早期		5192	2	23	土坑	縄文時代早期	
5113	2	20	土坑	縄文時代早期		5193	2	24	土坑	縄文時代早期	
5114	2	20	土坑	縄文時代早期		5194	2	26	砂穴	縄文時代早期	5193.1同—遺構
5115	2	20	陥穴	縄文時代早期		5195	2	27	土坑	縄文時代早期	5196-5195
5116	2	20	土坑(伴う集行遺構)	縄文時代早期		5196	2	28	土坑	縄文時代早期	
5117	2	22	土坑	縄文時代早期		5197	2	28	土坑	縄文時代早期	5175.1同—遺構
5118	2	22	土坑	縄文時代早期		5198	2	25	土坑	縄文時代早期	
5119	2	11	土坑	縄文時代早期		5199	2	20	土坑	縄文時代早期	
5120	2	12	土坑	縄文時代早期		5200	2	20	土坑	縄文時代早期	
5121	2	42	砂穴	縄文時代早期		5201	2	40	土坑	縄文時代早期	
5122	2	12	土坑	縄文時代早期		5202	2	41	土坑	縄文時代早期	
5123	2	42	土坑	縄文時代早期		5203	2	42	土坑	縄文時代早期跡か	
5124	2	52	自然跡	縄文時代早期跡か		5204	2	41	土坑	縄文時代早期	
5125	2	42	土坑	縄文時代早期		5205	2	25	砂穴	縄文時代早期	5226.1同—遺構
5126	2	52	自然跡	縄文時代早期跡か		5206	2	25	土坑	縄文時代早期	
5127	2	42	土坑	縄文時代早期		5207	2	42	砂穴	縄文時代早期	5193.1同—遺構 5208 - 5207-5207
5128	2	42	土坑	縄文時代早期		5208	2	42	土坑	縄文時代早期	
5129	2	42	土坑	縄文時代早期		5209	2	25	土坑	縄文時代早期	
5130	2	42	土坑	縄文時代早期		5210	2	42	土坑	縄文時代早期	
5131	2	42	土坑	縄文時代早期		5211	2	42	土坑	縄文時代早期	
5132	2	42	土坑	縄文時代早期		5212	2	25	土坑	縄文時代早期	
5133	2	42	自然跡	縄文時代早期跡か		5213	2	25	土坑	縄文時代早期	5156
5134	2	42	自然跡	縄文時代早期跡か		5214	2	42	土坑	縄文時代早期	
5135	2	42	自然跡	縄文時代早期跡か		5215	2	52	自然跡	縄文時代早期跡か	
5136	2	42	土坑	縄文時代早期		5216	2	42	自然跡	縄文時代早期跡か	
5137	2	42	土坑	中世	覆土	5217	2	42	土坑	縄文時代早期	5220-5217
5138	2	42	土坑	縄文時代早期		5218	2	40	土坑	縄文時代早期	5156
5139	2	42	土坑	縄文時代早期		5219	2	22	土坑	縄文時代早期	
5140	2	42	土坑	縄文時代早期		5220	2	26	土坑	縄文時代早期	
5141	2	52	土坑	縄文時代早期	5170-5142	5221	2	22	土坑	縄文時代早期	
5142	2	52	土坑	縄文時代早期		5222	2	22	土坑	縄文時代早期	
5143	2	52	土坑	縄文時代早期		5223	2	42	自然跡	縄文時代早期	
5144	2	52	土坑	縄文時代早期		5224	2	25	砂穴	縄文時代早期	5226.1同—遺構
5145	2	42	土坑	縄文時代早期	5121-5145	5225	2	42	土坑	縄文時代早期	
5146	2	22	砂穴	縄文時代早期		5226	2	42	土坑	縄文時代早期	
5147	2	22	砂穴	縄文時代早期		5227	2	22	土坑	縄文時代早期	
5148	2	22	陥穴	縄文時代早期		5228	2	42	砂穴	縄文時代早期	
5149	2	22	土坑	縄文時代早期		5229	2	42	土坑	縄文時代早期	
5150	2	22	土坑	縄文時代早期		5230	2	40	陥穴	中世	52000の柱穴
5151	2	22	土坑	縄文時代早期		5231	2	40	柱穴	中世	52000の柱穴
5152	2	40	陥穴	縄文時代早期		5232	2	40	柱穴	中世	52000の柱穴
5153	2	52	土坑	縄文時代早期		5233	2	40	柱穴	中世	52000の柱穴
5154	2	52	土坑	縄文時代早期		5234	2	40	柱穴	中世	52000の柱穴
5155	2	52	土坑	縄文時代早期		5235	2	40	柱穴	中世	52000の柱穴
5156	2	52	土坑	縄文時代早期		5236	2	40	柱穴	中世	52000の柱穴
5157	2	42	自然跡	縄文時代早期	5128 - 202 - 5117	5237	2	40	柱穴	中世	52000の柱穴
5158	2	42	自然跡	縄文時代早期跡か		5238	2	40	柱穴	中世	52000の柱穴
5159	2	42	自然跡	縄文時代早期跡か		5239	2	40	柱穴	中世	52000の柱穴
5160	2	42	土坑	縄文時代早期		5240	2	40	柱穴	中世	52000の柱穴
5161	2	22	砂穴	縄文時代早期	5108-5142	5241	2	42	柱穴	縄文時代早期	
5162	2	22	砂穴	縄文時代早期	5107.1同—遺構	5242	2	42	柱穴	縄文時代早期	
5163	2	22	自然跡	縄文時代早期跡か		5243	2	42	砂穴	縄文時代早期	
5164	2	22	自然跡	縄文時代早期跡か		5244	2	42	集行遺構	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5165	2	52	土坑	縄文時代早期		5245	2	42	自然跡	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5166	2	42	土坑	縄文時代早期		5246	2	42	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5167	2	42	土坑	縄文時代早期		5247	2	42	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5168	2	42	土坑	縄文時代早期		5248	2	42	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5169	2	42	土坑	縄文時代早期		5249	2	42	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5170	2	42	土坑	縄文時代早期		5250	2	42	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5171	2	42	土坑	縄文時代早期		5251	2	42	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5172	2	42	自然跡	縄文時代早期跡か		5252	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5173	2	22	土坑	縄文時代早期		5253	2	40	自然跡	縄文時代早期跡か	多摩上流にて集出
5174	2	22	土坑	縄文時代早期		5254	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5175	2	42	土坑	縄文時代早期	5176.1同—遺構	5255	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5176	2	22	土坑	縄文時代早期	5175.1同—遺構	5256	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5177	2	22	土坑	縄文時代早期		5257	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5178	2	22	土坑	縄文時代早期		5258	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5179	2	22	土坑	縄文時代早期		5259	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5180	2	22	土坑	縄文時代早期		5260	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5181	2	42	土坑	縄文時代早期		5261	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5182	2	42	土坑	縄文時代早期		5262	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5183	2	42	土坑	縄文時代早期		5263	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5184	2	42	土坑	縄文時代早期		5264	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5185	2	22	土坑	縄文時代早期	5108-5145	5265	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5186	2	22	土坑	縄文時代早期	5108-5145	5266	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5187	2	22	土坑	縄文時代早期	5108-5145	5267	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5188	2	22	土坑	縄文時代早期	5108-5145	5268	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5189	2	22	土坑	縄文時代早期	5108-5145	5269	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5190	2	22	土坑	縄文時代早期	5108-5145	5270	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出
5191	2	22	土坑	縄文時代早期	5108-5145	5271	2	40	土坑	縄文時代早期	多摩上流にて集出

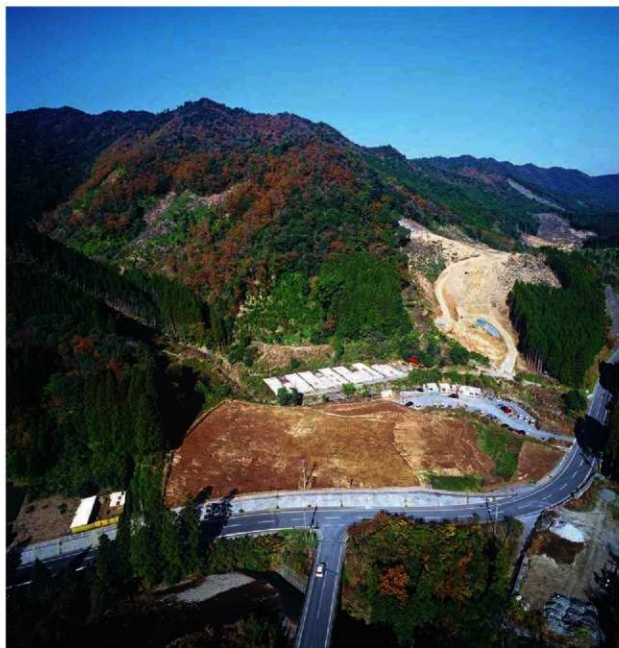
遺構番号	次番号	ブワッド番号	種別	時期	備考	遺構番号	次番号	ブワッド番号	種別	時期	備考
5226	N	11E	土坑	縄文時代早期	本層土直にて発出	5446	N	11D	土坑		本層土直にて発出
5375	N	10D	和瓦	縄文時代早期	本層土直にて発出 5280・5290と重複	5447	N	11D	ピット		本層土直にて発出
5380	N				生春	5448	N	12D	ピット		本層土直にて発出
5381	N	10D	土坑	縄文時代早期	本層土直にて発出	5450	N	11D	ピット		本層土直にて発出
5382	N	9C	土坑伴有亀石遺構	縄文時代早期	本層土直にて発出 継ぎ目あり	5451	N	11D	土坑		本層土直にて発出
5383	N	9F10分	自然露	縄文時代早期	本層土直にて発出	5452	N	11D	ピット		本層土直にて発出
5384	N	9F10分	土坑	縄文時代早期	5281・5282・5283 5284・5285・5286	5453	N	12D	ピット		本層土直にて発出
5385	N	9F10分	土坑	縄文時代早期	本層土直にて発出	5454	N	12D	ピット		本層土直にて発出
5386	N	9D	土坑		本層土直にて発出	5456	N	12D	ピット		本層土直にて発出
5387	N	9D	柱状	縄文時代早期	5280跡跡より発出	5459	N	12D	ピット		本層土直にて発出
5388	N				生春	5460	N	12D	ピット		本層土直にて発出
5389	N	9D	ピット		5280跡跡より発出	5461	N	12D	ピット		本層土直にて発出
5390	N	9D	和瓦	縄文時代早期		5462	N	11D	ピット		本層土直にて発出
5391	N	10C	土坑	縄文時代早期	本層土直にて発出 5284と重複	5463	N	12D	ピット		本層土直にて発出
5392	N	10C	土坑	縄文時代早期	本層土直にて発出	5464	N	11D	ピット		本層土直にて発出
5393	N	9C	土坑	縄文時代早期	5284と重複	5465	N	12C	ピット		本層土直にて発出
5394	N	9D	ピット		本層土直にて発出	5466	N	12C	ピット		本層土直にて発出
5395	N	11F	柱状	縄文時代早期	本層土直にて発出 5284・5285と重複	5468	N	11C	ピット		本層土直にて発出
5396	N	11F	ピット		本層土直にて発出	5469	N	11C	ピット		本層土直にて発出
5397	N	11・12分	土坑		本層土直にて発出	5470	N	11C	ピット		本層土直にて発出
5398	N	9D	ピット		本層土直にて発出	5471	N	11C	ピット		本層土直にて発出
5399	N	11F	ピット		本層土直にて発出	5472	N	11C	ピット		本層土直にて発出
5400	N	11F	ピット		本層土直にて発出	5473	N	11C	ピット		本層土直にて発出
5401	N	11F	ピット		本層土直にて発出	5474	N	11C	ピット		本層土直にて発出
5402	N	11F	ピット		本層土直にて発出	5475	N	11C	ピット		本層土直にて発出
5403	N	11F	ピット		本層土直にて発出	5476	N	12C	ピット		本層土直にて発出
5404	N	11F	ピット		5411と重複	5479	N	12C	ピット		本層土直にて発出
5405	N	11F	ピット		本層土直にて発出	5480	N	12C	ピット		本層土直にて発出
5406	N	11F	ピット		5411と重複	5481	N	12C	ピット		本層土直にて発出
5407	N	11F	ピット		5411と重複	5482	N	12C	ピット		本層土直にて発出
5408	N	11F	ピット		5411と重複	5483	N	11C	ピット		本層土直にて発出
5409	N	11F	土坑		5411と重複	5484	N	12C	土坑		本層土直にて発出
5410	N	11F	ピット		5411と重複	5485	N	12C	ピット		本層土直にて発出
5411	N	11F	不明遺構		自然式土坑か	5486	N	12C	ピット		本層土直にて発出
5412	N	11F	ピット		5411と重複	5487	N	10F	土坑		本層土直にて発出
5413	N	11F	ピット		5411と重複	5488	N	9F	ピット		本層土直にて発出
5414	N	11F	ピット		5411と重複	5489	N	9F	ピット		本層土直にて発出
5415	N	11F	ピット		5411と重複	5490	N	9C	柱状	遺構	本層土直にて発出 5A層の柱状
5416	N	11F	ピット		5411と重複	5491	N	9F	柱状	遺構	本層土直にて発出 5A層の柱状
5417	N	11F	ピット		5411と重複	5492	N	9F	ピット		本層土直にて発出
5418	N	11F	ピット		5411と重複	5493	N	9F	柱状	遺構	本層土直にて発出 5A層の柱状
5419	N	11F	ピット		5411と重複	5494	N	9F	柱状	遺構	本層土直にて発出 5A層の柱状
5420	N	11F	ピット		5411と重複	5495	N	9F	ピット		本層土直にて発出
5421	N	11F	ピット		5411と重複	5496	N	9F	ピット		本層土直にて発出
5422	N	11F	土坑		5411と重複	5497	N	9F	ピット		本層土直にて発出
5423	N	12F	土坑		5411と重複	5498	N	9F	土坑		本層土直にて発出
5424	N	12F	土坑		5411と重複	5499	N	9F	土坑		本層土直にて発出
5425	N	12F	ピット		5411と重複	5500	N	9F	ピット		本層土直にて発出
5426	N	11D	ピット		5411と重複	5501	N	9F	土坑		本層土直にて発出
5427	N	11E	ピット		5411と重複	5502	N	9F	ピット		本層土直にて発出
5428	N	12E	ピット		5411と重複	5503	N	9F	ピット		本層土直にて発出
5429	N	12E	ピット		5411と重複	5504	N	9F	ピット		本層土直にて発出
5430	N	12E	ピット		5411と重複	5505	N	9F	土坑		本層土直にて発出
5431	N	11E	ピット		5411と重複	5506	N	9F	ピット		本層土直にて発出
5432	N	11E	ピット		5411と重複	5507	N	9F	土坑		本層土直にて発出
5433	N				生春	5508	N	9E	ピット		本層土直にて発出
5434	N	11D	ピット		5411と重複	5510	N	9E	土坑		本層土直にて発出
5435	N	11D	ピット		5411と重複	5511	N	9E	ピット		本層土直にて発出
5436	N	12D	土坑		5411と重複	5512	N	9E	ピット		本層土直にて発出
5437	N	12D	ピット		5411と重複	5513	N	9E	土坑		本層土直にて発出
5438	N	12D	ピット		5411と重複	5514	N	9E	ピット		5433跡跡より発出
5439	N	11D	ピット		5411と重複	5515	N	9E	土坑		本層土直にて発出
5440	N	11D	ピット		5411と重複	5516	N	9E	ピット		5433跡跡より発出
5441	N	11D	ピット		5411と重複	5517	N	9E	ピット		本層土直にて発出
5442	N	11D	ピット		5411と重複	5518	N	9E	ピット		本層土直にて発出
5443	N	11D	ピット		5411と重複	5519	N	9E	土坑		本層土直にて発出
5444	N	11D	ピット		5411と重複	5520	N	9E	ピット		本層土直にて発出
5445	N	11D	ピット		5411と重複	5521	N	9E	土坑		本層土直にて発出

森の木道跡遺構一覧表

遺構 番号	次 数	プラン 番号	種 別	時 期	備 考
5522	N	8E	ピット		本層土直にて検出
5523	N	8E	ピット		本層土直にて検出
5524	N	8E	ピット		本層土直にて検出
5525	N	8E	ピット		本層土直にて検出
5526	N	8F	ピット		本層土直にて検出
5527	N	8F	ピット		本層土直にて検出
5528	N	8F	ピット		本層土直にて検出
5529	N	8F	ピット		本層土直にて検出
5530	N	8F	ピット		本層土直にて検出
5531	N	8E	ピット		本層土直にて検出
5532	N	8E	ピット		本層土直にて検出
5533	N	8E	ピット		本層土直にて検出
5534	N	8E	ピット		本層土直にて検出
5535	N	8E	ピット		本層土直にて検出
5536	N	8E	ピット		本層土直にて検出
5537	N	8K	ピット		本層土直にて検出
5538	N	8H	ピット		本層土直にて検出
5539	N	9D	ピット		本層土直にて検出
5540	N	9D	ピット		本層土直にて検出
5541	N	9D	ピット		本層土直にて検出
5542	N	9D	ピット		本層土直にて検出
5543	N	9D	ピット		本層土直にて検出
5544	N	9C	ピット		本層土直にて検出
5545	N	9C	ピット		本層土直にて検出
5546	N	9C	ピット		本層土直にて検出
5547	N	9D-C	土坑		本層土直にて検出
5548	N	9C	ピット		本層土直にて検出
5549	N	9B	ピット		本層土直にて検出
5550	N		土坑		
5551	N		土坑		
5552	N				左邊
5553	N		土坑		



森の木道跡空中写真（2次調査）南西から北東方向



森の木遺跡空中写真（2次調査） 南から北方向



森の木遺跡空中写真（2次調査） 北から南方向



森の木遺跡空中写真（4次調査）

2次調査～4次調査の遺構分布



森の木遺跡空中写真（2次調査） 上が北
縄文時代草創期の南側竪穴建物群を中心とした遺構群



森の木遺跡空中写真（2次調査） 上が北
縄文時代草創期の南側竪穴建物群を中心とした遺構群



森の木遺跡空中写真（3次調査） 上が北
中央の区画が3次調査区 縄文時代草創期の北側竪穴建物群を中心とした遺構群で、
その下が2次調査区の南側竪穴建物群が広がる



森の木遺跡空中写真（4次調査） 上が北



2次 4H東壁中央 土層断面 (西から)



2次 基本土層 土層断面 (南から)



2次 4F旧石器 出土状況①



2次 4F旧石器 出土状況②



2次 旧石器 (集石か) 遺物出土状況 (北から)



2次 S190 完掘状況（南東から）



3次 S245-S277 出土状況（東から）



3次 S245・S277 出土状況（東から）



4次 S246 遺物出土状況（南から）



4次 S246 完掘状況 (南から)



3次 S273 完掘状況 (東から)



4次 S358 遺物出土状況(南から)



4次 S358 完掘状況(南から)



4次 S383 遺物出土状況(西から)



4次 S383・S384・S385 完掘状況(北西から)



3次 S259 土層断面 (南から)



3次 S259 完掘状況 (東から)



2次 S077 完掘状況 (東から)



2次 S080 完掘状況 (西から)



2次 S083 検出状況 (北から)



2次 S083 遺物出土状況 (北から)



2次 S108 土層断面 (南から)



2次 S124 土層断面 (東から)



2次 S126 完掘状況 (西から)



2次 S133 完掘状況 (西から)



2次 S134 完掘状況 (北から)



2次 S135 完掘状況 (南から)



2次 S157・S158・S203 遺物出土状況（南西から）



2次 S157・S158・S203 完掘状況（西から）



2次 S159 完掘状況 (西から)



2次 S160 遺物出土状況・土層断面 (南から)



2次 S162・S188・S221・S227 完掘状況（東から）



2次 S164・S205 完掘状況（東から）



2次 S172 完掘状況 (東から)



2次 S168・S185・S186・S187 土層断面 (南西から)



2次 S168-S187 土層断面 (西から)



2次 S185-S186 土層断面 (西から)



2次 S168・S185-S187 完掘状況 (北から)



2次 S168・S185-S187 完掘状況 (南東から)



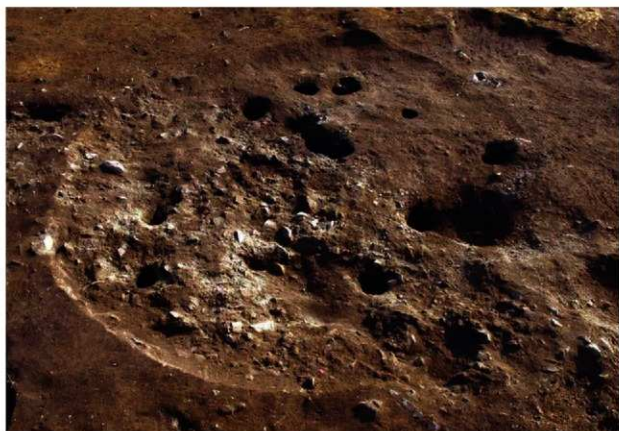
2次 S215 完掘状況（南東から）



2次 S216 遺物出土状況（南西から）



2次 S216 完掘状況（北西から）



3次 S253 完掘状況（北から）



4次 S347 遺物出土状況（西から）



4次 S347 完掘状況（西から）



4次 S370・S371・S372 遺物出土状況(南から)



4次 S370 完掘状況(西から)



2次 S040-S042 検出状況 (東から)



2次 S041 検出状況 (東から)



2次 S050 検出状況 (南から)



2次 S050 完掘状況 (南から)



2次 S057 検出状況 (南から)



2次 S057 (下層部) 検出状況 (東から)



2次 S072 検出状況 (北から)



2次 S072 土層断面 (北から)



2次 S085 検出状況（北東から）



2次 S086 検出状況（北西から）



2次 S088 検出状況（東から）



2次 S121 土層断面 (南西から)



2次 S121・S145 遺物出土状況 (東から) ※中央が赤化



2次 S184 遺物出土状況（南東から）※中央やや左が被熱により赤化



2次 S188 検出状況（南東）※左側煙道前の焚口が被熱により赤化



2次 S188 土層断面（北から） ※煙道付炉穴の断ち割りで、下部に黒土がみえる。



2次 S243 土層断面（北東から） ※煙道付炉穴の断ち割り。



2次 S243 完掘状況（東から） ※煙道付炉穴



2次 S224 土層断面（北から） ※煙道付炉穴の断ち割り。



2次 S224 完掘状況(南から) ※煙道付炉穴



2次 S207・S208・S225 完掘状況(北から)



2次 S207・S208・S225 完掘状況（北東から）



2次 S228 土層断面（南西から） ※煙道付炉穴



2次 S228 完掘状況（南西から） ※煙道付炉穴



2次 S084 遺物出土状況（東から）



3次 S249 出土状況(東から)



4次 S359 遺物出土状況(東から) ※端部に被熱による赤化がある。



4次 S361 完掘状況（東から）



4次 S361 土層断面（南東から）



4次 S366 遺物出土状況（東から） ※端部の斜面裾部に被熱による赤化がある。



4次 S366 完掘状況（東から） ※煙道付炉穴



4次 S368 遺物出土状況（東から）



4次 S368 土層断面（南東から）



4次 S390 検出状況（東から） ※煙道付炉穴



4次 S390 検出状況（南東から） ※煙道付炉穴



4次 S390・S379 完掘状況（東から） ※煙道付炉穴



2次 S035 検出状況 (北から)



2次 S039-S041 検出状況 (東から)



2次 S041 堀方掘削後(南から)



2次 S043 検出状況(南から)



2次 S045 検出状況(南から)



2次 S045 検出状況(北東から)



2次 S046 検出状況（東から） ※S046は写真のほぼ中央



2次 S051 検出状況（南から）



2次 S052・S053 検出状況 (西から)



2次 S056 検出状況 (南から)



2次 S061 検出状況（北東から）



2次 S062 検出状況（北東から）



2次 S063 検出状況 (北から)



2次 S065 検出状況 (西から)



2次 S070 検出状況 (北から)



2次 S073 検出状況 (南から)



2次 S074 検出状況（北東から）



3次 S244 検出状況（西から）



3次 S247 検出状況 (西から)



3次 S248 土層断面 (北から)



2次 S004 検出状況(西から)



2次 S034 土層断面(南東から)



2次 S034 完掘状況(東から)



2次 S044 検出状況(東から)



2次 S047 検出状況 (東から)



2次 S047 検出状況 (東から)



2次 S047(下部) 検出状況 (南から)



2次 S048 土層断面 (西から) ※手前の土器は、第409図1700



2次 S048(下部) 検出状況 (西から)



2次 S049 検出状況 (東から)



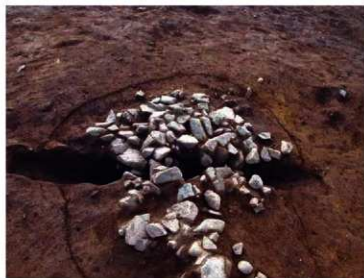
2次 S049-S071 完掘状況 (北から)



2次 S058 検出状況 (東から)



2次 S064 検出状況 (南東から)



2次 S090 土層断面 (東から)



2次 S066・S067 検出状況 (北から)



2次 S068・S069 検出状況 (北東から)



2次 S066 土層断面 (西から)



2次 S068 土層断面 (南から)



2次 S069 土層断面 (南から)



2次 S078・S079 土層断面 (南西から)



2次 S079 検出状況 (南西から)



2次 S089 検出状況 (南東から)



2次 S090 検出状況 (西から)



2次 S090 完掘状況 (北から)



3次 S266 検出状況 (南から)



4次 S330・S332-4・S336-8 集石遺景 (南東から)



4次 S330・S332-4・S336-8 集石遺景 (北西から)



4次 S330 検出状況 (東から)



4次 S330・S336 検出状況 (北から)



4次 S330 検出状況 (北から)



4次 S332-S333-S334 検出状況 (南から)



4次 S335 検出状況 上部 (南西から)



4次 S335 検出状況 下部 (南西から)



4次 S336 検出状況(北から)



4次 S337 検出状況(南から)



4次 S337・S346 土層断面(西から)



4次 S338 検出状況 (南から)



4次 S348・S349・S350 検出状況 (南から)



4次 S349 土坑内の状況 (南から)



4次 S382 遺物出土状況(東から)



2次 S003 土層断面(北から)



2次 S003 完掘状況(東から)



2次 S005 検出状況 (北から)



2次 S005 完掘・土層断面 (北から)



2次 S081 完掘状況 (東から)



2次 S046 完掘状況 (南から)



2次 S082 完掘状況 (北から)



2次 S084 完掘状況 (北から)



2次 S108 完掘状況



2次 S135 土層断面 (西から)



2次 S092 完掘状況 (東から)



2次 S104 土層断面 (南から)



2次 S109 土層断面 (南から)



2次 S112 土層断面 (西から)



2次 S117 遺物出土状況(南から)



2次 S129 完掘状況(北東から)



2次 S130 完掘状況(東から)



2次 S131 完掘状況 (南東から)



※ 炉穴の端部付近に被熱による赤化部分がある。

2次 S132 完掘状況 (南から) 炉穴



2次 S136 完掘状況 (南から)



2次 S140 完掘状況 (東から)



2次 S146 土層断面 (北東から)



2次 S141 完掘状況 (西から)



2次 S147 完掘状況 (北西から)



2次 S149 土層断面 (南から)



2次 S150 土層断面 (東から)



2次 S151 土層断面 (東から)



2次 S173 完掘状況 (南西から) ※被熱により赤化



2次 S155 遺物出土状況 (西から)



2次 S175・S177・S178 遺物出土状況 (東から)



2次 S174 完掘状況 (南東から)



2次 S182 完掘状況 (東から) ※被熱により赤化



2次 S181 遺物出土状況 (北から)



2次 S183 完掘状況 (東から)



2次 S195 遺物出土状況 (西から)



2次 S196 完掘状況 (南から)



2次 S198 完掘状況 (北から)



2次 S201 完掘状況 (南西から)



2次 S209 土層断面 (南から)



2次 S210 土層断面 (南西から)



2次 S211 遺物出土状況・土層断面 (南から)



2次 S212 完掘状況 (西から) ※被熱により赤化



2次 S222 完掘状況 (東から)



2次 S225 土層断面 (西から) ※被熱により赤化



2次 S229 完掘状況 (北から)



3次 S260 完掘状況 (北から)



3次 S258 完掘状況 (東から)



3次 S261 完掘状況 (北から)



3次 S263・S264・S265 完掘状況 (西から)



3次 S265 完掘状況 (南から)



3次 S267 完掘状況 (南から)



3次 S270・S271 完掘状況 (南から)



3次 S127 完掘状況 (南西から)



4次 S331 遺物出土状況 (南から)



4次 S341 完掘状況 (北から)



4次 S367 遺物出土状況 (南東から)



4次 S369 遺物出土状況 (南西から)



4次 S384・S385 完掘状況 (南東から)



2次 S076 土層断面 (西から)



2次 S115 完掘状況 (南から)



2次 S226 完掘状況 (西から)



2次 1F区6410 遺物出土状況 (北西から)



2次 1F区6411 遺物出土状況 (南東から)



2次 9Fグリッド 遺物出土状況 (東から)



2次 古銭 出土状況 (北から)



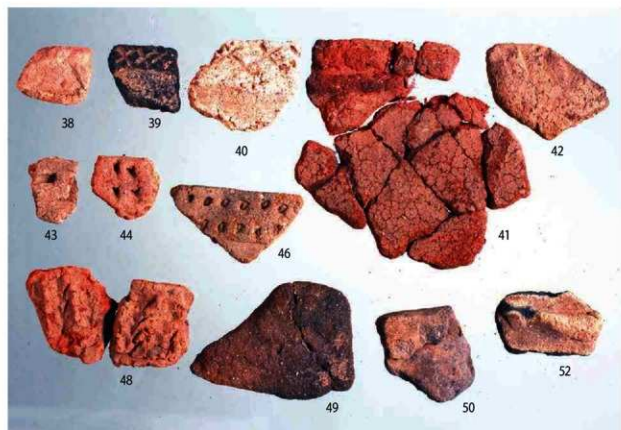
2次 1Eグリッド 遺物出土状況(西から)



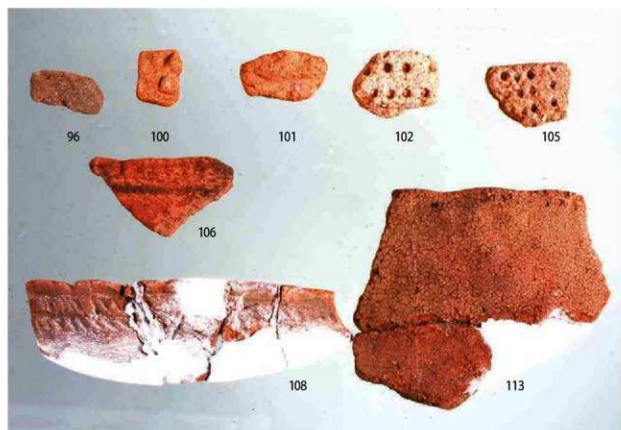
2次 0Eグリッド 遺物出土状況(北から)



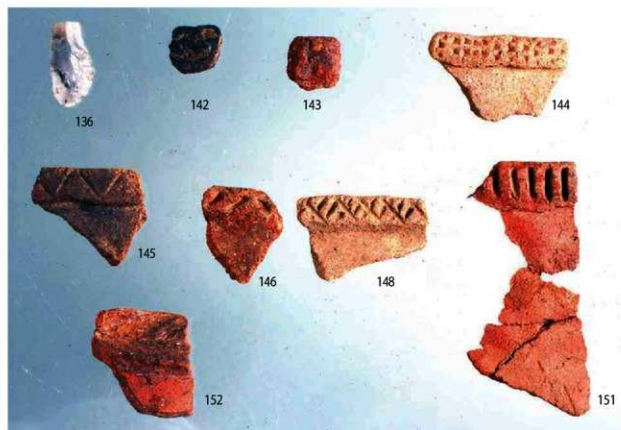
3次 S251 出土状況(西から)



陸帯文系土器



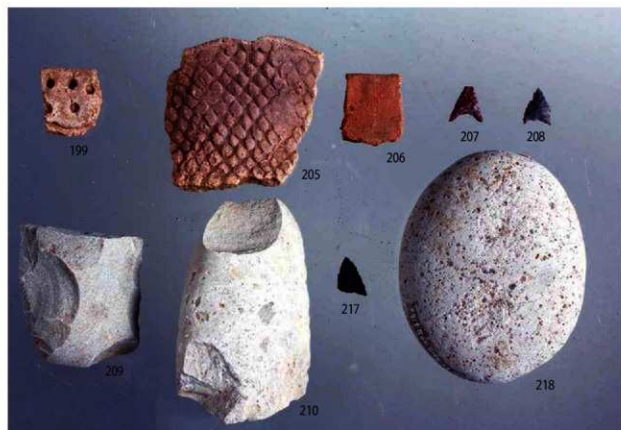
陸帯文系土器と草創期無文土器



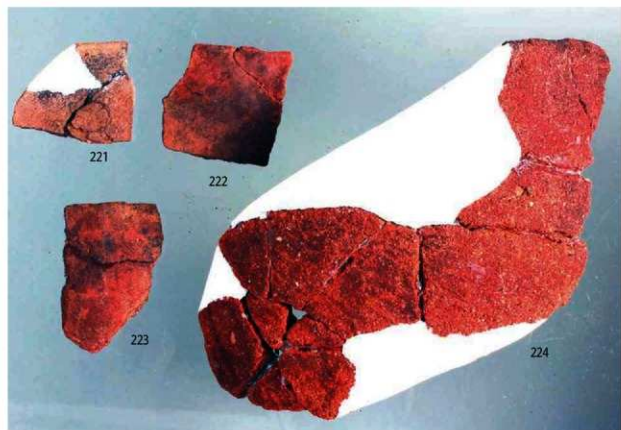
石器と隆帯文系土器



草創期石器



草創期の土器・石器と早期の土器・石器



草創期・早期の土器



草創期の土器・石器



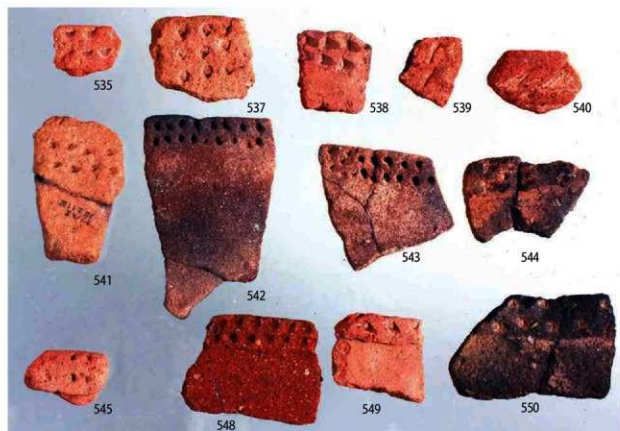
草創期の土器



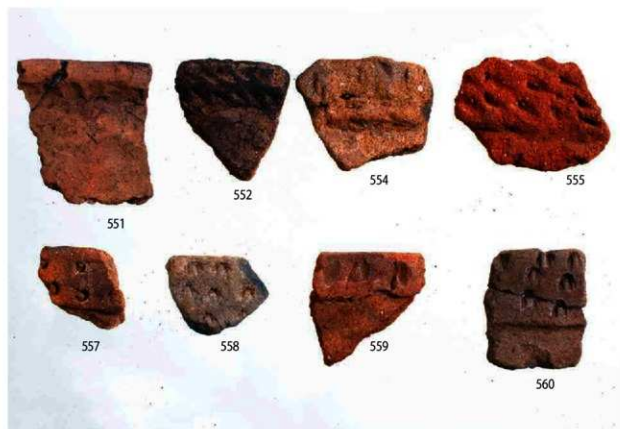
早期の石器・草創期の土器



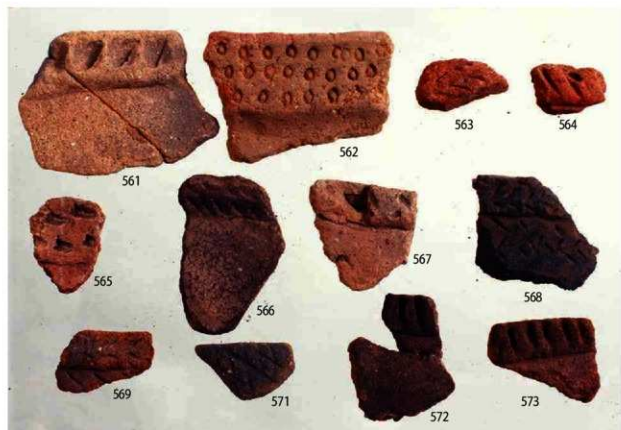
草創期前半の石器・旧石器時代のナイフ形石器等・縄文時代早期の石器



陸帯文系土器群



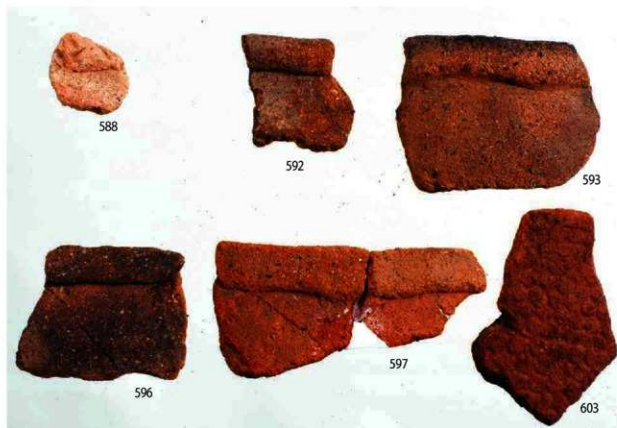
陸帯文系土器群



陸帯文系土器



陸帯文系土器

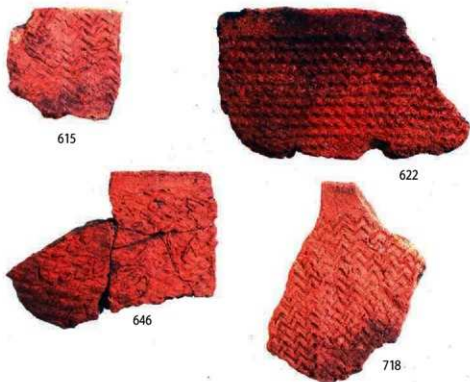


陸帯文系土器

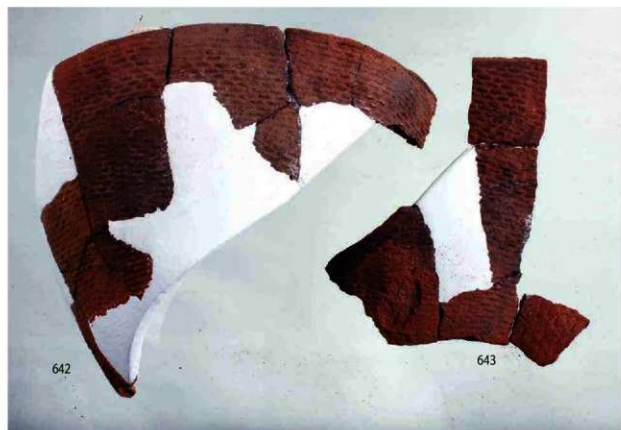
※603のみ精円文土器



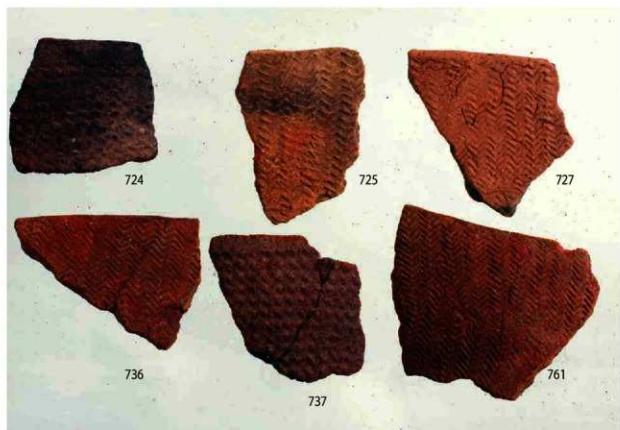
縄文時代草創期の土器



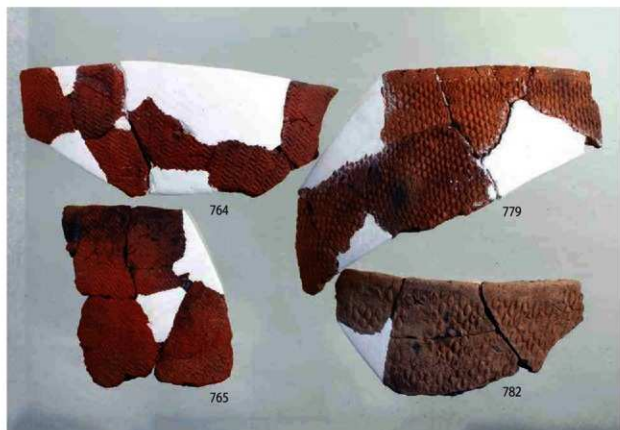
縄文時代早期の土器



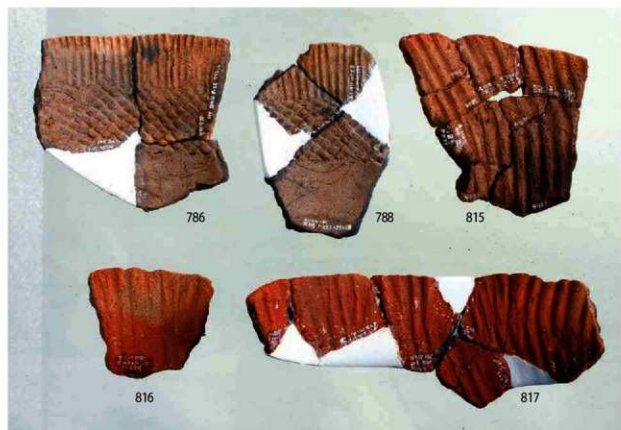
縄文時代早期の土器



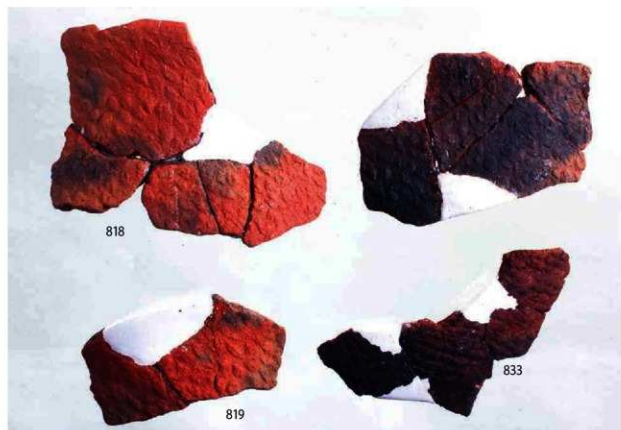
縄文時代早期の土器



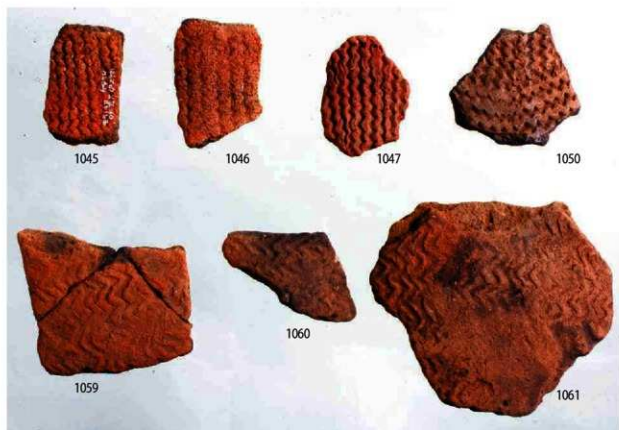
縄文時代早期の土器



縄文時代早期の土器



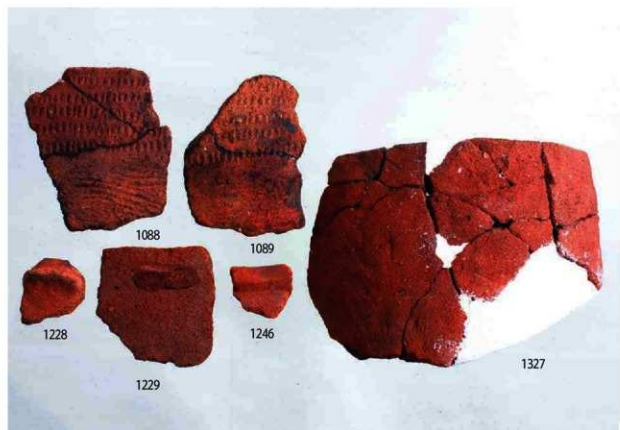
縄文時代早期の土器



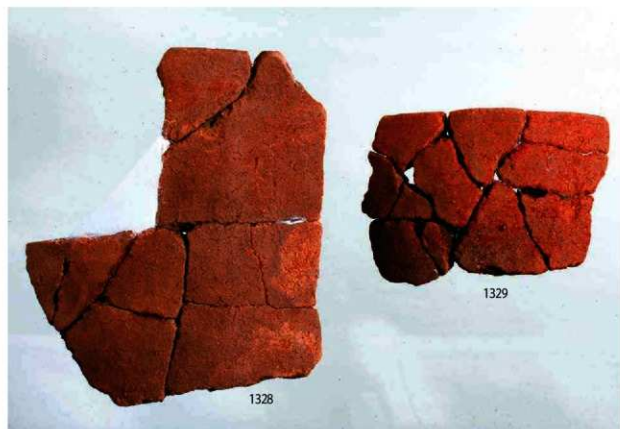
縄文時代早期の土器



縄文時代早期・前期初頭の土器



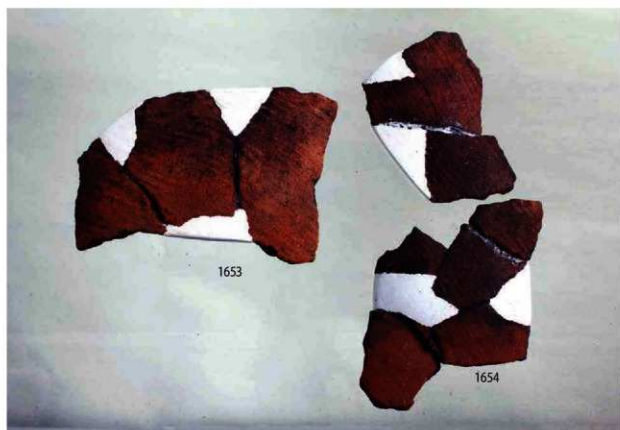
縄文時代早期・前期初頭の土器



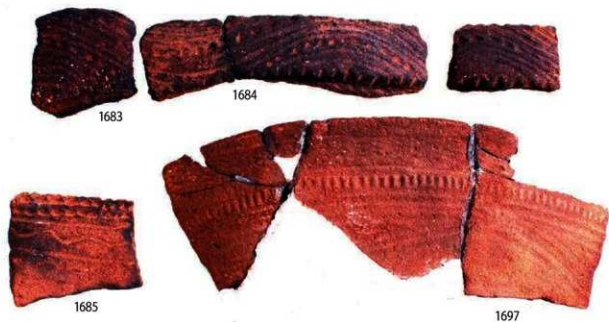
縄文時代早期の土器



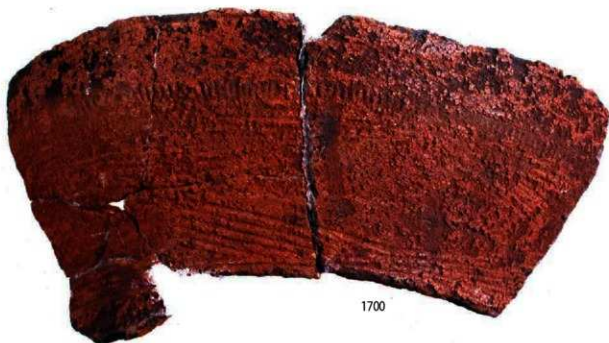
縄文時代早期の土器



縄文時代早期の土器



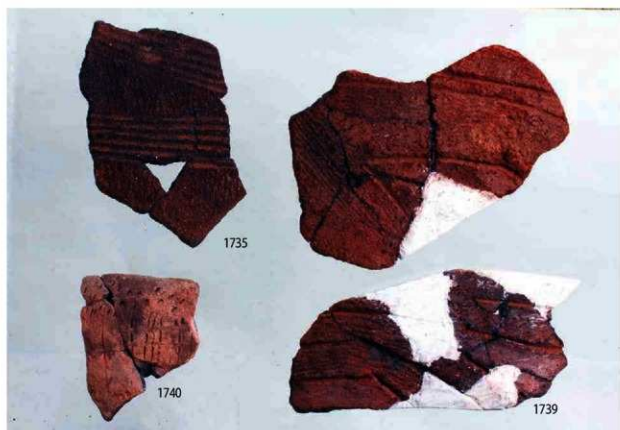
縄文時代早期の土器



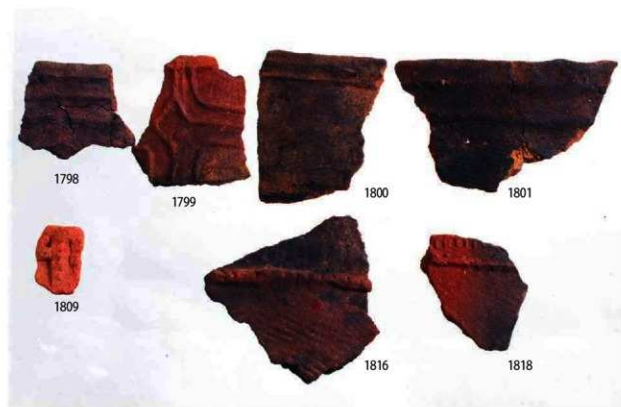
縄文時代早期の土器



縄文時代早期の土器



縄文時代早期の土器

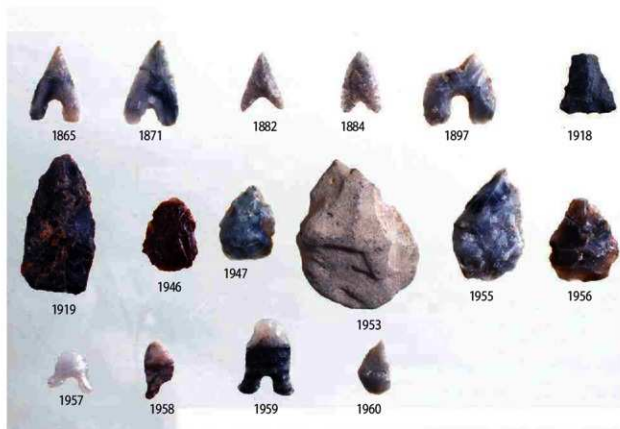


縄文時代前期の土器

※1809のみ縄文時代草創期の隆起線文土器



縄文時代前期・後期の土器



縄文時代早期の石器



縄文時代早期の石器



縄文時代早期の石器



縄文時代早期の石器



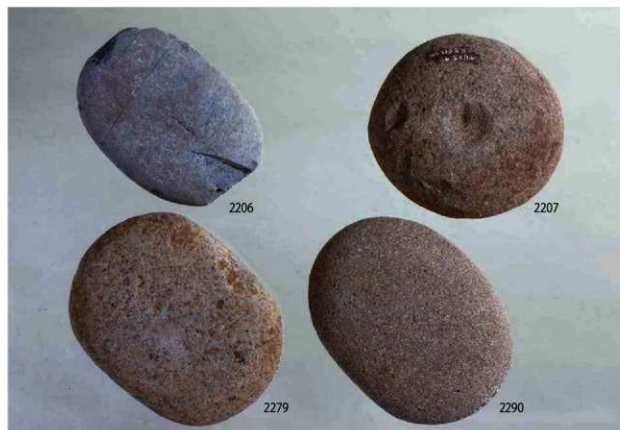
縄文時代早期の石核 スケールは15cm



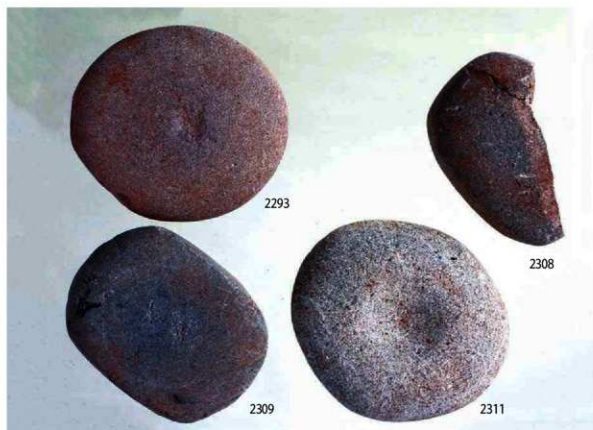
縄文時代早期の石核 スケールは15cm



縄文時代早期の石器 楔形石器、エンド・スクレイパー、石斧等



縄文時代早期の石器 磨石・凹石



縄文時代早期の石器



縄文時代早期の石器 石鏟

スケールは15cm



2361

縄文時代早期の台石

スケールは15cm



縄文時代早期の台石



縄文時代早期の台石

スケールは15cm

森の木遺跡発掘調査報告書の抄録

ふりがな	もりのきいせきはくつちようさほうこくしょ
書名	森の木遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ	大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第88集
編集・執筆者	大分県教育庁埋蔵文化財センター 綿貫俊一・坂本嘉弘
所在地	870-1113 大分県大分市大字中判田ビワノ門 1977 番地
発行年月日	平成28年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	しょざいち 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査 期間	調査 面積	調査 原因
		市町村	遺跡 番号					
もりのきいせき 森の木遺跡	おおいたけんさいきしおおあざながたにあざもりのき 大分県佐伯市大字長谷字森の木	205	023	32° 52' 45"	131° 51' 45"	2次 2009.07.02 ～ 2009.12.03 3次 2010.01.05 ～ 2010.02.10 4次 2010.04.26 ～ 2010.08.17	2次 4,450㎡ 3次 350㎡ 4次 1,765㎡ 計 6,565㎡	道路 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
森の木遺跡	集落跡ほか	旧石器時代後期 縄文時代草創期 縄文時代早期	竪穴建物 炉穴 集石	石刃尖頭器 隆帯土石器 環状石斧	縄文時代草創期中頃と後半 の二集落跡が出土した。
要約	縄文時代草創期中頃の集落跡→草創期後半の集落跡→縄文時代早期の遺構への変遷が判明した。				

森の木遺跡発掘調査報告書

大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第88集

平成28年3月31日

発行 大分県教育庁埋蔵文化財センター

〒870-1113

大分市大字中判田ピアノ門1977番地

TEL 097-597-5675

印刷 株式会社インタープリント

〒870-0945

大分市津守563番地の7

TEL 097-568-8123
